

附錄 第一

龍門石窟に現れたる北魏佛教

塚本善隆

目次

序 説

第一章 雲岡・龍門兩石窟の重要性……………一四一

第二章 龍門石刻記の重要性……………一四四

第三章 龍門造像の盛衰と尊像の變化……………一四九

本 論

第四章 北魏洛陽佛教の盛衰と龍門……………一五五

 第一節 洛陽遷都と龍門造像……………一五六

 第二節 世宗宣武帝時代……………一六三

 第三節 肅宗孝明帝時代(靈太后時代)……………一六六

 第四節 洛陽「河陰の慘案」以後……………一七一

第五章 北魏窟に現れたる佛教……………一七四

 第一節 古陽洞と法華經……………一七四

 第二節 賓陽洞の佛教……………一八一

 第三節 佛教史上に於ける北魏窟の意義……………一八九

第六章 佛教史料としての主要造像記……………一九六

 第一節 貴族の造像記……………一九六

 A 長樂王丘穆陵亮關係のもの……………一九七

 B 北海王詳關係のもの……………一九九

結 語

C 廣川王關係のもの……………二〇〇

D 安定王燮關係のもの……………二〇一

E 齊郡王關係のもの……………二〇三

F 東魏孝靜帝母子のもの……………二〇四

G 元某等の法義のもの……………二〇四

H 元洪略等の小佛群……………二〇六

I 楊大眼の造像……………二〇七

 第二節 僧尼の造像記……………二〇九

 1 紀年造像記に見ゆる僧尼の活動……………二〇九

 2 比丘慧成の造像記並にその關係造像記……………二二二

 3 惠感慧榮の造像記……………二二五

 第三節 集團(義邑)の造像記……………二二七

第七章 龍門造像に見る禮拜對象の變化……………二三三

 第一節 彌勒菩薩信仰……………二三三

 第二節 釋迦から彌勒へ(雲岡から龍門へ)……………二三七

 ——釋迦中心の佛教信仰の變遷——……………二三七

 第三節 釋迦・彌勒から阿彌陀へ 無量壽から阿彌陀へ……………二三三

 ——北魏から唐への變化——……………二三三

第八章 龍門北魏佛教の歴史的 성격……………二七七

序 説

第一章 雲岡・龍門兩石窟の重要性

蒙疆の雲岡と河南省龍門とに開鑿せられてゐる佛教石窟造像は、支那内地に遺存してゐるこの種のもの、中でも、その規模、その數量、その技術、就中その歴史的重要性に於いて、まづ第一に指を屈せられる佛教美術の大集群である。雲岡の石窟は、大同の西方約五里、武周川に臨んで武周山山腹に開鑿せられてをり、龍門の石窟は、洛陽の南方約五里、伊水が山峽を過ぎて北流する所、いはゆる「伊闕龍門」の兩岸、殊にその西岸の山壁に多數に造られてゐる。この地理的條件に於ても相似てゐる兩石窟は、歴史的に更にもつと密接な關連をもつてゐるのであつて、その一方を研究することは他方を究明する基礎になり、兩者相通じて研究することによつて、少くとも支那美術史や支那佛教史の、最も重要な時代の基礎的知識を得ることができよう。

まづ雲岡大石窟は、今の蒙疆地區に遊牧狩獵の生活を營んでゐた素朴な鮮卑種の托跋部が、北支那の征服統治にのり出して大同を帝都とすること約一百年間^{三九八—四九三}にわたつたその最後の三・四十年間に、國家的事業として、成就した最大の文化遺産である。

もと蒙疆の陰山山脈地方を中心にして遊牧狩獵の生活をしてゐた頃の托跋部族は、佛教を知ることさへなかつたのであるが、彼等の勢力が支那内地の河北・山西兩省の地方にのびるに隨つて、此地方に於ける漢族文化の感化をうけ、殊に恰かも後趙の石勒・石虎時代の佛圖澄・道安などの内外の偉僧によつて、頓に河北地方に勃興し普及しつゝあ

つた佛教の教化を蒙つた。征服せられた支那本土に於ける在來の高次の文化が、殆んど文化をもたぬ征服者を文化征服して行くことは、必然であり、また極めて容易であつた。漢以來の儒家的政治道徳は、そのまゝ、托跋部の北魏帝國の政治の指導原理となり、また宗教、殊に堂塔など特異な高層建築に佛像幡蓋などの莊嚴を備へてゐた佛教は、目からも耳からも容易に彼等の上に教化力を被及した¹⁾。更に北魏第三代世祖太武帝が、西方文化の流傳の要路である甘肅地方を征服して西方の佛教國と密接な關係をもち、洛陽長安などの夙に佛教の興隆してゐた中原の地方をふくめた北支那一帶の地域に君臨する頃には、帝都大同地方の佛教は急速に盛となり、その北族への教化力は益々發揮せられて行つた²⁾。やがて、等しく北族教化にのり出した儒家及び道教と佛教との競争葛藤や、隆昌に伴ふ佛教教團の弊などから、支那佛教迫害史上に有名な太武帝の七年間にわたる峻嚴な廢佛毀釋にまでなつたけれども、太武帝崩後に發せられた佛教復興許可の詔^{四四〇—四五二}に應じて、しばらく潜伏隱忍してゐた佛徒はたち、興佛護法の諸事業を、實に熱烈かつ盛大に續々遂行していつたのであつた。この復佛護法の運動の總指揮として中央にあつて活躍したものが、かつての被征服地たる涼州から來てゐた沙門曇曜である³⁾。曇曜は佛教界統監の任に當る沙門統に任ぜられ^{四六〇}、各種の興佛事業を熱心に迅速に指揮し成功せしめて行つたが、特に朝廷をこの澎湃たる興佛護法事業の先頭におし出し

て實現したものが、雲岡石窟である。當時北支那統一の大業既に成り、國威は西域にも伸張し、大同地方は内外の文物を集中してゐたので、曇曜は、よくこの充實した國家の財力勞働力を十分に使用し、かつ内外から集つてゐる佛教關係の諸文化諸技術を此に参加せしめることができた。かくて雲岡大石窟は、朝廷にとつては、前代の廢佛政策への訣別であり懺悔であると共に、北魏皇帝の恩威を内外に顯彰するものであり、佛徒にとつては、佛教の復興を祝慶し歡喜する大紀念であり、また堅固な山巖による將來への護法事業である。そしてこのすばらしい大石窟は、朝廷と佛徒との熱情をこめて、孝文帝の太和四七七—四九七初期頃にはその偉觀を帝都の西郊に實現したのである。

然るに北魏孝文帝は、この雄大莊嚴極まりなき大石窟が成就して間もなく、南して河南洛陽に遷都してしまつた。雲岡大石窟は大同に都した北魏朝廷が、今日にまで傳へた唯一最大の置きやげとなつた。それは北魏前半即ち大同奠都時代三九八—四九三の文化史、佛教史の結論をなすものである。我々は第五世紀に、支那の各地から、また西域や印度から、大同地方に集まり來つた佛教並びに佛教關係の諸技術が、如何に接觸し交流しつゝ、發展してゐたかを、雲岡のすばらしい實物について、研究することができるのである。

北魏の歴史は北方胡族の習俗生活が漢化し、また佛教化して行く歴史である。北方の大同から洛陽に遷都西曆四九三した高祖孝文帝は、北魏歴史代中で最も漢文化に憧憬した君主であり、遷都以來は「胡俗をすて、漢化へ」の積極的政策を次々に實施したのであつて、洛陽を中心にして北魏の漢族的文化が非常な勢で進展する。北魏文化史は洛陽遷都によつて明かに一線を劃されるべきものである。洛陽郊外の龍門には、この遷都の前後から佛龕が造り始められ遷都以來漸く多くなり、そしてや

がて孝文帝が崩ぜられると西曆四九七、北魏朝廷の事業として、雲岡石窟にならつて孝文皇帝並びにその皇后の爲に二大石窟の開鑿が計畫せられ、その後更に、次の宣武帝の爲の造窟も行はれることになつた。かくて龍門の石窟佛龕の造立は、年代に於て雲岡のそれに直ちに接續してゐるのみならず、また、帝都近郊に於ける國家事業として、皇帝の爲にといふ同じ事情の下に造られた主要窟も加つた。されば我々は、雲岡、龍門を通じて、北魏の前後の帝都のそれぞれにのこされた佛教盛期の代表的佛教美術を見ることができるのである。

爾來龍門に於いては、北魏時代を通じて、上は皇帝王族を始め、官民・僧俗・男女を問はず、あらゆる階級の人々が、この一區域について、大小各種の石窟や佛龕を盛に造つて行つた。北魏が滅んだ後にも、時に多少の盛衰はあるが、龍門に於ける造像は引續いて行はれてをり、更に隋・唐時代にもつゞき、唐の高宗六五〇—六八三から則天武后の周時代六八五—七〇四にわたつては、再び帝室の關係せる造像も行はれ、上下各階級の造像等も盛をきはめ、玄宗時代七一二—七五五に至つては、終つてゐるのである。

かくて我々は、雲岡と龍門との兩石窟群に就て、西紀第五世紀の中葉から第八世紀の中葉まで、約三百年間にわたつてほとんど間斷なく造りつゞけられた、石窟造像の連鎖を見ることが出来るのである。この三百年間は、支那佛教史の上からすれば、北支那に於て先づ空前の佛教全盛時代を招致した北魏時代から、支那に於ける佛教が特色ある發展をとげて諸宗派が成立して行く隋から唐の中葉まで、換言すれば支那佛教の最も活氣のある成長期から最も華麗な成熟黄金時代までを一貫してゐるものである。玄宗以後にも、支那社會に於ける佛教の勢力や感化は、相當根強く廣く長くつゞいてゐる。しかし、それは既に

成熟し漸く老成した感があり、懐古的となり注釋、祖述、類聚の佛教となり、新發展をなす成長力をかいて來てゐる。殊に安史の亂に洛陽長安が覆滅せられ、更に武宗の徹底的な廢佛政策の實施があり、その後はやがて、唐の滅亡となり、諸勢力の分立紛争する所謂五代時代になつてゐる。ついで宋の統一時代になつたが、漸く近世的傾向を加へて來たこの時代には、長安・洛陽の地方は、その地理的經濟的條件が帝都としての價値を減退しつゝあつたし、北方からする遼・金などの壓迫は、宋を北支那から追出してしまつた。洛陽から更に黄河を下つ

(1) 佛圖澄の教化の大なりしことは、『高僧傳』卷十のその傳中に詳しい。

佛調、須菩提等數十名僧、皆出自天竺康居、不遠數萬之路、足涉流沙、詣澄受訓、樊沔釋道安、中山竺法雅、並跨越關河、聽澄講說、皆妙達精理、研測幽微、(中略)

受業追隨者、常有數百、前後門徒、幾且一萬、所歷州郡、興立佛寺、八百九十三所、弘法之盛、莫與先矣。

とは門下僧徒の盛況であり、(石虎傾心事澄、有重於石勒。酒下書曰、和尚國之大寶……從此已往、宜衣以綾錦、乘以雕輦、朝會之日、和尚升殿、常侍以下、悉助舉輿、太子諸公、扶翼而上、主唱大和尚、衆坐皆起、以彰其尊、

とか (石虎尙書張良張離等、家富事佛、各起大塔、とあるのは、宮廷官界へ及ぼした教化の一斑であり、また國人每共相語、莫起惡心、和尚知汝、及澄之所在、無敢向其方涕唾便利者、とか

澄道化既行、民多奉佛、皆營造寺廟、相競出家、眞僞混淆、多生愆過、とかいふものからは、庶民社會に及ぼした佛圖澄の教化の大きが察せられる。かゝる佛圖澄教化の地方と夙に密接な交渉をもち、更に先づこの地方を占領して北魏が建國せられたのである。『魏中記』に

石虎性好佛、衆巧奢靡不可紀也。嘗作檀車、廣丈餘、長二丈、四輪、作金佛像坐于車上、九龍吐水灌之。又作木道人、恒以手摩佛心腹之間、又十餘木道人長二尺餘、皆披袈裟、繞佛行、當佛前、輒揖禮佛、又以手撮香投爐中、與人無異、車行則木人行、龍吐水、車止則止、亦解飛所造也。

とある巧妙な極めた車は、蓋し佛の誕生祝慶の儀禮に行像として郷の市街をねりまはつたものであらう。かゝる四月八日佛誕日の行像の儀式は、北魏建國初期の大同でも盛大に行はれてゐる。托跋部の佛教化の進展については、『魏書』の「本紀」及び「釋老志」を見るべく、詳細は拙稿「北魏建國時代の

雲岡・龍門兩石窟の重要性

た開封に都してゐた北宋の國勢が、江南に壓縮せられ、終に揚子江下流の南側に政治文化の中心が移る南宋時代になつては、最早、龍門のある洛陽地方は、政治・經濟・文化の首都たる地位を失ひ、隨つてまた佛教の中心でもなくなつた。それ等の中心は江南にうつり、北支那の佛教は、支那佛教界に對する指導的地位を失ひ生彩を缺くに至つたのである。支那佛教史かくの如しとすれば、北支那に於いては、その地方の佛教が潑刺たる活動力をもつてゐた盛期を通じて、僧俗の佛教信者はその時代の中央文化域に存した雲岡と龍門との山壁に、彼等の信仰生活

(2) 佛教政策と河北の佛教(東方學報京都十ノ一)を參看せられたい。

涼州はその西方文化の支那流傳上の第一の足だまりとなる地理的條件に加へて、この地方を支配した北涼王の沮渠氏の奉佛もあつて、北魏が征服した時代は、正にこの地佛教の全盛時代であつた。その佛教の中心となつてゐたものは、金光明經、涅槃經などの大乘經を傳譯した曇無讖である。長安地方は苻秦の時代に道安があり、姚秦の時代に鳩摩羅什があつてその指導による佛教が大に榮えた。殊に鳩摩羅什時代の長安は、佛教空前の盛時であり、その國王姚氏は、北魏と婚姻關係を結んでゐた。曇無讖鳩摩羅什の兩者の傳譯せる佛教は、實に支那佛教を指導發達せしめた最も重要なものであるが、就中、北魏佛教の主流は、この二大系の佛教によつて指導せられたものである。北魏佛教は、曇無讖系の涼州佛教と鳩摩羅什系の長安佛教とを度外視して理解されず、雲岡の石窟も龍門の石窟も、亦然りである。

(3) 拙稿「支那佛教」(理想社刊、世界精神史講座「支那精神」所收)參照。拙稿「北魏太武帝の廢佛毀釋」(支那佛教史學一ノ四)、「北魏の僧祇戸、佛圖戸」(東洋史研究二ノ三)參照。

(4) 雲岡石窟については、古くは『魏書』特にその釋老志、『續高僧傳』卷一曇曜傳、『水經注』卷十三、『廣弘明集』卷二、『開元釋教錄』卷六等に記載があり、その研究としては、常盤・關野『支那文化史蹟』の第一輯とその解説、水野清一『雲岡石窟とその時代』(支那歴史地理叢書)、同氏『雲岡に於ける曇曜の五窟について』(支那佛教史學一ノ二)、拙稿「支那文化史蹟第一輯を閲覽して」(佛教研究三ノ四)等を參照せよ。

(5) 更に目下熱心に大規模の調査を進めてゐる本研究所の水野君等の事業が完了して、精密な報告の出るのも數年後であらう。龍門の紀年造像銘の示す所によれば、玄宗の開元・天寶時代には、既に造像は減少してゐる。その後、唐末まで間歇的に存し、宋以後にも若干の刻記あるも、最早新しい造像事業を語るものではない。龍門の造像時代は、玄宗時代では終つたと見てよい。

の一面を刻みつけて遺してゐるわけである。この北支那の二大遺物が、北支那の佛教盛時を連續しておほふてゐることと、その場所が、この期間に於ける最も高い文化が存し、支那佛教界を指導する地位にあるものが集つてゐた所である帝都、若しくは帝都に準ずる都市の近郊であつたことと、これら造窟造像の發願者達が廣く上下僧俗男女のあらゆる階級の人々を含んでゐることなどは、これ等石窟の支那佛教史研究上にもつ重要性を一層ますものである。

要するに、我々はこのすばらしい、時代の連續した二大石窟に集成せられてゐるところの、時代も、場所も、發願者も、明確な多數の資料を整備することによつて、支那佛教史中の最も重要な時代の、最も重要な地域に於る、藝術史なり信仰史なりを、具體的に眺めることができるわけである。

雲岡と龍門との兩石窟が一連として、支那文化史、殊に支那佛教史の研究上に、如何に重要な意義をもつてゐるかに就いては、この章に於いてはこれ以上に説明する必要はなからう。かゝる重要な兩石窟に就いての調査や、その紹介や研究の發表は、日本に於いても、支那、

第二章 龍門石刻記の重要性

雲岡の大石窟に就いては、しばらく論ぜず、今こゝに取扱はんとする龍門の石窟造像は、規模の雄大さに於いては雲岡に及ばぬであらう。しかし、彼が大體に於いて北魏數十年間(多少後世のものもあるが)の短期間の成果であるのに對し、こゝでは北魏以來、朝代をかへた二

歐米に於ても、既に屢々行はれてゐる。しかし、これ等の紹介や研究は、大體に於て美術研究の對象としてなされてゐるものが多い。⁽⁵⁾今私はいはれ等々、支那佛教研究の對象として論じて見ようとするものであり、龍門に存する夥しい刻記を、支那佛教史の研究資料として提供しようとするものである。思ふに、かゝる方面の研究は、支那佛教の教義信仰に就いての知識を得ることに、甚しく不利な立場におかれてゐる歐米の東洋學界では、容易に手をつけ難い方面であり、また明・清以來、佛教に就いての知識を甚しく闕くやうになつてゐる支那學界にも、恐らく容易には望み難いことであつて、この點は、獨り日本の學界が段違ひの有利、かつ優越な地位にある。未だ龍門を實地調査せず、また當分この望みのない私が、敢て水野、長廣兩君の石窟研究に援助して、この稿を起す所以も、このめぐまれた環境におかれてゐる日本學徒の義務を感じるからである。

(5) 大村西崖『支那美術史彫塑篇』常盤大定・關野貞「支那佛教史蹟」或は『支那文化史蹟』及びフランスの Chavannes, Mission Archéologique dans la Chine *Séraphinotade, Tome I, La Sculpture Bouddhique*. は最も主要なものである。龍門關係の文獻は、水野長廣の本書序説にやゝ詳しく述べてある。

百五十年にわたる、藝術史信仰史の流れが見られる點に於いて、更に彼には殆んどない刻記が、こゝでは大小無數に存する點に於いて、少

(1) 造像銘としては、太和七年の銘を最古とし、下つては延昌の銘の甚しく破損せるものに至るまで數個を見るのみ。水野君等の雲岡調査事業の進むに隨つて、尙多少の銘が發見せらるゝとしても、恐らく十數にすぎぬであらう。

くとも佛教史の研究者にとつては、特別の價値をもつものである。

龍門の石窟は伊水西岸の北から、第一窟から第二十八窟までを數へまた伊水の東岸にも若干窟が數へられてゐる。これ等の窟の内外に造られてゐる夥しい大小の佛龕造像の外にも、簡單には到り得ない崖や谷にも散在してゐる造像があらうから、龍門に存する全造像數がどれ程に達するかは明かでない。かゝる調査は、到底數人が數日の滞在調査位では、出來得ることではないのであつて、或は數萬といはれ、或は無數といはれて來た所以である。しかし、地の利を得た一洛陽縣知事が、西曆一九一六年(大正五年)に省長に提出した報告があつて、やゝその概數を想像することが出来る。それは考古趣味の深かつた曾炳章(辛庵)が知事に赴任し、一九一五年の十月から、足場を組んで佛像數をしらべ出來るだけの刻記を拓せしめた結果の報告であつて、

大佛 完全なもの 四七六尊
破れたもの 一八〇尊

小佛 完全なもの 八九三七五尊
破れたもの 七二七五尊

合計 九七三〇六尊

といふ。更に曾氏が編した伊闕龍門山等處造像數目表が、顧燮光の『石言』に収録せられてゐる。どの邊に造像數が多いか、ほゞ概観できらるであらうから、左に抄出しておかう。

伊闕龍門山等處造像數目表

造像所在地	石佛之 大者	石佛之 大石佛 而破者 小者	石佛之 小石佛 而破者 門外者	其他	本 書
潛溪寺	七	一六〇	一	門外 二區 一〇九	齋 破 洞
正賓陽洞	二	一	一	三	賓 陽 洞

龍門石刻記の重要性

左賓陽洞	一〇	一	一	二	門外 五區 五三	賓陽北洞
右賓陽洞	四五	一	一	三〇一	賓陽南洞	賓陽南洞
齋佛堂	三三	四三	二五〇	一九〇	齋破洞	齋破洞
景陽寺	一	六	一	一	敬善寺洞	敬善寺洞
敬愛寺	四三	一	一五六	四五三	二	敬善寺洞
鑼鼓洞	四	一	一	一	鑼鼓洞	鑼鼓洞
萬佛洞	一九	一	一五二三五	一〇五	萬佛洞	萬佛洞
龍窩	一	一	三〇五	一〇	老龍窩	老龍窩
大洞	二七	一	四二	三三	老龍洞	老龍洞
千佛洞	二	八	一三七〇	一三〇	雙洞	雙洞
老龍洞	二〇	一	一九一八	三三	老龍洞	老龍洞
蓮花洞	二	一	二九〇	三四	蓮花洞	蓮花洞
龍門洞	六	一	五七〇	四五	石牛溪	石牛溪
破搖	二〇	一	一三三〇	四八〇	破洞	破洞
位子搖	三	四	一	一	魏字洞	魏字洞
位子南搖	六	一	二〇九三	三〇七	唐字洞	唐字洞
奉仙寺	二五	三	四八	五五	奉先寺	奉先寺
老君洞	三	一九	一〇四三五	一三五	古陽洞	古陽洞
王相搖	一	一	三〇	一四〇	王祥洞	王祥洞
藥方搖	一〇	一	四四五	一三〇	藥方洞	藥方洞
火燒搖	八	一	五九〇	二〇	火燒洞	火燒洞
路邊破搖	三	一四	五五	一	路洞	路洞
石窟寺	一四	一九	一〇九	一五〇	石窟洞	石窟洞
大路崖	一	一〇	一	一	獅子洞	獅子洞
清明寺	二四	一	三四〇	五六〇	獅子洞	獅子洞

龍化寺	—	七	三〇〇	—	—	極南洞
擂鼓臺寺	三三	三三	三三七六	二五三	—	擂鼓臺三洞
乾元溝北岸	一七	二	五七	—	—	萬佛溝
看經寺	五	三	三六	—	—	看經寺洞
香山寺路旁	—	—	五	—	—	香山寺
總計	四七六	一八〇	八六三三	七三五〇	六	七四三

但しこの表の數字の合計は、曾氏が省長に報告した文にあげられた數字と少しく差が生ずるのであつて、『石言』の著者も、この點を指摘してゐる。また近くは錢王偉の「洛陽龍門」には

曾炳章先生。爲洛陽縣知事時。點數金山造像。凡十四萬二千二百八十九尊。題記三千六百八十品。民國二十三年旅行雜誌八〇七

といつてゐる。かゝる相違がどこから来たか知らないが、何れにしても、金山造像數の精確な調査が困難であることが想像せらるると共に、龍門造像の概數を、ほど髣髴することが出來よう。

この多數の造像に關連して、また多數の刻記題名が存するのであつて、その年代は北魏から隋唐・五代・宋にわたり、その數は前記の錢氏は三千六百八十品といひ、顧氏の『石言』には

其實造像之記。遍於山麓。得辨文字者。約二千種寫。

とあり、また古陽洞の壁には「光緒庚寅明治二十三年西曆一八九〇年春、長白豐二文三十三住潛溪寺、拓龍門造像銘、共得千五百品」といふ、清末の刻記も存してゐる。その概數を察すべきである。尤もこれ等の夥しい造像記の中には、既に磨滅破損の爲に讀み難くなつてゐるものもあり、また讀めてもその内容が殆んど資料——少くとも支那佛教研究の資料として、價値のないものも少くない。しかし、この造像記に、その時代の支配階級である王公官吏の發願せるものもあり、史傳に名をのこしてゐる

學者の作にして豊富な佛教知識を馳驅して書かれてゐるものもあり、またこの地方即ち首都中原文化域の佛教信仰の指導者であつたと認められる僧尼の造像記もあり、僧によつて指導せられてゐた信者團體の造像記もあり、民間男女がその父母や愛兒を亡へる悲しみをうつたへた願文もあり、更にこれ等の願が、或は釋迦、或は彌勒、或は阿彌陀、或は觀音、或は地藏と、夫々の佛菩薩の造像に對して向けられてをり、それが時代によつて明かに變化を見せてゐる等々、支那佛教の發達期全盛期たる北魏から唐中期までの二百五十年間、中央文化域に於ける佛教徒なるものが、どんな風に佛教を受容し、如何なる尊像に如何に歸依してゐたかを、かくの如くに如實に語る資料は、恐らく外に求むべからざるものである。

支那には古文書と稱すべき史料が殆んど傳はらない。南北朝隋唐の中央文化域に於ける實際の宗教生活を見るべき、上層階級の日記、古文書も、庶民の記録もない所に於いて、當時既に支那國民の宗教となつてゐた佛教が、その禮拜像と祈願文とをそろへて一所に陳列保存してゐるのであるから、このすばらしい第一の資料を度外視して、所謂佛教全盛期の支那佛徒の信仰を論ずべきではない。

支那には銘記をもつた佛教の造像は甚だ多く、また佛教造像記を著録してゐる書籍も少くない、そしてそれには、龍門の造像記以上に豊富な佛教的内容をもつたものも少くない。しかしこれ等のものには既にその實物の失はれたものあり、實物あるも多くは原地に保存せられず、所藏するもその原存地を明かにせざるものあり、また世界の各地の團體・個人のもとに散在してゐて、これを一括して研究することにも至難である。のみならず、像または銘記が、僞作であるものも少なからず、一々實物について調査をとげた上でなければ、直ちに信賴す

べき資料に供し難い。かゝる多くの困難や危険の伴ふ散在せる造像に比して、この龍門の造像と銘記とは、かゝる困難や危険も少く、實に支那の佛教盛期、中央文化域に於ける支那人の佛教信仰の本流を研究する上に、最もよい條件を具へた第一資料といつてよいのである。

以上の如き支那佛教の最も重要な時代の研究史料として、龍門の石刻記が逸すべからざるものであるのみならず、これ等の刻記は、龍門の石窟造像そのもの年代や、開鑿由來や、その技術の變化を研究する上にも、勿論第一資料であるし、更に文字書道の研究者にとつても珍重せらるべく、また正史の遺漏を補ふべき記事も少からず含んでゐる。我々がなした甚しく勞の多くして、一見頗る無味乾燥の感ずる「龍門石刻録」の編纂が、眞面目な學的研究の基礎として無意義でないことは、これ以上述べる必要はなからうが、試みに次に「龍門石刻録」によつて、龍門に於ける造像の盛衰と尊像の變遷を大觀して、私が志してゐる支那佛教研究上に、この石刻録が如何に興味深く役立て得るかの、一例を示しておかう。

因みに、この「龍門石刻録」編纂の基礎となした拓本は、大阪の故黒川幸七氏より當研究所に寄贈せられた大小約七百八十種である。これにその後研究所で蒐集した若干を加へ、更に内外の出版物に見ゆる龍門造像記に參照し収録し

第三章 龍門造像の盛衰と尊像の變化

龍門の造像記によれば、最も古い古陽洞の開鑿造像は、孝文帝の洛陽遷都西曆四九三前後から始まつてゐるが、紀年造像記の最古は、太和十九

龍門造像の盛衰と尊像の變化

て、録文計約一千五十種、目錄二千四百三十種となしたのである。

舊黒川氏所藏の拓本は、京都帝國大學に所藏せられてゐるものと共に、曾て羅振玉氏が拓せしめたものであると聞いてゐる。拓本はその所在によつて

- | | |
|-------|------------|
| 1 老君洞 | 2 孝昌窟、大小五洞 |
| 3 蓮花洞 | 4 火燒窟 |
| 5 藥方洞 | 6 敬善寺洞 |
| 7 四小洞 | 8 大洞 |
| 9 萬佛洞 | 10 大碑 |

に夫々一括し、特に大きなものだけは石碑として別に一括してあつた。この類別に對しては、水野・長廣兩君の實地調査の結果や、諸金石書類によつて、多少の訂正を加へたが、まだ誤があるかも知れないし、また所在の不明確なものもある。

銘記一千五十も、曾炳章がいふ二千種に比して甚だ少いやうであるが、しかし、銘記と稱しても、その内容が殆んど史料として役にたぬものも相當に多いのであつて、龍門に於ける重要な銘記は、ほとんどもに網羅してゐると解してよい。勿論、龍門全窟の詳細な調査の如きは、相當な費用と時日と人を以つて大じかけな足場なども組んでやらねば遂げられない。かゝることは、恐らく當分望まれないであらうから、この研究はかゝる徹底的調査の準備的基礎工作として提供される。しかし最後の斷案は保留せねばならぬとしても、私の欲する龍門石窟に現はれた佛教信仰の研究は、現在の資料によつても、ほとんどもを達し得るものと信じてゐるのである。

年のものである。爾來約三百年、唐末までの紀年造像記のみによる左の圖表から、ほとんどの時代に造像の盛期があるかを知り得よう。

第一表 紀年造像表

年	魏	北齊	隋	唐
495-500	7			
510	59			
520	51			
530	65			
540	40			
550	6			
560	6			
570	6			
580	11			
590	1			
600	1			
601-610				
620	3			
630				
640	5			
650	66			
660	141			
670	93			
680	59			
690	77			
700	45			
701-710				
720	61			
730	24			
740	6			
750	4			
760	7			
770	3			
780	1			
790				
800	2			
801-810				
820				
830				
840				
850				
860				
870				
880	1			
890				
900	1			

龍門の造像は、北魏が洛陽に都した時代を通じて、盛であつたといつてよいが、特に盛であつたのは、宣武(世宗)、孝明(肅宗)の二代(五二〇-五三七)の三十年たらずの間である。次章に述べるが如く、この間は、北魏洛陽の黄金時代であり、経済力充實し佛教また空前の盛時を迎へてゐたものである。

北魏が東西兩魏に分裂し(五三五-西曆)西魏は長安(陝西省)に、東魏は鄴(河南省)に都してから、北齊・北周の對立時代を経て隋時代までは、龍門の造像も北魏時代ほどに盛ではない。北齊武平六年(五七〇-西曆)の「都邑師道興造釋迦像記」と共に、有名な治疾藥方の刻まれてゐるものが、特殊なものとして注目される。隋から唐時代になつても、高祖太宗の二代の間は未だ盛とはいはれないが、既に太宗の貞觀十五年(六四一-西曆)に、雍州牧魏王泰が、熱心な佛教信者であつた文德皇后の爲にしたといふ帝室關係者の造窟記を見るのは注意すべく、次の高宗から則天武后の時代にあつた約五十年間(六五〇-七〇〇)に、再び龍門造像の全盛期を迎へる。そして玄宗の盛期になると稍々衰へはじめる。高宗・則天武后の時代は、玄奘義淨の二大求法僧の翻譯活動時代であり、道宣、法藏、善導などの巨

匠が、帝都を中心に、或は宮廷に、或は庶民社會に布教した佛教の黄金時代であり、殊に則天武后時代は、その革命に佛教が利用せられた特殊の關係もあり、且つ洛陽が長安以上に重要な地位をしめた時代であるから、この間に龍門造像の盛況を見ることは當然であらう。なほ此間、則天武后の頃からは、造像の外に、龍門に於いて佛典を刻むことが漸く盛となり、金剛般若經、阿彌陀經、般若心經、菩薩呵色欲經、付法藏因緣傳等の刻經が、今日に残るに至つてゐることも興味を引く¹⁾。玄宗の末年に、洛陽、長安が叛亂軍の手中に歸して以來は、龍門の造像も殆んど行はれなかつた。次で代宗・德宗の時代(七六二-八〇四)に、再び唐室を中心とした中原佛教の盛時が來るのであるが、龍門に於ける造像は、再び舊の如き盛況を迎へるには至らなかつた。

なほまた則天時代以來の龍門は、石窟造像の外に、特に洛陽方面で活動した外國三藏の住寺或は墓塔の營まれる所となつて來てゐるのも興味深い。則天武后の垂拱三年(六八七-西曆)に寂した中印度の翻譯三藏、地婆訶羅(日照 Divakara)が、勅によつて龍門香山(東山)に葬られ、やがて此所に香山寺が建てられ³⁾、睿宗の時代には、同じく北印度の翻譯僧、寶思惟(Ratnacinā)が龍門に天竺寺を建て、住み、開元九年(七二二-西曆)寺で寂し、塔を建て、旌表せられてゐる⁴⁾。

更に注意すべきは、造像の漸く減少して來てゐる玄宗の開元末年には、龍門が支那密教傳來の祖師として佛教界に重きをなした兩外國三藏の墓域に選ばれてゐる。即ち開元二十三年(七三五-西曆)寂の善無畏(Suhakarasiṃha)と、同二十九年寂の金剛智(Vajrabodhi)とが、相次いで龍門に葬られ、墓塔碑記がたてられてゐる。

以上の四者は、共に傳法譯經の外國僧である。龍門東山には、則天文字を用ひた『付法藏因緣傳』が刻まれ、これによる印度に於ける釋迦

以來の佛法傳來の正系とせらるゝ祖師の像を彫刻してゐるが、これと翻譯三藏が陸續此地に葬られてゐることゝを、興味深く結びつけて考へることができるとはなからうか。それはともかくとして、玄宗以後の中央佛教界は、新來の密教の盛時となる。就中、代宗・徳宗時代は、金剛智から密教を傳承した不空三藏が、朝廷の信仰をうけて、中央佛教界の第一の指導者となつた時代である。かくて龍門は、佛教界に於いてはその石窟造像よりも、高僧達、殊に密教祖師の塔墓の所在地と

して有名になつて行つた。⁷⁾
わが求法僧、園城寺の智證大師圓珍は、大中九年^{西曆八五五}十二月十七日膝を没する雪を踏んで龍門伊水の西、廣化寺に至り、善無畏三藏舍利塔を禮拜して、十八日にまた大雪をふんで東都(洛陽)に歸り、翌年正月十三日には、再び龍門西崗に至つて、金剛智阿闍梨墳塔を尋ねて塔銘を抄し、伊川の東邊にある白居易の墓を望見したと記してゐるが、石窟造像のことには一言も觸れてゐない。⁸⁾

- (1) 經典の石刻については、葉昌熾の『語石』によつて論述せられてゐる馬衡「支那金石學概要石刻篇」の第三「經典諸刻」と記事諸刻の別、塚本譯註(『東洋史研究三ノ四』)に要領を得てゐる。また常盤・關野『支那佛教史蹟』もしくは『支那文化史蹟』本研究所の『房山雲居寺研究』(『東方學報』京都第五册副刊)、水野長廣『響堂山石窟』等を参照せよ。
- (2) 拙著『唐中期の淨土教』第二章第三章參照
- (3) 地婆訶羅は法藏の『華嚴經傳記』一に
垂拱三年(六八七)十二月二十七日……無疾而終於神都魏國東寺……聖母開之。深加悲悼。施絹千匹。以充殯禮……瘞於龍門山陽。伊水之左。門人修理靈龕。加飾重閣。因起精廬其側……後因梁王所奏請。置伽藍。勅內注名爲香山寺。危樓切漢。飛閣凌雲。石像七龕。浮圖八角。駕親遊幸。具題詩讚云爾。

これ有名な香山寺の起原であり、龍門東山に於ける則天時代の窟を考へる上に考慮せねばならぬものである。唐の玄宗の時代に白居易は、この地の山水を愛してその別荘を營んで住し、香山寺を修營したことはよく知られてゐることである。(香山新修經藏記)

- (4) 蘇翹 唐河南龍門天竺寺碑(『文苑英華』八五六)、『宋高僧傳』卷三。
- (5) 善無畏が龍門西山に葬られたこと、その塔院が廣化寺となつたこと等に就いては、日本に傳つてゐる古抄本により、唐、李華撰として大日本續藏經一ノ二ノ二十三に收められてゐる
玄宗朝翻經三藏善無畏贈鴻臚卿行狀
大唐東都大聖善寺故中天竺國善無畏三藏和尚碑銘
に見える。但し兩者が共に李華の撰になるものであるや否やは、検討を要するものである。後者は既に『文苑英華』卷八六一に李華として收めてゐるが(續藏本と少しく文字の異あり)、前者との記述の相違から、兩者同一人の撰とすることに疑が生ずる。しかし善無畏の墓塔が、龍門西山の廣化寺にあつたことは、わが入唐僧智證大師圓珍が、大中九年(八五五)十二月に廣化寺に至り無畏三藏舍利塔を拜してゐることによつて明かである。その旅行記に曰く十二月十七日。踏雪沒膝。至東都龍門伊水之西廣化寺。禮拜無畏三藏舍利

龍門造像の盛衰と尊像の變化

- (6) 之塔、沙門道圓撰三藏和上碑。流傳東海。十八日。又踏大雪至東都。大聖善寺善無畏三藏舊院。禮拜眞容。其後遊歷敬愛安國天宮荷澤等諸寺。この沙門道圓撰の三藏和上碑と李華撰の碑との關係は如何に。また『金石萃編』卷八十三に「西山廣化寺三藏無畏不空法師塔記」あり、末に、開元二十五年歲次丁丑仲秋八月吉且刊とあるが、これは北宋頃の偽刻である。『宋高僧傳』卷二の善無畏傳は、いはゆる李華撰の碑銘の文を用いてゐるが、李華撰碑のことを記してゐないのは怪しむべきである。『宋高僧傳』には
開元二十八年十月三日。葬於龍門西山廣化寺之庭焉。定慧所薰。全身不壞……今觀畏之遺形。漸加縮小。黑皮隱隱骨其露焉。累朝旱澇皆就祈請。微驗隨生。且多檀施。錦繡巾帕覆之。如偃息耳。每一出龕。置于低榻。香汁浴之。洛中豪右爭施彈壓淨巾澡豆以資浴事。今上禪禪。多遣使臣往加供施。必稱心願焉。
といふ。五代北宋の頃には、龍門廣化寺の善無畏塔では、「善無畏の全身」と稱するものが廣く上下の信仰を集めてゐたのである。(『冊府元龜』一四五)
- (7) 『貞元釋教錄』卷十四に、大唐東京廣福寺故金剛三藏塔銘を引いて
其年(開元二十九年)八月十五日證果矣……其年九月五日、勅令東京龍門安置。至天寶二年(西曆七五三)二月二十七日。於奉先寺西崗起塔。
不空を中心とした長安佛教界の盛況については拙著『唐中期の淨土教』第二章、第三章を參照せよ。不空はその師金剛智の爲に、永泰元年(七六五)には奏請して、開府儀同三司を追贈しまた諡號「大弘教三藏」を賜つたし、かつ御書の「東京龍門故開府儀同三司大弘教三藏塔」の額の下賜を請ひ、千僧齋を設けて師の遠忌を奉修してゐる(『貞元釋教錄』卷十四)。
龍門が密教祖師の墓塔のある聖域として、佛教徒に重視せられる時代が來たのである。
- (8) 善無畏三藏塔へ參拜した記事は註(5)に引いておいた。かの文によつて
大中十年正月十三日。迴至龍門西崗。尋金剛智阿闍梨墳塔。遂獲禮拜兼抄塔銘。便於伊川東邊。望見故太保白居易之墓。
右は本年京都恩賜博物館で開かれた智證大師特別展觀に、園城寺から出陳せられてゐる『行歷抄』を私がガラス越しに書寫しておいたものによつたのである。

以上の如き龍門と佛教との關係、龍門に於ける造像事業と他の佛教的事業との關係、造像造窟衰廢の理由の如き諸問題は、こゝに略して論ぜず、たゞ龍門造像時代を通じて、如何なる尊像が造られ、それに如何なる變遷が現はれてゐるかを、造像記によつて概観しておきたい。

造像記には、單に石像・佛像・像などと記すのみで、固有尊像名を明記してゐないものが甚だ多い。これを除いて固有尊像名の記されてゐるもののみによつて、その尊像數を示すと左の如き順位となる。

	(紀年)	(無紀年)	(計)
阿彌陀佛	一二二	八五	二〇七
無量壽佛	一一	四	一五
觀世音菩薩	六六	一〇〇	一六六
救苦觀世音	一六	一三	二九
十一面觀世音		二	二
釋迦佛	六一	三三	九三
優填王像	七	六	一三
彌勒菩薩(佛)	四九	一三	六二
地藏菩薩	一一	二二	三三
藥師佛	三	一二	一五
勢至菩薩	二	三	五
多寶佛	三	一	四
盧舍那佛	三		三
定光佛	二		二

この他に、業道像(一四)なる特殊な名稱のもの、七佛(八)、千佛(六)、五十三佛(二)の如き集合的佛の造像などがあるが、とにかく固有尊像の間に於いては、阿彌陀・觀世音及び釋迦・彌勒の四尊がその大半を占め、就中、阿彌陀・觀世音の二尊が多く、支那人の信仰が、この二尊に如何に集注したかゞはれる。支那の諺に「家家觀世

音、處處彌陀佛」といふのがあるが、これは支那近世の佛教信仰の一般的狀態を示してゐるものに他ならぬ。右の龍門に於ける造像の尊像類別から見れば、この諺に示されてゐるやうな支那に於ける佛教信仰の狀態が、既に龍門石窟に現はれてゐるが如くに見える。しかし、これが北魏造像の初期からの狀態であつたかといふに、全くさうではないのである。

南北朝時代の支那中央文化域に於ける佛教信仰は、彌陀・觀音の二尊を主とするものではなかつた。少くとも龍門造像の示す所では、支那の佛教信仰が「家家觀世音・處處彌陀佛」の如き型態になつたのは、唐以後であることが知られるのである。即ち試みに前の無紀年と紀年とを通じて統計したことから、紀年造像記のみをとつて、造られてゐる尊像を年代順に整理して見ると、左の如き異つた結果を得るのである。

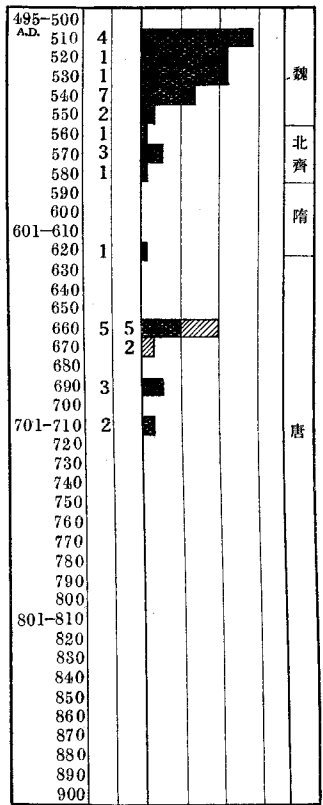
先づ最も多い阿彌陀・觀世音・釋迦・彌勒の四尊に就いてつくつた左の表をみるならば、一見して南北朝と唐時代との間に、支那佛教徒の一般的信仰對象が、釋迦・彌勒から、彌陀・觀音・地藏へと變化して行つてゐることが、察知されるのである。

前の分類表に於いて第三位にあつた釋迦佛を、紀年造像記のみによつて統計してみると、第二表に見るが如く六一の中の大五〇は、南北朝時代のものであり、更にその四三までが北魏時代のものである。そして唐の造像盛期にあつては、僅かに一〇を見るにすぎぬ。

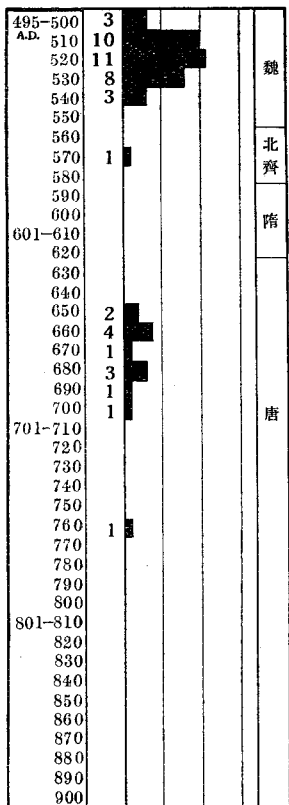
次に紀年無紀年計六二を以つて、第四位にあつた彌勒は、紀年造像の第三表によればその總數の四十九の大半、三五が、すべて北魏時代のものである。

これに對して紀年造像記一二二を以て、諸尊像から引はなれて第一位にあつた阿彌陀佛は、第四表にみられるが如くそのすべてが唐時代

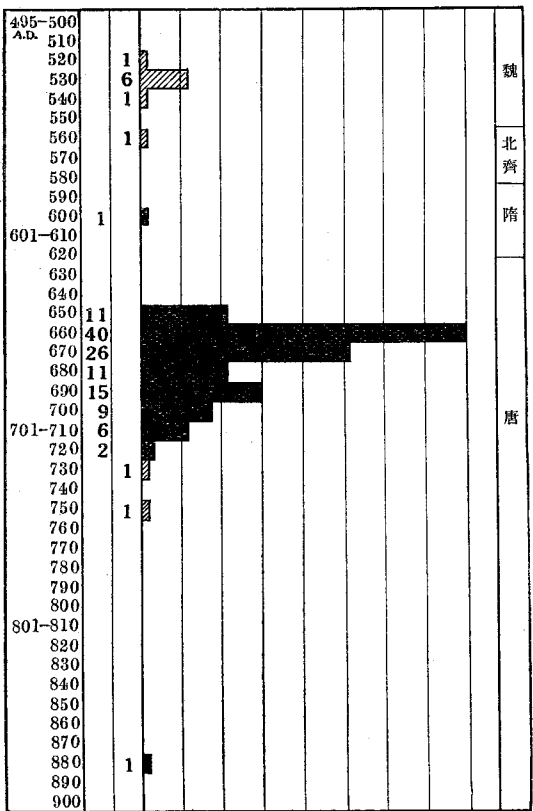
第二表 紀年釋迦、優填王像表 (左の黒い部分は釋迦像、右の斜線の部分は優填王像)



第三表 紀年彌勒像表



第四表 紀年阿彌陀無量壽像表 (左の黒い部分は阿彌陀像、右の斜線の部分は無量壽像)



のものであつて、南北朝時代のものは一もない。紀年無紀年の合計二〇七をもつて諸尊を断然ぬいてゐた阿彌陀佛も、南北朝以前においては、零を以つて等外におちてしまふのである。

龍門に於ける紀年造像記の最古のものは、太和十九年西曆四九五の長樂王丘穆陵亮夫人造彌勒像記五七七文であり、以後北魏時代には、彌勒が釋迦と共に造像の大半をしめてゐるのに對して、阿彌陀佛は、隋の開皇十

(9) 優填 (udoyana) 王像とは、『增一阿含經』第二、『觀佛三昧經』第六、『大方便佛

報恩經』第三、『大乘造像功德經』卷上等に出づる、釋迦佛が母摩耶の爲に天上にのぼつて說法せられた不在中に、篤信の僑賞彌國王優填が造らしめたといふ釋迦像に由来するものである。かゝる傳説をもつた特殊な釋迦像が、釋迦佛の在世中の佛像であり、最初の佛像であるとして、特別な信仰をあつめ、また造像上の範ともせられるに至つたものである。支那でも既に南北朝時代には、「後漢明帝が迎へた天竺僧法蘭がもたらした釋迦倚像畫は、優填王像の

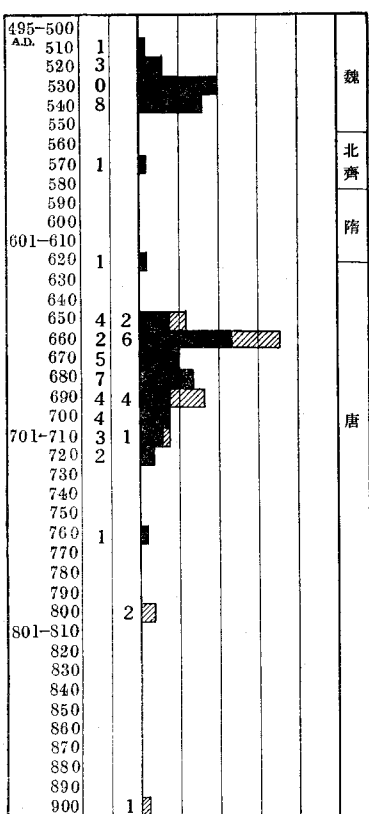
龍門造像の盛衰と尊像の變化

五年西曆五九五に初見し、唐に入つて急に増加して、造像諸尊を遙かに引きはなして第一位を占める。殊に太宗の末年から、高宗・則天武后の時代、即ち西曆六四〇年頃から七〇〇年頃までの六十年間に、大半の一・二〇が造られてゐるのである。もつとも、阿彌陀佛の譯名である無量壽佛の名で造られてゐるものは、北魏の神龜二年西曆五二九を初見として、北魏時代に八を數へてゐるが、唐時代になると殆んど皆、阿彌陀の名で記されてゐる。無量壽佛の計十一の中の九までが、阿彌陀佛の零であつた北齊以前に存するのに對して、阿彌陀佛が百二十餘も數へられる唐時代には、無量壽佛は僅かに二にすぎない。

模寫であり、帝がこれを數本模寫せしめた。換言すれば、支那傳來の最初の佛像も、優填王像であつた」とする説話も流布してゐたし、『法苑珠林』卷十二、及び卷十三所引の南齊王琰撰『冥祥記』、荊州大明寺の釋迦梅檀像は、梁武帝の勅を奉じて、郝騫等が印度から親しくむかへて來た優填王第二像とせられて、特別な信仰を集め、「多有傳寫、流被京國」といふ『法苑珠林』卷十四、龍門でも、隋時代を中心にした前後の時代に、優填王像の造立が相當行はれてゐるのである。

次に第五表に見られるやうに、觀世音像は全造像時代を覆つてゐるが、救苦觀世音の名は、唐時代になつて出づるものであることに注意しておくべきである。

第五表 紀年觀音救苦觀音表 (左の黒い部分は觀、右の斜線の部分は救苦觀音像)



その他、表は作らなかつたが、地藏並びに業道像の如きも、唐時代になつて出づるものであることも注意しておくべきである。

以上のみによつても、龍門なる同一地域に於ける造像が、北魏から唐時代までの間に、右の如き變化をしてゐることから、この地方の佛教信仰に著しい變化があつたことが認められるであらうが、更に次の表で一層このことが明かにされる。龍門造像時代中の前後に存する造像の最盛時二つをとつて、その造られてゐる尊像を對照して兩時代の佛教信仰の對象が如何に異なるかを示して見たのである。

造像總數	北魏 (四九五—五三五)	高宗・則天 (六五〇—七〇四)
釋迦	二〇六	四五九
彌勒	四三	九
多寶	三五	一一
定光	三	〇
地藏	二	〇

無量壽	阿彌陀	觀世音	救苦觀音	地藏
八	〇	一九	〇	〇
〇	一一〇	三四	一一	七

右を一見して、洛陽地方の佛教徒は、北魏時代には主として釋迦・彌勒を造つて禮拜祈願してゐたのに、百年餘の後には阿彌陀の造像禮拜に移つてゐることが分る。北魏時代にも、阿彌陀佛は無量壽佛なる譯名で造られてゐるが、その數は釋迦の五分の一弱、彌勒の四分の一弱にすぎぬ。然るに唐の高宗から則天武后の時代には、逆に阿彌陀佛が釋迦の十二倍強、彌勒の十倍に躍進してゐる。

釋迦は、この人間世界に出でた過去佛である。彌勒は釋迦佛の後繼者として天上に現在する菩薩であり、將來この人間世界に出でて成佛する次の代の佛である。北魏造像中の定光佛は、昔、釋迦の前生時代にこの世界に出で、釋迦に對して將來成佛し得べきことを豫告した佛であり、多寶佛は釋迦佛の靈鷲山に於ける『法華經』の說法中に現はれて、湧出した寶塔中に釋迦佛とともに並坐せられたと信ぜられてゐる佛である。要するに、定光・多寶・彌勒は、皆この世界の釋迦佛傳中の尊像であるといつてよい。これに對して、阿彌陀佛は、この土から西方十萬億の佛土を過ぎた彼の土の主とせられ、五濁惡世とせられる「この土」から衆生を「彼の淨土」へ引接往生せしむる現在佛として信仰せられたものである。

支那佛教の發達を學んだ者は、漢時代に傳來した佛教が、釋迦傳を主とする佛教から、六朝時代には、釋迦の教を究めんとする佛教、翻譯せられた大乘・小乗の諸經典を、釋迦佛の說法として統一組織し、

一貫せる教義として受容せんとする「支那佛教」の教義の研究組織時代に進んできてゐることを知る。¹⁰⁾ 龍門に於ける北魏時代の釋迦・彌勒の造像の特に盛なことは、「何が釋迦教か」を究めんとする時代に相應するものとして興味深く理解され得る。また唐時代の中原地方に、道綽・善導等による阿彌陀淨土教が勃興したことを知るものには、高宗・則天時代の阿彌陀造像の盛なことも當然と解し得る。¹¹⁾ 龍門造像の變化は、支那佛教の教義發達の過程を、よく反映してゐるのである。

阿彌陀佛も地藏菩薩も、釋迦佛によつて説き示された神々として、支那佛教徒に受容せられてゐる。北魏時代の釋迦佛・彌勒菩薩と、唐時代の阿彌陀佛・地藏菩薩とは、共に佛菩薩であるとはいへ、佛教徒の心情に接する兩者の性格には、少なからざる相異が認められる。一切

知者或は説法指導の師としての感じと、無限の慈悲者、救濟の親としての感じとが、兩尊像に對する佛徒の心情であると概観してもよからう。また無量壽佛と阿彌陀佛とは同一佛であるには相違ないが、而も北魏の無量壽佛から唐の阿彌陀佛へと變化してゐる間には、信仰者が受容する佛の性格にも變化があつたことが認められる。龍門造像に於ける尊像の變化は、支那佛教信仰の變化、支那佛徒の佛陀觀の變化に就いて、教へる所が少くないと考へるのである。

かくの如き問題は、本稿の結論として再論するが、こゝではかゝる例によつて、龍門石窟に存するおびたゞしい刻記類が、支那佛教の研究者に對して、極めて貴重なる資料となることを示し得れば十分である。

(10) 拙稿「魏晉佛教の展開」(史林・二十四ノ四)、同「支那佛教」(世界精神史講座「支那精神」所收) 參照

(11) 拙著「唐中期の淨土教」、拙稿「支那淨土教の展開」(支那佛教史學三ノ三・四、淨土教特輯號) 參照

本論

第四章 北魏洛陽佛教の盛衰と龍門

第一節 洛陽遷都と龍門造像

洛陽の郊外にある龍門の造像が、洛陽並びに洛陽佛教の盛衰消長に密接に關係することはいふまでもない。

龍門造像銘の中で最も古い紀年は、古陽洞南壁に存する孫秋生等二百人の造像記に、北魏の太和七年西曆四八三に「國祚永隆、三寶彌顯」等の爲に造像を發願した、とあるものである。太和七年は、孝文帝の洛陽遷都に先だつこと十年のことである。しかしこの造像記がかゝれたのは、景明三年西曆五〇二のことであつて、これは洛陽遷都の後、約十年もたった年である。私は古陽洞のプランの上から、洞の南壁に存するこの孫秋生等の造像記のある佛龕を以つて、彼等自らが太和七年から、この壁面にこの造像を開始したものと解しない。このことは、後に古陽洞の佛教を論ずる時に述べることにするが、古陽洞の上部からこの孫秋生等の佛龕の列んであるあたりまでは、太和十七年洛陽遷都の前後の頃から景明初年にかけて、造られたものと解してよいと思ふのである。¹⁾

さてこの一例以外の北魏紀年造像銘は、太和十九年西曆四九五以後、即ち孝文帝の洛陽遷都以後のもののみであつて、その數は、孝文帝をついだ世宗宣武帝の景明の年五〇〇—五〇三以後に多くなつてゐるのである。かくの如き北魏造像記の紀年は、畢竟、龍門の造像事業が、北魏の洛陽遷

都によつて、この地方がはかに政治・經濟・文化の中心地となり、これに隨伴して洛陽を中心にした佛教が、はかに活況を呈し、隆盛におもむいたといふ歴史事實に、密接な關係をもつてゐることを示してゐるものに他ならぬ。されば龍門に於ける北魏の造像を理解する爲には、先づ洛陽に於けるこれ等の事情を知つておくことが必要である。

孝文帝が一百年の祖宗以來の平城(大同)の都をすて、遙かに郷土を南に離れた洛陽へ遷都といふ大事業を決行したのは、太和十七年、十八年である。即ち太和十七年西曆四八三二十七歳の帝は、六月皇太子を立て、南伐の名の下に八月、步騎百餘萬を率ゐて平城を發して肆州・并州・懷州を経て、九月に洛陽に入り、荒廢せる晋の故宮基址を巡り、太學に至つて石經を觀などした。次で帝は戎服乘馬、南伐の勢を示したが、群臣の停むるを容れて此に遷都の計を定め、司空穆亮、尙書李冲等をして洛京の經始にあたらしめ、轉じて鄴に行幸、翌十八年には一度北歸して群臣に諭して遷都を發表し、同年十月、正式に洛陽に遷都したのであつた。²⁾

彼等の郷土に近い、また一百年にわたつて祖先が經營し來り、殊に都城の殷盛も正に頂上にあつた平城をすてるに就いては、勿論、多くの反對があつた。かゝる反對をよく推し切つた帝には、高い理想と強い熱情があつたのであつて、そは帝が宗族中でも特に信賴し、遷都に

關して協力を求めてゐた任城王澄に語つた次の言からでも、十分に汲みとることが出來よう。³⁾

國家北土に興り、徙りて平城に居る。富は四海を有すと雖も文軌一ならず。此間は用武の地なり。文治すべきに非ず。風を移し俗を易ふること信に甚だ難し。崤函こそ帝宅なり、河洛こそ王里なり。

こゝに因つて大舉し中原に光宅せん。

と。若い孝文帝の理想は、胡族の皇帝たるに非ずして、漢魏晋の支那中原の漢族國家の繼承者となるにあり、漠北の野を馳驅し四方の攻略に勇武を轟かせた祖宗以上に、中原に於ける遠い古の理想的文治の聖君たる帝堯・帝舜を、漢族儒士同様に尊敬するに至つてゐた。その文軌を一にせんとするは、漢族文化に歸一せしむることであり、「移風易俗」は、胡風胡俗から漢風漢俗に移すことである。それが實現の爲には、先づかつての遊牧狩獵生活時代の郷土に接した平城から離脱して、文治を以て中原に光宅するにふさはしい、古來の帝宅王里たる洛陽に遷ることを、必要と認めたのである。思ふに高次の漢族文化は、拓跋部族が大同の地に奠都して北支那を統治して以來およそ一百年間に、北族出身の支配階級を相當に教化して行つてゐたが、孝文帝に至つては、既に親ら漢族文化に就いての教養を備へ、これに對する強い憧憬

熱情をもち、國をあげて漢化せんとする漢族的皇帝になるに至つてゐたのであつて、洛陽遷都はその理想實現への手始めであり、またその基礎の確立であつた。爾來、帝は、北方の本土に戀着する多くの胡族の反對不満をおしきつて、胡族胡風を漢化する政策をぐんぐん強行して行つたのであつた。⁴⁾

やがて洛陽には、胡族出身の貴族達が、漢人的文化生活に競奔する時代が來り、文運の進歩と共に奢侈生活の著しい發達となり、これに伴つて前代以來の著しい隆運を繼承した佛教も亦、その全盛の相貌を新帝都に顯現したのであつた。但し、この洛陽を中心として興隆した魏佛教は、中原文化域で既によく漢化せられてゐた佛教であつた。北方大同で北族出身貴族の多くが、未だ漢字漢文を十分に學習しなかつた時代の雲岡石窟には、刻記が甚だ少かつたが、龍門造像に至つては、北族貴顯の造像にも一樣に漢文の銘記をもつてゐる。これもかゝる漢化の進みと共に、興味深くながめられるであらう。

舊都大同の文化は、佛教が代表してゐた、といつても過言ではない。佛教は、世祖太武帝の晩年には、その峻烈な廢佛の實施にあつて、佛寺も廢毀され僧侶の姿も一掃せられたが、帝の崩後には、佛教界空前の政治的なまた事業的な手腕をもつた、熱烈な護法の沙門曇曜を首班

(1) 孫秋生等の造像記は、古陽洞の本尊と共に、洞の南壁に計畫的に造られてゐる。上中下三段（但し下段は後の追造と認められる）の大龍列の中の、上段四龍の入口より第三龍に附けられてゐる碑記である。隣りの畧々同じ形式の第二龍は、比丘法生が孝文帝並びに北海王母子の爲に造つたもので、景明四年十二月の銘文をもつてゐることに注意せよ。本稿では、第五章第一節「古陽洞と法華經」の項、及び第六章第二節の「比丘慧成造像記並にその關係造像記」の項、同章第三節等にこの佛龕と碑記について論述しておいた。

「龍門石刻錄」錄文五八三、拓影九

(2) 『魏書』卷七、『北史』卷三の孝文帝紀太和十七年、十八年の條及び、『魏書』卷十九任城王澄傳、卷二十七穆崇傳に附してゐる穆亮傳、卷五十三李冲傳等を

參照せよ。また「龍門石刻錄」に收めた、太和十九年の、「長樂王丘穆陵亮夫人尉遲造彌勒像記」の丘穆陵亮は、穆亮のことである。本稿第六章第一節にこの造像記を解説してゐるのを參照せよ。

(3) 『魏書』卷十九中、任城王澄傳に出づ。

世祖太武帝——恭宗——任城王雲——澄
澄は世祖の曾孫であり、高祖孝文帝に信任せられ、洛陽遷都の功勞者である。孝文帝崩後も、宣武・孝明二帝の時代にわたつて、宗室中の有力者として中央政界に重きをなし、靈太后の寺塔造營についても諫言してゐる。神龜二年五十三歳で薨じた。

(4) 趙翼、『二十二史劄記』卷一四の「魏孝文遷洛」「魏孝文帝文學」の項等參照。

として、佛教徒は忽ちに北魏朝廷を教化し、朝廷をして積極的に興佛事業にのり出さしめ、急速な佛教復興に成功し、舊に倍する佛教盛觀の帝都を出現したのであつた。⁵⁾

文成帝の復佛を許可する詔が出て以來帝都に於ける佛寺は建立また建立、孝文帝即位の初期、ちようど復佛から二十五年たつた太和元年^{西曆四七七}頃には、既に帝都城内にある寺が百に近く、僧侶が二千餘を數ふるに至つてゐる。⁶⁾もつとも當時は、孝文帝治世とはいふものゝ、實は、帝は五歳で即位したのであつて、即位以來洛陽遷都の數年前までの朝廷の實權は、文明皇太后馮氏にあり、外戚馮氏の勢力が頗る大であつた。太后も、太后の兄の馮熙も、何れも熱心な奉佛家であつて、建寺造像等の興佛事業は、馮太后及び馮氏によつて續々行はれた。⁷⁾洛陽遷都前の大同佛教の盛觀は、文明皇太后馮氏一族と沙門統曇曜とに負ふ所が最も大であつた。

大同には勅建の永寧寺七層の塔が天下無雙の結構の美をほこり、外戚馮熙の皇舅寺五層の塔が燦々たる精光を天空に放つてそびえてゐた⁹⁾し、西郊雲岡に於いて、今日も觀者を驚歎せしめる大石窟が、莊嚴新しく偉觀を現はして、上下の佛教徒を感激せしめたのも、洛陽遷都の直前の頃であつた。孝文帝治世下にゐた『水經注』の著者は、よくこれ等の佛教の盛觀を傳へてゐるのであつて、帝京佛寺の盛榮を述べ、これを結んでは、

京邑帝里、佛法豐盛、神圖妙塔、架峙相望、法論東轉、茲爲上矣。と歎じ、雲岡の石窟佛寺の壯觀を記しては、

鑿石開山、因巖結構、眞容巨壯、世法所希、山堂水殿、煙寺相望。といふ。今、孝文帝が、かゝる佛教全盛の舊都をすて、遷都を斷行し新都を經始するにあつて、佛教に對して如何なる政策をとつたかは

興味深い問題である。

孝文帝はその理想を實現する新都洛陽には、内城に一寺(永寧寺)と、外城に一尼寺との、たゞ二佛寺の官立を豫定したが、それ以外の佛寺を建てしめぬ方針をとつた。遷都の計畫に參與した任城王澄が、神龜元年^{西曆五二八}靈太后に奏上した文にいふ。

抑惟高祖定鼎嵩瀛、下世悠遠。慮括終始、制洽天人。……故都城制云、城内唯擬一永寧寺地、郭内唯擬尼寺一所、餘悉城郭之外。欲令永下遵此制、無敢踰矩。(魏書老志)

而してこの一寺一尼寺以外の佛寺を洛陽城郭外にしか認めない理由として、第一には佛教を崇尚するが、佛寺僧尼が俗塵の境地に雜はり、これにけがされることを不可とし、道と俗と別あらしむることが佛教の本旨に合するとしたこと、第二には、かつて平城に於いて、僧法秀の謀叛事件¹⁰⁾が起り、朝廷を震駭せしめた苦い經驗を、再びくりかへさぬ様に、即ち警戒を要する佛寺を、城内に多く建て、はならぬと、したことが擧げられてゐる。

これ等の理由は、或は後から考へ附けられたものであるかも知れぬが、何れにしても、既に洛陽新都は、漢族儒教國家の帝都として經始せられたのであるから、多くの佛寺が城内に豫定せられなかつたのは寧ろ當然といつてもよからう。また既に荒廢してゐた新都では、何よりも宮城官廳等をまづ建設せねばならぬ當初に、多くの佛寺建築が計畫せられる筈もない。¹¹⁾然しながら、孝文帝は佛教を崇尚し、佛典教義の研鑽にまで進んでゐた人で、その近側には彭城に於ける鳩摩羅什系の義學の沙門、曇度・道登・惠紀等が出入して『成實論』の如き論部の教義を講ずるまでになつてゐた。¹²⁾前代の復佛以來、奔流の勢をなして來つゝある佛教の勃興を、中斷阻止することは不可能である。殊に

遷都した北族が、追慕の情断ち難きものは、舊都平城の盛観であり、

また期待する所は、舊都と同類の文物、それ以上の文物を具備した新

(5) 『魏書』卷四一七帝紀。同卷百十四釋老志。『高僧傳』卷十一、釋玄高傳。『續高僧傳』卷一、魏北臺石窟寺恒安沙門釋曇曜傳。また拙稿「北魏太武帝の廢佛毀釋」(支那佛教史學一ノ四)及び「北魏の僧祇戸・佛圖戸」(東洋史研究二ノ三)参照。

(6) 『魏書釋老志』に曰く、太和元年(四七七)二月、幸永寧寺設齋、赦死罪囚。三月又幸永寧寺、設齋行道聽講。命中祕二省、與僧徒討論佛義(中略)自正光至此、京城內寺新舊且百所。僧尼二千餘人。四方諸寺六千四百七十八、僧尼七萬七千二百五十八人。

右の正光(五二〇—五二五)は興光(四五四)の誤であることが、『册府元龜』卷五十一や『破邪論』卷上(唐法琳撰)によつて確められる。即ち復佛以來約二十五年間の、寺僧の増加ぶりを示してゐるものである。

(7) 馮熙(太和十六年薨)の崇佛に就いては、その傳に、熙爲政不能仁厚、而信佛法、自出家財、在諸州鎮、建佛圖精舍合七十二處、寫一十六部一切經、延致名德沙門、日與講論、精勤不倦、所費亦不貲(中略)其北邙寺碑文、中書侍郎賈元壽之詞、高祖頻登北邙山、親讀碑文、稱爲佳作(『魏書』卷八十三上、北史卷八十)。

とあるによつても推察し得る。高祖が頻りに至つたといふ北邙寺は、洛陽の北邙山に建てられ、一に馮王寺とも稱せられた寺である。(『水經注』卷五)なほ、文明皇太后及び曇曜の興佛事業に就いては、『釋老志』に見え、また拙稿「北魏の僧祇戸佛圖戸」にやゝ詳説しておいた。

(8) 沙門統は北魏の佛教を統監する僧官である。『魏書釋老志』に、孝文帝時代のことを記して、

先是、立監〔沙門統〕、福曹、又改爲昭支、備有官屬、以斷僧務。とある中央に設置せられた昭支曹なる役所の長官である。初め道人統と稱せられてゐたが、曇曜によつて沙門統と改められた。佛教復興の第一代の道人統に任ぜられたものは、涼州から來てゐた闍賓(Kashan)出身の外國沙門師賢であつて、曇曜は和平〔熙〕の初に、これをついだものである。『釋老志』に

和平初師賢卒、曇曜代之。更名沙門統。初曇曜以復佛之明年、自中山被命赴京、值帝出見于路、御馬前銜曜衣。時以爲馬識善人。帝後奉以師禮。とて、文成帝の信任厚かつたことを示し、その雲岡石窟事業以下の興佛事業を述べてゐる。元來、曇曜も師賢と同様に涼州から來た僧である。外國人であつた道人統師賢の時代も、興佛事業の實際は、曇曜の劃策運動によることが大であつたであらう。

(9) 『水經注』卷十三による。『魏書釋老志』にも、復佛以來の大同に於ける造寺造像の例を左の如くあげてゐる。

興光元年四五四秋、勅有司、於五級大寺內、爲太祖已下五帝、鑄釋迦立像五、各長一丈六尺、都用赤金二萬五千斤(中略)〔皇興元年四六六〕……其歲高祖誕、載於時起永寧寺、構七級佛圖、高三百餘洛陽遷都と龍門造像

尺。基架博敞、爲天下第一。又於天宮寺、造釋迦立像、高四十三尺、用赤金十萬斤、黃金六百斤。皇興中、又構三級石佛圖、椽棟相繼、上下重結、大小皆石、高十丈、鎮固巧密、爲京華壯觀。

(10) 高祖踐位、顯祖移御北苑崇光宮。覽習玄籍、建鹿野佛圖於苑中之西山、去崇光右十里。巖房禪堂、禪僧居其中焉(中略)又詔曰、内外之人、興建福業、造立圖寺、高敞顯博、亦足以輝隆至教矣。然無知之徒、各相高尚、富相競、費竭財產、務存高廣……自今一切斷之(中略)承明元年四七六八月、高祖於永寧寺、設太法供、度良家男女、爲僧尼者百有餘人。帝爲剃髮施以僧服、令脩道戒、資福於顯祖。是月又詔起建明寺。

(11) 太和五年四八一、高祖が中山等の今の河北省方面に南巡中の不在をねらつて、計畫せられた謀反であるが、幸にして、留守をしてゐた司空荀勗の敏速な處置によつて、叛徒を一網打盡にすることが出来た。これに連累處刑せられるものが甚だ多かつたので、處刑寛和の詔も出た程である。其詔に曰く、法秀妖詐亂常、妄說符瑞、爾臺御史張求等一百餘人、招結奴隸、謀爲大逆、有司科以族誅、誠合刑憲、且矜愚重命、猶所弗忍、其五族者降止同祖、三族止一門、門誅止身。

拙稿「北魏の佛教匪」(支那佛教史學三ノ二)参照。洛陽の金墉宮が成り、六宮及び文武が盡く洛陽に遷ることができたのは、太和十九年四九五九月のことである。『魏書』卷七下、高祖紀。洛陽都市計畫中にあつた永寧寺の建立は、づつとおくられて宣武帝の永平元年五一六である。『洛陽伽藍記』卷一「釋老志」等。

(12) 『魏書』高祖紀に、孝文帝の高い漢人的教養をのべて、雅好讀書、手不釋卷、五經之義、覽之便講、學不師受、探其精奧、史傳百家、無不該涉、善談莊老、尤精釋義、と、稱揚してゐる。儒家、道家、佛教の三者の學に通じてゐたといふが、道登等の彭城の佛教徒は、既に洛陽遷都以前から帝の近側に教化をのびしてゐたのである。『洛陽伽藍記』卷一に、

遷京之始、宮闕未就、高祖住在金墉城、城西有玉南寺、高祖屢詣寺沙門論議。とあり、また『釋老志』には、太和十九年四月、帝幸徐州白塔寺。顧諸王及侍官曰、此寺近有名僧嵩法師、受成實論於羅什、在此流通、後授淵法師。淵法師授登紀二法師。朕每翫成實論、可以釋人榮情、故至此寺焉。時沙門道登、雅有義業、爲高祖眷賞、恒侍講論。

とあり、道登の卒に對する帝の哀悼の深かつたことを記し、更に羅什に對する追慕尊敬のことを記してゐる。遷都當時の帝の近側に佛徒があり、帝が積極的に佛教に親んでゐたこと、更に特に羅什系の佛教が尊重せられてゐることは、龍門石窟研究上にも注意すべきである。本稿第五章「北魏窟に現はれる佛教」『高僧傳』卷八、僧淵傳、『續高僧傳』卷六、道登傳参照。

都である。當時の如き佛教盛時にあつては、舊都の内外に於ける永寧寺以下の壯麗無比にしてかつ彼等に因縁深き堂塔伽藍の數々や、完成したばかりの莊嚴極りなき雲岡の大石窟等が、北族の心を強く舊都へ愛著せしめるものであることを考へねばならぬ。

北方郷土を慕ひ、北臺舊都を戀ふる北族を、出来るだけ早く中原洛陽の地方に移住せしめ土着せしめる政策は、孝文帝の理想實現の上に最も緊要なるものである。爲に色々の政策が施設せられてゐるが、この際彼等の精神生活を安んぜしめる施設を洛陽方面にもつことが、特に必要であるのはいふまでもない。太和十九年に勅して、洛陽に遷つた民は、死んでも北歸して葬ることを許さず、必ず河南に於いて葬るべしと命じて、洛陽方面に墳墓の地を定めしめ洛陽を郷土たらしめたるが如きも、かゝる意味で有效なかつ興味深き政策である。¹³⁾ 祖先或は親愛なるもの、墓域の存する所に、人心は愛著し安住するものであるからである。

ともかく、人民殊に北族を、新都の生活に安住せしめる上には、彼等自身の精神的聖地をこの地にもたらしめることが必要である。就中、佛教の勃興時代に、その十分に莊嚴せられた多くの靈場靈域をもち、奉佛の感情を満足せしめてゐた平城の地をすて、移らしめるのであるからには、新都方面にもすみやかに彼等の佛寺、彼等の佛教的聖域をもたしめることが、有效な緊要な策である。

今洛陽の新都を經營する始めに、舊都に於ける代表的寺院であつた永寧寺と同名の寺の建設が豫定せられたことは、思ふに舊都永寧寺の移轉であり、上述の北地から南遷した人々の精神安定策として賢明な策である。わが平城京の創業に、飛鳥地方に於ける漢人や豪族の諸寺、いはゆる「飛鳥大寺」の新都地域への移轉建築が、如何に有効な政策

であつたかを想ひ合はすべきである。孝文帝は永寧寺の地を豫定したのみならず、大同に於いて文明皇太后の爲に建設した報德寺と同名の寺を、同じ目的の爲に洛陽開陽門外の地に建て、¹⁵⁾ 文明皇太后の兄、太師馮熙の皇舅寺も、舊都の代表的寺院であつたが、洛陽でも北邙山上に同じく馮熙によつて馮王寺が建てられ、孝文帝は屢々こゝに幸したといふ。これも舊都に於いて外戚として最も勢力あり、而も熱心な奉佛一家であつた馮氏とその關係者とを、新都に引きつける上に、有効な意義をもつてゐたであらう。

こゝで私は、當面の龍門佛龕の造立が、遷都と相前後して起つてゐることにふりかへつて見たい。孝文帝は佛教を尊崇したが、洛陽城内には永寧寺と一尼寺以外の佛寺建立を許さなかつたし、この二寺もすぐには建てられなかつた。而も興佛の奔流阻止す可らず、舊都同様に佛塔の莊嚴を要求すること切なりとせば、佛寺は城外に、更に近郊の清淨境を求めて建設せられて行かざるを得ぬであらう。既に舊都に於いても、北方には方山の靈域¹⁶⁾をもち、西方には雲岡の聖地をもつてゐた。これに類した洛陽に近き清淨の聖域が、當然求められる。嵩山の如きその一例であつて、早くも孝文帝時代に佛寺も營まれた。¹⁷⁾

しかし何といつても、舊都雲岡に於ける莊嚴雄大にして而も廣く庶民にまで開放せられてゐる大石窟ほどに、舊都からの佛教徒の戀着をもたしめるものは少いであらう。この際、洛陽郊外に伊闕龍門の如き雲岡に類似した石窟造像に適した清淨境ありとすれば、こゝに雲岡に成就してゐたやうな佛龕靈場をもたんとするの望が起るのには、當然であるといつてよい。洛陽の宮城が漸く成り、新都の生活が漸く落ちつくともなく、續々と現に古陽洞壁に見るやうな諸佛龕が造られて行つた。遷都早々の太和末年から景明初年にかけて、長樂王丘穆陵亮夫人、

北海王詳母子、始平公洛州刺史の子、廣川王祖母など、北魏の貴顯階級が、龍門に就いて續々造像をはじめてゐるのを、興味深く見ることが出来る。¹⁵⁾ 造像中の彼等の心情裏に、雲岡の壯大靈妙を極めた佛境が追想せられてゐたことであらう。雲岡大石窟への愛着心と、「こゝにも彼のやうなものを」と要望する心との、交錯を考へることが出来る。そして世宗が即位し景明元年^{西曆五〇〇}に

準代京靈巖寺。於洛南伊闕山。爲高祖文昭皇太后。營石窟二所。

といふ勅が出て、雲岡石窟になぞらへた龍門造窟の國家事業が開始せられた。その計畫は、

初建之始、窟頂去地三百一十尺。

(13) 『魏書』高祖紀。

(14) 法興寺、元興寺、大安寺、藥師寺、興福寺等の如し。

(15) 『魏書』卷七上高祖紀、太和四年正月の條に

丁巳、罷齋鷹鷲之所、以其地、爲報德佛寺。

とは、大同に建てられた報德寺であり、『洛陽伽藍記』卷三に

報德寺、高祖孝文帝所立也、爲馮太后追福、在開陽門外三里。

とは、新都の報德寺である。

(16) 方山は『魏書』卷十三、文成文明皇后馮氏の傳に、

太后與高祖、遊于方山、顧瞻川阜、有終焉之志。(中略)高祖乃詔有司、營

建壽陵於方山。又起永固石室、將終爲清廟焉。太和五年起作、八年而成。

刊石立碑、頌太后功德。(中略)

初高祖孝於太后、乃於永固陵東北里餘、豫營壽宮、有終焉瞻望之志。及遷

洛陽、乃自表瀝西以爲山園之所、而方山虛宮、至今猶存。號曰萬年堂云

とある如く、その山水が文明太皇太后に愛好せられて壽陵が營まれ、離宮が

造られ、屢々行幸が行はれ、太后が太和十四年崩ぜられるや、こゝに葬られ

た所である。附近には、孝心深かつた高祖の壽宮まで營れてゐた。また太后

が熱心な奉佛者であつた關係から、思遠寺なる佛寺も造られてゐた。『魏書』

卷七上、帝紀太和三年八月の條に、

乙亥、幸方山、起思遠佛寺。丁丑、還宮

とあるのがこれである。太后高祖の二陵の結構の美や、思遠寺については、

『水經註』卷十三に記事がある。この地の考古學的調査も、近い内にとげられ

るであらう。

(17) 『續高僧傳』卷十六、佛陀禪師傳に、

本天竺人、學務靜攝、志在觀方、……遂至魏北臺之恒安焉。時值孝文敬隆

洛陽遷都と龍門造像

といふ大きなものであつた。これは遂に中途に放棄せざるを得なかつた程の難工事であつたが、而もかゝる大計畫を立て、「代京の靈巖寺石窟に準じて」といつてゐる所に、新都に移つた北人の雲岡愛着心を想ふべく、この龍門の大窟計畫が、北族を洛都に安着せしむる上にもつ重要な意義も、想像し得よう。靈巖寺の名稱までが、龍門に移されてゐるのも、よく味はふべきである。

かくの如くにして私は、「遷都」といふ大事業を、大團圓にまではこぶ一場面として龍門を眺め、その遷都早々の佛龕開鑿の音響に、舊都に於ける雲岡や方山の佛教聖地から遠離せしめられた北族の不滿を緩和し、北への愛着心をうすめて行く重要なものを、きゝとることが出

誠至、別設禪林、鑿石爲龕、結徒定念、國家資供、倍加餘部、而徵應潛著

皆異之、非常人也。恒安城內康家、資財百萬、崇重佛法、爲佛陀造別院。

とあるよふな、大同に於ける佛陀禪師を中心にした禪林は、遷都と共に洛陽

にうつり、更に嵩山に禪室が營まれた。かくてこの山が支那禪宗の淵源とな

る基が、早くも開かれたのである。同傳に曰く、

後隨帝南遷、定都伊洛、復設靜院、勅以處之、而性愛幽栖、林谷是託。屢

往嵩岳、高謝人世、有勅、就少室山、爲之造寺、今之少林是也。帝用居處

四海息心之儔、聞風響會者、衆恒數百……

と、『釋老志』に、

有西域沙門、名跋陀、有道業、深爲高祖所敬信。詔於少室山陰、立少林寺、

而居之。公給衣供。

とある跋陀も、唐の裴灌撰、皇唐嵩嶽少林寺碑に

高僧跋陀、明三藏心禪、諸門弟子惠光、道房、稠禪師等、精勤梵行、克傳

勝業。

といふ跋陀も同一人で、『續高僧傳』卷十六僧稠傳には、

詣少林寺祖師三藏、呈己所證。跋陀曰、自葛嶺已東、禪學之最、汝其人矣。

といふ。跋陀が少林寺の祖であるに對し、既に嵩山嵩陽寺は、遷都以前の太

和八年四八四に生禪師によつて開基せられてゐた(東魏天平二年、中岳嵩陽寺

碑、『八瓊室金石補正』卷十七參照)。

また宗室の元太興恭宗の孫は、孝文帝に請うて出家し、僧懿と改名して嵩山

に入り太和二十二年卒してゐる。『魏書』卷十九上、嵩山が遷都と共に、帝都

に近い重要な佛教靈場になりつゝあつたことが察せられる。

本稿第五章第一節「古陽洞と法華經」、及び第六章第一節「貴族の造像記」の

項參照。

來ると思ふのである。

第二節 世宗宣武帝時代

高祖孝文帝は、太和二十三年西曆四九九三十三歳を以て崩じ、世宗宣武帝が、十七歳を以て即位し、翌年、景明と改元せられた。

前述の如く龍門に於いて、景明の始めに、朝廷によつて孝文帝並びにその皇后高氏(世宗の母)の爲に、二大石窟の開鑿事業が始められ、またこれに先つて、古陽洞で王公官吏の造像が續々行はれつゝあつたとすれば、景明以來に龍門造像事業が上下の階級によつて頓に盛となるべきことは自然である。實際龍門では、景明頃から頓に盛に造像が行はれてゐるのである。そしてそれは、景明の頃から以後の、洛陽佛教の急速な興隆とも並行するものである。

宣武帝は孝文帝以上に佛教に近づき、親ら宮廷で諸僧朝臣の爲に『維摩經』を講じた程である。¹⁾『魏書』には、帝の佛教的教養、或はその奉佛生活に就いて、

雅愛經史、尤長釋氏之義。每至講論、連夜忘疲。(魏書世宗紀)
といひ、また、

世宗篤好佛理。每年常於禁中。親講經論。廣集名僧。標明義旨。沙門條錄、爲內起居焉。上既崇之。下彌企尙。(魏書釋老志)
とある。

魏の時代には、儒生にして顯達の地位を得るものは少かつた。世宗宣武帝時代の孫惠蔚は、魏初以來の儒生の中で出世頭だといはれる。彼は、正始中五〇四—五〇八侍講として宣武帝の近側にあり、夜は佛經を論じて頗る帝意にかなひ、帝から「惠蔚法師」の號を加へられたといふ。²⁾

儒學を以て任官せるものまでが、佛經を論じて帝を喜ばせる所に、宣武宮廷の佛教化の著しかつたことがうかゞはれる。

孝文帝の洛陽遷都は、帝の儒教的政治文化に對する深い憧憬と尊敬との中に實施せられたのであつて、帝も佛教を崇んだとはいへ、儒教と並び崇め、或は儒主佛從ともいへる程度であつた。今、宣武帝に至つては、寧ろ佛主儒從と地位を轉倒するに至つたのであつて、中書侍郎裴延雋は、帝が心を佛典に専らにして、儒典を事とせざるを不可とし、孔釋兩教を兼ね學ばれんことを、上疏して諫めた程であつたのである。³⁾

尙、帝が最も好んで講じた佛典が『維摩經』であつたことは、龍門石窟の研究者にとつては特に注意しておかねばならぬ。何となれば帝によつて經始せられた窟と認められる「賓陽洞」の壁面には、佛の一代の説教中の代表的なものとして『維摩經』を選び、經中の維摩居士と文殊菩薩との法論の場面が彫刻せられてゐるし、この後の北魏諸窟内の諸佛龕でも、龕の上部に殆んど一樣に、維摩居士と文殊菩薩との對論を彫刻し、一見その本尊を以つて、『維摩經』を説いた佛として表現してゐるが如き有様であつて、龍門石窟に現はされてゐる北魏佛教は、『維摩經』を離れては理解し得ない、といつてもよいやうになつてゐるからである。

さて宣武帝の年號は、先づ景明五〇〇—五〇三次で正始五〇四—五〇八永平五〇八—五一三と改元せられて行く。洛陽には、景明寺、正始寺が建立せられた。景明寺は景明中に世宗が建立する所であり、四月の釋迦誕生祝慶には千餘軀の行像の集つた名利である。⁴⁾正始寺は正始中に、侍中崔光の四十萬錢、陳留侯李崇の二十萬錢等を筆頭に、百官が相出資して建立したものである。⁵⁾景明・正始と、帝の初めの年號を冠して、皇

帝や百官によつて建寺が行はれてゐる所にも、この帝の治世下に於ける佛教興隆の進展を、豫期することができよう。

帝は景明寺の外にも洛陽に、瑤光尼寺や永明寺を建てゝゐる。五十丈の五層の塔をもつた瑤光尼寺は、内城に建てられたものであつて、前述した遷都當初の、内城に一永寧寺、外城に一尼寺のみとする制度は、早くも此に破られてゐるのである。瑤光尼寺は孝文廢皇后馮氏や宣武皇后高氏が尼となつて住んだのを始め、宮廷名門の女の出家道場であつた。『洛陽伽藍記』卷二に、

椒房嬪御學道之所、掖庭美人竝在其中。亦有名族處女、性愛道場、落髮辭親、來依此寺。屏珍麗之飾、服修道之衣、投心八正、歸誠一乘。

とあるやうに、貴顯の美尼を中心に、洛陽に尼僧女性の佛教が榮える時代が來たのである。宣武帝以後の龍門の北魏造像に、尼僧・優婆夷

(清信女)の造像が頗る多いこと、照し考へて、甚だ興味深いものがある。(第六章第二節参照)

宣武帝治世に於ける佛教の飛躍的發達は、西域交通の繁昌と、これに伴ふ西方からの佛徒の渡來傳道翻經からも刺戟をうけた。宣武帝が建てた永明寺は、かゝる西方渡來の僧を居らしめたもので、百國沙門三千餘人とある。⁶⁾ 渡來外國僧にして翻譯事業に活動したものである。永平初年に洛陽に來た中印度の勒那摩提(Rahana; 寶意)や、北印度僧、菩提流支(Bodhiruci; 道希)の如きは、最も有名である。中でも菩提流支は、宣武・孝明の兩朝の厚い優遇の下で、有名な永寧寺に住し、約四十部一百數十卷に達する盛な佛典翻譯事業をなした。傳へた所は、大乘の經論教學であつて、北魏末以來の支那教界に深い影響を與へ、支那佛教を指導する重要な教學の一流をなしたものである。⁷⁾

宣武帝の崇佛が既にかくの如くであるとすれば、その宗室や外戚等

(1) 『魏書』世宗紀に

(永平二年十一月) 帝於式乾殿、爲諸僧朝臣、講維摩詰經、

(2) 『魏書』卷八十四、孫惠蔚傳、『北史』卷八十一參照。

(3) 『魏書』卷六十九、裴延儻傳。

(4) 『洛陽伽藍記』卷三

景明寺、宣武皇帝所立也。景明中立、因以爲名、在宣陽門外一里御道東、其寺東西南北方五百步、前望嵩山少室、却負帝城。(中略)至正光年中、太后始造七層浮圖一所(中略)。時世好崇禱、四月七日、京師諸象、皆來此寺、尙書祠部曹錄象、凡有一千餘軀。自八日、以次入宣陽門、向閭闔宮前、受皇帝散花……梵樂法音、聒動天地、百戲騰驪、所在駢比、名僧德衆、負錫爲群、信徒法侶、持花成戴、車騎填咽、繁衍相傾、時有西域胡沙門、見此唱言佛國

この四月八日の盛儀、外國沙門をして「佛國」と歎せしめた一記事を以つても、洛陽佛教の全盛は十分にうかがひ得よう。

(5) 『洛陽伽藍記』卷二

正始寺、百官等所立也。正始中立、因以爲名、在東陽門外御道南。(中略)有石碑一枚、背上有侍中崔光施錢四十萬、陳留侯李嵩施錢二十萬、自餘百官各有差、少者不減五千已下、後人刊之。

(6) 『洛陽伽藍記』卷四

世宗宣武帝時代

(7) 初唐の道宣の『續高僧傳』卷一の菩提流支傳には、

永明寺、宣武皇帝所立也。在(城西)大覺寺東、時佛法經像、盛於洛陽、異國沙門咸來輻輳、負錫持經、適茲樂土、宣武故立此寺、俾以憩之(中略)百國沙門三千餘人、西域遠者、乃至大秦國、盡天地之西垂……
宣武皇帝、下勅引勞、供擬股華、處之永寧大寺、四事將給七百梵僧、勅以流支、爲譯經之元匠也。(中略)流支奉勅創翻十地、宣武皇帝、命章一日親對筆受、然後方付沙門僧辯等、訖盡論文、佛法隆盛、英俊蔚然、相從傳授、孜孜如也、帝又勅清信士李廓、撰衆經錄。
といひ、隋の『歷代三寶記』には北魏の李廓の『衆經錄』を引いて、
三藏法師房內、婆羅門經論本、可有萬甲、所翻經論筆受草本、滿一間屋、とある。その譯出佛典中、支那佛教に重大な影響を與へた主要なるものは、左の如きものである。

- | | |
|-------------------|------|
| 金剛般若經 一卷 | 永平二年 |
| 入楞伽經 十卷 | 延昌二年 |
| 深密解脫經 五卷 | |
| 勝思惟梵天所問經 六卷 | 神龜元年 |
| 無量壽優婆塞經論 一卷 | 普泰元年 |
| 十地經論 十二卷(勒那摩提と共譯) | |

の貴顯の間に奉佛者が多く出づることは當然である。試みに北魏宗室のみについて、文獻に傳はるものをひろつて見ても、既に孝文帝の時には、京兆王子推の子太興が、王爵をすて、出家して僧懿と改名し、嵩山に入つてゐる。宣武帝の時には、城陽王長壽の次子鸞が、自ら五戒を嚴持する程の奉佛の人であつた。造寺等の所謂功德の事業に熱心のあまり、百姓を勸説して共に造寺等の事業に奔走せしめて民の不平をかつたので、崇佛の帝もこれに訓誡の詔を與へた例もある。北海王詳母子の奉佛は、龍門石刻中に見えてゐるし、詳が洛陽に追聖寺を建てたことは、『洛陽伽藍記』に見えてゐる。龍門石窟に、北海王家を始めとし、北魏宗室關係者の造像が少くない。その實例は、後に一括して述べる(第六章第一節)。

『釋老志』にも云ふ様に、上の崇ぶ所は下も亦これにならふ。孝文帝の太和四七七―四九九初年頃に、四方諸寺六千四百七十八とあるものが、宣武帝の延昌中五二一―五二二には、

天下州郡僧尼寺。積有一萬三千七(冊府元龜は七を四に作る)百二十七所。

と記される程の、佛教勢力の躍進時代であつたのである。

さて右の如き朝廷を中心にした洛陽佛教の鬱然たる興隆の間に、龍門に於いては、着々工事を進めてゐた帝室の大石窟事業に一つの異變が生じた。最初の造窟場所を工事半ばに放棄して、設計變へをやらざるを得なくなつたのである。

宣武帝がその父母である孝文帝と文昭皇太后との爲に計畫した二大窟は、一面舊都に於ける雲岡の石窟に範をとり、彼に比して遜色なからしめんと意圖してゐたものであらうから、窟頂地を去ること三百一十尺ならしめんといふ遠大な設計の下に着工せられた。雲岡に造られた五帝の爲の窟には、大は七十尺、次は六十尺といふ巨像をたてたの

であるから、かゝる大きな石窟設計が立てられたのも當然であらう。¹¹⁾しかし山巖が伊水に向つて斷崖をなして兩岸からせまつてゐる龍門の地峽と、並びに堅緻な山巖の石質とは、到底雲岡に於けるが如く容易に工事を進め得るものではなかつた。それでも斬山事業は、景明元年から正始二年西紀五〇五―五〇六まで五年間に、二十三丈に及んだ。しかしこれから更に百尺近い斬山工事をやり、高さ三百十尺以上の斷面を得て、然る後に造窟造像の鑿建に進んで二大窟を成就せしめることは、その仕事の困難、費用の莫大、はかるべからざるものであることが明かになつてきた。魏は正始元年以來、南伐の大軍を動かしてゐる最中で、多大の軍費支出の不可避の時であつた。また帝紀には、正始元年十二月に伊闕に行幸の記事があるから、帝も工事の状況とその將來の困難を認めてをられたものであらう。かくて大長秋卿王質の建言が用ひられて、約豫定の三分の一まで斬り開いた山巖(恐らく今の唐奉先寺廬舍那大像のある所)をすて、もう少し低い場所へ移り、規模も小さくして地を去る一百尺、南北一百四十尺と變更せられた。ことは『魏書釋老志』に見え、この一文が龍門の北魏石窟建造に就いては、石刻文以外に存する唯一の信賴すべき文獻であり、従つて龍門の北魏窟を論ずる根據となるものであるから、左に引用しておく。

景明初、世宗詔大長秋卿白整12)。準代京靈巖寺石窟。於洛南伊闕

山。爲高祖文昭皇太后。營石窟二所。初建之始。窟頂去地三百一

十尺。至正始二年中。始出斬山二十三丈。至大長秋卿王質13)。斬

山太高。費功難就。奏求下移就平。去地一百尺。南北一百四十尺。

次で永平年間五〇八―五二一に至り、宦官劉騰の奏によつて、世宗の爲の一窟、即ち今上皇帝の爲の一窟が追加せられて、三窟の建造が進められ、少くとも次の孝明帝の正光四年西曆五三三六月まで工事が繼續せられてゐ

る。『釋老志』には前文に續いて、

永平中、中尹劉騰奏、爲世宗復造石窟二、凡爲三所。從景明元年、至正光四年六月己前、用功八十萬二千三百六十六とある。

世宗の爲の窟を造ることを奏請した劉騰は、高祖、世宗、肅宗の三代に事へた宦官であつて、その傳によれば「手不_レ解_レ書、裁知_レ署名而已。」といふ程度の教養しかなかつた人ではあるが、「姦謀有_レ餘、善射_レ人意。」といふやうに、よく人心をつかむ才能をもつてゐて、次第に勢力を得、殊に次の肅宗時代には、靈太后の意を迎へてその寵遇をほしきまゝにし、やがて元義と共に、靈太后を廢して專横を極め、正光四年三月に薨じてゐる。世宗の爲の龍門石窟の外にも、洛陽に於ける「太上公・太上君の二寺、及び城東三寺は、皆彼の修營する所なり。」といふから、¹⁴⁾世宗や靈太后等の崇佛に呼應して、佛教にはゆる興福の事業の爲には頗る活躍したものと思はれる。されば宮廷において劉

騰の勢力があつた間は、上述の如く、龍門に於ける帝室の三窟の建造時代であると共に、洛陽を中心にした佛教の全盛時代であつたことが想像せられるのである。

さて宣武帝の中葉から、新設計によつて始められた、帝の亡き兩親たる孝文帝と昭文皇太后の爲の二窟と、次で追加せられた現在の宣武帝の爲の一窟との三窟を、今の何れの窟にあてるべきかは、にはかに決定は出来ないけれども、少くとも本尊以下の主要尊像が疑ひない北魏様式を具備し、而も窟壁の壯麗な彫刻までが一つのプランのもとに出來上つて居り、また壁面に他の窟に見るが如く夥しい個人の造像が混雜して造られてゐない賓陽洞(第三窟)を、その一つにあてるべきであらう。私共は恐らく賓陽洞とその左右洞をもつて、世宗時代に朝廷によつて計劃せられた三窟にあて、よいものと考へてゐる。¹⁵⁾そして中央の賓陽洞は正光年間までに完成せられたけれども、他の二窟は正光年間までに大體は出來ても、賓陽洞ほど精美な壁面彫刻までは成就

(8)『魏書』卷一九、『北史』卷一七、前者の京兆王傳に附した太興の傳に曰く、

遂請爲沙門、表十餘、上乃見許、時高祖南討在軍、詔皇太子、於四月八日、爲之下髮、施帛二千匹、既爲沙門、更名僧曇、居嵩山、太和二十二年終。

(9)その傳は、『魏書』卷十九下、『北史』卷十八に見える。前者にいふ、

覺愛樂佛道、脩持五戒、不飲酒食肉、積歲長齋、繕起佛寺、勸率百姓、共爲土木之勞、公私費屢、頗爲民患。

覺は、正始二年五〇五三十八歳で薨じてゐる。されば、その盛な造寺は、世宗の初世のことである。

(10)文昭皇太后は勃海の高肇の女、世宗を生んで後、間もなく不遇な暴薨をとげ、その陵墓も卑小であつた。世宗の母を追慕するの情は極めて深く、即位するや、文昭皇后と追尊し、更に新に山陵(終寧陵)を起し、邑戸五百家をおいてゐる。この不幸な母后への追慕の情が、龍門の二窟造營計畫中にこめられてゐることはいふまでもない。

『魏書』卷十三、孝文昭皇后傳參照。

(11)『釋老志』雲岡石窟を解説せるものに、關野、常盤兩博士の名著があり、また近くは、水野清一氏の「雲岡石窟とその時代」がある。五帝の爲の五大窟のあて方には異存はないが、五帝に就ては、私は關野、常盤説に賛成し難い。

拙稿「常盤、關野兩博士の支那文化史蹟第一輯を閲覽して」(佛教研究三ノ四)參照。

(12)『魏書』卷九十四關官傳に曰く、

白整者、亦因事腐刑、少掌宮掖碎職、以恭敏著稱、稍遷至中常侍、太和末爲長秋卿、賜爵雲陽男、世宗封其妻王氏、爲雲陽縣君、卒贈平北將軍并州刺史。

白整は後宮の微官から昇つて、世宗の即位前後に宮廷の親任頗る厚きを得た宦官である。世宗の亡き母后への愛慕の情を、よくとらへた計畫を建てたものといふべきであらう。

(13)『魏書』卷九十四關官傳に出づる彼の傳によれば、其家が事に坐した爲に、幼にして腐刑をうけたといへ、頗る書學を解し、嚴峻な人であつた。或は選部監御二曹の事を領し、或は出でて、瀛州刺史ともなつた。高祖に頗る親任せられ御璽をゆだねられた程である。

入爲大長秋卿、未幾而卒。

とあれば、この奏請がいれられてから、幾程もなく卒したものであらう。

(14)『魏書』卷九十四、劉騰傳參照。

(15)水野、長廣一一頁一八頁、本稿第五章第二、第三節參照。

せずに一段落をつけることになり、後世この左右兩窟に改修が加へられて、現在の如きものとなつてゐるのではないかと思ふのである。何れにしても、賓陽洞に現はされてゐる佛教は、永平時代を中心とする宣武帝治世の後半頃、即ち西紀第六世紀初期の洛陽上層社會に行はれてゐた佛教を研究する上に、最もよき資料にとりあげ得るものである。

龍門の現在諸窟の最も北部にある賓陽洞に、朝廷の事業としての善美を極めた造窟彫刻事業が進行してゐる間は、勿論、洛陽方面の佛教徒、殊に宗室や官僚關係の佛教徒が盛に龍門に造像を行つてゐる。そしてこの個人的造像は、殆んど皆、現在龍門石窟中の最も南に位する古陽洞(老君洞、第二十一窟)に行はれたものである。これは古陽洞内の諸佛龕に存する造像記の明示する所であつて、古陽洞諸佛龕とその造像記とは、また以つて、銘記のない賓陽洞の彫刻と共に、同じ宣武帝治世の洛陽方面の佛教信仰を研究する上に、貴重な資料である。兩窟については次章に別に論ずる。

第三節 肅宗孝明帝時代(靈太后時代)

以上の如き宣武帝治下の急速な佛教興隆の勢は、次の肅宗孝明帝の朝廷にひきつがれたのみならず、この一代の實權を握つた帝母、靈太后胡氏と、その一族との奉佛を中心にして、一層の拍車がかけられて、北魏國土には佛教空前の盛時が來り、帝都洛陽は寺塔櫛比する佛教都市となつた。そして龍門も北魏造像の全盛期を迎へる。

靈太后の父胡國珍も、熱心な奉佛家であつたし、をばには、宣武帝の宮廷に出入して佛教を講ずる尼があり、聰明な彼女は、この尼に就いて佛教の大義に通ずるに至つてゐたといふ。そして尼は、宮廷に佛

教を講ずると共に、若く美しかつた靈太后を、宣武帝の近側に入らしめることに成功した。北魏では從來、太子の母を殺す制があつたので、後宮の女達は何れも、太子を産むことを嫌つてゐたが、獨り靈太后は、「太子の母ならば死するも辭せず」と決意してゐた。そしてよく太子、即ち孝明帝の母となつた。¹⁾

延昌四年^{西一五〇}正月、宣武帝は三十三歳にして暴崩し、やつと六歳の肅宗孝明帝の即位となり、次で宣武帝の皇后高氏^{孝文昭皇后の弟高儼の女}は尼となつて遙光寺に入り、²⁾靈太后胡氏は、帝母として朝廷の實權をにぎつて親ら政務をみ、父の胡國珍は、侍中安定郡公として禁中に出入し、國務に參與し、その子女兄弟姉妹等は、夫々富貴を極めた。この洛陽の富貴を占有した外戚胡氏一門に熱心な奉佛者が多かつたことは、前述した所でも知られるが、胡國珍は、特に熱心な佛教信者であつた。その晩年に、巫覡が凶事を禳ふ爲に厭勝の法をすゝめたのに對して「吉凶は定分あり、たゞ徳を修めてこれを禳ふ」といつて斥けたといひ、神龜元年^{西一八〇}當時の洛陽に於ける最も盛大な年中行事の一となつてゐた四月七日八日の釋迦降誕を祝慶する「行像」に、八十の老軀をおして歩行隨從し、禮拜をとげて壽を終つた。³⁾靈太后が令して、七七日を終るまで七日毎に千僧齋を設け七人を出家せしめ、百箇日には萬人齋を設け十四人を出家せしめたのを始めとし、この最も權勢ありし篤信の胡國珍の爲に、幾多の佛教的追善事業が行はれたのであつた。

洛陽の秦太公西寺は靈太后が、同じく東寺は皇姨が、それぞれ胡國珍の爲に建てたものである。秦太上君寺は、靈太后が母の追善の爲に建てたもの、胡統尼寺は靈太后の從姑の建立であつた。秦太上君寺の五層塔の美は永寧寺に類し、誦室禪堂等の諸堂設備のとつた此寺では、常に一切經を講ずる名僧大徳が千數の沙門に授業してゐた。胡

統尼寺も五重塔以下の堂宇華麗にして、建立者たる靈太后の從姑が尼となつて住み、また洛陽に於ける學徳すぐれし諸尼の住所となり、彼等は常に宮廷に出入して靈太后と法談をしてゐたといふ。

靈太后に親任せられ、外戚につぐ厚遇をうけた闡官の劉騰は、よく人意に投ずるの妙術を得てゐたといふが、太后等の崇佛の中にあつて前述の太上公、太上君、及び城東の三寺の建營を主さどり、彼自らも長秋寺を立てゝゐる。

靈太后の臨朝時代は、宦官の盛時であつて、巨萬の富を積むもの多く、彼等も亦、洛陽伽藍佛教の檀越であつた。昭儀尼寺、魏昌尼寺、

(1) 『魏書』卷十三、宣武靈皇后胡氏傳

(2) 『魏書』肅宗紀に曰く、

延昌四年三月甲辰朔、皇太后出俗爲尼、徙御金墉。

同書、卷十三、宣武皇后高氏傳に

及肅宗即位、上尊號曰皇太后、尋爲尼、居瑤光寺(中略)神龜元年(五一八)……

……天文有變、靈太后欲以爲常禍、是夜暴崩、天下寃之、喪還瑤光佛寺、殯葬皆以尼禮。

(3) 『魏書』卷八十三、胡國珍傳に、

國珍、年雖篤老、而雅敬佛法、時事齋潔、自疆禮拜(中略)神龜元年四月七日、步從所建佛像、發第至闔闔門、四五里、八日又立觀像、晚乃肯坐、勞

熱增甚、因遂寢疾、靈太后親侍藥膳、十二日薨、年八十。

當時洛陽に於いては、毎年四月七日に、千餘軀の行像が、宣武帝建立の宣陽門外の景明寺に集まり、八日には順次を立てて、宣陽門から城内に入り闔闔宮前に至り、皇帝から散花をうけた。その盛況は『洛陽伽藍記』卷三、景明寺

の條及び同卷一、長秋寺の條、同、昭儀尼寺の條等に見ゆ。前節の註4參照

(4) 秦太上公寺のことは『洛陽伽藍記』卷三、秦太上君寺のことは、同書卷二、胡

統寺のことは、同書卷一に見ゆ。

(5) 『魏書』九十四、劉騰傳

是年靈太后臨朝……除崇訓太僕、加侍中、改封長樂縣開國公食邑一千五百

戶、拜其妻魏氏、爲鉅鹿郡君、每引入內、受賞資於諸主外戚……騰幼

充宮役、手不解書、裁知署名而已、姦謀有餘、善射人意、靈太后臨朝、特

蒙進寵、多所干託、內外碎密、栖栖不倦、洛北永橋太上公太上君、及城東

三寺、皆主脩營

また『洛陽伽藍記』卷一に、

長秋寺、劉騰所立也、騰爲長秋令卿、因以爲名、在西陽門內御道北一里。

(6) 『洛陽伽藍記』卷一に、

肅宗孝明帝時代

景興尼寺などは、皆宦官の所立であるが、何れも尼寺であるのは注目すべきである。靈太后宦官盛時の洛陽は、また尼寺尼僧の佛教の盛時であつたのである。

洛陽に於ける靈太后の佛教事業の中でも、特に有名なものは、永寧寺九層塔である。豪華を極めた帝都第一の高層建築であり、外國僧侶をして感歎の聲を發せしめたことが、當時の文獻によく傳へられてゐる。これこそ肅宗時代の帝都佛教の性格を代表するものといつてよい。

思ふにかゝる朝廷貴顯を中心にして興隆した豪華な伽藍佛教は、當時の國庫の充實、西域との通商の殷盛とこれに伴ふ佛徒の往來の増加、

昭儀尼寺、闡官等所立也。在東陽門內道北一里御道南(中略)

太后臨朝、闡寺專寵、宦者之家、積金滿堂、是以蕭祈云、高軒升斗者、闡

官之嬖嬖、胡馬鳴珂者、莫非黃門之養息也。(中略)

寺有一佛二菩薩、塑工精絕、京師所無也。四月七日、常出詣景明、景明三

像、恒出迎之、伎樂之盛、與劉騰長秋寺相比。

魏昌寺は闡官瀛州刺史李次壽の所立、景興尼寺は闡官の共立する所である。

後者にはすばらしい金像輦があつて、その行像の日には、詔して羽林一百人

がこれを擧げ、絲竹雜伎など皆宮廷から施給せられたといふ。共に『洛陽伽藍

記』卷二に出づ。

また同書卷四に、

王典御寺、闡官王桃湯(魏書闡官傳に王溫、(字は桃湯)所立也。時闡官伽藍

皆爲尼寺。惟桃湯獨造僧寺、世人稱□英雄

(7) 『洛陽伽藍記』卷一

永寧寺、熙平元年、靈太后胡氏所立也。在宮前闔闔門南一里御道西。(中略)

中有九層浮圖一所、架木爲之、舉高九十丈、有利復高十丈、合去地一千尺、

去京師百里、已遙見之。(中略)

刹上有寶瓶、容二十五石、寶瓶下有承露金盤十重、周匝皆垂金鐸、復有鐵

鎖四道、引刹向浮圖四角、鎖上亦有金鐸、鐸大小如一石、浮圖有九級、

角角皆懸金鐸、合上下有一百二十鐸、浮圖有四面、面有三戶六窗、戶皆朱

漆、扉上有五行金釘、合五千四百枚、復有金環鋪首、彈土木之功、窮造形

之巧、佛事精妙不可思議、繡柱金鋪、駭人心目、至於高風、永夜寶鐸和鳴、

鏗鏘之音、聞及十餘里、

浮圖北、有佛殿一所、形如太極殿、中有丈八金像一軀、人中長金像十軀、

繡珠像三軀、織成五軀、作功奇巧、冠於賞世、僧房樓觀一千餘間……常景

碑云、須彌寶殿、兜率淨宮、莫尚於斯也。外國所獻金像、皆在其寺

その他『水經注』卷十六、『魏書釋老志』及び『魏書』の靈太后傳等參照

商工階級の富殷、これ等による洛陽奢侈生活の甚しい發達などが、互ひに因縁をなすものである。

孝明帝の年號は、熙平^{五二六}—神龜^{五二九}—正光^{五三〇}—孝昌^{五三二}—と順次改元せられた。『魏書食貨志』には、神龜・正光の際の朝廷財物の充實を左の如く述べてゐる。

自魏德既廣、西域東夷、貢其珍物、充於王府。又於南垂立互市、以致南貨羽毛齒革之屬。無遠不至。神龜正光之際、府藏盈溢。靈太后曾令公卿已下、任力負物而取之。

靈太后が府藏に盈溢せる財物を、公卿以下に自力でもてるだけ與へたといふことは、『洛陽伽藍記』にも見える。『伽藍記』には、洛陽の商工階級の著しい發達と、その奢侈生活の向上、貴顯社會に於ける豪華の競争ぶりなどが、生々と描出せられてゐる。商工階級もその居室衣食を競ひ、奴婢までが金銀錦繡を身にまとひ、これに對する政府の禁令も行はれない狀況であつた。⁸⁾

此間に於ける王公貴族の豪華も當然である。孝文帝がとつた胡俗の漢化政策、文治主義は、今や素朴なりし胡族、殊にその王公貴族を、極端な都市的奢侈享樂生活へと競奔せしめるに至つたのである。⁹⁾西域からの珍貨が、彼等の奢侈をあほり、佛教諸國との往還は、當然佛教の奔流を愈々洛陽に導入する所以であつた。

當時、印度西域から數千の僧が渡來して洛陽に居住してゐたこと、その中には菩提流支、勒那摩提など、支那佛教傳譯史上でも特筆せられる翻譯事業を、宣武帝後半から孝明帝治世にわたつてなした人々もあつたことは、前節に述べた如くである。

この間、北魏からも朝命を奉じた宋雲・惠生の一行が、神龜元年^{西曆五二八}印度に向ひ、沙門惠生は、正光二年^{西曆五三二}大乘妙典、一百七十餘部をもつ

て洛陽に歸つてきてゐる。¹⁰⁾

北魏帝都たる洛陽が、四方諸國から朝貢し貿易し、移住し、また傳道する、世界的な都市となれば、必然に、諸外國に魏の國威を誇示するに足る文化的諸施設を、そなへて行くものである。洛陽に於ける豪華な建築を始め、著しい生活の向上豪華は、かゝる情勢の中に成長してゐた。その外國渡來者の主要なるものが、佛教國である西域・印度の諸地方からであるから、高層華麗なる洛陽寺院建築は、一面、何よりも魏の國威と文化力とを、諸外國人に誇示し得る所以である。西域沙門をして、永寧寺塔下に立つて、「實にこれ神功」と讚嘆し、「この寺の精麗は、閻浮上になき所」といはしめ、また景明寺に集る行像の盛儀に「佛國なり」と歎ぜしめたるなど、¹¹⁾ 寺塔法儀の莊嚴華麗は、諸外國人の朝貢來住する新帝都を裝飾するのに、必要なまた効果の多いことであつたともいへよう。

こゝで私は、帝都南方の龍門に於ける、造窟造像事業にふりかへつて見たい。前述の如く朝廷の雲岡大石窟に準ぜんとする二大窟の設計は、小規模に改變せられたとはいへ、次で一窟を増し三窟として工事を進めてゐた。熙平二年^{西曆五二七}四月には、靈太后の石窟寺行幸の記事が見える。¹²⁾ 漸次完成に近づきつゝある三窟の現狀が視察せられ、工事促進が注意せられたであらう。また多くの上下僧俗佛教徒の、龍門造像熱をあほることも大であつたらう。

しかし當時は、洛陽に於ける永寧寺等の大伽藍の造營と併行して、石窟造營が行はれてゐるのであるから、佛教的工事への支出は、莫大に上つてゐたに相違ない。李崇は、「永寧寺土木之功。瑤光寺材瓦之力。石窟鑄琢之勞。」などを減じて農閑期の事業とし、先づ學校を修められんことを奏し、靈太后もこれを嘉納せられたといふ。¹³⁾ 李崇の上言が何

年であつたかは明かでないが、神龜二年^{西曆五〇九}に薨じた宗室中の元老ともいふべき任城王澄も、「諸寺靈塔は俱に、虔を致し道を講ずるに足るやうになつてゐるから、速かに明堂辟雍を完成せしむべし。」と、同様な上表をしてゐる。それは當時、靈太后が頻りに土木事業を起し、京師にありては永寧・太上公等の佛寺を起し、外州には各々五級塔を造り、また屢々一切齋會をなして莫大な施物を費やし、百姓は土木の功に疲れ、金銀の價が踊上する状態であつた爲であつたといふ。¹⁴⁾ 靈太后はこの表に従はなかつたとはいへ、朝廷の佛教的事業を削減せよとの警告が有力な聲となつて來てゐることに、全然無關心ではゐられなかつたであらう。續いて正光元年^{西曆五〇〇}には、源子恭も、明堂辟雍の建築の速進をこひ、その中に、「今諸寺大作。稍以粗舉。竝可徹滅。」とし、粗々成就した佛寺事業から費用を減じて、明堂辟雍の方へまはずべきことを述べてゐる。¹⁵⁾ 而して「書奏、從之。」とあるから、正光一・二年の頃からは、佛寺の工事費を多少削減して、明堂辟雍の完成へむけようとする方針が、立てられることゝなつたものゝ如くである。

しかし、この七月には、元義・劉騰の二人によつて、靈太后が幽閉

せられてしまひ、正光と改元せられ、實權が全くこの二人に歸するといふ大變動が起つてゐる。靈太后が主となつて經營中の、出費の莫大な佛教事業は、相當な打撃をうけたことであらうと思ふ。尤も龍門に於ける朝廷の三窟事業は、中止はせられなかつた。二窟を三窟にしたのは、今、靈太后を幽閉して全權をにぎつた、閹官劉騰其人であつたからである。劉騰は正光二年には、司空になつてゐる。國家の工務は、司空の監括下にある。當然に龍門三窟の造營事業の、責任擔當者である。しかし劉騰も、正光四年二月に薨じた。そして『釋老志』には、

從景明元年、至正光四年六月己前用功、八十萬二千三百六十六と、朝廷三窟造營の發議者である劉騰の死後間もない時に、工事費の清算、或ひは造像完了を示すが如き、記事を見るのである、これがはたして、三窟の完成であつたか、或は工事の打切りであつたか、或はこれを一段落として工事費の大削減でも行はれたものかは、にはかに斷定出來ない。

私共は、現在の奉先寺大佛のある所を、景明初年着工の二大窟豫定地と見、賓陽洞とその左右二窟を、設計變更後の三窟に考定する。そ

(8) 『洛陽伽藍記』卷四に曰く、

凡此十里、多諸工商貨殖之民、千金比屋、層樓對出、重門啓扇、閑道交通、迭相臨望、金銀纒繡、奴婢裳衣、五味八珍、僕隸畢口、神龜年中(五十八)以工商上僭、議不聽金銀纒繡、雖立此制、竟不施行。

(9) 『洛陽伽藍記』卷四に、

於是帝族王侯、外戚公主、壇山海之富、居川林之饒、爭修園宅、互相夸競、崇門豐室、洞戶連房、飛館生風、重樓起霧、そして特に河間王琛の豪奢ぶりを詳述してゐるが、その一節にいふ
河間王琛、最爲豪首、常與高陽爭衡、造文柏堂、形如徽音殿、置玉井金鐘、以金五色續爲繩、伎女三百人、盡皆國色……
琛常語人云、晋室石崇、乃是庶姓……況我大魏天王、不爲華侈……琛常會宗室、陳諸寶器、金餅銀鑿百餘口……有水晶鉢、瑤瑤琉璃盤、赤玉卮數十枚、作工奇妙、中土所無、皆從西域而來。

(10) 『洛陽伽藍記』卷五、『魏書釋老志』前者の宋雲等旅行記はChavanneの譯註あり

(11) 同書の永寧寺、景明寺等の條參照

(12) 『魏書』肅宗紀

(13) 『魏書』卷六十六、李崇傳、但し『北史』卷四三、邢邵傳には、楊愔・魏元叉・邢邵の上奏となしてゐる。

(14) 『魏書』卷十九、任城王澄傳に見ゆ。なほ『釋老志』には、神龜元年冬に、佛寺僧徒の濫増を警告し、洛陽城内佛寺の濫立を排除すべき、長文の奏上が出てゐる。明堂辟雍に就いての奏も、この前後のことであらう。

(15) 『魏書』卷四十一、源賀傳の附傳

(16) 『魏書』肅宗紀に、

正光二年二月癸亥、車駕幸國子學、講孝經、三月庚午、帝幸國子學、祠孔子以淵配、とあるが如きに、朝廷の儒教、學校への、反省や盡力がうかゞはれよう。

してその壁面まで精密に彫刻せられてゐる中央の賓陽洞は、少くとも、此頃に完成してゐたものと思はれる。しかし、左右二窟は、中央窟ほどに十分には完了してゐなかつた。主要部は出来てゐても、中央窟に見るが如き、その壁面のすべてを精巧な彫刻を以て莊嚴にする程にまで達してゐなかつた爲に、後世、此の窟に改作が加へられることにもなり、現在の北魏様式をもちながら、隋頃の改作が認められるやうな様式の存するものと、なつたものかと推察されるのである。換言すれば、正光四年六月には、賓陽洞の完備を以つて、朝廷は一應、三窟工事の段落をつけしものなるべく、その後、多少の工事莊嚴が加へられて行つたではあらうが、從來の如く莫大な費用を、繼續的に投ずるものではなかつたのであらうと思ふのである。¹⁷⁾

孝昌元年^{西曆五五〇年}からは、再び靈太后の臨朝攝政となるが、此頃には地方に叛亂多く北魏國勢の漸く傾かんとする兆が、著しくなつて來てゐる。

『肅宗紀』の孝昌二年八月の條に、

戊寅。帝幸南石窟寺。即日還宮。

とあるのは、恐らく伊闕への行幸であらうが、朝廷が關與した石窟工事に就いては、最早何等の文獻も傳はらない。しかしながら、龍門石窟の中には、肅宗治世、即ち靈太后時代の窟と認められる數窟がある。例へば蓮華洞(第十三窟)や、魏字洞(第十七窟)や、また入口に太尉皇甫公石窟碑(袁翻撰、孝昌三年九月十九日)を有する窟の如きが、それである。蓮華洞・魏字洞の壁面には、正光・孝昌の年號をもつ個人造像記が少なからず見られ、それ以前のものが見當らないらしいから、恐らく神龜^{五二八}から正光^{五二〇}初年頃に造窟され、その本尊が出来上つてゐたと考へられ、かく考へてその様式の上からも、矛盾は來さぬと思ふ。

また太尉皇甫公は、孝昌三年^{西曆五五三}司空より司徒になり、次で太尉と

なつた皇甫度のことであり、¹⁸⁾この碑文の撰者袁翻は、神龜末に涼州刺史となり、次で齊州刺史となり、孝昌中には、安南將軍中書令、領給事中黃門侍郎となり、靈太后に信任せられたとある。¹⁹⁾されば肅宗が、孝昌二年八月に龍門に行幸した頃(恐らく靈太后も同行せられしものなるべし)には、朝廷の最高官にある司空皇甫度の石窟が造營せられつゝあつた頃であり、靈太后が再び臨朝せらるゝと共に、朝廷の龍門佛教事業への關心も再び高まり、恐らくまた、少からざる出資布施などが行はれたこと、推察せられるのである。一般僧俗の龍門に於ける造像も、また隨つて盛となつたことであらう。

龍門に於ける個人の造像造龕は、紀年石刻銘記によれば、肅宗一代を通じて頗る盛である。もつとも、前述の正光四年、朝廷の三窟造營の一段落をつげたと考へられる年に、七の造像銘を見るに對し、翌年正光五年には、二になつてゐるが、その翌年からまた多く、殊に靈太后最後の專權期といふべき孝昌二年^{西曆五五三}には、十一を數へてゐる。しかし、その造像者を見るに、宗室以下官吏の造像は、靈太后の幽閉^{正光元年}以前に多い。殊に世宗時代^{五二〇}に盛である。次の肅宗即ち靈太后攝政時代は、龍門石窟への出資も少くなかつたが、それよりも、洛陽都市に於ける堂塔伽藍の濫立時代であつた。都市の木造大建築の莊嚴とそこに於ける華麗な法要とが、山巖の石窟造像よりも、遙かに洛陽貴顯の好尚に應ずるものとなり、隨つて貴顯階級の出資は、龍門よりも主として都市堂塔の佛教へと、そゝがれたと思はれる。

龍門石刻銘記は、肅宗以後にも數は頗る多いが、貴顯階級のもものが漸く減少し、僧尼庶民の造像が多くなつて行つてゐるのである。思ふに、舊都に雲岡の大石窟をのこして南遷した北魏貴族の佛教徒が、彼地と同様な、或はそれにも勝る石窟を新都にももたんとする熱情を、

龍門石窟造營の上に注いで来たのは、大體に於いて世宗を経て肅宗の初世までであつて、洛陽に於ける豪華な邸宅殿堂の奢侈生活が著しく發展すると共に、彼等の崇佛生活も洛陽の堂塔法要へ、石窟石龕から都市の木造伽藍の莊嚴へと、轉移して行つたと解せられるのである。

第四節 洛陽「河陰の慘案」以後

北魏は、正光以後に至つて、内亂外寇相つぎ、中央の威令は漸やく行はれなくなつた。武泰元年^{西曆五二八}二月、肅宗孝明帝が十九才を以て崩ずるや後嗣なく、靈太后は臨洮王世子釗(三歳)を立てたが、太原に據つてゐた爾朱榮はこれを不服とし、長樂王子攸(孝莊帝)を擁立し、兵を率ゐて南下して洛陽に迫り、四月十二日には、邙山の北、河陰の野に陣した。十三日には、王公卿士等を一舉に殺戮すること一千三百餘人、靈太后も幼主も共に、その犠牲となつたのであつた¹⁾。洛陽の貴族が、一朝にして殆んど全滅したのである。洛陽の騷擾は祭するにあま^りある。孝莊帝が即位しても、一時は洛陽の上下を問はず、人心は極

度の不安におびえ、

洛中草々、猶自不安、死生相怨、人懷異慮、貴室豪家、弃宅競竄、貪夫賊士、襁負爭逃。^{洛陽伽藍記卷一}
といふが如き情勢であつた。

翌年には、爾朱榮の入洛をきいて南に奔り、梁の武帝に身をよせてゐた北海王元顥^{龍門造像に關係深き子の孫である}が、梁の援助を得て帝と稱し、北上して洛陽に入つたが、また爾朱兆^{榮の從子}に破られて率ゐて来た江淮の子弟五千人は、盡く俘虜となつたといはれ、顥も敗走の途に殺されてしまつた²⁾。

更に翌永安三年には、孝莊帝は爾朱榮やその子の菩提を宮中に殺したが、やがて爾朱兆の軍が洛陽に入り、皇子並に司徒臨淮王彧や、左僕射范陽王誨等を殺し、孝莊帝を囚人として晉陽に送つた。帝は三級寺に於いて佛に向つて「願くは來生には、國王に生れざらんことを。」と悲痛な禮拜をなして縊死されたのであつた³⁾。

北魏は、その帝都にも平和なく、慘案悲劇の連續であつたのである。靈太后が后禮を以つて葬られ、また孝莊帝の梓宮を京師に迎へて葬つ

(17) 司空劉騰の薨後に司空となつたものは、恐らく皇甫度である。而して、孝昌三年の皇甫度石窟碑をもつ窟が龍門にあること、孝昌二年に、帝の龍門行幸

あることなどは、皇甫度の司空時代にも、龍門の石窟やこれに關係ある佛寺への、國家の援助がつけられたことを、想像せしめる一資料であらう。

(18) 『魏書』肅宗紀、正光三年十一月の條に、「以司空公甫度、爲司徒儀同三司」ととなすとあり、孝昌三年正月の條に「以司空公甫度、爲司徒儀同三司」とある。思ふに司空劉騰は、正光四年三月に薨じてゐるから、皇甫度は恐らく、その後をついで司空に任ぜられたものであらう。

(19) 『魏書』卷六十九、袁紹傳に「建義初(五二八)河陰に害せらる。時に五十三歳なり」とあれば龍門の孝昌三年(五二七)の造石窟記は、彼の最後の記念ともいふべきものである。「石刻錄」目錄一六六。

(1) 『魏書』卷十三、宣武靈皇后傳、『魏書』卷七十九、爾朱榮傳など參照。『洛陽伽藍記』卷一、永寧寺の條には、「王公卿士及諸朝臣死者三千餘人」としてゐる。爾朱榮は引つゞいて孝莊帝の兄弟を始めとして、北魏宗室の大半を殺してし

まつたのであつて、『魏書』孝莊紀に、それ等諸王の名を列し、公卿已下二千餘人を殺すとある。

(2) 『魏書』卷七十五、爾朱兆傳、特に『洛陽伽藍記』卷一、永寧寺の條、及び卷二の平等寺の條に、詳かである。平等寺の條に曰く、

(永安二年)五月北海王入洛。莊帝北巡。七月北海王大敗。所將江淮子弟五千、盡俘虜無一得還。

(3) 『魏書』孝莊紀、永安三年五三〇十二月の條、及び同書、爾朱榮傳、後者に曰く、帝步出雲龍門外、爲兆騎所繫、幽於永寧佛寺、兆撲殺皇子、汙辱妃嬪、縱兵虜掠、停洛旬餘……

また『洛陽伽藍記』卷一、永寧寺の條にも詳述せらる。同書卷一瑤光寺の條に、永安三年、爾朱兆入洛、縱兵大掠、時有秀容胡騎數十人、入寺淫穢、自此後頗獲譏訕、京師語曰、洛陽男兒急作警、瑤光尼奪作婿とあるのは、この時のことである。瑤光寺は、宮廷名族出身の美尼が住してゐた洛陽の代表的貴族尼寺である。

たのは、出帝の永熙元年^{西曆五三二}の冬のことであつた。⁴⁾

この慘案悲劇の間に、洛陽貴族の豪奢生活を中心にした文化は、大打撃をうけたに相違ないが、佛教寺院は、これによつて夥しく増加する奇現象を呈した。『釋老志』に、

河陰之酷。朝士死者。其家多捨居宅。以施僧尼。京邑第舍。略爲寺矣。とある如く、主人を失つた豪奢な邸宅が、多くそのまま、佛寺に改變せられたのである。王族中で、最も豪奢をきはめた河間王琛の宅が河間寺となり、東平王略の宅が追光寺となり、河間王と豪奢を競つた高陽王雍の宅が高陽王寺となつたやうなのは、その例である。⁵⁾かの專權の閹官劉騰の宅も、爾朱世隆によつて、普泰元年^{西曆五三一}に寺になつてしまつた。⁶⁾

此間の龍門石窟は如何。紀年石刻銘記の示す所によれば、さすがに世宗・肅宗時代の如き盛況は見られないが、なほ、民間の造像は、斷絶をみずにつゞいてゐる。のみならず、出帝の時代には、再び龍門に朝廷の出資事業さへ起らんとしたものの、如くである。即ち靈太后や孝莊帝が改めて葬られた翌年正月に、出帝がつゞいて二回も、龍門の石窟靈巖寺へ行幸し布施せられた記事が見えるのである。

(永熙二年正月己亥、車駕幸崑高石窟靈巖寺。庚子、又幸。散施各

有差。^{魏書卷十一}

そして龍門の造像記を調べると、この前後に、蓮華洞には元某等法儀二十餘人の造像が行はれ、火燒洞には、清河王亶の妃胡氏の造像などがある。前者は後に解説するから、こゝでは火燒洞にある北魏宗室の清信女□□王妃胡智が造像して、四海安寧を願つてゐるものに注意しておく。^{録文七八五}その刻文の末に、次のやうな列名が見える。

元善 見 侍 佛
元敬 遜 侍 佛

□ 仲華 侍 佛

元善見は、永熙三年^{西曆五三三}出帝が洛陽から長安に奔つた後に、擁立せられた孝靜帝のことである。孝靜帝は、清河王亶の子であり、母は胡妃なりとあるが、この胡妃が今の造像者の王妃胡智である。清河王亶の父憚は、靈太后を幽閉した元義・劉騰の爲に殺された人で、劉騰が死んで靈太后が再び臨朝した時代に、その王家も再び世に出たものである。そして元善見の即位の年は、十一才であつたから、この造像は、少くとも、永熙三年の前十年以後にある。もし元敬遜・□仲華が元善見の弟であるならば、更に永熙三年に近い頃のものとせらう。⁷⁾

要するにこの造像は、北魏末にも、なほ、北魏宗室關係の造像が龍門に行はれてゐたことを、證するものであつて、出帝の龍門行幸と共に、龍門の石窟佛寺は、北魏の滅亡直前まで、帝室に關係を結んでゐたわけである。

出帝はたゞ龍門に行幸して施與をなしたのみならず、洛陽に於いても、即位するや平等寺に五層塔を立て、永熙二年五月、その土木の工が畢るや、親ら百僚を率ゐて盛な萬僧齋をなしてゐる。⁸⁾靈太后時代の如き朝廷を中心にした帝都佛教が、再び盛ならんとする勢をなしたやうであるが、翌年二月、雷雨晦冥にして霰雪さへ雜りふる中で、靈太后建立の洛陽第一の永寧寺九層塔が火災を起し、三箇月ももえつゞけたのであつた。⁹⁾百姓道俗の悲哀の聲、京色を震動したといふが、これこそ、北魏帝都洛陽に於ける、朝廷貴族の伽藍佛教に對する弔鐘であり、また北魏國家の荼毘式でもあつた。

その年七月には出帝は、高歡の制壓から逃れて西方長安に走り、洛陽では孝靜帝(東魏)が高歡に擁立せられて、次で都を鄴に遷した。此に北魏は、長安の西魏と、鄴の東魏とに分裂し、天下また安寧を失

ひ、殊に洛陽は、東西兩魏軍の爭奪戰場にまでなるに至つた。

東魏の天平四年西魏大統二年十月には、西魏が洛陽を占領した。翌年には東魏が洛陽を攻畧し宮城を毀ちなどしたが、また西魏軍に奪還せられた。武定元年西魏大統九年には、東西兩魏軍が大激戦の後、西魏の敗退となり、爾後洛陽は、東魏の領有となつたのである。この戦亂裏に、洛陽の文物が破壊され、宮殿伽藍が荒廢に歸したことは、いふまでもない。武定四年西曆五四六には、曹魏以來の洛陽の支那傳統文化の象徴であつた三體石經も、鄴に遷されてしまつてゐる。翌武定五年に、洛陽に再遊した楊銜之は、城壁崩れ宮室傾き、寺觀塔廟は或は灰燼となり或は廢墟となり、狐狸が巢くひ童牧が遊ぶ所となりはて、曾て一千餘まで數へた佛寺に、鐘聲さへ今は殆んど聞かれぬといふ荒涼ぶりに、旅愁懷舊の情に堪へず、名著『洛陽伽藍記』の筆をとつたものである。

洛陽の僧尼は、この間に、鄴や長安の兩都や、その他の安全地に避難し去るものが多く、殊に鄴には、洛陽で活動してゐた内外の名匠學僧が多く遷移して、北支那佛教界を指導する教學の中心となつて行つたのであつた。龍門に於いても、もはや世宗・肅宗の盛時の如き造窟造像が行はれなかつたのは、云ふまでもないが、しかし東西兩魏抗爭の間にも、造像者は絶えてゐない。都市伽藍の佛教が廢滅する時には、三寶護持の信仰から、堅固な山巖による造像が誘致せられるし、世相

の無常を眼前にした人々が、造像に自らを慰め、悲運に終つた人々の冥福を祈ることも、人情の自然であらう。

龍門の石刻記銘は、洛陽史の變遷に應じて、東魏の洛陽支配時代には、東魏の年號によつて見え、西魏の支配時代には、西魏の年號によつて記されてゐる。西魏の洛陽支配時代は大統三年西曆五三三末から同九年西曆五四三まで五、六年間である。龍門造像記中で、西魏の年號の最も古いものは大統四年、最も新しいものは大統七年である。古陽洞には、東魏天平二年、三年から四年十月まで（この月、東魏の洛陽刺史廣陽王湛、城を棄て、退く）の年號をもつ造像記が存し、また西魏大統六年東魏興和二年の平東將軍銀青光祿大夫石城縣男池陽縣開國伯立義都督蘇万成夫妻の造像があり、また東魏武定三年西曆五四三比丘曇靜の造像が見えて、この一洞に就いても、洛陽を中心とした東西兩魏の勢力角逐の跡を見ることができるのである。

東魏は武定八年北齊天保元年に北齊に篡はれ、洛陽も北齊の領内に入るが、龍門石刻記中には、東魏の最後の武平の年號を有する、左の如き洛陽の寺名の出づるものが存する。比丘曇靜が大統寺主安法師の爲に釋迦像を造るの記武定三年十一月及び報德寺比丘法相の銘記武定七年四月路洞七六三である。後者は東魏最後のものであり、報德寺は洛陽に遷都した孝文帝が文昭馮太後の爲に建立した寺である。¹⁰⁾

(4) 『魏書』出帝紀、及び靈太后傳、『洛陽伽藍記』卷一の永寧寺の條。
(5) 『洛陽伽藍記』卷四

經河陰之役、諸元職盡、王侯第宅、多題爲寺、壽邱里皇族多くこゝに居を構へ、民間にては王子坊と稱せり間、列刹相望、祇洹齋起、寶塔高凌、四月八日、京師士女、多至河間寺、觀其殿廡綺麗、無不歡息、以爲蓬萊仙室、亦不是過……

追光寺は同書卷四、高陽王寺は同書卷三、

(6) 『洛陽伽藍記』卷一、建中寺の條に、
建中寺、普泰元年、尙書令樂平王爾朱世隆、所立也、本是閹官司空劉騰宅。

洛陽河陰の慘案以後

屋宇奢侈、梁棟踰制、一里之間、廊廡充溢、堂比宣光殿、門匹乾門、博敞宏麗、諸王莫及也。

(7) 『魏書』孝靜帝紀、及び清河王暉傳
(8) 平等寺のことは、『洛陽伽藍記』卷二
(9) 永寧寺燒亡のことは、『洛陽伽藍記』卷一
(10) 大統寺は、『洛陽伽藍記』卷三に、
大統寺、在景明寺西、所謂利民里、
とあり、報德寺のことは、同書卷三に出で、また『魏書釋老志』にも見ゆ。

第五章 北魏窟に現れたる佛教

第一節 古陽洞と法華經

龍門に於ける北魏窟は、すべて西岸に存する。その中で最も重要な北魏窟は、南部に存する第二十一窟(古陽洞)と、北部に存する第三窟(賓陽洞)とであることは、誰人も認める所である。私は先づこれ等の北魏窟に如何なる佛教が現はれてゐるかを調べ、それがこの時代の如何なる佛教によつて導かれてをり、支那佛教史上に如何なる意義をもち得るものであるかを考へて見たい。(圖版參照 七五七九)

古陽洞は、龍門石窟中の最古の窟である。それは様式手法の方面からも推定せられるが、殊に壁面に存する造像記が、これを明確にする。

龍門石刻録に就て見るに、最古の太和十九年西曆四九五の造像記より以下、景明五〇〇—正始五〇四—永平五〇八—延昌五二二—以上宣武帝代 熙平五二七—孝明帝代の年間、二十餘年を通じて、全て古陽洞の造像記のみである。更に次の神龜五一八—より正光二年西曆五二二—曆までのものも、僅かにその中に、二三の他の窟に存するものを見うけるのみであつて、殆んどすべてが古陽洞に存するものである。そして正光三年以後に至つて、古陽洞にかはつて蓮華洞・火燒洞・魏字洞等の、他の窟に於ける北魏紀年造像銘が見えてゐる。即ち龍門の紀年造像銘は、孝文・宣武二帝の治世を通じて、龍門石窟開鑿事業の創つた最初の約二十年間は、専ら古陽洞壁について、多くの個人的な造像造龕が行はれたことを示してゐるのである。

試みにわれわれの「龍門石刻録」から、古陽洞に存してゐて、太和から熙平二年、即ち孝文・宣武二帝の治世に造られたことの明かである造像銘をひろつてみると、左の如く、六十一種を數へ、これを見ても、洛陽遷都が行はれて間もない頃の此窟に於ける造像造龕の盛況、殊に景明・正始・永平年間の盛況を察することが出来る。

〔造像者〕	〔像名〕	〔奉爲〕	
一 長樂王丘穆陵亮夫人尉遲(王)	彌勒	亡息	太和十九年(四九五)
二 步騫郎張元祖妻一弗(官)	像(釋迦)	亡夫	太和廿年(四五六)
三 高慧(楚)	彌勒	七世父母 生死眷屬	太和廿二年(四九八)
四 北海王元詳(王)	彌勒	母子平安	太和廿二年(〃)
五 北海王太妃高(王)	像(彌勒)	行方不明の孫	缺
六 比丘慧成(僧)	石像(釋迦)	亡父(始平公)	太和廿二年(〃)
七 都督關口遊激校尉司馬解伯達(官)	彌勒		太和 年
八 馬慶安	像	自身	景明二年(五〇二)
九 雲陽伯鄭長猷鄭南陽妾(官)	彌勒(七軀)	亡父亡兒亡母	景明二年(〃)
〇 邑主榮陽太守孫道務、功曹孫秋生等二百人(集團、官)	石像(釋迦)	國祚永隆 三寶彌顯	太和七年 —景明三年(五〇二)
一 邑主高樹・維那解伯都卅二人(集團)	石像(彌勒)	元世父母 現世眷屬	景明三年(〃)
二 比丘惠感(僧)	彌勒	亡父母	景明三年(〃)
三 趙雙哲	像	母	景明三年(〃)
四 尹愛善等廿一人(集團)	彌勒	七世父母 所生眷屬	景明三年(〃)
五 廣川王祖母太妃侯(王)	彌勒	亡夫廣川 王賀蘭汗	景明三年(〃)
六 邑主馬振拜維那張□成等卅四人(集團)	石像	皇帝	景明四年(五〇三)
七 廣川王祖母太妃侯(王)	彌勒	現身永康孫 息延年等	景明四年(〃)

六	國學官令平乾虎(官)	釋迦	太妃廣川王	正始四年(五〇三)
五	國常侍王神秀(官)	釋迦	太妃廣川王	正始四年(五〇三)
四	比丘法生(僧)	像(釋迦)	孝文帝、北海王母子	景明四年(五〇三)
三	清信女高思鄉	釋迦	亡子等	正始元年(五〇四)
三	楊安祥	釋迦	所生父母	正始二年(五〇五)
三	蕩寇將軍殿中將軍領鈎盾令王史平吳及び曹人(集團官)	彌勒	合門大小	正始二年(五〇五)
二	元僕射長秋丞祀允(官)	釋迦	今王上	正始二年(五〇五)
二	比丘如(妙)光(僧)	像	宮内作大監營法端(女)	正始三年(五〇六)
二	孫大光	釋迦	亡父母己身	正始三年(五〇六)
二	楊小妃	釋迦	七世父母	正始三年(五〇六)
二	安定王元燮(王)	釋迦	亡父	正始三年(五〇六)
二	護軍府吏魯衆(官)	石像	亡父(靜王)亡妃等	正始四年(五〇七)
二	比丘法轉(僧)	彌勒	所生父母合門大小	正始四年(五〇七)
二	比丘惠合(僧)	釋迦	亡父母因緣眷族一切衆生	正始四年(五〇七)
二	比丘惠合(僧)	釋迦	清信女某	正始五年(五〇八)
二	關口關曹史張英周妻(官)	石像(彌勒)	志口容	正始五年(五〇八)
二	關口關吏史布榮(官)	釋迦	所生父母合門大小	正始五年(五〇八)
二	清洲柳(桃)泉寺道宋(僧)	彌勒七佛	七世父母所生父母	正始五年(五〇八)
二	比丘尼法文・法隆(尼)	彌勒	一切舍生	(正始五年)永平元年(五〇九)
二	邑師道暈邑主賈元美(吳)等(集團・僧)	彌勒	己身	永平二年(五〇九)
二	比丘尼法行(尼)	定光	國	永平二年(五〇九)
二	道人惠感(僧)	釋迦	七世父母等	永平三年(五〇〇)
二	比丘尼法慶(尼)	彌勒	七世父母所生父母	永平三年(五〇〇)
二	比丘尼惠智(尼)	釋迦	七世父母所生因緣	永平三年(五〇〇)
二	清信士某等	彌勒等五十三佛	亡母	永平三年(五〇〇)
二	殿中將軍領太官令曹連(官)	釋迦	亡母	永平四年(五一)
二	比丘法興(尼)	彌勒	皇家、師僧父母有識舍生	永平四年(五一)
二	仙和寺尼道僧略(尼)	彌勒	見佛聞法清信女周	永平四年(五一)

古陽洞と法華經

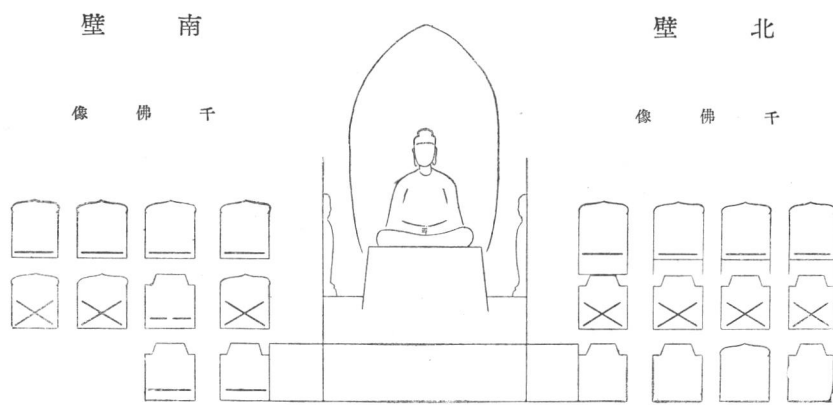
四	安定王(王)	石窟(彌勒)	亡祖親亡考	永平四年(五〇三)
四	尹伯成妻	觀世音	亡夫	永平四年(五〇三)
四	釋法陵(僧)	像	父母	永平五年(五〇三)
四	劉洛眞	釋迦	亡兄	(四月改元)延昌元年(五〇四)
四	劉洛眞兄弟	彌勒二已	亡父母	延昌元年(五〇四)
四	比丘尼法興(尼)	釋迦	自患	延昌二年(五〇五)
四	清信女劉某	定光	亡某	延昌三年(五〇五)
四	張口伯張道夷等十四人(集團)	彌勒	自身等	延昌三年(五〇五)
四	白口生姉	釋迦	自身等	延昌四年(五〇六)
四	尹顯房	多保	父母一切衆生	延昌四年(五〇六)
四	清信女尹靜妙	不明	一切衆生	延昌四年(五〇六)
四	梁州大中正楊大眼(官)	石像(釋迦)	孝文帝	(景明年間)延昌四年(五〇六)
四	陸渾縣功曹魏靈藏、薛法紹(官)	釋迦	前者ニ像モ書體モ似ル	延昌四年(五〇六)
四	比丘惠榮(僧)	彌勒	皇帝七世所生父母	熙平二年(五〇六)
四	比丘惠珍(僧)	釋迦并七佛	父母眷屬己身	熙平二年(五〇六)
四	齊郡王祐(王)	神像		熙平二年(五〇六)

右の造像者を見るに、王(その妃を含む)八、僧十三、尼七、僧の指導をうけて結成せられてみると認められる集團六、官職名を有するもの(その妻を含む)十一、合計四十五で、全體の過半数を占めてゐる。このことから、龍門最古の古陽洞は、孝文・宣武二帝時代の洛陽地方に於ける比較的上層社會の佛教信仰を考察する上に、貴重な窟であることが推察せられるであらう。

その造られてゐる尊像は、釋迦(表中括弧に入れたものは、釋迦と推定可能なるもの)二十二、彌勒(交脚菩薩の像)二十五を數ふ。定光の二、多寶の一は、前者は釋迦佛の前身に關係し、後者は恐らく釋迦佛と並坐せるものであり、また石像・像などもあるものも、釋迦・彌勒の中の何れかと推察せられるのであるから、要するに古陽洞の孝文・宣武二帝時代の造像の殆んどすべてが、釋迦・彌勒の二尊であつたといつても過言ではないのである。

次にこれ等の造像の古いものが、窟の上部に存することが注意される。これはこの窟の開鑿経過をしらべ、造窟者のプランを考へ、その佛教を推察する上に、重要なことである。

窟の構造や造像並びにその他の彫刻等に就いての、美術考古學的方向からの解説は、すべて水野、長廣兩君の詳論を参照せられたく、私はこゝに現はれた佛教の研究に必要な点のみを、要約しておく。



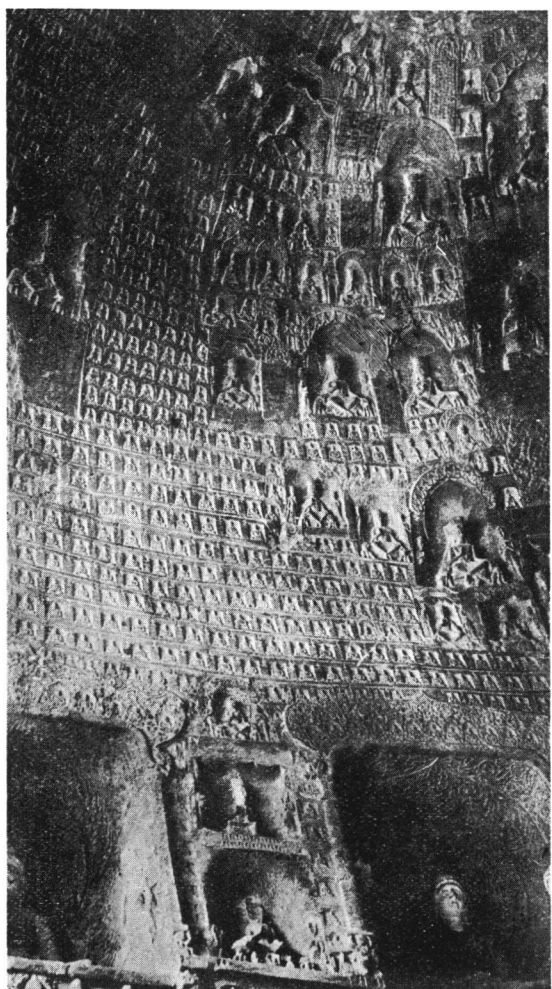
第一圖 古陽洞佛龕配置圖

れる。下段には、右壁に四、左壁は本尊寄りに二つを造つてゐるが、未完成のものもある。要するに、左右壁の三段の大佛龕列は、上中二段までが、この窟の造營の初に設計せられたプランに存したものと認められ、下段は、本尊が一應成就した後、更に掘下げ追造せられたものと認められ、而も未完成に終つたらしい。私は本窟の發願造營者の最初のプランとしては、中段以上の兩壁と本尊とを考へればよいと

思ふ。試みに、左右壁面を後壁と同一の平面にまでおし開いて示すと、第一圖の如くなる。

上段の八佛龕は、すべて坐佛二菩薩の三尊形式の佛であつて、これが釋迦坐像であることは、銘記に記す所によつて推定し得られる。

中段の八佛龕は、交脚菩薩に二菩薩の脇侍を配した三尊の龕であり、南壁入口より第三のみが二佛並坐像である。二佛並坐像は『法華經』に説かれてゐる多寶・釋迦の二佛像であることは疑なく、交脚菩薩像が彌勒菩薩であることも、造像記によつて疑ない。上中下三段の大佛龕の間も、多數の小佛龕が存し、造像記をもつてゐるものも少くない。その造像記は、上段にあるものが古い。上段の大佛龕に附せられた造像記も、この層に存する小造像記も、太和・景明年間のものが多く、中段部には次の正始・永平年間のものが多い。大體に於いて、宣武帝



第二圖 古陽洞南壁上段

時代の造像記は上中二段の部に存し、下段には孝明帝時代のものが多いことに、注意されるのである。

次に上段大佛龕列より上方天井部にかけては、小坐佛が多数に列をなして造られてゐる。第二圖 参看所謂千佛である。千佛群の間にも、屢々小佛龕が造られてゐるが、それは交脚の彌勒菩薩が多く、釋迦佛の坐像もあり、また二佛並坐のものも、若干見うけられる。これ等の造像記、即ち上段大佛龕列より上部に存するものの紀年は、太和・景明のもの、換言すれば、窟中の造像記の最古のものである。

窟の造營は入口部より奥へ掘り進み、上部より下部へ掘り下げて行つたものに相違ない。兩壁の大佛龕列中で、成就の順からいつても第一に注意すべきは、上段の八龕であり、またその入口部にあるものである。そこで、これ等の佛龕にあてられる造像記に、注意してみよう。

北壁上段入口より第一龕に、石刻中でも最も有名な陽刻の比丘慧成の造像記、所謂「始平公造像記」があてられる。¹⁾碑の上部の題額に「始平公像一區」といふ。この佛龕は始平公の爲に造られたものである。文中に曰く、

比丘慧成。自以影濯玄流。邀逢昌運。率渴誠心。爲國造石窟□□。答皇恩……………

比丘慧成は、國家の昌運にあへる僧として、誠心をつくして國の爲に石窟を造り、皇恩に報ぜん²⁾と志したのである。彼は洛州刺史始平公を父とした。即ち洛陽地方で、最も國家の恩恵に浴してゐる一家の出身である。更に文に曰く

父使持節光□大夫洛州刺史始平公。奄焉薨放仰慈顏以摧躬□。匪鳥在□。遂爲亡父造石像一區。

この亡父の爲の石像が、始平公像一區の題額と照しあはせて、上段

入口第一龕の佛像であることは疑ひない。然らば、この父の爲の龕に先つて、比丘慧成が發願した「國の爲の石窟」とは、恐らくこの古陽洞そのものであらう。

慧成の龕の隣にある北壁上段第二龕は、無年月の魏靈藏等の造像であるが、その年次は、これに隣れる第三龕の楊大眼造像と同じ頃であらう。楊大眼の造像も無年月であるが、その造像記を『魏書』の楊大眼傳に對比して考へれば、この記が景明年間のものであることを推定し得る。

魏靈藏等の龕と楊大眼の龕との中間すぐ上には、太和十九年の長樂王丘穆陵亮夫人造の彌勒像があり、また第四龕のすぐ上部には、夫の張元祖を亡つた妻が、亡夫の爲にした太和二十年の造像がある。

次に南壁の上段四佛龕の中では、中央の二龕に造像記が存する。入口より第二龕は、比丘法生が孝文帝及び北海王詳母子の奉佛と知遇とに對する報恩謝徳の造像で、景明四年十二月と記し、第三龕は、景明三年の孫秋生等二百人造像である。

北海王詳の母が、太和十八年の孝文帝の南伐に従軍した詳と別れて歸宅する途に、母子平安を祈願して造像を發願したものは、太和二十三年九月成就の文をもつて、また幼孫を養育して孤獨の生活をしてゐた廣川王祖母侯氏の造像は、景明四年の紀年を以て、共に上段の四大佛龕列から上部天井へかけての、千佛群の間に見られる。²⁾

以上のことから私は、次の如く古陽洞の造營次第を推察する。

洛州刺史を父とした比丘慧成は、太和十七年の洛陽遷都、若しくはそれより數年前に、國恩に報答する爲に古陽洞の開鑿を發願しこれに

(1) 拓影一一五參看 この造像記は、第六章二一西頁以下に解説する。

(2) これ等の主要造像記は、第六章第一節以下に解説してある。

着手した。造窟には勿論、多くの資金を要するので、洛州刺史であつた父の關係などをたどつて、附近の地方官吏の間に勸募し、また洛陽地方に於ける貴族や僧侶にも應援協賛を求めた。親近を失つた悲しみや、孤獨な生活に不安を感じてゐた人々が、勸化に應じて追善や平安の祈願の爲に、夫々多少の寄附をなし、壁面の大小佛龕にその追善平安の願文を記してもらつた。前記の造像記表に於ける奉爲の條を参照せよかくて宣武帝の初期、景明・正始の頃までには、本尊までほゞ成就したが、(後壁部に正始の造像記が存する)なほ壁面佛龕に對する寄附金を盛に募つて、造像記を増加しつゝあつたのである。

以上の推察は、當らずとも遠からずと信ずる。この窟の造像發願者が、何人であつたにせよ、太和末年頃には、

(一) 奥壁に佛二菩薩の本尊を造り、

(二) 左右壁には、八づゝの大龕を二段にならべ造り、上段の龕を釋迦坐佛、下段の龕を彌勒交脚像(一は多寶釋迦並坐龕)となし、

(三) 更にその上部から天井へかけて千佛群を配する、

といふプランの下に、開鑿が進行しつゝあつたことを、認めてよいと思ふのである。換言すれば、太和末年頃の古陽洞の開鑿發願者は、この三部を一信仰としてもち得る佛教徒であつたと、推察せられるのである。抑々これは、如何なる佛教として解釋され得るか。

第一に、本尊佛は二菩薩を脇侍とする。菩薩即ち大乘の人を教化する佛、換言すれば、「大乘教を説かれる佛」であることを、示してゐるのである。本尊をかこむ壁面は、この佛によつて説示せられた、ある大乘の教を現はしてゐる、とは解せられぬか。當時この地方で最もよく流傳し信奉せられてゐた大乘經で、この壁面をよく解釋し得る佛典はないか。

釋迦佛を中心に、彌勒菩薩と、釋迦・多寶二佛並坐と、千佛とを、同處に刻むが如き窟の設計を、導き得る大乘佛典が、流傳信奉せられてゐたか。然り、私は直ちに、『法華經』をあげることができる。『法華經』こそは、既に夥しい數量に達してゐた漢譯佛典の中でも、當時最も廣く流傳し、特に信奉讚仰せられてゐた代表的大乘佛典である。³⁾

『法華經』は、支那佛教界にては、誰よりも有力な翻譯三藏によつて傳譯を重ねたものである。まづ夙に西晉の時代に、竺法護によつて、『正法華經』として譯出せられて流布した。竺法護(Dharmakṣa)は、古陽洞が開鑿せられつゝあつた頃に編纂せられた僧傳⁴⁾にも、

孜々として務むる所は唯弘通を以て業となす。終身譯寫し勞して倦むを告げず。經法の中華に廣流する所以のものは、護の力なり。

と翻譯傳道上の功績を、特筆稱揚せられてゐる人であり、その活動地域は、敦煌から長安洛陽をつなぐ間であり、その宗とした所は、敦煌菩薩、或は月支菩薩と稱せられたことによつても、また翻譯佛典に徴しても、主として大乘教にあつたものである。そして『正法華經』は、彼の諸翻譯經典の中でも、特によく中原地方に流布した。⁵⁾

次で北魏の建國初期の頃に、長安に覇をとなへてゐた後秦王の姚氏に迎へられた鳩摩羅什(Kumarajiva)によつて再び譯せられて、流麗な『妙法蓮華經』として世に贈られた。姚秦王は、當時最もよく流傳し、最もよく研究讚仰せられてゐた重要佛典であつた『法華經』、『維摩經』の如きものを、羅什を中心にして僧俗の學者を集めて協力せしめ、國家の事業として再譯せしめたので、この羅什の『妙法蓮華經』、『維摩詰經』は、何れも最も信頼すべき正しき聖典として、愈々支那佛教界に盛に流傳したものである。

まづ羅什門下の英才僧叡が、『法華經』を以つて「諸佛の祕藏、衆經

の實體なり」とまで稱揚して講説したのを始めとし、羅什門下の有力な諸學匠によつて、最も重要な大乘教義を説示する佛典として研究せられて、支那佛教界の指導佛典となつたのみならず、佛經中でのこの經ほどに大衆性をもつて、廣く僧俗上下の社會に愛誦せられ、書寫せられ、奉戴讚仰せられた經は少い。思ふにこの經は、

(一) 支那佛教徒が注目し、諸經の教義を綜合し組織する指針とした「三乘を會して一佛乘に歸せしむ」等の、重要な説をもつてゐるのみならず、支那佛教徒を導く權威となつた龍樹等の印度の大乘學者に盛に依用せられてゐた。

(二) 佛によつて示される多くの奇蹟が説かれてゐる。(例へば、大寶塔が湧出し、塔中の多寶佛が釋迦の法華説法を稱讚し、釋迦佛

を寶塔中に請して並坐せられる場面(の如き)。

(三) 經の信奉者がうける靈應冥助の數々が示されてゐる。(例へばあらゆる危難から救出する念觀音力の靈驗や、六牙白象に乗る普賢菩薩や十羅刹女等の法華持誦者を守護する誓などの如き)。

(四) また、佛が衆生を教導せられる慈悲を巧みに説いた有名な譬喩のべられてゐる。(例へば、家出をしてさまよひ落ぶれた窮子を見まもりながら、再び相續人として辱しからぬ人物にまで導き育て、行く慈父長者の話や、火の起つてゐる宅で、夢中になつて遊戯してゐて、火の恐しさを知らぬ子供等を、外にまつてゐるといふ羊、鹿、牛の三車を以つて誘ひ出し、終に火の危難を脱して安全地に至らしめたといふ慈父の話の如き)。

(3) 漢譯せられた『法華經』の種類は甚だ多い。所謂大本の譯は、北魏時代までの四譯の中に、二譯が存する。

一 法華三昧經	六卷	吳支暹梁譯	缺
二 正法華經	十卷	西晉竺法護譯	存
三 方等法華經	五卷	東晉支道根譯	缺
四 妙法蓮華經	七卷	姚秦鳩摩羅什譯	存
所謂分本の譯には			
一 佛以三車喚子經	一卷	吳支謙譯	缺
二 薩曇芬陀利經	一卷	西晉失譯	存
三 法華光瑞菩薩現壽經	三卷	失譯	缺
四 光世音經	一卷	西晉竺法護譯	存
五 觀世音經	一卷	姚秦鳩摩羅什譯	存
六 觀世音觀經	一卷	宋安陽侯京聲譯	缺
等が記録せられてをり、更に法華部類の本の譯本には、			
阿惟越致遮經三卷	西晉竺法護譯	不退轉法輪經四卷	北涼、失譯存。
金剛三昧經一卷	北涼、失譯存。	普賢觀經一卷	宋、曇摩蜜譯存。
華三昧經一卷	宋智嚴譯存。	廣博嚴淨不退轉輪經四卷	宋智嚴譯存。
菩薩行方便境界神通變化經三卷	宋求那跋陀羅譯存。	大法鼓經二卷	宋、求那跋陀羅譯存。
宋、求那跋陀羅譯存。	無量義經一卷	齊曇摩伽陀耶舍譯存。	大薩遮尼
乾子所說經十卷	北魏菩提流支譯存。		

等が數へられる。これ等の譯本の一々についての検討は、こゝに述べぬ。本稿ではたいと大本中で北魏中期までの佛教界に最も影響を與へてゐる、『正法華』

古陽洞と法華經

これ等のものが流麗な文に綴られ、また韻文にくりかへして綴られてゐて、讀誦者を誘ひ、また聞者をして容易に感激せしめ信仰に誘ふに足る。換言すれば十分な大衆性を具へ、すぐれた宗教文學としての結構をもつてゐた經であつたことが、この經に最も多くの敬虔な信奉者を集めた所以であるといへよう。かゝる文學的内容をもつた經は、容易に繪畫化され彫刻化され、詩歌によまれるやうになるものである。此では唯、古陽洞開鑿の直前にてきた北魏の雲岡の諸石窟の中に彫刻化せられた『法華經』の場面が屢々存することを、指摘しておけば充分である。第三圖 參看

さてかくの如き、古陽洞時代の龍門地方でも盛に信仰せられてゐたと信ぜらるゝ、羅什譯『法華經』の普賢菩薩勸發品に、この經を書寫し持誦し解説する者に與へられる功德を説いて曰く、

若有人受持讀誦、解其義趣。是人命終、爲千佛授手、令不恐怖不墮惡趣。卽往兜率天上、彌勒菩薩所。彌勒菩薩有三十二相。大菩薩衆、所共圍繞。有百千萬億、天女眷屬。而於中生。有如是等功德利益。

竺法護譯本の樂普賢品にも、ほゞ同様のことが説かれてゐる。試みに、古陽洞内本尊前に、『法華經』の信者を坐せしめて、右の一文を讀誦せしめよ。そして千佛や、彌勒菩薩や、多寶・釋迦の二佛並坐像などの『法華經』中の説相に出づる諸彫刻で莊嚴せられてゐる壁面をながめ、その正面の本尊釋迦佛を仰がしめてみよ。そは正に、自身が佛の「法華説法の座」に列なるの、感あらしめ得るであらう。

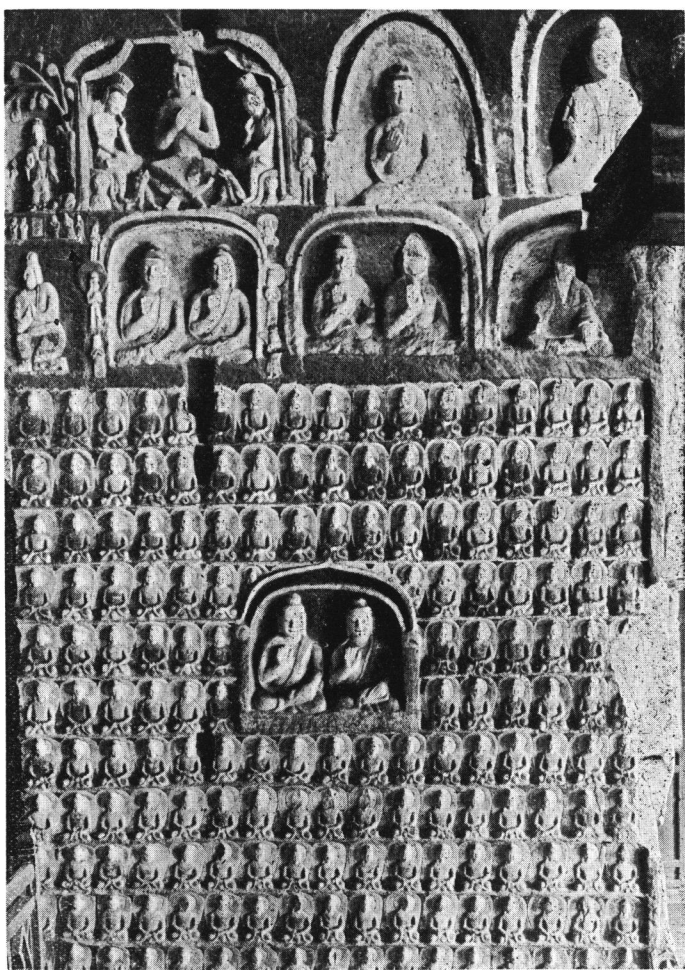
古陽洞の諸造像記によれば、造像は多く、近親亡者への追善の爲に造られてゐる。

「命終の時に千佛の爲に手を授けられ、惡趣におちず、兜率天上の彌

勒菩薩の所に往生する」といふ右の一節と、古陽洞壁面の千佛の間に交脚彌勒菩薩像を現はしてゐる場面とはよく契合する。この洞にある造像記にも、例へば最も重要な佛龕の一である魏靈藏等造釋迦像記石刻錄 六七八には、「兜率翅頭之益」なる語と共に、「命終之後、飛逢千聖」なる句が見える。前引の『法華經』の千佛授手の一節を、この造釋迦像記に結びつけて、考へることが出来るであらう。

二佛並坐の像が、『法華經』の見寶塔品に説かれてゐる有名な寶塔湧

第三圖 雲岡中央第五窟明窓東側



出の場面に示されてゐる多寶佛と釋迦佛とであることは、いふまでもない。

かくて釋迦を本尊とし、千佛、彌勒、多寶釋迦並坐を同壁面にもつこの窟が、『法華經』が、雲岡石窟にも盛に彫刻せられてゐるといつたが、

私は『法華經』が、雲岡石窟にも盛に彫刻せられてゐるといつたが、

今その例は一々こゝにあげぬ。唯一例として、右の雲岡の第五窟、即ち中央に於ける豪華窟の一部を、第三古陽洞の壁面に對照して見よ。千佛、交脚菩薩(彌勒)、二佛並坐(多寶釋迦)を、同所に現はしてゐる兩壁面彫刻は、同じ信仰の表現と認めてよからう。雲岡第五窟は、蓋し曇曜の五大窟に續いて開鑿せられたもの、恐らく孝文帝の太和初期のものであつて、『法華經』に基く彫刻の、最も顯著な窟である。然らば古陽洞はこの同じ信仰を表現してゐる雲岡第五窟と、年代的にも連續して開鑿せられてゐるものである。北魏の中央の佛教界に、大同時代から洛陽時代について、『法華經』信仰が有力な流をなしてゐたことを兩石窟を通じてうかゞひ得るわけである。たゞ前者にあつては、法華の寶塔を中心として造つてをり、隨つて多寶釋迦の二佛並坐像が主要地位を占めてゐるのに對し、古陽洞では、彌勒菩薩像がより主要な地位を占め、將來佛たる兜率天現在の彌勒菩薩への歸依信仰が、強く現はれて來てゐることが、興味を引くのである。

もつとも私は、古陽洞が『法華經』のみによつて導かれてゐるとは、必ずしも云はぬ。孝文・宣武の治世の洛陽方面で、『法華經』と共に盛行はれてゐた大乘佛典は、少くない。殊に『維摩經』の如きは、宣武帝が常に名僧學者を集めて宮廷で講じたものであり、この經に基く維摩居士と文殊菩薩との法論の場面は、既に雲岡石窟にも、少なからず刻まれてをり、龍門に於いては、最も盛に佛龕の入口上部の意匠として、刻まれてゐるものである。そしてこの經にも、彌勒菩薩が釋迦の繼承者としてこの世界に出て成佛することが説かれてをり、また所謂「賢劫の千佛」が世に出づる緣由を説いた寶蓋王(寶炎如來)と、その王子月蓋(釋迦佛)以下の千子(賢劫千佛)との、説話が出てをり、更に經の最後は、釋迦佛が特に彌勒菩薩に對して佛經を付囑し、

「わが滅後に汝は、神力を以つて佛法を廣宣流布し、斷絶なからしめよ。」と結ばれてゐて、釋迦滅後の佛教、殊に大乘佛教が、すべて彌勒に託されたやうになつてゐる。

されば、釋迦佛、彌勒菩薩、千佛を、同所に造ることは、『維摩經』によつても可能である。唯、古陽洞に於いて、二佛並坐像が相當重要な壁面に存するのに、維摩・文殊の法論の場面が比較的少い點から、『法華經』の影響を顯著に認め得るといふのみである。思ふに古陽洞の鑿造者は、特に『法華經』を信じて『維摩經』を重視しなかつたものではなく、兩大乘經を同時に重要な聖典として信受してゐた人々であらうが、私は『法華經』の影響の顯著なる例證として、この窟を示し得るといふのである。そして次の帝王窟たる賓陽洞こそは、『維摩經』信仰を最も顯著に示してゐるものとしてあげ得るのである。

第二節 賓陽洞の佛教

龍門西岸石窟群の最南部に於ける古陽洞に對し、最北部に存する第三窟、所謂賓陽洞は、北魏帝王の窟として最も重要なものである。

龍門に於ける、明かな北魏様式手法をもつてゐる諸窟の中で、賓陽洞を以つて、帝室の事業として成就せられた窟となすことは、學界に殆んど異存のない所である。かゝる推定は、(1)この窟が北魏式諸窟の中で、最も雄大にして華麗な彫刻をもち、殊に前壁に皇帝皇后の禮佛進香の狀と解せられる圖様を彫刻せること、(2)壁面に北魏人の個人的造像銘記が存せざること、(3)北魏式手法の存せる左右の二窟と併せて『魏書釋老志』にいふ帝室の三窟造營の記事に契合せしめ得ること、などから、殆んど誤のない推定であると思ふ。

私共は、宣武帝即位の始^{五〇〇}景明元年に、既に、工事の進捗しつゝあつた前述の古陽洞に近く、今の唐奉先寺大佛の場所に孝文帝と同皇后との爲に、雲岡石窟に準じた大石窟を開鑿し始めたが、正始二年^{西五〇五曆}に至つて、成功困難の見通しをつけて、斬山半ばにして造つたものが、この賓陽洞であると推定する。その成就是、孝明帝の正光年間^{五五〇—}にあるべく、「故孝文帝の爲」といふ、特殊な條件の下に造られたものであるが、古陽洞に續ける洛陽盛時、第六世紀初期の、帝室を中心とした上流社會の佛教を考へる上に、貴重な資料とすることができよう。

この窟の本尊は、後壁の方座上に結跏趺坐する坐佛に、二僧二菩薩を配した五尊形式である。坐佛は釋迦佛であらう。而してかゝる從來見なかつた二僧二菩薩を脇侍とする五尊形式が、龍門に於ける北魏窟である魏字洞、蓮花洞等の本尊にも、等しくとられてゐることに注目すべきである。

さて脇侍の二僧は、六朝時代の造像例に徴するに、迦葉と阿難との釋迦の二大弟子である。大乘佛典では、これ等の佛弟子は小乗教を聽受して小乗の證果を得る阿羅漢に進んだものであつて、これ等小乗阿羅漢の外に、大乘教を聽受して大乘の證果に進む菩薩達があつたとする。思ふに、二僧は小乗の弟子、二菩薩は大乘の弟子を示すものである。かゝる小乗阿羅漢と大乘菩薩との兩者が、釋迦佛の脇侍として現はされてゐることは、換言すれば大乘教・小乗教が、共に釋迦の説法であつたことを現はしてゐるものといふことができる。私はこの北魏盛時の洛陽地方に現はれた、二比丘二菩薩を脇侍とした佛像の様式をもつて、次節に論ずるやうに、支那佛教の特色ある發展過程を、具體的に説明する一資料に供することができると思ふ。

次に、賓陽洞の佛教を研究する上に、見逃すべからざるものは、この五尊形式の本尊に對する前壁の左右を、三段に分つて彫刻してゐる圖様である。

下段は皇帝皇后の禮佛進香の相狀と解せられるもので、この窟が貴族の窟であること、殊に帝王窟であることを、推察せしめるものであり、當時の洛陽貴族の風俗乃至文化を研究する上には、頗る貴重な資料であるが、私の佛教研究には、大して必要ではない。

佛教研究上に必要なものは、中段と上段との佛教的説話の彫刻である。中段には二つの釋迦本生譚があり、上段は維摩居士と文殊菩薩とを左右壁に分つて彫刻し、兩者が法談してゐる場面を現はしてゐる。これ等は、前方の本尊佛を説明してゐるものとも云へるし、また本尊によつて説き示された所を、彫刻化してゐるともいへやう。

さて上段に現はされた維摩と文殊との對論は、言ふまでもなく『維摩經』によつたものである。『維摩經』は前節にもふれたやうに、『法華經』と共に、最もよく支那に流布し研究せられた大乘佛典である。この經は、夙に三國時代の支謙によつて、次で晋時代に入つては竺法護によつて、更に竺叔蘭によつてと、三譯を重ねて流傳し、鳩摩羅什が長安に迎へられる以前の佛教界、殊に僧俗の知識社會に於いて、最も愛好研鑽せられてゐた²⁾。その上に、後秦王姚興も亦この經に親しみ、羅什を迎ふるに及んで、更にこれが正譯を出さしめ、多數の僧俗學者を集めて、相共に研究講説せしめたものである³⁾。

羅什の新譯本によつて、『維摩經』が益々流布したことはいふまでもない。羅什門下の俊才として有名な僧肇の『注維摩』の如きは、南北支那に共に行はれるやうになつたが、北魏佛教界でも、維摩經研究の指導書となつたことが『魏書釋老志』に記されてゐる⁴⁾。北魏が大同に

都してゐた頃にも、『維摩經』が既に北方の大同地方で盛に行はれてゐたことは、雲岡の石窟に維摩・文殊の法論の場面が、盛に彫刻せられてゐることによつても明かである。されば雲岡石窟に準じて、北魏帝室によつて開鑿せられた賓陽洞に、維摩・文殊の法論が現はれるのに、不思議はない。

洛陽に遷都した孝文帝は、特に羅什の佛教を敬重したし、地理的歴史的關係からも、北魏の帝都たる洛陽は、羅什系統の佛教が最もよく指導力を發揮した時であり所であつた。次の宣武帝に至つては、

篤好佛理。每年常於禁中。親講經論。廣集名僧。標明義旨。

沙門條錄。爲內起居魏書釋老志

といはれる程の佛教愛好者であり、この宮廷に於ける佛教講述の重要なテキストとなつたものが、『維摩經』であつたことは、

帝於式乾殿。爲諸僧朝臣。講維摩詰經。魏書世宗紀永平二年

とあるによつても、明かである。然らば、この親ら『維摩經』を講じた帝によつて發願せられ、羅什佛教を尊重した孝文帝や、或はまた帝

自身の爲の窟として造營せられるものに、特に『維摩經』の場面が選ばれて彫刻せらるゝに至ることは、寧ろ當然であつたといつてよからう。

抑々『維摩經』の主人公である維摩居士は、妻子あり、學問あり、富ある在俗の居士であり、文殊菩薩も亦、髻を戴ける菩薩であつて、剃髮の僧形ではない。剃髮僧形の舍利弗、目犍連、大迦葉等の羅漢、即ち『維摩經』等を奉ずる大乘佛教側からは、小乗の證果を得て満足してゐるものとせられてゐる佛弟子等は、維摩居士から散々に呵責せられ翻弄せられ、その學びまた覺れる小乗の教が、まだ淺卑なるものであることを教へられる人々である。そして維摩と文殊との法論を通して、また釋迦佛の說法によつて、小乗教をこえて大乘教へ進趣すべきことが高揚せられてゐるものが、『維摩經』である。さればこの經は、自ら誰よりも在俗の貴族學者に、最も愛好せられ易い性質をもつた佛典である。就中、士大夫と庶民との間の、教養その他すべての生活が峻別せられることを原則とし、士大夫貴族が、特に高い地位を與へら

(1) 第四章第一節、第二節參照。

(2) 支謙字恭明の傳は『出三藏記集』卷十三、及び『高僧傳』卷一康僧會傳中に
出づ。その翻譯は吳の黃武元年西曆二二二から建興中二五二―二五三にわた
る間である。竺法護の傳は『出三藏記集』卷十三、『高僧傳』卷一に出で、そ
の翻譯傳道の盛時は、西曆二六五―二九〇年頃。竺叔蘭の傳は『出三藏記集』
卷十三、『高僧傳』卷四に出で、その『維摩經』譯出は晉の元康元年二九一
一説には元康六年である。この經が羅什の重譯以前に、如何によく流傳して
ゐたかは、道安、支遁、支敏度などの、東晉初期の佛教界の代表的指導者の
事跡遺文に徴しても明かである。支敏度撰『合維摩詰經序』僧觀撰『毘摩羅詰提
經義疏序』共に『出三藏記集』卷八に收む。支遁の文集及び『世說新語』に出づ
る支遁の逸話參照。また拙稿『魏晉佛教の展開』(史林二十四ノ四)の五「清談
佛教を導く佛典」の項を參照せよ。

(3) 僧肇撰 維摩詰經序 (出三藏記集卷八所收)

大秦天王……每尋翫茲典、以爲栖神之宅。而恨支謙竺法護所出、理滯於文、
賓陽洞の佛教

(4) 鳩摩羅什、爲姚興所敬。於長安草堂寺。集義學八百人。重譯經本。……時沙門

道愷……僧肇、曇影等、與羅什共相提挈。發明幽致。諸大經深論十有餘部。
更定章句。辭義通明。至今沙門共所祖習。道愷等、識學洽通。僧肇尤爲最。
羅什之撰譯。僧肇常執筆。定諸辭義。注維摩經。又若數論。皆有妙旨。學者
宗之。(釋老志)
太和二十二年の詔に曰く
羅什法師、可謂神出五才、志入四行者也。今常住寺、猶有遺地。欽悅脩瞻、
情深遐遠。可於舊堂所、爲建三級浮圖。又見逼昏虐。爲道殄軀。既覓同俗
禮。應有子胤。可推訪以聞。當加叙接。(釋老志)
而して孝文帝近側にあつて佛教を講じた道愷、慧紀等は、何れも羅什系統の
佛教學者であつた。(高僧傳)等また前註(4)參照

れ、且つ所謂「清談」が最も尙ばれた魏・晋・南北朝時代には、上層貴族階級、士大夫の社會で、最も愛讀せられ易いものである。實際、六朝時代の佛教界では、『法華經』が上下を通じ、大衆的に信奉贊仰せられたに對し、『維摩經』が貴族知識階級に愛讀研究せられたものである。

さて今、賓陽洞に於いて、比丘と菩薩とを脇侍とする、即ち小乘大乘を共に説かれた佛の前面に、その代表的説法なるかの如くに、『維摩經』の場面が彫刻せられてゐることは、正に佛の理想が小乘を止揚して大乘に進趣せしむることを示してゐるものと解し得べく、この窟の五尊形式本尊と維摩經圖樣と相併せて、大乘菩薩の佛教を高揚する窟であることを、明かにしてゐるものである。

然らば中段に於ける二つの本生譚は、如何に解釋せられるか。中段の二の釋迦本生譚とは、一は須大拏太子本生であり、他は摩訶薩埵王子本生で、共に、印度西域に於いても、支那日本に於いても、最も重要な本生譚として、よく彫刻や繪畫になつてゐる。殊に敦煌千佛洞一三五窟には、賓陽洞とほゞ同じ頃と認められる兩本生の壁畫が存するが、この賓陽洞のものは、支那中原に於ける、兩本生の最も古い遺物であり、雲岡には未だ發見せられてゐない圖樣である。

須大拏太子本生は、北魏以前に流傳してゐた漢譯佛典にあつては、『六度集經』卷二吳、康僧會譯『太子須大拏經』西秦、聖堅譯などに詳述せられ、『菩薩本行經』東晉、失譯卷下や『大智度論』後秦、鳩摩羅什譯卷十二などにも、佛徒の間に充分知られてゐる著名な佛の本生として取扱はれてゐる。限りない慈悲心から布施行に精進してゐた太子須大拏(Sudana 善施)は、國の重要な、一よく六十象に當るといふ軍用白象をも敵國に施與したことから、父王の怒にふれ、十年の間、檀特山中に追放せられることになつた。太子は途中で車馬や、その他所持せるすべての財寶を施與しつく

し、妃と共に男女の二兒を一人づゝ抱いて檀特山に入り、自ら草庵を結び阿周陀仙に就いて道『太子須大拏經』には「摩訶衍道を求むとあり、この説話が大乘佛徒の間にもよく行はれたことを察せしめる」を學んだ。一老婆羅門が来て二兒を求めた。太子は二兒をも施與した。また帝釋天は、太子を試んとて來つて妃を求めたが、太子はこれをも與へて、よく布施波羅密を成就したのであつた。二兒は老婆羅門の爲に太子の國で賣られたが、偶然にも國王に救はれた。太子はやがて父王から迎へられて王位をつぎ、敵國も亦、須大拏の布施行の徳に化せられて歸服し、國家は太平を致した。かゝる布施行を成就した須大拏は兜率天に生れ、また降つて白淨王の太子として生れ、釋迦佛として成道せられたものである、とする説話である。

今、賓陽洞には、この本生中の太子と妃とが、夫々一兒を抱いて檀特山にわけ入る有様が彫刻せられてゐる。『支那佛教史蹟』の解説が、「海中より摩尼珠を得たる所か」と、推察してゐるのは當らない。

須大拏太子本生は、上述の如く漢譯佛典によつて、夙に支那に紹介せられてゐたのみならず、印度に於いても、古くはサンチー(Sanchi)の大塔、アマラーバチー(Amaravati)大塔の欄楯にも彫刻せられ、またガンダーラ地方の遺物も現存してゐる。賓陽洞との年代の前後は確定できぬが、グリユンウエーデル氏が支那トルキスタンのキジル(Kizil)地方で調査した佛教石窟にも、この本生圖が見られる。⁶⁾

印度では、この種の釋迦本生物語が、歴史的な事實とせられ、それ等の遺蹟や遺物が現實に設定せられて、佛教徒の聖地となつてゐた。須大拏太子の物語も同様で、太子が布施忍辱の修行をして、愛兒愛妻の施與生別といふ悲みにもたへて道を求めたといふ檀特山の諸遺蹟が、西北印度で聖地化せられ、阿育王によつて紀念の塔寺も建てられてゐた。法顯を始め、東晋以來續々印度求法の途に上つた支那僧も、多く

かゝる遺蹟遺物に接し、かゝる説話を傳聞して來たであらう。盛に流來する外國佛徒も亦、かゝる説話や遺蹟を傳へ、またその繪畫彫刻の類を傳へたものもあつたであらう。既述の如く、宣武帝孝明帝時代の洛陽には、勅建の永明寺を中心に、三千の外國沙門が集つてゐたといふではないか。殊に、恰も賓陽洞が成就に近づきつゝあつた時代に、北魏の朝命を奉じて印度に向つた宋雲・惠生の一行が、檀特山の須大拏太子の諸遺蹟と傳へられる所を巡歴して、正光二年^{西曆五二二}に洛陽に歸つて來て、

王城烏場國西南五百里。有善特山、甘泉美果。見於經記。
山谷和煥。草木冬青。……山頂東南有太子石室。一□兩房。太子室前十步、有方石。云太子常坐其上。阿育王起塔記之。塔南一里、太子草庵。去塔一里、東北下山五十步、有太子男女遶樹不去。婆羅門以杖鞭之。流血灑處。其樹尚存。灑血之地。今爲泉水。……

等と、佛徒をして須大拏の布施行に就いての感激を新にせしむるに足る見學記を傳へてゐる。この一行は更に、佛沙伏城(Palusa)北一里の白象宮寺に詣り、寺内の佛事が嚴麗なる石象であつたこと、殊に須大拏太子夫妻が、兒女を婆羅門に施與する象が造られ、胡人はこれを見て悲泣せざるなしと傳へてゐる。⁷⁾

(6) 氏が Hölle mit dem Musikerchor と名けてゐる窟壁にある多數のシヤーマカの圖の一二、老婆羅門が太子に二兒の施與を求めてゐる場面 (Fig. 129) がある。また同氏の (Fig. 317, 674) も須大拏本生圖である。(A. Grünwedel *Altindische Kulpturen in Chinesisch-Turkestan*)
なを、賓陽洞よりは時代は下るであらうが、もつと支那に近い新疆省のミラ地方の佛寺の壁面にも、この物語が相當詳しく畫かれてゐる。(A. Stein, *Ruins of Desert Outlay*, I, Fig. 147)

(7) 『洛陽伽藍記』卷五
(佛沙伏城北一里。有白象宮。寺内佛事。皆是石象。壯嚴極麗。頭數甚多。賓陽洞の佛敎)

かくの如き須大拏本生圖は、北魏時代の印度に於いても、佛の諸本生譚の中でも特に盛に行はれて、繪畫化、彫刻化せられて、佛徒の感激を得てゐたのであり、その感激は洛陽方面の佛敎徒の間にも移入せられてゐた、と思はれるのである。

洛陽の東北、沁陽縣北孔村にあつた東魏武平元年^{西曆五四三}の僧俗九十人造像碑は、賓陽洞の成就からほど遠からぬ年代の、同じ文化域の遺物である。この碑面には釋迦傳と共に、須大拏本生が數場面に分つて詳しく畫かれてゐる。この像碑の集團を指導したものと認められる邑師、都維那等の多數の僧が列名してゐて、洛陽地方に於ては、北魏東魏の時代にかけて、僧徒によつて須大拏本生が、釋迦佛の徳を稱揚する上に盛に説かれたであらうことを、察せしめる實物の證據に供し得る。⁸⁾

要するに賓陽洞の須大拏太子本生圖の設計が、在來の漢譯佛典からか、支那旅行者の傳承・指導によつたか、外國佛徒によつて教へられたかは、にはかに決定されぬが、當時の洛陽佛敎界に、この本生譚がよく知られ流布し得たことは、充分推察し得るであらう。

賓陽洞の他の一の摩訶薩埵本生も亦、前者と共に最もよく流布した本生譚である。漢譯佛典では『六度集經』卷一、『菩薩投身餓虎起塔因緣經』^{北涼、曇無讖譯}、卷四、『賢愚經』^{北魏、慧覺等譯}、第一、及び『菩薩本行

(8) 通身金箔。眩曜人目。……寺内圖太子夫妻以兒女乞婆羅門象。胡人見之、莫不悲泣。
文は『八瓊室金石補正』卷十九に收む。本生の彫刻は、王城から檀壽山へ追放の場面から始まり、五百夫人皆送太子向檀壽山辭去時、隨太子馬時、婆羅門老得馬時、太子值大水得度時、三年小國婆羅門婦時、此婆羅門已生恨心、要婆羅門老好奴婢國去時、と説明文が附せられてゐる。檀壽山下で太子・妃二子の一行が大水に遇へることは、『六度集經』には見えぬが、『太子須大拏經』に見える。この經が太子を摩訶衍即ち大乘を求むる者として記してゐることに注意しておきたい。



第四圖 武平元年造像碑の須大拏本生圖

『經』などに見え、法顯も、宋雲・惠生も、その遺蹟を巡禮した記事を傳へてゐて、印度・西域・支那・日本にわたつてその遺物も少くない。

この本生は、昔、佛は王子摩訶薩埵 (Maha-Sattva) として生れ、二兄と共に山林中で母虎が七匹の子と共に飢餓に瀕せるを見て、自ら衣を脱ぎ崖上から虎に身を投じ與へて彼等の餓死を救つた、佛は過去生にかくの如き布施行をなすとげ、今や佛になられたのだと教へる。

さて敦煌第一三五窟のこの本生圖は『金光明經』によつたものと認められるが、賓陽洞の彫刻も、故平子鐸嶺氏の模寫によれば、脱衣の王子が竹林中の山崖から七子をつれた虎に身を投ずる状が示されてゐて、『金光明經』によつてゐると思はれる。大竹林中にて七子の母虎に投身したとするものは、『金光明經』である。賓陽洞のこの本生圖が大乗經典なる『金光明經』に導かれてゐると認められることは、前述の如くこの窟が、大乘を高揚してゐる窟たることに契

合して、興味深いし、北魏佛教の史實とも合する。『金光明經』は北涼の曇無讖の譯である。北魏の太武帝は、曇無讖を求めたが、北涼はこれを許さず、終に曇無讖を殺してしまつた。しかし間もなく、北魏軍は北涼を征服し、その涼州地方の住民を多數に大同地方へ移住せしめた。随つて頗る盛であつた涼州佛教が大に流入した。涼州佛教の中心は、曇無讖が傳譯した佛教であつたから、この系統の佛教徒が多數に大同地方に移り、北魏佛教を急に盛ならしめたのであつて、雲岡石窟の造營せられた前後の佛教指導者は、沙門統第一代の師賢、第二代の曇曜などを始めとし、涼州系のものが多い。かくて曇無讖の傳譯した佛教、例へば『金光明經』や『大般涅槃經』の如き大乘經は、北魏佛教界の一の主要な指導佛典をなすに至つてゐたものである。

以上の如くであるから、須大拏本生や摩訶薩埵本生が、北魏の宣武・孝明帝時代に成就した賓陽洞に現はれることには、別に不思議はない。晋時代に盛に渡來した佛教傳道者は、教祖釋迦佛が成佛を得たのは、單にその生涯前半の出家修行の成果に非ずして、過去世の數百生涯にわたつて、布施・忍辱等のあらゆる苦行を成就し、善徳を積累し來つた結果に、報いられたものである、と説いたのである。印度やセイロンでも、また西域諸國でも、佛徒がかゝる本生譚を説くことによつて、釋迦の成佛が尋常ならざる事であつたことを示し、佛の威神功德力を高揚してゐたことは、種々の資料から明かにされる。法顯がセイロン島の都城、阿菴羅陀補羅 (今の Anuradhapura) で見學した所は、よくかゝる本生説話による傳道の盛況を髣髴せしめる。

其城中、多居士長者薩薄商人。屋宇嚴麗。巷陌平整。四衢道頭、皆作說法堂。月八日、十四日、十五日、鋪施高座、道俗四衆、皆集聽法。(中略)佛齒常以三月中出之。未出十日。

王莊校大象。使一辯說人。著王衣服。騎象上。擊鼓唱言。菩薩從三阿僧祇劫。苦行不惜身命。以國妻子及挑眼與人。割肉質鷲。截頭布施。投身餓虎。不悞髓腦。如是種種苦行。爲衆生故。

王服をつけた辯説の人が、象の上から鼓をうち唱言する所は、佛の過去生の本生説話である。その中には妻子を施與する話もあつたし、投身餓虎の話もあつた。衆生の爲にかゝる身命を惜まざる苦行を積んで、釋迦佛は成道せられたと、辻説法が巧みな語物師から唱はれる。支那の佛教變文の源流は、既にこんな所にあるともいへやう。

却後十日。佛齒當出至無畏山精舍。國內道俗。欲殖福者。各各平治道路。嚴飭巷陌。辦衆華香。供養之具。如是唱已。王便夾道兩邊。作菩薩五百身已來種種變現。或作須大擎。或作駝變。或作象王。或作鹿馬。如是形像。皆彩畫莊校。狀若生人。¹¹⁾

街頭に於ける餘興には、所謂五百本生譚が造り物として飾られる。

(9) 北涼の高昌國沙門、法盛譯の『菩薩投身餓虎起塔因緣經』(高麗本)の末に爾時國王、聞佛說已。即於是處。起立大塔。名爲菩薩投身餓虎塔。今現在塔東面山下。有僧房講堂精舍。常有五千衆僧。四事供養。法盛爾時見諸國中。有癩病。及癩狂聾盲。手脚跛。及種種疫病。悉來就此塔。燒香然燈。香塗塗地。修治掃灑。并即頭懺悔。百病皆愈。前來差者便去。後來輒爾。常有百餘人。不問貴賤皆爾。終無絕時。投身餓虎の遺跡が設定せられ、その塔寺は廣く佛徒の信仰を集めて、祈願者のたへない所となつてゐたのであつた。

『法顯傳』の建陀羅國の條に復東行二日。至投身餓虎處。此二處亦起大塔。皆衆寶校飾。諸國王臣民競興供養。散華然燒。相續不絕。といひ、また宋雲・惠生の見聞には、左の如く出てゐる。去王城烏場國東南山行八日。如來苦行。投身餓虎之處。高山巔巔。危岫入雲。嘉木靈芝。叢生其上。林泉婉麗。花綵曜目。宋雲惠生。割捨行資。於山頂造浮圖一區。刻石隸書。銘魏功德。山有收骨寺。三百餘僧。またこの本生の圖が、わが法隆寺の玉蟲厨子に見えることは夙に有名であり、

賓陽洞の佛教

その中には須大擎本生もあつたし、睽仙人本生もあつた。かくの如く本生譚が佛教の儀禮や傳道上に、造り物化し語物化までして、大衆的に流布してゐた盛況を傳へてゐる法顯の旅行記は、北魏の洛陽地方の佛教界でも、よく讀まれてゐたものである。¹²⁾ されば、賓陽洞の本尊釋迦佛の前方に、本生譚が彫刻せられるのは、寧ろ當然であらう。

唯こゝで解釋し難いことは、この雲岡石窟に準じて經營せられた帝王の窟に、雲岡に見られなかつたかゝる二種の本生譚が、何が故に特に選ばれたかである。この二本生譚は、共に自己の所有の一切を、殊にその最愛の妻子までも、更にまた自己の血肉をも施與し、生命を犠牲にして惜むことなき、寧ろ陰慘なまでに自己犠牲の善が強調せられてゐるものであつて、かゝる本生譚が、何故に帝王の窟に選ばれるに至つたかである。これを説明するに足る資料はないが、一二の推測説をなし得やう。

賓陽洞を始め北魏龍門窟は、明かに大乘佛教を高揚するもので、本

また西域では例へば前述の、グリエンウエーデル等によつて、チオルチユク(Chorchuk)やキチルの遺物が紹介せられてゐる。

(10) 沮渠蒙遜、在涼州。亦好佛法。有罽賓沙門曇無讖。習諸經論。於姑臧與沙門智嵩等譯涅槃經十餘部。蒙遜每以國事諮之。神廳中。帝世祖命蒙遜送識詣京師。惜而不遣。既而魏懼威責。遂使人殺識。涼州自張軌後。世

信佛教。敦煌地接西域。道俗交得其舊式。村鳩相屬。多有塔寺。太延中(五年即西涼州平。徙其國人於京邑。沙門佛事皆俱東。象教彌增矣。

拙稿「北魏太武帝の廢佛毀釋」支那佛教史學一ノ四參照。

(11) 足立嘉六氏の『考證法顯傳』(二三六頁)によつた。但し、氏が文中の、須大擎を長者須達多のこととし、睽變を焰にして佛の涅槃をさすと、注釋してをられるのは、養成し得ない。文は五百身生云々を説明してゐて、本生譚たること明瞭であり、睽變は睽仙人本生變の謂である。變相・變文等といふ變の用例の古いものとして、鼓をうつて唱ふ本生語り師と共に、支那の所謂變文々學研究者が、注意してよいものである。

(12) 『魏書釋老志』に法顯所逕諸國傳記之。今行於世とある。

尊釋迦佛は、大乘佛教の説示者である。大乘の行者は、所謂六波羅蜜の行を實踐して佛道に達するものとせられる。殊に身命をも惜まず他の爲に己を犠牲にする布施波羅蜜は、その第一にあげられ、小乗の聲門を自己満足の自利行者として排斥するのと對蹠的に、大乘教徒によつて特に強調せられる、利他大悲の行である。二本生譚は、かゝる利他大悲の布施行、犠牲的精神を、極度に高揚せる菩薩の深刻偉大なる事蹟として、最もよく佛徒の間に傳承せられてゐたものである。そして僧徒が王者に最も期待し得るものは、布施である。龍門石窟造營の如き大事業に、莫大な出資をなす王者の徳は、昔の釋迦佛の本生時代につまれば布施波羅蜜の徳行に準じて、稱讃せられ得るであらう。この點で二本生圖は、その下の皇帝皇后の禮佛圖に結びつき得る。

更に思ふに、雲岡石窟も龍門の北魏窟も、共に釋迦佛を本尊としてゐるものであるが、兩者に表現せられてゐる釋迦佛を比較する時、兩窟開鑿指導者の釋迦觀の上に、若干の變化が看取せられるやうに思ふ。それは年代的變化といふよりも、大同の北邊と洛陽中原とに於ける、文化程度の差異、兩地の佛教徒の佛陀觀の深淺に、歸せしめて考へ得るやうに思ふ。

雲岡の石窟の造像は、現實の釋迦傳歴を中心としたものであるといつてよい。釋迦の誕生・占相・宮廷生活から、出家・入山・成道を経て、入涅槃に至るまでの一生の傳歴を、彫刻し説明せんとすることに努力がはらはれてゐる。尤も、この現實の一生涯の遠い由來を説明する前生のこと、例へば儒童本生——梵志儒童が錠光佛の爲に、一女より特に花を買ひ求めて供養し、また佛の足をけがさざらん爲に、自らの髪を泥地にしいてこれを踏み行かした。そして錠光佛から、將來汝は釋迦佛として成佛するであらうとの豫言、所謂「授記」をうけた

といふ話の如きは、屢々彫刻せられてゐるが、それも釋迦誕生へ接續するものとして、即ち現實の釋迦傳歴の一部を構成するものとして彫刻せられてゐると解せられる。

要するに雲岡の石窟では、悉達太子として誕生し、修養して成佛に達した釋迦佛、支那流に換言すれば、印度で、聖人若しくは神仙となる修養を成就した人、即ち人間的釋迦の現實一生の傳歴を、記述説明することに重點がある。

これに對し、賓陽洞に於いては、釋迦佛はもつと超人間化され、もつと高く聖なるものとせられて來てゐる。印度の悉達太子の修養から成佛へ達する、人間釋迦の聖賢神仙的傳記を示さんとするよりも、超人間的釋迦佛が、如何に遠大な修行の積累の後に成就せられたものであるか、『法顯傳』の説をかりれば、衆生の爲の不惜身命の布施苦行を、如何に久しく生々世々にわたつて完遂した後に、佛が出現したものであるのかを、示さんとするにある。前者に地上の聖人的釋迦の性格が強いとすれば、後者には慈悲無限、威力自在な、神的性格が強くなつて來てゐる。雲岡では、帝王になぞらへられた佛、「帝王即如來」と説明せられた佛であるのに對し、洛陽龍門では、帝王をも教化指導する佛、一切社會の指導救濟者としての佛へと、超人間的神として高められて來てゐるやうにかゞはれる。また印度の釋迦佛に對する理解が、外面的から内面的に進んで行つてゐる大勢をも、うかがひ得ると思ふ。この變移はまた、漢・魏時代の傳來初期の釋迦傳歴中心の佛教から、晋時代の教義研究の佛教へ進んだ、支那佛教の歴史と、同じ過程を示してゐるものともいへやう。そしてこれは、恐らく北邊大同と中原洛陽とに於ける、精神生活の程度の差に應じて受容された、釋迦觀の變化に歸して考へてもよからう。

さて賓陽洞に現はれた佛教の要旨は、奥壁の五尊形式の本尊と、これに對する前壁に彫刻せられた維摩・文殊の法論によつて示した維摩經圖と、その下の二本生譚とを、一連として、考へられるべきものである。

前壁の本生譚は、本尊の過去を示し、原因を示す。過去の本生とその現在の成果である佛とを、對立的に取扱つてゐる圖様が、支那トルキスタン地方に遺存することを、グリユンウエーデル氏も、紹介してゐる。¹⁴⁾ 維摩經圖は、その現在佛の說法、特にその理想が『維摩經』に説かれてゐることを示す。本尊釋迦佛は、實に衆生の爲に、久遠の過去から生々世々に、あらゆる苦行を成就して徳を積んでこられた。殊に二本生譚に示されてゐるやうな、自己の一切を犠牲にした利他の行を完遂し累積した上に、佛となられたものである。その佛は脇侍の二聲聞二菩薩によつて示されてゐるやうに、聲聞類型の弟子たちを證悟に導く爲に小乗教を説き、またすぐれた菩薩類型の者を證悟に導く爲に大乘教を説かれた佛である。佛は大小二乗の諸教を説かれたが、大乘『維摩經』は、その最も重要なものである。蓋し佛の眞意は、すべての人を大乘教に歸入せしむるにあり、佛教は小乗を止揚して大乘へ進趣するものである。支那に傳譯せられた大乘諸佛典は、小乗の行者を消極的自利的證悟の世界に自己満足してゐるものとして貶斥し、進んで利他を圓滿し、自由無礙なる教化救済に活動する大乘の證悟こそ、眞佛教なりと強調した。支那の佛教徒も、多くかゝる大乘教を信受して、己を空くする利他行を以つて大乘菩薩の特色として大に説いたものである。賓陽洞に選ばれた二本生譚も、かゝる大乘菩薩行完成の釋迦佛

たることを示し、維摩・文殊と、並に五尊式本尊佛と共に、大乘『維摩經』の如き大乘教を歸趣とする佛教を顯揚する窟を構成するものであり、これこそ、宣武・孝明時代、即ち北魏の洛陽盛期の、中央佛教の大勢を表現してゐるものと考へられよう。而してこの事を、吾人は佛教史に徴して明かになし得るのである。

第三節 佛教史上に於ける北魏窟の意義

以上、龍門に於ける代表的な二大北魏窟の佛教を概観して、何れも大乘佛教を高揚するものであることを明かにした。そしてそれが、『法華』『維摩』等の大乘經による大乘佛教であることを表はして居り、また賓陽洞の五尊形式本尊窟になつては、「小乗教を包攝して而も大乘教へ歸趣せしめる佛教」といふ主張を、うかゞひ得べしと推論した。

兩窟の他にも、龍門の北魏窟としては、蓮華洞(第十三窟)、魏字洞(第十七窟)を始め、數窟が、今の奉先寺大佛の附近、即ち最初の宣武帝發願の帝室造窟が着手せられた場所に近い所に、數へられ得る。それ等は、賓陽洞と相前後して造られたものが、多いと認められる。これ等の窟の建築的彫刻的解説は、水野長廣兩君の所述について見られたい。たゞ私としては、

(一) これ等の窟の本尊も五尊形式、即ち二僧二菩薩を脇侍とする佛であること、

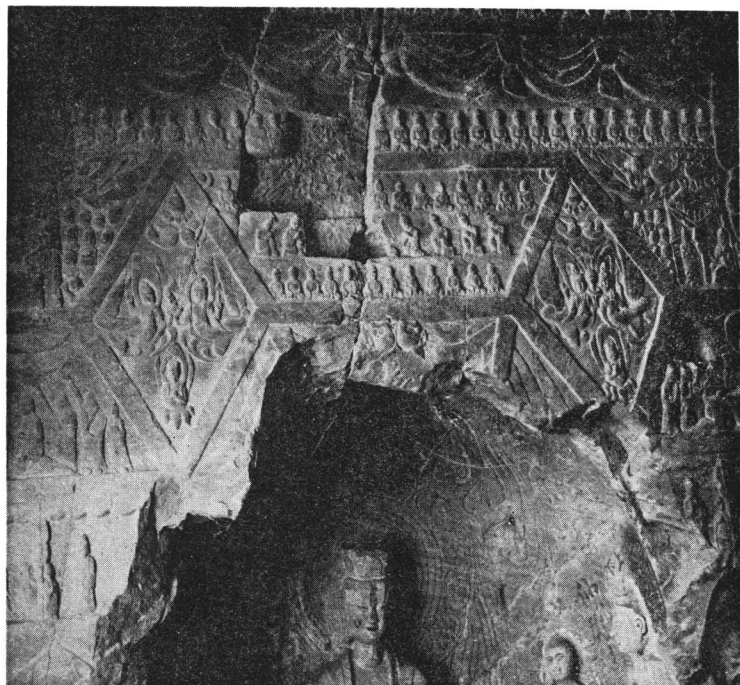
(二) またこれ等の窟に見られる、神龜・正光・孝昌等の、北魏の洛陽佛教極盛期の紀年造像記をもつてゐる諸佛龕が、殆んど一樣に、

(13) 拙稿「支那文化史蹟第一輯を閲覽して」(佛教研究三ノ四)参照

(14) *Ab buddhistische Kultstätten in Chinesisch-Turkestan. Höhle mit dem Musikerchor.*

龕の入口の上部の裝飾的意匠として、維摩と文殊とを左右に分つて配置して彫刻してゐること、そして兩者の問答の内容、即ち『維摩經』こそ、本尊佛の代表的な教であると示してゐるかの如くに造つてゐることを注意しておきたい。

例へば、第五圖の魏字洞南壁の大佛龕は、その中尊は冠を頂いてゐる菩薩であつて、恐らく彌勒菩薩と推定して誤りないものである。その脇侍には二羅



第五圖 魏字洞南壁佛龕

漢と二菩薩とが配せられて、大乘と大乘との佛教聽受者が示されてゐる。上部には思惟菩薩が左右相對して現はされ、將來は成佛すべき佛たることが示されてゐる。その上部には、文殊菩薩

と維摩居士との問答があり、多くの聲聞がこれを聞いてゐる。聲聞たちの小乗教が呵責せられ貶せられ、大乘教が高揚せられてゐることを示す。その下部に多數の小佛の坐像が造られてゐるのは、賢劫千佛であらう。『維摩經』の法供養品第十三には、賢劫千佛の本生譚が述べられてゐる。然らばこの魏字洞南壁の大龕は、さながら『維摩經』の内容を具體的に顯示せんと計畫した、一幅の維摩經變相であるといつ

てもよいものである。

また蓮華洞左壁にある孝昌三年の宋景妃造釋迦佛龕石刻錄三五二は、二聲聞二菩薩を脇侍とした釋迦佛を本尊とし、上部には七佛がならび、更にその上部に文殊・維摩の問答が現はされてゐる。(第六圖)七佛は恐らく過去七佛であらう。『釋老志』に、

釋迦前有六佛、釋迦繼六佛而成道。……將來有彌勒佛、方繼釋迦而降世。



第六圖 蓮華洞内孝昌三年釋迦佛龕

といふやうな、北魏時代の佛教徒の世系的佛陀觀を現はしてゐるのであらう。何れにしても、佛は聲聞並びに菩薩の教を説かれたが、その究竟の理想は『維摩經』に示され

てゐるやうに、菩薩の大乘佛教を以つて理想とするとの佛教觀が、具現せられてゐると解してよい。換言すれば、宣武・孝明以來の龍門に於ける北魏窟北魏佛龕にも、賓陽洞に於けると、ほゞ同じやうな佛教の思想信仰が現はされてゐる、といつてよいのである。

さて私は本節に、かゝる龍門北魏窟に現はれた佛教の思想信仰が、支那佛教發展の歴史と如何に契合してゐるかを論じて、本章の結びにしようと思ふ。

支那では、西曆第二世紀の中葉、後漢の末に、帝都洛陽に來た安息の安世高と、月支の支婁迦讖とによつて、先づ漢譯佛典が提供せられたが、前者の譯典が小乘佛典、後者のそれが大乘佛典であつたこと、換言すれば、兩者は同じく佛教徒ではあつたが、國籍を異にし、奉ずる佛教を異するものであつたことに注意を要する。尤も、かゝる漢譯佛典を受容した支那人は、尙當分の間は、佛教教義に就いての充分な知識もなく、大乘・小乘の兩佛典の對立的教義に就いての識別も充分なし得なかつたので、兩者の佛教は、共に、同じ釋迦の聖典として單純に奉戴せられて行つた。

魏晉以來、漢譯佛典が益々増加したが、支那知識層の間には、前述の如く『法華』『維摩』及び『般若經』が、次第に多くの信者と研究者を集めて行つた。三經は共に、大乘教を宣揚するもので、就中、「空」の教義を説ける『般若經』及び同じ思想に立脚して談論の形をとれる『維摩經』は、漢時代の官學儒家思想に代つて、魏晉時代の學界をリードするに至つてゐた老莊學の「無」思想と、相類似せる說相をもつてゐるので、魏晉の僧俗知識階級が最も愛翫研鑽する所となつた。¹⁾ 西曆第四世紀の中葉以來の支那佛教界は、『般若經』の空義を中心とした教學が主流をなし、有名な釋道安の如きは、實にかゝる教學界の指導的巨匠であつた。しかし道安に於いても大小乘多數の漢譯諸佛典の間に存する教義の相異、これ等の諸教義の全體的統一的歸趨、各經相互間の價值判定や連絡會通の如きは、未だ必ずしも明確ではなかつた。

彼は特定の大乘佛典に對して他の經を、殊に小乘諸佛典を、劣等視し排斥するが如き態度は示してゐない。安世高・支婁迦讖兩人の傳譯佛典を、同様に佛説として尊崇してゐるし、²⁾ また彼の時代には阿含經』等の小乘經典を始め、小乘教の代表的なものとされる一切有部派の系統の論著も傳譯せられ、彼も熱心にその譯出に盡力してゐる。³⁾

教義研究の漸く進んできた佛教學界では、般若教義解釋上に、異義紛出して歸する所を知らぬ状態となつたし、小乘と大乘との異種佛典は、愈々増加して、何を以つて歸趨とするかも明かでない。かゝる異義を解決し、雜多の諸佛教に歸趨を與へるものとして、道安の寂西曆三八五後間もなく、道安をはじめ支那佛教徒がかねて敬慕してゐた龜茲の鳩摩羅什 (Kumarajiva) が、後秦王姚興によつて長安に迎へられた。⁴⁾ 王の希望により、内外僧俗の多數學者を集めて羅什を中心とする大翻譯事業が創められ、從來の支那佛教界が最も信奉し研究し且つ異義續出に苦しんでゐた『法華』『維摩』『般若』等の大乘經典を、再譯訂正し且つ講述し、殊に新譯『般若經』と並行して、この經の注釋として最大の權威をもち得る、印度の龍樹 (Nagarjuna) の著『大智度論』一百卷をも譯出した。

龍樹は印度佛教界に於ける、大乘佛教の最初の組織者として空前の大師とせらるゝ者、羅什はその大乘教を自ら奉ずる者、そして支那佛教徒は、羅什を以つて絶対に信賴すべき三藏法師と尊敬してゐる。龍樹と羅什とが、支那佛教界にもつ權威は、ほとんど絶對的であるとい

(1) 拙稿魏晉佛教の展開 (史林二十四ノ四及び支那佛教 (世界精神講座 第二、

「支那精神所収」に、かゝる支那佛教の發展過程を論述しておいた。参照を乞ふ。

(2) 『出三藏記集』によつて、彼の撰述せる譯經目錄を見るに、隋代の經錄の如く、大乘小乘によつて譯出佛典を分つてゐない。また『出三藏記集』所収の、彼

の撰述になる諸經序を参照せよ。

(3) 『高僧傳』の道安、曇摩難提、僧伽跋澄、僧伽提婆等の傳、及び『出三藏記集』所収の、「增一阿含序」「中阿含序」「阿毘曇心論序」「轉婆沙序」等参照。

つてもよいほどである。更に羅什は、この支那佛教徒が拒否し反對し難い佛教母國の權威である龍樹と、その弟子提婆 (Arya-Devā) との代表的な諸著述を、これ等二大師の傳記と共に譯出紹介した。⁴⁾ 印度の大乗佛教の指導者であつた二大師の人格と著述とが、今や、羅什を通して、支那佛教を導き得るやうになつたのである。

龍樹・提婆の大乗佛教の提唱は、佛教内にあつては明かに小乗諸派の學說に對立して主張せられてをり、『般若經』の「空」教義を中心に、『法華』等の大乘諸經典に立脚して組織せられてゐるものである。そしてこれ等の大乘教典こそは、羅什渡來時代の支那佛教界が、最も重要な指導的聖典として信奉し、研究し、且つ多くの疑義に惱まされてゐたものである。かくて支那中原の佛教界の進むべき方向は、殆んど決定的となつた。羅什譯の龍樹・提婆の大乗佛教を指導とし權威とする佛教へ、小乗から大乘へ、の方向が定められたのである。般若の教義に關して續出してゐた諸異説、殊に老莊思想による解釋の如きは、此に一掃せられ、龍樹・提婆による解釋へと進んで行つた。⁵⁾

もつともこの間は、また、西北印度地方では、小乗一切有部派の盛期であつたので、この派の傳譯者も少なからず支那に來り、その教義をまとめた諸論、所謂、諸阿毘曇も續々譯出せられた。しかし長安佛教界の中心をなす羅什が、既に小乗有部の學を修めてから、次で龍樹系の大乗教に接し、小乗を止揚して大乘へと進んだ傳歴をもつた人である。⁶⁾ 大乘論・小乗論の譯出によつて大小乗教の教義の差異が漸次明かにされると共に、小乗を以つて大乘の從屬的方便的なるものと判定し、大乘を以つて、究竟眞實佛教なりとする信仰は、殆んど動かし難き支那佛徒の考へ方となり、信仰ともなつて行つた。この羅什傳譯時代が、實に北魏建國初世の時代のことであり、やがてこの羅什佛教が

指導する中原地域は、すべて北魏の領有統治する所となつたのである。印度に於ける大乘學派と小乗學派との對立が明かにされ、大乘によるべしとせられたとはいへ、支那佛徒は、これ等小乗學派の所依の經典となつてゐる小乗の阿含等の經典を、非佛説とはしなかつた。大乘小乗の經典は、等しく佛所說の聖典として尊崇信受する態度をすてなかつた。此に多數雜多の大小乗經典に對する統一の要求が、必然に佛教指導者の間に起る。それは、小乗經を包攝してより高き大乘經へ進趨するといふ方向に於いて、組織され統一せられて行かねばならなかつた。小乗を棄揚した大乘教、これが佛の眞實教であり、最高教義である、とする形をとるものであつた。そして先づ羅什傳譯の龍樹系佛教は、かゝる從來の夥しい數に達してゐる漢譯諸經典の統一組織化に進まんとする、支那佛教の指導となつたものであつた。

しかし、支那佛教界の現實は、たえず西域印度の佛教母國から來る所の、支那佛教徒としては拒否し反對し難い外國三藏によつて、新譯佛典が提供せられて、在來の組織の中へ新しい聖典教説をくみ入れることが要求せられ、まとめられた統一も、再び未統一の雜多へとみだされざるを得ない。かくて不斷に新しい佛典教義の追加を包攝しつゝ、一元化統一化の努力がとげられて行かねばならなかつた。而も「小乗を包攝した大乘へ」の方向は、大體に於いて動かなかつた。この中へ追加された新佛典教義の重要なものとしては、北魏佛教界にあつては、まづ長安地方に續いて北魏の領有治下に統一せられた甘肅地方に建國してゐた、北涼に於ける佛教があつた。そは曇無讖が傳譯した大乘の『涅槃經』、『金光明經』、などが代表するものである。次で長安の羅什教團から賓出をうけて南方にうつつた、佛陀跋陀羅等によつて譯された『華嚴經』や宋の元嘉十三年^{西曆四三六} 求那跋陀羅、寶雲等によつて譯

された『勝鬘經』等があつた。これ等の大乘諸經典が、小乘諸經典と共に、一釋迦佛の説法として如何に矛盾なく組織され、統一せられた教義實踐を導くものとなし得るかが、新たに、南北朝時代の支那佛教學者に課せられた最大の問題であり、印度佛教と異なる新支那佛教は、この上に展開せられるのである。

さて龍門石窟造營時代の洛陽の佛教學界は、明かに、上述の如き小乘を包攝せる大乘教が、専ら高揚せられてゐる大乘學時代であつた。羅什以後、北魏孝文帝時代の直前頃の、黃河流域地方の佛教學の大勢をうかゞふ資料として、梁の慧皎の『高僧傳』から二學者をあげておかう。

(一) 道融。羅什の譯業に參與し、新譯『法華經』の出づるや、羅什の命をうけてこれを講じ、羅什をして「佛法之興、融其人也。」と歎ぜしめたといふ。後に彼は彭城(徐州)にあつて七十四の高齡まで講經し、この地方の佛教學界の中心となつた。その宣揚した佛典は、左の如き大乘經典であつた。

融後還彭城。常講說相續。聞道至者、千有餘人。依隨門徒、數盈三百。……懇懃善誘。畢命弘法。春秋七十四矣。所著、法華、小品、金光明、十地、維摩等義疏。並行於世矣。

(二) 慧靜。慧靜は東阿東の人にして、少くして洛陽地方に學び、晩年には徐州・兗州地方に法を弘めた。容貌の甚だ黒かつた彼と、耳の甚だ長大であつた洛陽の道經とは、佛教學界の好話題となつて喧傳せ

られたものである。

時人語曰。洛下長大耳道經。東阿黑如墨慧靜。有問無不酬、有酬無不塞。

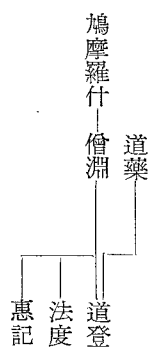
と。而して慧靜の説法の盛況は、左の如く記されてゐる。

每法輪一轉。輒負帙千人。海内學賓。無不畢集。

その讀誦し講述した經典は、

誦法華、小品。注維摩、思益。著涅槃略記。小品旨歸。及達命論、並諸法師誄。多流傳北土。不甚過江。宋元嘉中四二四卒。春秋六十餘。

北魏の孝文帝以前に、彭城は支那の佛教學の中心をなしてゐたが、孝文帝の近側には、この彭城地方の佛教學者が盛に活動したものである。羅什に系統を引く僧淵門下の道登、法度、惠紀等であつて、殊に道



登は僧藥から『涅槃』、『法華』、『勝鬘』の諸經を學び、僧淵から『成實論』を學び、孝文帝に常侍講説し、その太和二十年卒するや、帝は甚だ哀悼し、爲に一切僧齋を設け帝都で七日行道せしめたものである。以上の諸師の佛教に『法華』・『維摩』の二經の見えざるものはない。太和年間に着工せられてゐる龍門の石窟に、この經の信仰がまづ現はれてゐるのに、不思議はなからう。

(4) 龍樹撰『中論』四卷、同『十二門論』一卷、提婆撰『百論』二卷、及び『龍樹菩薩傳』、『提婆菩薩傳』が譯出せられた。以上の三論を中心にして、隋時代

には、吉藏によつて、三論宗が成立した。これに『大智度論』を加へて四論と稱し、北魏以來の北朝では、四論學派の名が行はれてゐる。『出三藏記集』

佛敎史上に於ける北魏窟の意義

所收の羅什門下等の手になるこれ等の論の序を参照せよ。

(5) 前出拙稿支那佛敎參照。

(6) 『出三藏記集』及び『梁高僧傳』の鳩摩羅什傳、及び譯出小乘經論の序參照。

(7) 『魏書釋老志』、但し『高僧傳』は道登の卒時を景明中とす。

次に北魏の洛陽遷都以來の、洛陽佛教學界の指導者として名の傳へらるるものに、前に道辯あり、後に曇無最がある。道辯は孝文帝に歸依をうけた人である。その著として、『維摩經』、『勝鬘經』、『金剛般若經』を注し、また『小乘義章』六卷、『大乘義五十章』の著が世に行はれたとある。⁸⁾これ等の著は、今日傳はらぬが、北魏の世には行はれたとある。その書名からしても、小乘教義概説、大乘教義概説が、支那佛教學者によつてまとめられつゝあること、そして、それが、小乗から大乘へと進ましめ、大乘佛教を顯揚する傾向にあつたことが、明かに看取されるであらう。

曇無最是北魏洛陽佛教の全盛期、宣武・孝明兩帝時代の學者である。清河王懌が建てた融覺寺に住して、『涅槃經』、『華嚴經』等の大乘經を講じた。寺は佛殿僧房一里に充溢する大寺であり、彼は千人の僧衆を領する教團主であつた。その著に『大乘義章』があつた。恰もこの頃、洛陽に來て『十地經』、『楞伽經』並に印度に於ける龍樹の大乘佛教に對比せられる無著 (Asaṅga) の系統の大乘佛教を傳譯した菩提流支は、彼を見て禮して菩薩といひ、また『大乘義章』を讀んで賛歎し、これを翻譯して西域に傳へしめたといふ。⁹⁾

洛陽に於ける支那佛教學者の大乘を宗とする大勢は、もはや動かすべからざるものとなつてゐた。そしてまたこの頃、新に西方から傳來した佛教も亦、菩提流支に見るが如く、大乘佛教を宣揚するものであつた。靈太后の命を奉じて印度に求法した惠生のもたらした所も、大乘妙典であつた。『洛陽伽藍記』が、

神龜元年十一月冬。太后遣崇立寺比丘惠生、向西域取經。
凡得一百七十部。皆是大乘妙典。

とて、皆大乘妙典であつたことを、特記してゐる所に、當時の洛陽が、

専ら大乘妙典を讚仰する佛都であつたことが察せられる。

『續高僧傳』卷一釋曇曜の傳の末に、北朝の譯經や佛教關係の撰述のことを述べてゐるが、

西魏文帝大統中^{五三}丞相宇文黑泰、興隆釋教、崇重大乘……
第內常供百法師、尋討經論、講摩訶衍、又命沙門曇顯等、
依大乘經、撰菩薩藏衆經及百二十法門。始從佛性、終盡融、
門。每日開講、卽恆宣述、以代先舊。五時教述、迄今流行。

とあるのは、北魏時代の中央に於ける大乘佛教高揚の繼承に外ならぬ。『洛陽伽藍記』卷四に、陳留王景暉が、形而上的な學を好み、佛教に親しみ、遂にその宅の半を喜捨して佛徒を安置して、有名な内外の僧をして大乘佛典の講席を張らしめたことが見える。曰く

演唱大乘數部竝進。京師大德超光、暉榮四法師、三藏胡沙門
菩提流支等、咸預其席。

さながら大乘佛教講述の競演の感がある。

以上の數例を以つてしても、北魏洛陽の佛教界指導者たちが、『法華』、『維摩』、『涅槃』、『華嚴』などの諸大乘經典を、それぞれの立場で講述して門徒を集め、またこれ等の諸大乘經典を釋迦佛一代の説法中にそれぞれ地位を與へて連絡せしめ、一大乘佛教教義としてまとめを行かうとする努力をしてゐたことが、十分に察せられる。この大乘佛教經典の高揚研究の中から、やがてその一經を中心にした支那大乘諸宗が分立發展して行くべき情勢が、既にこゝに成立してゐることもうかがひ得るであらう。

次に、北魏の洛陽佛教學界に於ける指導的僧徒から眼を轉じて、この中に於ける官界俗人知識階級が、いかなる大乘佛典を受容し、また大乘小乗の諸教義の差別を如何に信受し了解してゐたか、をうかがふべ

き、一二例をあげて見よう。

温子昇字は神龜・正光の頃から魏末にかけて、文才を以つて稱せられた洛陽の代表的な文學者である。¹⁰⁾多くの寺の碑文を作つてゐるが、その定國寺碑の文に、左の如き一節がある。

(上略)惟無上大覺、均悟玄機、應現託生、方便開教、聖靈之至、無復等級、威神之力、不可思議、動三乘之駕、汎八解之流、引諸子于火宅、渡群生於海岸、自一音輟響、雙樹潛神、智慧雖徂、象法猶在。光照金盤、言留石室、徧諸世界、咸用歸仰。『藝文類聚』卷七十七

文中に「三乗の駕を動かし」とか、「諸子を火宅に引く」とかいふものは、『法華經』に依つた文である。また「一音響を輟めてより」といふ一音を以つて佛の説法をさすことは、『維摩經』の有名な「佛一音をもて法を演説したまふ。衆生は類に隨つて各々解を得」なる文に由來してゐるものである。換言すれば、温子昇は佛敎の代表的な經典として『法華』、『維摩』の大乗二佛典の知識を、よくそなへてゐた人であり、龍門の北魏窟龕に現れてゐる所ともよく一致してゐるのである。

また北魏國史の編纂官、魏收の、大小乗の諸佛敎教義に對する知識を『魏書釋老志』にうかゞつて見よう。曰く

初階聖者、有三種人。其根業各差。謂之三乘、聲聞乘緣覺乘大乘。取其可乘運、以至道爲名。此三人惡迹已盡、但脩心盪累、濟物進德。初根人爲小乘、行四諦法、中根人爲中乘、受十二因緣、上根人爲大乘、則脩六度、雖階三乘、而要

由脩進萬行極度億流彌歷長遠、乃可登佛境矣。

これは、北魏末頃の洛陽官界の佛敎觀を代表するもの、ある意味では公認佛敎概説といつてよいものである。佛敎受容者に、聲聞、緣覺、菩薩といふ淺深次第する三階級の存在を認め、それらに應じた三乗の佛敎の存在を認め、而もこれ等のすべてが、一佛敎に歸するものとしてゐるのである。

かくの如き、菩薩の大乗敎を佛敎中の最も高き地位におき、而も三乗即ち諸種の佛敎を究竟の佛敎に歸入せしめる佛敎觀は、前述の如くに、羅什の傳譯弘敎以來の、支那佛敎指導者がとり來つた一般的傾向であつた。また實に、北魏の洛陽僧俗社會に最もよく流通し、龍門の北魏窟の上にもよく現はされてゐる諸大乘經典の中に、最も明かに説示せられ、高揚せられてゐる所である。

『勝鬘經』一卷は、約八千五百字の短篇に、よく大乘の要義を説いてゐるのみならず、佛から將來成佛する豫言を與へられた王夫人勝鬘をして、これを説かしめる結構になつてゐて、恰も在俗の居士や結髮菩薩を説法者としてゐる『維摩經』が、貴族男性に愛誦せられるやうに、貴族女性に特に親しまれるものである。崇佛の靈太后が統治してゐた頃の洛陽の如きは、『勝鬘經』の最も行はれ易い處であつて、實際よく行はれてゐる。經には

攝受正法者。是摩訶衍大乘。何以故、摩訶衍者。出生一切聲聞緣覺世間出世間善法。世尊。如阿耨大池出八大河……
又如一切種子皆依於地而得生長。

(8) 『續高僧傳』卷六。

(9) 『洛陽伽藍記』卷四による。また『續高僧傳』卷二十三の曇無最傳を参照せよ。

(10) 温子昇の傳は『魏書』卷八十五、『北史』卷八十三に收む。彼の撰せる寺碑として、この定國寺碑の外にも、襄陵山寺碑、印山寺碑、大覺寺碑などの文が

傳つてゐる『藝文類聚』卷七十七。

(11) 魏收の傳は、『北史』卷五十六、『魏書』卷一〇四の自序、『北齊書』卷三十七に見える。但し後の二者は、原文夙に失はれて、『北史』からとつたものである。

とて、二乗即ち小乘法が、大乘によつて出生し成長し得ること、諸河が阿耨大池より流出し、諸種子が大地によつて成長し得るが如しとなし、更に

聲聞緣覺乘、皆入大乘、大乘者即是佛乘。是故三乘即是一乘。とて小乗が大乘に歸入すべきことをいひ、或は佛の小乗の諸説法は方便的なるもので、究竟に於いてはこれ等が

即是大乘。無有三乘、三乗者入於一乘、一乗者即第一義乘。と論斷してゐる。¹²⁾ また『維摩經』に

佛一音演説法、衆生隨類各得解。

といふものや、『法華經』に「如來はたゞ一佛乘を以つての故に、衆生の爲に法を説く。餘乗の若二若三あることなし」といひ、或はまた「諸佛は方便力を以て、一佛乘に於いて分別して三と説く。（中畧）諸佛如來の言虚妄なし。餘乗あることなし。唯一佛乘のみ」などいふものも、同様に多くの差別の大小乗諸佛教を、悉く一佛乘に統一歸趨せし

第六章 佛教史料としての主要造像記

第一節 貴族の造像記

古陽洞・賓陽洞等の北魏窟の表現が、北魏帝都の指導的僧徒や知識階級の佛教と契合することを見た吾人は、更に、この章では、古陽洞を始めとし龍門諸窟の壁面におびたくしく造られてゐる佛龕に附いてゐる、北魏の造像記について、一面には主要石刻記解説の役目をはたしながら、如何なる佛教信仰が現はされてゐるかを眺めて見みよう。こゝには、個人の信仰が色々の形で記されてゐる。しかし一千以上の

めて、専ら一佛乗こそこれ眞佛教なることを主張するものである。

かくの如き小乗諸教のすべてを大乘一佛乘に歸趨せしめる諸經典が、最も盛に行れてゐた佛教界で、造營せられたものが、龍門の古陽洞であり、賓陽洞であり、小乗の阿羅漢と大乘の菩薩とを脇侍としてゐる佛を本尊とした、北魏の諸窟龕である。古陽洞や賓陽洞などの、龍門の北魏窟が造營せられた頃の洛陽佛教界の指導的主潮が、以上の如きものであつたことを知れば、これ等の窟に於ける菩薩を脇侍とし、或は二羅漢二菩薩を脇侍とする本尊釋迦佛によつて示されてゐるものが、大乘佛教であり、小乗を棄揚包攝する大乘の高揚であることも、よく理解せられるであらう。

要するに、龍門の北魏窟は、よく北魏洛陽の大乘佛教界の主張、即ち今や特色ある支那佛教の基調として成立しつゝあつた所を、そのままに具現してゐるのであつて、支那佛教教義の發展の歴史を理解せんとする者にも、極めて貴重なる遺物といつてよいのである。

數に上るこれ等のすべてを、此に述べることはできない。私は洛陽地方の北魏佛教徒の信仰をうかがふ資料として、左の三種の造像記を選び出して、これに就いて述べることにする。

第一には、洛陽の支配階級である貴族、殊に北魏宗室並びに北族系の貴族の造像記である。

第二には、これ等の貴族を始め、廣く俗人官民の佛教信仰の指導者であつたといふべき僧尼、殊に僧の造像記である。

第三には、多くは僧に勸化せられ指導せられてゐたものであらうと

思はれる集團の造像記である。以下この章は、「龍門石刻錄」の本文を對照しながら讀みたい。

抑々龍門の北魏造像は、孝文帝・同皇后・宣武帝の爲といふ、帝室の造窟が盛に行はれてゐた同じ地域に於けるものであり、また新都洛陽が、特に貴族の崇佛と殷富とを中心にして壯麗な大伽藍が相望む佛教都市として未曾有の發達をした間に造られたものであるから、當然に龍門にも、多くの洛陽貴族の造像が存するであらうと想像せられ得るであらうが、造像記は明かにそれを證明してくれるのである。龍門造像記から、北魏宗室並びに北族出身の貴族にして、正史にも名を出してゐるものの造像例のみを抄出しても、左の如く多數にあつて、以つて洛陽に於ける北族佛教化の著しかつた一面をうかゞひ得る。洛陽遷都以來の北魏は、北方胡族の習俗教養等のすべてを、漢族風にかへること、所謂北俗を華化することに熱心且つ急進した時代であるが、彼等の佛教化も、多くは漢族系僧徒によつて既に支那化してゐた佛教の教化指導をうけたものであつて、これもまた華化の一翼となつたものと解してもよいものである。

A 長樂王丘穆陵亮關係のもの

1 長樂王丘穆陵亮夫人尉遲氏爲亡息造彌勒像記

拓影

太和十九年(西曆四九五年)……古陽洞 錄文五七 目錄一

(12) 『勝鬘經』が南北朝時代に、南北を通じて『法華』『維摩』などの諸經と共に盛行はれたことは、『續高僧傳』に散見する所によつても明かである。北魏では、孝文帝時代に帝の歸依の厚かつた、道登が僧徒について「涅槃、法華、勝鬘を研綜した」とあり、同じく道辯は「維摩、勝鬘、金剛般若を注した」といひ以上卷六、北齊にかけては僧範、法上、曇遵、曇衍等がこの經を講じ或

貴族の造像記

古陽洞は前述の如く、その左右壁に對稱的に三段に造られてゐる大佛龕列がある。それは各個人が自由勝手に造つた龕ではなくて、一括して計畫的に造られたものと解せられる。殊に上より第一段と第二段とにある十六佛龕(左右各列に四つづつ)は、古陽洞の開鑿發願者によつて、奧壁本尊と共に設計せられたものと認められ、上段部に古い太和・景明五〇〇—五〇三の紀年造像銘を存し、中段部に永平・延昌五〇五—五〇八の紀年銘、下段部には神龜・正光五二四—五二八頃の紀年銘が存し、更に上段より上部の壁面から天井にかけては、太和・景明の古い紀年銘をもつ小佛龕が少なからず見られるのである。蓋しこの窟の發願者は、上部から掘り下げ工事をしながら、奧壁本尊を完成する途上に、多くの同志を勸説して小佛龕の寄附者を得、また上・中二段の大佛龕の出資者を得て行つたものであらう。

さて長樂王夫人の造像記は、古陽洞北壁の三段の大佛龕列よりも、更に上部に位する交脚菩薩、即ち彌勒を本尊とした三尊式小龕に附いてゐるものである。古陽洞開鑿の初期に造られ、龍門造像中でも最古の紀年造像記である。銘記の大意に曰く

司空公長樂王丘穆陵亮夫人尉遲氏は、亡息の牛欄の爲に、石工を請ふて彌勒像一軀を造らせた。願くば亡息が迷の苦界(分段生死の境界)を捨て、無礙自在の境に騰遊せんことを。若し託生するならば、天上諸佛の所に生れるように、またもし世界に生れるならば、妙樂

は注釋をかいいてゐる以上卷八。敦煌出の古寫經の中に、正始元年五〇四及び延昌四年五一五の奥書のある從來未傳の『勝鬘經』の注釋が二種も見出されてゐるを共に大正藏經八十五に收む以つてしても、龍門の北魏窟造像時代が『勝鬘經』の流行時代であつたことが知られる。

自在の所へ生れるように。萬一にも苦累あらば、速かに解脱し、三悪道（地獄・餓鬼・畜生）から絶縁せしめ給へ。一切衆生も皆この福を蒙らんことを。

と。丘穆陵亮の名は、この造像記より一年前、太和十八年の有名な汲縣の比干廟に存する孝文帝弔殷比干墓文碑の碑陰にも見える。¹⁾この碑は、孝文帝が同年十月、平城を出て、愈々洛陽へ遷都を決行する途中で鄴に行幸し、殷の比干の墓を訪ねて親しく弔文を作り碑を立てたものといはれ、碑陰には、帝室元姓の顯官等にまぢつて、丘目陵を姓とする左の三人の名が出てゐる。

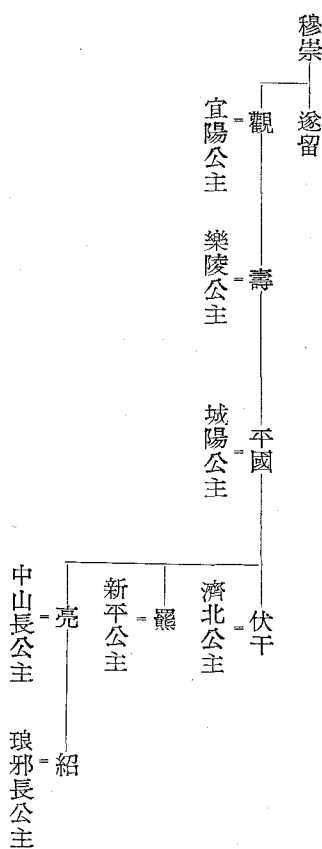
使持節司空公太子太傅長樂公臣河南郡丘目陵亮

員外散騎常侍光祿勳少卿黃平子臣河南郡丘目陵純

員外散騎常侍帶呂輿給事中臣河南郡丘目陵惠

右の第一の長樂公丘目陵亮が、龍門に於ける太和十九年造像記の長樂王。丘穆陵亮と同一人であることは疑ない。

丘穆陵氏は、古くから北魏宗室につかへた胡族の功臣であつて、代々帝室と婚姻關係を結んで來てゐる。孝文帝が胡俗の漢化政策をとつて、胡風の姓を漢人風の一字姓に改めしめた時、丘穆陵氏は穆氏と改められてをり、『魏書』卷二十七には、この一家の祖の穆崇傳があつて、今の丘穆陵亮の傳も附載せられてゐる。その略系圖を示せば、左の如くである。



亮は顯祖の時、中山長公主と結婚して趙郡王に封ぜられ、後に長樂王に移つた。次で高祖孝文帝に重任せられて侍中尙書右僕射となり、太和十三年には、南齊の將、陳顯達を征し、翌年還つて司空になつた。太和十七年、帝が洛陽遷都の計を定むるや、尙書李冲等と共に洛京經始の重任に當り、爾來、遷都政府の樞要な地位にあつたが、太和二十年末に、穆泰の反亂があり、これに兄が關係してゐたことから、帝におしまれながら自ら司空を引責辭職した。その後、次の世宗の代には、定州刺史から尙書令、司空公に歴任し、景明三年^{西曆五〇二}五十二才を以て薨じてゐる。

洛陽遷都初期は、正に穆亮一家の全盛期といふべく、比干碑陰に見る三人の丘目陵氏も、遷都を斷行した孝文帝近側に於ける丘目陵氏の勢力を、推察せしめるに足るものである。かゝる權門の夫人が、遷都間もなく、古陽洞壁に造像してゐることは、次の北海王元詳太妃と共に、古陽洞開鑿事業を促進せしめる上にも、またやがて帝室自らの積極的な造窟事業が開始せられたことにも、相當な關係があつたことであらう。

B 北海王詳關係のもの

2 北海王詳爲母子平安造彌勒像記 拓影 八八

太和二十二年^{西曆四九八}九月……古陽洞 錄文五八〇 目錄五

次節に述べる、洛州刺史始平公の子にして古陽洞の開鑿發願者と推察せられる比丘慧成の造像記と、同年月をもつものであり、その古陽洞壁面上部にある點から見て、この造像も、古陽洞開鑿の初期に發願せられ、古陽洞の完成途上に成就してゐるものと考へられる。記の大意に曰く

太和十八年十二月十一日(魏書高祖紀)、孝文帝の率ゐる蕭鸞討伐軍は、洛陽を出發して洛水のほとりて見送りの家族達と留別した。この軍に従つた北海王詳とその母(高椒房)とも、涙の別を告げたが、母は家に還り、伊川(龍門)で、母子の平安の爲に彌勒像一軀を造る願を立てた。この造像が約四年を経た二十二年九月に成就したので、法要をなし銘文を記して志願する所を申べた。願つて曰ふ。母子は長壽を保ち、親族はつねに榮え、一切の群生もその福を同じくせんことを。

と。南齊の蕭鸞(後の明帝)が、廢帝鬱林王(昭業)を弑して、廢帝海陵恭王(昭文)を立て、更にこれを殺して自立したのが、北魏の太和十八年十月であり、孝文帝はこの變に乗じて、南伐親征軍を起したのである。記する所は、よく史籍と合致する。子を遠征に送り出した母は、適々古陽洞開鑿工事の進行しつゝあるのを見て隨喜し、自ら喜捨して造像一軀を依頼したものであらう。

3 北海王太妃高爲亡孫保造(彌勒)像記拓影

無年月……古陽洞六八〇録文 六八〇
目錄 二四三

北海王太妃高とは、前造像の發願者である北海王元詳の母、高椒房のことである。さればこの造像も太和末年頃のものなるべく、古陽洞北壁の上部に存することも、太和末年におくに適應する。佛名はないが交脚菩薩を本尊とする三尊式の小佛龕で、前造像と同様に彌勒像であると認められる。

造像記は、不幸にして早死せる孫の保が、造像の功德により、永く百苦を脱せんことを、願つてゐるものである。

4 比丘法生爲孝文帝並北海王母子造(釋迦)像記拓影

景明四年(西曆 503)十二月……古陽洞録文 五九一
目錄 二二

この造像記は、古陽洞開鑿者によつて設計せられしものとして、この窟の研究上に最も重要な、左右壁にある大龕の一つ、即ち南壁上段の入口より第二龕に附けられてゐる。坐佛を本尊とする三尊式龕であつて、像名は記されてゐないが、釋迦佛像であることは殆んど疑ない。

造像記の景明四年は、北魏皇室が孝文帝並に同皇后の爲に、雲岡石窟に準ずる大石窟造營を龍門に創めてから、四年目である。この帝室の造窟に先つて計畫せられ、彼と併行して進行してゐた古陽洞の、左右壁面をかざる重要佛龕の一つに存するこの宗室關係の造像記は、種々の點で重要なものであるが、ここでは先づ、洛陽遷都初期に最も權勢のあつた北海王家が、佛教にも關係が深かつたことを示す資料として、注意しておきたい。記の大意に曰く

法生は、孝文皇帝が心を三寶を専らにせられた治世にあひ、また北海王母子が二京(大同と洛陽)で佛教に歸依せられるに遇ひ、王家の法要説法の席にも列し、五戒を授ける光榮にも接した。そこで孝文皇帝と北海王母子の爲に、像を造り感謝の衷情を申べんとて、この造龕事業を始めたが、この完成には北海王家からも援助を得た。願

(1) 文は『金石萃編』卷二十七に出づ。『魏書』卷七高祖紀に

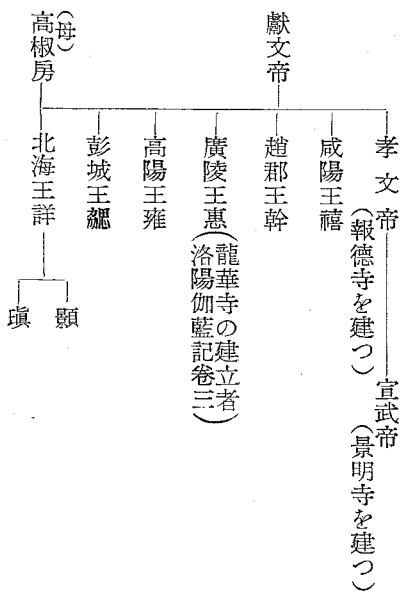
太和十八年十月車駕發平城宮……十一月丁丑。車駕幸鄴。甲申。經比干之墓。傷其忠而獲戾。親爲弔文。樹碑而刊之。己丑。車駕至洛陽。

といひ、また『魏書』卷五十五劉芳傳に

高祖遷洛。路由朝歌。見殷比干墓。愴然悼懷爲文以弔之。芳爲注解表上之。

くは、この功德を帝王に歸し奉らん。またあらゆる衆生も皆ともに福を同じくせんことを。

以上の三造像記は、北海王元詳一家の佛教化を示すものであり、特に王の母であつた高椒房の熱心な奉佛が注目される。



北海王詳²⁾は獻文帝の第七子、孝文帝の異母弟である。孝文帝が洛陽遷都を決行するに際しては、彭城王勰と共に常に、左右に陪侍して親任せられた人である。太和二十三年、孝文帝は親らの病篤きに當り、皇后馮氏に死を賜り、皇太子に踐祚せしめて、後の輔政を六人に依屬して崩ぜられたが、北海王詳は、その隨一として司空に任ぜられた。

かくて世宗宣武帝の即位以來は、特別に親任せらるゝやうになり、録尚書として政務の實權を握り、今の造像の發願者である王の母高太妃も、亦隨つて頗る權勢をふるひ、宣武帝はこれを「阿母」と呼んで尊敬せられる有様であつた。當時北海王詳は「姿容を美しくし、舉止を善くす」といふ二十代の氣どり屋の若者であつて、權勢にまかせて收賄營利を事とし、宏壯華麗な第宅を造り、豪奢淫縱な生活をなし、その貪淫の評判は遠近に聞えた。東掖門外の細民の家を追ひ立て、第宅用地となした時などは、柩を葬る期間をも猶豫しなかつたといはれる

が、高太妃も亦、かゝる人民の困窮には假借する必要なしと、詳の威壓行爲に助力したといふ。高太妃は、宣武帝の宮廷にても權勢第一にありしのみならず、北海王家に於ける母權も、絶大なものであつた。詳がある婦人に對して放縱なことをした時、自ら詳を杖うち、疲れては奴をして代り杖うたしめた。詳は爲に十餘日も立てなかつたといはれてゐる。

北海王詳は、正始元年^{西曆五〇四}に高肇等の爲に謀られて罪を得、二十九歳で薨じ、殯を停むること五年、永平元年冬に至つて、王を復されて葬られたのであつた。龍門石窟事業の後援者であつたと認められる北海王詳の没落せる翌年を以つて、最初の帝室の龍門大石窟工事が、中止變更せられてゐるのも興味深い³⁾。

要するに、北海王詳の全盛黄金時代は、太和末年から景明年間^{五〇三—五〇五}にわたる五、六年の間であつて、その一家は太妃高氏の母權の下にあつたのである。龍門の古陽洞に存する右の三佛龕は、正に、北海王詳母子の黄金時代に出來てゐるものであつて、畢竟、高太妃の佛教歸依が中心になつてゐるものであらう、と察せられるのである。

C 廣川王關係のもの

5 廣川王祖母太妃侯爲亡夫造彌勒像記^{拓影一〇¹²}

景明三年^{西曆五〇三}八月……古陽洞五八八^{錄文五八八 目錄一七}

文の大意に曰く

廣川王祖母太妃侯は、亡夫侍中持節征北大將軍廣川王賀蘭汗の爲に彌勒像を造り奉る。願くは、永く苦因を絶ち、速かに正覺を成就せしめ給へ。

と。廣川王は、『魏書』卷二十によれば

文成帝——廣川王略(太和四年薨)——諧(太和十九年薨)——靈道(諡 悼王)

と次第してゐる。『魏書』の本傳は、散逸して後に補つたもので、甚だ不完全であるが、幸にして、孝昌元年の廣川王元煥墓誌銘河南金石志圖所收が洛陽から出土してゐて、廣川王の家系を知ることが出来る。

賀略侍中征北大將軍中都大官又加車騎大將軍

上谷侯氏

諧散騎常侍武衛將軍

靈道(哀王)青州刺史

煥相州刺史元

造像記の發願者太妃侯は、賀略汗(造像記の賀蘭汗)の妃であることを知る。廣川王諧は、太和十年に薨じた。これを襲げる靈道(魏書の靈道)は、その卒年を知らざれども、墓誌によれば、永年元年西曆五〇八年に元煥が勅命によつて、養子として入つて王家を繼承してゐるから、恐らく正始末年頃に薨じ、後嗣もなかつたのであらう。『魏書』は、諡を悼王とするが、墓誌は哀王とする。何れにしても、不幸にして後嗣もなく早世した人であらう。龍門にある次の祖母太妃侯の造像記は、靈道が幼少にして亡父の後をついだことを示してゐる。

祖父賀略汗の妃であつた上谷の侯氏は、早く夫に死別し、更に子諧に先だたれ、幼少な孫を王として養育して王家を守つて行かねばならぬ、愁しい不安な境遇に落ちたものである。次の景明四年の造像記がよく、その心境を現はしてゐる。

6 廣川王祖母太妃侯造彌勒像記拓影

景明四年(西曆五〇三年)十月……古陽洞錄文五九〇目錄一九

大意に曰く

自ら思ふに、長い輪廻の生をへたが、今佛教に遇ふことを得た。王室につらなつてはゐるが、早く夫君に別れ、幼孫を孤育して王國を繼承してきてゐる。薄氷をふむやうな心細さから、唯佛教に歸依するのみである。今、彌勒像一軀を造り奉る。願くばこの微因によつて、心身共に健かにして覺りに進み、無明煩惱から離れて妙果に達せんことを。孫息は長壽にして、志を得て胤子繁昌せんことを。帝祚は永隆し、妙法を弘宣して、昏愚の衆生もみな菩提にいたらんことを。

と。文の中に見える

雖奉聯紫暉。早頃片體。孤育幼孫。以紹藩國。氷薄之心。唯歸眞寂。なる一節に、孤獨な貴顯婦人が佛教にすがつて行つた心情が、よくうかがはれる。

右の二造像は、共に、古陽洞壁面の上方、天井部に近い所に、一面に刻まれてゐる所謂「千佛」の群像の間に造られてゐる、交脚彌勒像である。かゝる交脚彌勒像にして、この千佛の近側にあるものには、更に

景明二年、雲陽伯鄭長猷等造彌勒像四軀記拓影一〇一三 錄文五八二 目錄一〇

景明三年、尹愛姜等廿一人造彌勒像記 錄文五八七 目錄一六

などがある。雲陽伯鄭長猷は『魏書』に傳をのせてゐる。高祖孝文帝から信任せられて、南陽太守に任ぜられ、世宗宣武帝の世に通直散騎常侍となり、永平五年西曆五二二に卒し貞侯と諡せられた人である。千佛像群の間に造られた彌勒像から、吾人は當時最もよく流布し信奉せられ

(2) 北海王元詳墓誌銘永平元年十一月の洛陽より出土せるものあり、『河南金石志

圖』正編第一集に收む。傳は『魏書』卷二十一上。

(3) 『魏書』卷八、世宗本紀、正始元年の條に

五月丁未朔。太傅北海王詳。以罪廢爲庶人。同書卷二十一、北海王詳傳を參照せよ。また翌正始二年に、龍門の帝室工事が小規模に變更されたことは、第四章第二節に述べた如くである。

てゐた經典の一である『法華經』に、この經の信奉者のうける死後の功德利益を説いてゐる所の

是人命終。爲千佛授手。令不恐怖。不墮惡趣。卽往兜率天上彌勒菩薩所。彌勒菩薩。有三十二相。大菩薩衆。所共圍繞。有百千萬億天女眷屬。而於中生。姚秦鳩摩羅什譯 妙法蓮華經卷七

といふ一節を想起し得べきことは、古陽洞の佛教を論ずる時に、既に述べておいた所である。

なほ龍門には、太妃廣川王の爲にした、左の無年月の二造像記が存する。

7 國學官令平乾虎爲太妃廣川王造釋迦牟尼像記……錄文九二一 目錄一七九一

8 國掌侍王神秀爲太妃廣川王造釋迦牟尼像記……錄文九二二 目錄一〇〇九

太妃廣川王とは、亡夫や孫の爲に彌勒像を造つた侯氏のことであらう。以つて景明前後の廣川王家では、夫や愛子に先だたれて孤獨な愁しい境遇にあつた、太妃侯氏を中心にして、佛教に歸依したものが多く、古陽洞の開鑿者やこれを後援する僧等が、これ等の人々に古陽洞造像事業への出資を勧誘したことが、想像せられるのである。

D 安定王變關係のもの

9 太中大夫安定王變造釋迦像記

正始四年(西曆二五〇)二月……古陽洞 錄文五九九 目錄三三三

この佛龕は、古陽洞南壁の奥の上部、本尊の右の脇侍菩薩立像の上部に存し、木造式瓦屋根の佛殿中に坐佛を現はしてをり、當時の洛陽伽藍建築を考へる上にもよい資料である。その銘文の大意に曰く

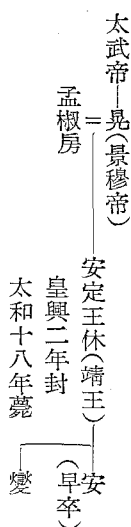
亡祖親太妃(景穆帝、孟椒房)、亡考靜王(安定王休、太和十八年薨) 亡妣蔣妃、及び見存家族の爲に、釋迦像並びにその立侍を立派に造

り奉つた。願くは、一族の亡者も、存者も、穢れた世界から永離して、遐迹に昇超し、常に諸佛にあひ、將來には、彌勒がこの世界に降つて龍華樹下に成佛說法せらるゝ席に列なつて、解脱を得るやうに。また願くば、一切群生もみな此福を同じくせんことを。

10 華州刺史安定王變造石窟石像記 拓影 十三

永平四年(西曆五二二)十月……古陽洞 錄文六一九 目錄七〇

文に摩滅の個所が少なくないけれども、願ふ所の大要は、前者と大差がない。像名は見えてゐないが、恐らく釋迦像であらう。



安定王元變は太武帝の太子晃の孫である。父休は皇興二年(西曆四六八)に安定王に封ぜられ、孝文帝には最も信賴せられて太傅となり、帝の南伐親征に際して大司馬となつて從軍したが、病歿して靖王と諡せられた。造像記に「亡孝太傅靜」とあるのは休のことである。休の長子の安は早世してゐたので、次子の變が王位を襲いだのである。傳には世宗の初めに太中大夫征虜將軍華州刺史となり、その後、幽州刺史となり、延昌四年(西曆四五五)に薨じたとあるから、造像記に記す所とよく一致してゐる。

古陽洞には、更に次の如き、安定王に關係のある無年月の觀世音の造像記がある。

11 安定王爲女夫閻散騎□造觀世音像二軀記

無年月……古陽洞 錄文七〇〇 目錄七一

この記の安定王の定字は、甚しく磨滅してゐるが、安定王であらうと推定せられる。觀世音二軀は、女の夫たる閻散騎某が佛教に歸入し

た記念に、造像せるものゝ如くである。文に願つて曰く、

この入法の功に縁り、永く塵軀を離れ、無碍を得て佛道を開明し、
當來彌勒佛の龍華說法にあひ得るやうに。また願くは、萬善吉祥集
まり、一切群生もみなこの願を同じくせんことを。

王の女の夫である閻散騎某とは『北史』卷八十、外戚傳に見ゆる閻
毗の一門であらう。閻毗は代の蠕蠕人て、世祖の時に來り降つたもの
であるが、その妹は皇太子即ち景穆帝の妃となり、高宗文成帝の母と
なつた。『北史』卷十三の景穆恭皇后郁久閻氏がこれである。閻氏は高
宗の時代には、外戚として、毗が河東王に、弟の紇が零陵王に封ぜら
れたるを始めとし、閻氏子弟の爵を賜つて王たるもの二人、公たるも
の五人、侯六人、子三人と云ふ、一門空前の榮昌を來したものである。
孝文帝時代にも閻氏一門は相當に榮えてゐる。『北史』卷
八〇參照

E 齊郡王關係のもの

12 涇州刺史齊郡王祐造彌勒像記

拓影
十二

熙平二年(西曆五七七年)七月……古陽洞 錄文六三三
目錄九〇

古陽洞南壁の奥、本尊の右の脇侍菩薩立像に近き所、前述の安定王
變の正始四年(西曆五〇七年)の造像よりもやゝ下方に存す。交脚菩薩を中尊とす
る三尊形式の佛龕である。銘の大意に曰く

佛や佛の教理は、世俗を超絶し、我々の普通の認識を超絶してゐる。

されば我々は形像や聲字をかりてこれを仰ぐの外はない。齊郡王祐
は、身王室に列なつて榮達し、佛教に就いても、眞假生滅の教理に
通じた。この雲山林水の仙境につき、佛の神像を造り奉り、嘉應無
窮なれと願ひ奉る。

と。文中に

達成實之通途、識眞假之高韻、精善惡二門、明生滅之一理

とあるのは、印度の訶梨跋摩(Harivarman)撰、後秦の鳩摩羅什(Ku
mārajīva)譯の『成實論』に説いてゐる眞俗二諦の教義や、支那で佛教
の基本的教義として受容せられてきてゐる善惡應報の教義にも、通達
してゐた、といふ意かと思はれる。『成實論』の學は、當時北支那で相
當盛であつたことは、他の佛教文獻史料の示す所であり、殊に孝文帝
が歸依した徐州の沙門、曇度・惠紀・道登等を中心にして、洛陽の貴
族上層階級にも行はれてゐたものである。⁴⁾

この造像は像名は出してゐないが、交脚菩薩を中尊としてゐるもの
であるから、彌勒菩薩像と認められる。尙、この造像記のみにかぎら
ぬのであるが、文中に「玄帝冲邈」、「靈範崇虛」、「神功」、「即林水之仙
區、啓神像於青山」など、道家的神仙的ともいふべき字句をかりて、
佛や佛教教理を現はし、一見しては、神仙像でも造つたのかと思はせ

(4) 徐州の曇度・惠紀・道登は、僧淵の弟子にして、僧淵は鳩摩羅什の學系をう

けて徐州で盛に講席を張り、その門下に出でし曇度等は、孝文帝の近側に出

入して『成實論』の教學を弘布した。『高僧傳』及び『續高僧傳』のそれらの

傳參照、また『魏書釋老志』に

太和十九年四月、帝幸徐州白塔寺。顧諸王及侍官曰、此寺近有名僧嵩法師。
受成實論於羅什。在此流通。後授淵法師。淵法師授登・紀二法師。朕每飭
成實論。可以釋人深情。故至此寺焉。沙門道登雅有義業。爲高祖眷賞。恒

侍講論。

るやうな文句が多い點に、注意しておいてよからう。知識階級の印度佛教受容が、かゝる形で行はれ、印度宗教から支那宗教化へと進みつつあつたことを、推察し得るであらう。

齊郡王祐四八八—五一九は、文成帝の孫である。祖母は佛教の盛であつた涼州に於ける北涼國王として、また奉佛の一族として佛教史上にも知られてゐる沮渠氏牧犍の女である。父簡は、孝文帝の時、太保となり、太和二十三年薨じて順王と諡せられた人、母の常氏は、文成帝の乳母常氏（保太后）の兄弟であつた燕郡公喜の女である。文成帝は乳母常氏を尊んで皇太后となし、その兄弟の英・喜等はそれぞれ王公に封ぜ

文成帝
沮渠牧犍女
簡（順王）
燕郡公常喜女
祐

られたもので、この常氏の榮達時代は、佛教復興の盛時、沙門統曇曜が活動して朝廷貴顯を大に各種の興佛事業に導いてゐた頃に當る。常喜は和平元年四六〇に洛州刺史になつてゐる。かゝる家庭から、龍門造像の發願者の出づることは、不思議ではない。洛陽出土の齊郡王祐の墓誌銘に、持節督涇州諸軍事征虜將軍涇州刺史齊郡王とあるのは、造像記にいふ所とよく一致してゐる。神龜二年正月、三十二才を以つて薨ずといつてゐるから、造像はその一年半の生前に成就してゐるものである。

なほ古陽洞外に、同じ熙平二年七月の、涇州刺史齊郡王祐后造像記ありともいふ。もし然らば、愈々もつて、齊郡王祐の一家が佛教の教化をうけてゐたことを、察すべきである。

F 東魏孝靜帝母子のもの

13 清信女某王妃胡智造像記

北魏末………火燒洞錄文七八五
目錄八六四

この造像記が清河王亶の妃、胡智の造像であり、こゝに名を列ねてゐる元善見が胡智の子であつて、永熙三年五三四に擁立せられて東魏の第一代の天子となつた孝靜帝であること、而してこの造像が、北魏の洛陽帝都時代の最後の頃の造像であることは、前章に述べた所である。

G 元某等の法儀のもの

14 元□等法儀廿餘人造像記

永熙二年西曆五三三………蓮華洞錄文三六二
目錄一八六

蓮華洞南壁に存するこの北魏末の長文の造像記は、種々の點で興味あり、かつ注目すべきものである。原刻記は、今日では既に磨滅の箇所が甚だ多く、研究所所藏のこの拓本も、全文を通讀し難いものであるが、流麗な駢文を以て、豊富な佛教知識を織りまぜて作られてゐる北魏造像記中の、最も立派な一文であり、この造像を志した二十餘人の同志の發起人として元□の名が見える。恐らく北魏宗室の關係者が中心となつた、造像であらう。この記は、永熙二年八月の紀年をもつてゐるが、この年正月には、出帝は引つゞいて龍門に二回も行幸し、布施などが行はれてゐる。そしてまた、前年十一月には、洛陽並びに龍門の佛教に對して、最も大きな後援者外護者であつた靈太后が、爾朱榮の爲に多數の王公等と共に弒害せられて五年を経て、始めて后禮を以つて葬られてゐることも、注意してよからう。

蓮華洞は、その様式手法の上から、重要な北魏窟の一に數へられてゐるものであり、恐らく、靈太后の在世に開鑿せられたものである。この洞の壁について、宗室元某が發願して集めた二十餘人の同志が、

造像工事を始めたのは、この行幸の頃か、或はそれよりも少し前頃からであらう。帝の行幸や布施の行はれた永熙二年前後には、既に一とほり完成してゐた蓮華洞では、再びその窟内の莊嚴を増加する工事が行はれてゐたものと認められる。この磨滅の甚しい元□等法儀二十餘人造像記は、蓮華洞の開鑿年代や、その北魏窟としての重要性を研究

第七圖 永熙二年元□等法儀廿餘人造像記



する上にも、見逃すべからざるものといふべきである。更に興味深いことは、この磨滅甚しき重要な造像記^{第七}を、殆んど完全に読み得るやうになさしめる、他の資料^{第八}が存することである。即

- (5) 齊郡王元簡及び元祐の傳は『魏書』卷二十、『北史』卷十九に收む。兩者共に近出の墓誌あり。『魏書』等の傳と相補ふべし。兩墓誌共に、『河南金石志圖』に收む。齊郡王祐の妃常季繁墓誌も存す。
- (6) 魏書卷十一出帝紀
 (永熙元年十一月) 葬靈太后胡氏。(中略) 二年春正月……已卯。車駕幸崧高石窟靈巖寺。庚子。又幸。散施各有差。

貴族の造像記



第八圖 正光五年劉根等法義卅一人造三級浮圖記

ち洛陽に出土し、開封の鄭清湖家に珍藏せられ、今は開封博物館に所藏せられてゐる石刻、正光五年^{西曆五二四}の劉根等四十一人造三級浮圖記がそれである。その全文が左の如く、殆んど全く、龍門の元某等造像記と同文である。

夫水盡則影亡。谷盈則響滅。娑羅現北首之期。負杖發山頽之歎。物分以然。理趣無爽。故憂填戀道。鑄真金以寫靈容。目連慕德。尅稱檀而圖聖像。違顏儵忽。尙或如斯。況劉根等。託於冥冥之中。生於千載之下。進不值鶯嶺初軒。退未遇龍華寶駕。而不豫殖微因。心存祈向。何以拔此昏墮。遠邀三會。樹因菩提者。必資緣於善友。入海求珍者。亦憑導於水師。故世王之愆。藉耆婆而曉。須達之倒。假門神而悟。由此而言。自金剛以還。未有不須友而成者也。於此迭相獎勵。異心影附。法義之衆。遂至卅一人。有餘。各竭己家珍。并勸一切。仰爲皇帝陛下。皇太后。中宮眷屬。士官僚庶。法界有形。敬造三級浮圖一

同卷十三、靈太后傳
 武泰元年(五二六) 爾朱榮彌兵渡河。太后盡召肅宗六宮。皆令入道。太后亦自落髮。榮遣騎拘送太后及幼主於河陰。太后對榮多所陳說。榮拂衣而起。太后及幼主並沈於河。太后妹馮翊君。收瘞於雙靈寺。出帝時。始葬以後禮而追加諡。
 本稿第三章第四節參照。

壺。籍此微因。周滿世性。慧雲彌布。慧波洪澍。令一切含零。悉入智海。學窮首楞。究竟常果。大誓莊嚴。理無虛應。十方淨覺。現爲我證。

大魏正光五年歲次甲辰五月庚戌卅日己卯建訖

佛弟子劉根卅一人等敬造刊記

侍中車騎大將軍儀同三司右衛將軍御史中尉領領左右武陽縣開國公侯剛

前將軍武衛將軍領細作令寧國伯伏乞寶

武衛將軍景明寺都將元衍

（以下列名を略す）

列名の第一の武陽縣開國公侯剛は、『魏書』卷九十三、『北史』卷九十二の恩倖列傳の中に傳があり、第二の寧國伯伏乞寶は、『北史』卷八十四の孝行列傳、『魏書』卷八十六孝感列傳に出づる乞伏保のことであらう。第三の元衍は、陽平王新成の子で、恭宗の孫に當る元衍であらう。『魏書』卷九十九上、『北史』卷七十九上。何れにしても、洛陽に於ける有力な貴族が關係してゐる三級浮圖の造營であつた、と認められるのである。

さてこの正光五年の造三級浮圖記の文を、蓮華洞内にある九年後の永熙二年の、同じく宗室の元氏が關係してゐる造像記と比較すると、僅かに圈點をつけておいた所が、異なるのみである。異るといつても、その中の「劉根等」が「元□等」に、「至卅一人有餘」が「至廿餘人」に、「敬造三級浮圖一壺」が「敬造石像一區」に代つてゐるが如きは、異文といふに足らぬものである。異文らしいものは、「皇太后中宮眷屬士官僚庶」の句と「周滿世性、慧雲彌布。慧波洪澍」の句とが、龍門の造像記にないのみである。これも、永熙二年は皇太后胡氏の崩後であるから、皇太后等の句はないのが當然である。何れにしても、兩記の作者は同一人なるべく、その豊富な佛教知識をもつた記文の内容か

ら考へて、當時の教養高き佛教徒を想像し得るであらう。但し私は、劉根等造浮圖記の原石を見てゐない。拓本のみから見ると、はたして眞物なりやについて、多少の疑問を挾まざるを得ないのであるが、支那の金石學者もこれを北魏石刻の神品としてをり、シヤバンヌ氏も疑つてゐないやうである。もし然らば、同一人の手に出づる文が、二回使用せられたものと認めねばならぬのである。假令この三級浮圖が眞物であつたとしても、龍門の佛龕は眞物ではない。そしてまた、萬一、劉根等造浮圖記が偽作即ち盗用であつても、龍門の造像記は眞物であらうから、造浮圖記は、龍門造像記からとつたものと認めねばならぬ。随つて、龍門の元某等造像記の今日磨滅してゐる部分を、劉根等造浮圖記によつて補ふことが、可能であるといはねばならぬ。

さて元□等の造像は、何佛であつたかは明かでないが、その造像記の内容は、元□等は釋迦の滅後に生れ、また將來の彌勒成佛の時にもあはず、この兩佛の中間に生れてゐる。そこで迷境から解脱して將來の彌勒成佛の時にあへるやうにと、善根をつみ信心をすゝめる爲に、造像したことを述べてゐる。即ち、釋迦——彌勒と相繼承するこの世界、の佛へ歸依する信仰を示してゐるものである。

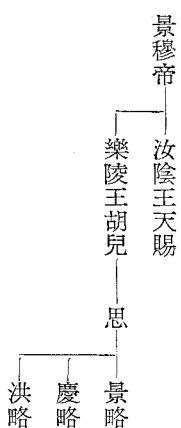
H 元洪略等の小佛群

15 弟子元洪略等題榜三十一條

無年月……古陽洞 錄文 一八三五
目錄 一七四

右の最初に「弟子元洪略」とある。これ等の題名は、古陽洞の上層部にある小佛像群の、各佛の榜題をなしてゐるものである。思ふに古陽洞の設計者は、その壁面上層部に小佛像群（恐らく賢劫千佛を現はしたものを）を造り、多數の人の喜捨を勸化し、寄附者の氏名を小佛の

傍に記入したものであらう。この元洪略は、蓋し北魏宗室の樂陵王思(永全)の子である。樂陵王思は、樂陵王胡兒が和平四年西曆四六三子なくして薨じた後に、勅によつて、汝陰王天賜の第二子から入つて樂陵王をついだ人で、穆泰の謀叛事件に坐して王封を削られたが、太和末年に復された。その薨年は墓誌によれば、正始三年西曆四六四四十四歳である。その子の洪略は、恒農太守中軍將軍行東雍州刺史になつた人である。⁸⁾正始・永平時代の人と考へられ、この頃に、古陽洞開鑿事業への寄附者の一人として、洞の上層壁面に名を列してゐて、この洞の開鑿年代推定上にも、矛盾を來さぬのみならず、既に述べた我々のこの洞の開鑿次第の推定とびつたり合致するのである。



尙この題榜三十一條の中には、元永安、元惠□の如き、北魏宗室の元姓をとるものが見えてゐる。古陽洞成就までに、多數の王室貴族の賛助者があつたことが、以上の造像記や題名によつて知られるのである。また石刻目録一一七二——一一七九の元姓も参考せよ。

I 楊大眼の造像

16 楊大眼爲孝文帝造釋迦像記 拓影 十一

景明五〇〇初年(推定)……………古陽洞 錄文 一六七七
目録 一八七七

- (7) 方若撰『校碑隨筆』 顧燮光撰『夢碧齋石言』『古刻萃珍』第二輯
 Chavannes, *Mission Archéologique dans la Chine Septentrionale*, Tome I, p. 417-424.
- (8) 『魏書』卷十九下、樂陵王胡兒傳によれば、樂陵王思譽とあり、初の名は永全であつたとあるが、墓誌には王諱思字永全とある。薨年を『魏書』は正始四年

貴族の造像記

この造像記は、古陽洞の北壁の三段の大佛龕列中の、上段四佛龕の中央に、魏靈藏等造釋迦像記をもつ佛龕(東)と並んで、同じやうな坐佛を本尊とせる三尊形式の佛龕に附して造られてゐる碑形に刻まれてゐる。随つて釋迦佛の造像記と解せられる。この北壁第三段の四大佛龕の入口から第一には、比丘慧成の亡父始平公の爲にする太和二十二年の造像記があてられる。蓋し後述の如く、比丘慧成は、この古陽洞開鑿事業の最初の首脳部なるべく、この列の四大龕は、古陽洞開鑿者が最初から計畫を立て、造つたものと推定せられる。楊大眼や魏靈藏等が、夫々計畫して造龕したものではなく、既に設計済みであり、恐らくほぼ成就してゐた佛龕に對して、彼等は金錢を喜捨して、夫々の造像としての願意を述べた造像記を、刻んでもらつたものと推察せられるのである。

楊大眼の造像記は、佛教教義、或は信仰に就いて、特に注意すべきものはないが、龍門造窟史上には、極めて貴重なる資料を供する。即ち造像記中に、南穢既に澄みて軍を旋らして還り來り、龍門に至つてこの石窟を見て感激し、孝文帝の爲に造像する、といつてゐるのによつて、この造像記の年代を、景明初年に定めることが出来る。

楊大眼は武都の氏難當の孫である。支那古典に就いての教養は勿論そなへてをらず、文字も知らなかつたけれども、彼が頭髮に約三丈の繩を結びつけて走ると、繩はまつすぐに矢の如くなり、馬が追ひかけても及ばなかつた、と云はれる程の拔群の跳走力もち、勇猛を以つ

- とするが、墓誌によれば、正始三年薨、四年葬である。墓誌は河南金石志圖に見ゆ。
- (9) 『魏書』卷七十三『北史』卷三十七に、傳を出す。この造像記は、兩史の傳の誤脱を補正すべきものがある。『金石萃編』卷三十八を参照せよ。

て一世を風靡した北族の代表的武將であつた。その妻の潘氏も騎射をよくし、狩獵や戰爭に夫と馬をならべて馳驅し、潘將軍といはれたといふ女丈夫である。孝文帝の南伐に際して、拔擢せられて從軍して以來、大に武勳を立てた。太和二十三年^{西曆四九九年}帝が南伐中に崩じ、宣武帝が即位し、翌年景明と改元せられた。この年二月、楊大眼は軍を率ゐて南下し、梁の裴叔業の鎮する壽春を攻略し、功によつて安戎縣開國子に封ぜられ、直閣將軍に除し、尋いで輔國將軍遊擊將軍を加へられた。やがて出て、征虜將軍東荊州刺史となり、景明四年^{西曆五〇三年}末から翌年にかけて、東荊州の樊素安の亂の討伐に活動した。正始二年^{西曆五〇五年}以來は梁との間に戦が行はれ、楊大眼も屢々勇名をとゞろかせてゐたが、同四年三月、中山王英と共に淮水畔の鐘龍に大敗して失脚し、營州の兵におとされてしまつてゐる。

思ふに楊大眼は、彼が南穢（壽春地方）の掃蕩から歸還した景明元年頃に、どん／＼成功に進みつゝあつた古陽洞を見て造像費を喜捨したのである。あたかもこの頃には、先に國の爲に發願せられ、開鑿中であつた古陽洞が、恐らく大半成就し、殊に左右壁の上層の四佛龕列がほゞ成就してゐて、寄附者を待つてゐたものであらう。一方この年は同じ土地に於いて、孝文帝の爲にする朝廷事業としての大石窟造營が、創められた年であつた。南伐の功なり、帝都郊外の伊闕の勝地まで凱旋した楊大眼一行は、國の爲、孝文帝の爲にする、公私の造窟事業が頗る活況を呈してゐるのに直面したわけである。孝文帝に拔擢せられた彼は、此に

覽先皇之明蹤、觀盛聖之麗迹、矚目徹宵、泫然流感

といふやうに、懷舊謝恩の情にたへずして、熱心に古陽洞の造窟造像事業に従事し、またその事業への協賛勸化につとめつゝあつた僧等に

依頼し、自らも孝文帝への追善報恩業として、一佛龕の造建費を喜捨したものであらう。

以上龍門石刻録の中から、北魏宗室、並びに北族出身の有力者の造像記、並びにそれに關係せる造像記十數種を抄出し略解したが、これ等は、前章に述べておいた、洛陽に於ける貴族を中心にした盛な伽藍佛教關係の文獻と共に、北魏宗室を始め北族出身の有力者の上に、如何に遍ねく佛教の感化が及んでゐたかを察し、また洛陽に近き龍門の石窟造像事業が、よく彼等の心を捕へたことをも推察せしめる、よい資料となし得るであらう。

右の刻記の多くが、近親中の先亡者への追善を祈願する爲に、造像をしたことをいつてゐる。北海王家、長樂王家、廣川王家、及び清河王家の關係してゐるものは、何れもその母性が發願者となつてゐる。佛教が家庭に進出する上に、また造像の如き功德業を縁として佛教が弘められる上に、一家の中の感じ易いかつ上位にある女性が、頗る重要であつたことを推察せしめる。

造像は、近親亡者への追善を動機としてゐる、と思はれるものが多いが、同時に國家の隆昌、帝祚の永隆を祈り、佛教の隆興を願ひ、また現在者の榮達長壽など、貴族としての現世的幸福を祈願してゐる點に、國家並びに現在世を肯定享樂する、此土的佛教の色彩が見られる。厭世的彼土的印度的なる臭味が少ない佛教信仰に、北族らしい單純素朴さがうかゞはれる。

造られてゐる尊像名は、十三種の中で、觀世音の一、不明の二を除き、彌勒五、釋迦六と數へられる。北魏貴族社會の佛教の大勢が、釋迦佛と、その後繼者にして、將來、この人間世界に出て來つて成佛説

法する、天上の彌勒菩薩とに、歸命するにあつたと認められる。釋迦像佛龕の上部には、六七の小坐佛を列べて現はしてゐるものが多い。蓋し所謂、過去七佛、即ち釋迦以前にこの世界に出て、釋迦佛に繼承せられた過去の歴代佛が現はされてゐるのである。

この世界に於ける過去歴代の六佛を繼承して釋迦佛出で、釋迦佛が歿してまた彌勒佛がこれを將來に繼承するといふ、「歴代の佛」といふ考へ方が、北魏知識人の佛教的常識であつたことは、『魏書釋老志』に佛教の概論を試みてゐる中に

釋迦前有六佛、釋迦繼六佛而成道、處今賢劫、又言、將來有彌勒佛、方繼釋迦而降世。

とあるによつても察せられる。この『釋老志』にいふ、この人間界歴代佛への信仰が、龍門の北族系貴族の造像に、そのまゝ具現せられてゐるわけである。恰も帝王世代の如くに、順次に佛位を繼承して衆生の上に臨む佛、そこには、佛教教理に於ける常住不滅の法身佛の如き思想に比して、生滅の免れぬこの世界の人間的感じが、濃厚にくつてゐる。北魏人の「佛」觀の、素朴性がよく出てゐるといつてよからう。現在皇帝を現在佛に擬した、北魏佛教の性格と、よく相應するものである。¹⁰⁾

第二節 僧尼の造像記

1 紀年造像記に見ゆる僧尼の活動

前節に述べた貴族の造像も、多くは、僧尼の勸化指導があつて、

きたものと思はれる。されば、龍門造像に現はれた佛教を研究する上には、それ等造像者の信仰の指導者となり、造像の勸化者となつた、と思はれる、僧尼の造像、或は造像記に、特に注意する必要がある。本書に收めた石刻記目録の北魏紀年刻記百八十九種本文脱稿後に數種を増加せり。から、僧尼の刻記を集むるにその數七十二、全數の約五分の二に達する。今僧尼が、(1)何の爲に、(2)何像を造つて、(3)何を願つてゐるかを、示してみると左の如くである。

- 一 比丘 慧成 太和二十二年(四九六) 古陽洞錄文五九 目錄四
(1)國、亡父(洛州刺史始平公) (2)石窟(國)と釋迦坐佛龕(亡父) (3)亡父の神の解脱、亡師僧父母眷屬の兜率天往生、人間に生れては貴顯なれ、五有群生同福
- 二 邑師惠□等題記 景明元年(五〇〇) 古陽洞錄文六三 目錄七
(題記のみにして、造像に附せられたものなりやも明かならず)
- 三 比丘 惠感 景明三年(五〇三) 古陽洞錄文六四 目錄三
(1)亡父母 (2)彌勒 (3)國祚永隆、三寶彌顯、師僧父母眷屬の解脱、三有衆生同福
- 四 比丘 法生 景明四年(五〇五) 古陽洞錄文六一 目錄二
(1)孝文帝及北海王母子 (2)像(釋迦坐佛) (3)功を帝王に歸し、衆生同福
- 五 比丘 慧樂 景明四年(五〇五) (古陽洞) 目錄三
- 六 比丘 道仙 正始元年(五〇四) 古陽洞 目錄三
- 七 僧 惠澄 正始元年(五〇四) (唐字洞) (王祥洞) 目錄三
- 八 比丘 如光 正始三年(五〇六) 古陽洞錄文五六 目錄三
(1)亡父母、己身 (2)像 (3)福普く衆生に及べ
- 九 比丘 法轉 正始四年(五〇七) 古陽洞錄文六五 目錄三
(1)亡父母、眷屬、一切衆生 (2)彌勒
- 一〇 比丘 惠合 正始五年(五〇八) 古陽洞錄文六一 目錄四
(1)清信女□法果 (2)釋迦佛並菩薩二軀 (3)七世所生父母眷屬衆生一時成佛

(10) 北魏初代の道人統に任ぜられた沙門法果は

太祖明毅好道、即是當今如來、沙門宜著盡禮

とて、沙門をして皇帝に拜を致さしめることとし、その理由を述べて曰く

能弘道者人主也、我非拜天子、乃是禮佛耳。

- 二 比丘 惠合 正始五年(五〇八) 古陽洞 錄文六三 目錄四
- (1)亡□□ (2)釋迦 (3)託生西方奉諸佛、七世父母一切衆生等の同福等
- 三 比丘尼 僧恩 正始五年(五〇八) (古陽洞) 目錄 元
- 三 桃泉寺道宗 永平元年(五〇九) 古陽洞 錄文六四
- (1)彌勒像並七佛二菩薩 (2)一切衆生と同見彌勒
- 四 比丘尼 某 永平二年(五一〇) (古陽洞) 目錄九
- 五 比丘尼 某 永平二年(五一〇) 古陽洞 錄文六五 目錄五
- (2)觀世音
- 六 比丘尼法文法隆等 永平二年(五一〇) 古陽洞 錄文六六 目錄五
- (1)各己身 (2)彌勒 (3)見者拜者が功德をうけ、衆生同福
- 七 邑師道暈等 永平二年(五一〇) 古陽洞 錄文六七 目錄五
- (1)國 (2)彌勒
- 八 比丘尼法行 永平三年(五一〇) 古陽洞 錄文六八 目錄七
- (1)自己 (2)定光佛二菩薩 (3)煩惱を離れ苦患なく、七世父母眷屬師徒、衆生同福
- 九 道人 惠感 永平三年(五一〇) 古陽洞 錄文六九 目錄五
- (2)釋迦 (3)皇帝七世所生父母の福
- 一〇 比丘尼法慶 永平三年(五一〇) 古陽洞 錄文七一 目錄六
- (1)七世父母、所生因緣 (2)彌勒 (3)託生西方妙樂國土、人間に生れ、ば公王長者、己身は彌勒と俱生し三會說法に會ひ、一切衆生は三塗を離れん
- 一一 比丘尼 惠智 永平三年(五一〇) 古陽洞 錄文七二 目錄六
- (1)七世父母所生父母 (2)釋迦 (3)右と殆んど同じ
- 一二 比丘尼 惠□ 永平四年(五一〇) (古陽洞) 目錄七
- 一三 比丘尼法興 永平四年(五一〇) 古陽洞 錄文七四 目錄七
- (1)皇家、師僧父母、衆生 (2)彌勒 (3)皇祚永隆、佛教興隆、父母等兜率に昇り慈氏に面奉、龍華三會に俱に解脫を得ん
- 一四 比丘尼 法僧 永平四年(五一〇) 古陽洞 錄文七六 目錄七
- (2)釋迦
- 一五 比丘尼 法僧 永平四年(五一〇) 古陽洞 錄文七七 目錄七
- (2)釋迦
- 一六 他和寺尼僧道略 永平四年(五一〇) 古陽洞 錄文七八 目錄六
- (2)彌勒 (3)世々見佛聞法、清信女周現世界隱、衆生同願
- 一七 釋法 陵 永平五年(五一〇) 古陽洞 錄文八二 目錄七
- (1)國、父母師僧善友衆生
- 一八 比丘尼法興 延昌二年(五三三) 古陽洞 錄文八四 目錄六
- (1)病患 (2)釋迦 (3)病氣平愈佛道増進、七生父母生身父母一切衆生同福
- 一九 比丘尼法貴 延昌四年(五三五) 古陽洞 錄文八七 目錄六
- (1)亡尼某 (2)彌勒 (3)亡尼の解脫一切衆生同福
- 二〇 比丘尼□□ 延昌□年 (古陽洞) 目錄七
- 二一 比丘尼 惠榮 熙平二年(五三七) 古陽洞 錄文九一 目錄六
- (1)皇帝、七世父母所生父母 (2)彌勒 (3)一切衆生同福
- 二二 比丘尼 惠珍 熙平二年(五三七) 古陽洞 錄文九三 目錄六
- (1)父母眷屬己身 (2)釋迦七佛
- 二三 惠 仰 熙平三年(五三八) 古陽洞 錄文九五 目錄六
- (2)釋迦并七佛
- 二四 邑師慧暢比丘道因杜遷安等 神龜元年(五二八) 古陽洞 錄文九八 目錄九
- (2)釋迦 (3)七世父母師僧眷屬一切衆生俱登正覺
- 二五 邑師惠感邑主孫念堂等 神龜二年(五二九) 古陽洞 錄文一〇〇 目錄六
- 二六 比丘尼 知因 神龜三年(五三〇) 古陽洞 錄文一〇二 目錄六
- (1)一切衆生 (2)彌勒 (3)佛法常轉
- 二七 比丘尼慈香慧政 神龜三年(五三〇) 古陽洞 錄文一〇四 目錄六
- (2)窟 (3)各々の解脫と一切衆生同福
- 二八 邑師惠感邑主趙阿歡等 神龜三年(五三〇) 古陽洞 錄文一〇六 目錄六
- (2)彌勒 (3)昌儀一同の佛道増進、龍花說法に遇ひ、功德父母眷屬等に及ぶ
- 二九 比丘尼 惠復 正光元年(五三二) 古陽洞 錄文一〇八 目錄六
- 三〇 比丘尼 道□ 正光二年(五三三) 火燒洞 錄文一一〇 目錄六
- (2)釋迦 (3)七世父母所生父母亡兄弟の託生西方、衆生の解脫
- 三一 僧 始 正光二年(五三三) (古陽洞) 目錄一〇
- 三二 比丘尼 榮 正光二年(五三三) 古陽洞 錄文一一二 目錄五
- (2)釋迦 (3)帝祚永延、自己及姉妹衆生同じく解脫
- 三三 比丘尼清信士清信女等 正光二年(五三三) 蓮華洞 錄文一一四 目錄二八
- (2)釋迦十六區 (3)母子眷屬平安
- 三四 比丘尼 榮 正光二年(五三三) 古陽洞 錄文一一六 目錄二九
- (3)帝祚永延、亡尼某及姉妹、一切衆生の解脫

聖	大統寺比丘慧榮	正光三年(五三)	火燒洞	錄文七五	目錄二三
	(2)像 (3)國祚永寧、亡親及び自己姉妹一切衆生の解脱				
四	比丘慧暢	正光三年(五三)	古陽洞	錄文五〇	目錄二三
	(1)皇帝太后師僧父母兄弟姉妹一切衆生 (2)彌勒 (3)同時成佛				
四	比丘尼法怳	正光四年(五三)	古陽洞	錄文五三	目錄二四
	(1)女子氏の嫁 (2)釋迦 (3)女の幸福				
四	比丘惠榮	正光四年(五三)	火燒洞	錄文七〇	目錄二六
	(2)釋迦 (3)師僧父母乃至一切衆生一時成佛				
四	比丘僧安	正光四年(五三)	火燒洞	錄文四六	目錄二六
	(1)父母師僧衆生 (2)彌勒				
五	尼法暈曇熾	正光五年(五四)	(火燒洞)	(古陽洞)	目錄二三
	(1)七世父母所生父母友人呂義一切衆生 (2)像 (3)地獄休息、餓鬼解脱……衆生同福				
五	比丘尼惠澄	正光六年(五五)	石牛溪	錄文四六	目錄二六
	(1)七世父母所生父母友人呂義一切衆生 (2)像 (3)地獄休息、餓鬼解脱……衆生同福				
五	比丘尼僧達	孝昌元年(五五)	古陽洞	錄文五三	目錄二〇
	(1)皇帝師僧父母 (2)彌勒觀音藥師 (3)皇家師僧父母己身眷屬の延命解脱、地獄捨刑、七世父母衆生同福				
五	比丘尼僧達	孝昌元年(五五)	(老龍洞附近)	錄文五	目錄二四
	(1)亡息文殊 (2)釋迦 (3)亡者生天、面奉彌勒、悟無生忍、現在眷屬善と與に居り、七世父母衆生同福				
五	比丘尼道暢	孝昌元年(五五)	(蓮華洞)	目錄二四	
	(2)賢却千佛				
五	比丘尼善法	孝昌元年(五五)	(萬佛洞)	目錄二四	
	(1)亡女尼法暉 (2)彌勒 (3)離苦得樂				
五	紫内比丘尼	孝昌二年(五六)	魏字洞	錄文四四	目錄二四
	(2)觀世音				
五	比丘尼法起	孝昌二年(五六)	魏字洞	錄文四四	目錄二四
	(1)師僧父母同學眷屬十萬衆生 (2)釋迦 (3)法澤普及				
六	乾靈寺比丘尼智空	孝昌二年(五六)	魏字洞	錄文四九	目錄二五
	(1)自身小患 (3)疾平癒、一切衆生同福				

僧尼の造像記

六	比丘尼僧超	孝昌二年(五六)	(魏字洞)	目錄二〇	
六	比丘尼明勝	孝昌三年(五七)	蓮華洞	錄文三五	目錄二五
	(1)七世所生父母眷屬 (2)釋迦 (3)生々世々值佛聞法				
六	景隆寺沙門曇念	武泰元年(五六)	蓮華洞	錄文三五	目錄二六
	(1)一切衆生 (2)彌勒 (3)彌勒三會に遇ひ無生忍を悟らん。				
六	比丘尼道慧	建義元年(五六)	第十四洞	錄文三五	目錄二四
	(2)石浮圖 (3)一切衆生の拔苦、己身衆生一時成佛				
六	比丘尼道慧法盛	普泰元年(五三)	第十四洞	錄文四五	目錄二五
	(1)七世所生父母眷屬 (2)觀世音 (3)不墮三途				
六	比丘尼□安	普泰二年(五三)	(火燒洞)	目錄二六	
六	比丘尼□達	普泰二年(五三)	火燒洞	錄文七六	目錄二七
	(2)釋迦 (3)愍度衆生神光普照				
六	比丘靜度	普泰二年(五三)	蓮華洞	錄文三五	目錄二六
	(2)釋迦兩觀音、小觀音 (3)七世所生師僧父母一切衆生の同福				
六	尼法光	普泰二年(五三)	寶陽洞	錄文二〇	目錄二七
	(2)觀世音釋迦				
七	石窟寺比丘法雲佛弟子趙文歡	普泰二年(五三)	目錄二八		
七	比丘道仙	永熙三年(五四)	蓮華洞	錄文三五	目錄二八
	(2)彌勒 (3)師僧父母兄弟姉妹眷屬、法界衆生、同生兜率、面奉彌勒				
七	比丘尼德相	永熙□年	藥方洞	錄文五〇	目錄二九
	(1)累劫の師僧父母 (2)觀世音 (3)眷屬蒼生同福				

僧のものが三十五と尼のものが三十七と、その数は略々相半ばしてあるが、僧のものから、2、の如く造像には関係のない單なる題名にすぎないものかも知れぬものや、34、35、38、等の如く造像團體を勸化指導してあるが、必しも僧自らの造像と認められぬものを除けば北魏時代の紀年造像記は、僧よりも尼の方が少し多いのである。これを年次によつて對比すると

西 曆	僧	尼
498—407	9	0
408—517	10	12
418—527	12	19
528—535	4	6
	35	37

となる。龍門初期の太和・景明・正始の造像は、すべて僧のものであり、尼の造像は、永平二年^{西曆五〇八}を初見とし、以後には僧を凌駕して急に多くなつてゐる。龍門の造窟造像事業の初期は、主として僧の活動勸化によつて進められ、次で宣武帝の永平年間頃からは、尼も盛にこの事業に翼賛するやうになつたといつてよからう。

宣武帝の時代以來は、既に述べし如く、洛陽に於いては宗室初め貴族の尼となるものが少くなく、帝室關係者や宦官などの尼寺建造も相次で行はれ、殊に次の孝明帝の靈太后臨朝時代は、洛陽の尼佛教の全盛期であつた。龍門の造像にも、この帝都の尼佛教界の盛況が及んでゐると見られる。西曆五二九年・五三〇年の兩年には、僧尼共に造像記をかいてゐるのは(此間には俗人の一つが存するのみ)、これまた前年に爾朱榮の軍が洛陽に侵入し、靈太后以下北魏の宗室公卿官吏の大半が、一朝にして殺害せられた慘事が起つて以來、戦亂つゞきてあつたといふ、帝都の實情に相應した現象であると解せられる。

また西曆五二〇年以前のものは、僧尼共に、殆んど皆古陽洞に存するものであり、それ以後のものは、火燒・蓮花・魏字等の諸洞に多い。龍門石窟開鑿の場所的變遷、その成立年代、それに現れた佛教の時代等を考へる上に、考慮せらるべきであらう。

さて尼の造像を通觀するに、大體に於いて規模の小さい造像が多く、

その造像の動機も僧のものに比して個人的なるもの多く、中には亡息亡女、嫁ぐ女の爲にせるものもあつて、これ等の尼が年少からの出家修學のものに非ずして、夫婦生活を経て相當な年齢になつてから尼になつたものであつて、佛教の専門的指導者といふよりも、教化せられた信者といつた程度の尼が少なくないと察せられる。されば尼の造像記も、僧のものに比して高級な教義的な内容をもつたものは少ない。何れにしても、尼の佛教教學界に於ける地位は、僧とは比較にならぬ低位にあつたものなるべく、随つて、龍門に現れた佛教教義の指導者としては、主として僧の造像と造像記に注意すればよいであらう。以下、石刻記を通して知らるゝ、龍門造像に活動した主なる北魏僧に就いて述べて見よう。

2 比丘慧成の造像記並にその關係造像記 (拓影一〇 10 12 一一 15 一二 16)

右の僧の造像記中から、北魏時代の龍門の造窟造像事業に對して、最も主要な役割をはたしたと思はれる、數人の僧をあげることができ。曰く慧成、曰く法成、曰く惠感、曰く慧榮である。

慧成は、古陽洞北壁に存する太和二十二年^{西曆四九八}九月の比丘慧成造石窟石像記龍門石刻錄、古陽洞五七九、即ち支那の金石書類に「始平公造像記」として著録せられ、龍門二十品の隨一に數へられて有名になつてゐる陽刻の銘記に見ゆる僧である。その銘記の大意にいふ。

佛の眞容の没せる後世に生れた者は、佛の容像によらねばならぬ、造像の事業は、わが魏の代におよんで盛に行はれてゐる。比丘慧成は、身を佛教界におき、昌運にあへるよろこびから、誠心をつくして國の爲に石窟を造り皇恩に答へ、來世の善業に資せんと志した。

遇々父、始平公の薨去にあひ悲歎追慕にたへず、亡父の爲に石像一

區を造り、亡父の神の得脱を願ひ、また過去世の師僧父母一族が兜率天に生れるやうに願ひ奉る、もし人間世界に生れるならば、名門に生れて官爵榮達を得せしめ給へ。更に五有の衆生も咸この願を同くせんことを。

この造像記中で注意すべきは、第一に、比丘慧成が使持節光祿大夫洛州刺史始平公某の子であつたことである。この始平公某に就いては、大村氏は左の如く

太武帝 景穆帝 文成帝 献文帝 孝文帝
汝陰王天賜 修義 比丘慧成

汝陰王天賜の子、元修義にあて、比丘慧成を以つて孝文帝の再從兄弟であつたと推定せられたが、元修義は當時なほ生存中であるから、この説はとり得ない。

比丘慧成の父であつた始平公が、宗室の元氏であるか、異姓の公であつたか、また北族系か漢族系かも、實は明かではないのである。けれども父が洛州刺史始平公として太和十七年の遷都前後の頃までゐたとすれば僧慧成も、少くとも洛陽地方で相當勢力ある官界の背景をもつてゐたことが推察せられ、彼が「國の爲」に石窟を造らんと志した

とは、思ふに大村氏が指摘せられたやうに、龍門に於ける最初の窟である古陽洞の開鑿を計畫したものと解せられる。その亡父の爲の佛龕が、古陽洞の左右壁に三段に整列せる佛龕の中で、北壁上段の入口に最も近くあるのも、この窟の發起者の佛龕の所在として適はしいものであるし、その銘記が、特に費用も多くかゝるであらう入念な陽刻であるのも興味深い。

この佛龕の本尊は、結跏の坐佛である。銘記にはただ石像といふのみで、固有佛名を出してゐぬが、恐らく釋迦像であらう。それはこの佛龕の西隣りにならんで作られてゐる同形式の坐像佛龕についてゐる魏靈藏、薛法紹等造像記〔龍門石刻像 古陽洞六七八〕にも、文中には同じく石像一軀と記してゐるが、その題額に釋迦像と明記してゐることからでも、推定せられ得ると思ふ。この相隣れる兩造像記には、同じ様な願文信仰が記されてゐる。現在世の人間社會にあつては、一門が榮達を得るやうに、そして未來世死後には、兜率天の彌勒のもとへ生れて解脫を得たいと願つてゐるのである。

魏靈藏等の造釋迦像は、その佛龕の所在、様式の上から、相隣れる慧成の造像と離すべからざる關係にあることが考へられるのみならず

(1) 大村西崖氏『支那美術史彫塑篇』九六頁以下に見ゆ。思ふに大村氏の立論は、武億の『授堂金石一跋』卷三に

攷隋書、元孝矩祖修義、父子均、並爲魏尙書僕射、孝矩西虜時、襲爵始平縣公、然則此記始平公、當太和時、或子均爲修義所建興。

と推論してゐるのに由來するものであらう。されど、『魏書』卷九の肅宗紀によれば、いはゆる始平公造像記の太和二十二年西曆四九八よりも二十六年も後の正光五年五二四の條に

秋七月甲寅、詔吏部尙書元修義、兼尙書僕射、爲西道行臺、率諸將西討。とあつて、元修義はなほ健在である。されば元修義は太和二十二年の銘記の中の故始平公ではあり得ない。

(2) この時代の魏の王公の有爵者を考へる上に注意すべきものに、左の『魏書高祖

紀』太和十六年正月の記事がある。

制諸遠屬、非太祖子孫及異姓、爲王皆降爲公、公爲侯。侯爲伯。子男仍舊。皆除將軍之號。

また洛州については、『魏書地形志』の洛州の條に註して

とあるから、太和十七年改爲司州、天平初復。とあるもの如くにも解せられる。しかし、洛陽出土の正始四年の「征東大將軍大中正鄉洛州刺史樂安王元緒墓誌」によれば、樂安王元緒は景明正始の間に洛州刺史になつたとあるから、「洛州刺史」の名が太和十七年以後に、なくなつたとはなし難い。始平公の卒年は、造像記の太和二十二年以前としておくの外はない。

ず、兩者の銘文の内容も左の如く類似し、同じ様な字句を用ひて少しく變へながら、同じ様な信仰を述べてゐるのである。

慧成造像記

魏靈藏造像記

是以眞□□於上齡、遺形數于

是以應眞悼三乘之靡憑、遂騰

下葉、暨于大代、茲功厥作、

空以刊像、爰暨下代、茲容厥

比丘慧成……

作、鉅鏡魏靈藏……

元世師僧父母眷屬、鳳鸞道場、

願藏等、挺三槐於孤峰、秀九

鸞騰兜率、若悟洛人間、三槐

棘於華苑、芳實再繁荊條獨茂、

獨秀、九棘雲敷、五有群生、

合門榮葩、福流奕葉、命終之

咸同斯願

後、飛逢千聖、神颺六通智周

三達曠世所生元身眷屬、捨百

鄴則鵬擊龍花、悟無生則鳳昇

道樹、五道群生、咸同斯慶、

さて右の兩文の對比からも、二造像記が、同じ指導者の思想信仰か

ら導かれてゐることが想像せられやう。そしてこの二記の場合には、

その指導者として、石窟の發願者であり、洛州刺史の子である比丘慧

成を想像してもよからう。魏靈藏は陸渾縣功曹である。陸渾縣は洛州

の支配下にあつた伊水上流の縣であつた。洛州刺史の子である慧成が、

洛州管下の縣の役人を勸進し、或は州下の縣の役人が、州刺史の子の

慧成が發願して着工してゐる國の爲の造窟事業を贊助して、その窟内

に造られた一龕に對して費用を寄附して、彼等の名による造像記をつ

けてもらつたと、解せられると思ふ。

同じやうなことが、同じく古陽洞の南壁にある同じやうな様式の佛

龕に附けられた景明三年西曆五〇二の孫秋生等二百人造像記「龍門石刻錄」五八三に就

いても考へられる。

この造像記は

大代太和七年。新城縣功曹孫秋生、新城縣功曹劉起祖二百人等。敬

造石像一區。

と書き出し、最後に

景明三年歲在壬午五月戊子朔廿七日造訖

と結んでゐる。新城縣の功曹であつた孫秋生と劉起祖との二人が最初

の發起人となつて、二百人の同志を勸進して造像したものである。新

城縣は、伊水龍門の少しく上流に位する縣であつて、恐らく太和十年

前後の頃に、比丘慧成之父の管轄下にあつたものである。洛州刺史を

父とした比丘慧成、若しくはその共力者は、古陽洞の造窟事業を發願

し遂行するに當つて、新城縣功曹等の造像組合が、太和七年以來積み

立てて來た造像基金を、彼の事業へ寄附せしめ、その左右壁の上段に

同じ様に四づつ列べ造つた八佛龕の一つを、この團體の造像にあてた

ものと想像せられるのである。

なほ從來この造像記によつて、古陽洞が既に太和七年以前に開鑿が

企圖せられてゐたか、若しくは工事が進行中であつたとせらるる説も

あるが、私はさうは思はない。古陽洞の開鑿は唯その壁面の佛龕に存

する銘文のみから、簡單にしかく判斷せらるべきでなく、この銘記を

もつ佛龕の古陽洞に於ける位置や、その性質などを併せ考慮した上で、

判斷せられねばならぬと思ふ。これについては、古陽洞の節を参照せ

られたい。

沙門比丘慧成の造像記と魏靈藏等の造像記との文が、頗る類似して

ゐることは、右の如くであるが、更に孫秋生等の造像記の文も、魏靈

藏等造像記に類似してゐる。即ち孫秋生等造像記に、現在生活に就

て願つてゐる。

有願弟子等。榮茂春葩。庭槐獨秀。蘭條鼓馥於昌年。金暉誕照於聖歲。現世眷屬。萬福雲歸。洙輪疆駕。

とある文を、前出の魏靈藏等の造像記に於ける、現世生活への願文に比較して見よ。兩文は無關係に考へられない程に、字句までに類似をもつて、同じことを願つてゐるのである。

更に、孫秋生等造像記の文に類同する、古陽洞内の他の造像記があることに注意したい。同じく景明三年五月三十日（孫秋生等造像記よりも僅かに三日後）の銘文をもつた高樹等卅二人造像記〔龍門石刻錄〕古陽洞五八五と比丘惠感造彌勒像記〔龍門石刻錄〕古陽洞五八四とである。先づ高樹等造像記との類似を比較してみやう。

孫秋生等造像記

高樹等造像記

…二百人等。敬造石像一區。願元
願…元世父母。及弟子等。來
身神騰九空。迹登十地。五道
騰九空。迹登十地。三有同願。
群生。咸同此願。

兩者が死後未來の生活に就いて願ふ所は、全く同じであり、恐らくこの二文は、同じ指導者の思想信仰から導かれてゐるものであらう。兩造像は共に、同時代の二百人、三十二人といふ信者團體の造像であるが、兩團體の列名を見ると高文紹、高天保、高珍保などは、兩造像記に共に名を出してゐるのである。思ふに高樹等三十二人の造像會員も、孫秋生と同じ新城縣地方、若しくは龍門に近接した地域の人々によつて、結成せられたものであらう。北魏時代の僧侶は、盛に民間に巡教して信仰團體を結成し、その指導者として佛教を説きその信仰をすすめる、また造寺、造像、寫經などの所謂「功德の業」を勸化したものである。造像銘にはかかる僧が、屢々邑師の名で出て來る。龍門の

造像に於いてもその例がある。比丘慧成が國の爲に古陽洞開鑿を發願したとしても、到底一人で成就し得ることではない。その共力者援助者があつたであらう。私は慧成の共力者として造像を勸化した邑師惠感を擧げることが出来ると思ふのである。

3 惠感慧榮の造像記

惠感 僧惠感の名が出づる龍門造像記として

- 一 景明三年(五〇三) 比丘惠感爲亡父母造彌勒像記(拓影二二八) 古陽洞五八四
 - 二 永平三年(五〇〇) 道人惠感造釋迦文佛記 古陽洞六〇
 - 三 神龜二年(五〇五) 邑師惠感邑主孫念堂等造像記 古陽洞五五
 - 四 神龜三年(五〇六) 邑師惠感邑主趙阿歡等三十二人造彌勒像記 古陽洞五三
- があり、恐らくその年代から見て同一人なるべく、すべて古陽洞に存する。更に古陽洞に存する
- 景明元年(五〇〇) 邑師惠□等題記 古陽洞八六
- も惠感ではないかと思はれる。

(一) によつて惠感が、景明三年には既に父母を亡つてゐた僧であつたことを知る。兩親追慕の情が、彼をして造像といふやうな、いはゆる功德業を自ら積み人に勸めることに、頗る熱心ならしめたものかも知れぬ。亡父母の爲の造像ではあるが、その記文中に、先づ第一に敬造彌勒像一區。願國祚永隆。三寶彌顯と國祚の永隆を願つてゐることは、比丘慧成によつて國の爲の石窟が開鑿進行中に、その壁面に造像せるものとしては、むしろ當然であらう。(二) の道人惠感造像記にも「爲皇帝」といふ文字が見える。そしてこの同じ願文が、前述の同年の孫秋生等二百人造像記に敬造石像一區。願國祚永隆。三寶彌顯

と出てゐる。惠感は、この二百人の造像團體の勸化指導にも、關係があつたものかも知れぬ。何れにしても、惠感が、邑主孫念堂等の造像團體と邑主趙阿歡等三十二人の造像團體を指導してゐた邑師として(三)(四)に記され、何れも古陽洞に造像せしめてゐるのであるから、古陽洞成就の上に、比丘慧成と共に逸すべからざる功勞者であつたといはねばならぬ。そしてこれ等の銘文から、彼が佛教を國家の永隆に結びつけて説いた人であり、また將來この世界に出現する彌勒佛への信仰をもつてゐた人であることを知るのである。

慧榮 次に慧榮については、左の五が數へられる。

- 一 熙平二年(五七) 比丘慧榮造彌勒像記 古陽洞 錄文 三
- 二 正光二年(五三) 比丘慧榮造像記 古陽洞 錄文 齋
- 三 正光二年(五三) 比丘慧榮造釋迦像記 古陽洞 錄文 齋
- 四 正光三年(五三) 大統寺大比丘慧榮造像記 火燒洞 錄文 七
- 五 正光四年(五三) 比丘慧榮造釋迦像記 火燒洞 錄文 七

右の五の惠榮と慧榮とは、佛教界では惠と慧が混同して用ひられる例が少なくないから、恐らく同一人であらう。少くとも、正光二年三年の慧榮は同一人であらう。彼は大統寺大比丘とある。思ふに大統寺は洛陽の大統寺なるべく、この寺は洛陽城南にあつた景明寺(景明年間、宣武帝建立)や、秦上公寺(東西二寺ならび存し雙女寺と稱せらる。西寺は靈太后、東寺は皇姨の所建)などの、王室關係の名刹に近接してゐた寺である。慧榮がこの寺の大比丘であつたといへば、恐らく洛陽佛教界に於ける相當有力な僧であつたものであらう。造像記の(一)には「仰爲皇帝陛下」といひ、(二)には「願帝祚永延」といひ、(三)にも「願帝祚永延」といひ、(四)にも「願國祚永寧」といつてゐる。彼も亦、佛教を國家に結びつけ、造像によつて國家の永隆を祈願する

佛教徒であつたのである。そしてその造像の上からは、惠感と同様に釋迦佛と共に兜率天の彌勒菩薩、即ち將來この世界に出現する彌勒佛の禮拜者であつたことも知られる。

以上、龍門に於ける最初の窟である古陽洞の開鑿發願者としての慧成と、この事業の協力援助者として、また壁面の造像者、或ひはその勸化者としての惠感、慧榮との三比丘については、現存の銘記のみよりすれば、慧成が西曆四九八年、惠感が西曆五〇〇年—五二〇年、慧榮が西曆五一七年、若しくは五二一年—五二二年、若しくは五二三年までは、造像の爲に活動してゐたことを知る。三者の年齢若しくは法系上の關係が、慧成—惠感—慧榮と次第するか、慧成・惠感が同時の同輩列の僧で慧榮がこれをつぐものであるか、などといふことは、もちろん斷定できないが、龍門に於ける慧榮以前の比丘の造像には、慧若しくは惠の文字を頭にもつた比丘が、慧樂景明四年 目録二二、惠澄正始二年 目録二五、惠合正始五年 古陽洞 錄文六〇一、六〇二、惠珍熙平二年古陽洞 錄文六三二、惠仰熙平三年古陽洞 錄文九八五、慧暢神龜元年 彌勒像 古陽洞 錄文九八五、などと、その數が少くないのである。彼等の間には、法脈上の關係の深いもの、即ち師弟或は法兄弟などの關係にあるものが、多かつたのではなからうか。慧成の石窟建造事業に對して、恐らく彼に法系上の關係のある僧尼が、協力後援して募財や造像の爲に活動したものでないかと、想像せられるのである。

慧成・法生・惠感・慧榮の造像の主尊が、釋迦若しくは彌勒であり、彼等の信仰が皆、この人間世界に於いて、過去に出でた佛と將來に後繼者として出づる佛とに歸命してゐるものであることは、彼等によつて指導せられたと思はれる前述の、北魏貴族の造像と同様である。こ

の四人の僧のみならず、他の僧の造像も同様である。

要するに、北魏時代の龍門造像事業の指導階級たる僧や、これに導かれたと思はれる貴族上層階級の佛教は、釋迦佛を最後とする過去七佛から將來の彌勒へ傳承せられる「此世界の歴代佛」への歸命を中心とした佛教信仰である。唐時代の造像に最も顯著になつてくる、此世界から遠く十萬億土を過ぎた西方の別の世界——極樂淨土——に於ける現在の阿彌陀佛へ歸命する佛教との間には、支那佛教信仰の著しい變遷がうかゞはれるのである。更にこの點を、邑師惠感等によつて指導勸化せられた團體の造像記について考へて見よう。

第三節 集團(義邑)の造像記

六朝時代の造像には、數十人の、時としては數百人の信者の共同出資によつて、できてゐるものが少くない。龍門の北魏造像記に就いても、かゝる信者の團體である義邑の造像例が、次の如くに見られるのである。

- 一 孫秋生等二百人造像(坐佛)記 景明三年(五〇三) 古陽洞 五五
(願)國祚永隆、三寶彌顯各自の榮達、元世父母會員の死後生天。五道群生も福を同くせん
- 二 高樹等卅二人造像(交脚菩薩)記 景明三年(五〇三) 古陽洞 五五
(願)元世父母、現世眷屬の生天、衆生同福
- 三 尹愛姜廿一人造彌勒像記 景明三年(五〇三) 古陽洞 五五
(爲)七世所生父母眷屬の亡者生天、生者福德衆生同福
- 四 邑主馬振拜等卅四人造像記 景明四年(五〇四) 古陽洞 五九
(爲)皇帝

(1) 義邑法社に就いての近人の研究には、小笠原宣秀氏「支那南北朝佛教と社會教化」(龍谷史壇一〇)、山崎宏氏「隋唐時代に於ける義邑及び法社に就て」(史潮三)

五 張道伯等十四人造彌勒像記 延昌三年 古陽洞 三六
(願)各自の現世安穩延命、死後は三塗に至らず

六 杜遷等廿三人造釋迦像記 神龜元年(五二八) 古陽洞 三六
(願)七世父母師僧眷屬一切衆生の俱登正覺

七 邑主孫念堂等造像(交脚菩薩)記 神龜二年(五二九) 古陽洞 三六

八 邑主阿歡等卅二人造彌勒像記 神龜三年(五三〇) 古陽洞 三六
(願)會員の信仰増進し龍花の期にあはんこと等

九 道俗廿七人造像記 正光五年(五三四) 老龍窩附近四
(爲)上は皇帝皇太后下は法界蒼生

一〇 邑主蘇胡仁合邑十九人等造釋迦像記 正光六年(五三五) 蓮華洞 三六
(爲)皇帝、七世所生父母因緣眷屬一時成佛

二 法儀廿餘人造石坐佛記 永熙二年(五三一) 蓮華洞 三六
(爲)皇帝、法界有形の爲に造り一切の得脱を願ふ

佛教が盛となり、一地方に多數の信者ができれば、自ら同信仰を帶紐として結社會が行はれるやうになるであらうし、また有力な僧の教化の行はれる所には、その僧を中心にした信者の團體が生れて來るであらう。南北朝時代には、かゝる佛教信者の會が多數に結ばれた。これを社といひ、法社といひ、邑といひ、邑會といひ、また邑義・義邑・義會などと稱した。¹⁾ 梁の僧祐の『出三藏記集』卷十二に收めてゐる「法苑雜緣原始集目錄」の中に、

京師諸邑造彌勒像三會記

定林上寺建般若臺大雲邑造經藏記

などであるものは、南朝に於ける比較的の上流社會の間に結ばれた法社の例である。北魏に於いて、上流社會の間に結ばれた法社に關する文獻は甚だ少いけれども、絶無ではない。例へば、『續高僧傳』卷六、魏

ノ二、那波利貞氏「唐代の社邑に就きて」(史林二十三ノ二、三、四等がある。

洛下廣德寺釋法貞傳には、肅宗孝明帝時代即ち靈太后の臨朝時代に、その友僧建等とともに洛陽地方の教化に活動し、特に當時上層階級の間に流行した『成實論』等の佛典を講じて大に信者の團體の結成指導につとめ、また多くの造像をなし、その教化が清河王懌等の北魏宗室の間にも及んでゐたことを記してゐる。曰く

善成實論、深得其趣、修講之業、卓犖標奇。在於伊洛、無

所推下(中略)貞乃與建爲義會之友、道俗斯附、聽衆千人、

隨得囑施、造像千軀、分布供養。魏清河王元懌、汝南王元

悅、並折腰頂禮、諮奉戒訓。

と。この貞・建二法師を中心にしてつくられた「義會之友」は、帝都に於ける比較的上流階級を會員にした佛教的結社と認められる。その造像千軀の供養の事蹟は、當時が、近い龍門に於ける造像を始とし、北魏一般に造像が流行してゐて、支那の佛教造像の全盛時代であつただけに、興味深く注意せられるであらう。

北魏の社會は、これを南朝の漢族門閥を中心とした社會にくらぶれば、教養の程度も遙かにひくかつた。されば北魏社會に普及した佛教も、南朝の貴族社會に教養として求められ學ばれ、また當時學界流行の玄學的教學として、研究せられ談論せられ講述せられて榮えて行つた佛教に比すれば、もつと庶民的通俗的であつたけれども、彼よりもずつと信仰的實踐的態度が著しかつた。

かゝる北魏の社會に、佛教信仰を帶紐とする結社が多數できたであらうことは、想像に難くないのであつて、現存する造像を中心にした石刻記類がその資料を提供するし、また屢々北魏の社會に蜂起してゐる宗教的反亂の如きものも、これを推察せしめる資料ともなし得るであらう。

思ふに北魏では、既に太宗の時代に、僧侶が民俗教化上に活動することを認容し、寧ろこれを慫慂し利用せんとする政策をとつてゐる。

『魏書』の釋老志に

太宗踐位。(中略)又崇佛法。京邑四方。建立圖像。仍令沙門

敷導民俗。

とある。この地方に官立の佛寺をおき、また僧をして、民俗教化の指導者たらしめた國初の宗教政策は、わが國分寺を聯想せしめるものがある。この制度が、既に從來からよく民間に流傳してゐた佛教をして、益々盛ならしめ、多くの教化僧の輩出と彼等の庶民社會における活動をうながしたと察せられる。

世祖太武帝の廢佛によつて、かゝる教化僧の活動も、一時は表面から姿をけしたけれども、次で高宗の佛教復興以來は、再び盛となり、僧侶の民間に出で、教化に活動するものは、空前の活況を示したやうである。佛教復興が許可せられてから後二十年を経た、孝文帝の延興二年^{西曆四七二}四月に出でゐる左の二詔をよく味へば、この間の教化僧の活躍と、これによつて造寺造像が盛に行はれたことが、十分にうかがへるであらう。その第一は

詔曰、比丘不在寺舍、遊涉村落、交通姦猾、經歷年歲。令

民間五五相保、不得容止。無籍之僧、精加隱括。有者送付

州鎮、其在畿郡、送付本曹、若爲三寶、巡民教化者、在外

齋鎮維那文移、在臺者、齋都維那等印牒。然後聽行。違者

加罪。

佛教復興の波にのつて民間に教化にまはつてゐるものが、村から村へ廻り歩き、信者の家にとまりこんで、數年にわたつて寺に歸らぬものが少くなかつた。この間、自ら弊害が生じ、殊に無籍の偽僧が、か

かる處に生活の道を得て姦惡をなすものも生じたので、民間の自警組織によつて、これを嚴重に取締らしめたのである。以つて、村落民間に於ける教化僧の活動が、相當に盛に行はれてゐたことを想像し得るが、詔の後半には、かゝる弊ありしにもかゝらず、中央並びに地方の僧曹の證明書を有する僧が、三寶の爲に巡民教化することを認めてゐるのである。かゝる巡民教化の僧が民間に教化をたれ、信者の團體邑會を組織して、これを指導し佛敎的諸事業を勸進するもの、これを邑師と稱したらしい。

この頃までも、なほ中央の沙門統として、朝廷にも佛敎界にも絶大な勢力をもつて佛敎復興を指導し、かの雲崗石窟を發願した曇曜が、吉迦夜と共に延興二年、即ちこの詔勅のた年に譯出した『雜寶藏經』にも、邑會をつくつて盛に齋會を設けた女弟子たちの話がでてゐるのも興味深い。殊に曇曜と同じ時代の曇靖は、廢佛毀釋の爲に、舊譯諸經典が焚燒せられ散逸してしまつてゐる當時、人民を誘導する爲に便

宜な經典が必要であるとして、『提謂波利經』二卷を作つた。この經は、

庶民を誘導することを主目的としたものであるから、平易を旨としてゐるのみならず、支那在來の民間信仰である泰山信仰や陰陽五行の説をとり入れ、また上帝の使者である諸神によつて、調査せられてゐる人間の善惡の行爲が、六齋日、八王日（立春・春分・立夏・夏至・立秋・立冬・冬至）、歲末などに、上帝に報告せられることを説き、また散華・焼香・燃燈・禮佛・遶塔などの功德によつて種々の福を得ることなどを説いてゐる經である。かゝる方便的な偽經が、民間に布教する僧侶を通して、北魏以來の庶民を佛敎信仰に誘導したことは非常なものであつて、隋初に至つても、中央や地方の民間に、『提謂經』を中心にして多くの邑義が結成せられてゐたのである。『續高僧傳』卷一釋曇曜傳に

隋初開皇（西曆五八一）關壞往往民間猶習提謂 邑義各持衣鉢 月再興齋 儀範正律 遞相監檢 甚具翊集云。

と、道宣が述べてゐる。また以つて、民間の通俗信仰中に佛敎を導入

(2) 拙稿「北魏の佛敎匪」支那佛敎史學三ノ二參照

(3) 二詔は共に『魏書釋老志』に出づる。

(4) 雜寶藏經卷五、「外道婆羅門女學佛弟子作齋生天緣にいふ。爾時舍衛國、有佛諸弟子女人作邑會、數數往至佛邊。

曇曜時代に北支那で、邑會なる名で佛敎信仰者の結社がよばれてゐた證としてよからう。譯者たる曇曜も、佛敎復興の遂行上に、かゝる邑會結成の必要を認めてゐたであらう。彼の最大の事業であつた雲崗石窟に邑師、邑義の名稱ある刻記が見られること、同時代の曇靖が民間教化の方便として、支那俗信をとり入れた『提謂波利經』を造つて流布したことを默認してゐることをあはせ考へるべきであらう。なほ『雜寶藏經』を延興二年譯とすることは、『出三藏記集』卷二、隋の『歷代三寶紀』卷三卷九などに見ゆ。

(5) 『提謂波利經』選述のことは、今用ひた『續高僧傳』曇曜傳に付した曇靖傳の外に、『出三藏記集』卷五、『歷代三寶紀』卷九等に出づ。提謂波利は釋尊に歸依した商人の名である。この經が一般の經典のように、菩薩や聲聞を對象とせず、また『維摩』や『勝鬘』の如き學者や貴族を主人公とせず、商人即ち當時の階級意識では卑しめられる庶民階級を對象としてゐる所に、その經の性格が現れ

しながら、盛に佛教的事業を勸進してまはつた、北朝時代の教化僧の活動を、うかゞひ得るであらう。⁶⁾

次に、同じく孝文帝が延興二年に出した左の詔は、この時代の人民が、寺塔建立の如き佛教的土木事業に狂奔したことを云ひ、これに嚴重な警告を發したものである。

又詔曰、内外之人、興建福業、造立圖寺、高敞顯博、亦足

以輝隆至教矣。然無知之徒、各相高尚、貧富相競、費竭財

産、務存高廣、傷殺昆蟲含生之類、苟能精緻、累土聚沙、

福鐘不朽、欲建爲福之因、未知傷生之業。朕爲民父母、慈

養是務、自今一切斷之。魏書釋老志

この警告禁斷の詔も、造寺造塔が福業であり、また佛教を興隆する善事であることを認めてゐるのであつて、造寺造塔を全然禁止するのではない。一般人民が、身分不相應な寺塔建立の大事業を競争してやり、家産を蕩盡してかへりみぬといふような、福業への狂奔の弊を除かんとするものであるが、人民の分相應な佛教的福業をも嚴禁してゐるのではない。寺塔建立の如き大事業は莫大な費用を要し、一般庶民の輕々なし得べきものでなく、その弊害を認めて嚴禁したとすれば、熱心な信者の功德業は何に向ふであらうか。造像といふやうな功德業が當然に思ひ至られるであらう。況や當時は雲岡の石窟造像の如きものが、盛に進行中であつたに於てをや。人民の復佛興佛の熱の溢れてゐる時代に、寺塔建立を嚴禁する結果は、造像の如き事業を一層盛ならしめたのではないか。前詔にはゆる「三寶の爲に巡民教化する」僧も、信者の團體即ち邑義を指導して功德の業をなさしめる上に、造像の如きことをもつて、最も成就し易く勸化し易いものとして、かかる方面に力をつくすやうになつたものが多くなりはしなかつたか。

龍門古陽洞の古い石刻記に、「暨于大代、茲功厥作」太和二十二年比とか、丘巖成造像記

「爰暨下代、茲容厥作」魏靈藏等造像記とか記してゐるのは、北魏時代に造像が

盛になつたことをいつてゐるものであらうが、實際に現存してゐる多數の遺物が、よく北魏時代、特に洛陽遷都以後に、頓に造像が盛になつたことを證明してゐる。もとより、かくの如く、孝文帝以後に造像遺物が頓に増加することは、一には前代に廢佛があつたことを考へねばならぬが、また上述の如き理由で、教化僧の勸化がしきりに行はれ、庶民の興福事業が彼等にふさはしい造像に向つたことも、考慮せられてよいのではないかと思ふ。

『洛陽伽藍記』卷二の瓔珞寺の條に、崇眞寺の僧惠凝が、死んで閻羅王からきいて來た話をのせてゐる。禪林寺の道宏が、生前に「四輩檀越を教化し、一切經、人中象十軀を造つた」といつたのに對し、閻羅王は

沙門之體、必須攝心守道、志在禪誦、不于世事、不作有爲。

雖造作經象、正欲得它人財物、既得它物、貪心即起、既懷

貪心、便是三毒不除、具足煩惱。

とて、天堂に升らしめずして黒門に入らしめた。そしてこの話を聞いた靈太后は詔して

不聽持經象、沿路乞索、若私有財物、造經象者、任意

と布告したといふ。

これは、經典や佛像を造ることを勸化してまはる化俗の僧を以つて、僧の本分に非ずとして警告し排斥してゐるものであるが、また以つて北魏後半期に、經典や佛像をつくる比較的容易な出資事業を、民間に勸告し廻る僧が少くなく、寧ろその弊害が認められる程に多かつたことを推察せしめるものといつてよからう。

さて邑師の活動は、必ずしも造像のみあつたのではなく、法會、寫經等の勸進、寺塔の營繕費の勸化などにも活動したのであらうが、今はかゝる文獻資料が殆んど傳らず、金石によつた造像記のみが多くのことつてゐる關係から、殆んど造像を勸化指導した邑師のみが、その名を傳へてゐるわけである。その古い例としては、雲岡石窟に存する有名な太和七年西曆四八三の造像記をあげることができる。この銘記は、「邑義信士女等五十四人」が共に相勸めあつて、國の爲に造像したことを記し、また「願同邑中諸人、從今已往、道心日隆、戒行清潔……」と佛教徒としての會員一同の信行増上を願つてをり、その文前に

邑師 普明

邑師 曇秀

邑師 法宗

の三行の僧の列名が存するのである。この三人の邑師は、恐らく銘記にいふ「邑義信士女五十四人」の信者團體を教化指導して、この造像事業を成就せしめた人々であらう。

今、龍門の造像に於いても、かゝる邑師の教化活動がうかゞはれる。前記の北魏龍門造像記の中では、(6)に邑師董(慧?)暢、(7)(8)に邑師惠感が見えてゐるにすぎぬが、他の造像の邑儀にも、かゝる僧尼の指

導者があつたものであらう。

造像結社の邑義は、その會員を邑子といひ、邑子は屢々法儀兄弟姉妹など、記されてゐる。龍門では、前記の(1)や(4)の造像記の題額に「邑子像」と出してゐる。この造像が邑子の共同出資によつて成れることを明示してゐるのである。

邑儀の長を邑主といつてゐる。造像の邑儀では、その造像發願者が主たるものであるから、像主といつてゐるものもある。邑儀は若干の幹事をおき、また名譽會員を推戴するものもあつた。會長や幹事は普通會員たる邑子よりも、一般に多額の出資をするものである。例へば、神龜二年西曆五一九の像主崔勲等造石像記には、「像主崔勲用錢九千□」といひ「法儀兄弟廿五人各錢一百」といつてゐるが如くである。前記の龍門の孫秋生等二百人造像記では、題額「邑子像」の左右に、邑主中散大夫滎陽太守孫道務(左)、寧遠將軍中散大夫潁川太守安城令衛白犢(右)の名が刻まれてゐる。兩人は共に、この造像の發起人たる縣功曹の孫秋生等よりも、ずつと上位の官職にあるものである。特に多額の出資を請ひてこの造像會の會長に推したるものか、或は事業遂行の便宜上から、その名をかる爲に、名譽會長に推戴したものであらう。

邑義の幹部となつてゐる者や、特別の出資をした者は、平會員たる

(6) 北齊の時代に士女教化の爲に『金藏論』を著し、「寺塔齋燈之由、經像歸戒之本などを分類網羅して福業をすゝめ、大に鄴地方を巡回教化して

因斯以勵道俗、從者衆矣、又復勸人奉持八戒、行法社齋、不許屠殺、所期既了、又轉至前、還依上事、周歷行化、數年之間、遼東林郊、奉其教者十室而九。

と記されてゐる道紀續高僧傳卷三十や、隋末初唐の頃に山西省の汾水流域地方を巡教して多置邑義、月別建齋といふ法通續高僧傳卷二四や、民間に道教の道會が盛に流行してゐた益州地方で佛教の義邑を結成すること千に達し、

奉勵坊郭、邑義爲先、每結一邑、必三十人、令誦大品、人別一卷、月營齋集、各依次誦、如此義邑、乃盈千計、四遠聞者、皆來造款。

と記されてゐる寶瓊續高僧傳卷二八などは、何れもいはゆる化俗法師入唐求法巡禮行記卷一であり、邑師と稱せられべき人々であらう。そしてこれ等から、北魏時代のこの種の化俗僧の活動を推測し得るであらう。

(7) 山東に出土したものであつて、『八瓊室金石補正』卷十五に、文をのせ考證してゐる。『魏書』に傳のある崔鴻やその一族と認められる者が名を列ねてゐる。

邑子と區別する名稱を冠してゐる場合が多い。もつとも、各地で任意に組織せられる團體のことであるから、その組織なり幹部の職名などは、必ずしも一致してゐたわけではないが、普通には會の幹事を維那と稱した。維那とは、もと印度にあつた僧團の中に設けられた職名であつて、梵名を羯磨陀那 Karma-dana といふ。支那でこれを維那

維は綱維の維にして僧衆を統ぶるの義をとり那は羯磨陀那の最後の那を存したるもの、所謂梵漢兼舉の名詞である

といひ、また悦衆とも稱した。北魏の建國時代に、長安に據つて中原地方に勢をはつてゐた姚秦では中央の僧官制の中に、悦衆が存してゐた。北魏では、中央に沙門(都)統を長官とする昭玄曹をおき、州鎮にも僧統を長官とする僧曹を置いて、全國佛教を統監せしめたが、その副官として佛教に關する諸般の事務を統理したものが中央の(都)維那、地方僧曹の維那であつた。かかる北魏の宗教行政制度中の僧官名が、民間信者の集團的造像事業にも轉用せられたものであらう。造像記に見える俗人の維那は、一般にその造像會の幹事であり世話方であり、都維那は幹事長である。

邑義の造像記に現はれてゐる所は、思ふにその主腦部、或はその指導者であつた邑師の思想信仰であると解してよからう。前記の龍門に於ける北魏邑義の造像は、釋迦と彌勒とであつて、その信仰は僧の造像に見た所と大差なきものである。

(1) (2) は共に、「石像一區」とあるが、(1) は三尊形式の坐佛であつて、他の例に準じて釋迦像と推察せられ、(2) は交脚菩薩の三尊龕であるから、彌勒像と推定せられる。而も(2)には「來身神騰九空、迹登十地、五道群生、咸同此願」といひ、(2)には「來身神騰九空、迹登十地、三有同願」といひ、殆んど同じ字句を用ひて死後に天上に生れて菩薩十地の位に至らんことを願つてゐる。大乘菩薩の行を満足した位に至らんことをのぞんでゐる所に、大乘佛教によつて導かれてゐる

信者であることを示してゐる。その九空とは彌勒の現在する兜率天を豫想してゐるものと思はれるのであるが、佛教の用語ではなくして、支那で古くから神的に用ひられてゐる九天から來てゐるものであらう。民間の天の信仰と習合して流傳して行つてゐる彌勒信仰をうかゞひ得るであらう。(3)は、彌勒像であり、願文にも「亡者生天」といつてゐる。(4)は、皇帝陛下の爲に石像を造るといふのみで、他の願意を記してゐない。(5)は、彌勒像によつて造像者十四人の現世安穩、壽命の延長を願ひ、死後には三途におちざらんことを願つてゐる。

(6) (7) (8)には、邑師の名が見え、殊に(8)には邑主、光明主、都維那、維那、邑正、邑老などといふ肩書が邑子の間に見える。それぞれ特殊の出資をしてゐるものや、幹事役として活動した人々なるべく、邑正、邑老の如きは、特に家柄年齢などの點からその郷土で尊敬推戴せられてゐた人であらう。これ等の造像會は、邑師惠感の指導の下に人生の無常をさとり、家財を竭して彌勒像を造り、この福によつて「邑儀兄弟」の信仰の増進を願ひ、將來彌勒佛がこの世界に降つて教を垂れられる時、所謂「龍花之期」に遇はんことを願つてゐる。邑老の名稱は(10)にも見えてゐる。

(11)の法儀廿餘人造像記は、北魏宗室關係のものとして前々節に述べておいたものである。

以上、宗室貴族、僧尼、及び集團の三者に分つて、北魏時代の龍門造像記の主要なるものを紹介し、これ等を通じて造像を指導した僧侶或はこれに贊助した貴族等の上層階級の佛教の大勢が、第一に「釋迦—彌勒」なる相繼承する二佛、この我々の住む人間世界に生れて佛になり、今の諸經を説かれた最後の佛と、その教の相續者として、將

來この世界が理想的な君主によつて統治せられる太平時代に天から下つてきて佛となり、無数の人々を教導し救済せられるといふ佛とに歸命するものであつて、彼岸的な淨土にある佛に歸命する感情がうすいこと、換言すれば、著しく此土的、現實的性格の強いものであることが知られたであらう。

第二にはまた、佛の教に三乘（聲聞・緣覺・菩薩）二乘（大・小）の諸教のあつたことを認めて、その菩薩乘大乘の佛教に進趣歸入せんとするものであることが知られたと思ふ。この菩薩大乘の信仰に關連して、更に一つ注意を追加しておきたいのは、「一切衆生と共に」といふ考へ方である。以上の貴族・僧侶・集團の造像に限らず、一般庶民の造像に至るまで、彼等の主要動機が亡き近親への追善に出づることを記し、この點、家族主義道徳が根幹をなし、祖先祭祀を重要視する支那社會の習俗に共通せるものである。それは家族主義、祖先祭祀の道徳習俗に結びついて説かれてゐる、支那的な佛教である。がしかし、これ等の近親者の爲にする個人の造像にも、また貴族の造像にも、殆んど皆「一切衆生と共にこの福を共にせん」と願つてゐることに注意したい。

第七章 龍門造像に見る禮拜對象の變化

第一節 彌勒菩薩信仰

龍門の北魏窟に於いて、佛教の教祖釋迦佛が本尊たる地位を占めてゐることは當然であるが、その壁面の造像に於いては、菩薩形の彌勒交脚像が甚だ多く、造像記の祈願文も彌勒に捧げられてゐるものが多

小乘聲聞の佛教を以つて自利的方面に局まるものとなして、大乘菩薩の佛教が利他を強調し、自利利他を圓滿する眞佛教なることを大いに説いたものが大乘佛典であり、大乘を標榜する支那佛教徒は、しきりにこの點を高揚したものである。龍門造像銘記が「一切衆生と共に」と願ふ所に、これ等の佛教が大乘佛典に指導せられてゐることを示し、それは『維摩』『法華』の諸經關係の彫刻造像によつても明にされ、そしてまた、これ等の大乘諸經が小乘教を壓倒して南北朝時代に行はれてゐることを明かにしてゐる多くの文獻資料とも、照合し得るものである。王公貴族が「一切衆生と共に」と願ふ帝都近郊の造像の盛行は、庶民對貴族の間隙を佛教の中で融和してゐるものであり、僧徒はこの願文の精神を強調することによつて、貴族と庶民とを同時にその歸依者となすことが出来る所以である。固より「衆生と共に」が、佛教の眞義を高揚せることはいふまでもないが、官尊民卑の階級意識が、特に強かつたであらうと思はれる、帝都に近い龍門の一地域中に、貴族庶民が相交错して造像の盛況を見せてゐる所以も、かゝる「共濟共生」の大乘教義の宣揚に、おふ所があつたものであらうと、考へてもよからう。

い。北魏造像の統計は、既に述べた如く、釋迦と彌勒とが最も多く、觀世音菩薩これに次ぎ、無量壽佛が更にこれに次ぐ。何が故に彌勒菩薩が、かくの如く北魏佛教界の信仰を集め得たのであるか。

その第一の原因としては、勿論、佛徒に對して權威を以つて彌勒信仰を弘める所の、聖典の傳譯を考へねばならぬ。試みに龍門の北魏造

像盛時に選述せられた經典目錄である梁、僧祐西曆五八一卒の『出三藏記集』から、彌勒の名を題名に出してゐる佛典のみをひろつて見ても、次の如くに多いのである。

一 彌勒成佛經一卷 與羅什所出異本 西晉、竺法護譯 (佚)

二 彌勒本願經一卷 或云彌勒菩薩所問本願經 西晉、竺法護譯 存 (大正藏)

彌勒は本來久遠の昔に佛の覺りを得てゐるが、淨國土、護國土、淨一切、護一切の四事の爲に、未だ成佛の形をとらない。將來、この國中の人民が諸の垢穢を離れ十善を行ふ時に至れば、彌勒は成佛するといふ。

三 彌勒下生經一卷 姚秦、鳩摩羅什譯 存 (大正藏)

四 彌勒成佛經一卷 姚秦、鳩摩羅什譯 存 (大正藏)

前者は約二千九百字、後者は約七千四百字、多少廣略の異あれども、將來この世界に壞法聖王が君臨し、人壽八萬四千歳にして天死なく、水火刀兵饑饉盜賊もなく、人々親子の如く相愛する和平時代に、彌勒は恰も釋迦佛がなせしが如くに、この世界に生れ、出家し、龍華樹下に成道し、釋迦佛著用の僧伽梨をもつて滅盡定に入つてゐた摩訶迦葉から僧伽梨を傳へ、三會の説法によつて無數の人を濟ふ。今、佛教を信受し善根を植ゑておく者は、この三會の説法にあつて濟はれると説く。

五 觀彌勒菩薩生兜率天經一卷 或云觀彌勒菩薩經 宋、沮渠京聲譯 存 (大正藏)

北涼の沮渠京聲が高昌で、觀世音觀經と共に得たもの、一に『彌勒上生經』と稱する。一生補處の菩薩である彌勒は、兜率(兜)天に生れ、五百億天子、五百億寶女等の供養をうけて、七寶臺の師子床座上に説法する。五十六億七千萬年の後に、この世界に下生することは『彌勒下生經』に説くが如くである。未來世の衆生等が、彌勒菩薩の名稱を聞き、形像を造立し、供養を捧げて鑿念すれば、命終の時に彌勒菩薩に迎えられて兜率陀天に生れ、法を聞いて不退轉を得、未來世に於いて無數の諸佛に遇ふことができる。等と説く。

六 彌勒經一卷 安公云出中阿含 失譯 (佚)

七 彌勒當來生經一卷 失譯 (佚)

右の二部は、僧祐は未見のものであるが、道安の經錄に出づとしてゐる。北支那にて流傳してゐる梁の僧祐が集め得なかつたものかと推察せられる。(以上卷三)

八 彌勒菩薩本願待時成佛經一卷 (佚)

九 彌勒下生經一卷 異本 失譯 (佚)

十 彌勒爲女身經一卷 失譯 (佚)

右三部は、今日はないが僧祐が『新集續撰失譯雜經錄』に著録して、現存すとしてゐるもの。

十一 彌勒受決經一卷 (佚)

十二 彌勒作佛時經一卷 (佚)

十三 彌勒難經一卷 (佚)

十四 彌勒須河經一卷 (佚)

右四部は、同じく『新集續撰失譯雜經錄』に著録し、諸經錄に就いて詳校して、名數は確認し得るが、未だその本を見ずとなしてゐるもの(以上卷四)

十五 彌勒下教一卷 在錄 (佚)

右一部は、僧祐が『新集疑經偽撰雜錄』に著録してゐる偽撰佛典である。(卷五)

以上、『出三藏記集』に著録せられてゐる十五種の佛典以外にも、現存するものに、

十六 彌勒下生經一卷 西晉、竺法護譯 (大正藏)

十七 彌勒來時經一卷 東晉、失譯人 (大正藏)

があり、共に前記の『彌勒成佛經』と同様に、將來壞法轉輪聖王が治める太平時代に、彌勒が兜率天より下生して成佛し、龍華樹下の三會の説法で衆生を濟度することを説く短篇である。但しこの竺法護譯の『彌勒下生經』は、前秦、曇摩難提譯の『增一阿含經』第四十八からの抄出と認められる。抑々『增一阿含經』のみならず、『中阿含經』第十三や、『長阿含經』第六、轉輪にも、彌勒が將來下生し成佛することが説かれて居り、これ等の阿含經典は、何れも北魏建國時代の前後に譯出せられてゐる。かゝる長篇佛典の中から、彌勒に關する部分が抄出別行せられたことも、彌勒下生説話が、支那佛徒の特別の注意を引いたことを物語るものである。これ等の彌勒經が、何れも、廣く大衆の間に流傳し易い一卷の短篇であつたことも、注意しておいてよからう。

これ等の『彌勒經』とても稱せらるべき佛典の外にも、北魏時代に最もよく信奉せられてゐた大乘佛典、『法華經』『維摩經』に、彌勒菩薩が特筆せられてゐることは、既に述べた如くであり、『大智度論』や『阿

育王傳』や、また北魏時代に特に關係深き曇曜沙門統等の『付法藏因緣傳』にも、釋迦佛の後繼者、將來佛としての彌勒菩薩が説かれてゐる。以つて彌勒信仰が、北魏時代に盛となるべき原因は、流布佛典の上からのみによつても、充分認められるであらう。

北魏の彌勒信仰は、かゝる佛典類の外にも、有力な人による影響もあつた。道安、法顯の如き人を、その例にあげ得る。道安が若干の同志と共に熱心な彌勒菩薩の信者であつたことは、史傳に有名なことである。道安の感化影響が北魏の中原地方に特に大であつたことも、色の點から認められることである。²⁾

法顯の印度求法は、北魏時代の佛徒にとつて最も感銘深きもの、彼が見聞して來た印度に於ける彌勒信仰は、北魏佛徒に影響する所、頗る大であつたと認められる。法顯は、パミールの峻嶮を越えて始めて北印度の地をふんで陀歷國、即ちダレル (Darel) 河の溪谷にあたる今のダルヂスタン (Dardistan) 地方で、先づ、兜率天上の彌勒菩薩を親しく寫して造つたといふ、巨大な彌勒菩薩の靈像を拜し、且つ土人から此像が立つてから、天竺僧が此河を越えて東方へ佛教を傳へるやうになつたのだ、ときかされ、敬虔な支那の佛徒としての感動の記事をのこして曰く、

大教宣流、始自此像。非夫彌勒、大士繼軌、釋迦、孰能令三寶宣通。邊人識法、固知冥運之開。本非人事、則漢明之夢。

有由而然矣。(法顯傳)

と。後漢の明帝の時に佛教が傳つたのも、釋迦佛の後繼者として此世界に出られる彌勒菩薩のこの靈像が、道を開いたのだと、讚歎してゐるのである。

法顯は更に師子國即ちセイロン島では、天竺道人が高座から大要次の如き經を誦するのを聞いた。

釋迦如來の使用せられてゐた鉢は、今は中印度の毗舍離から北印度の犍陀羅に移つてゐるが、この佛鉢は數百年を一期として犍陀羅から月氏國、それから于闐國、屈茨(龜茲)國と、順次に中央アジアの佛教國をへて支那に達し、更に師子國をへて中印度に還り、釋迦佛の後繼者として將來この世界に出づべき天上の彌勒菩薩のもとに至つてその供養をうけ、再び下つて龍宮に收まる。……

佛教は漸衰し、善を行はぬ人の壽命は次第に短くなる。終に人壽が五歳になり、而も互ひに相殺傷する時代になつて、始めて人々は反省して善に志すやうになる。そこで再び人壽はのびて行つて、終に八萬歳の長壽を保つ時代になる。この時、彌勒は兜率天からこの世界に下つて成道し、第一次、第二次、第三次と、順次に佛教に親縁を結んでゐる者に對して、法を説いてこれを濟度する。佛鉢は、かつての釋迦佛の時に於けるが如く、四天王が捧持して彌勒佛に獻ずると。

言は荒唐なりとするも、千五百年昔の支那大衆佛教徒、殊に胡族支

(1) 十五種中、僧祐が存とするものは、四種にすぎぬ。しかし、これ等の短篇經典は、北朝に行はれてゐたものが多かつたとも推察される。
(2) 拙稿「北魏建國時代の佛教政策」(『東方學報』十ノ一)参照。
罽賓の沙門、僧伽跋澄が道安と共に譯出(三三八四)した、『婆須蜜所集論』や『僧伽羅刹所集經』の序に、婆須蜜等の兜率往生が記されてゐる。印度地方で、當

時彌勒信仰が盛に流傳してゐたことは、法顯によつても知られる。北魏建國の前後に、長安洛陽地方へ來た西域・印度の僧中に、彌勒信仰を傳へるものが多かつたことが推察される。また北魏佛教に關係深き、北涼曇無讖譯の『菩薩地持經』、『菩薩戒本』等を見よ。

配下の北支那佛教徒が、感激し共鳴したものは、佛教の哲學的教理ではなくして、寧ろかゝる神祕的な靈驗の說話にあつたことに注意せねばならぬ。梁の僧祐は、かつて道安が摘出した二十六部の偽經の外に更に二十部の疑經僞撰佛典を追加してゐるが、その中に次の如きものが列んでゐる。

佛鉢經一卷 或云佛鉢記、甲申年
天水及月光菩薩出處

彌勒下教一卷 在鉢
記後

僧祐が「或は義理乖背、或は文偈淺鄙にして近世の妄撰である」と判定した經の中に存する右の二部は、思ふに、法顯が傳へてゐるやうな佛鉢が移轉して支那に來る話などを、平易鄙近に述べたものであらう。³⁾しかし、かゝる説話的短篇の經は、かへつて廣く社會に流傳し易く、民間の説法教化に利用せられ易いものであつて、その流傳する所は、やがて彌勒信仰の興る所である。⁴⁾

要するに北魏は、或は傳譯佛典により、或は渡來する外國佛徒により、或は道安・法顯等の支那佛教界の巨匠等によつて、彌勒信仰が大に流傳し興隆せられてゐた土地に國を成し、かゝる佛教を繼承したものである。その彌勒信仰は、神話的なるもの、釋迦傳的なるものであつて、二つの面をもつてゐる。一は、天上の彌勒菩薩への信仰、即ち死後に往生せんと願ふ天國の主としての、現在菩薩への歸依である。二は、地上人間世界の彌勒佛、即ち將來佛としての信仰である。彌勒の降り來つて成佛する時に、自らもこの世界の人として再生し、その説法救濟にあづからうといふ人間世界將來への憧憬である。

思ふに北魏時代の一般の信仰には、神々の住む天上世界があつた。『釋老志』に、道士寇謙之の事蹟を述べる中に、

天神乘雲駕龍、導從百靈仙人玉女、左右侍衛、集止山頂。

とあるが、これは單に道教徒の信仰に限らるべきでなく、北魏人に一般的であつた信仰と解してよい。彌勒信仰の一方の方面は、かゝる信仰と共に受容されるもので、龍門造像銘には「天上諸佛(諸神)の所に生りたい」といつた類のものが少くないし、前章にも注意しておいたやうに、「九空」といふやうな支那民俗信仰的な用語も見られるのである。龍門の彌勒信仰が『法華經』所説に導かれてゐる點の多いことは、既に述べた所であるが、『正法華經』に、

臨終壽時、面見千佛、遊在吉安、不墮惡趣。壽終之後、生兜術天、適生天上、八萬四千諸玉女衆、往詣其所、鼓諸伎樂、而歌頌德。

とある文の如きは、前引の『釋老志』の道教の信仰と同じ類のものとして、容易に受容せられ得るものといへよう。

第二の、將來彌勒佛の説法にあはんとするの信仰には、強い「この世界」「この人間生活」への愛著が認められる。彌勒神話に於ける彌勒佛出世の時は、理想的帝王によつて統一和平の國家が實現せられる時である。帝都近郊の龍門に於いて、彌勒出世の時を憧憬願望せる造像者は、現實の北魏國家を肯定し、偉大なる帝王の出現を期待し、北魏帝統の連綿たる如くに、この世界に於ける佛統の永續を考へ、釋迦の佛統を繼承する彌勒佛を王位繼承になぞらへて考へてゐたであらう。『魏書釋老志』には「三歸五戒を奉持する者は天人の勝處に生る。これを虧犯すれば鬼畜の諸苦に墜つ。善惡の生處凡そ六道あるなり」と述べてゐるが、佛教で輪廻轉生の迷界とされる六道の中で、天と人とを善處勝處としてゐる所に、よく北魏人の、現世人間界への愛著と、天上を神國化してゐる信仰とがうかゞはれ、これがそのまゝ、龍門の北魏造像銘の彌勒信仰に現れてゐることを知るのである。

第二節 釋迦から彌勒へ（雲岡から龍門へ）

——釋迦中心の佛教信仰の變遷——

前節に私は、北魏彌勒造像の盛行の由來を、いはゞ外部的方面から考へて、前代からの繼承としたが、更にこれを支那に於ける佛教信仰者の内面的方面から即ち支那佛教徒の信仰上の要求からも、考へてよいと思ふ。

禮拜對象としての釋迦佛には、信者の感情を満足せしめざる蔭がついてゐる。「千年昔の印度の釋迦佛」に伴ふ人間性、遠隔感、過去者感が、少くとも大衆の歸依、禮拜、祈願の對象として、ある不滿を感じしめるのである。彌勒菩薩は釋迦傳に附隨する菩薩であるが、入涅槃し荼毘せられた釋迦佛（過去佛）よりも、現在天上にある神格とせらるゝ點に於いて、信者に親しまれ易く、殊に北魏時代の釋迦中心の佛教にあつては、禮拜對象が釋迦から彌勒へと移り易い。私はかゝる變移を雲岡石窟と龍門北魏窟との間に、眺め得ると思ふのである。

北魏時代の釋迦佛信仰は『魏書釋老志』に次の如く記してゐる。

釋迦前有六佛。釋迦繼六佛而成道。（中略）將來有彌勒佛。

方繼釋迦而降世。

釋迦は、昔この人間世界に順次に出現した過去の六佛の世代を繼承した第七代の佛であり、更にその繼承者として天上に現在する彌勒菩薩、將來のこの世界の第八代の佛をもつてゐる。即ち「過去歴代の六

佛——釋迦佛——彌勒佛」といふ、この人間世界に於ける世代的系列の中にある釋迦佛として、信ぜられてゐるのである。北魏の佛龕の上部には、屢々過去佛を小坐佛として列べ現して、本尊の釋迦佛や彌勒菩薩が、これ等の過去佛を繼承して出られることを示してゐるものが少くないし、釋迦を加へた「過去七佛」の名稱も、造像記中にも出てゐる。龍門古陽洞の、左右壁の大佛龕列の上段が、釋迦坐佛であるのに對し、中段が交脚菩薩像であるのは、釋迦佛を繼承する彌勒菩薩のあることを現してゐるのである。

要するに、祖先歴代と繼承者をもつた釋迦佛が、北魏の釋迦佛信仰であり、同時に北魏一般佛教の基調をなすものである。雲岡石窟もこれに續ける龍門の北魏窟も、共にかくの如き釋迦佛を中心とせるものである。しかし、雲岡石窟と龍門北魏窟との間には、釋迦佛の表現形式に變化が認められ、造者が重要視する所、現さんとする意味に於て、興味深い變遷が認められると思ふ。

雲岡石窟に於いては、例へば、中央の第六窟——西部にある所謂曇曜の五大窟に次で造られた、最も莊嚴華麗なる大窟にして、恐らく太和初期に成れるもの、即ち龍門の古陽・賓陽の二洞の前時代に續けて考へられるものである——に見らるゝやうに、印度に於ける釋迦佛八十年の傳歴を示すことに、最も力がそゝがれてゐる、誕生から宮廷生活、出家修行、降魔成道、說法、入滅までの經歷を、順を追ひ場面を分つて彫造してゐる。また釋迦誕生前史としては定光佛の授記がとり入れられ、また『法華』、『維摩』の說法も、釋迦傳中の重要な場面を構

(3) 『出三藏記集』卷五、新集疑經偽錄第三。
(4) 拙稿「北魏の佛教」(支那佛教史學三ノ二) 參照、尙佛教に於ける彌勒信仰の

成してゐる。要するに、印度の王子として生れて佛に達した釋迦の生涯の説明によつて、その偉大を傳へんとしてゐるものである。私は雲岡のこの窟に立つと、曇曜の『付法藏因緣傳』の一節を思ひ出す。

『付法藏因緣傳』は、造窟の指導者と推定せられる沙門統曇曜が、佛教復興の第一事業として、釋迦佛以來の教を傳々相承して來た祖師達の芳躅を編述して、一には、廢佛の悲境から復佛興佛の慶びを迎へた僧徒を、反省し發奮せしめるとともに、他面には、帝室をはじめ庶民に向つて大に新傳道を開始する上に利用する聖典たらしめたものと、認められるものである。その卷第一に、信佛の阿闍世王の座の周圍に、「如來本行之像」即ち降誕から成道說法入滅に至る釋迦傳歴を、詳細に順を追ひ場面を分つて畫いたことが出てゐるのである。阿闍世王を北魏王室におきかへる時、雲岡の釋迦傳窟が計畫せられ得る。

當時の北魏の人々は、一般に神仙の存在と可能を信じてゐた。釋迦傳歴は支那流に言へば、人間社會に於ける最も高貴の身分である王子から、大聖人若しくは大神仙への修學達成に至る、理想型の大神仙傳歴であるともいへやう。雲岡石窟には、神仙傳歴的な釋迦佛生涯を具體的に説明する彫刻を現し、これを通して、王公以下北魏人へ、釋迦佛の偉大を示し説かんとする意圖が、うかゞはれるであらう。

然るに龍門北魏窟に於いては、同じく釋迦佛を主とするものでありながら、誕生、出家、成道、乃至入滅までの、釋迦傳歴の各場面は見られなくなつてゐる。古陽洞をはじめ、其他の北魏窟にも見らるゝやうに、釋迦の繼承者としての彌勒菩薩像が盛に造られて來る。帝王窟である賓陽洞には、雲岡になかつた別の二つの本生譚が、『維摩經』の場面と共に彫刻せられてゐる。この二本生譚は、佛の成佛の由來が久遠なることを示すものである。殊に驚くべき犠牲的精神に立つて、常人の企

て及ばざる他の爲に妻子や自らの身命をもすて、布施・忍辱の利他行を完遂せられたのに報ゐられた、大慈悲佛であることを示してゐる。

また龍門の北魏窟龕では、一律に、二菩薩、或は二菩薩二羅漢を脇侍とする三尊或は五尊の形式の造像によつて、本尊佛が『維摩』『法華』等の大乘佛法を究竟目的として説示せられたものであることが、高揚せられてゐる。

龍門に造られてゐる北魏の釋迦佛窟が、示さんとする重點は、成佛に達した印度の王子の傳に非ずして、佛とその法そのものとの、尊嚴神聖なることを高揚するにある。北魏の雲岡と龍門との間には、外來佛教を受容する支那住民の關心の中心が「印度の釋迦佛は如何にして佛になつたか」から「釋迦佛は何を説いたか」に進んで來てゐること、即ち釋迦の傳中心から釋迦の法中心へ、印度に於ける八十年の人間の釋迦佛から世界に於ける久遠常住的な神的釋迦佛への進みである。

更に雲岡に於いては、印度西域の夥しい多種の外來要素が、彫像に裝飾意匠に、生々しく見られるのに、龍門に於いては、外來要素に取捨が加へられて、支那のものとして受容せらるべきものが留められて、漸く支那的形式をとり來つてゐること、共に、外來的佛教から支那的佛教への進みを看取し得るであらう。蓋し兩者を、北邊胡族社會の素朴的な外面的釋迦觀から、中原に於ける漢族佛教徒によつて思索を経つてつくりられてきた内面的釋迦觀への、進み若しくは異りとして、うかがつてよいであらう。

これ等の點に就いては、既に賓陽洞の説明に於いてふれておいた。私は此では更に、支那國民の宗教的感情が、釋迦佛の禮拜に満足し得ずして、釋迦から彌勒へ、更に他の佛菩薩へと、信仰禮拜の對象を移して行つたことを、龍門の造像對象の變遷の上に考へて見たい。

始めて佛教を受容した支那國民は、印度の釋迦を支那の孔子・老子に、殊に神仙化せられてゐる老子に對比して考へてゐた。かゝる佛教徒の要求は、先づ釋迦とは如何なる傳歴をもつ人であつたかである。

これ先づ釋迦傳が、重要な地位を占める所以である。次には、この釋迦佛が何を説いたか。「釋迦の教は何か」が追求せられる。北魏佛教徒は、『維摩』や『法華』がその教を代表するものとし、即ち釋迦佛を大乘法の説者として信じ、これを龍門にも示してゐるのであつた。

しかし此で注意さるべきことは、この大乘の説法者は、既に印度に於いて涅槃に入つたといふ事實である。もとより佛典は、佛身が不滅永遠であることを力説し、北魏の佛徒も、佛のいはゆる金剛法身は不滅にして嚴として現存し、信仰者に感應の身を現すと説き、またそう信じてゐた。『魏書釋老志』もこれを述べ、龍門の造像記もこのことを記してゐる。而も尙、釋迦佛が入滅し荼毘に附せられ、遺骨遺鉢を留め、諸遺蹟を存してゐることから、「釋迦佛は既に過去せり」の感は、うち消し難いものである。諸經典、殊に『涅槃經』等の大乘佛典に於ける佛の常住不滅の高揚、或は印度以來の諸學者の佛身論をめぐる教義の發展にも關らず、釋迦佛に附隨する「人間性」や「過去佛感」は、消滅し去り難い感情である。『釋老志』にも、佛の眞實・權應の二身を説き

佛生非實生。滅非實滅也。

と明言してゐるが、これに續いてゐる、

佛既謝世。香木焚尸。靈骨分碎。大小如粒……弟子收奉置之寶瓶。竭香花致敬慕。建宮宇謂爲塔。塔亦胡言。猶宗廟也。

とある記事からは、「釋迦既に滅せり」の感を強くすべく、遺骨が宗廟に祭祀せられてゐる釋迦佛からは、現在の人間生活の中に活動し救済をたれ加護を與へられる現在の神であるとの感は、生れ難いであらう。かくて、釋迦佛に禮拜し祈願する信者の心には、この「過去佛感」から導かれる寂しさがあり、不安がひそみ、たよりなさがある。佛の常住不滅の教義も、かゝる點に答へての發展であつた。高い知性をもつた指導階級に於いては、よくこれを受容し確信し得たとしても、一般信者は、亡き釋迦佛に代るべき現在の佛菩薩に、祈願し禮拜せんと望んだ。これは自然に生ずべき傾向であり、千五百年前の北支那の社會では、寧ろ當然であるともいへやう。北魏の太武帝の廢佛の詔中に「胡神といふと雖も、今の胡人に問ふに、共に言ふ、有ることなし」とあるものは、佛徒の心中にも起り得べき疑問であり、不安であり、寂莫感であつたのである。

東晉以來の僧俗の支那佛教學者、殊に佛教界の指導的地位にあつた眞劍な僧は、「何が釋迦の教なりや、何れの經に釋迦佛の本旨が説かれてゐるか」を求めて諸佛典を研究した。しかし翻譯した經典と、言語

(1) 現存の『付法藏因緣傳』(大正藏五十)に就いては、種々の論議の餘地がある。經錄に記すやうに、この書を曇曜等の、原典からの譯とすることは認め難く、廢佛によつて失はれた舊譯佛典の残れるもの、或は誦持されてゐたものによつて抄出編纂せられ、更に、外國渡來僧が傳來した所も、加はつてゐるかも知れぬが、要するに、譯といふよりも、曇曜中心の護法興佛運動の一翼とし

(2) 行はれた編述と解してよい。そして現存のものに、多少後世の改訂の筆が存するとするも、その大要は、曇曜時代のものと認めてよいと思ふ。
(3) 抽稿「魏晉佛教の展開」(史林二十四ノ四)、「支那佛教」(世界精神史講座第二支那精神所收)參照。
魏書釋老志。

を異にする外國傳道者との解説のみでは、理解したとは思ひながらも尙、不安が残存する。況や翻譯佛典は難解にしてかつ誤譯の存する不安もあり、またその數量もその内容も多種多様にして、容易に一元化され難きものなるに於いてをや。かくて眞劍な佛徒が、佛の教に就いての決疑斷定を、人間以上の佛菩薩に求めやうとする。こゝに何佛よりも先づ、過去せられた釋迦佛の教を傳持して現在せりと説かれてゐる、彌勒菩薩に面授して疑を決せんと、想ひ到るであらう。印度佛教徒の間にも、かゝる信仰のあつたことは、東晉末、北魏の建國時代に西域印度を巡遊して歸來した智嚴の傳にもうかゞはれる。⁴⁾支那に於けるかゝる實例は、釋道安に見ることができる。熱心に釋迦の佛教の眞髓を得んとして精進した道安は、翻譯佛典の誤謬に對して最も深い疑懼をいただき、翻典の難解に慨嘆した人であつたが、その晩年に熱心な彌勒信仰に入つたことは、有名なことである。弟子の僧叡は、亡師道安を述懐して、

先匠所以輟章遐慨。思決言於彌勒者。良在此也。

といつてゐるが、⁵⁾これ釋迦佛なき支那にあつて、釋迦の教を眞劍に尋求する者の心中に生れた、深刻な苦悶であり、切實なる決意である。龍門に於いて、孝昌元年^{西曆五二五}比丘尼僧達は、亡息の爲に釋迦佛を造つて願つて曰く、

願亡者生天。面奉彌勒諮受法言。悟無生忍。^(石刻錄五)

と。釋迦佛の信奉者は、その法を繼承者彌勒菩薩から受けんとして、彌勒の信者になつて行くのは自然であつた。

既に、支那佛教界の第一流の指導的巨匠と仰がれた道安に於いて然り、況や一般の佛教信者にして、必ずしも釋迦の哲學的教義を研究せんとするものに非ずして、ひたすら佛に禮拜祈願してその冥助加護を

求める者が、「既に亡き過去佛」にのみ祈願することに満足し得ずして、現在する禮拜對象を求むるは當然である。佛身常在なりとは聞かされながらも、既に遺骨となれる釋迦佛に依存し祈願する以上に、現在の佛菩薩に依らんとするのは、宗教的感情の自然の趨歸であるとするれば、「過去六佛—釋迦—彌勒」といふが如き釋迦中心の佛教にあつては、現在の彌勒菩薩が、禮拜祈願の對象にえらばれて行くのは、自然の經過であるといへよう。龍門に於ける著しい彌勒信仰の興隆は、前節に述べた外部的な由來の外にも、かゝる内面的な宗教的要求からも考へてよいと思ふのである。

かゝることは、更に龍門における他の尊像の造立の上にも考へられる。第三章に圖示した如く、龍門の北魏紀年造像記では、釋迦・彌勒に次で、觀世音菩薩の十九が第三位に、無量壽佛の八が第四位に出てゐる。この二尊の信仰造像も、當時盛に流傳してゐた佛典や、これを勧めた内外傳道者によつて導かれてゐるに相違ない。紙數の關係上、詳論をさけるが、北魏の觀世音信仰は、主として『法華經』の普門品の所説に導かれたもので、この點に於いては、雲岡・龍門に最も顯著に影響を與へてゐる『法華經』佛教の一部と見ることもできる。⁶⁾西方淨土の無量壽佛に關係した經典や信仰が、北魏以前に相當盛に行はれてゐたことも、よく知られてゐる所である。⁷⁾私は更に、

(1)この二尊が「過去六佛—釋迦—彌勒」といふ世代的系列の外にある現在神格とせられること、

(2)釋迦・彌勒には説法者、指導者的性格、隨つて佛菩薩の悲智の二徳性中の智的方面が強く感ぜられるに對し、無量壽佛や觀世音菩薩には、拔苦與樂の救濟者として慈悲の方面が特に高揚せられてゐること、に注意しておきたい。

觀世音菩薩は、祈願に即應して信者の身邊に現はれ、兵火疾病等のあらゆる現実的な災難苦惱を救ふ大慈悲者として力説せられて、印度の釋迦佛に附隨するやうな遠隔感も過去感もない。死後に生れる彌勒菩薩の天上や遠い將來の彌勒佛の說法に比して、現在生活の慈悲救濟者である點に於いて、現實の地上人間生活に最も強い愛著を示してゐる北魏人にとつては、最も大衆性をもち得べき菩薩である。龍門造像記に於いても、北魏時代の貴族僧侶などの上層階級、指導階級のものの造像には、釋迦と彌勒とが多いのに比し、觀世音の造像には、より庶民性が認められるし、魏末から北齊に入つては、觀音信仰は一層盛となり、益々大衆化し、唐時代に繼承せられて阿彌陀佛と共に、釋迦・彌勒を壓倒して、殆んど支那庶民の佛教信仰を獨占するに至るのである。

西方淨土の現在佛たる無量壽佛（阿彌陀佛）に就いては、北魏から唐への間に著しい變化があるから、節を改めて述べよう。龍門造像に見る北魏と唐との間におこつてゐるところの、禮拜對象の著しい變遷を考へることによつて、北魏佛教の性質は一層明かにされ得べく、また支那に受容された佛教の教義並に信仰の發展方向も、明かにされ得るであらう。

第三節 釋迦・彌勒から阿彌陀へ 無量壽から阿彌陀へ

——北魏から唐への變化——

私は既に第三章の中で、龍門紀年造像銘の類別によつて、唐になると北魏になかつた阿彌陀佛が絶對多數を以て現れ、また地藏・救苦觀世音・業道像などの、新しい名稱も現はれることを表示した。また隋時代までの無量壽佛が、唐時代になると、この漢譯名を忘れたかの如くに、殆んど皆阿彌陀佛なる梵名に變つてゐることも注意した。かゝる變化は、獨り龍門に於いてのみならず、大體に於いて、支那各地の石窟に就いても、また造像一般に就いても、認められる所であつて、¹⁾ ほとゞ隋時代を界として見られる、かくの如き造像對象の著しい變化が如何なる意味を有するかを究明することは、やがて北魏佛教の性質を明かにする所以ともなる。私はこの中で、最も顯著な變化を示してをり、且つ支那佛教信仰の中でも最も大きな勢力をなしてゐる、阿彌陀佛（無量壽佛）に就いて考察を進めようと思ふ。

龍門では無量壽佛は、古陽洞に神龜二年西曆五一九と永熙二年西曆五三三

(4) 『高僧傳』卷三、譯經下、智嚴傳に曰く。

常疑不得戒。每以爲懼。積年禪觀而不能自了。遂更汎海到天竺。諮諸明達。值羅漢比丘。具以事問羅漢。不敢判決。乃爲智嚴。入定往兜率宮。諮彌勒。彌勒答云。得戒。嚴大善。於是步歸至嚴實。無疾而化……

この話を、智嚴の弟子の智羽智遠が、印度からもたらし歸つたといふ。支那では、かゝる印度求法の支那僧に關する説話の傳播性が強いものである。

(5) 毘摩羅詰提經義疏序（出三藏記集卷八所收）。

釋迦・彌勒から阿彌陀へ、無量壽から阿彌陀へ

(6) 觀世音信仰に就いて論述せるものに「寧樂」十三「觀音乃研究」特輯號がある。

(7) 拙稿「支那淨土教の展開」（支那佛教史學三ノ三、四、淨土教特輯號）參照。

（第三節）

(1) 例へば山東省の益都縣雲門山・駝山の造像群に就いても、隋代盛に無量壽佛として記されてゐるものが、則天武后時代のもの、阿彌陀佛に變つてゐる。『山左金石志』『益都縣金石志』『八瓊室金石補正』拙稿「山東旅行記」（東方學報 京都第八冊）等參照。

との二例をみ、蓮華洞に孝昌三年西曆五二七と無紀年恐らく北魏末の大統寺比丘道縁三九二の二例があり、火燒洞に正光三年西曆五二二の二例ありといひ、殊に魏字洞には、正光四年西曆五二三の二と孝昌二年西曆五二六の二と三の小佛龕が、數個の觀世音の小佛龕とならんで存する。西曆五二〇年前後から、洛陽地方で無量壽佛の信仰が觀世音の信仰と共に勃興してきてゐることが推察せられるのである。

適々この頃、支那、日本の淨土教の祖師と仰がれる山西の曇鸞が、梁への求道の歸途に洛陽に來り、『無量壽經論』を譯出した菩提流支にあつて無量壽佛信仰に轉向したといふことも、龍門に於ける無量壽佛造像の増加の現象と契合して、偶然ならずと考へられるであらう。

無量壽は Amitayus の譯語である。支那では西方極樂世界の主たる阿彌陀佛の譯名として、既に三國時代の支謙や竺法護などの大翻譯家に用ひられてをり、北魏の永平五〇八以來、洛陽に於ける佛典翻譯の第一人者として朝野の歸依をうけた菩提流支 (Bodhiśai) も、無量壽佛の名を用ひてゐる。のみならず、「不老長生」の術に就いて特別な熱意をもつて、種々の宗教的信仰をつくり來つてゐた支那社會に於いては、「無量壽」なる佛名は、最も魅力をもち得るものである。

前述の北魏の曇鸞が、先づ何よりも長壽を求めゝる爲に遠く南して、梁の陶弘景に師事して神仙長壽の法をうけたが、その歸途洛陽で菩提流支から「無量壽佛」の佛教を教示せられて、専心西方淨土教の信奉に轉入したといふ傳歴2)、或はまた、北魏の延昌四年西曆五二五に生れた慧思天台宗祖智顛の師、北地から南岳に移り住むこと十年、西曆五七七年寂が、「此求道の誓願力を以て、長壽仙となりて彌勒に見え奉らん」と誓願したといふ事蹟などに徴しても、北朝の宗教社會に於ける「無量壽佛」の魅力が十分にうかゞはれるであらう。

されば南北朝時代の龍門造像に、「無量壽佛」の名が見らるゝのは少

しも不思議ではなく、寧ろ當然である。然るにこの最も支那的信仰に投合したと思はれる「無量壽」の譯名が、隋唐時代になつて殆んど用ひられずして、支那人にとつては意味も明白でない梵語の「阿彌陀」なる原名に還つてしまひ、而も、この譯名から原語への逆轉が、傳統先例の力が最も強くはたらき易い宗教界に於いて、更に龍門といふ狭い一地域内に於て、現れてゐるに就いては、相當な理由が考へられねばならぬと思ふ。

先づ唐初に、黃河流域地方に於いて、専ら阿彌陀淨土教の信仰を鼓吹する巨匠が相次いで出て、その信仰が一世を風靡したことは、種々の文獻によつても明白である。山西省の太原汾州地方に教化をたれ、唐の太宗やその皇后の歸依をうけた道綽があり、その教化をうけた迦才・善導等は高宗時代の長安に活動し、善導門下の諸高足は則天武后時代に盛に活動してゐる。道綽は、前述の北魏末の曇鸞の芳躅を慕つて淨土教に入つたものである。隨つて道綽・善導等の淨土教は、曇鸞の教義を繼述してゐるものであるが、曇鸞の教に對する著しい特異點は、「末法佛教」としての力強い主張である。

道綽や善導は説いた。南北朝以來の諸師は、諸佛經の説く所を深く研究し、或は『般若經』を勝とし、或は『法華經』や『涅槃經』を理想とし、或は『華嚴經』を最高教義として、夫々に依るべきことを説いたが、救濟を求める人々は、現代が「末法時代」に入つたことを反省すべきである。我々は印度の釋迦佛の弟子が、如何なる教によつてさとりを得たかを知らんとするものではなく、我々自身と我々の社會とが救はれる道をこそ、先づ求むるものである。佛はその滅後の佛教について、「正法」「像法」の二期を過ぎて「末法」の時期に入れば、世は五濁惡世となり、人は罪惡の凡愚となり、佛法の理解も證悟も望ま

れざるに至るべしと、豫言警告しておかれたが、今や現にその「末法時」が到来したのである。今、末法時代に道を求める我々が、自ら深く反省すれば、相互の共通性が「罪惡の凡愚」であることを認めざるを得ぬ。罪惡凡愚の救済こそは、阿彌陀佛の本願であつた。末法時の我々を救ふ佛教こそ、佛教中の彌陀淨土教であると。⁴⁾

この「自己とその處する環境とを反省し、自己現在社會の宗教を求めよ」との警鐘は、「何が釋迦の最深の教なりや」を研究し論議してゐた佛教徒を驚かすと共に、實踐的求道的な人々を忽ちにその傘下に集めたものである。「末法」の説は諸佛典に見えてゐたが、切實な自己の問題としてとりあげたのは、主として隋時代の北支那佛教徒であつて、前述の慧思の『立誓願文』にも末法信仰が表白せられてをり、有名な北京郊外の房山に於ける石刻大藏經事業も、かゝる末法思想に立脚して起つてゐるのである。⁵⁾

佛教の眞剣な實踐的要求から起り、末法信仰を基礎にして、革新的宗教運動を起したのものには、道綽と同時代の先輩に信行^{五四〇}があり、その提唱した「三階教」は、隋の帝都長安を中心とした舊佛教界を驚かせ、官權と教權との両面から加へた禁壓にも關はらず、唐の高宗・則天時代に多くの熱心な共鳴者を得てゐた。⁶⁾道綽・善導の彌陀淨土教は、三階教と同じ「末法」への反省から出發して、全く異なる教義實踐に對立したものである。三階教が、末法現時の自己とその社

會對する「認惡」の教義から、知慧淺薄なる愚鈍の現代人が、佛の説法である一切經に取捨批判を加へ、經に高下をつけ、教を批判するが如きは、僭越なることであり、「誹謗三寶」の墮地獄罪を犯すものである。末法の罪惡社會に生存し本性また凡惡なる我々求道者は、選擇批判を佛教に加へず、たゞ一切佛一切人を佛とし、一切行を善として、普敬し普行せよと、徹底して汎神教的な「普」の教義と實踐とを説いたのに對し、道綽・善導は、同じ教義から末法に生れた愚人は、ひたすら阿彌陀一佛に歸命し、西方淨土往生を專求せよと、一神教的な「專修」の教義と實踐とを高唱した。

この同類にして而も相反せる新興二教の對立によつて、兩者は互に一層の熱情を以つて、初唐の中原地方に教化力を擴充した。道綽善導等は、「われわれ即ち現在末法時代に生れてゐる凡夫惡人を救済するものは、阿彌陀佛である。阿彌陀佛は末法五濁惡世の凡夫惡人を救はんとの本願の上に、淨土を構へ佛道を成就せられてゐる現在佛である。現在の一切衆生は、僧俗男女を問はず、阿彌陀佛を専ら稱念し、西方淨土の行を專修せよ」と高唱し、この信仰運動は、これ等指導者の熱誠と、その教義實踐の簡易にして大衆性をもつことと、加ふるに三階教が、官權からも一般の佛教學界からも、異端邪教視せられて彈壓をかされたのに對しては、官界教界の多くの支持をもうける情勢にあつたこと等によつて、高宗・則天武后時代には、長安・洛陽地方を風靡す

(2) 『續高僧傳』卷六、曇鸞傳に、

所齋仙方竝火燒之。自行化郡。流靡弘廣。魏主重之。號爲神鸞焉。下勅令住并州大寺。晚復移住汾州北山石壁玄中寺。……(魏興和四年(五四二)卒。六十七歲。

その淨土教弘傳の功の大なることを察すべし。前出拙稿「支那淨土教の展開」第六章參照。

釋迦彌勒から阿彌陀へ、無量壽から阿彌陀へ

(3) 慧思撰『南嶽思大師立誓願文』(大正藏四六收)。

(4) 道綽撰『安樂集』善導撰『觀無量壽經疏』同『往生禮讚』等。

(5) 拙稿「房山雲居寺と石刻大藏經」第三章參照(東方學報京都第五册副刊)。

(6) 矢吹博士「三階教の研究」參照。

(7) 拙著「唐中期の淨土教」。

る佛教信仰となつたものである。

かゝる史實を知る者にとつては、龍門の造像が、在來の釋迦・彌勒の造像先例を破つて、阿彌陀佛の壓倒的な造像となつてゐることに、何等の不思議を感じぬのである。しかしながら、未だ「無量壽佛」から「阿彌陀佛」へ變化した理由が解釋せられない。私はこれに對しては、一に「阿彌陀佛」に就いての知識の進歩、二に阿彌陀佛に對する歸依の態度若しくは感情の變化、三に實踐行による阿彌陀名の普及、などを以つて解答し得ると思ふ。

善導等が自ら盛に書寫し、また常に讀誦し、淨土教を讚揚する儀禮にも盛に用ひたものである短篇の鳩摩羅什譯『阿彌陀經』に「彼佛は光明無量にして十方の國を照すに障礙する所なし。故に阿彌陀と號す。又彼佛の壽命及びその人民は無量無邊阿僧祇劫なり。故に阿彌陀と名く」と佛名を明瞭に解釋してゐるやうに、阿彌陀佛には、無量壽(amitayus) 無量光 (Amitabha) の二名が存し、無量壽佛の譯名のみでは、阿彌陀佛の徳の一面しか示されない。のみならず、阿彌陀淨土教の高揚する所は、阿彌陀佛の救濟慈悲の方面である。佛は末法五濁惡世、即ち現在の罪惡凡愚なる一切人を攝取し救濟する大慈悲者として強調せらる。その大慈悲者の前に「先づ長壽を得て何々をせん」といふ如き自己信賴は消えて「自己は罪惡にみちた凡愚にして出離の縁なきもの」善導撰、『觀無量壽經疏』と卑下深信せられ、唯ひたすらに大慈悲者にすがる深い現實自己否定からわき上るのが、彌陀淨土信仰である。南北朝時代の「釋迦の教は何か」の知的欲求の強い學解的態度をすて、一佛の救にまかせる、所謂「聖道門をすて、淨土門に歸入する」道綽撰、『安樂集』佛教である。

無量壽佛の譯名は、かゝる救濟攝取の大慈悲の徳を適切に表してゐ

ない。それは無量壽の名によつてよりも寧ろ、無量光の名の上によく現されてゐる。經に「諸佛の中に於いて光明最尊第一にして、この光に遇ふ者をして一切の苦から免れしめる」無量壽經と説かれ、「光明を以つて遍く十方を照し、念佛の衆生を攝取して捨てず」觀無量壽經と説かれてゐる、阿彌陀佛の光明無量の徳にこそ、無限の慈悲救濟の徳が顯されるのであつて、唐の淨土教指導者は、かゝる大慈悲に罪惡凡愚の自己を没入歸命したのである。

彌陀身色如金山 相好光明照十方

唯有念佛蒙光攝 當知本願最爲強

とは、善導が常に同信の僧俗と共に阿彌陀佛像前て唱和しながら佛の慈悲を讚歎し禮拜した『六時禮讚』の一節である。また善導は専ら阿彌陀佛を稱念する行には、他の諸行に比して親縁・近縁・増上縁の三義の利益があることを高揚してゐる。そこには「阿彌陀佛」を稱念する者が、常に阿彌陀佛と相離れず、佛がその近側に應現し、自己は全く現在佛の「攝取不捨」の慈光の抱擁中にあるといふ信仰生活の境地が、よく現はされてゐる。

とにかく、唐代の淨土教信者にあつては、無量壽の佛なるが故に禮拜するといふよりは、無量光の佛なるが故に歸命するといふ感情が強いのであつて、隨つて、無量壽の名でよぶよりは、「無量壽」「無量光」の兩義を包攝せしめ得る、阿彌陀の梵名で呼ぶに若くはないのである。

佛教界に阿彌陀佛の名が専ら普及し、無量壽佛の譯名があまり用ひられなくなつても、支那人の根強い長壽不老の願求、無量壽の神仙にならんとする信仰に、よく契合し得ると思はれる無量壽佛の名は、支那宗教界から忘れられず、いつしか道教——佛道習合の民間信仰に引き

つがれ、道士の口に唱へられて、道教の神格の如くになつて行つた。『紅樓夢』などの近世小説類に於いて、道士が「無量壽佛」と挨拶する例は、屢々見うけられる所であるのみならず、道士が「無量壽佛」と挨拶し、僧侶が「阿彌陀佛」と挨拶するのは、現在も支那宗教界の事實である。

近世支那に「家々觀世音、處々彌陀佛」の諺が成立し、更に無量壽佛が道士の社會へ、阿彌陀佛が僧侶の社會へ、その常用語として流布するに至るが如き傾向の先驅が、早くも唐の龍門造像に現はれて來てゐるともいへるであらう。

この支那宗教界に滅びざる無量壽佛、道教の神格になつた無量壽佛に、われわれは「無量壽佛」と「阿彌陀佛」とが、支那人に異つた歸依感を與へる二神格に分れて來てゐることを推察し得やう。開封の河南博物院に藏せられる隋の開皇二年の四面像碑には、各面に三龕づゝ計十二龕が造られ、その中に無量壽佛龕と阿彌陀佛龕とが存してゐる。かゝる一の造像碑石の上に、龕を別にして無量壽佛と阿彌陀佛とを造つてゐる者の信仰にあつては、兩尊像は同一佛であると知つてゐても何となくそれ／＼別の徳用をそなへてゐる別佛の如く感ぜられる禮拜對象となつてゐたものなるべく、北魏の無量壽佛から唐の阿彌陀佛へと、支那人の信仰の變移する過渡期を示す、興味深い一例に供し得るであらう。

以上で無量壽佛から阿彌陀への一二の理由は、ほゞ理解されるであらう。更に阿彌陀の名は、唐以來の淨土教徒によつて勧められ實行せ

られた實踐行によつて普及せられた。

道綽・善導等が盛に講説した『觀無量壽經』には、「稱南無阿彌陀佛」によつて往生を得る下品の人の例があげられてゐる。道綽・善導等は、阿彌陀の信者の行として、「阿彌陀佛」を稱念することを特に勧め自ら實行したし、この頗る平易な實踐行は、忽ち大衆性を以つて廣く普及した。唐の淨土教徒は「南無無量壽佛」と唱へるよりも、「南無阿彌陀佛」と唱へた。これを數多く繰りかへし稱念する上に、後者の方が語調もよいのみならず、呪術的な神聖觀が伴はれ易い。印度に於いて古くから神聖視せられてゐた梵語は、支那佛教徒も勿論神聖視し尊崇した。此に呪術性をもつた陀羅尼の信仰が流布する一理由もある。佛名がくりかへし熱烈に稱念せられる場合に、意味明瞭な譯名「無量壽佛」よりも、神聖な梵語のまま支那人にとつては意味の明白でない所の「阿彌陀佛」の繰りかへしの中に、恐らく信者の心を感動せしめ靈感に導く呪術的魅力を認め得るであらう。更に實踐方面からの阿彌陀名の普及に就いては、鳩摩羅什譯の『阿彌陀經』が、この時代に特に淨土信仰者の實踐儀禮に盛に用ひられ、讀誦せられたし、また善導等によつてその書寫が大に勧められてゐることも附加しておいてよからう。

要するに、無量壽佛から阿彌陀佛への變化は、教義的知識の方面から實踐的宗教的感情の方面からも、うながされ得たと解し得べく、そして北魏人が禮拜した無量壽佛と、唐人が禮拜した阿彌陀佛との間には、佛の性格の變化があることを認めざるを得ない。

(8) 善導撰『觀無量壽經疏』定善義

(9) この四面像に就いては水野清一氏の紹介がある。(東方學報京都十一ノ二)

(10) 善導の『法事讚』は、阿彌陀經を轉經して行ふ儀禮であり、彼の傳には、阿彌陀經數萬卷を寫すとある。(續高僧傳廿七)

尙、唐時代龍門に於いて高宗の麟徳元年^{西曆六六四}の造像記を最初とし、殊に則天武后時代に多く造られてゐる地藏菩薩も、阿彌陀佛と同様、主として慈悲救済者としての禮拜對象である。佛菩薩の徳として悲智圓滿が説かれるが、北魏の彌勒には、釋迦佛の教の傳承説示者として、智慧完全の性格が著しく感ぜられるに對し、唐の阿彌陀や地藏には、慈悲無限の性格が、強く出てゐる。地藏は六道の衆生を普く濟ふといふ悲願が、特に諸菩薩に越えてゐる慈悲の權化として信仰せられ、特に死して苦界に生れてゐる者を救出して淨土へ導く菩薩とせられ、自ら當時盛な阿彌陀淨土信仰に密接に關係を結び、觀世音或は救苦觀世音と共に、阿彌陀淨土信仰の一部を分擔するものとして、信仰され流傳するやうになつてゐる。また唐以來の信行の三階教徒の間には、一切佛に普敬し一切行を普行する信條にもかゝらず、漸く地藏菩薩信仰が特にとりいれられて行はれた。時あたかも玄奘は、『地藏十輪經』

の新譯^{西曆六五一}を出し、その門下の神昉^{三階教の信奉者と認めらる}等によつて、この經による地藏崇拜が鼓吹せられてゐる。かくの如く龍門の唐時代以來の地藏菩薩造像は、一方當時の佛教界の事實に契合してゐると共に、他方北魏の禮拜像に對して、阿彌陀と共に慈悲救済の性格の顯著な淨土教的禮拜對象として出現してゐるのである。

唐の觀世音造像も、前代を繼承して盛であるが、唐代の觀世音信仰は單に法華經的な觀世音たるのみならず、淨土教的な觀世音へ、地藏菩薩と共に死後の淨土往生の信仰に密接に結びついて信仰せられる傾向が、著しくなつて來てゐる。業道像なるものも、亦淨土教信仰と密接な關係にあるものである。要するに、唐時代の龍門造像には、前代の釋迦・彌勒の此土的な佛菩薩の信仰に對し、西方阿彌陀佛を中心に彼土的な佛菩薩の信仰が新勢力として勃興し、また壓倒的な勢をなすに至つてゐることが、各種の造像全般から認められるのである。

結 語

第八章 龍門北魏佛教の歴史的 성격

以上本稿は、一面に、龍門石刻の解説をなす役目を顧慮しながら、龍門石窟に現れたる北魏佛教の教義並びに信仰を究明せんとしたものである爲に、所論が相當多岐にわたつた。こゝに石刻録解説の役目を離れて、上述した所から、本稿の表題に對する私の見解のみを要約して結語とする。

六、窟や龕の本尊の造立に於いては、佛に二菩薩を配した三尊形式から、進んで佛に二菩薩二羅漢を配した五尊形式が確立し、これが北魏時代の主要な窟龕の通式となつてゐることが注目せられる。かゝる寶冠を載いて結髪してゐる二菩薩と、剃頭の二羅漢とを、左右均等に配して脇侍としてゐる佛像は、ガンダーラやグプタの造像を始めとし、印度に於いてもまた中央アジアに於いても、ほとんど見ない所である。この五尊形式の本尊が、北魏の帝都附近の窟に通式となつて現れて來てゐる所に、私は支那に於いて展開する「支那佛教」の特長が、よく顯示せられてゐると思ふ。

二菩薩を脇侍とした三尊式の佛は、菩薩の佛教、換言すれば、大乘佛教を説かれた佛であることを示してゐる。二羅漢を脇侍に加へた五尊式の佛は、菩薩の佛教と羅漢の佛教、換言すれば、大乘教と小乗教とを、共に説かれた佛であることを示してゐるわけである。北魏の帝都地方の佛教徒の禮拜對象をなす主要尊像の造立が、菩薩のみを脇侍とした三尊式から、これに二羅漢を加へた五尊式へ進んでゐることは、

彼等を指導した佛教徒の教義信仰が、大乘佛教を宗としたものであつたこと、而も更に進んで小乗佛教をも包攝して大乘・小乗の諸佛教をすべて一釋迦佛の説法であつたとして認容し、「佛教の歸趣は大乘教にあり」とする立場をとりながら、傳來翻譯せられた大小乗すべての諸經典の教義を、一佛教として綜合し組織して、彼等の教義信仰を、即ち所謂「支那佛教」の教義信仰を發展して行つた歴史事實を如實に具現してゐるのである。

蓋し支那では、既に後漢の佛教初傳期に、大乘・小乗の兩教を並び傳へたが、魏晉時代の指導的佛教徒は、漸く大乘佛典に親しみ、特にその中心教義を『般若經』『維摩經』の如き空觀系の大乗佛典に求めて研鑽するやうになつてゐた。かゝる時に、印度に於ける空觀大乘佛教の大成者である龍樹の系統の佛教を傳承した鳩摩羅什が、長安に迎へられて、空前の盛大な翻譯事業をなし、大に大乘佛教を宣揚したので、大小乗の各種の諸經典を前にしてゐた支那佛教徒の進む方向は、鳩摩羅什を指導の大師として、「小乗を止揚した大乘」へ、更に進んで「大小乗の複數の佛教を止揚した一乘佛教」の提唱へと、導かれて行くことが、殆んど決定的となつたのである。

北魏の指導的佛教徒も、勿論かゝる方向に進んでゐた。鳩摩羅什によつて傳譯せられた、龍樹系の大乗佛教を傳承したものが、多かつたことはいふまでもない。更にまた、涼州に於いて曇無讖(Dharmarakṣa)が中心となつて傳譯した、『涅槃經』『金光明經』などの大乘佛教も受容

せられた。また羅什門下から長安を擯出せられて南した、佛陀跋陀羅(Buddhabhadra)が譯出した『華嚴經』も、洛陽時代の北魏佛教界の重要經典となつたし、更に洛陽に來た菩提流支(Bodhiruci)等によつて傳へられた、龍樹佛教と並んで印度大乘佛教教義の二大系統とせられる無著(Asanga)世親(Vasubandhu)系統の大乘教學も受容せられた。

かくてこれ等の豊富な大乘諸教を中心にして、佛教の教義が研究せられ宣揚せられて行つたのであつて、南北朝時代の支那佛教界に於ける指導的學匠の苦心と努力とは、益々複雑豊富となつた漢譯の諸佛典の内容を、如何に一元化し組織化するかにあつた。かくて彼等は、漢譯せられた大小乗の一切經を、すべて釋迦佛一代の説法として受容奉戴しながら、これ等を一貫する究極の教義を、大乘經中に求め、それが諸佛教中の最高究極の教義たる所以を明かにする理論と實踐、換言すればその一宗の教・行・信・證の道を示すべき論據となるべき所謂「教相判釋」の組織確立の爲に、研鑽し論議したのであつた。これはやがて、隋唐時代に展開する支那大乘諸宗の開創への基礎をきづき、また前進をつゞけてゐるものであつた。

かくの如き支那佛教の發展史を、北魏の中央佛教域に造られた龍門の北魏の窟龕に對應せしめて考へれば、こゝに五尊形式の本尊が造られ、また鳩摩羅什が重譯した『法華經』『維摩經』などの大乘經典によつた彫刻が頻りに現れてゐるのを、小乗大乘のすべての經典を共に一釋迦佛の説法として受容奉戴してゐる支那佛教徒の姿と見る事ができようし、また當時の佛教界の主流であつた「小乗教を止揚した大乘教」の樹立、傳譯受容した大小乗の諸佛教を一元化し組織化する努力の表現とも見ることができよう。そしてまた『法華經』に「唯有

衆生隨類各得解」といはれてゐるような、二乘三乘の諸佛教を止揚する一乘佛教への進展といふ、支那的佛教發展の方向を象徴してゐるものとも眺め得るであらう。

二、石窟壁に存する、おびたゞしい個人的造像を通じて、支那佛教に於ける禮拜對象の變化、佛教信仰の歴史を、見ることができよう。その北魏時代の個人的造像は、釋迦・彌勒の二尊が大多數を占め、殊に古い年代のものや、上流階級或は指導的地位にある僧の造像は、ほとんど皆この二尊である。造像の數は、觀世音菩薩がこれに次ぎ、無量壽佛が更にこれに次いでゐるが、兩尊は北魏の後半、孝昌^{五二五}前後の時代から多く、その造立者も前の二尊のそれに比して、庶民的なものが多いことに注意すべきである。

北魏の佛教徒にとつては、釋迦佛は過去歷代の六佛を繼承して、この人間世界に出て説法教化せられた佛であり、その後繼者として彌勒菩薩をもつてをられる。また彌勒菩薩は、現在天上にあつて釋迦佛の遺法を傳持してをり、將來はまたこの世界に出て説法教化せられる。その傳持せられる教法とは、前述の如く大乘教を歸趣とした釋迦佛の説法である。釋迦・彌勒は、共にこの世界に出て、同じ大乘の法を相繼承して説く人間世界の佛であつて、互ひに一方を豫想してゐる。兩尊は一類の禮拜對象であるといつてよい。

龍門に存する北魏上流指導階級の造像に、釋迦・彌勒が最も多いのは、前述した「釋迦の教とは何ぞや」を求めて、漢譯一切經を整理して、大乘教學の組織に精進してゐた北魏の指導者佛教に相應するものといつてよからう。そして彼等がこの土の佛である二尊に祈願してゐるのは、彼等がこの現實人間世界に於ける榮達に最も強い愛著をもつ

人々であつたことを示してゐるのである。北魏人の佛教信仰は、現世的であり人間的であつたのである。

しかし、かゝるこの人間世界に於ける説法者として、世系關係にある釋迦・彌勒には、あまりに人間的、歴史的 성격が強くて、靈界の神としての感をうすくし、また一切知者的もしくは師範的な性格が強くて、すがる神としての愛を感じにくい。悲を抱き惱をもつた者が、絶對歸依の感情をさゝげる上に、かゝる佛に對しては、あるものたらなさを感ずるに至るであらう。殊に釋迦佛には、「印度に於ける千年昔の過去者」といふ、年代的な地理的な疎遠感さへ伴ふ。されば「六佛—釋迦—彌勒」なる世代的系列にあつても、信者の祈願は、既に過去せる七佛よりも、天上に現在する、そして將來この世界に下つてくる、彌勒に向ひ易いであらう。龍門造像記に、かゝる傾向は、よく現れてゐる。北魏の造像者の祈願文は、その像が釋迦であつても、またその他の彌勒以外の像であつても、屢々彌勒に向つて捧げられてゐる。北魏時代には、釋迦に代つてその繼承者として天上に現在する彌勒菩薩が、主なる信仰對象となつて行つたのである。

更に一般の信者が、「過去六佛—釋迦—彌勒」の如き説法指導者的、人間的性格の強い佛菩薩よりも、もつと超人間的神的に説かれてゐる、慈悲救濟の靈能をありがたく説かれてゐる佛菩薩、而も信者が近側にその感應靈驗を感じるやうに高揚せられてゐる佛菩薩——例へば觀世音菩薩や無量壽佛の如き神格に對して、歸依禮拜をむけて行くやうになるのも、自然の趨勢であらう。況んや北魏末以來は、内亂續起し、世相の不安が加重し來つてゐる時代であるに於いてをや。龍門の北魏末以後の造像は、かゝる支那佛教徒の信仰の要求からくる、禮拜對象の變遷を描出してゐるといつてよからう。

支那佛教の禮拜對象が、知的、説法者的、人間的な性格の強い佛菩薩から、慈悲的、救濟者的、神的な性格の強く現れた佛菩薩への傾向をとつて移動してゐるのは、六朝から唐へ間に於ける、支那佛教信仰の重要な變化を示すものである。龍門の造像にあつては、北魏末期から、前述の如き慈悲救濟の靈驗の高揚せられてゐる神格が著しく増加し、唐時代になつては、阿彌陀・觀世音・地藏の造像が釋迦・彌勒の造像を壓倒してしまつてゐるのである。壓倒した佛菩薩は、佛典の中でも特に慈悲救濟の徳を顯著に述べられてゐる。換言すれば、佛教中に於ける代表的な愛の神格である。「六佛—釋迦佛—彌勒佛」といふこの世界に於ける世代系列の外にある、彼の世界の佛菩薩である。かくて印度の覺者釋迦の哲學的な佛教は、支那に於いて廣く社會の宗教として流布して行く上には、教祖釋迦佛が人類に慈悲の神々の存在を示した使徒とせられ、支那流な聖人仙人とせられて行つたわけである。それはやがて、支那・日本に於ける佛教が、淨土教的發展によつて國民大衆の宗教となつて行つたことを示すものである。

三、造像の多くは、亡者の爲、殊に造者の近親中の先亡者への追善の爲に行はれてゐる。時には、國家の爲、或は自己の爲といふものもあるが、これ等を通じて北魏造像記は一般に、師僧・七世の父母・所生の父母・因縁眷屬の先亡者への追福祈願をのべ、更に一切衆生が福を同じくせんことを願つてゐるのが通例である。「一切衆生と共に」といふ願がよく普及してゐることは、自利に満足するものとして聲聞小乘佛教を斥け、利他を高揚する菩薩の大乗佛教こそ眞の佛教であるとする主張が、よく弘まつてゐること、外來の各種系統の佛教が支那では菩薩大乗佛教として、上下に信奉せられることになつたことを示し

てゐる。

また「七世父母・所生父母等」の追福を常に述べてゐる點からは、支那に於いて古く抜くべからざる根底をすえてゐる祖先を崇敬祭祀する習俗、家族主義に立つ孝の道德、などと結びついて、佛教信仰が受容弘傳せられ、また造像が勸進せられ盛行してゐることを示してゐる。

佛教は靈魂——人間の「神」の常住不滅を否認したとせられるが、支那では、漢三國時代の佛教傳來初期に、佛教は特に精神(靈魂)不滅を説く教なりとして受容せられた。不滅の靈魂を主體とする六道輪廻轉生説、過去現在未來の三世にわたる因果應報の印度思想こそは、支那では佛教の根本教義とせられて、よく支那の人心をとらへ習俗に結びついて、支那に佛教を普及浸潤せしめる所以となつたのである。北魏人の佛教觀も、『魏書釋老志』に、佛教の綱要を述べて、

凡其經旨大抵言。生生之類。皆因行業而起。有過去當今未來。歷三世。識神常不滅。凡爲善惡。必有報應。漸積勝業。陶治羸鄙。經無數形。藻練神明。乃致無生。而得佛道。

といつてゐるやうに、「識神常不滅」を根本教義と認めてゐる。

北魏の造像者は、かゝる個人の識神が不滅であるといふ信仰の上に立つて、佛像造立といふ勝れた行業によつて、死者の識神が、天上の諸神・菩薩・玉女の常住する勝處或は人間界の王公貴族の家庭に生れんことを願つたのである。北魏佛教徒は、輪廻轉生する六道の世界の中で、天上と人間とを勝處となし釋老志人間界の貴族生活に最も愛著をもつと共に、佛菩薩の住む天上樂土の信者であつたのである。人間世界への強い愛著と此人間世界の佛たる釋迦佛・彌勒佛への信仰とは、相通するものがある。然らば彼等の死後淨土の信仰は如何。

四、北魏人は死後に靈魂が生れ得る天上世界を信じてゐたが、そこには諸佛菩薩諸神玉女が常在すると考へてゐた程度で、頗る漠然たるものであつたといつてよい。勿論、佛典や僧侶の指導によつて、淨土の主として、特に兜率天の彌勒菩薩と、西方極樂世界の無量壽佛との二尊が信仰せられた。しかし、西方極樂も「天上の西方」ぐらゐに考へられてゐたものであり、恐らく道教の神や玉女も、佛教の彌勒・無量壽その他の諸佛菩薩から天人までも、同じ天上世界に住む神々とせられ、同時にこれ等諸神諸佛の信仰者であつたと思はれる。(近世支那の一般佛教信仰の實際もかくの如きものである)。彌勒・無量壽といひ、兜率天・西方極樂世界といふも、一般北魏人の信仰は、その何れかの一佛一淨土に專注せられてゐたといふよりも、漠然天上のこれ等諸佛菩薩のもとへ、といふ信仰であつたといふ方が、適當である。龍門の最も古い重要造像記の一つである、太和十九年の長樂王夫人が亡息の爲にした彌勒の造像記石刻錄五七七には、

若存託生、生於天上諸佛之所。

とある。これが北魏佛徒の死後天堂の信仰の一般的型であるといへよう。無量壽佛の最も古い神龜二年西曆五二九の杜永安造像記石刻錄六三六には、

輒割資產。造無量壽佛……七世父母。所生父母。因屬知識。常與善遇。彌勒三唱。恒登先首。

と、彌勒成佛の時には、先づその救済にあづからんと願つてゐる。

正光三年西曆五三三相合の妻は、亡父母等の爲に無量壽佛を造つて、「願長命老壽」と願つてゐる石刻錄七五八。無量壽佛像の造像記には、必ずしも西方極樂世界へ往生せんとする専心願求が示されてゐないのである。と思へば、正始五年西曆五〇八比丘惠合の造釋迦像記石刻錄六〇一には、

造釋迦一區。願託生西方。一面奉諸佛。

とある。釋迦の造像者ならば、寧ろその後継者である彌勒の兜率天を願ひさうなものであるが、西方淨土、即ち無量壽佛の淨土を願つてゐる。而も西方淨土で、無量壽佛に面奉せんとはいはず、諸佛に面奉せんといつてゐる。

永平三年^{西曆五〇一}の比丘尼法慶の造像記^{石刻錄六一}は、彌勒像を造つて、

來世託生西方妙樂國土。下生人間。公王長者。

といひ、

己身與彌勒俱生蓮華樹下、三會說法。

といふ。その歸趨が、何れの佛にありやの判定に、苦しましめるものである。

また同年の比丘尼惠智は、釋迦佛を造つて、前者と同じやうに^{石刻錄六一二}

託生西方妙樂國土。下生人間。爲公王長者。

と願つてゐる。これ等の造像記は、俗人信者を指導教化すべき、僧尼のものであることに、注意すべきである。

要するに龍門の北魏造像記は、一般北魏佛教徒が、死後に往生し得る、彌勒菩薩や無量壽佛などの、特定の淨土に關する知識をもちながら、その信仰の實情は、漠然と天上の諸佛諸菩薩の樂土を願求する程度のものであつたことを示す。未だ唐時代の淨土教の如く、一佛の一淨土へ信と行とを專注し、阿彌陀淨土と彌勒淨土との優劣を論戰するやうな熱烈純一な信仰によつて導かれてはゐない。死後天上への往生を願ふ北魏の信仰は、いはゞ道教的淨土教ともいつてよいものであつたのである。「天の神々」の漠然たる信仰は、佛教の中では兜率天の彌勒菩薩と最も結び易いともいへよう。而して龍門の石窟に於ける造像對象の變化は、北魏中原のかくの如き漠然たる淨土信仰が、齊隋から唐の盛期に至る間に、阿彌陀佛の西方淨土を專念要求する淨土教に

よつて、教化せられてしまつたことを、明かに物語つてゐるのである。

私は以上論述せしが如き龍門の北魏窟と、その前に接する雲岡石窟と、後に發展する龍門の唐時代造像との、三者を連ねて、以つて、支那佛教發展の主要な三段階を大觀し得ると思ふ。

雲岡の石窟には「印度の悉達太子が如何にして佛になつたか」といふ釋迦傳中心の佛教が現れてゐる。これ、外來佛教の素朴なる初期受容の姿である。龍門北魏窟には、「印度の釋迦佛は何を説いたか」が示される。そして更に唐代造像になると、「支那の我々は如何にして救はれるか」といふ支那國民のものになつた佛教が表現せられてゐる。第一、第二の佛教は、共に「印度の釋迦が佛になつた教」であるが、第三は、「支那の國民が成佛を求めぬ教」に、即ち釋迦を中心にした考へ方から自己を根本とする考へ方になつてゐる。即ち外來印度の佛教が、支那國民の佛教にまで發展したことを示してゐる。

思ふに佛教が始めて後漢の中原社會に宣教せられた頃には、先づ釋迦の神仙的説話的傳歴を中心に神仙的道教的なるものとして受容せられたものである。北魏の大同奠都時代には、中原の地、或は中原知識階級の遷移した南朝にあつては、既に佛教界の指導者が道教的佛教をすて、佛典の独自の教義内容の研究に進んでゐたけれども、大同地方の胡族中心の社會では、かゝる佛教教義研究の成果を、直ちに受容理解する程度になつてゐなかつた。こゝでは、續々印度西域から東傳する諸佛教及び中原から北上する諸佛教に對する、素朴なる形式的受容から始められた。北魏の大同佛教によつて、我々は、百年以前の、始めて中原で受容せられた頃の佛教を想像し得よう。かくて雲岡では、外來の諸佛教が、北族社會に未だ十分咀嚼されざるまゝに、神仙的な

釋迦佛傳を中心に、雑多な外來諸要素が自由奔放に姿を現はして錯綜してゐる情態を見る。その本尊佛、さながら偉丈夫の堂々たる姿を仰ぐが如き巨大な佛像は、強力な専制君主權下に統御せられてゐる佛教であり、「皇帝即如來」と説かれてゐる佛教であることを示してゐる。

これに對し、龍門の北魏窟は、一面には雲岡佛教を繼承してゐるが、また一面は從來の中原漢族に受容咀嚼せられつゝあつた佛教の繼承である。外來雑多の諸要素に取捨が加へられ、支那的理解によつて整理組織されつゝある佛教によつて導かれてゐる。雲岡の「皇帝に依つて存する佛教」といふが如き表現が、こゝでは「皇帝も歸依する佛教」になつて來てゐる。

支那中原の佛教界では、東晉時代以來、その指導的僧徒の間では漢譯佛典研究によつて、佛教に附加された道教的神仙的性格を排し、老莊學的理解をすて、佛教の本義を得んとする眞摯な精進が行はれた。それは次第に諸佛典の中から、大乘佛教をとり、更に鳩摩羅什に導かれて、大乘中の空觀大乘教義に進み、次でまた更に妙有の教義を高揚する諸大乘教義にふれて妙有の佛教に進み、ここに支那佛教教理の基礎を構成し、隋唐に至つて、支那諸宗を開くまでになつた。これ「釋迦佛教何ぞや」の追求發展であり、支那大乘教學の成立であつて、龍門に於ける菩薩を脇侍とする三尊佛、菩薩と羅漢とを脇侍とする五尊佛は、かゝる支那佛教の表現であるといつてよい。

支那佛教徒は一面、「印度の釋迦佛教、或は釋迦佛の弟子等の救はれた佛教」から轉じて「支那に實踐される佛教、支那の自己やその一族などが救はれる佛教」を眞劍に求めた。禪もその一つの流であり、また末法思想に刺戟せられて起つた隋の三階級もその一つである。三階教に對立して勃興した淨土教もその一つである。龍門では、その第三

の淨土教の造像が壓倒的である。少くとも唐の洛陽地方の庶民信仰が、阿彌陀淨土教によつて最も多く導かれたことの、疑ふべからざることを示してゐて、淨土教が最も有力な支那宗教となつた歴史事實とよく契合してゐるのである。

龍門の造窟造像は、もとより概してかゝる支那佛教發展史上の、僧徒の最上層指導階級が、直接に參與指導したものとはいひ難い。寧ろその下に於ける、より低俗な一般信仰者によつて造られてゐるものといはねばならぬが、而もなほ、かゝる指導者による支那佛教發展の下に行はれた造窟造像たることに顧みれば、その表現變遷の中から、重要な支那佛教の歴史的發展の諸相を見出し得るであらう。

要するに、龍門の造窟造像は、この地方の指導佛教が空觀大乘から妙有の大乘教へ、小乘諸教を包攝した大乘教學の組織から支那諸宗の開創へ、此土の釋迦彌勒の佛教から彼土の阿彌陀佛教へと、展開した時代に行はれたものである。雲岡石窟とを連ねる約三百年の盛な造像事業を通じて、外來佛教の素朴な受容から、その支那的理解へ、そして支那自身の佛教の成立への發展過程をうかゞひ得る。教義上からは、大・小乘の諸派佛教を受容して小乘を止揚する大乘の教學を組織した支那佛教の進展を、また信仰上からは、印度の哲學的汎神教的宗教も支那一般國民の教化面に於いては、クリスト教的な愛の神格が要求され、阿彌陀佛觀世音菩薩の慈悲救濟の佛菩薩が最も支那民心をとりへて行つたこと、即ち唐宋以來の「家家觀世音、處處阿彌陀佛」的な支那佛教が、成立して行つた由來を、すばらしい大石窟群を前にして眺め得るのである。かゝる發展の出發點としてまた基礎構成期として、龍門の北魏の石窟造像を、意義深く觀察し得ると思ふのである。

附錄第二

龍門石刻錄

塚本善隆
水野清一
春日禮智
校

目次

例言

龍門石刻著錄書目并略號

龍門石刻錄文 二四七

龍門石刻錄目錄 三六四

附表

第一、造像編年 (一) 北朝 四五〇

第二、造像編年 (二) 隋唐 四五一

第三、造像編年 (三) 總括 四五二

龍門石刻錄異字 四五三

例言

- 一、この録文は故黒川幸七氏寄贈の拓本にもとづき、諸家の箸録を参照して作成した。
- 二、配列は拓本の分割されてゐたまま、敬善寺、萬佛洞、四小洞、老龍洞(大洞)、蓮華洞、魏字洞、藥方洞、古陽洞(老君洞)、火燒洞、雜錄の十項にわかち、北から順におこなうたが、この拓本にないものは『伊闕石刻圖表』『八瓊室金石補正』『北支那考古圖譜』『支那美術史彫塑篇』および岩田氏撮影の寫眞により補ひ、それを五項にわかち採録した。
- 三、石刻録録文の所在洞名は拓工の分類した便宜的のものであつて、(一)敬善寺洞のうちにはその附近および賓陽洞のものをふくみ、(二)萬佛洞もその内外のものをふくみ、(三)四小洞とは第七、八の雙洞、萬佛洞下の無名洞、獅子洞の四をさし、この附近一帶のものをふくんでゐる。(四)老龍洞(大洞)もひろく惠簡洞から蓮華洞附近のものまでをふくみ、(五)蓮華洞はその内外のものにおよび、(六)魏字洞は第十四洞から唐字洞に至る諸石窟、(七)藥方洞、(八)古陽洞はそれぞれその内外のもの、(九)火燒洞は火燒洞以南の諸石窟の分をふくむ。(一〇)雜錄には賓陽洞前の伊闕佛龕碑をはじめとして、奉先寺の諸碑、また東山の付法藏傳など各地のやゝ大なる碑文を包括してゐる。目錄の方では一々他書の記載を参照して、洞名を推定しておいた。いづれとも決しがたいものは二説を併記したが、おほむね諸書の記載は一致してゐるので、あまり間違ひはないだらうとおもふ。
- 四、石刻録目錄は下記の諸書を参照して編纂したが、配列は第一造像題記類、第二經典藥方類といふふうにし、また造像記は紀年あるものを年代順、無紀年のものを造像者名によるアイウエオ順とし、僧尼の名稱は吳音にしたがつた。
- 五、目錄各項末にある數字は録文の番號をしめし、數字なきものは録文がないのである。録文のあるものは重出する心配もあまりないが、目錄のみのものはかなり重出してゐるかも知れない。しかし、それはやむをえないところである。また書物によつて所在の記入もあいまいであるから、まれにはよそのものが混入してゐないともかぎらぬが、あまり多くはないとおもふ。
- 六、これははじめ小野勝年君が古陽洞の分、宮川尙志君がその他の分を筆録校勘し、ついで春日禮智が第十、雜錄の後半から待訪錄の最後までを筆録校勘したにはじまり、塚本、水野は全般にわたりこれを校勘したが、春日はさらに目錄を編し、異字を書きとゞめ、したがつて塚本、水野はさらにこれを校定するといふ順序をへてできあがつた。異字の淨書には古林邦茂氏を煩した。本書に對する責任はもつばら表記の校定者の負うべきものである。
- 七、記號 … 行がはり、異字 * 字畫不明 ? 文字疑問 □ 一字分文字不明 … 文字不明字數不明 ㊦ 推定

龍門石刻著錄書目并略號

略號

王昶、金石萃編百六十卷 嘉慶十年自序

萃編

嘉慶洛陽縣志卷五九金石錄 嘉慶十八年修

縣志

陸增祥、八瓊室金石補正百三十卷 民國十四年刊

補正

洪頤煊、平津讀碑記八卷續記一卷 嘉慶十六年及二十一年自序 (槐廬叢書所收)

洪記

陸增祥、八瓊室金石札記四卷 民國十四年刊

札記

武億、授堂金石三跋十卷 道光二十三年刊

一跋、二跋、三跋

關百益、伊關石刻圖表二册 民國二十四年刊

上册圖表 下册著錄表

關圖、關表

武億、授堂金石文字續跋十四卷 (授堂遺書所收)

續跋

葉奕包、金石錄補二十七卷 (朱氏金石叢書所收)

葉補

葉奕包、金石錄補續跋七卷 (道光二十四年序 (朱氏金石叢書所收))

葉跋

朱士端、宜祿堂收藏金石記六卷 同治二年刊

朱記

大村西崖、支那美術史彫塑篇三册 大正四年刊

大村

趙之謙、補寰宇訪碑錄五卷 同治三年刊

趙錄

關野貞、常盤大定、支那佛教史蹟第二册 大正十五年刊

佛蹟

楊鐸、中州金石目錄八卷 (同治六年自序 (郵齋叢書所收))

楊錄

沙畹、北支那考古圖譜四册 一九〇九—一九一五年

沙畹

汪鋆、十二硯齋金石過眼錄十八卷 同治十二年自序

汪錄

歐陽修、集古錄跋尾十卷 (嘉祐六年成 (朱氏金石叢書所收))

集古

楊守敬、寰宇貞石圖六卷 光緒八年刊

楊圖

趙明誠、金石錄三十卷 (政和七年自序 (朱氏金石叢書所收))

金石

王懿榮、南北朝存石目八卷 鈔本

王目

于奕正、天下金石志 (崇禎五年自序 (顧氏金石與地叢書所收))

于志

繆荃孫、藝風堂金石文字目十八卷 光緒三十二年刊

繆目

顧炎武、金石文字記六卷 (顧亭林遺書十種所收)

顧記

趙魏竹、崦盦金石目錄五卷 宣統元年刊

趙目

黃叔璥、中州金石攷八卷

黃攷

吳式芬、攬古錄二十卷

吳錄

乾隆河南府志卷一〇六一—一一一 金石志 乾隆四十四年序

府志

吳式芬、金石彙目分編二十卷

吳目

畢沅、中州金石記 (乾隆末年刊 (經訓堂叢書所收))

畢記

方若、校碑隨筆 (民國二年刊 (避齋叢書所收))

方筆

錢大昕、潛研堂金石跋尾六卷續七卷又續六卷三續六卷 (乾隆五十二年王鳴盛序 (潛研堂全書所收))

錢跋

常茂徠、洛陽石刻錄 (民國四年刊 (雪堂叢刻所收))

常錄

錢大昕、潛研堂金石文字目錄八卷 (嘉慶十年刊 (潛研堂全書所收))

錢目

河南古物調查表 民國七年刊

調查表

孫星衍、寰宇訪碑錄十二卷 嘉慶七年刊

孫錄

顧燮光、夢碧簪石言六卷 民國八年刊

石言

姚晏、中州金石目四卷 (嘉慶十五年以後 (咫進齋叢書所收))

姚目

羅振玉、雪堂所藏金石文字簿錄 民國十六年刊

羅錄

劉聲木、續補寰宇訪碑錄二十五卷 (直介堂叢刻所收)

劉錄

劉聲木、續補寰宇訪碑錄二十五卷 (直介堂叢刻所收)

龍門石刻錄錄錄文

一、敬善寺洞

唐紀國太妃韋氏造敬善寺石像記 李孝倫撰

敬善寺石像銘 并序。 宣德郎守記室參軍事李孝倫撰。

若夫銀枝毓祉。締靈影於金園。劍雨銷氛。飛惠液於沙界。自鶴林秘彩。雞山蘊迹。甄睿像於貞金。刊瑞容於芳琬。風猷不墜。繫此賴焉。紀國太妃韋氏。京兆人也。若姿含綺。霏華椒掖。蘭儀湛秀。緝美蘋隈。而思惕紅沙。浪真輝於五劍。神棲縞霧。延妙業於三珠。爰擇勝畿。聿脩靈像。質融虬彩。影襲鸞騫。月逗仙河。分紫眉而汰色。星流天苑。翊紺瞳而飛照。懇誠已罄。茂績其凝。化鳥旌越海之功。藏龜彰拔塵之果。昭昭峻業。難可名言者哉。加以石疏基。均霜表地。川潔桐園之翠。風送杏巖之香。雖淨境開金。慮睽於桑海。宏規籀石。諒終期於芥城。其銘曰。二靈已散。一體未融。動植滋夥。物象相蒙。情氛委岳。識浪隨風。終淪住孰亮三空。大雄降迹。玄津斯演。瑞浦澄流。祥山關巘。雪童戰勝。檀翼善了義。西宣妙輪。東轉葉潤。攸在震區。有庇望影。咸圖尋光必萃。粵惟德範。夙探微秘。詣道雖忘。瞻容乃喟。珠璣玩。銀藏傾財。林中寫塔。雲外崇臺。臨豪月滿。映臉蓮開。香煙起霧。梵響

驚埃。南控鸞川。北馳春路。萬室迴曬。四依輟步。撫因共植。披文同悟。比日長懸。隨山永固。

唐憲公夫人造阿彌陀觀音大至一菩薩像記總章二年七月二十九日西曆六六九

龍門敬善寺石龕阿彌陀佛觀音大至二菩薩像銘并序。竊以真宗寂遠。象外之辯。莫詮至教幽深。幾初之智罕測。照三光有際。馳十力而振無邊。淪苦海者。濟以慈航。迷重昏者。惠日大哉。梵德不可名言。故華州長史憲公夫人。敦煌郡開嗣美。細圖展鏘。鳳於時英。允光內政。勗歸麟於警緝。昭塗景淪。幽笈有子同州司戶參軍。跡抄飛聲。盛重於人倫。至性光於地義。寒泉凱風之莫攀。冥路馳心。悲昊天而逾勵。奉遵敬造阿彌陀石像一軀。并觀音大至兩菩薩。夾侍粵以總年七月廿九日。彫鏤克就。日輪攜景。月面開華。蓮眸若視。叔螺映駐。烟彩而凝光。紅分相暉。帶霞文而彩。有仙衛。韶怖。鵠仰而知歸。遊龍望而遙集。伏願載揚式警潛禪。遠樹寶梯。永安淨域。因茲繁祉。廣洽親緣。藉此具霑。道俾將希。向懷懿範。而勵情。終古幽求。踐徽。勒斯不朽。乃作銘云。皇矣大仙。秀具典

□旋鏡真心術。雨法身田。…¹⁷□□有終。□暢無邊。□林現滅。玄風
 自傳。憲儀宏睟。鏤質貞堅。…¹⁸□□□□美。□□山容峻邈。月狀
 明圓。粵茲清懿。言啓良緣。…¹⁹□□□□□□彫鏤爲章。交映
 □彩。相鮮異表。爭發殊姿。…²⁰□□□□□□□□隨脣疊。□
 依步。舒蓮溶々。雲靄□□。…²¹□□□□□□□□千徘徊釋衆
 羽翼。時賢比義。同德抗□。…²²□□□□□□□□□□景福
 並趣。禪天願恨。凡□望海。…²³、□□□□、□□□□、□□□□、

三、北魏清信女造無量壽像記 神龜元年

西曆五一八

神龜元、…清信女、…无量壽、…夫託生西方。…急願、供

四、北魏道俗廿七人造像記 正光五年十一月廿五日

西曆五二四

正光五年十一月廿五日。道…俗廿七人。共造像一區。上…爲皇
 帝陛下皇太后。下…爲法界倉生。離苦得…、匠殷保願□□…
 趙□□…^{3a}高登□□…^{4a}朱□奴。…^{5a}思顯、…、張清頭。蘇□□…
 景和。張魯。宗□洛。…、顯寶。徐曇世。吉忠□□。…、崇獻。郭景
 □□。遺和。…¹⁰顯葉。上官敬超。孫天雙。…¹¹胡洪始。劉豐洛。孫文和。
 …¹²邑子史興宗。徐瓮□。韓伏榮。…¹³張匡。董伏□。苟元熾。

〔校記〕(一)思顯二字ハ補正ニヨリテ補フ (二)補正ハ固 (三)補正ハ向

五、北魏比丘尼僧達造釋迦像記 孝昌元年八月八日

西曆五二五

孝昌元年八月八日。比丘尼僧達。…爲亡息文殊。造釋迦像。願亡
 者…。生天。面奉弥勒。諮受法言。悟无生…忍。現在眷常與善居。七
 世父母。…三有。四生。普同此福。

六、隋行參軍裴慈明邑子等造彌陀像記

開皇十五年□月四日 西曆五九五

行參軍裴慈明。邑子等。造阿彌陀龕象。大隋開皇十五年歲次
 乙卯□月戊…□□朔四日辛□、

〔校記〕(一)第一行十五字 (二)五 (三)朔ハミナ大村ニヨリテ補フ

七、隋蜀郡成都縣季子贊等造觀音像記 大業十二年四月廿五日

西曆六一六

蜀郡成都縣。募人…一□□季子贊□□…敬爲亡夫。見…在
 母。兄弟自身。得…早還相見。造觀音…像一軀。并及六道…四生。
 同沾斯福。…大業十二年四月…廿五日。

〔校記〕(一)沙晚ハ行至此補正ハ□□興

八、唐造優填王像並五十三佛等記 顯慶元年□月十五日

西曆六五六

大唐顯慶元年。歲在景…□□月十五日。佛弟子…□□□□
 □□□□□□敬造優填王像□□□□。並五十三佛。廿五佛。卅
 …五佛。七佛。十六佛。願亡…遊神淨刹。□无生忍。…願法界含
 靈。俱登正覺。

九、唐洛陽縣武騎尉龔君協造優填王像記 顯慶四年二月八日

西曆六五九

顯慶四年二月八日。洛陽縣武騎尉文林…郎龔君協。爲亡妻
 張。…敬造優填王像一軀。…功訖。

一〇、唐唐德成造弥勒像記 顯慶四年四月十五日

西曆六五九

佛弟子唐德成。敬造弥勒…像一鋪。爲內親。自身妻子。…合家及
 法界。共同此福。顯…慶四年四月十五日功訖。

一一、唐汝州郟城縣武上希造像記 顯慶四年四月十五日

西曆六五九

汝州郟城縣武上希。敬造□□…像一鋪。爲己身。并亡妻高氏。及…

兒女合家等平安。及法界皆同。此福。顯慶四年四月十五日訖。

三、唐前豫州司功參軍事王有造像記 顯慶四年六月十四日 西曆六五九

前豫州司功參軍事。上騎都尉。王有。考明威將軍。

守右武侯。轅轅府析衝。妣漁陽郡君李。平居。

日約束於。一龕。今疏繕既畢。謹勒銘云。嗟乎。昊。

旻。我實不天。哀哉。后土。我母。苴麻累襲。誰謂茶苦。出。

則靡依。入。傾耳。遺儀莫覩。他人養。今我則。

古有。其訓在於龍門。疏山建塔。匠石儀。周華。金容肅。

淨。式固家國。含生霑慶。蕩。丹崖。旁暎。風谷吟松。雲峰寫。

鏡。曠哉。寔日棲禪。靈龕日偃。桂殿星懸。凌虛。刻石。嶺飛。

軒。巖高。隱地。波澄。倒天。一從刊勒。於。折衝。第二息前。

柳州司兵參軍事。方脩文。大唐顯慶四年。夏六月十四日。功畢。

三、唐李大娘造優填王像記 顯慶四年七月四日 西曆六五九

顯慶四年七月四日。李大娘。爲亡夫斯法。才造優填王像。一。

堪。願託生西方。及法界。衆生。共同斯福。

四、唐洛陽縣文林光襄造優填王像記 龍朔元年十一月廿三日 西曆六六一

大唐龍朔元年十一月廿三日。洛陽縣文林光襄。爲亡妻婁氏。

敬造優填像一龕。以言記事。勒之於後。觀夫至道無道。知。

妙道之難測。至言無言。寔微言之秘旨。言從道著。道自言生。道。

因言以賦名。言據道而彰德。故知。是法非法。舍利演無窮之端。

小形大形。觀音現神通之力。然婁宿殖德本。早鑿禪心。識幻真幻。

之機。表身非身。之始。重一法於山岳。輕千金若鴻毛。鄙時俗之。

終。枕衣繡於泉壤。慕先哲之歸向。分軀於草莽。顯慶五年。

十二月。寢疾於思恭之第。而謂曩日笄冠之初。契期偕老。豈意。

非福。痼瘵纏躬。不諱之後。願從所志。其月廿八日。薨於內室。遂延。

僧請佛。庭建法壇。設供陳香。累七不絕。筮辰卜日。休兆叶從。寶。

幢香車。送歸伊嶺。屍。魂。孤。日。地。

彼岸。痛悲稚之斷腸。孤。夫之。悼。僧。敬。

優填王。一龕。其像眉間。豪相。共慧日而爭暉。與衆星而。

競。永在光相具足。上。皇。陛下。聖化與天地。

俱登。

俱登。

〔校記〕（一）以下補正ニテ補フ

五、唐洛州人楊妻韓氏造阿彌陀像并千佛像記 龍朔元年 西曆六六一

龍朔元年。洛州人楊妻韓。敬造阿彌陀像。一龕。并千。

佛千。願先亡見存。俱登正覺。

六、唐清信女朱氏造阿彌陀像記 麟德二年八月廿三日 西曆六六五

麟德二年八月廿三日。清信女朱。爲亡夫王。子開。敬造阿。

彌陀像一龕。

七、唐造像記 麟德二年 西曆六六四—六六五

一、母、倉生、麟德、日。

八、唐西京法海寺僧惠簡造彌勒像記 咸亨四年十一月七日 西曆六七三

大唐咸亨四年十一月七日。西京海寺法僧惠簡。奉爲。

皇帝皇后。太子周王。敬造彌勒像一龕。二善。薩神王等。並德。

1 杜法力... 爲閻羅... 大王造... 像一區... 及七代先... 亡並倍業... 造。

〔校記〕 (一) 補正ニヨル

六(C) 杜法力爲五道將軍等造像記

1 杜法力... 爲五道... 將軍及... 夫人太... 山府君... 錄事... 造
一 □。

〔校記〕 (一) 補正ハ鋪ニ作ルモ、ホトンド非ナリ

六(D) 杜法力爲天曹地府造像記

1 杜法... 力爲... 天曹... 地府... 各造... 五區... 牛頭... 嶽卒... 各
一區。

六(E) 杜法力爲阿修羅王等造南斗北辰像記

1 杜法力... 爲阿修... 羅王及乾... 闍婆王... 南斗北... 辰各二...
7 區。

三、魏大娘造佛記

1 魏大娘願早... 分難造仏。

三、韓婆奴造佛記

1 弟子韓... 婆奴爲有... 亡造仏一區。

〔校記〕 (一) 補正ハ正ニ作ルモ、ホトンド非ナリ

四、時願造佛記

1 時願... 發願平... 安造仏一品... 時願... 願平安... 造仏一品。
五、呂思敬造像記

1 弟子呂思敬... 爲父母及兄弟... 姊妹等造。

龍門石刻錄錄文

六、段扶考造石像記

1 佛弟子段... 扶考前爲... 患... 願... 造... 石像... 一區等身...
6 惱雙今... 見成就... 佛憇息。

七、弟子李男等造像記

1 弟子李男等合家... 爲一切衆生父母... 得相見並願平安造。

六、交州都督府戶曹章尅諧及妻皇甫氏造像記

六、交州都督府戶曹章尅諧及妻皇甫氏造像記

1 交州都... 督府戶... 曹章尅... 諧及妻... 皇甫造。

六、興書造像記

1 佛弟子... 興書敬造... 像一鋪供養。

〔校記〕 (一) 惑力

七、隴州長史章尅己及妻楊氏造像記

1 隴州長史... 章尅己及... 妻楊眷屬... 敬造。

七、謁者劉子道造像記

1 謁者劉... 子道造。

七、張大溫造像記

1 張大溫造。

七、劉子道母造像記

1 劉子道母娠敬造。

七、陳孺造像記 左行

1 陳孺造... 像一軀。

其孫處德造像記

孫處德爲...兄處義敬造。

老朱武政劉要娘採蓮馮玄訓造像記

朱武政造...劉要娘造...採蓮造...馮玄訓造。

其文林郎王念造像記

文林郎王造...文林郎王念造。

其佛弟子高最忠造像記

佛弟子高最...忠爲法界蒼...生造像一補。同出苦...門共...佛道。

其陳恒山造像記 左行

陳恒山造...像一軀。

其王乾福妻母張婆題記

王乾福妻...母張婆。

其趙州元氏縣張...貞造菩薩像記

趙州元氏縣...張...貞願...合家造菩薩一區。弟子...爲父母造菩薩一區...供養。

其郇王阿妳造像記

郇王阿妳造。

其王惠達造像記

王惠達爲七世父母及法...界衆生敬造供養時。

其佛弟子張造阿彌陀像記

佛弟子張...敬造阿彌像一鋪。願見存家口...、

平安上爲 皇帝下及倉生。

其薩孤弘檀造像記

薩孤弘檀...爲姊造。

其司平少官息爾朱昌造像記

司平少官...息爾朱昌爲...母李造。

其王休母董氏造像記

王...休...母...董...造。

其佛弟子劉...軌造像記

佛弟子劉...軌爲亡妣...造。

其清信女寂造觀音記

清信女寂願得...平安...諸災障...敬造觀音一。

其徐乞德供養記

徐乞德并妻曹...女大娘及七世父母...師僧普供養。

其王清信龍門造像記

王清信龍門石...竊以真源本...像...外。至化潛潤...慈中...是以志緣...金木...於疆利。感應...勒圖...畫於縑簡...刀利四八...之相儼...山丈六之...尊可睇...載穢國...識之...指淨方便有...信...化開方里之...之下盛...綿遠...焉大像主清...識...兼美。容範可...而大夫志...惡驗...門之...緣迦術廣業香山...近鄙企西域

甚多。爾時須菩提。圍遶是經、₁₆、₁₇希有。世尊。佛說如是甚深經典。我從昔所得慧眼。未曾得聞如是之經。世尊。若、₁₈、₁₉知是人成就第一希有功德。世尊。是實相者。則是非相。是故如來說名實相。世尊、₂₀、₂₁若當來世後五百歲。其有衆生。得聞是經。信解受持。是人則爲第一希有、₂₂、₂₃者何。我相卽是非相。人相衆生相。壽者相卽是非相。何以故、₂₄、₂₅聞是經。不驚不怖。不畏。當知是人甚爲希有。何以故。須菩提。如困、₂₆、₂₇蜜。須菩提。忍辱波羅蜜。如來說非忍辱波羅蜜。何以故。須菩提。如我昔爲歌利王。割截身體。我於爾時。无我相。无人相。无衆生相。无壽者相。…₂₈何以故。我於往昔節節支解時。若有我相。人相。衆生相。壽者相。應生瞋恨。須菩提。又念過去於五百世。作忍辱仙人。於爾所世。无我相。无人相。无衆生相。无壽者相。是故須菩提。菩薩應離一切相。發阿耨多羅三藐三菩提心。不應住色。生心。不應住聲香味觸法。生心。於生无所住心。若心有住。則爲非住。是故佛說。菩薩心不應住色。布施。須菩提。菩薩爲利益一切衆生。應如是布施。如來說一切諸相卽是非相。又說一切衆生。則非衆生。須菩提。如來是真語者。實語者。如語者。不誑語者。不異語者。須菩提。如來所得法。此法无實无虛。須菩提。若菩薩心住於法。而行布施。如人入闇。則无所見。若菩薩心不住法。而行布施。如人有目。日光明。昭見種種色。須菩提。當來之世。若有善男子善女人。…₂₉能於此經。受持讀誦。則爲如來以佛智慧。悉知是人。悉見是人。皆得成就无量无边功德。須菩提。若有善男子善女人。初日分以恒河沙…

₃₀等身布施。中日分復以恒河沙等身布施。後日分亦以恒河沙等身布施。如是无量百千万億劫。以身布施。若復有人聞此經典。信心不逆。其福勝彼。何況書寫受持讀誦。爲人解說。須菩提。以要言之。是經有不可思議不可稱量无边功德。如來爲發大乘者說。爲發最上乘者說。…₃₁者說。若有人能受持讀誦。廣爲人說。如來悉知是人。悉見是人。皆成就不可量不可稱无有邊不可思議功德。如是人等。則爲荷擔如來阿耨多羅三藐三菩提。何以故。須菩提。若樂小法者。着我人見。衆生見。壽者見。則於此經不能聽受。讀誦爲人解說。須菩提。在在處處。若有此經。一切世間天人阿脩羅。所應供養。當知此處。則爲是塔。皆應恭敬作禮。圍繞以諸華香而散其處。復次須菩提。善男子善女人。受持讀誦此經。若爲人輕賤。是人先世罪業。應墮惡道。以今世人輕賤故。先世罪業。則爲消滅。當得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。我念過去无量阿僧祇劫。於然燈佛前。得值八百四十萬億那由他諸佛。皆悉供養承事。无空過者。若復有人。於後末世。能受持讀誦此經。所得功德。於我所供養諸佛功德。百分不及一。千万億分乃至算數譬喻所不能及。須菩提。若善男子善女人。於後末世。有受持讀誦此經。所得功德。我若具說者。或有人聞。心則狂亂。狐疑不信。須菩提。當知是經義不可思議。果報亦不可思議。爾時須菩提白佛言。世尊。善男子善女人。發阿耨多羅三藐三菩提心。云何應住。云何降伏其心。佛告須菩提。善男子善女人。發阿耨多羅三藐三菩提者。當生如是心。我應滅度一切衆生。滅度一切衆生已。而无有一衆生

實滅度者。何以故。若菩薩有我相。人相。衆生相。壽者相。則非菩薩。所以者何。須菩提。實无有法發阿耨多羅三藐三菩提者。須菩提。於意云何。如來於然燈佛所。有法得阿耨多羅三藐三菩提不。世尊。如我解佛所說義。佛於然燈佛所。无有法得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是。如是。須菩提。實无有法如來得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。若有法如來得阿耨多羅三藐三菩提。然燈佛則不與我受記。汝於來世。當得作佛。号釋迦牟尼。以實无有法得阿耨多羅三藐三菩提。是故然燈佛與我受記。作是言。汝於來世。當得作佛。号釋迦牟尼。何以故。如來者。即諸法如義。若有人言。如來得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。實无有法。佛得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。如來所得阿耨多羅三藐三菩提。於是中无實无虛。是故如來說一切法皆是佛法。須菩提。所言一切法者。即非一切法。是故名一切法。須菩提。譬如人身長大。須菩提言。世尊。如來說人身長大。則爲非大身。是名大身。須菩提。善哉。亦如是。若作是言。我當滅度无量衆生。則不名菩薩。何以故。須菩提。无有法名爲菩薩。是故佛說一切法。无我。无人。无衆生。无壽者。須菩提。若菩薩作是言。我當莊嚴佛度。是不名菩薩。何以故。如來說莊嚴佛土者。即非莊嚴。是名莊嚴。須菩提。若菩薩通達无我法者。如來說名眞是菩薩。須菩提。於意云何。如來有肉眼不。如是。世尊。如來有肉眼。須菩提。於意云何。如來有天眼不。如是。世尊。如來有天眼。須菩提。於意云何。如來有慧眼不。如是。世尊。如來有慧眼。須菩提。於意云何。如來有法眼不。如是。世尊。如來有法眼。

須菩提。於意云何。如來有佛眼不。如是。世尊。如來有佛眼。須菩提。於意云何。恒河中所有沙。佛說是沙不。如是。世尊。如來說恒河所有沙數。佛世界。如是。寧爲多不。甚多。世尊。佛告須菩提。爾所國土中所有衆生若干種心。如來悉知。何以故。如來說諸心。皆爲非心。是名爲心。所以者何。須菩提。過去心不可得。現在心不可得。未來心不可得。須菩提。於意云何。若有人滿三千大千世界。七寶以用布施。是人以是因緣得福多不。世尊。此人以是因緣得福甚多。須菩提。若福德有實。如來不說得福多。以福德无故。如來說得福多。須菩提。於意云何。佛可以具足色身見不也。世尊。如來不應以色身見。何以故。如來說具足色身。即非具足。是名諸相具足。須菩提。汝勿謂如來作是念。我當有所說法。莫作是念。何以故。若人言。如來有所說法。即爲謗佛。不能解我所說故。須菩提。說法无法。可說是名說法。須菩提。白佛言。世尊。佛得阿耨多羅三藐三菩提。爲无所得耶。如是。如是。須菩提。我於阿耨多羅三藐三菩提。乃至无有少法可得。是名阿耨多羅三藐三菩提。復次。須菩提。是法平等。无有高下。是名阿耨多羅三藐三菩提。以无我。无人。无衆生。无壽者。脩一切善法。則得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。所言善法者。如來所說。非善法。是名善法。須菩提。若三千大千世界中所有諸須弥山王。如是等七寶聚。有

人持用布⁶¹施⁶²若人⁶³以此般若波羅蜜⁶⁴經乃至四句偈⁶⁵等受持爲
 他人說於前福德百分不及一百千萬億分乃至算數譬喻所不
 能⁶⁶及⁶⁷須⁶⁸善提⁶⁹於意云何汝等勿謂如來作是念我當度衆生須
 善提莫作是念何以故實无有衆生如來度者若有衆生如來度
 者⁷⁰如來則看⁷¹我人衆生壽者須善提如來說有我者則非有我
 而凡夫之人以爲有我須善提凡夫者如來說則非凡夫須善提
 於意云⁷²何可以三十二相觀如來不須善提言如是如是以卅
 二相觀如來佛言須善提若以卅二相觀如來者轉輪聖王則是
 如來須善提⁷³白佛言世尊如我解佛所說義不應以卅二相觀
 如來爾時世尊而說偈言⁷⁴若以色見我以音聲求我是人行邪
 道不能見如來須善提汝若作是念如來不以具足相故得阿耨
 多羅三藐三菩提須善提須善提是念如來不以具足相故得阿
 耨多羅三藐三菩提須善提若作是念發阿耨多羅三藐三菩提
 者說諸⁷⁵法斷滅相莫作是念何以故發阿耨多羅三藐三菩提
 心者於法不說斷滅相須善提若菩薩以滿恒河沙等世界七寶
 布施若復有人⁷⁶知一切法無我得成於忍此菩薩勝前菩薩所
 得功德須善提以諸菩薩不受福德故須善提白佛言世尊云何
 菩薩不受⁷⁷福德須善提菩薩所作福德不應貪着是故說不受
 福德須善提若有人言如來若來若去若坐若臥是人不解我所
 …⁷⁸說義何以故如來者无所從來亦无所去故名如來須善提若
 善男子善女人以三千大千世界碎爲微塵於意云何是微塵⁷⁹
 爲多不⁸⁰甚多世尊何以故若是微塵衆實有者佛則不說是微塵

衆所以者何佛說微塵衆則非微塵衆是名微塵衆世尊⁸¹如來
 所說三千大千世界則非世界是名世界何以故若世界實有者
 則是一合相如來說一合相則非一合相是名一合相⁸²須善提
 一合相者則是不可說但凡夫之人貪着其事須善提若人言佛
 說我見人見衆生見壽者見須善提於意云何是⁸³人解我所說
 義不世尊是人不解如來所說義何以故世尊說我見人見衆生
 見壽者見即非我見人見衆生見壽者見是名我⁸⁴見人見衆生
 見壽者見須善提發阿耨多羅三藐三菩提心者於一切法應如
 是知如是見如是信解不生法相須善提所言法相如來說⁸⁵即
 非法相是名法相須善提若有人以滿无量阿僧祇世界七寶持
 用布施若有善男子善女人發菩薩心者持於此經乃至⁸⁶四句
 偈等受持讀誦爲人演說其福勝彼云何爲人演說不取於相如
 如不動何以故⁸⁷一切有爲法如夢幻泡影如露亦如電應作如
 是觀佛說是經已長老須善提及諸比丘比丘尼優婆塞優婆
 夷一切世間天人阿脩羅聞佛所說皆大歡喜信受奉行金剛般
 若經⁸⁸一部龍朔三年四月八日敬造佛弟子常才合家敬造優
 填王像一軀⁸⁹金剛經一部願法界衆生共同斯福

〔校記〕 (一)有ノ字、大正藏經本ハ所ニ誤ル (二)尊ノ下、大正藏經本等ハ不可
 以三十二相得見如來ノ十一字アリ (三)昔ノ下、大正藏經本等ハ來
 ノ字アリ (四)於ノ上、大正藏經本等ハ應ノ字アリ (五)昭ノ字、大正
 藏經本等ハ照ニ作ル (六)我ノ下、大正藏經本等ハ見ノ字アリ (七)
 皆悉ノ二字、大正藏經本等ハ悉皆ニ作ル (八)不ノ下、大正藏經本等
 ハ不也ノ二字アリ (九)无ノ上、大正藏經本等ハ實ノ字アリ (一〇)度ノ
 字、大正藏經本等ハ十一ニ作ル (一一)不ノ下、大正藏經本等ハ如是ノ

二字アリ(二三)法ノ下、大正藏經本等ハ爾時慧命ノ四字アリ(三三)世尊ノ下、大正藏經本等ハ頗有衆生於未來世、聞說是法、生信心不、佛言、須菩提、彼非衆生、非不衆生、何以故、須菩提、衆生衆生者、如來說非衆生、是名衆生、須菩提、白佛言、世尊ノ五十八字アリ(四四)相ノ下、大正藏經本等ハ者ノ字アリ(五五)一部ノ二字、大正藏經本等ニ缺ク

二、萬佛洞

100、唐大監姚神爽造一萬五千尊像記左行 永隆元年十一月卅日 西曆六八〇

1 大監¹姚神爽²…³ 內⁴道場⁵…⁶運禪⁷…⁸師⁹一萬五¹⁰…¹¹千尊¹²…¹³像¹⁴

…¹⁵大唐¹⁶…¹⁷永隆¹⁸…¹⁹元年²⁰…²¹十一月²²…²³卅²⁴…²⁵日²⁶成²⁷。

101、唐沙門智運造一萬五千尊像記

1 沙門智運奉爲²…³天皇天后太子⁴…⁵諸王敬造一萬⁶…⁷五千尊像⁸一龕⁹。

一龕。

102、唐玄照造觀世音菩薩記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

1 大唐調露二年歲次庚辰七月十五日。玄²…³照敬造觀世音菩

…⁴薩一區願救法界蒼⁵…⁶生無始罪鄣。今生疾⁷…⁸厄皆得消滅⁹。

103、唐胡貞造像記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

1 大唐調露二年歲次庚辰七月十五日。胡貞²…³普

爲法⁴…⁵界父母⁶…⁷無諸灾⁸…⁹鄣敬造¹⁰。

104、唐胡處貞造像記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

1 大唐調露二年歲次庚辰七月十五日。胡處貞敬造畢功。

105、唐奉爲眞瑩師造像記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

1 大唐調露二年歲次庚辰七月十五日。奉爲眞瑩師敬造畢功。

106、唐陳七娘造菩薩記 調露二年 西曆六八〇

1 陳七²…³娘敬⁴…⁵造菩⁶…⁷薩二⁸…⁹區一¹⁰…¹¹爲福¹²…¹³師一¹⁴…¹⁵爲隱¹⁶…¹⁷師¹⁸。

調¹⁹…²⁰露二²¹…²²年²³成²⁴。

107、唐比丘尼智境造像記 調露二年 西曆六八〇

1 大唐調露二年比丘尼智境奉²…³爲七代父母法界蒼生敬造。

108、唐比丘僧仁等造優填王像記

1 □□□庚辰²…³□□□癸酉朔⁴…⁵□□□日丁亥⁶…⁷比丘僧仁藻⁸…⁹玄

敏戩合門¹⁰…¹¹徒道俗洛州¹²…¹³陳泰初許州¹⁴…¹⁵嚴玄猷許行¹⁶…¹⁷感胡

處貞等¹⁸…¹⁹並各捨珍翫²⁰…²¹俱罄丹誠奉²²…²³爲本師和上²⁴…²⁵敬造優

填王²⁶…²⁷像一區願萬²⁸…²⁹劫千生無虧³⁰…³¹供養桑田碧³²…³³海永固歸

依。

109、唐處貞造彌勒像五百區記 永隆元年九月卅日 西曆六八〇

1 大唐永隆元年歲次庚辰九月卅日。處貞敬造²…³彌

勒⁴…⁵像五百⁶…⁷區願無⁸…⁹始惡業¹⁰…¹¹罪消滅¹²…¹³法界四¹⁴…¹⁵生永斷

…¹⁶怨憎從¹⁷…¹⁸今生至¹⁹…²⁰成仏以²¹…²²來普作²³…²⁴菩提眷²⁵…²⁶屬誓相²⁷…

度脫逢²⁸…²⁹善知識³⁰…³¹出家脩³²…³³道永離³⁴…³⁵蓋纏³⁶…³⁷無所得³⁸。

〔校記〕(一)左傍ニ度ノ字アリ (二)左傍ニ脱ノ字アリ

110、唐供養記 永隆元年十一月八日 西曆六八〇

1、²、³、⁴、⁵、⁶、⁷、⁸、⁹、¹⁰、¹¹、¹²、¹³、¹⁴、¹⁵、¹⁶、¹⁷、¹⁸、¹⁹、²⁰、²¹、²²、²³、²⁴、²⁵、²⁶、²⁷、²⁸、²⁹、³⁰、³¹、³²、³³、³⁴、³⁵、³⁶、³⁷、³⁸、³⁹、⁴⁰、⁴¹、⁴²、⁴³、⁴⁴、⁴⁵、⁴⁶、⁴⁷、⁴⁸、⁴⁹、⁵⁰、⁵¹、⁵²、⁵³、⁵⁴、⁵⁵、⁵⁶、⁵⁷、⁵⁸、⁵⁹、⁶⁰、⁶¹、⁶²、⁶³、⁶⁴、⁶⁵、⁶⁶、⁶⁷、⁶⁸、⁶⁹、⁷⁰、⁷¹、⁷²、⁷³、⁷⁴、⁷⁵、⁷⁶、⁷⁷、⁷⁸、⁷⁹、⁸⁰、⁸¹、⁸²、⁸³、⁸⁴、⁸⁵、⁸⁶、⁸⁷、⁸⁸、⁸⁹、⁹⁰、⁹¹、⁹²、⁹³、⁹⁴、⁹⁵、⁹⁶、⁹⁷、⁹⁸、⁹⁹、¹⁰⁰、¹⁰¹、¹⁰²、¹⁰³、¹⁰⁴、¹⁰⁵、¹⁰⁶、¹⁰⁷、¹⁰⁸、¹⁰⁹、¹¹⁰、¹¹¹、¹¹²、¹¹³、¹¹⁴、¹¹⁵、¹¹⁶、¹¹⁷、¹¹⁸、¹¹⁹、¹²⁰、¹²¹、¹²²、¹²³、¹²⁴、¹²⁵、¹²⁶、¹²⁷、¹²⁸、¹²⁹、¹³⁰、¹³¹、¹³²、¹³³、¹³⁴、¹³⁵、¹³⁶、¹³⁷、¹³⁸、¹³⁹、¹⁴⁰、¹⁴¹、¹⁴²、¹⁴³、¹⁴⁴、¹⁴⁵、¹⁴⁶、¹⁴⁷、¹⁴⁸、¹⁴⁹、¹⁵⁰、¹⁵¹、¹⁵²、¹⁵³、¹⁵⁴、¹⁵⁵、¹⁵⁶、¹⁵⁷、¹⁵⁸、¹⁵⁹、¹⁶⁰、¹⁶¹、¹⁶²、¹⁶³、¹⁶⁴、¹⁶⁵、¹⁶⁶、¹⁶⁷、¹⁶⁸、¹⁶⁹、¹⁷⁰、¹⁷¹、¹⁷²、¹⁷³、¹⁷⁴、¹⁷⁵、¹⁷⁶、¹⁷⁷、¹⁷⁸、¹⁷⁹、¹⁸⁰、¹⁸¹、¹⁸²、¹⁸³、¹⁸⁴、¹⁸⁵、¹⁸⁶、¹⁸⁷、¹⁸⁸、¹⁸⁹、¹⁹⁰、¹⁹¹、¹⁹²、¹⁹³、¹⁹⁴、¹⁹⁵、¹⁹⁶、¹⁹⁷、¹⁹⁸、¹⁹⁹、²⁰⁰、²⁰¹、²⁰²、²⁰³、²⁰⁴、²⁰⁵、²⁰⁶、²⁰⁷、²⁰⁸、²⁰⁹、²¹⁰、²¹¹、²¹²、²¹³、²¹⁴、²¹⁵、²¹⁶、²¹⁷、²¹⁸、²¹⁹、²²⁰、²²¹、²²²、²²³、²²⁴、²²⁵、²²⁶、²²⁷、²²⁸、²²⁹、²³⁰、²³¹、²³²、²³³、²³⁴、²³⁵、²³⁶、²³⁷、²³⁸、²³⁹、²⁴⁰、²⁴¹、²⁴²、²⁴³、²⁴⁴、²⁴⁵、²⁴⁶、²⁴⁷、²⁴⁸、²⁴⁹、²⁵⁰、²⁵¹、²⁵²、²⁵³、²⁵⁴、²⁵⁵、²⁵⁶、²⁵⁷、²⁵⁸、²⁵⁹、²⁶⁰、²⁶¹、²⁶²、²⁶³、²⁶⁴、²⁶⁵、²⁶⁶、²⁶⁷、²⁶⁸、²⁶⁹、²⁷⁰、²⁷¹、²⁷²、²⁷³、²⁷⁴、²⁷⁵、²⁷⁶、²⁷⁷、²⁷⁸、²⁷⁹、²⁸⁰、²⁸¹、²⁸²、²⁸³、²⁸⁴、²⁸⁵、²⁸⁶、²⁸⁷、²⁸⁸、²⁸⁹、²⁹⁰、²⁹¹、²⁹²、²⁹³、²⁹⁴、²⁹⁵、²⁹⁶、²⁹⁷、²⁹⁸、²⁹⁹、³⁰⁰、³⁰¹、³⁰²、³⁰³、³⁰⁴、³⁰⁵、³⁰⁶、³⁰⁷、³⁰⁸、³⁰⁹、³¹⁰、³¹¹、³¹²、³¹³、³¹⁴、³¹⁵、³¹⁶、³¹⁷、³¹⁸、³¹⁹、³²⁰、³²¹、³²²、³²³、³²⁴、³²⁵、³²⁶、³²⁷、³²⁸、³²⁹、³³⁰、³³¹、³³²、³³³、³³⁴、³³⁵、³³⁶、³³⁷、³³⁸、³³⁹、³⁴⁰、³⁴¹、³⁴²、³⁴³、³⁴⁴、³⁴⁵、³⁴⁶、³⁴⁷、³⁴⁸、³⁴⁹、³⁵⁰、³⁵¹、³⁵²、³⁵³、³⁵⁴、³⁵⁵、³⁵⁶、³⁵⁷、³⁵⁸、³⁵⁹、³⁶⁰、³⁶¹、³⁶²、³⁶³、³⁶⁴、³⁶⁵、³⁶⁶、³⁶⁷、³⁶⁸、³⁶⁹、³⁷⁰、³⁷¹、³⁷²、³⁷³、³⁷⁴、³⁷⁵、³⁷⁶、³⁷⁷、³⁷⁸、³⁷⁹、³⁸⁰、³⁸¹、³⁸²、³⁸³、³⁸⁴、³⁸⁵、³⁸⁶、³⁸⁷、³⁸⁸、³⁸⁹、³⁹⁰、³⁹¹、³⁹²、³⁹³、³⁹⁴、³⁹⁵、³⁹⁶、³⁹⁷、³⁹⁸、³⁹⁹、⁴⁰⁰、⁴⁰¹、⁴⁰²、⁴⁰³、⁴⁰⁴、⁴⁰⁵、⁴⁰⁶、⁴⁰⁷、⁴⁰⁸、⁴⁰⁹、⁴¹⁰、⁴¹¹、⁴¹²、⁴¹³、⁴¹⁴、⁴¹⁵、⁴¹⁶、⁴¹⁷、⁴¹⁸、⁴¹⁹、⁴²⁰、⁴²¹、⁴²²、⁴²³、⁴²⁴、⁴²⁵、⁴²⁶、⁴²⁷、⁴²⁸、⁴²⁹、⁴³⁰、⁴³¹、⁴³²、⁴³³、⁴³⁴、⁴³⁵、⁴³⁶、⁴³⁷、⁴³⁸、⁴³⁹、⁴⁴⁰、⁴⁴¹、⁴⁴²、⁴⁴³、⁴⁴⁴、⁴⁴⁵、⁴⁴⁶、⁴⁴⁷、⁴⁴⁸、⁴⁴⁹、⁴⁵⁰、⁴⁵¹、⁴⁵²、⁴⁵³、⁴⁵⁴、⁴⁵⁵、⁴⁵⁶、⁴⁵⁷、⁴⁵⁸、⁴⁵⁹、⁴⁶⁰、⁴⁶¹、⁴⁶²、⁴⁶³、⁴⁶⁴、⁴⁶⁵、⁴⁶⁶、⁴⁶⁷、⁴⁶⁸、⁴⁶⁹、⁴⁷⁰、⁴⁷¹、⁴⁷²、⁴⁷³、⁴⁷⁴、⁴⁷⁵、⁴⁷⁶、⁴⁷⁷、⁴⁷⁸、⁴⁷⁹、⁴⁸⁰、⁴⁸¹、⁴⁸²、⁴⁸³、⁴⁸⁴、⁴⁸⁵、⁴⁸⁶、⁴⁸⁷、⁴⁸⁸、⁴⁸⁹、⁴⁹⁰、⁴⁹¹、⁴⁹²、⁴⁹³、⁴⁹⁴、⁴⁹⁵、⁴⁹⁶、⁴⁹⁷、⁴⁹⁸、⁴⁹⁹、⁵⁰⁰、⁵⁰¹、⁵⁰²、⁵⁰³、⁵⁰⁴、⁵⁰⁵、⁵⁰⁶、⁵⁰⁷、⁵⁰⁸、⁵⁰⁹、⁵¹⁰、⁵¹¹、⁵¹²、⁵¹³、⁵¹⁴、⁵¹⁵、⁵¹⁶、⁵¹⁷、⁵¹⁸、⁵¹⁹、⁵²⁰、⁵²¹、⁵²²、⁵²³、⁵²⁴、⁵²⁵、⁵²⁶、⁵²⁷、⁵²⁸、⁵²⁹、⁵³⁰、⁵³¹、⁵³²、⁵³³、⁵³⁴、⁵³⁵、⁵³⁶、⁵³⁷、⁵³⁸、⁵³⁹、⁵⁴⁰、⁵⁴¹、⁵⁴²、⁵⁴³、⁵⁴⁴、⁵⁴⁵、⁵⁴⁶、⁵⁴⁷、⁵⁴⁸、⁵⁴⁹、⁵⁵⁰、⁵⁵¹、⁵⁵²、⁵⁵³、⁵⁵⁴、⁵⁵⁵、⁵⁵⁶、⁵⁵⁷、⁵⁵⁸、⁵⁵⁹、⁵⁶⁰、⁵⁶¹、⁵⁶²、⁵⁶³、⁵⁶⁴、⁵⁶⁵、⁵⁶⁶、⁵⁶⁷、⁵⁶⁸、⁵⁶⁹、⁵⁷⁰、⁵⁷¹、⁵⁷²、⁵⁷³、⁵⁷⁴、⁵⁷⁵、⁵⁷⁶、⁵⁷⁷、⁵⁷⁸、⁵⁷⁹、⁵⁸⁰、⁵⁸¹、⁵⁸²、⁵⁸³、⁵⁸⁴、⁵⁸⁵、⁵⁸⁶、⁵⁸⁷、⁵⁸⁸、⁵⁸⁹、⁵⁹⁰、⁵⁹¹、⁵⁹²、⁵⁹³、⁵⁹⁴、⁵⁹⁵、⁵⁹⁶、⁵⁹⁷、⁵⁹⁸、⁵⁹⁹、⁶⁰⁰、⁶⁰¹、⁶⁰²、⁶⁰³、⁶⁰⁴、⁶⁰⁵、⁶⁰⁶、⁶⁰⁷、⁶⁰⁸、⁶⁰⁹、⁶¹⁰、⁶¹¹、⁶¹²、⁶¹³、⁶¹⁴、⁶¹⁵、⁶¹⁶、⁶¹⁷、⁶¹⁸、⁶¹⁹、⁶²⁰、⁶²¹、⁶²²、⁶²³、⁶²⁴、⁶²⁵、⁶²⁶、⁶²⁷、⁶²⁸、⁶²⁹、⁶³⁰、⁶³¹、⁶³²、⁶³³、⁶³⁴、⁶³⁵、⁶³⁶、⁶³⁷、⁶³⁸、⁶³⁹、⁶⁴⁰、⁶⁴¹、⁶⁴²、⁶⁴³、⁶⁴⁴、⁶⁴⁵、⁶⁴⁶、⁶⁴⁷、⁶⁴⁸、⁶⁴⁹、⁶⁵⁰、⁶⁵¹、⁶⁵²、⁶⁵³、⁶⁵⁴、⁶⁵⁵、⁶⁵⁶、⁶⁵⁷、⁶⁵⁸、⁶⁵⁹、⁶⁶⁰、⁶⁶¹、⁶⁶²、⁶⁶³、⁶⁶⁴、⁶⁶⁵、⁶⁶⁶、⁶⁶⁷、⁶⁶⁸、⁶⁶⁹、⁶⁷⁰、⁶⁷¹、⁶⁷²、⁶⁷³、⁶⁷⁴、⁶⁷⁵、⁶⁷⁶、⁶⁷⁷、⁶⁷⁸、⁶⁷⁹、⁶⁸⁰、⁶⁸¹、⁶⁸²、⁶⁸³、⁶⁸⁴、⁶⁸⁵、⁶⁸⁶、⁶⁸⁷、⁶⁸⁸、⁶⁸⁹、⁶⁹⁰、⁶⁹¹、⁶⁹²、⁶⁹³、⁶⁹⁴、⁶⁹⁵、⁶⁹⁶、⁶⁹⁷、⁶⁹⁸、⁶⁹⁹、⁷⁰⁰、⁷⁰¹、⁷⁰²、⁷⁰³、⁷⁰⁴、⁷⁰⁵、⁷⁰⁶、⁷⁰⁷、⁷⁰⁸、⁷⁰⁹、⁷¹⁰、⁷¹¹、⁷¹²、⁷¹³、⁷¹⁴、⁷¹⁵、⁷¹⁶、⁷¹⁷、⁷¹⁸、⁷¹⁹、⁷²⁰、⁷²¹、⁷²²、⁷²³、⁷²⁴、⁷²⁵、⁷²⁶、⁷²⁷、⁷²⁸、⁷²⁹、⁷³⁰、⁷³¹、⁷³²、⁷³³、⁷³⁴、⁷³⁵、⁷³⁶、⁷³⁷、⁷³⁸、⁷³⁹、⁷⁴⁰、⁷⁴¹、⁷⁴²、⁷⁴³、⁷⁴⁴、⁷⁴⁵、⁷⁴⁶、⁷⁴⁷、⁷⁴⁸、⁷⁴⁹、⁷⁵⁰、⁷⁵¹、⁷⁵²、⁷⁵³、⁷⁵⁴、⁷⁵⁵、⁷⁵⁶、⁷⁵⁷、⁷⁵⁸、⁷⁵⁹、⁷⁶⁰、⁷⁶¹、⁷⁶²、⁷⁶³、⁷⁶⁴、⁷⁶⁵、⁷⁶⁶、⁷⁶⁷、⁷⁶⁸、⁷⁶⁹、⁷⁷⁰、⁷⁷¹、⁷⁷²、⁷⁷³、⁷⁷⁴、⁷⁷⁵、⁷⁷⁶、⁷⁷⁷、⁷⁷⁸、⁷⁷⁹、⁷⁸⁰、⁷⁸¹、⁷⁸²、⁷⁸³、⁷⁸⁴、⁷⁸⁵、⁷⁸⁶、⁷⁸⁷、⁷⁸⁸、⁷⁸⁹、⁷⁹⁰、⁷⁹¹、⁷⁹²、⁷⁹³、⁷⁹⁴、⁷⁹⁵、⁷⁹⁶、⁷⁹⁷、⁷⁹⁸、⁷⁹⁹、⁸⁰⁰、⁸⁰¹、⁸⁰²、⁸⁰³、⁸⁰⁴、⁸⁰⁵、⁸⁰⁶、⁸⁰⁷、⁸⁰⁸、⁸⁰⁹、⁸¹⁰、⁸¹¹、⁸¹²、⁸¹³、⁸¹⁴、⁸¹⁵、⁸¹⁶、⁸¹⁷、⁸¹⁸、⁸¹⁹、⁸²⁰、⁸²¹、⁸²²、⁸²³、⁸²⁴、⁸²⁵、⁸²⁶、⁸²⁷、⁸²⁸、⁸²⁹、⁸³⁰、⁸³¹、⁸³²、⁸³³、⁸³⁴、⁸³⁵、⁸³⁶、⁸³⁷、⁸³⁸、⁸³⁹、⁸⁴⁰、⁸⁴¹、⁸⁴²、⁸⁴³、⁸⁴⁴、⁸⁴⁵、⁸⁴⁶、⁸⁴⁷、⁸⁴⁸、⁸⁴⁹、⁸⁵⁰、⁸⁵¹、⁸⁵²、⁸⁵³、⁸⁵⁴、⁸⁵⁵、⁸⁵⁶、⁸⁵⁷、⁸⁵⁸、⁸⁵⁹、⁸⁶⁰、⁸⁶¹、⁸⁶²、⁸⁶³、⁸⁶⁴、⁸⁶⁵、⁸⁶⁶、⁸⁶⁷、⁸⁶⁸、⁸⁶⁹、⁸⁷⁰、⁸⁷¹、⁸⁷²、⁸⁷³、⁸⁷⁴、⁸⁷⁵、⁸⁷⁶、⁸⁷⁷、⁸⁷⁸、⁸⁷⁹、⁸⁸⁰、⁸⁸¹、⁸⁸²、⁸⁸³、⁸⁸⁴、⁸⁸⁵、⁸⁸⁶、⁸⁸⁷、⁸⁸⁸、⁸⁸⁹、⁸⁹⁰、⁸⁹¹、⁸⁹²、⁸⁹³、⁸⁹⁴、⁸⁹⁵、⁸⁹⁶、⁸⁹⁷、⁸⁹⁸、⁸⁹⁹、⁹⁰⁰、⁹⁰¹、⁹⁰²、⁹⁰³、⁹⁰⁴、⁹⁰⁵、⁹⁰⁶、⁹⁰⁷、⁹⁰⁸、⁹⁰⁹、⁹¹⁰、⁹¹¹、⁹¹²、⁹¹³、⁹¹⁴、⁹¹⁵、⁹¹⁶、⁹¹⁷、⁹¹⁸、⁹¹⁹、⁹²⁰、⁹²¹、

7月十九日…成。

二三、唐韓文則造像記 永隆元年十一月廿日

西曆六八〇

韓文則…¹奉爲…²父寶仁…³母孟敬…⁴造永隆…⁵元年十…⁶一月廿日。

願造觀世音佛一區。

二九、唐侯二娘造□□觀世音菩薩記 永隆二年正月

西曆六八一

弟子侯…¹二娘奉…²爲、…³妣、…⁴、…⁵、…⁶、…⁷觀世…⁸菩薩各…⁹一區、…¹⁰永隆二…¹¹年正月。

二三、唐杜因果造彌勒像記 永隆元年十一月廿日

西曆六八〇

杜因果…¹敬造彌…²勒一鋪…³供養時…⁴永隆元…⁵年十一月廿日成。

三〇、唐胡處貞造地藏菩薩記 永隆二年二月□日

西曆六八一

大唐永隆二年二月□□日處貞敬造地藏菩薩…¹二區願法界四生從今…²生盡未來際不失正法…³逢善□識□家脩道。

二四、唐胡弘實造菩薩記 永隆元年十一月廿九日

西曆六八〇

胡弘實…¹合家敬…²造菩薩…³二區供…⁴養永隆…⁵元年十一月廿九日成。

三一、唐侯玄熾造彌陀像記 永隆二年四月八日

西曆六八一

侯玄熾敬造彌陀像…¹十區永隆二年四月八日成。

二五、唐比丘尼光相造彌陀像記 永隆元年十一月□八日

西曆六八〇

比丘尼…¹光相敬…²造彌陀…³像一鋪…⁴永隆元…⁵年十一月廿八日成。

三二、唐比丘尼智隱造釋迦像記 永隆二年四月八日

西曆六八一

比丘尼…¹智隱敬…²造釋迦…³、…⁴、…⁵永隆二…⁶年四月廿八日畢…⁷功。

〔校記〕 第七行ハ補正ニヨリ補フ

二六、唐施主造地藏記 永隆元年十二月卅日

西曆六八〇

施主敬造地藏菩薩…¹、…²□万劫千生不捨道心常…³逢善知識出家脩道…⁴大唐永隆元年十二月卅日成。

三三、唐許州比丘尼妙義造阿彌陀像記 永隆二年四月九日

西曆六八一

大唐永…¹隆二年…²四月九…³日許州…⁴□□□…⁵比丘尼…⁶妙義敬…⁷造阿彌…⁸陀像一…⁹鋪供養。

二七、唐侯神照并妻張氏造像記 永隆二年正月十三日

西曆六八一

侯神…¹照并…²妻張…³敬造…⁴永隆…⁵二年…⁶正月…⁷十三…⁸日成…⁹清信女、

三四、唐張惠哲造像記 永隆二年

西曆六八一

大唐…¹永隆二…²年張…³惠哲…⁴爲出…⁵姊七…⁶娘怙…⁷子敬…⁸造畢…⁹功。

二八、唐房山縣人崔懷儉造觀世音佛記 永隆二年正月廿日

西曆六八一

大唐永隆二年正月廿日恒州…¹房山縣人崔懷儉在軍之…²日。

二九、唐唐州覺意寺尼好因造像記 永淳二年九月八日

西曆六八三

唐州覺…¹意寺尼…²好因發…³心造…⁴永淳二年…⁵九月八日。

一七、唐蘇銷造像記 永淳二年九月八日 西曆六八三

蘇銷爲亡弟越金永淳二年九月八日造成。

一八、唐蘇銷造像記 永淳二年九月八日 西曆六八三

蘇銷爲亡乳母老婆永淳二年九月八日造。

一九、唐尼法淨造像記 垂拱元年十二月 西曆六八五

尼法淨爲現在師僧善知識等作菩提眷屬敬造一佛

二菩薩垂拱元年十二月。

二〇、唐張師滿造阿彌陀像記 垂拱二年二月八日 西曆六八六

大唐垂拱二年二月八日張師滿爲見在師僧父母及亡弟敬

賓敬造阿彌陀像一鋪二月十日成就。

二一、唐張師滿造救苦觀音菩薩記

張師滿爲兄楚師敬造救苦觀音菩薩三區。

二二、唐寶刹寺尼造彌勒像記 乾封元年 西曆六六六—六六八

都寶刹寺尼奉爲上敬彌勒像一龕相端嚴

威儀具足眞仙夾影密絕鑿龍門兮

伊川兮、絕、兮入、

封、兮、兮、

二三、唐造阿彌陀佛記 萬歲登封元年 西曆六九六

亡父母敬造阿彌陀一龕法界衆生共同

斯福萬歲登封元年造。

二四、後漢郭張題記 乾祐三年三月廿一日 西曆九五〇

乾祐三年三月廿一日郭張記之。

二五、宋監修石道公事丁裕題記 天聖四年三月三日 西曆一〇二六

大宋天聖四年三月三日監修石道公事丁裕記白利

二六、宋監修路員寮高福題記 天聖四年三月三日 西曆一〇二六

同監修路員寮高福。

二七、與王說同來題記左行 丁酉下元

恪恭遜與王說同來丁酉下元

二八、陳智積造琉璃光像記

陳智積敬造琉璃光像四區供養。

二九、高善達造阿彌陀佛記

弟子高善達爲一切法界衆生敬造阿彌陀一

軀。

三〇、前相州安陽縣尉王承頰造觀世音記

前相州安陽縣尉王承頰敬造觀世音菩薩二區。

三一、劉大娘造觀音菩薩記

劉大娘爲亡母敬造觀音菩薩一區。

三二、妻張氏造觀世音菩薩記

妻張氏爲史敬博在京患敬造觀世音菩薩二區。

三三、莘縣人任右藏丞造觀音記

魏州莘縣人任右藏丞願合家眷屬平安敬造觀音一區。

三四、比丘尼思造觀音記

比丘尼思敬造觀音一區供養。

三五、侯李五造觀音像記

菩薩。一爲大女劉造。一爲恪女…造。二菩薩普爲七代父母。及善知識。同得往生阿彌陀佛。

〔校記〕 (一)□□ノ二字沙啞ハ并二

一六、唐不可思宜清信女王婆造觀音記 上元三年二月

西曆六七六

不可思宜清…信女王婆爲兒…宋玄慶東行。願…得平安。敬造…觀音一軀了。…上元三年二月日。

一六、唐清明寺比丘尼八正造像記 儀鳳三年三月九日

西曆六七八

清明寺比丘尼八正敬造。…大唐儀鳳三年三月九日成。

一六、唐趙婆造觀音菩薩記 上元三年十月廿日

西曆六七六

清信女趙…婆爲己身。…敬造觀音…菩薩一區。…上元三年十月…廿日。

一六、唐雍州三原縣古鼎鄉薛□福等造佛菩薩記 垂拱三年二月十六日 西曆六八七

雍州三原縣…古鼎鄉高池…里弟子薛□…福。妻韓什柱。…男奴子右爲…七世父母。…母。合家大□。…願平安。…造一佛二菩薩。…垂拱三年…二月十六成。

一六、唐金莫神造彌陀像記 垂拱三年四月八日

西曆六八七

□□金…莫神疾。…爲合家大小。…願平安。敬…造彌陀像。…一龕。□家…一心供養佛。…垂拱三年…四月八日…訖。

一六、唐徐節造阿彌陀救苦觀音像記 垂拱三年六月廿五日

西曆六八七

垂拱三年六月廿五日。弟…子徐節。奉爲亡母周氏。…敬造阿彌陀、、像。…救苦觀世音菩薩□□。

〔校記〕 (一)後刻力

龍門石刻錄錄文

一七、唐雍州三原縣古鼎鄉戴婆等造佛菩薩記 垂拱三年二月十六日 西曆六八七

雍州三原縣…古鼎鄉高池里。…弟子戴婆。周…修福。妻趙慈善。…男周元靜。普爲…法界衆生。七世父…母。見存父母。合家…大小。願平安。…垂拱三年二月十六日。造一佛二菩薩。…

一六、唐雍州逕陽縣蘇伏寶造佛菩薩記 垂拱三年二月十六日

西曆六八七

雍州逕陽縣衆…善鄉蘇伏寶。…爲七世父。見存父母。…合家大小。及一切衆。…生。造一佛二菩薩。花…生供養。垂拱三…年二月十六日成。

一六、唐魏莊等造阿彌陀像記 垂拱二年七月十五日

西曆六八六

魏莊。妻阿□□男賈…兒夫妻及…男。願平安。…敬造阿彌陀像一鋪。…供養。垂拱…二年七月…十五日。造…訖。一切衆…生。共同斯…福。

一七、周張元福造阿彌陀像二菩薩記 載初元年五月二日

西曆七五七

雍州萬年…縣張元福。…爲患得差。…敬造阿彌陀像一。并二菩薩。…載初元年…五月二日成。

一七、周劉大弊妻姚氏造阿彌陀像記 載初元年六月三日

西曆七五七

弟子劉…大弊妻…姚爲亡…姑及身患。敬…造阿彌陀像。…一龕。願法界…衆生。共同此福。…載初元年六…月三日畢功。

一七、周李居士造像記 天授二年四月

西曆六九一

李居士敬…造、、…一鋪。…天授二年…四月□□。

一七、周□□羅造像記 天授二年一月一日

西曆六九一

二六三

1 天授二年一月... 2 一日。□□... 3 羅爲患... 4 造仏二區... 5 一心供養*

1 周馬神貴造阿彌陀佛記 聖曆二年四月二十三日 西曆六九九

1 周李二娘造像記 天授二年四月八日 西曆六九一

1 洛州河陽縣仏弟... 2 子馬神貴爲父... 3 母及身并亡妻... 4 莊嚴阿彌陀仏... 5 聖曆二年... 6 四月貳拾參日。

1 李大娘... 2 共造... 3 像一并... 4 菩薩... 5 天授二年... 6 四月八日... 7 造成了。

1 周宋婆造佛菩薩記 長安四年二月廿四日 西曆七〇四

1 李大娘造像記

1 清信弟子宋婆年六十五敬造... 2 一佛二菩薩一鋪長安四年二月廿四日。銘記惠。

1 李大娘□□父母及己身及□□... 2 男奴、

1 唐杜潛輝造像記 開元二年二月九日 西曆七一四

1 周雍州萬年縣張元福造像記 天授二年二月卅日 西曆六九一

1 杜潛輝普爲一切發... 2 心作仏者敬造一仏... 3 二菩薩一鋪開元二... 4 年二月九日。秀珪記。

1 雍州萬年縣張元福爲... 2 身患德差年造像... 3 一龕天授二年二月卅日。

1 周蔡大娘造像記 天授二年四月十四日 西曆六九一

1 唐張敬琮母王婆造天尊像記 開元五年三月 西曆七一七

1 蔡大娘生存... 2 願造像一龕... 3 爲七代父母法界... 4 衆生咸同其... 5 福。天授二年... 6 四月十四日功畢。

1 弟子張敬琮母王婆敬... 2 造天尊一鋪開元五年三月日。

1 周蔡大娘造藥師像記 天授二年四月十四日 西曆六九一

1 □□張女... 2 爲亡母敬... 3 造□□... 4 菩薩一區。

1 蔡大娘生存... 2 願造藥師... 3 像一龕今... 4 德成。天二年... 5 四月十四日畢... 6 功咸同彼岸。

1 李大娘... 2 爲郎忠... 3 敬造彌... 4 勒像... 5 一鋪。

1 周丁君義造阿彌陀像記 如意元年五月五日 西曆六九二

1 李去泰造阿彌陀救苦觀世音地藏菩薩記 □□四年正月

1 丁君義... 2 上爲 天皇... 3 天后師僧父母及... 4 善知識蠢動衆生願... 5 斷五慾共登正覺... 6 如意元年閏五月五日敬造阿彌... 7 陀像一軀。

1 □□四年正月... 2 □□日佛弟... 3 子李去泰敬造... 4 阿彌陀像一救... 5 □□世音菩薩... 6 □□菩薩爲師... 7 僧父母及法界... 8 蒼生見存眷屬... 9 俱登正覺。

1 周比丘神泰造廿五佛記 證聖元年正月十四日 西曆六九六

〔校記〕 補正ハ城藏ニ作ルモ地藏菩薩ナルベシ

1 證聖元年正月十四日... 2 比丘神泰上報四恩又... 3 爲亡姜婆敬造廿五佛... 4 法界蒼生共同斯福。

1 唐孝郎造阿彌陀救苦觀音像等記 垂拱三年四月八日 西曆六八七

1 垂拱三年四月八日弟子... 2 □孝郎... 3 造阿彌陀像... 4 一區并救

一、雍州…²萬年…³縣人張…⁴賓、

三、同州下桂縣駱思忠造像記

一、同州…²下桂…³縣。駱…⁴思忠…⁵敬…⁶造。

三、姚養造像記

一、弟子…²姚養…³爲亡母…⁴楊敬造。

三、雍州□陽縣宋思惠造佛記

一、雍州□陽縣…²華□鄉。宋思…³惠。造□佛…⁴、、、三月…⁵、

三、沙門惠苑造像記

一、沙門…²惠苑…³敬造。

三、趙令則等造像記

一、□□李趙庭李…²賓庭。趙令則造。

三、兄弟安長題記

一、像□□…²兄弟…³安長。

三、郭阿□等造像記

一、郭阿□。李阿六禿造。

二、妙…³憶。

三、石匠范一題記

一、石匠范一。到此。

四、老龍洞

三、北齊合邑造釋迦石像記 天統四年九月十五日

龍門石刻錄錄文

西曆五六五

一、天統四年九月十五日。合邑十五等…²敬造釋迦石像一區。仰爲

皇□永隆…³俠文。願七世父母。己身眷屬。大少平安。

三、唐新息縣令田弘道造菩薩像記 貞觀廿一年四月七日 西曆六四七

一、貞觀廿一年四月七日…²新息縣令田弘道。共妻…³男女等。敬造

菩薩像兩…⁴軀。願願從心。□道。

三、唐洛州淨土寺主智傳造阿彌陀像記 永徽元年四月八日 西曆六五〇

一、永徽元年四月…²八日。洛州淨土…³寺主智傳。敬造…⁴阿彌陀像

一軀…⁵同學智翔。共崇…⁶此福。

三、唐樊慶造救苦觀世音像記 永徽元年五月五日 西曆六五〇

一、弟子樊慶。爲…²亡慈兄。前兗州參軍…³事玄道。敬造等身救…⁴苦

觀世音像一軀。藉…⁵此功德。往生淨土…⁶。大唐永徽元年五月…⁷

五日起造。二年九月…⁸卅日功畢。

三、唐清信女劉氏造阿陀彌像記 永徽元年十月一日 西曆六五〇

一、清信士女佛弟子劉夜…²忽夢於闕峽水東昇山…³履壁。夢中惶

懼。願造千…⁴佛。寤便思惟。心開清悅…⁵。如夢卽作。恐千像微小…⁶

久久磨滅。廻造阿彌陀…⁷像一區。以遂夢中之願…⁸。經言佛一身

爲多。多身…⁹爲一。恃斯神力。一切含…¹⁰靈。同發菩提。俱登正覺…¹¹

大唐永徽元年十月一日。

三、唐清信女王氏造阿彌陀像記 永徽二年六月五日 西曆六五一

一、清信女王。爲亡母。敬…²造阿彌陀像一坵。願…³母往生淨土。永徽

六月五日

三、唐右衛率長史程秘修兄弟等造像記 永徽二年十一月廿五日 西曆六五一

二六七

1 大唐永徽二年十一月廿五日。右衛率長史程秘修兄弟等造像。一龕爲先亡升淨刹見。在越受斯福業。得勝報。俱共願海渡衆生。

〔校記〕 (一)程秘二字八大村ニヨル

三六、唐張善同造阿彌陀像記 永徽三年三月一日 西曆六五二

1 張善同爲芮國公。敬造彌陀像一軀。上爲皇帝。下及蒼生。俱免蓋。纏咸登正覺。永徽三年三月一日。

三六、唐李君政造弥勒像記 永徽三年十二月九日 西曆六五二

1 永徽三年十二月九日。李君政敬造弥勒一鋪。願男德剛。病得早差。

三六、唐吏部主事許思言造像記 永徽四年四月八日 西曆六五三

1 永徽四年四月八日。吏部主事許思言爲母杜氏敬造像一鋪。

三六、唐涪州司馬息郭愛同造觀音菩薩記 永徽四年十月八日 西曆六五三

1 永徽四年十月八日。涪州司馬息郭愛同爲亡大女敬造觀音菩薩一軀。供養。

三六、唐清信女朱氏造觀音菩薩記 永徽四年五月五日 西曆六五三

1 清信女朱氏爲息敬造觀音菩薩一軀。供養。永徽四年五月五日了。

三六、唐清信女韓氏造阿彌陀像記 永徽五年三月十九日 西曆六五四

1 清信女韓氏敬造阿彌陀像。永徽五年三月十九日。唐竹奴子及妻宋氏造像記 永徽五年三月廿日 西曆六五四

1 永徽五年三月廿日。竹奴子及妻宋氏爲亡女敬造。

三六、唐雍州司倉參軍辛崇敏造像記 永徽五年五月廿日 西曆六五四

1 通直郎行雍州司倉參軍辛崇敏敬造像一坩。與含識。福。永徽五年五月廿日。訖。

三六、唐張玄德及妻宋氏造阿彌陀像記 永徽□年 西曆六五〇—六五

1 永徽、張玄德及妻宋氏、造彌陀像、同斯福。

三六、唐沙門智旭造維衛佛等七佛記 永徽二年 西曆六五四

1 沙門智旭。今敬造維衛佛等七佛形像。皇帝及七世父母。並一切含識。並更不墜。證。大唐永徽二年、同斯福。

三六、唐李智海造阿彌陀像記 顯慶元年二月廿三日 西曆六五六

1 大唐顯慶元年二月廿三日。弟子李智海敬造阿彌陀像一龕。爲七世父母及法界衆生。

三六、唐陳僧受造阿彌陀像記 顯慶元年八月 西曆六五六

1 弟子陳僧受敬造阿彌陀像一龕。顯慶元年八月。功乞。

〔校記〕 (一)八月□日功乞ノ六字ハ沙畹大村ニヨル

三六、唐宋海寶妻緒氏造阿彌陀像記 顯慶元年□月十一日 西曆六五六

1 宋海寶妻緒敬造阿彌陀像一坩。爲過往父合家平安。一切含生。俱同斯福。顯慶元年□月十一日。造。

三、唐清信女普泰造阿弥陀像記 顯慶三年四月三日 西曆六五八

清信女弟子普泰…爲過去二親於龍…門之巖敬造阿…弥陀像一鋪。願二親…濟生淨土。聞甚…深法。悟眞常…樂。共法界蒼生…脩菩薩行。登…涅槃岸…顯慶三年歲戊…午。四月癸丑朔三…日乙卯。

〔校記〕 (一)補正ニヨル

三、唐清信女司馬氏等造像記 龍朔三年四月八日 西曆六六三

清信女司馬及男馮…英劇英嶷英岌爲…父敬造…龍朔三年四月八日。

三、唐楊眞藏造阿弥陀并二菩薩像記 顯慶三年 西曆六五八

惟顯慶三年歲次戊午月癸丑…佛弟子楊眞藏爲七祖先…並願上品往生諸佛國土。聞經…悟道。未及…爰諸眷屬普蒙…安樂於洛州龍門□敬善寺之南西頰…造阿弥陀像一鋪。并二菩薩莊嚴成就…相好具足。以此功德普施蒼生。入薩婆…若海。

三、唐行皇太子侍醫吳吉甫造像記 龍朔元年四月廿日 西曆六六一

龍朔元年太…歲辛酉四月乙□…廿日承議郎行皇太子侍醫吳吉甫…敬造石像一軀。爲…七代父母合大小…並願平安。吳吉甫…敬造。

〔校記〕 (一)沙畹ハ丑朔

三、唐李君懷妻造阿弥陀像記 龍朔二年□月十五日 西曆六六二

李君懷妻…爲亡父敬…阿弥陀像…一鋪。龍朔二年…

龍門石刻錄錄文

月十五日功訖。

〔校記〕 大村ハ七

三、唐孟大娘造阿弥陀像記 乾封二年四月八日 西曆六六七

乾封二年四月八…日清信女孟大娘…敬造阿弥陀像…一軀。願見存父母…合家平安及法界…衆生共同斯福。

〔校記〕 第一行乾封二年第二行日清信第三行敬阿第四行一願第五行合家

平第六行衆生ハミナ補正ニヨル

三、唐孟善應妻趙氏造阿弥陀像記 乾封二年四月六日 西曆六六七

乾封二年四月…六日弟子孟…善應妻趙夫…妻知身無常…敬造阿弥陀…像一龕。爲七…父母見存…眷屬法界衆…生同斯供養…願登正覺。

〔校記〕 (一)大村ハ代

三、唐李鉢頭母王氏造觀音像記 總章元年五月一日 西曆六六八

總章元年五月…一日弟子李鉢頭…母王敬造觀音…像一區。

三、唐清信女陰氏造阿弥陀像記 總章元年 西曆六六八

總章元…年清信…女陰願…自身平…安敬造…阿弥陀…像一鋪…供養。

三、唐業法藏尙等造地藏菩薩記 總章二年□月八日 西曆六六九

總章二年□月八日。業…法藏尙等造地藏菩薩一…軀。上爲皇帝及師僧父…母法界衆生。願出家。

〔校記〕 (一)補正ハ六、大村ハ八、沙畹ノ四ハ殆下誤 (二)補正大村ニヨル

(三)補正大村ニヨル

二三、唐張神熾姚武達等造千佛七軀記 總章元年六月廿四日 西曆六六八

1 總章元年六月廿四日。張神熾姚武達等造千佛七軀。

二四、唐姜義琮造阿彌陀像記 總章二年七月十五日 西曆六六九

1 總章二年七月十五日。姜義琮爲亡考造阿彌陀像一軀。

二菩薩。

二五、唐雍州醴泉縣王君意造阿彌陀像記 垂拱三年七月十三日 西曆六八七

1 爲□天皇天后爲父母。造阿彌陀像一龕。雍州醴泉縣人。王君意垂拱三年七月十三日。

二六、周安多富造像記 永昌元年三月七日 西曆六八九

1 永昌元年三月七日。安多富敬造。

二七、周絳州曲沃縣胡元慶造佛記 載初元年五月十五日 西曆七五六

1 佛弟子降州曲沃縣平望鄉胡元慶爲一切法界衆生敬造千佛一軀。載初元年五月十五日。

二八、周松義縣尉楊行則並妻王氏造盧舍那像記 天授二年二月五日 西曆六九一

1 同州韓城縣前豪州松義縣尉楊行則并妻王敬造盧舍那像一龕。爲先亡七世父母兄弟姊妹。見存眷屬造此功德。並願得無上菩提道。大周天授二年二月五日。

二九、周張乾最妻王氏造阿彌陀像記 左行 天授二年三月十二日 西曆六九一

1 天授二年三月十二日。張乾最妻王五易張得善敬造阿彌陀像一區。

三〇、周昉思忠造像記 長安二年七月十五日 西曆七〇二

1 昉思忠爲亡妻造像一補。一心供養。長安二年七月十日。

五日必功。

三一、周水衡監都尉宋越客妻鹿三娘造像記 長安三年十二月五日 西曆七〇三

1 水衡監都尉宋越客妻鹿三娘同發願爲聖神皇帝普爲法界衆生居登正覺。長安三年臘月五日造。

三二、周長安三年造像記 長安三年十二月十二日 西曆七〇三

1 □區佛慈恩長安三年三月十二日功訖。

三三、周尉遲弘楷造阿彌陀像記 長安四年二月十日 西曆七〇四

1 尉遲弘楷爲七世父母見存眷屬敬造阿彌陀像一區。合家供養。長安四年二月十日。

三四、周中山郡王隆業觀世音石像銘 長安四年三月廿七日 西曆七〇四

1 觀世音石像銘。夫法王降跡。大開拯溺之權。梵帝居尊。廣通微妙之力。至聖幽邈。其道難思。弟子中山郡王隆業。奉爲四哥孃六親眷屬。敬造觀世音石像一鋪。勤誠彫刻。月面光舒。淨慮莊嚴。金容相滿。以斯勝果。資奉四哥孃六親眷屬。伏願壽比崇山。固同盤石。傍周庶品。俱潤良緣。長安四年三月廿七日。中山郡王隆業造功畢。

〔校記〕(一)居尊ノ二字ハ補正ニヨル

三五、周長安四年造像記 長安四年十二月廿二日 西曆七〇四

1 余以長安四年十二月廿二日。元十、業道像六、今並成。

三六、周霍三娘造業道像記 七月十五日 西曆七〇四

1 霍三娘爲疾患得差。發願敬造業道像六。今並成就。普爲師僧父母法界蒼生。俱登正覺。七月十五日。

三六、周楊婆造地藏菩薩記

楊婆爲亡夫石…義敬造地藏菩薩…薩一、

三七、周裴素月造像記佛弟子吳冲兒題記

裴…素…月…造。

佛弟子吳…冲兒。

三八、唐比丘尼恩恩造地藏業道像記 神龍三年七月十四日

西曆七〇七

、造地藏菩薩、…、尼恩恩爲亡比忌
、七月廿日成…、造地藏菩薩一軀。女…、丘尼恩恩爲
亡考忌日…、月七日造成…敬造業道像七軀。女比丘…尼恩
恩爲七世父母。先亡…神龍三年七月十四日造成。

〔校記〕 (一)補正ニヨル

三九、唐景龍三年造像記 景龍三年九月卅日

西曆七〇九

、造石…功德一鋪成…景龍三
年九…月一日。必功…一心供養。

〔校記〕 (一)補正ハ至

四〇、唐比丘僧眞性造阿弥陀像記 開元三年九月

西曆七一五

比丘僧眞性爲父…母及一切衆生皆得解脫爲七世父母。
皆得解脫…敬造阿弥陀像…開元三年九月日。

〔校記〕 (一)孫錄ハ二 (二)沙畹ハ六

四一、唐吳藏師造觀世音像記 開元七年正月五日

西曆七一九

吳藏師爲亡女造觀…世菩薩一軀…開元七年正月五日。

四二、宋造人黨修石道記 元豐七年七月卅日

西曆七一九

甲子歲。元…豐七年七月卅日。脩…石道記…造人黨。

三三、雍州慶山縣姚思敬造阿弥陀佛等記

雍州慶山縣姚思…敬奉爲亡過七…代及亡父母敬造…阿弥

陀佛。藥師佛…業道像救苦菩薩。

三四、蒲州程禮造藥師佛記左行

蒲州程禮爲…妻楊敬造藥…師仏一區。

三五、張丘造藥師像記

張丘…造藥…師像…一軀。

三六、楊二娘張二娘張大娘造阿弥陀像記

楊二娘張二娘張…大娘共造阿…弥陀佛三軀…願家口平安。

一…心供…養。

三七、蒲州安邑縣楊普會造阿弥陀像記左行

蒲州安邑縣…楊普會爲…亡過七代見存父母…敬造阿弥仏

二區。

三八、蒲州安邑縣四海造阿弥陀像記

蒲州安邑縣…四海奉爲父…母敬造阿弥陀…佛一區供養

…

三九、王元禮造阿弥陀像記

王元…禮爲…己身…敬造…阿弥…陀像…四區…供養。

四〇、清信女高氏造阿弥陀像記

清信女高爲亡夫…敬造阿弥陀一…并息大師供養。

四一、清信女宮氏造阿弥陀像記

清信女…宮。爲亡…夫。敬造…阿弥陀…像一鋪…元年功…乞及、

(校記) (一)補正ハ男女ノ二字トシナホ不明ノ一行アリ

二五、清信女可敦造阿弥陀像記

清信女可…敦。敬造弥…陀像。

二六、清信女宋氏造阿弥陀像記

清信女宋…爲亡母。敬…造阿弥陀…像一龕。願…亡早離苦…難。

二七、清信女簫氏造觀音菩薩記

清信女簫。爲亡夫…鄧明府。敬造觀…音菩薩一軀。

二八、清信女樂氏造觀音菩薩記

清信女樂。爲身…敬造觀音菩…薩一軀。

二九、王奇奴造觀音菩薩記

王奇奴。願身…平安。敬造觀世…音菩薩一區。

三〇、梁喜王造觀世音記

梁喜王…造觀世…音一軀。

三一、造觀音像記

、州…城縣…方…一切苦厄…敬造觀…音像一…軀。

三二、吳行軌造像記

佛弟子…吳行軌…爲父母…造。

三三、杜大娘造觀音菩薩記

杜大娘。爲身…患。敬造觀音…菩薩一區。

三四、趙行整造救苦觀世音地藏菩薩記

佛弟子趙行…整。比爲患…脚得可敬…造救苦觀…世音菩薩。地藏…菩薩一區。爲七世父母…妹。一心供養。

三五、成大娘造救苦菩薩業道像記

成大娘。爲父母。敬造救苦…菩薩業道像二區。

三六、千牛高思儉造救苦觀音像記

千牛高思儉。爲亡妻崔…氏。造救苦觀世音像一…軀。願□□重生淨土。

(校記) (一)補正ニヨル

三七、田婆造救苦觀世音記

、田婆…張…三娘…敬造救苦觀…世音菩薩一區。

三八、周有意造救苦觀音菩薩記左行

佛弟子周有意…爲亡男。敬造救…苦觀音菩薩…一區。一心供養。

三九、任成造菩薩記

任成。爲…亡父母…及亡妻…造菩薩…一軀。又爲…王三娘。造…一軀成。

四〇、索惠命造菩薩記

索惠命…爲亡父。敬…造菩薩…一區。

四一、祝三兒造業道佛記

佛弟子祝…三兒爲亡…父母及見…存身敬造…業道佛十…區。

一 汴州賈本…造像五軀。

三九、王仁則造業道像記

一 佛弟子王仁則…爲妻杜願合家…平安敬造業道…像七區。今並成就…普爲師曾父母…共登正覺。

三八、汴州張丘造像記

一 汴州張丘…造像伍…汴州張丘…造像伍軀。

三〇、李大娘造業道像記

三九、郭愛同造像記

一 李大娘爲父母…願平安敬造…業道像一區。

三〇、張善同造像記

一 張善同爲…清信女翟清信女…玄轉等造。

三一、僧敬造像記

一、僧敬□…尊像一龕共養。

三一、清信女孫英仁造像記

一 佛弟子清信女孫英仁…奉爲七世父母及法界…敬造供養。

三二、晉州襄陵縣霍元裕造佛菩薩記

一 晉州襄陵縣霍元裕爲…見存父母敬造…佛一區…菩薩一…。

三二、清信女孫氏造像記

一 清信女孫氏…爲亡父母…敬造。

三三、張善惠造佛記

一 張善…惠爲…身造…佛一區。

三三、清信女樂氏造像記

一 清信女樂氏…爲男造。

三四、李哲造像記

一 李哲爲眷屬及含生敬…造像一軀。

三四、孔文昌造像記

一 孔文昌…敬造。

三五、里可承妻王氏造像記

一 佛弟子里可…承妻王□女…何面爲母子平安造佛一確…四月八日成。

三五、趙敬福弟敬本造像記

一 趙敬…福弟…敬本…造。

三六、清信女任王二人造像記

一 清信女任王二人…爲亡比丘尼靜行…敬造像一龕。

三六、張任二□造像記

一、張任二…娘父及…一切法界共同…。

三七、汴州賈本造像記

一 佛弟…子杜…靜本…。

三七、杜靜本題記

佛弟…子杜…靜本…。

龍門石刻錄錄文

三六、比丘尼□勤智明造像記

比丘尼…²勤…³造比丘…⁴尼智…⁵明造。

三九、趙懷信等造像記

趙懷信敬造…²阿馮敬造田、

三〇、張行軌造像記

張行軌爲父母…²及身法界倉生…³俱同利苦難。

三一、清信女鄭行衆勝姊妹造像記

清信女鄭行衆…²勝姊妹並爲七…³世父母及法界…⁴衆生并爲

己身…⁵敬造像一鋪。□

三二、楊侍郎造像記

、、、子楊侍郎爲…²亡□□□□一龕…³、、、

□身敬造像、

三三、佛弟子患風及身爲父母造像記

佛弟子…²患風及…³身爲父…⁴母敬造。

三四、楊公主造像記

清信女楊公…²主爲亡夫祁…³文雅敬造石…⁴像一龕及法…⁵界

衆生共同…⁶斯福。

三五、南陽樂賓造像記

南陽…²樂賓…³石□…⁴一區*

三六、使婆羅造像記

使婆羅…²爲父母敬…³造石像。

三七、王婆造像記

王婆敬像一軀訖。

三八、韓曳雲司徒端等造優填王像記

優填王像北龕韓…²曳雲等共造供養…³優填王像南龕司徒端等共造供養。

韓曳雲司徒端劉彥舉康法藏董德師…⁶宗伏寶劉師整楊□道范朗仁朱行滿…⁷王行敏房處元楊神福田元軌張玄景…⁸沈行琛段伏舉尋威仁徐龍廓李文素…⁹董師經緱則田表房僧榮劉思儉…¹⁰張元良張思儉賈元仙王元胤史誠…¹¹曹行基韓素陳玄儼成仁德陳士綱…¹²張思言管興公孫舉。

〔校記〕（一）補正八攝

三九、陪婆李二娘造像記

陪婆…²像…³李二娘…⁴像。

四〇、福德長壽題記

福德…²長壽。

四一、邑子尹達題記

邑子尹達妻張敬光…²妻王廻敬…³東堪主陳智秩…⁴景。

四二、清信女王霍杓等題記

清信女王雙杓…²清信女張寶玉…³清信女麻令姿…⁴清信女晁猛姿…⁵清信女李敬仙。

在下人胡□…^{2a}造…^{4a}邑子、…^{5a}邑子賈、。

四三、比丘僧曇仰等題記

、、…²比丘僧曇仰…³比丘僧仰…⁴比丘僧曇林…⁵邑主張僧明…⁶邑子鄭□…⁷邑子劉奴…⁸邑子僧紹…⁹邑子□莫□…¹⁰邑

中□□、…¹¹邑子單、

五、蓮華洞

三〇、北魏□四娘造像記 神龜元年四月八日

西曆五一八

□四…²娘…³神龜元年四月八日。□³訖。

〔校記〕 大村八作

三一、北魏比丘尼惠澄造像記 正光六年三月十日

西曆五二五

正光六年三月十日…²比丘尼惠澄。仰爲七世父…³母。所生父母。朋右。致香火邑義…⁴一切衆生。敬造□像一區。願乃…⁵地獄休息。餓鬼解脫。願令□…⁶、…⁷一切衆生。普同…⁷、…、

三二、北魏田黑女造像記 正光二年七月十日

西曆五二一

正光二年七月十日…²仏弟子田黑女。造石…³像一區。願亡夫。亡女…⁴三圖五苦速令解□⁴。…⁵一切群生。咸…⁶同斯願。

〔校記〕 (一)沙碗ハ脫

三三、北魏田黑女造像記 正光二年七月十五日

西曆五二一

正光二年七月十…²五日。清信佛弟子…³田黑女。造□像一…⁴區。願亡、…、…⁵、…□□、…⁶一切衆生。普…⁷同斯願。

三四、北魏比丘尼清信士清信女等合造釋迦像十六區記

正光二年十一月廿九日

西曆五二一

清信女佛弟子、…²比丘□□造像一區。…³比丘尼僧敬、…⁴、…、…⁵比丘尼僧靜。願母子…⁶平安。造像一區。…⁷清信

女佛弟子。祖□弟…⁸等。造像一區。…清信女佛弟子封⁷氏祖。…¹⁰造像一區。…¹¹清信女佛弟子祖□…¹²司馬。造像一區。…¹³清信女佛弟子祖長…¹⁴□造像一區。…¹⁵清信士佛弟子。吳州□□…¹⁶封長父。造像一區。…¹⁷清信士佛弟子封□□…¹⁸造像一區。…¹⁹清信士佛弟子封叔□…²⁰造像一區。…²¹清信士佛弟子封□…²²章。造像一區。…²³清信士佛弟子封□恭。造…²⁴象一區。…²⁵清信女佛弟封令妃。造…²⁶一區。…²⁷清信女佛弟子封令妃。造…²⁸像一區。…²⁹清信女佛弟子封主…³⁰□造像一區。…³¹清信女佛弟子李敬…³²容。造像一區。…³³維大魏正光二…³⁴年十一月廿九日。合…³⁵造釋迦像十六…³⁶區。願令眷屬安隱。…³⁷無病長□所願。

三五、北魏蘇胡仁合邑十九人等造釋迦像記

正光六年八月廿五日

西曆五二五

正光六年歲次乙巳朔八月廿五日…²像主蘇胡仁。合邑十九人等。造釋加…³一區。仰爲 皇帝陛下。□邑子等…⁴復願。七世父母。所生父母。因緣眷屬。一時成仏。…⁵像主蘇胡仁。邑子劉老□□…⁶邑老劉維察。邑子劉歡□。…⁷邑老□□曜。邑子蘭噉鬼。…⁸邑老□□生。邑子王阿明。…⁹邑子劉桃松。邑子張苟仁。…¹⁰邑子□□奴。邑子載歡欣。…¹¹邑子蘇羅得。邑子劉貴洛。…¹²邑子郭阿興。邑子樂巍保。…¹³邑子郭白虎。邑子劉阿肆郎。

三六、北魏清信女黃法僧造無量壽像記

孝昌三年正月十五日

西曆五二七

夫三寶益潤。沾及存亡。…²是以清信女佛弟子黃法…³僧。爲亡妣。敬造无量壽…⁴像一區。願亡者生天。捨…⁵苦得樂。居家現□恒…

母造…多寶佛兩區在…窟。願亡父母離其…三徒八難。託生西
…方安樂之處。值…遇諸佛。恒與善因。

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

三三、北魏劉景和造釋迦像記 永熙二年三月一日

西曆五三二

1 大魏永熙二年歲次癸丑三〇…一日。清信士佛弟子劉景和…
爲亡父母敬造釋迦像一區。在〇…願亡父母託生天上安樂之
處。值…遇諸佛。造像以後。願因緣眷…屬有形之類。皆得成佛訖。

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

三三、北魏元〇等法儀廿餘人造石像記 永熙二年八月廿日

西曆五三二

1 夫水盡則影亡。〇〇嚮滅。娑羅現北首之期。負杖發…頽之
歎。物分〇〇理趣無爽。故憂填戀道。鑄眞金…靈容目連。〇
德。尅梅檀而圖聖像。違顏儻忽。尙…斯。況元〇〇於冥々
之中。生於千載之下。進…〇〇嶺初〇〇遇龍華寶駕。而不
豫殖微因。心…〇〇祈向。何以〇〇疆遠邀三會。樹因菩提者。必
資…於善友入海。〇〇珍者。亦憑導於〇〇師。故世王之愆…者
婆而曉。須〇〇之倒。假門神而悟。由此而言。自金…以還。未有〇
〇友而成者也。於此迭相獎勵。異心…照附。法儀之〇〇遂至廿餘
人。各竭已家珍。并勸一切…爲皇帝〇〇法界有形。敬造石像
一區。藉此微因…一切〇〇入智海。學窮首楞。究竟常果。大
誓…〇〇〇〇〇〇十方淨覺。見爲我證…永熙二年八月廿日。
造記。

〔校記〕 (一)沙碗ハ谷盈則 (二)沙碗ハ山 (三)沙碗ハ以前 (四)沙碗ハ以寫

龍門石刻錄錄文

(五)沙碗ハ慕 (六)沙碗ハ或如 (七)沙碗ハ〇等託 (八)沙碗ハ不值
(九)沙碗ハ軒退未 (一〇)沙碗ハ存 (一一)沙碗ハ拔此昏 (一二)沙碗ハ緣
(一三)沙碗ハ求 (一四)沙碗ハ水 (一五)沙碗ハ藉 (一六)沙碗ハ達 (一七)沙碗ハ
剛 (一八)沙碗ハ不須 (一九)沙碗ハ衆 (二〇)沙碗ハ仰 (二一)沙碗ハ令一切
含零悉 (二二)沙碗ハ莊嚴理无慮應

三三、北魏比丘道仙造弥勒像記 永熙三年四月十三日

西曆五三四

1 比丘道仙供養…弥勒像一勸。比丘…道仙敬造。仰爲…師僧父
母。兄弟…姊妹。眷屬。及法…界舍生。同生兜…率。面奉弥勒…寶
方寺…永熙三年歲在甲…寅四月十三日造。

三四、北齊造釋迦像記 天保八年十一月十日

西曆五五七

1 天保八年十一月十日、…造釋迦像一區。願法界衆生
、…覺。

三五、北齊比丘寶演造无量壽佛記

1 比丘寶演爲亡妹。造无量佛一區。供養仏時。

三六、北齊邑師僧寶鞏舍合邑廿二人等造石像記 武平六年三月〇日 西曆五七五

1 武平六年三月〇日。鞏舍合邑廿二人等敬…造石像一區。又願
七世父母。因緣眷屬。法…界〇〇生。同發菩提。普冬政覺。比丘僧慶
…比丘邑師僧寶。邑中正鞏舍。邑子陳樹…邑子朱養伯。
邑子李豐和。邑子鞏欄…邑子周義和。邑子蘇舍和。邑子
董副族…邑子張顯和。邑子李磚。邑子〇〇珍…邑子潘子
路。邑子騫〇〇。邑子〇〇德國…邑子趙羅侯。邑子車寶嚴。邑子
胡秀仁…邑子王道寶。邑子趙永。邑子王里仁…邑子王玉。

〔校記〕 (一)補正ニヨル (二)補正ハ衆 (三)補正ハ虎

二七七

三七、北齊遊達摩等造像記 武平六年十月十一日

西曆五七五

乾封元年七月十五日 西曆六六六

1 遊達摩... 2 侍佛時。伽... 3 皇甫紹... 4 晁普賢... 5 張雙虎...
6 武平六年十月十一日造。

1 乾封元年七月十五日。司州主... 事許大德并妻... 楊敬造彌
陀像... 一龕。及夫妻男... 郎。供養佛時。

三八、唐張世祖夫妻兒子等造像記 貞觀廿年三月二日

西曆六四六

〔校記〕 (一)砂碗ハ女

1 大唐貞觀廿... 年三月二日... 3 弟子張世祖... 4 夫妻兒子等... 5 先亡父母... 6 敬造尊像一... 7 堪上資皇... 8 帝下及倉生... 9 俱免蓋
纏同... 時作佛了。

三三、唐王尹農造阿彌陀像記 總章元年四月八日 西曆六六八
1 總章元年四月八日。王尹農... 爲合家眷屬大小敬造... 阿彌陀
像一龕。供養。

〔校記〕 (一)砂碗ハ爲

三九、唐周智沖造阿彌陀像記 永徽四年十月八日

西曆六五三

三四、唐清信女王玄藏造阿彌陀像記 總章元年六月 西曆六六八
1 清信女王玄藏爲... 亡夫朱景微造阿... 彌陀像一龕... 總章元
年六月造。

1 大唐永徽四... 年十月八日... 3 周智沖上爲... 4 皇帝敬造... 5 阿
彌陀像一... 軀。下保父母... 7 菊育之慈願... 8 合家眷屬離... 9 諸災
障。一切... 共同斯福。

三五、唐爲父母己身造像記 總章元年九月八日 西曆六六八
1 爲父母己... 身及法界敬造... 總章元年九月... 八日成就。

三〇、唐偃師縣... 郎楊... 造盧舍那像記 龍朔二年... 月... 日 西曆六六二

三六、唐王合造阿彌陀像記 總章元年九月八日 西曆六六八
1 王合爲妻... 患得差敬... 造彌陀像一... 龕。總章元年... 九月八
日。

1 大唐龍朔二年歲次壬戌... 2 四日。州偃師縣... 3 郎
楊... 亡考妣... 4 於龍門南... 5 舍那像... 6 一龕。今得...
弟妹等... 供養所願... 嚴考妣... 7 往生西方。復登淨土。法
界... 衆生咸同其福。...

三七、唐柳常柱造像記 總章元年 西曆六六八
1 柳常柱爲己... 身造像。總章... 元年... 常柱爲伽陀... 音造菩薩。

〔校記〕 (一)沙碗ハ文林郎ニ作ル

三一、唐... 神遠造像記 龍朔三年四月... 日

西曆六六三

三八、唐王无導造阿彌陀像記 總章元年 西曆六六八
1 王无導爲父... 母合家。及法界... 敬造彌陀像... 一龕。總章元年。

1 龍朔三年四月... 神遠... 父母...
... 鋪... 祚長隆。万安... 界衆生。共同因。

三九、唐龍豐倫造像記 垂拱二年五月八日 西曆六八六
1 垂拱二年五月八日... 龍豐倫爲亡父母... 及所生父母并諸...
眷屬願離苦解... 脫。並往生西方。

三二、唐司州主事許大德并妻楊氏造阿彌陀像記

三〇、周任智滿造阿彌陀地藏觀音像記 長壽二年四月廿三日 西曆六九三

一長壽二年...四月廿三日...任智滿爲...亡母敬造彌...陀像。地

藏菩...薩。觀音菩...薩。願亡母...往生西方。

三一、周孔思義造弥勒像記 萬歲通天元年五月廿三日 西曆六九六

一 大周萬歲通天元年五月廿三日。弟子...孔思義爲法界...倉生。及合家眷...屬。敬造弥勒尊...像。一鋪。願未離苦...者。願令離苦。未得...樂者。願令得樂。病...患者。願得早差。業...道。受苦。及怨家債主...悉願布施歡喜。速...得神生淨土。不具足者...並願具足。衆生普願...安樂。同發菩提。一時作...佛。

三二、周馬文妻董氏造弥勒像記 長安二年九月日 西曆七〇二

一 馬文妻董...造弥勒一區。一...心供養。長安二...年九月日。成就。

〔校記〕 (一)沙畹八敬

三三、周陝州芮城縣陳昌宗造阿彌陀像記 長安...年...月廿三日 西曆七〇一—四

一 長安...年...月廿三日...莊嚴成就...陝州芮城...縣。清信士弟子陳昌宗。爲七...母。造...阿彌陀一軀。永充...養。

〔校記〕 (一)補正八代 (二)補正八供

三四、唐張...妻裴氏造像記 先天二年五月日 西曆七一三

一 張...妻裴敬...造。先...天二年...五月日...辛酉六...月十、

三五、後梁李琮造觀世音菩薩記 乾化五年六月三日 西曆九一五

一 李琮。懷州獲嘉...續村人也。奉爲亡...過父母。造觀世...音菩薩。

龍門石刻錄錄文

願領...此功德。往生淨...土。見佛聞法。大...梁乾化五年乙...亥歲。六月三日記。

三六、王歡欣造釋迦像記

一 佛弟子王歡...欣。爲...阿姑...云未。造世...加一區。

〔校記〕 (一)砂畹八亡

三七、强弩將軍王歡欣兄弟等造釋迦像記 口年十月十八日

一、十月十八日。强弩...將軍王歡欣。兄...弟等。此感身苦。敬...造釋迦一區。爲七...世父母...弟員外將軍阿歡...弟藍川縣開國善歡...弟安康縣男小歡...妹除須...妻胡...元。須歡妻...杜洪須。

三八、蘇中遷造釋迦像記

一 造釋伽弟子...蘇中遷。爲...亡父見存...母爲家...眷屬。願...從心。

三九、比丘...造釋迦像記。比丘尼明...造佛像記。比丘尼法恩造佛像記

一 五月廿四日。比丘...七生所養。因...緣眷屬。造...釋迦文佛一區...願生...世...見...佛聞法。願...從心。

比丘尼明...爲...姊張阿婉...造佛一區。

比丘尼法恩...爲阿闍利。於...公和上。道...明...土阿...

...和上等。造佛...一堪。

四〇、朱顯愚造石窟弥勒像記

一 清信士佛弟子朱顯...愚。輒發心。爲國造石...窟弥勒像一區。上願。

二七九

4 朱家像*

三九、比丘惠鑒造无量壽佛記

1 比丘惠鑒。爲亡父母。造无受佛。願生无量受國。

三九、大統寺比丘道緣造无量壽像記

1 大統寺比丘道緣。爲己身眷屬。造无量壽像一區。願生々世々。
值佛聞法。一切含生。共同斯願。

三九、伊闕縣河晏鄉清信女王氏造阿彌陀像并二菩薩記

1 伊闕縣河晏鄉清信女王。爲亡女。敬造阿彌陀像一鋪。并二菩薩。願亡者往生西方。見存獲福。下及含生。共沾斯善。

三九、周行立妻聶氏男思恭造阿彌陀像記

1 周行立妻聶氏男思恭。願合家平安。敬造阿彌陀像三區。
普願常聞鐘磬。恒聞法音。一心共養。同登正覺。

三九、陳婆妳造彌陀像記

1 陳婆妳。造彌陀像一堪。

三九、福造阿彌陀像記

1 福敬造阿彌陀像一鋪。合家共養。

三九、汝州梁縣任大娘造阿彌陀像記

1 汝州梁縣任大娘。爲亡夫。造阿彌陀像一鋪。
省大造佛。

三九、前衛州司功參軍事裴沿造阿彌陀像記

1 前衛州司功參軍事裴沿。時年卅。三月廿八日。生發心。造一區阿彌陀像。所有罪業。厄難消除。合家平安。

三九、唐清信女六娘造救苦觀世音菩薩記

景龍四年三月

西曆七一〇

1 六娘。願合家平安。敬造救苦觀世音菩薩一軀。景龍四年三月。

6 觀音菩薩*

四〇、惠徹造觀音記

1 佛弟子惠徹。身差發願。敬造觀音一區。

四〇、姚祚造觀世音菩薩記

1 姚祚。願平安。敬造觀世音菩薩兩區。一心供養。

四〇、裴羅漢造地藏觀音十一面菩薩記

1 清信仏弟子裴羅漢。爲七父母。願身平安。敬造地藏觀音十一面菩薩各一軀。以斯功德。散霑法界衆生。咸同此福。

〔校記〕 (一)沙碗八張 (二)沙碗八代

四〇、趙二娘造菩薩記

1 弟子趙二娘。願平安。早赴家鄉。造菩薩一區。

四〇、比丘曇宗洪智等造像二菩薩記

1 比丘曇宗洪智等。業樹九恒子超難。清平、
、像二菩薩。仰願師僧父母。遍盡法界。所願從心。恒侍彌陀終身。常樂咸鍾斯福。銘記。

〔校記〕 (一)沙碗八牛

四〇、陳琬造像記

1 佛弟子陽軍陽左。督陳琬。仰爲父母。敬造一

…⁵區願、…⁶西方、…⁷受福願…⁸、

四六、生西方妙樂國造像記

¹生西方妙樂國…²杜。生生世世。見…³佛聞法。後願七、…⁴父母所
生父母、…⁵緣眷屬。普同、

四七、雍州鄂縣張阿僧妻呂氏造佛記

¹雍州鄂縣…²張阿僧…³妻呂。爲父…⁴母。願合…⁵家平安。…⁶敬造。仏
…⁷一鋪。

四八、王歡欣造像記

¹佛弟子王…²歡欣。爲亡…³父母。造像…⁴一區。

四九、郭九娘造佛記

¹郭九…²娘。爲…³娠身。…⁴敬造…⁵佛兩…⁶軀。

四〇、馬思賢造佛記

¹馬思賢…²敬造佛…³七軀。

四一、柳常住造像記

¹柳常住。爲…²生日。敬造。

四二、件六娘造像記 左行

¹件六娘。爲亡…²夫杜承近造。

四三、州萬年縣孟素及郭大娘造像記

¹州萬年縣孟…²素。及郭大娘。…³七代父母。見存父母。…⁴、

□□倉生。敬造、…⁵、七區。供養。

四四、比丘道濟造像記

¹比丘道濟。身患願差。造像一區。復願一切衆生。无患得成佛。

四五、張件郎造像記 左行

¹張件郎。爲七世父母。…²劉弘義。及身。敬造。

四六、楊大娘造像記

¹楊大娘。爲夫裴懷…²義患。敬造。

四七、崔元忘造像記

¹崔元忘。爲父母。…²爲父母造。一心供養…³、

四八、盧劉崇春造像記

¹盧□造仏一區。…²弟子劉崇春造。…³、

四九、子衛操造像記

¹子衛操。爲父母。…²、造供養。

四〇、高大娘造像記

¹弟子…²高大…³娘。爲…⁴父母。造。

四一、來日新造佛記

¹弟子來…²日新。爲…³七代先亡。…⁴造佛一區。

四二、邢自省造佛記

¹弟子邢…²自省。爲…³父母。造…⁴佛一區。

四三、洛州永昌縣興造像記

¹洛州永昌…²縣人□…³興。爲□…⁴□□□□…⁵□□□□

四四、趙慶造像記

¹趙慶。造。

四五、裴造佛記

¹裴□。敬造□…²仏七區。法界…³衆生。、、

四六 伊大道造像記

弟子伊…大道爲…父母敬…造。

四七 王慶造菩薩記

王慶敬…造菩薩一

四八 王仁楷造像記 王貴留造像記 仁知造像記

蒲州王仁楷爲亡父母敬造。

王貴留敬造。

仁知…敬造…一心供

四九 比丘僧癸田道義妻田元顯造像記

比丘僧癸仰爲一切造…石像一軀。

清信士田道義妻…迴香仰爲一切同造、

清信士田元顯仰爲一切同造像。

五〇 許仁信造佛記

許仁…信造…佛一…區爲…婆女…一切衆…生利…苦解…

悅得…成仏。

五一 楊崩造像記

楊崩造。

五二 文鄉仁妻餘歡造像記

文…鄉仁…妻…餘歡…敬造…區。

五三 周崔啓造像記 天授元年

天授元年…佛弟子崔…啓爲七…世父母…及見存…眷屬。

屬。

五四 國男慮雙題記

將軍…國男慮雙

五五 般若波羅密多心經 唐玄奘譯

觀自在菩薩行深般若波羅密多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。即是空。空即是色。受想行識。亦復如是。舍利子。諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空中无色。无受想行。无眼耳鼻舌身意。无色声香味触法。无眼界。乃至无意识界。无无明。亦无无明盡。乃至老死。亦无老死盡。无苦集滅道。无知亦无得。以无所得故。菩提埵。依般若波羅密多故。心无罣礙。无罣礙故。无有恐怖。遠離顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依般若波羅密多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅密多。是大神呪。是大明。是无上咒。是无等等呪。能除一切苦。眞實不虛故。說般若波羅密多呪。卽說呪曰。揭諦揭諦。波羅揭諦。波羅揭諦。波羅僧揭諦。菩提沙訶。多心經一卷。

〔校記〕 大正藏經本ヲ以ツテ校スルニ (一)是字ナシ (二)无ハ無ニ作ル以下同ジ (三)知ハ智ニ作ル (四)埵ノ上ニ薩ノ字アリ (五)若ノ下波ノ字アリ (六)諦ハ帝ニ作り以下同ジ但シ宋元明三本ハコレニ同ジ (七)波ノ字ハ般ニ作り以下同ジ宋元明三本ハコレニ同ジ (八)提ノ下ニ僧ノ字アリ (九)沙ハ莎ニ作ル

五六 般若波羅密多心經 唐玄奘譯

照見五蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。色卽

(四)仰報四恩四字ハ補正ニヨル (五)增悲二字ハ補正ニヨル
(六)補正ハ等 (七)提ハ補正ヨル (八)統ハ補正沙晚ニヨル

四三、東魏比丘惠相等造像記 天平四年八月十九日 西曆五三七

滅雙樹□□□唯留像□□□丘惠相□□□普
慧□□俗卅人率已單…誠造像供養藉…此微因資益七世
…父母□□衆生早…登正覺…天平四年八月十九日。

[校記] (一)滅樹二字ハ沙晚ニヨル (二)沙晚ハ道 (三)□□ノ二字沙晚ハ一切

四四、唐明相摠持造七佛二菩薩像記 貞觀十二年□月廿六日 西曆六三八

大唐貞觀十二年…□月廿六日明相…摠持□敬造七佛…二
菩薩同資法界…含識俱登正覺。

四五、唐左文福題記 永徽四年正月二日 西曆六五三

永徽四年…正月二日…左文福爲…二男寬見。

四六、唐洛陽縣登思孝等造釋迦石像記 永徽五年五月五日 西曆六五四

大唐永徽五年五月五日…洛陽縣登思孝思信…思義思端等
爲母梁及…亡父過去見存眷屬敬…造釋迦石像一龕即日…
成就銘曰 赫矣神…儀妙哉玄法光濟恒沙…露霑塵劫仰
憑實相勒…此山隅津通八水安步…三車日往月來彫章易…
固茲泉石天長地久。

[校記] (一)五月五ハ劉錄ニヨル (二)思端等三字 (三)露一字ハトモニ沙

晚ニヨル

四七、唐雍州鄠縣劉弘義造像記 顯慶四年八月一日 西曆六五九

大唐顯慶四年歲次己未八月己卯…朔雍州鄠縣人朝散郎前
行趙州象…城縣丞輕車都尉劉弘義爲亡妣練氏…敬造像一

龍門石刻錄錄文

鋪願此功德救七代先亡父母…諸眷屬并一切衆生等地獄苦
厄。

四八、唐偃師縣楊君植造阿彌陀救苦觀音像記 顯慶五年七月廿日 西曆六六〇

大唐顯慶五年歲次庚申七月廿日洛…州偃師縣鳳篠鄉禦侮
副尉楊君植爲…妻蕭五月十一日亡於龍門敬善寺南…敬造
阿彌陀像一龕夫□及男女等供…養此日並德成就又於龕上
爲身造救…苦觀音菩薩二軀所願先代父母往生…淨土見存
眷屬皆得平安上爲…皇帝下及蒼生有識含靈俱同此
福…人主从月 八月十日書。

[校記] (一)人主从月ノ四字ハ後刻ナルベシ

四九、唐紀王典衛王行寶造觀音像記 顯慶五年四月廿日 西曆六六〇

竊聞□典選□□□之難觀音正念五道歸真…有識欲
恩專心正發行寶…今因之任得遇眞容上爲…皇帝諸王下爲
父母眷屬…敬造觀世音菩薩一區伏…願他鄉仕庶早得□寧
一切行人平安孝養…大唐顯慶五年四月廿日…雍
州醴泉紀王典衛太原…晉陽人王行寶奉爲見存…父閻仁母
楊氏敬造…妻戴氏費氏男元慶承…慶同慶遠慶等一
心供養。

[校記] (一)沙晚ハ歸

五〇、唐趙玄慶造像記 顯慶五年正月四日 西曆六六〇

顯慶五年…正月四日陪…校尉直內…者趙玄慶…爲一
切衆…生七世父母…所生父母…妻王男…師利男…師度男

二八五

…¹¹師、

〔校記〕 (一)大村ハ内侍

四三、唐劉□造阿弥陀佛像記 顯慶五年二月十日

西曆六六〇

¹顯慶五年二月十日。劉、…²於趙客師龕內。敬造阿弥陀…³佛像一軀。并二菩薩。二聖僧。…⁴師子香爐。□□供養。仏弟子…⁵頃想形由逝水。□類煙雲。遂…⁶仰□慈顏。冀□□祐。乃鑄山…⁷琢玉。瑩□眞容。相好既殊。奇…⁸功成就。□願 皇家永…⁹固。藉此壯嚴。下及法界含生。…¹⁰俱登正覺。妻張婆。及男女供養。

〔校記〕 (一)コノ一行補正ニヨル (二)イマ太ノ字ニナルモ後人ノ加刻ナリ

(三)皇ハ補正ニヨル

四四、唐劉典豐造阿弥陀像記 顯慶□年七月卅日

西曆六五六—六六一

¹長安縣張道…²家人劉典豐…³敬造阿弥陀…⁴像。顯慶□年七月…⁵卅日。

四五、唐李玄弈兄弟造阿弥陀像記 龍朔元年三月八日

西曆六六一

¹龍朔元年三月八…²日。李玄弈兄弟等…³爲亡父。敬造阿弥…⁴陀像一龕。

四六、唐懷阿稜造像記 龍朔元年

西曆六六一

¹龍朔元年。懷阿稜爲父母。造。

四七、唐張婆供養記 龍朔元年九月廿三日

西曆六六一

¹龍朔元年九月廿三日。佛…²弟子張婆。供養佛。

四八、唐柳母造阿弥陀像記。柳妻任氏造觀音像記 龍朔三年

西曆六六三

¹龍朔三年五月、…²□□柳母。爲亡□。

³、造阿弥陀像一□。…⁴龍朔三年十一月、…⁵佛弟子柳□妻任□…⁶、造觀音菩、

⁷龍朔三年、…⁸子、…⁹、…、

四九、唐淨□造像記 龍朔二年

西曆六六二

¹大唐龍朔二□、…²女淨□□□□、…³或於今生。乃至先□…⁴崇。所爲罪障。今爲身□…⁵□□子、…、…、⁶、…、道、…⁷、…、功、上…⁸、下、…、母、

〔校記〕 (一)補正ハ稽首 (二)補正ハ去 (三)以下補正ニヨリ補フ

五〇、唐法藏造阿弥陀像記 乾封二年四月十五日

西曆六六七

¹法藏爲父母。兄…²弟姊妹。又爲…³勝蠻。敬造弥…⁴陀像一龕。乾、…⁵封二年四月十…⁶五日。

〔校記〕 (一)沙腕ニヨル

五一、大周韋瓊造像記 長壽□年

西曆六九二—六九三

¹伏□□弟子通□□□□之所造也。弟子以大周長壽□□□□²圖□□也。過此千□□□□廻嶺。徽駐征鯨於淨境…³、於逆、…、慈航、…、月□□輕軒□□汲□之恩。敢易歸…⁴、…、雖□□之念無□□寂□□莫□□、…、遂造…⁶成□申□子之情□□□容、…、

〔校記〕 表題ハ關表ニヨル

五二、北魏陽烈將軍樊道德造釋迦像記 永熙二年七月十日

西曆五三三

永熙二年七月十日。清信士佛弟子。陽烈將軍羽林。鑿太
官丞樊道。德爲忘妻張造。釋加像一區。友師。忘者。神生靜
杜。值。遇諸佛。現在眷屬。常與善居。願。從心。

〔校記〕 (一)永熙 (二)陽 (三)鑿ハミナ補正ニヨル

四三、張七娘造釋迦牟尼佛記。太原王訓造觀世音記

南陽郡張七娘。爲男岳奴。釋迦牟尼。太原王訓。爲
母善。願。敬造觀世音。

四四、陽信令元。造釋迦像記

竊以宣尼闡法。纔究仁義之塗。壯叟寓言。盛述玄虛之理。莫不事
□身跡之內。未窮生滅之源。豈若大聖立規。威神廣運。愍火宅
居之炎。燎飛轡。高驤濟苦海之波瀾。揚鱸直。翥昏塗。翔其慧炬。
眞際。陰以法雲。作人天之福田。爲羣生之良藥。自鶴林晦影。鷲
嶺淪光。構玉臺以日麗。範金容而月滿。咸起歸依。心競申虔。
仰之心。希有。於卽虛。冀無生於寂滅。超出塵累。其在茲乎。
棗州陽信縣令元。喪。所怙。具尔孔懷。既而藤鼠遽催。隙
駒易度。往。囑上柱國。承。而盡零。天星爛而霄墜。悲深
析羽。廣樹勝。因爲金石無虧。丹青有。昧。遂於伊闕。敬作釋迦
石像。一龕。却背崇山。還同雪。臨伊水。卽。類聲池。似出龍宮。
如遊鹿苑。昏。開夏。將。振玉之音。目淨秋。已。橫波之睇。
靈相圓滿。侍衛駢羅。天衣舉而風生。梵音揚而雷動。沙塵可化。
妙色常在。勒。玄石。庶傳不朽。其詞曰。猗歟正覺。皇矣能仁。弘
宣妙旨。廣樹良因。光飛慧日。潤蔭慈雲。每。庶類。咸達至眞。

爰有達人。虔心構想。雕鏤妙相。日。曜。雲
歸依。仰暉容。外。神儀內。所。空。
潛通。八解永證三空。

〔校記〕 (一)竊宣尼闡ノ四字ハ補正ヲ以テ補フ (二)事ノ二字沙畹ハ專求

ニ作ル (三)沙畹ハ早 (四)補正ハ玉ニ作ルモ非ナリ (五)沙畹ハ暖

(六)飛 (七)達 (八)相 (九)曜 (一〇)歸依 (一一)暉容 (一二)八解永證三空ハ

ミナ補正ニヨル

四五、比丘尼道貞造釋迦像記。四年四月十二日

比丘尼道貞。爲忘父母。七世。父母己身。并及。眷。造釋加
像。一區。願以生西。方妙樂國土。居所願如是。四年四月十二日。訖。

〔校記〕 (一)眷ノ二字沙畹ハ有識

四六、淨土寺主僧法師造弥勒像并二菩薩記

僧法師石龕弥勒像讚。蓋聞法性希微。理超言象。慈悲示現。
事極莊嚴。所以調御。人天。汲引。庶。眷言弘益。悉。難具紀。淨
土寺主。僧法師。道。性凝遠。沖規。戒行水潔。慧。訓川流。敬
詣茲山。式圖靈妙。造弥勒像。并二菩薩。相好。暉。似初成於
道樹。夾侍齊。若始會於華林。斯乃卽石。堅固之身。因
留常住之。法師先造弥勒。又鑄弥勒。宮樂國。咸啓淨心。
壽佛。瞻妙。而身無兩。一緣合集。稱量廻歸。
遵願旨。無或焉。稽。乃爲頌曰。妙門崇寂。
寶相希夷。高。行。或。靈姿。神。踊。花。跌下。座啓
峯蓮。開。疑從。嶺。似降。尋光滲。日。丈室。空。

□相東刊。□…²³□西記。福流□部。魂歸妙樂。

〔校記〕 (一)補正ハ羌 (二)補正ハ峻 (三)沙碗ニヨル (四)補正ニヨル

(五)補正ニヨル (六)補正ニヨル

四七、迪國王母□□造弥勒像記

1 迪國王母□□爲道王元慶□□□□禮。心中憂悴。恐有灾
鄣。仰憑三寶。請□□護。蒙佛慈恩。内外平善。敬造弥勒像一軀。
…⁴以報大聖。上資 皇帝。下及含生。同出苦…⁵門。俱登正覺。

四八、南中府主簿造弥勒像記 四月廿三日

1 四月廿三日。…²南中府主…³簿、…⁴仰爲父母…⁵師僧。法界
…⁶衆生。敬造…⁷弥勒尊…⁸像一區。願…⁹此善普津。…¹⁰咸登正…¹¹覺。

四九、陳荆解造弥勒像記

1 陳荆…²解。造…³弥勒…⁴一區。

四〇、州河東縣董法素造弥勒像記

1 □州河東縣…²子董法素…³□ 皇帝。下…⁴先亡。并見存…⁵家。
口。敬造弥勒…⁶陀像一龕。

四一、佛弟子吳善胤造阿弥陀像記

1 佛弟子吳善…²胤。敬造阿弥…³陀像一龕。

四二、何早妻王氏造藥王阿弥陀像記

1 □何早妻王…²氏。爲身、…³藥王。身患今得□…⁴敬造阿弥陀像。

四三、龐守一造觀世音菩薩像記

1 龐守一。造觀世音菩…²薩像。願平安。

四四、清信女馬大娘造觀音菩薩記

1 清信女馬…²大娘。□…³行而敬造…⁴觀音菩薩…⁵一堪。□□…⁶□

□二月…⁷、

四五、石行果妻王氏造救苦觀音記

1 石行果妻王…²氏。爲男四兒…³身患。今得除預。願造…⁴救苦觀音一區。

四六、張慶宗造地藏菩薩記

1 弟子張慶宗…²爲所生父母。造…³地藏菩薩一…⁴區。合家供養。

〔校記〕 (一)宗ハ補正ニヨル。沙碗ハ菴

四七、造二菩薩記

1 、、、…²蒼生。造二…³菩薩。妻□…⁴及男閣□…⁵道隣□…⁶客
子。供…⁷養。

□造佛時。

四八、義味造菩薩記

1 義味。造菩薩二區。

四九、趙婆造優填王像記

1 趙婆。爲身及七代…²父母。一切法界。蒼生。…³造優填王像一區。

四〇、景福寺尼淨命造優填王像記

1 景福寺尼…²淨命。爲□…³□。敬造…⁴優填王像。

四一、清信女王氏造像記

1 清信…²女王。爲…³七世父…⁴母。及見…⁵存眷…⁶屬。造。

四二、太子通事舍人郝□造阿弥陀像記

1 太子通事舍…²人郝□。敬造…³阿弥陀像一區。

四三、八月十日等記

1 八月十、…2 九月十、

四四 □□錄事李伏□等題名

1 □□□□錄事李伏…2、阿張寶□。胡智倫…3、有相。張靜滿齋□

□…4、音辛客子。王三娘…5、耶楊穀降。馬玄國…6、師竭。石籠。司

馬婆…7、石生□兒□婆。王母…8、馬洽度。張孝…9、奴。寵老婁。張

〔校記〕 (一)補正ハ推官董才ニ作ル

四五 □國要劉爲興願記

1 □□國要劉爲興願

四六 吉婆造像記 橫書

1 吉婆造。

四七 殷朋先造像記

1 殷朋先爲康胡七人墜…2惡捺佛。願造像□、

四八 大唐造阿彌陀二菩薩記 五月廿日

1 大唐之碑(碑類ニ)…2、…3、…4、

、願□、…5救□□□、…6及□□□□□□□□阿

彌陀之像、…7具二菩薩相□□陳□、…8藉此莊嚴□、

、…□□、五月廿日。

四九 沈舍裕造像記

1 沈舍裕爲、…2父母合家大小…3一切法介倉生…4怖同善、

、…5供養。

〔校記〕 (一)補正ニヨル

五〇—五三 造像記四種 磨滅シテ讀メズ

龍門石刻錄錄文

五四 □□監丞尙□閣造像記

1、…監丞尙□閣、…2、州長史悉、生見、威、

…3、…4安□、…□□合家、

五五 □州錄事□□懷題記

1 □州錄事…2、懷。

五六 郭文雅題記

1 郭文雅。

五七 夫制益妻文素題記

1 夫制益…2妻文素。

五八 供佛彼光題記

1 □供…2佛…3彼光…4大…5光□

五九 比丘尼淨命等造像記

1 尼淨…2命造。

3 尼淨…4造。

5 尼淨…6衛造。

〔校記〕 (一)劉錄ハ香 (二)關表劉錄ハ偉

六〇 尼脩行等造像記

1 尼□…2造。

3 尼脩…4行造。

六一 李二娘造觀音菩薩記

1、…2敬造觀音菩薩一龕供養…3願蒙降

茫受及妻李二…4娘敬造觀音菩薩一龕。

〔校記〕 第一、第二行ハ補正ニヨル、大村ハ第一、第二行ノ間ニナホ磨滅セル行アリ

五五、唐清信女朱主年造阿弥陀像記 永徽元年正月廿三日 西曆六五〇

1 大唐永徽元年正月廿三日。清信女朱主年。□□老蒙□勅吏。帛。今造阿弥陀像一龕。敬酬慈澤。□□上資。皇帝下親。群生同出苦門。咸登彼岸。

〔校記〕 (一)資 (二)同ハ補正ニヨル、末尾ナホ二行アル如キモ不明

五七、唐王寶英妻張氏造救苦觀音菩薩像記 永徽二年四月八日 西曆六五一

1 永徽二年四月八日。弟子王寶英妻張氏。爲過去亡女有相。造救苦觀音菩薩像一軀。願亡女上品往生。現存眷屬常保□□。法界□生。離苦□□。

〔校記〕 (一)補正ハ三 (二)補正ニ從フ (三)補正ハ歸、沙晚ハ解

五八、唐王貴和題記 永徽二年 西曆六五一

1 永徽二年、子王貴和、七世父母兄□□切法界□□屬等□□苦解脫、

五九、唐清信女趙善勝造救苦觀世音記 永徽三年八月廿七日 西曆六五二

1 佛弟子清信女趙善勝。敬造救苦觀世音菩薩一軀。願法界含生悉令解脫。迴向善提。俱登正覺。永徽三年八月廿七日記。

六〇、唐楊行□妻王氏造釋迦像記 永徽三年四月 西曆六五二

1 佛弟子楊行□妻王。爲慈母劉氏。敬造釋迦像一軀。願慈佛□□法力□安。常令□□永徽三年四月□□功訖。

六一、唐王師亮造阿弥陀像記 永徽四年八月十日 西曆六五三

1 永徽四年八月十日。王師亮爲兄。造阿弥陀像一軀。

六二、唐造阿弥陀佛菩薩記 永徽五年五月 西曆六五四

1、敬造阿弥陀、區并一菩薩、永徽五年五月日造。

田暎造。(書)

六三、唐□合家造阿弥陀像記 永徽四年七月五日 西曆六五三

1 □唐永徽四年七月五日。合家、仰今造阿弥陀像一龕。敬酬慈澤。斯乃上□皇帝下拯郡生。同出苦□。濟登彼岸。

六四、唐田□造像記 永徽□年□六日 西曆六五〇—六五五

1 永徽□年□六日。田□爲身□□家眷屬□□願含靈□□永除□□七生供養。

六五、唐相原府校尉柱□宮士安造救苦觀音菩薩記 顯慶二年十月廿六日 西曆六五七

1 華州蒲城縣相原府校尉柱□宮士安。普爲蒼生。存亡父及諸眷屬。乞願平安。敬造救苦觀音菩薩一軀。幸斯因上資。帝主下潤群生。同出苦門。齊登彼岸。顯慶二年十月廿六日。刊留銘記。

〔校記〕 (一)補正ニヨル (二)宮士安ハ補正ニヨル、大村ハ國長上王ニ作リ、

沙晚ハ□□王婆ニ作ル (三)沙晚ハ母 (四)補正ニヨル (五)補正ニヨル

合搗。如彈丸。綿裹常含咽汁。差爲度。法又參從項大推下。至第五節。上穴間療心痛方。生油半合。溫服。又方。當歸末。方寸匕。和酒服。又隨年壯冷心痛。吳茱萸一升。桂心兩。當歸兩。搗末。蜜和。丸如梧子。酒服。□丸日再。漸加卅丸。以知爲度。又方。丁香七枚。頭髮灰一棗大。並末。和酒服。又蝮心痛。取蝮蟻糞。燒令赤。末之。酒服。又方。取糝湯一升。服。並驗。又灸法。從項推骨數下。至第七節。上灸卅壯。又灸心下二七寸壯。療消渴方。頓服烏麻油一升。神驗。又方。古屋上瓦。打碎。一斗五升。水二斗。煮四五沸。服。又方。黃芩根黃連等分。搗末。蜜和。丸如梧子。食後服十丸。以差爲度。療卒遍身生疱方。初覺欲生。卽灸兩手外研骨正尖頭。隨年壯。卽取石黛方寸七。冷水一升。和服。又方。猪肉煮令熟。切取。芒消一錢。和服。癩并滅又方。桃枝葉煮湯洗。并滅癩。又方。黍米一合。淨洗。經宿。露中平旦。以水一升。研。半服。半遜。瘡並驗。療五痔方。五月五日。取蒼耳莖葉陰干。搗末。水服三方匕。三日差乃止。又方。牛角鰓。燒末。和酒服。方寸匕。日三。秘驗。又方。常服蒲黃。方寸匕。日三。良。療丁瘡方。柳枝葉一大束。長三尺四尺圍。剉水七斗。煮卅沸。去滓。煎如餲。刺破塗。驗。又方。鬼繖形如地菌。多生糞。見日消黑者。取燒作灰。以針刺瘡。四畔至痛際。作孔內藥。孔中再著。經宿瘡發。以鉗拔。根出。大良。又方。先灸瘡三壯。以鍾乳爲末。和醬粒。和搗拊。須臾。拔根。驗。療反花瘡方。前柳枝葉。如餲。塗良。又方。燒馬齒草。灰拊。又方。塩米灰拊。並驗。療金瘡方。嚼生栗黃拊之。不疼痛。又方。石灰和猪脂。燒令赤。搗末塗。又方。地菘搗塗。療瘡腫風入垂死方。血出不

止者。搗生葱白。人口更嚼。封上。初痛後痒。痒定。更封。不過七反。差。又方。酢澱。麩酒糟。塩椒。摠熬令熱。以布裹。熨瘡。冷易。又方。凡瘡中風。水腫疼痛。皆取青葱葉。及干黃葉。和煮。作湯。熱浸。良。療瘡方。煮楸枝葉。取汁。煎令稠塗。又方。牛新糞。熱塗。又方。巴豆去皮。和艾作炷。灸瘡。又方。石留黃末。置瘡上。以艾灸。又方。內瘦。取槐白皮十兩。搗丸。綿裹。內下部。療惡刺方。槐白皮。煮湯漬。又方。消膠和油。沙塗。又方。以酢二置。冰口中。取熱。糖灰一投。之以被刺處。內大口中。燻之。勿令著。酢。卽以衣擁。口。勿使氣泄。又方。人參一兩。龍葵根。淨洗。取皮一把。藹月猪脂。酢少許。和搗拊。數換。虫出。卽鉗拔。去。並驗。療被風入身。角弓反張。及婦人中風方。烏豆二升。熬令黑。酒三升。內鐺中。急攪。以絹瀘。頓服。取汗。不過三劑。極重。加雞糞一合。和。開者。拗。灌良。又方。苦竹瀝。隨多少服。療上氣睡膿四方。灸兩乳下黑白際。各百。陽明穴。穴在足趺上三寸動脈處。二七壯。又灸臍下一寸。百壯

〔校記〕 (一)氣咳嗽腹ハ萃編ニヨル (二)楸葉ハ萃編ニヨル (三)煮世ハ萃編ニヨル (四)煮州ナルベシ (五)愈ハ萃編ニヨル (六)人ハ萃編ニヨル (七)方生ハ萃編ニヨル (八)服ハ萃編ニヨル (九)服ハ萃編ニヨル (一〇)壯良ハ萃編ニヨル (一一)下ノ字以下萃編ニヨル

D

療癰方。大黃兩。搗末。酢。堪丸。丸如梧子。一服卅。五十壯。又近心。第三肋端灸。療失音不語方。取乳醬汁等分。服。二升。又方。青

方破如、…九莖烏豆升二水升八煮含、…熟去滓取汁灌四不開以竹…灌鼻。又方。桂人髮灰等、…裹含咽汁。良並療波、…十出不止方。取大、…十一血卽斷。斷後搗、…十二驢糞炮煨並斷、…十三不隨方。麥麩末、…十四氈上盛踏上、…

〔校記〕 (一)語字以下七字 (二)方字以下 (三)水字以下 (四)灌字以下 (五)人

字以下 (六)療字以下 (七)大字以下 (八)搗字以下 (九)斷字以下

(一〇)末字以下 (一一)上字以下ミナ補正ニヨル

E

療溫疫方。方。猪母糞二升。人尿二升。和絞取一升。頓服。覆取汁。驗。又方。常以正月上卯日。取牛羊馬雞猪人狗七種糞。等分燒末。并華水服。方寸匕。日三。療惡疰入。方。獨顆蒜。頭書墨如柰大。並搗以醬汁和服。差。又方。雄黃兩三染匙三大酢升九五月五日。糠火上煎。一復時。一服。一丸。丸如小豆。蛇蝎蜚塗。並差。方。紫。方。四頭竈底黃土。等分搗。合和頓服。又方。宿疰多年。人髮一握。燒灰。桃人三七枚。皮去尖搗。小兒尿一升。和頓服。又方。驢糞水絞汁一升。服。並良。鹽。唾水。者是巴豆。釜底墨方寸匕。合搗。分三丸。服一丸。卽下。不下更服。又方。胡荽根葉。搗汁半升。頓服。立下。又方。皂莢三挺。去。黃內等方。大黃兩三鹿切升水二漬一宿。平旦絞汁一升。半。內芒消。攪消。頓服。須臾。快利。差。又。猪母糞。以水

五升。絞取汁一升。頓服。覆取汗。驗。又灸兩手小指端七壯。黃雄黃。細辛。鐵生。並。差。立驗。又方。練礬石。桂。徐長卿。各一兩。搗塗。又方。文蛤。燒作灰。和藹月脂塗。人畜並驗。又方。新。楊樹東南枝。去蒼護。風。細削五升。熬令黃。如。酒五升。淋訖。卽以絹帛盛滓。還內酒中。密封再宿。每服。一合。熱煮以瓮。近下鑽。蔚鼻草。搗汁服。雞子。以滓封腫。暖卽易。良。又方。大黃。石灰。小豆。等分末。白酒和塗。又方。火草一。搗。水和。又方。鯉魚鱗。燒灰。酢和塗。並驗。又方。隨所患邊。灸肩節縫上。二十又方。鯉魚鱗。燒灰。酢和塗。又火游。腫赤者。是大黃。慎。豆。水。一。療遍身洪。穀楮細。石。煮取一斗。去滓別煎。取三升。分三服。平旦。午時。夜半。皆空腹暖服。驗。又方。粘鼠。草子兩抄。使嚼。方。若腫。殺。人。取小豆一石。煮令極爛。取汁四五斗。溫漬。膝。已下。日。漬。若已入腹。但服小豆。慎勿雜食。良。又方。穰。水。煮。一。丸。如胡豆。服二丸。當小便下。下後作小豆羹飯食。慎勿飲水。良神又方。烏牛尿。每服一合。又方。取。菜。服。良。大便不。以葦筒一頭。內膽中。繫一頭。內下部中灌。立下。羊。 …

1 始平公像一區(題額二行各三字)

2 夫靈蹤非啓。則攀宗靡尋。容像不陳。則崇之必□。是□□。以真顏□。於上齡。遺形敷于下葉。暨于大代。茲功厥□。作比丘慧成。自以影濯玄流。邀逢昌運。率渴誠心。爲□。國造石窟□。糸答皇恩。有資來業。父使持節。光□。大夫洛州刺史始平公奄焉。薨。放仰慈顏。以摧躬□。匪烏在□。遂爲亡父造石像一區。願亡父神飛三□。智周十地。□。玄照則萬□。斯明震慧。嚮則大千斯□。元世師僧。父母眷屬。鳳翥道場。鸞騰兜率。若悟洛人□。間三槐獨秀。九棘雲敷。五有群生。咸同斯願。太和廿二年九月十四日訖。朱義章書。孟達文。

[校記] (一)大村沙碗補正ニヨル (二)萃編沙碗大村ニヨル (三)萃編沙碗大村ニヨル (四)補正ニヨル (五)鳳翥ハ萃編沙碗大村ニヨル (六)萃編沙碗大村ニヨル

編沙碗大村ニヨル

癸(一)北魏北海王元詳造像記 太和廿二年九月廿三日

西曆四九八

1 維太和之十八年十二月十一日。皇帝親御。六旌。南伐蕭逆。軍國二容。別於洛汭。行留兩晉。分於闕外。太妃以聖善之規。戒途戎旅。弟子。以資孝之心。戈言奉淚。其日太妃還家。伊川立。願。母子平安。造弥勒像一區。以置於此。至廿二年九月廿三日。法容尅就。因即造齋。鑄石表心。奉申前志。永願。母子。長。復。化。年。眷屬。內外。終始。榮期。一切。群生。咸同其福。

維太魏太和廿二年九月廿三日。侍中護軍將軍北海王元詳造。

癸(一)北魏遊激校尉司馬解伯達造弥勒像記 太和年

西曆四九五—四九九

龍門石刻錄錄文

1 都縮關口遊。激校尉司馬。解伯達。造弥勒像一區。願。皇道赫寧。九。荒沾泯。父母康。延智。登。十地。仕達。日。遷。眷屬道場。聲求嚮和。斯。福必就。六趣。群生。咸同此。願。太和年造。

癸(一)北魏護軍長史雲陽伯鄭長猷等造弥勒像四軀記

景明二年九月三日

西曆五〇一

1 前。太守護軍長史雲陽伯。長猷。爲亡父敬造弥勒像一軀。一軀鄭長猷。爲母皇甫敬造弥勒像一軀。一軀鄭南陽妾陳王女。爲亡母。徐敬造弥勒像一軀。景明二年九月三日。誠訖。

癸(一)北魏孫秋生等二百人造像記 景明三年五月廿七日

西曆五〇二

1 邑子像(題額)

2 邑主中散大夫。榮陽太守孫道務。(題額)

4 寧遠將軍中散大夫。夫頴川太守安城。令衛白犢。(題額)

7 大代太和七年。新城縣。功曹孫秋生。新城縣功。曹劉起祖。二百人等。敬造石像一區。願國祚。永隆。三寶。彌顯。有願。弟子。等。榮茂春葩。庭槐獨。秀。蘭櫛。鼓馥。於昌年。金。暉。誕。照。於聖歲。現世眷。屬。萬福。雲歸。洙輪。疊。駕。元世父母。及弟子等。來。身。神騰。九空。迹登。十地。五道。群生。咸同此願。孟廣達文。蕭顯慶書。

7a 唯那程道起。孫龍保。衛舊爾。孫祖德。衛辰。劉俱。韓買。賈念。趙。高雙。高後進。唯那夏侯文德。孫洪龍。王洪哲。孫洪保。夏侯文度。

二九九

王洛州張龍鳳董洪路王醜…唯那高伯生劉念祖程萬宗衛榮
 方樊虎子王□生和龍度邊伯熾諸葛願德…唯那孫鳳起夏侯
 文成劉靈鳳楊伯醜衛天念衛靈虯韓椽生賈款子賈萬壽…唯
 那吳靈劉曇樂夏侯三郎王樂祖劉仲起高叔齊寇祖昕輩山
 國趙道榮…唯那王承郭毛胡孫頑孫豐書衛國標高□紹馬
 伯遺高珝保方豫州張花…唯那賈道柱孫鐵懃孫道高珝國孫
 陽高天保高彖王天愛楊始宗高念孫策…唯那馮靈恭李定趙
 龍標魏靈助魯伏敬郭靈淵董雀王洛都董萬度李文檀…唯那
 傳定香孫豹孫龍起吳龍震吳仲孫萬洛州尹文遠田文安毛洪
 秀楊方…唯那衛方意孫天敬趙光祖姜龍起姜清龍趙天俱楊
 榮祖趙珝佰諸葛磨介…唯那朱法興司馬雙張顯明倉景珝王
 文才陶靈珝陶晉國許靈壽王拔張雙…唯那董光祖衛僧顯劉
 洪慶高及祖李虎子录祖憐趙醜奴王龍起王雙劉洛…唯那孫
 侯伯孫壽之孫石荷道成杜萬歲趙祖歡宋小才張萬度劉道義
 宋俱…唯那朱安盛上菅犁上官毛郎衛勝賈苟生麻黑奴賈龍
 淵賈雙王董伯壽一…唯那來祖香解延傷董伯初景明三年
 歲在壬午五月戊子朔廿七日造訖。

〔校記〕

(一)大村ハ昭 (二)毛ノ字大村ハマ、補正ハ老ニ作ル殆下非ナリ、
 (三)豹ノ字不詳萃編ハマ、大村ハ狗ニ作ル (四)萃編大村ニヨル
 (五)萃編大村ハ毛ニ作ル非ナリ (六)香解ノ二字ハ萃編大村ニヨル

五四 北魏比丘惠感造弥勒像記并比丘法寧造石像記

景明三年五月卅日

西曆五〇二

1 景明三年五月卅日比丘…惠感爲亡父…母敬造弥勒…像

一區願國…祚永隆三…寶弥顯…廣劫師僧父…母眷屬與三
 …塗永乖福鍾…競集三有群…生咸同此願…比丘法寧爲亡
 父…母造石像一區。

五五 北魏高樹解伯都等卅二人造石像記

景明三年五月卅日

西曆五〇二

1 景明三年五月卅日邑主高樹唯那…解伯都卅二人等造石像
 一區願元世…父母及現世眷屬來身神騰九空迹…登十地三
 有同願高買奴高惡子…王僧寶夏侯林宗高留祖魏洪度高…
 乞德高文成左芝高安都高楚之高…郎胡司馬保解伯勳高文
 紹高天保…辛英芝蓋定王張定光高南征高曇…保高副高洛
 珝揚洪佰高思順鄧通…生高珝保孫山起薛文達高天生。

五六 北魏趙雙哲造像記

景明三年五月卅日

西曆五〇二

1 景明三年五月…卅日佛弟子趙…雙哲□母輔恒…敬□□像
 一區…父母及…身…登…
 …、…、生。

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

五七 北魏尹愛姜等廿一人造石弥勒像記

景明三年六月廿三日

西曆五〇二

1 婦女 (額題)

景明三年六月廿三日比丘尼蘇□子唯那…尹愛姜唯那張雙
 □□□妙婆王容王午…好揚醜姜郭容劉豐王密盛轉好王
 足趙尹娥…容鄭栳胡歎鄉尹醜安尹醜安程曇妙尹顯安…尹
 陵姜等廿一人各爲七世父母所生眷屬亡者生天…生者福德
 敬造石弥勒一區普爲終生咸同此願。

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

五八、北魏廣川王祖母太妃侯造弥勒像記 景明三年八月十八日 西曆五〇二

1 景明三年八月十八日廣川王祖母太妃侯爲亡夫侍中使持節征北大將軍廣川王賀蘭汗造弥勒像願令永絕苦因速成正覺

五九、北魏邑主馬振拜等卅四人造石像記 景明四年八月五日 西曆五〇三

1 邑子像 (額題)

2 景明四年八月五日邑主馬振拜維那張成維那許興族卅四人爲皇帝造石像一區張引興劉苟生陳野虎孟遊天元起陳興族張伏俱陳顯光陳神歡袁世標路天副路買吳永洛馬常興張天生張文安董定貴董道歡路平高羅始龍馬勾郎董神扶梁歸禧陽成遵敬任買德陳延達張歡禧陽宗勝孟張董陳樂歡

五〇、北魏廣川王祖母太妃侯造弥勒像記 景明四年十月七日 西曆五〇三

1 景明四年十月七日廣川王祖母太妃侯自以流歷弥劫於法喻遠囑遇像教身乖達士雖奉聯紫暉早頃片體孤育幼孫以紹蕃國永薄之心唯歸真寂今造弥勒像一區願此微因資潤神識現身永康朗悟旨覺遠除曠世無明惚業又延未來空宗妙果又願孫息延年神志速就胤嗣繁昌慶光万世帝祚永隆弘宣妙法昏愚未悟咸發菩提

五一、北魏比丘法生造像記 景明四年十二月一日

龍門石刻錄錄文

西曆五〇三

1 夫抗音投澗美惡必酬振服依河長短交目斯乃德音道俗水鏡古今法生傲逢孝文皇帝專心於三寶又遇北海母子崇信於二京妙演之際屢叨末筵一降淨心忝充五戒思樹芥子庶幾須弥今爲孝文并北海母子造像表情以申接遇法生搆始王家助終夙霄締敬歸功帝王万品衆生一切同福魏景明四年十二月一日比丘法生爲孝文皇帝并北海王母子造

五一、北魏高思鄉造釋迦文像記 正始元年十一月四日 西曆五〇四

1 正始元年十一月四日清信女高思鄉爲亡子符四品巨生妻楊保勝爲亡者造釋迦文像一區願使亡者上生天上值遇弥勒佛

校記 (一) 鄉ノ字或ハ雍カ、コノ拓ハ關圖ニヨル

五二、北魏楊安族造釋迦像記 正始二年正月卅日 西曆五〇五

1 正始二年正月卅日造釋迦像一區願所生父母合門大小普同斯福楊安族敬造 三月七日 (二行ノ中間下部) (三行ノ中間下部)

〔校記〕 (一) 補正ニヨル

五三、北魏鈞楯令王史平吳共合曹人造弥勒像記

正始二年四月十五日 西曆五〇五

1 正始二年四月十五日像主齋師蕩寇將軍殿中將軍領鈞楯令王史平吳共合曹人興願爲今王上造弥勒像一區橫野將軍鈞楯署洪池丞權六煩

三〇一

五五、北魏元從僕射長秋承祀允造釋迦二菩薩像記

正始三年三月十九日

西曆五〇六

夫靈光祕影。緬盈雲。度留眷先容。實須時。顯清信女佛弟子。宮內作大監。覺法端。不。幸邁終。其以生資。集。俟神圖。是以冗從僕。射長秋承祀允。爲造。釋迦像一區。并二菩薩。願端值生妙樂國。土。又願。皇化層隆。大魏彌歷。引秩千基。福鍾万代。唯大代正始三年歲次丙戌三月丙寅朔十九日。訖。

〔校記〕コノ拓ハ關圖ニヨル

五五、北魏比丘如光造像記 正始三年四月十日

西曆五〇六

比丘如光爲亡父母己身。造像一區。以此微福。普及含生。正始三年四月十日。

五五、北魏孫大光造釋迦像記 正始三年六月卅日

西曆五〇六

大代正始三年六月卅日。佛子孫大光。爲七世父母。所生父母。造釋迦文一區。

〔校記〕沙腕ハ兆。大村ハ城。石刻ハ洛補正ハ光殆ト光ノ字ニ似タリ

五五、北魏楊小妃造釋迦像記 正始三年十二月廿二日

西曆五〇六

大代正始三年十二月廿二日。佛弟楊小妃。爲亡。造釋迦像一區。願亡父上生天上。弥勒三會。

〔校記〕三會二字補正ハ長唱沙腕ハ授福ニ作ル

五五、北魏太中大夫安定王元燮造釋迦像記 正始四年二月

西曆五〇七

魏聖朝太中大夫安定王元燮。造。仰爲。

亡祖親太妃。

亡考太傅靜王。亡妣。

蔣妃。及見存眷屬。敬就。靜窟。造釋迦之容。并其。立侍。衆綵。圓飾。雲仙。喚。然。願亡存居眷。永離穢。趣昇超。遐迹。常值諸佛。龍華爲會。又願一切羣生。咸同斯福。正始四年二月中訖。

〔校記〕北魏護軍府吏魯衆敬造像記 正始四年四月

西曆五〇七

護軍府吏魯衆敬。爲所生父母。合門大小。造石像一區。供養從心。正始四年四月。

〔校記〕北魏比丘惠合造釋迦佛并菩薩記左行 正始五年八月十五日

西曆五〇八

正始五年八月十五日。比丘惠合。爲清信女。法景。造釋迦佛并菩薩二區。願七世父母。所父生母。因緣眷屬。一切衆生。一時成佛。

〔校記〕七母ノ字ハ補正。大村ニヨル

〔校記〕北魏比丘惠合造釋迦像記左行 正始五年八月十五日

西曆五〇八

正始五年八月十五日。比丘惠合。爲亡。造釋迦。願託生西方。面奉諸佛。若。令解脫。七世父母。所。眷屬。一切衆生。

〔校記〕髮造觀世音像記

髮。爲亡母。敬造。觀世音佛。除難。

〔校記〕北魏桃泉寺道宋造弥勒像記 永平元年

西曆五〇八

大魏永平元年。歲在戊子。清州桃泉寺道宋。自彼。浮慶。蒙三寶之。皈依。鉢餘。造弥勒像一區。并七佛二菩薩。衆容。

俱具。以此微福。普及一切含生。同見弥勒。悟无生忍。願從心。

〔校記〕 (一)補正ハ坂大村ハ致

六五、北魏馬生妻造釋迦像記 永平元年九月十六日

西曆五〇八

清信…女馬生…妻爲亡…妣造…釋迦牟…尼佛一區…永平元年九十…六日。

〔校記〕 (一)補正ハ關圖ニヨル

六六、北魏比丘尼法文法隆等造弥勒像記

永平二年四月廿五日

西曆五〇九

永平二年歲次巳…丑四月廿五日。比丘尼法文法隆等…非常世深發誠…願割私財各爲…已身敬造弥勒像…願使過見者…普沾法雨之潤禮…拜者同无上之樂…龍華三唱願在流…次一切衆生普同…斯福。

六七、北魏邑師道暈等造弥勒像記 永平二年十一月十六日

西曆五〇九

永平二年…十一月十六…日。邑師…道暈。邑主…賈元…陰王勝…韓…齊…見禧…四人等爲…國造弥勒…像一區。

〔校記〕 (一)補正ハ關圖ニヨル

六八、北魏賈元英造釋迦像記 永平二年十一月十六日

西曆五〇九

永平二年十一月十六日。清信…士佛弟子賈…元英。父母…兄弟…加像一區。

〔校記〕 (一)六日ノ二字石刻ニ從フ、コノ拓ハ關圖ニヨル

六九、北魏比丘尼法行造定光佛像記 永平三年四月四日

西曆五一〇

永平三年四月四日。比丘尼法行。試用微心敬…造定光石像一區。并二…菩薩願永離煩惱…無有苦患願七世父母。眷屬現在師徒亦…同共福亦令一切衆生…咸同斯慶。

〔校記〕 (一)補正大村沙畹ニヨル (二)識ノ字ハ所力沙畹ハ能卜釋ス

七〇、北魏道人惠感造釋迦像記 永平三年五月十日

西曆五一〇

永平三年五月十日。道人惠感…敬造世加文弗一區。願四大布福…爲皇帝復爲七世父母所生父母。

〔校記〕 (一)福ノ字ハ補正ニヨル (二)補正ハ造ニ作ルモ、陛ノ字カ

七一、北魏比丘尼法慶造弥勒像記 永平三年九月四日

西曆五一〇

永平三年九月四日。比丘尼法慶爲七世父母所生…因緣敬造弥勒像一軀…願使來世…託生西方…妙樂國土…下生人間…公王長者…遠離煩惱又願己身…與弥勒俱生蓮華樹下。三…會說法一切衆生永離三途。

七二、北魏比丘尼惠智造釋迦像記 永平三年十一月廿九日

西曆五一〇

永平三年十一月廿九日。比丘尼惠智爲七世父母所生…父母造釋加像一軀願使託生西方妙樂國土…下生人間爲公王長者永離三途又願身平安遇…與弥勒俱生蓮華樹下。三會說法一切衆生普同斯願。

七三、北魏黃元德等造弥勒像記 永平四年二月十日

西曆五一〇

大代永平四年二月十日。清信士五品使…黃元…德弟王奴等敬造弥勒像一區…并五十三佛爲亡母願亡母託生西…方妙樂國土。若人間王侯長俊…願合門大小見在安隱復願一切…

衆生離苦□垢咸同斯福一時成佛。

〔校記〕 (一)大村ハ吾□ (二)大村ハ孫

六四 北魏比丘僧法興造弥勒像記 永平四年九月一日

西曆五一

永平四年歲次辛卯九月一日甲午朔比丘僧法興敬造弥勒像一軀上爲皇家師僧父母有識含生普乘微善龍華三會俱得齊上又願皇祚永隆三寶暈延法輪長唱所生父母託生紫神蓮昇兜率面奉慈氏足步虛空悟發大解所願如是

沙弥法□

〔校記〕 (一)永平四年八大村補正沙腕ニヨル (二)沙腕ニヨル

六五 北魏領太官令曹連造釋迦像記 永平四年八月廿六日

西曆五一

永平四年歲次在辛卯八月甲子朔廿六日清信士佛弟子殿中將軍領太官令曹連敬造釋迦牟尼像□□廣劫以來所作衆罪消垢雲除万善慶集七世父母有識含生普蒙斯善所願如是

六六 北魏比丘法僧造釋迦像記 永平四年十月三日

西曆五一

永平四年十月三日比丘法僧造釋迦像一區弟子法禪

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

六七 北魏比丘法僧造釋迦像記 永平四年十月三日

西曆五一

永平四年十月三日比丘法僧造釋迦像一區

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

六八 北魏仙和寺尼道僧略造弥勒像記 永平四年十月七日

西曆五一

永平四年十月七日仙和寺尼道僧略造弥勒像一區

生々世世見佛問法清信女周何足願現世安隱一切衆生並同斯願

〔校記〕 (一)羅錄ハ企ニ作ル

六九 北魏華州刺史安定王造石窟石像記 永平四年十月十六日

西曆五一

弟子伏寶弟子多寶法嵩王法威王法訓王比丘法智師

皇魏永平四年歲次辛卯十月十六日假節督華州諸軍事征虜將軍華州刺史安定王仰爲亡祖親太妃亡考太傅靜王亡妣蔣妃敬造石窟一軀依巖裏岸刊崇沖室妙鑄靈像外相顯發工績嚴儀凝華極敬恃此福上資先尊使捨此塵軀即彼眞境趣六通明囑無尋值遇早登十地又願居眷祥照看永祚山河世一切含生普同斯願

〔校記〕 (一)弟子伏寶弟子ノ六字ハ萃編沙腕大村ニヨル (二)萃編沙腕大村ニヨル (三)萃編沙腕ニヨル (四)裏ハ裏力萃編沙腕ハ裏ニ作ル (五)六萃編沙腕大村ニヨル (六)補正ハ福□万ニ作ル (七)萃編沙腕大村ニヨル

七〇 北魏尹伯成妻姜氏造觀音像記 永平四年十二月十二日

西曆五一

永平四年十二月十二日清信女尹伯成妻姜爲亡夫伯成造觀世音像一軀願使侍佛文法永離三途一切衆生

普同斯福

七一 北魏釋法陵造像記 永平五年正月

西曆五一

張如來永平五年正月中釋法陵爲國并父母師僧

善友知...⁷識。法界衆...⁸生。敬造...⁹。□法護...¹⁰。□伯...¹¹、、、...

、、...¹²元法郎...¹³元迎男...¹⁴元法洛...¹⁵元若仁...¹⁶李...¹⁷李...¹⁸、

、、...¹⁹、、、、、²⁰、、...²¹元、...²²孫洪、...²³李慶祖...²⁴李...²⁵李法道...²⁶□

□...²⁷元羽生...²⁸李...²⁹孫、...³⁰比丘、、下段

〔校記〕 大村ハ元

六三、北魏劉洛眞造釋迦像記 延昌元年十一月 西曆五一二

延昌元年...¹歲次壬辰十一月亥朔...²弟...³子劉洛眞...⁴爲亡兄
惠...⁵寶。敬造釋...⁶迦像一區...⁷敬造巷。

〔校記〕 (一)供養二字ノ合字力

六三、北魏劉洛眞兄弟造弥勒像二軀記 延昌元年十一月四日 西曆五一二

延昌元年歲次壬辰...¹十二月丁亥朔四日。清信...²士弟子劉洛
眞兄弟...³爲亡父母。敬造弥勒...⁴像二區。使亡父母託生...⁵紫微。
安樂之處。又願...⁶七世父母。師僧眷屬...⁷見在居門。老者延年...
少者益算。便法解...⁸相生。一時誠佛所...⁹願如是。

〔校記〕 (一)補正、沙腕、大村ニヨル

六四、北魏比丘尼法興造釋迦像記 延昌二年八月二日 西曆五一三

延昌二年八月二日。比丘尼法興。因患...¹發願。造釋迦像一軀。願
使此身厄惡...²雲消。戒行清潔。契感玄宗。明悟不...³逮。及七世
父母。生身父母。一切衆生...⁴咸同此福。

〔校記〕 (一)補正ニヨル

六五、王江奴造釋迦像記 前者ノ上ニアリ

清信弟子王...¹江奴。敬造釋...²加牟尼像...³一軀。所願從心。

六六、北魏張道伯等十四人造弥勒像記 延昌三年八月二日 西曆五一四

延昌三年八月二日。張道伯。張道夷。始和。陳天治。道延。歡
景。舉。道問。胡道僧。定州康。蘇景問。魯因。王
義。王妃。合十四人等。因石窟東崖。造弥勒像一區。願十四人等
現世安隱。受命延長。若以命。以後不至三塗。

〔校記〕 延昌三年以下十四字ハ補正ニヨル、大村モ亦同ジ

六七、北魏劉兒造定光佛像記 延昌三年□月廿二日 西曆五一四

延昌三年...¹月廿二日...²清信女劉...³兒。爲亡...⁴造定光
像一區。願...⁵現在父母、

〔校記〕 (一)補正、大村ニヨル、沙腕ハ孝ニ作ル、(二)補正ハ光字ノ下ニ佛字アリ

六八、北魏白洛生姊樂普念造釋迦佛二菩薩記 延昌四年二月二日 西曆五一五

延昌四年二月二日。佛弟子...¹白洛生姊樂普念。造釋...²加牟尼
佛。并二菩薩。願...³從心。爲一此衆生。及含、成佛。

〔校記〕 (一)沙腕ハ臯、大村ハ昇、補正ハ□ニ作ル、殆下樂ノ字ナリ

六九、北魏尹顯房造多寶像記 延昌四年八月廿四日 西曆五一五

延昌四年...¹八月廿四日...²清信士...³佛弟子...⁴尹顯房...⁵仰爲
父母...⁶一切衆造...⁷多保象...⁸一區。

〔校記〕 (一)沙腕ハ像、大村ハ佛、補正ハ□殆下象ノ字ニ似タリ

七〇、北魏尹靜妙造像記 延昌四年八月廿九日 西曆五一五

延昌四年...¹八月辛未...²朔廿九日巳...³亥。清信女...⁴尹靜妙...
一切衆生...⁵造、、、

才¹²□□□□□□□□願帝祚永延亡¹⁴尼尅□□及姉¹⁵妹一

切舍生普¹⁶登彼岸同證正¹⁷覺 正光二年¹⁸十二月七日

〔校記〕 (一)以上三行補正ニヨリテ補フ (二)補正ハ資

空、北魏王永安造像記 正光二年八月廿日

西曆五二一

正光二年八月廿日。清信佛弟⁴子王永安⁵供養佛時。

空、北魏比丘慧榮造釋迦像記 正光二年八月廿日

西曆五二一

正光二年八月廿日。比丘慧榮⁴造釋迦像⁵一區。願帝⁶

祚永延榮⁷及姊妹一⁸切舍生普⁹登彼岸同¹⁰證正覺。

空、北魏王仲和造觀音像記 正光二年九月四日

西曆五二一

觀世音像爲²貴中子願託生³安樂處⁴正光二年九月四日。

王仲和敬造。

〔校記〕 コノ拓ハ關圖ニヨル

空、北魏徐□和造像記 正光二年十月廿二日

西曆五二一

正光二年十月廿二日。清信士佛弟子徐³□和爲亡祖母造

像一區。

〔校記〕 (一)補正大村ハ候 (二)大村ハ黎

空、吏部令史劉智明造像記

吏部令史劉智明造。

空、北魏比丘慧暢造弥勒像記 正光三年九月九日

西曆五二二

□□李易³震⁴(題額ニ)

正光三年九月九日。比丘⁵慧暢仰爲皇帝太后師⁶僧父母兄

弟姊妹一切衆生⁷敬造弥勒像、同時成佛。

空、北魏比丘尼法除造釋迦像記 正光四年正月廿六日

西曆五二三

夫聖覺潛暈¹絕²於形相幽宗³彌邈⁴攀尋莫曉⁵自非⁶影像遺

訓安可⁷崇哉⁸是以比丘尼⁹法除感慶¹⁰往因¹¹得育天微¹²故獻

單誠¹³爲女安樂¹⁴郗君子氏嫁¹⁵耶¹⁶奢難¹⁷造釋迦¹⁸像一區。

願女體任¹⁹多康衆惚²⁰永息²¹天²²算遐紀²³亡零²⁴加助²⁵正光四年

正月廿六日。

〔校記〕 (一)補正ハ微、大村、佛蹟ハ機沙碗ハ微 (二)沙碗大村ハ獻補正ハ獻

空、北魏比丘尼僧□造弥勒觀音樂師像記 孝昌元年七月十七日

西曆五二五

孝昌元年七月十七日。比丘³尼僧⁴割己衣⁵之⁶餘。仰

爲皇帝⁷下師僧父母⁸四輩像⁹主敬造弥勒像¹⁰一堪觀音樂

師¹¹今已就¹²達願¹³以¹⁴此善¹⁵慶鍾¹⁶皇家¹⁷師僧¹⁸父母¹⁹

己身眷屬²⁰命²¹延無窮²²稟²³傾四氣²⁴行禁²⁵積暈²⁶思悟²⁷二空²⁸地

獄捨刑²⁹離苦福存³⁰願如是。

〔校記〕 (一)沙碗ハ賢 (二)大村ハ鉢

空、北魏李袁王僧秀張安花等造像記 孝昌二年六月廿日

西曆五二六

清信士李袁王僧秀²張安花等爲一切有形³敬造像一區。孝

昌二年六月廿日。

年二月廿日。供養時(上段ニ)

空、北魏陵江將軍政桃樹造無量壽佛記 永熙二年九月十日

西曆五三三

永熙二年九月十日。佛弟子陵江³將軍政桃樹⁴敬造无量

壽⁵像一區。父母⁶眷屬⁷一切衆生⁸離苦得洛⁹值遇¹⁰諸佛。

空、東魏長孫僧濟等造弥勒像記 天平二年四月八日

西曆五三五

1 天平二年四月廿八日清信士… 3 仏弟子長孫… 4 僧濟長□□…
5 願比丘法□□… 6 三人仰爲己… 7 身造弥勒仏… 8 一區後□□後…
9 願七世 父… 10 母因緣眷屬… 11 仏聞法□□同… 12 斯願。

〔校記〕 (一)補正ニ從フ (二)大村ハ咸

六六、東魏比丘尼曇會阿容造觀音像記 天平三年五月十五日 西曆五三六

1 天平三年… 2 五月十五日… 3 比丘尼… 4 曇會… 5 阿容… 6 自爲己身…
7 師僧眷屬… 8 造觀世音… 像一區并及有… 10 形共同斯福。

六六、東魏孫思香造觀音像記 天平四年正月廿一日 西曆五三七

1 清信女… 2 孫思香… 3 爲忘息… 4 傳法始… 5 造 觀… 6 世音一區…
7 願七世見… 8 常與善居… 9 天平四年正月… 10 廿一日記。

六六、東魏曹敬容造像記 天平四年七月廿五日 西曆五三七

1 天平四年七月廿五日清信女… 2 弟子曹敬容爲亡夫造像一…
3 區願令捨穢從眞神□超蔭。

〔校記〕 (一)補正大村ニ從フ

六六、西魏平東將軍蘇万成妻趙氏等造釋迦像窟記

大統六年四月廿八日 西曆五四〇

1 大統六年四月廿八日… 2 平東將軍銀青… 3 光祿太夫石城縣…
4 開國男池陽縣開… 5 國伯立儀都督蘇… 6 万成妻趙歸親… 7 僧陳
九清等造石… 窟一區中有釋迦… 像仰爲七世父母因… 緣眷
屬□與善… 居願々從心。

〔校記〕 (一)補正大村ニヨル

六六、西魏平東將軍蘇万成造像記

龍門石刻錄錄文

1 平東將軍銀青… 2 光祿太夫石城… 3 縣開國男池… 4 陽縣開國伯
… 5 蘇万成爲父母造。

六六、尙少供養佛記

1 尙少供養佛時。

六六、東魏比丘尼曇靜造釋迦像記 武定三年十一月十日 西曆五四五

1 武定三年… 2 十一月十日… 3 故比丘曇… 4 靜造釋… 5 加像一區…
6 爲大統寺… 7 造。

六六、東魏比丘尼曇靜造釋迦像記 武定三年十一月十日 西曆五四五

1 武定三年… 2 十一月十日故… 3 比丘曇靜… 4 爲大統寺主… 5 安法
敬造… 6 釋加像一區… 7 後願靜已… 8 身生々世々… 9 值佛聞法…
10 所願如是。

〔校記〕 (一)補正ニヨツテ補フ

六六、北齊高留侯銘記 武平六年三月十九日 西曆五七五

1 唯大齊武平六年歲次丁未三月乙… 2 卯朔十九日壬申故人高
台孫… 3 高苗侯銘記。

六六、北齊戎昭將軍趙桃科妻劉氏造像記 武平三年十二月十八日 西曆五七二

1 武平三年十二月十八日戎昭將軍伊陽城騎兵… 2 參軍趙桃科
妻劉知善可崇知惡可捨上爲皇帝… 3 陛下見存眷屬亡過父母
敬造石像一堪願亡者… 4 獲果存者延遐有形之類咸同斯福。

六六、唐□母造龜記 永徽五年二月廿九日 西曆六五四

1 、、、、、、□母敬□一龕願冥中… 3 攝□合家無病俱同斯
… 4 福永徽五年二月廿九日。

六七、唐孤獨歎辭造像龕記 總章二年十月

西曆六六九

總章二年十月。弟子孤獨妻魏。早亡。身復失明。作歎辭。

蓋聞湘川之竹。由淚染以成斑。五曜神珠。感哀聲而象。

出桓山之鳥。尚怨分離。況吾之情。永歎恨者也。但政春。

秋卅。遇患痲痲。誰茶苦。由如閨室。上無元季之兄。下無伏。

床之子。苟存朝夕。養其蜉蝣之命。知遺光之不久。曉零之。

難。停加以減割。朝食。剝其寒暑之服。敬尊像一龕。龍。

門。以記功。金山盈而存朽。通。

六八、唐王二娘造菩薩像記 咸亨三年九月

西曆六七二

王二娘。爲亡女造菩薩一區。咸亨三年九月。

六九、唐王非賤造像記 景龍三年七月八日

西曆七〇九

政信人王非賤。普爲七代名身慈。悲父母。證。

大善知識。敬造三世諸佛。願怨同此福。願相。

引度脫。一志供養。景龍參年七月八日。記啓吉書二人。

七〇、周韓寄生造像記 長安四年二月廿七日

西曆七〇四

長安四年二月廿七日。韓寄。生造。

七一、周高建昌造釋迦像記 長安四年二月廿四日

西曆七〇四

長安四年二月廿四日。造了。佛弟子高建昌。爲七世父母。造。

釋迦牟尼像一軀。一心供養。

七二、周陳暉造像記 長安四年二月廿四日

西曆七〇四

長安四年二月廿四日。造了。弟子陳暉。爲七世父。造像一軀。

一心供養。

七三、周魏懷滿造千佛像記 長安四年二月廿四日

西曆七〇四

魏懷滿。爲亡母。造千佛一區。供養。長安四年二月廿四日。

七四、楊婆陁女造像記

楊婆陁女。造像四區。娘。

七五、陳景等造像記

陳景等。敬造佛。佛。

街亭王。爲母。造佛。

七六、張嚙造像記

張嚙。爲母。造。

七七、北魏楊大眼爲孝文帝造石像記

邑子像

邑主仇池楊大眼。爲孝文皇帝造象記。夫靈光弗曜。大千懷。

永夜之。蹤不遘。葉生唵靡道之懺。是以如來應群緣。以顯。

迹。爰暨像。遂著降及後王。茲功厥作。輔國將軍直閣將。

軍。梁州大中正安戎縣。開國子仇池楊大眼。誕承龍。

曜之資。遠踵應符之胤。稟英奇。於弱年。挺超群於始冠。其也。

垂仁聲於未聞。揮光也推百。萬於一掌。震英勇。則九宇咸駭。存。

侍納則朝野必附。清王衢。於三紛。掃雲鯨於天路。南穢既澄。震。

旅歸闕軍次。行路逕。石窟。覽先皇之明蹤。觀盛聖之麗迹。

矚目徹宵。泫然流感。遂爲孝文皇帝。造石像一區。凡及衆形。

罔不備列。刊石記。功。示之云爾。武。

〔校記〕(一)孝文皇帝造像記八字ハ幸編ニヨツテ補フ、沙畹大村モ同ジ

資來業。

六三、横野將軍吳安造像記

横野將軍吳安…爲家眷敬造。

六三、沙弥法寧造釋迦像記

沙弥法…寧敬造…釋迦坐像…一區。上爲皇…家師僧父…母。有識含…生普乘…微善弥勒…三會俱…齊上…

〔校記〕 (一)補正ハ淫ニ作ル得字カ (二)補正ニ從フ

六四、吳洛□造釋迦像記

清信女佛弟子吳洛□…造釋迦像一區。願七世父母所生…父母。因緣眷屬…普同斯福。

六五、劉法海造釋迦像記

清信、…劉法海□□、…失脚敬造釋迦像…一區。願早還□□…慈恩願々從心。

六六、張法香造釋迦像記

清信女張…法香爲…亡兄敬…造釋…加…文佛…一區。

六七、比丘尼□化造釋迦像記

比丘尼□…化造…加牟尼…像壹區…爲身所造…上爲七世父…母所生父…母兄弟姉…妹五等眷…屬因緣知…識若墮…三惡道…皆得解脫…力、

〔校記〕 (一)補正ハ者沙碗ハ中

六八、佛弟子壽□造釋迦像記

清信…女佛弟…子壽□…爲身造…世加文尼…佛一區。願…

弟子見…安。

六九、李前貴造釋迦像記

清信…女李…前貴…敬造釋…加文佛一區。

七〇、溫靈慈造像記

溫靈…慈爲…張思宜…造。

七一、比丘尼僧暉造釋迦多寶像記

比丘尼僧…暉爲亡母…惠好敬…造…願天下合迷受…苦衆生。微塵…有命普離幽辰…上勝妙景伏願…七世父母所生…父母。下及因緣…眷屬生々之處…恒遇諸佛同生…妙洛遊步三乘。

〔校記〕 (一)補正ニヨレバコノ前ナホ三行アリトイフ

七二、掖庭令趙振造弥勒像記

強弩將軍…掖庭令趙振…仰爲七世父母…丘擽敬造弥…勒像一堪。

七三、楊寶勝造弥勒像記

弟子清信女楊寶勝…爲亡庫多汗王造弥…勒像一軀。

〔校記〕 (一)大村ハ弟殆ト非ナリ補正ハ庫

七四、楊寶勝造弥勒像記

弟子信清女楊寶勝爲亡□□…法蓋□造弥勒像一軀。嚴、

〔校記〕 (一)大村ハ弟殆ト非ナリ補正ハ庫

、…眞容妙廓緣此□像之功、…者永離塵景□、

、…常與諸佛共會所願、

〔校記〕 (一)大村ハ女 (二)補正ハ從 (三)補正ハ樂ノ字アリ

六五、羅藤月等十人造弥勒像記

1 羅藤月李恒... 劉定都傳令秀... 白□張母化... 羅可倪劉天生。
... 興天保白藤興... 十人等敬造弥勒像一區。右爲... 七世父母。下及有形... 衆生皆得離... 苦願從心。

〔校記〕 (一)沙碗ハ世

六六、董僧智造弥勒像記

1 清信士佛弟... 子董僧智爲亡女媚... 足造弥勒... 女上生天上。下、

〔校記〕 (一)補正大村ニヨリ補フ

六七、僧力僧恭造無量壽像記

1 比丘僧力僧... 恭敬造无量壽像... 普爲一切... 衆生願託... 彼國。

六八、文雅造無量壽像記

1 文雅爲... 亡弟阿... 貴造... 无量... 爲亡父母亡弟造觀世音像記

六九、爲亡父母亡弟造觀世音像記

1 、、、、爲亡父母... 亡弟造觀世... 一區願... 常生淨土。

七〇、安定王造觀音像二軀記

1 安定王爲女夫閻散騎... 故入法敬造觀世音像二... 軀聖嚴
... 障真相景... 發妙極天華含... 生仰化願使閻散... 騎緣此入法
之功當令... 永離塵軀。即眞無尋開... 明玄門常爲龍華唱首又

願緣... 眷万善歸祐吉祥徵集一切... 羣生咸同茲願。

七一、比丘惠造觀音像記

1 比丘惠造觀世音一... 區供養。

七二、比丘惠鑒造觀音像記

1 觀世音像一區。

2 比丘惠鑒造像一區... 願病惡除滅身... 并一切衆生一時成
仏。

〔校記〕 (一)補正ハコノ下ニナホ願ノ一字アリ

七三、智賀造觀音像記

1 □智賀爲亡父母造觀世音像一區... 迎妙洛國土... 七世父母因緣... 、、、、、、、、

七四、魏□造觀世音像記

1 、、、、魏□造觀世□□

七五、張承□造像記

1 仏弟子... 張承□... 爲七□... 造菩薩一□... 供養。

七六、黑瓮生兄弟造像記

1 黑瓮... 生兄... 弟三人... 爲亡... 父母... 造石... 像一... 區。

七七、黑瓮生造像記

1 黑瓮... 生爲... 亡妻... 并息... 虎子... 造石... 像一區。

七八、魏□仙造像記

1 清信... 士佛... 弟子... 魏□... 仙爲七... 世父母... 所生父... 母
及己... 身大永... □□造

七九、楊道衰造像記

1 清信佛弟…2 子楊道衰…3 侍佛時。

七〇、王婆羅門造像記

1 王婆羅…2 門爲亡…3 母造像…4 一區。

七一、房進機造像記

1 房進機爲忘父母造佛一區。

七二、比丘尼□淺造像記

1 比丘尼□淺…2 侍佛時…3 願□庶

七三、比丘尼妙暈造像記 三月十三日

1 三月十三日比丘尼…2 妙暈爲父母…3 記身造像…4 一區。以此微

□…5 倉眷普沾…6 比丘尼侍佛時。

七四、僧惠暉造像記

1 比丘僧惠暉爲國王常住造佛一區。

〔校記〕 (一)補正ニヨリテ補フ

七五、劉塙造像記

1 劉塙爲七世父母所生父…2 母兄弟姊妹造佛一區。

七六、清信士□道香造像記

1 清信士佛弟子□…2 道香。

七七、清信士□備男造像記

1 清信士三門…2 佛弟□…3 子□…4 備男。

七八、清信女福花造像記

1 清信女佛弟子福花爲…2 忘父母造像一區。

七九、清信士奚莫苟仁造像記

1 清信士佛弟子奚莫苟仁。

七〇、夏侯叔造像記

1 夏侯叔爲合…2 家口各造像…3 一軀一心供養。

七一、杜穩定供養記

1 果州南…2 充縣杜…3 穩定供…4 養。

七二、趙□造像記

1 趙□鑄一尊。

〔校記〕 (一)補正ハ照關表ハ盛ニ作ルモ非

七三、忠州刺史李素價妻曹氏造像記常選人造像記

1 忠州刺史…2 李素價…3 妻曹敬造。

4 常選人爲…5 燕客敬造。

七四、王懷忠趙大娘等侍佛記

1 王懷忠趙大娘阮四娘王大娘…2 張四娘荆十等一心供侍。

3 田思…4 貞。

七五、趙大娘等造像記

1 □忠像。

2 趙大娘像。

3 趙昱。

4 竹弘懿書…5 此龕…6 成□。

4a 陳…5b 娘。

7 弟子田…8 □貞□…9 造。

〔校記〕 (一〇〇)趙昱陳娘ハ共ニ補正ニヨリテ補フ

七六、弟子張思景等十七人供養題名

1 弟子文□□…2 弟子霍乞將…3 弟子□□猷…4 弟子劉金龍…
5 弟子張思景…6 弟子羅天□…7 弟子吳光威…8 弟子衛貴遷…
9 弟子賀棧…10 弟子伏阿平…11 弟子寇涅…12 弟子章孤…13 弟子呂
神保…14 弟子曹天保…15 弟子□曇智…16 弟子□恩…17 弟子□
永安。

七七、比丘尼法貴等造弥勒像記 延昌四年五月十日 西曆五一五

1 延昌四年五月十日…2 比丘尼法貴…3 比丘尼僧安爲…4 比
丘尼僧明造…5 弥勒□一區願亡…6 願亡…7 願亡…8 願亡…
群生德如

七六、比丘尼法朗造像記

1 魏□□…2 魏□□…3 尼法朗…4 造石像…5 區仰爲…6 父母…7 眷
屬值…8 法恒…9 所

七九、張保德造釋迦像記

1 州張保德…2 州張保德…3 俱…4 俱…5 俱…6 俱…7 俱…8 俱…9 俱…
、造釋迦佛、

七〇、按書郎□造像記 □昌二年□月十五日

1 慧塵…2 澄影仙居…3 託生寶輪…4 旋是因
、昌二年歲次…5 十五日刊…6 十五日刊…7 書按書郎…8 文
司州門下督…汝陰王國侍郎

七二、五年二月廿九日造像記 □五年二月廿九日

龍門石刻錄錄文

1 福女…2 樂…3 共造…4 龕…5 龕…6 龕…7 龕…8 龕…9 龕…
、并願□…7 攝受…8 五年…9 二月廿九…10 日。

七三、王超□造像記

1 王超□敬…2 王超□敬…3 造佛一區…4 爲亡父造…5 上託生西方。
、造

七四、李景侯造像記

1 李景侯…2 爲亡父…3 敬造像…4 一區諮。

七五、爲所生父母造像記

1 年七…2 陛下所生父…3 母七世父…4 母七世父…5 母七世父…
、造…7 願…8 弥勒佛…9 三會成道。

七六、李五德造七佛記

1 李五德…2 造七佛。

七七、崔顯造像記

1 崔顯白爲身造佛一區。
2 崔顯爲忘父造佛一區。

七八、功賓造像記

1 功賓爲身造佛一區。

七九、僧暈造像記

1 僧暈爲身造佛一區。

八〇、爲皇帝造佛記

1 爲皇帝造佛…2 爲皇帝造佛…3 爲皇帝造佛…4 爲皇帝造佛…5 爲皇帝造佛…
、父母…6 造佛…7 造佛…8 衆生…9 普

七五、北魏比丘尼道□造釋迦像記 正光二年三月廿六日

西曆五二一

一切舍生一時成…佛。

1 正光二年三月廿六日。

七六、北魏陽景元供養觀世音佛記 正光四年三月廿三日

西曆五二三

5、丘尼道□敬造…、釋迦像一區。□七世父母所生父母亡
兄…弟、託生西方…、□□淨之處…、
、諸佛願一切衆生…、共、佛道。

1 正光四年三月廿三日。…清信男佛弟子…陽景元供養…觀世
音佛時。

、諸佛願一切衆生…、共、佛道。

〔校記〕（一）正光二字八補正ニヨル

七五、北魏李要□造像記 正光三年六月

西曆五二二

七六、北魏比丘尼□達造釋迦像記 普泰二年三月十六日

西曆五三二

1 正光三年六月、…司徒公、…至李要□造…像一區。願
□患…消除衆善、…會七世□、…普同此福。

1 大代普太二年…三月十六日比丘尼…□達敬爲□□亡公
主沙羅…造釋迦像一區…願忘者託生□□彌勒佛所□…
諸龕□□□□李亡□願、…□□□□正覺□□

七五、北魏大統寺比丘慧榮造像記 正光三年七月十七日

西曆五二二

七六、東魏報德寺比丘法相造像記 武定七年二月十五日

西曆五四九

1 正光三年七月十七日。大…統寺大比丘…慧榮造像一…願
國祚永寧…上延亡二親…榮及姊妹一切…舍生速到岸…同
證正覺。

1 煥子若无有子若…實隨緣感應慈…度等一梵音開道…无不
蒙所稱名禮…敬善求成吉深思…惠悟從緣生刊山…立志銘
心不傾願下千…劫愍度含靈神光…普照除去幽冥…武定七
年歲次己巳…二月十五日報德…寺比丘法相造…比丘相待
佛。

七五、北魏□相合妻公孫興姬造無量壽佛記 正光三年九月廿日

西曆五二二

1 正光三年九月廿日。□相合妻公孫興…姬爲亡父母前□□
…□造无量壽佛…一區。願長命老…壽恒侍佛因緣。

〔校記〕（一）大村八棚

七六、北齊朱高陵造像記 天統元年

西曆五六五

七五、北魏王伯集供養記 正光四年三月廿三日

西曆五二三

1 正光四年三月廿三日。…清信男佛弟子王…伯集供養佛時。

1 天統元年、…母朱高陵願、…爲一切衆生造像、…
、世、衰與善居。

〔校記〕（一）清八補正ニヨル（二）伯八補正ニヨル

七五、北齊義州皂服從事張子紹造石像記 武平三年八月廿日

西曆五七二

七六、北魏比丘惠榮造釋迦像記 正光四年三月廿三日
1 比丘惠榮供養時…大代正光四年三月廿三日沙門惠榮…
敬造釋迦牟尼像…一區。爲師僧父母七…世因緣親善知…識。

1 武平三年八月廿日。義州皂服從事張子紹爲息世…託造石像
一區。願一切有形共同斯福。
七六、北齊比丘曇山合邑造石像記 武平三年九月十二日
西曆五七二

1 武平三年九月十二日。比丘曇山合邑子敬造石像。一
區。仰爲皇帝陛下國祚安寧。師僧七世所生父母。仁邑
子皇甫。道邑子孫長山。

七七、佛弟子程黑退妻甘元暉脩破像記

1 佛弟子程黑退妻甘元暉。爲亡息程石生。脩治破像。願亡息
程子來。亡息程子休。

七六、唐張知造像記 咸亨二年二月

1 張知爲己身造。咸亨二年二月。

七五、唐太常主簿高光復等造阿彌陀像記 儀鳳四年六月八日

1 大唐故猗氏縣令高君之像。弟太常主簿光復。及姪
等。敬造阿彌像一鋪。資益法。亡靈奉爲天皇天后。
殿。下諸王文武百官。下及法界。共同斯福。儀鳳四年歲
次己卯六月己酉朔八日。必謹。

七〇、唐左玉鈴衛將軍薛國公史夫人李氏造像記

垂拱二年十二月八日

西曆六八六

1 左玉鈴衛將軍薛國公史夫人李氏。垂拱二年十二月
八日。敬造。

七三、唐比丘僧思亮等造像記 垂拱三年正月十五日

西曆六八七

1 比丘僧思亮。弟子陳天養。妻魏男恭兒。女迦葉。奉爲
太后。七代父母。法界衆生。一切業道。得免三塗。共同此福。垂
拱三年正月十五日造。

七三、唐秦弘敬等造像記 垂拱四年二月廿日

西曆六八八

1 秦弘敬。劉道子。張樂師。衛善度。張感。表藏。玄政。梅玄表。
王伯子。成保保。郭阿毛。李保藏。王禮。淳于信。趙畏。孫楷。
秦弘等。奉爲皇太后。皇帝皇后。七世父母。敬造。垂拱四年
二月廿日造。

七三、周皇甫仁造阿彌陀像記 永昌元年五月七日

西曆六八九

1 佛弟子皇甫仁。爲女四娘去。永昌元年五月七日亡。敬
造阿彌陀像一軀。上爲聖母皇帝。師僧父母。法界倉生。
現存眷屬。共同斯福。

七四、周周行有造觀音像記 天授二年

西曆六九一

1 周行有。造觀音像。願法界衆生。供同斯福。天授二年造。

七五、周行文昌主事王氏造阿彌陀像記 天授二年

西曆六九〇—六九二

1 周行文昌。主事王氏。造阿彌陀像。天授二年。西曆六九〇—六九二
、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、
鋪。天授二年。月十、

七六、唐辛六娘造菩薩兩區記 神龍二年三月八日

西曆七〇六

1 神龍二年三月八日。弟辛六娘。爲兄及病
在床。枕敬造菩薩兩區。一切苦得。

七七、唐比丘尼淨元造弥勒觀音記 天寶十三年四月廿日

西曆七五四

(前數行) 區法界衆生。天寶十三載四月廿日。比丘尼淨元。三世父母。
造弥勒佛一。寶稜知。共弥。佛曰。下生。造觀音。區願法。、、、
、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、

願子¹衰命、

五五、爲皇帝陛下造像記

□¹帝陛下…²父母一切…³、□於識苦惱衆…⁴□速登无上至妙之…⁵樂。

五五、爲七世父母造像記

□¹人間殊毒異世後、願七世父母見存父□…²合家大小因緣眷屬俱登三會。

五五、楊道衰供養記

清信佛弟…²子楊道衰…³供養佛時。

五五、社老劉□□等題名

社老劉□□¹社□…²宗應社人魏知□…³張守忠路瓊之…⁴楊玄敬嚴藥師…⁵白思貞孫元爽…⁶焦田貞張元治…⁷張郎子李伽奴。

五五、社老李懷璧等題名

社老李懷璧…²錄事張神劍…³任劉祥…⁴王思禮…⁵達奚思九…⁶高行敦…⁷梁元禮…⁸毛元昉…⁹侯元禮…¹⁰申文幹…¹¹成思暉。

平正嚴知慎…^{2a}楊瓊璋…^{3a}宋楚玉…^{4a}班元禮…^{5a}康玄智…^{6a}董道真…^{7a}梁大賓…^{8a}皇甫元暉…^{9a}崔承禮…^{10a}張守質。

□^{1b}□^{2b}劉崇讚^{3b}段□^{4b}杜元禮…^{5b}劉文哲…^{6b}徐令斌…^{7b}尹懷恪…

陳法衆…^{8b}乾客。

〔校記〕 (一)□□、(二)段□ハトモニ補正ニヨル、段ハ字體細ク異ル

五五、介休縣功曹軍主尤道榮等造像記

邑主介休縣功曹軍主尤道榮侍佛時□□、…²供養主介休縣

主薄別將上官延□□佛時、…³邑子王□貴邑子蘇顯、…

邑子樂任淵邑子張道、…⁵邑子翟黑兒、…⁶□像主張洪

昌、…⁷、…⁸延、…⁹、…¹⁰元和、…¹¹、…¹²難陀、…¹³、…

張延芝…¹¹邑子正伏虎都督樂元愷…¹²維那伏虎都督張永貴…

維那伏虎都督關韓仕…¹⁴右箱菩薩主統軍師叔和…¹⁵右箱菩薩

主郭長□…¹⁶右箱菩薩主王顏懷…¹⁷右箱菩薩主張子淵…¹⁸阿

難主張悉達…¹⁹阿難、…²⁰阿難、…²¹阿、…²²阿、…

〔校記〕 (一)顯 (二)邑子正ノ三字 (三)愷 (四)和 (五)張悉ノ二字ハミナ補正

ニヨル (六)以下補正ニヨル

八〇、比丘僧紹合邑造釋迦像記

釋迦像…²、…³護法…⁴、…⁵過現…⁶含識。

比丘僧紹邑子…⁶邑子方男勝…⁷邑子李勝美…⁸邑子王洛林。

邑子、…⁹邑子馬清、…¹⁰邑子新□、…¹¹邑子宋□、…¹²邑

子吉妃…¹⁴、…¹⁵、…¹⁶邑子尹小姿…¹⁷邑子范令暉…

邑子張醜…¹⁹子朝妃…²⁰、…²¹范妃…²²□□麻令姿…²³子王

洛樹…²³、…²⁴、…²⁵邑子李買。(銘ノ左行ス)

八〇、李用村題記

□州、…¹縣□陽李用村?

、…²、…³領。

八〇、文水武玄題記

、…¹、…²文水、…³武玄、…⁴合、…⁵□、…

一〇、雜錄

唐雍州牧魏王泰造石窟記 貞觀十五年 岑文本撰 楷遂良書 賓陽洞 西曆六四一

伊闕佛龕之碑

夫藏室延閣之舊典。蓬萊宛委之遺文。其教始於六經。其流分於百氏。莫不美天地爲廣大。嘉富貴爲崇高。備物致用。則上聖□其發育。御氣乘雲。則列仙體其變化。茲乃盡域中之事業。殫方外之天府。踰繫表而稱篤論。帝先而謂竊神。豈非徇姦漫於埴井者。未從海若而泳天池也。矜峻極於塊阜者。未託山祇而窺地軸也。焉譏夫無邊慧日。垂鴻暉於四衢。無相法寶。韞善價於三藏。泊乎出器之外。寂焉超筌蹄之表。三界方於禹跡也。猶大林之匹豪端。四天視於侯服也。若龍宮之方蝸舍。升彼岸而捨六度。則周孔尙溺於沈淪。證常樂而捐一乘。則松高莫追其軌。徹由是見真如之寂滅。悟俗諦之幻化。八儒三墨之所稱。其人填邱隴矣。柱史園吏之所述。其旨猶糠粃矣。若夫七覺開。八正分塗。離生滅而降靈。排色空而現相。唯妙也。掩室以標其實。唯神也。降魔以顯其權。故登十号而御六天。絕智於無形之地。遺三明而冥五道。應物於有爲之域。是以慈悲所及。跨恒沙而同跬步。業緣既啓。積僧祇而比崇朝。故能使百億日月蕩無明於大夜。三千法界。濟法雲於下土。然則功成道樹。非鍊金之初。跡滅堅林。豈斷籌之末。功既成。俟奧典而垂範。跡既滅。假靈儀而圖妙。是以載雕金玉。闡其化於迦維。載飾丹青。發其善於震旦。繩繩乎。方便

之力至矣。巍巍乎。饒益之義大矣。

文德皇后道高軒

曜德酌坤儀。淑聖表於無壘。柔明極於光大。沙麓蕃祉。塗山發祥。來翼家邦。嗣徽而贊王業。聿修陰教。正位而叶帝圖。求賢顯重輪之明。逮下彰厚載之德。忠謀著於房闈。孝敬申於宗祀。至誠所感。清朗魄於上。至柔所被。蕩震騰於下。心繫憂勤。行歸儉約。胎教克明。本枝冠於三代。闡政攸叙。宮掖光於二南。陋錦繪之華。身安大帛。賤珠玉之寶。志絕名璫。九族所以增陸。萬邦所以至道。宏覽圖籍。雅好藝文。酌黃老之清靜。窮詩書之溥博。立德之茂。合大兩儀。立言之美。齊明五緯。加以宿殖。遠因早成。妙果降神。渭涘明四諦以契無生。應蹟昭陽。馳三車以濟有結。故縣區表刹。布金猶須達之園。排空散花。踊現同多寶之塔。諒以高視四禪。俯輕末利。深入八藏。顧蔑勝鬘。豈止蓋降揚蕤。軼有媯之二女。載祀騰實。越高辛之四妃而已哉。左武侯大將軍相州都督雍州牧魏王體明德以居宗。膺茂親而作屏。發暉才藝。兼苞禮樂。朝讀百篇。摠九流於學海。日摘三賦。備萬物於詞林。驅魯衛以鑿。馭梁楚使扶轂。長人稱善。應乎千里之外。通神曰孝。橫乎四海之濱。結巨痛於風枝。纏深哀於霜露。陽陵永翳。懷鏡匱而不追。闕宮如在。望階除而增慕。思欲弭節。驚岳申陟。屺之悲。鼓柅龍池。寄寒泉之思。方願捨白亭而遐舉。瑩明珠於兜率。度黃陵而撫運。蔭寶樹於安養。博求報恩之津。歷選集靈之域。以爲百王建國。圖大必揆於中州。千尊託生成道。不於邊地。惟此三川寔總。六合王城設險。曲阜營定鼎之基。伊闕帶桐。文命關襄陵之穹。

遇。譬彼投針。人世…¹⁶易遷。同茲斲石。何則。釋迦現於既往。仰企踵而不追。彌勒降於將來。…¹⁷俯翹足而難俟。居前後而成郭。惟進退而莫逢。言念沈淪。喟然歎息。…¹⁸乃與同志百餘人等。上願…¹⁹皇基永固。配穹天而垂拱。下使幽塗載曉。趣彼岸而清昇。遂於茲嶺。…²⁰敬造彌勒像龕一所。地聳雙闕。壁映千尋。前泝清流。却倚重岫。縈帶…²¹林簿。密邇京華。似耆山之接王城。給園之依衛國也。既資勝地。又屬…²²神工。疏鑿彫鐫。備盡微妙。以大唐貞觀二十二年四月八日。莊嚴斯…²³畢。於是尊儀始著。似降兜率之宮。妙相初成。若在菩提之樹。白豪月…²⁴照。紺髮煙凝。蓮目疑動。葉脣似說。其有禮□□足瞻。仰尊顏者。莫不…²⁵肅然。毛豎。豁爾心開。寔釋梵所歸。依龍天所衛護。彼丹青徒煥。旋見…²⁶銷毀。金玉雖彌。易以零落。豈若因山成固。同乾坤之可久。刊石爲貞。…²⁷何陵谷之能賀。於是勒銘龕右。式繼靈儀。其詞曰。真如妙妙。…²⁸正覺巍巍。四弘動念。八相流輝。鹿園闡法。鶴樹拂衣。十方三世。異軫…²⁹同歸。一其猗歟。逸多。正真道備。踵彼遐武。補茲佛位。兜率降神。闍浮廣…³⁰利。淨土□啓。玄門罔闕。…³¹思觀聖容。龕茲巖曲。既彫既就。將起將囑。…³²釋梵冥感。靈祇幽屬。似會龍華。如遊雞足。…³³丹巖重疊。清川滉漾。松…³⁴桂檜叢。聖仙來往。影留怖鶴。手威狂象。妙色湛然。歷劫瞻仰。…³⁵劉君解。衛文徹。張貴才。劉定國。國武幹。…³⁶潘少卿。張元壽。楊世師。楊摩侯。張騷。…³⁷李大通。李修羅。游士通。趙君才。段君言。…³⁸范君雅。劉志廓。李仁楚。陳苟奴。陳□才。…³⁹米仁表。段文英。張世威。史智該。裴六英。…⁴⁰田志廓。張君彥。郭行滿。仇善才。施道通。…⁴¹王老生。翟善

願。范元行。國武□。姚□道。…⁴⁰郎德素。李道□。侯文達。李僧壽。樂嘉會。…⁴¹劉慈善。張行徹。潘客僧。彭清仁。衛業覺。…⁴²王行均。李文素。宋玄顛。郭德表。章承禮。…⁴³宋師邦。范世寬。耿君遇。蔡玄應。王郎廓。…⁴⁴達。奚世師。崔貴本。宋文恭。栢滿才。高智威。…⁴⁵劉德徹。裴君祭。王世謙。寇如意。閻德輝。…⁴⁶郭志玄。單君信。王武士。李奉義。李行□。…⁴⁷張士□。王武士妻陳□。妻董。裴英母趙。…⁴⁸衛徹妻張。張才妻李。國幹妻馬。張彥母梁。彥姨梁。…⁴⁹劉解妻王。段雅母郝。姬推妻程。閻操母任。□世師母□。…⁵⁰崔謨母郝。清信女張玉。路滿母劉。張昌母宋。清信女□。…⁵¹餘愛妻費。李義妻皇甫。西門世母賈。魏通妻張。宋毛母趙。…⁵²司馬表妻王。李羅妻□。羅素母畢。陳苟妻樂。張威妻李。…⁵³張龕母李。王策妻董。清信女吳。清信女崔。房慶妻劉。…⁵⁴清信女張。清信女皇甫。清信女蘇。蓋珉妻釋。清信女郭。…⁵⁵王謙妻西門。袁會母常。羅敏妻宋。姚通妻董。清信女□。…⁵⁶楊侯妻杜。段雅妻張。劉徹母呂。國進妻王。施通妻母楊。…⁵⁷劉國妻段。游通妻王。段言妻趙。李楚妻左。張表妻郭。

〔校記〕 (一)林八沙碗ニヨル (二)工八萃編ニヨル (三)是八沙碗ニヨル

(四)然八萃編ニヨル (五)右八沙碗ニヨル

八〇五、唐前祕書少監章利器等造阿彌陀像記 開元三年八月十日 老龍洞 西曆七一五

1 大彌陀等身像一鋪。銀青光祿大夫昭文館學士丘悅贊。…
2 前祕書少監章利器。前遂州刺史利賓。前藍田尉利涉。奉爲
…亡妣故扶陽郡大夫人天水趙氏所造。夫人故司列少常伯
仁…⁴本之女。今左威衛將軍東都副留守諫之姉。夫人幼柔婉。

蘭玉竝秀。龍虎□□□□在堂已六子從政。陷九層而不遠□
□□而…¹⁹何期風樹忽驚□□□□業載弘不朽□
□□□子四、…²⁰□□□豈其、…、
、、、、、、、、、、、、、、、、
□□□□□與佛是圖、…、、、、、猶…²²、
、、、、、、、、、、、、、、、、、

〔校記〕 (一)大村ハコノ官名ヨリ開元十一年以前ト推定ス (二)典ハ補正

(三)微ハ補正

八二〇、宋三班借職監伊河竹木務丁裕等題記 左行 奉先寺

天聖四年三月二十六日

西曆一〇二六

¹西京龍門山大像龕題名…²三班借職監伊河竹木務…³兼本鎮
煙火修整石佛石…⁴道公事丁裕與弟祐并仲…⁵子觀東鄉友功
史顏翰安…定胡汎同至此…⁷大宋天聖四年丙寅三月…⁸二十
六日裕書鐫字李遇。

八二一、王寶泰趙玄勣等造西方淨土佛龕記 延載元年八月三十日 淨土洞 西曆六九四

、、、、、、、、、、銘…²夫□□□□□□□□
佛國混同。詎有東…³□□異□□□□□□蓋是至仁□物大
權闡…⁴應分□□□□□□□□之要□□使厭苦欣樂…⁵□□
之而□□□□□□者□□□□敬暫觀寶…⁶必得□□□□
□□永無□□□□機利□不可…⁷□□□□玄等□□
□□族在十室□□…⁸□□□□□□□□貞而□□□□晦跡塵
肆□□…⁹□□□□□□□□□□轉輪馭寓十□□□□¹⁰□□

龍門石刻錄錄文

□□□□□□□□用咸識歸依之所共。□□…¹¹向之□□□□
□□入□那僉彫琢之良工。擇…¹²山川□□□□□□
室号之曰西方淨…¹³土。□□□□□□□□
□□十…¹⁴一□□□□□□□□年歲次甲午八月壬子朔卅…¹⁵□□
□□□□□□磨礪之巧極彰施之麗山豪海…¹⁶□□□□樹
花臺莊嚴具足。日月經而歛陷…¹⁷□□□□采加以東西長津
澄流括地而□□…¹⁸□□□□北對城闕而雲浮南屬郊原而
經起…¹⁹□□□勝此□第一銘曰…²⁰□□□隔□悟卽是西方。豈
遇行成孔深□□□□…²¹□□穢此諸佛隨機寄遠明彼十萬億
□□□□…²²□□□善哉信士依教修行觀彼世界欣其□□廼…
□□琢式□財成棟宇輪煥相好光明奇□□巧…²⁴□□驚託
禹貢之陳跡正佛土之嘉名□□可…²⁵□□劫傳聲。

^{25a}田芝劉欒李彥望何揜孫判張惠伯□。

²⁶王寶泰趙玄勣湯仁義張處忠□□□□劉山藏趙思言董思懋
李義成□□仁…²⁸劉思禮皇甫行琛丁長壽趙仁演趙仁賢…²⁹趙
仁智靳思莊侯思敬侯思禎□師利…³⁰貴暴忠成元嘉成玄方侯
玄藏焦神力…³¹王思恭唐思慎王餘慶賀思禎李法藏…³²龐璋
賈玄亮公孫暉□令溫張□明…³³皇甫暎何善德吉阿□□□
李□忠…³⁴郭懷讓李敬忠宋□□□僧□□胡…³⁵趙懷策王弘
義王□□□□□□□□□□…³⁶陳阿清□劉八斬□□□□胡□□
□□…³⁷劉弘詮楊思貞宋□□□□張行眞王思暎…³⁹王思忠權文幹
…⁴⁰□□□侯阿曾…⁴¹孫□□朱玄□□…⁴²王□□□…⁴³鄧□惠…⁴⁴楊彥

三二七

…舜海。既而沐茲鴻造。想荷恒深。整臣禮而寫眞容。申孝仁而圖淨域。奉爲

8 天皇天后太子諸王。遠劫師僧。七代父母。敬造阿彌陀石像一龕。今得成。就。素毫融質。囑三界而凝明。聖衆乘心。覃太虛而應物。祥花捧座。延勝福。於花臺。寶樹流光。證慈光於道樹。蓮開碧沼。瑩朝日以增暉。聚月分容。關昏衢而永旦。用斯功德。保祚皇基。兼被幽明。同歸福海。豎通有頂。惣契无生。傍亘無邊。俱昇淨境。

13 大唐上元二年十二月八日功。

〔校記〕（一）契无生傍ノ四字ハ補正ニヨル

八四、佛說阿彌陀經 姚秦鳩摩羅什譯 左行

1、皆是阿羅漢。衆所知識。長老舍利弗、…、2、寶頭盧頗羅墮。迦留陀夷。摩訶劫賓那、…、3、乾陀訶提菩薩。常精進菩薩。與如是等諸大菩薩、…、4、有世界名曰極樂。其土有佛。号阿彌陀。今現在說法、…、5、又舍利弗。極樂國土。七重欄楯。七重羅網。七重行樹。皆是四寶圍匝。圍繞、…、6、八功德水。充滿其中。池底純以金沙布地。四邊階道。金銀琉璃。頗梨合成、…、7、池中蓮花。大如車輪。青色青光。黃色黃光。赤色赤光。白色白光。微妙香潔、…、8、彼佛國土。常作天樂。黃金爲地。晝夜六時。而雨曼陀羅花。其國衆生。常以清旦、…、9、還到本國。飯食經行。舍利弗。極樂國土。成就如是功德莊嚴。復次舍利弗。彼國常有種種奇妙雜色之鳥、…、10、其命之鳥。是諸衆鳥。晝夜六

龍門石刻錄錄文

時。出和雅音。其音演暢。五根五力。七菩提分。八聖道分、…

11、念僧。舍利弗。汝勿謂此鳥實是罪報所生。所以者何。彼佛國土。无惡道、…、12、是諸衆鳥。皆是阿彌陀佛。欲令法音宣流。變化所作。舍利弗。彼佛國土。微風吹動。諸寶行樹。及寶羅網、…、13、聞是音者。皆自然生。念佛念法念僧之心。舍利弗。其佛國土。成就如是功德莊嚴、…、14、彼佛光明無量。照十方國。無所障礙。是故号爲阿彌陀。又舍利弗。彼佛壽命。及其人民。無量無邊阿僧祇劫、…、15、阿彌陀佛。成佛已來。於今十劫。又舍利弗。彼佛有无量无边聲聞弟子。皆阿羅漢。非是算數之所能知、…、16、成就如是功德莊嚴。又舍利弗。極樂國土。衆生生者。皆是阿鞞跋致。其中多有一生補處者。應當發願。願生彼國。所以者何。得與如是諸上善人。俱會一處、…、17、但可無量无边阿僧祇劫。舍利弗。衆生聞彌陀佛。執持名号。若一日。若二日。若三日。若四日、…、18、其人臨命終時。阿彌陀佛。與諸聖衆。現在其前。是人終時。心不顛倒。即得往生。阿彌陀佛。極樂國土。舍利弗、…、19、聞是說者。應當發願。生彼國土。舍利弗。如我今者。讚歎阿彌陀佛。不可思議功德。東方亦有阿閼鞞佛、…、20、妙音佛。如是等恒河沙數。諸佛。各於其國。出廣長舌相。遍覆三千大千世界。說誠實言。汝等衆生。當信、…、21、所護念經。舍利弗。南方世界。有日月燈佛。名聞光佛。大焰肩佛。須彌燈佛。無量精進佛。如

今發願。當發願。欲生阿彌陀佛國者、皆得不退轉。於阿耨多羅三藐三、於彼國土。若已生。若今生。若當生。是故舍利弗。諸善男子善女人。若有信者。應當發願。生彼國土。舍利弗。如我今者。稱讚諸佛不可思議功德。彼諸佛等。亦稱說我不可思議功德。而作是釋迦牟尼佛。能為甚難希有之事。能於娑婆國土。五濁惡世。劫濁見濁。煩惱濁。衆生濁。命濁中。得阿耨多羅三藐三菩提。為諸衆生。說是一切世間難信之法。舍利弗。當知。我於五濁惡世。行此難事。得阿耨多羅三藐三菩提。為一切世間。說此難信之法。是為甚難。佛說此經。已。舍利弗。及諸比丘。一切世間。天人阿脩羅等。聞佛所說。歡喜信受。

〔校記〕 (一)名字下。大正藏經本及宋元明刊本。ハ爲ノ字アリ。(二)是字ノ下。名者ノ上。マデ七字。大正藏經本。ハ經受持者及聞諸佛ノ八字ニ作ル。(三)是字ノ下。大正藏經本。宋元明刊本。ハ言ノ字ヲ入ル。(四)受字ノ下。同ジク作禮而去ノ四字アリ。

二六 金剛般若波羅蜜經 北魏菩提流支譯

云何。如來有所說法。不須菩提言。世尊。如來无所說法。須菩提。於意云何。三千大千世界。所有微塵。是為多不。須菩提言。彼微塵甚多。世尊。佛言。須菩提。是諸微塵。如來說。非微塵。如來說。世界非世界。是名世界。佛言。須菩提。於意云何。可以卅二大人相見。如來不須菩提言。不也。世尊。何以故。如來說。卅二大人相。卅二大人相。佛言。須菩提。若有善男子善女人。以恒河沙等。身命布施。若復有人。於此法門中。乃至受持四

句。偈等。為他人說。其福甚多。无量阿僧祇。爾時須菩提。聞說是經。深解義趣。涕淚悲泣。捫淚而白佛言。希有。婆伽婆。希有。脩伽陀。佛說如是甚深法門。我從昔來。所得慧眼。未曾得聞如是法門。何以故。須菩提。佛說般若波羅蜜。即非般若波羅蜜。世尊。若復有人。得聞是經。信心清淨。則生實相。當知是人。國國第一。希有功德。世尊。是實相者。則是非相。是故如來說。名實相。實相。世尊。我今得聞如是法門。信解受持。不足為難。若當來世。其有衆生。得聞是法門。信解受持。是人則為第一。希有。何以故。此人無我相。人相。衆生相。壽者相。何以故。我相。卽是非相。人相。衆生相。壽者相。卽是非相。何以故。離一切諸相。則名諸佛。佛告須菩提。如是如是。若復有人。得聞是經。不驚不怖不畏。當知是人。甚為希有。何以故。須菩提。如來說。第一波羅蜜。非第一波羅蜜。如來說。第一波羅蜜者。彼無量諸佛。亦說波羅蜜。是名第一波羅蜜。須菩提。如來說。忍辱波羅蜜。卽非忍辱波羅蜜。何以故。須菩提。如我昔為歌利王。割截身軀。我於爾時。無我相。無衆生相。無壽者相。無相。亦非無相。何以故。須菩提。我於往昔。節節支解。時若有我相。衆生相。人相。壽者相。應生瞋恨。須菩提。又念過去。於五百世。作忍辱仙人。於爾所世。无我相。无衆生相。无壽者相。是故須菩提。菩薩應離一切相。發阿耨多羅三藐三菩提心。何以故。若心有住。則為非住。不應住色。生心。不應住聲香味觸法。生心。應生無所住心。是故佛說。菩薩心不住色。布施。須菩提。菩薩為利益一切衆生。應如是布施。須菩提言。世尊。一切衆生相。卽是非相。何以

故如來說一切衆生卽非衆生。須菩提。如來是真語者。實語者。如語者。不異語者。須菩提。如來所得法。所說法。無實無妄語。須菩提。譬如有人入闇。則無所見。若菩薩心住於事而行布施。亦復如是。須菩提。譬如人有目。夜分已盡。日光明照。見種種色。若菩薩不住於事行於布施。亦復如是。復次須菩提。若有善男子善女人。能於此法門受持讀誦。脩行。則爲如來以佛智慧。悉知是人。悉見是人。悉覺是人。皆得成就無量無邊功德。聚須菩提。若有善男子善女人。初日分。以恒河沙等身布施。中日分。復以恒河沙等身布施。後日分。復以恒河沙等身布施。如是捨恒河沙等無量身。如是百千萬億那由他劫。以身布施。若復有人聞此法門信心不謗。其福勝彼。無量阿僧祇。何況書寫受持讀誦。脩行。爲人廣說。須菩提。以要言之。是經有不可思議不可稱量無邊功德。此法門如來爲發大乘者說。爲發最上乘者說。若有人能受持讀誦。脩行此經。廣爲人說。如來悉知是人。悉見是人。皆得成就不可思議不可稱量無量功德。聚。如是人等。則爲荷擔如來阿耨多羅三藐三菩提。何以故。須菩提。若樂小法者。則於此經不能受持讀誦。脩行。爲人解說。若有我見。衆生見。人見。壽者見。於此法門能受持讀誦。脩行。爲人解說者。無有是處。須菩提。在在處處。若有此經。一切世間天人阿脩羅所應供養。當知此處。則爲是塔。皆應恭敬作禮。圍繞。以諸華香而散其處。復次須菩提。若有善男子善女人。受持讀誦此經。爲人輕賤。何以故。是人先世罪業應墮惡道。以今世人輕賤故。先世罪業。則爲消滅。當得阿耨多羅三藐三

菩提。須菩提。我念過去天量阿僧祇阿僧祇劫。於然燈佛前。得值八十四億那由他百千萬諸佛。我皆親承供養。無空過者。須菩提。如是無量諸佛。我皆親承供養。無空過者。若復有人於後世末世。能受持讀誦。脩行此經。所得功德。我所供養諸佛功德。於彼百分不及一。千萬億分乃至算數譬喻所不能及。須菩提。若有善男子善女人。於後世末世。有受持讀誦。脩行此經。所得功德。若我具說者。或有人聞心則狂亂。疑惑不信。須菩提。當知是法門不可思議。果報亦不可思議。爾時須菩提。白佛言。世尊。云何菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心。云何住。云何脩行。云何降伏其心。佛告須菩提。菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心者。當生如是心。我應滅度一切衆生。令人無餘涅槃界。如是滅度一切衆生已。而無一衆生實滅度者。何以故。須菩提。若菩薩有衆生相人相壽者相。則非菩薩。何以故。須菩提。實無有法名爲菩薩。發阿耨多羅三藐三菩提心者。須菩提。於意云何。如來於然燈佛所。有法得阿耨多羅三藐三菩提不。須菩提。白佛言。不也。世尊。如我解。佛所說義。佛於燃燈佛所。無有法得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是如是。須菩提。實無有法如來。於然燈佛所。得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。若有法如來。得阿耨多羅三藐三菩提者。然燈佛則不與我授記。汝於來世。當得作佛。號釋迦牟尼。以實無有法得阿耨多羅三藐三菩提。是故然燈佛與我授記。作如是言。摩那婆。汝於來世。當得作佛。號釋迦牟尼。何以故。須菩提。言如來者。卽實真如。須菩提。若有人言。如來得阿耨多羅三藐三菩提者。是人

實語。須菩提。實无有法。佛得阿耨³⁹。多羅三藐三菩提。須菩提。如來所得阿耨⁴⁰。多羅三藐三菩提。於是中不實不妄語。是故如來說一切法皆是佛法。須菩提。所言一切法。一切法者。即非一切法。是故名一切法。須菩提。譬如有人。其身妙大。須菩提言。世尊。如來說人身妙大。則非大身。是故如來說名大身。佛告須菩提。菩薩亦如是。若作是言。我當滅度無量衆生。則非菩薩。佛言。須菩提。於意云何。頗有實法名爲菩薩。須菩提言。不也。世尊。實无有法名爲菩薩。是故佛說一切法無衆生。無人。無壽者。須菩提。若菩薩作是言。我莊嚴佛国土。是不名菩薩。何以故。如來說莊嚴佛土。莊嚴佛土者。即非莊嚴。是名莊嚴。佛告須菩提。若菩薩通達无我。无法者。如來說名眞是菩薩。菩薩須菩提。於意云何。如來有肉眼。不須菩提言。如是。世尊。如來有肉眼。佛言。須菩提。於意云何。如來有天眼。不須菩提言。如是。世尊。如來有天眼。佛言。須菩提。於意云何。如來有慧眼。不須菩提言。如是。世尊。如來有慧眼。佛言。須菩提。於意云何。如來有法眼。不須菩提言。如是。世尊。如來有法眼。佛言。須菩提。於意云何。如來有佛眼。不須菩提言。如是。世尊。如來有佛眼。佛言。須菩提。於意云何。如來有沙。佛說。是沙。不須菩提言。如是。世尊。如來說是沙。佛言。須菩提。於意云何。如一恒河。中所有沙。有如是等恒河。是諸恒河所有沙。數佛世界。如是世界。寧爲多不。須菩提言。彼世界甚多。世尊。佛告須菩提。爾所世界中所有衆生。若于種心住。如來悉知。何以故。如來說諸心住。皆爲非心住。是名爲心住。何以故。須菩提。過去心不可得。現

在⁵⁰。心不可得。未來心不可得。須菩提。於意云何。若有人以滿三千大千世界七寶。持用布施。是善男子善女人。以是因緣。得福多⁵¹。不須菩提言。如是。世尊。此人以是因緣。得福甚多。佛言。如是。如是。須菩提。彼善男子善女人。以是因緣。得福德聚多。須菩提。若⁵²福德聚有實。如來則不說福德。則福德聚。須菩提。於意云何。佛可以具足色身見不。須菩提言。不也。世尊。如來不應以色身見。何以故。如來說具足色身。即非具足色身。是故如來說名具足色身。佛言。須菩提。於意云何。如來可以具足諸相見不。須菩提言。不也。世尊。如來不應以具足諸相見。何以故。如來說諸相具足。即非具足。是故如來說名諸相具足。佛言。須菩提。於意云何。汝謂如來作是念。我當有所說法。耶。須菩提。莫作是念。何以故。若人言如來有所說法。即爲謗佛。不能解我所說故。何以故。須菩提。如來說法說法。法者無法可說。是名說法。爾時慧命須菩提白佛言。世尊。頗有衆生。於未來世。聞說是法。生信心不。佛言。須菩提。彼非衆生。非不衆生。何以故。須菩提。衆生衆生者。如來說非衆生。是名衆生。佛言。須菩提。於意云何。如來得阿耨多羅三藐三菩提耶。須菩提言。不也。世尊。世尊。無有少法。如來得阿耨多羅三藐三菩提。佛言。如是。如是。須菩提。我於阿耨多羅三藐三菩提。乃至無有少法可得。是名阿耨多羅三藐三菩提。復次須菩提。是法平等。無有高下。是名阿耨多羅三藐三菩提。以无⁵³衆生無人無壽者。得平等阿耨多羅三藐三菩提。一切善法得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。所言善法善法者。如來說非善法。是名善法。須菩提。

三千大千世界中所有諸須彌山王。如是等七寶聚。有人持用布施。若人以此般。若波羅蜜。乃至四句⁶²。偈等。受持讀誦。爲他人說。於前福⁶³。百分不及一。千分不及一。百千萬分不及一。歌羅分不及一。數分不及一。優波尼沙阇分⁶⁴。不及一。乃至算數譬喻所不能及。須菩提。於意云何。汝謂如來。作是念。我度衆生耶。須菩提。莫作是見。何以故。實无有衆生如⁶⁵。來度者。佛言。須菩提。若有實衆生。如來度者。如來則有我人衆生壽者相。須菩提。如來說有我者。則非有我。而毛道凡夫生者。以爲有我。須菩提。毛道凡夫生者。如來說名非生。是故言。毛道凡夫生。須菩提。於意云何。可以相成就。得見如來。不須菩提言。如我解如來所說義。不以相成就得見如來。佛言。如是。如是。須菩提。不以相成就得見如來。佛言。須菩提。若以相成就。觀如來⁶⁷者。轉輪聖王應是如來。是故非以相成就得見如來。爾時世尊而說偈言。若以色見我。以音聲求我。是人行邪道。不能見如來。彼如來妙體。卽法身諸佛。法體不可見。彼識不能知。須菩提。於意云何。如來可以相成就得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。莫作是念。如來以相成就得阿耨多羅三藐三菩提。須菩提。汝若作是念。菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心者。說諸法斷滅相。須菩提。莫作是念。菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心。說諸法斷滅相。何以故。菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心者。不說諸法斷滅相。須菩提。若善男子善女人。以滿恒河沙等世界七寶。持用布施。若有菩薩。知一切法无我得无生法⁷²。忍此功德勝前所得福德。須菩提。以諸菩薩不取福

德。故須菩提白佛言。世尊。菩薩不取福德。佛言。須菩提。菩薩受福德。不取⁷³福德。是故菩薩取福德。須菩提。若有人言。如來若去若來。若住若坐若臥。是人不解我所說義。何以故。如來者无所至去无所⁷⁴。從來故名如來。須菩提。若善男子善女人。以三千大千世界微塵。復以爾許微塵世界。碎爲微塵。阿僧祇。須菩提。於意云何。是微⁷⁵塵。衆寧爲多。不須菩提言。彼微塵衆甚多。世尊。何以故。若是微塵衆實有者。佛則不說是微塵衆。何以故。佛說微塵衆則非微⁷⁶塵。衆是故佛說微塵衆。世尊。如來說三千大千世界則非世界。是故佛說三千大千世界。何以故。若世界實有者。則是一合相。如來說一合相。則非一合相。是故佛說一合相。佛言。須菩提。一合相者。則是不可說。但凡夫之人貪着其事。何以故。須菩提。若人如是言。佛說我見人見衆生見壽者見。須菩提。於意云何。是人所說爲正語。不須菩提言。不也。世尊。何以故。世尊。如來說⁷⁹。我見人見衆生見壽者見。卽非我見人見衆生見壽者見。是名我見人見衆生見壽者見。須菩提。菩薩發阿耨多羅三藐三菩提心者。於一切法。應如是知。如是見。如是信。如是不住法相。何以故。須菩提。所言法相。法相者。如來說卽非法相。是名法相。須⁸¹菩提。若看菩薩摩訶薩。以滿無量阿僧祇世界七寶。持用布施。若有善男子善女人。發菩薩心者。於此般若波羅蜜經。乃至四⁸²句偈等。受持讀誦。爲他人說。其福勝彼無量阿僧祇。云何爲人演說。而不名說。是名爲說。而說偈言。一切有爲法。如星鬘燈幻。露泡夢電雲。應作如是觀。佛說是經已。長老須菩提。及諸比丘比丘

尼優婆塞。優婆夷。善。薩摩訶薩。一切世間天人阿脩羅乾闥婆等。聞佛所說。皆大歡喜。信受奉行。諸佛希有總持法。不可稱量深句義。□□□□廣說。迴此福德。施羣生。

〔校記〕(一)佛言二字。大正藏經本等缺。(二)大正藏經本。宋刊本八名。二作ル

(三)大正藏經本等ハ受ニ作ル (四)德字下。大正藏經本等ハ聚ノ字アリ

(五)大正藏經本等ハ念ニ作ル (六)菩薩以下斷滅相マデ十九字。大正藏

經本。宋刊本ハ缺ク。元。明刊本ハ更ニ何以故ノ三字モ缺除ス (七)諸佛

希有以下。宋。元。明刊本。大正藏經本ハ缺ク

六七、六門陀羅尼經 唐玄奘譯 所在不詳

六門陀羅尼經。如是我聞。一時薄伽梵。在淨居天上。依空而住。衆妙七寶莊嚴道場。與無央數菩薩衆俱。爾時世尊。告諸菩薩善男子。若欲利益安樂衆生。汝當受此六門陀羅尼法。謂我流轉於生死中。諸所受苦。勿令衆生同受斯苦。諸有所受。富貴世樂。願諸衆生同受斯樂。我所作惡。若未先悔。終不發言。稱無上法。我諸所有衆魔之業。若未先覺。終不舉心。緣無上法。我諸所有波羅蜜。多所攝。一切世及出世廣大善根。願諸衆生。皆當速證。無上智果。我證解脫。亦願衆生。皆得解脫。勿令住着生。死涅槃。陀羅尼曰。懺謎懺謎。羸諦羸諦。跋迭麗跋迭麗。蘇跋迭麗。蘇跋麗。諦誓諦誓。戰迭麗戰迭麗。戰迭羅伐底。低殊伐底。達摩伐底。薩縛結隸。毗輸達你。薩縛阿刺託。娑達你未諾。僧輸達你娑訶。若有淨信善男子善女人。能於日夜六時。讀誦如是六門陀羅尼者。此人一切業障。皆悉銷滅。疾悟阿耨多羅三藐三菩提。時薄伽梵。說是經已。一切大衆。皆隨

龍門石刻錄錄文

摩訶薩。及諸天衆。聞佛所說。皆大歡喜。信受奉行。

〔校記〕(一)大正藏經本。宋。元。明刊本ハ著ニ作ル (二)謎字下ニ大正藏經本。宋。元。明刊本ハ反切アリ (三)蘇字大正藏經本ハ蘇ニ作ル (四)底下ニ大正

藏經本。宋。元。明刊本ハ反切アリ (五)大正藏經本ハ備ニ作ル。以下同ジ

(七)人下ニ大正藏經本ハ所有ノ二字アリ (八)大正藏經本。宋。元。明刊本

ハ消ニ作ル (九)大衆二字。大正藏經本。宋。元。明刊本ハナシ

六八、般若波羅蜜多心經 唐玄奘譯 東山播鼓台中洞

般若波羅蜜多心經。觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識亦復如是。舍利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。是故空中無色。無受。想行識。無眼耳。鼻舌身意。無色。聲。香味。觸法。無眼界。乃至無意識界。無無明。亦無無明盡。乃至無老死。亦無老死盡。無苦集滅道。無智。亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多故。心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠離顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅蜜多。是大神呪。是大明呪。是無上呪。是無等等呪。能除一切苦。真實不虛。故說般若波羅蜜多呪。卽說呪曰。揭諦揭諦。般若揭諦。般若揭諦。般若揭諦。般若揭諦。

菩提莎婆訶

〔校記〕(一)莎婆二字。大正藏經本ハ僧莎ニ作リ。宋。元。明刊本ハ薩婆ニ作ル

六九、付法藏因緣傳 北魏曇曜譯 東山播鼓台中洞

A 佛付摩訶迦葉第一。昔婆伽婆。於無量劫。爲衆生故。求最勝

三三五

道…成就種々難行苦行…捨所愛身。頭目髓腦…圍城妻子。宮殿臣妾。投巖赴火。斬截身體。或時有爲一四句偈。剝皮爲紙。折骨爲筆。以血爲墨。書寫供養。諸學明師。稟受諸佛。悲傷羣生。勞謙累德。脩萬善行。發弘誓願。如五百本生經中廣說。本學具足。垂成正覺。菩提樹下。踟躕而坐。第六天。魔深生愁毒。念其道成必當勝我。即率官屬十八萬億。詣樹王下。謂菩薩曰。汝今宜可速起還宮。若不爾者。當持汝足。擲大海外。爾時菩薩如師子王。心無驚畏。告言波旬。汝曾供養一辟支佛。受八戒齋。由斯福故。爲大天王。然我已於阿僧祇劫。具足成就難行苦行。大地未有如針鋒許非吾昔日脩苦行處。假使魔衆如恒河沙。不能動我之一毛。云何汝今欲以吾身擲大海外。魔復言曰。我於往昔。施辟支佛。得爲天主。斯事可明。今汝所說。以何爲證。於是菩薩曳手指地。曰。此知我爾時地神。從金剛際踊身而出。合掌白言。誠如尊教。有此地來。我爲其神。此地無有如針峯許。非是菩薩本行之處。魔聞斯言。顛倒如墮。破魔軍已。成最正覺。三達獨照。六通無礙。具足大悲。辯才無盡。所可宣說。人皆信受。暢微妙法。拯濟羣生。譬如金剛所擬摧懷。如來教門亦復如是。能滅衆生煩惱。諸結遍遊。囹圄土聚。落城邑。以清淨法。拔衆毒刺。降伏外學。立最勝幢。閉惡趣門。開涅槃道。化緣將畢。當滅度。告大弟子摩訶迦葉。汝今當知。我於無量阿僧祇劫。爲衆生故。勤脩苦行。一心專求。無上勝法。如我昔願。今已滿足。迦葉當知。譬如密雲。充遍世界。降注甘雨。生長萌芽。無上法雨。亦

復如是。能令衆生。增善根子。所以諸佛。常加守護。恭敬讚歎。禮拜供養。如我今者。將般涅槃。以此深法。用囑累汝。汝當於後。敬重我意。廣宣流布。無令斷絕。迦葉白言。誠如尊教。我當如是。奉持正法。使未來世。皆蒙饒益。

〔校記〕大正藏經本九五〇二九七頁上ヲ以ツテ校スルニコノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ別ニ第一行ノ文ヲ加フ (一)ハ種ニ改メ (二)諸字ハ諸ニ

作リ (三)弘字ハ洪ニ作リ (四)能下ニ傾ノ字アリ (五)曳字ハ申ニ作リ (六)峯字ハ鋒ニ作リ (七)如字ハ而ニ作リ (八)礙字ハ闕ニ作リ

(九)重字ハ順ニ作リ (一〇)皆字ハ等ニ作ル。舊宋本ハ皆ニ作ル。

B

次付、摩訶迦葉。垂涅槃時。以最勝法。付囑阿難。而作是言。長老當知。昔婆伽婆。以法付我。我年老朽。將欲涅槃。世間勝眼。我今相付。汝當精勤。守護斯法。阿難曰。諾。唯然。受教。於是阿難。演暢妙法。化諸衆生。然其宿世。有大功德。智慧深廣。多聞博達。佛所諮。嗟。總持第一。悉能聽受。諸佛法藏。如大巨海。百川斯納。名稱高遠。衆所知識。如是功德。不可思議。

〔校記〕大正藏經本三〇一頁上ヲ以ツテ校スルニコノ拓ハ前後ノ文ヲ省略

シ別ニコノ第一行ヲ加フ (一)我今二字ハ今欲ニ作リ (二)當字ハ可ニ作リ (三)深字ハ淵ニ作リ (四)諸字ハ咨ニ作ル (五)思議ハ窮盡ニ作ル

C

摩訶迦葉。垂涅槃時。告阿難曰。長老於後。若人涅槃。王舍大城。商那和修。高才勇猛。有大智慧。已於過去。故發意入海。採取珍寶。還願作般遮子。爲佛如來。造經行處。復當建立高門樓屋。所爲既訖。可度出家。如

來法藏悉付屬之。是故阿難。臨當滅。而告之曰。佛以法眼。付大迦葉。迦葉以法。屬累於我。如我今者。涅槃時至。以法寶藏。用付於汝。汝可精勤。守護斷法。令諸衆生。服甘露味。商那和脩。答曰。奉教。我當擁護。如斯妙法。普爲一切。作大明炬。

〔校記〕大正藏經本三〇三頁中ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略ス。故字ハナシ舊宋刊本宋元明刊本ハアリ。屬字ハ囑ニ作ル

D

次付。而告之曰。世尊昔遊摩突羅國。願命我言。於此國中。當有長者。名爲毘多。其子號曰優波毘多。於禪法中。最爲第一。雖無相好。化度如我。我滅度後。興大饒益。其所教化。無量衆生。皆悉解脫。得阿羅漢。汝當於後。度令出家。若涅槃者。付其法藏。商那和脩。臨涅槃時。告毘多曰。佛以正法。付大迦葉。迦葉次付吾師阿難。阿難以法。囑累於我。我當滅度。以付於汝。汝可精勤。擁護世眼。優波毘多。唯然受教。於是演暢。無上妙法。光宣正化。濟諸羣生。其德深廣。難可限量。過去久修。無上勝行。雖爲禽獸。當化衆生。摧伏外道。建大法幢。以慈悲雲。普覆一切。如是功德。當略說。

〔校記〕大正藏經本三〇四頁下ニヨツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略

シ、別ニコノ一行ヲ加フ。優字ハ憂ニ作ル。舊宋本宋元明刊本ハ

優ニ作ル。多字ハナシ。深字ハ淵ニ作ル。

E

次付提多比丘第六。優波毘多。而告之曰。慧眼世尊。慈悲普覆。

龍門石刻錄錄文

欲濟衆生。生死大苦。以無量劫。所集諸法。囑累尊者。摩訶迦葉。而作大明。照諸癡闇。普令一切。皆得修學。斷絕愛網。出於欲泥。迦葉次付阿難比丘。阿難滅後。囑累吾師。商那和脩。商那和脩。以付於我。如是相付。所作已辦。涅槃時至。滅度不遠。以此法寶。持以付汝。汝可於後。受持頂戴。勤加守護。无令漏失。演法光明。照愚癡闇。又提多迦。如來涅槃。賢聖隱沒。所有一切。深經寶藏。漸當衰損。墜沒於地。世間昏冥。流轉生死。所以者何。昔在吾師。商那和脩。既滅度後。七萬七千本。生諸經。滿具一萬阿毗曇。藏凡有八萬清淨毗尼。如斯等法。悉皆隨滅。一人涅槃。衆法皆衰。滅况多賢聖。俱皆滅度。淨妙勝法。无遺餘。是故我今。慙勤付汝。汝當至心。敬順我意。於諸衆生。起大悲想。受持流布。無令斷絕。提多迦言。敬受尊教。我當擁護。如斯正法。爲未來世。行不請之有。

〔校記〕大正藏經本三一三頁下ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略

シ、別ニコノ一行ヲ加フ。眼字ハ日ニ作リ。諸字ハ之ニ作リ

而字ハナシ。明ノ下ハ燈ノ字アリ。出於欲泥ハ出欲淤泥ニ

作リ。相付ノ二字ハ相續常轉法輪。灑甘露味。療煩惱渴然。我今者ノ

十八字ニアタル。以字ハ用ニ作リ。昔在ハ在昔ニ作リ。九具

字ハ足ニ作リ。悉皆ハ皆悉ニ作リ。滅字ハ滅ニ誤ル。舊宋本宋

元明刊本ハミナ誤ラズ。况字ハ況ニ作リ。法字ハ永ニ作リ

勤字ハ勤ニ作リ。五行字ハ作ニ作リ。之有ノ二字ハタ、友

ノ一字ニ作ル

F

次付弥遮迦比丘第七。第七。昔提多迦。臨滅度時。以法付屬。

最大弟…子。名彌遮迦。多聞博達。大有辯才。而告…之曰。佛以正法。付大迦葉。如是展轉。乃至於我。我將涅槃。用付於汝。汝當於後…流布世眼。彌遮迦言。善哉。受教。於是宣…流正法寶藏。令諸衆生。開涅槃道。

〔校記〕大正藏經本三一三頁下ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニコノ第一行ヲ加フ。(一)屬字ハ囑ニ作リ。(二)大有ハ有大ニ作ル

G

次付佛陀難提比丘第八…其彌遮迦。化緣以竟。臨滅度時…復以正法。付尊者佛陀難提。令…其流布。勝甘露味。難提於後。廣宣分別。轉大法輪。摧伏魔怨。

H

次付佛陀蜜多比丘第九…□□垂滅。然後付屬佛陀蜜多…其人德力甚深無量。善巧方便。化諸衆生。令離惡見。趣最勝道。以大智慧。而自莊嚴。演清淨…味。摧滅異學。

〔校記〕大正藏經本三一四頁上ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニコノ一行ヲ加フ。(一)其彌遮迦ノ四字ハナシ。(二)以字ハ已ニ作リ。(三)滅度時ハ當滅度ニ作ル

I

法付脇比丘第十…在昔尊者佛陀蜜多。化緣既訖。將欲捨壽。告一弟子…名脇比丘。汝當於後世。廣敷聖教。化諸衆生。令得解脫。白言。大師。敬承尊教。我當至心守護。正法。彼脇比丘…由昔業故。在母胎中。六十餘年。既生之後。鬚髮皆白。厭惡五欲。不樂居家。往就尊者佛陀蜜多。稽首禮足。求在道次。即度出家…爲說法

要。譬如鮮潔白疊。易受染色。便於座上。得羅漢…道。三明照徹。六通無礙。勤修苦行。精進勇猛。未曾以脇至地。而臥。時人即號爲脇比丘。善說法要。化諸衆生。所作已訖。便入涅槃。

〔校記〕大正藏經本三一四頁中ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニコノ第一行ヲ加フ。(一)世字ナシ。(二)誓字ハ皓ニ作ル。(三)潔字ハ淨ニ作ル。(四)疊字ハ氈ニ作ル

J

次付富那奢比丘第十一…彼脇比丘。垂當滅度。告一比丘。名富那奢。長老當知佛法…微妙。有大功德。是故諸聖。頂戴奉持。我受付屬。守護…斯法。今欲涅槃。用累於汝。汝宜至心擁護。受持時…富那奢。答曰。唯然。於是演暢微妙勝法。其所化度。無量衆生。

〔校記〕大正藏經本三一四頁下ハコノ前後ノ文ヲ省略シ、別ニコノ第一行ヲ加フ

K

次付馬鳴菩薩第十二…昔富那奢。臨涅槃時。以法付弟子馬鳴。而告之。譬如閻室。然炬。所有諸物。皆悉照燦…法之明燈。亦復如是。流布世間。能滅癡闇。是故如來。演斯正法。普令一切。皆悉修行。諸賢聖人。常加守護。共相委屬。乃至於我。我以勝眼。持用付汝。汝當於後…至心受持。令未來世。普得饒益。馬鳴…敬諾。當受尊教。於是願宣深奧法藏。建大法幢。摧滅邪見。

〔校記〕大正藏經本三一五頁上ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニコノ第一行ヲ加フ。(一)之字ノ下、曰ノ字アリ。(二)然炬ノ二字ハ燃大明炬ニ作リ。(三)燦字ハ了ニ作リ。(四)屬字ハ囑ニ作ル

L

次付毗羅比丘第十三。馬鳴菩薩臨欲捨壽。告一比丘。名曰毗羅。長老當知佛法淳淨。能除煩惱。汝宜於後。流布供養。毗羅答言。善哉。受教。從是已後。廣宣正法。微妙功德。而自莊嚴。巧說言辭。智慧深遠。外道邪見。無不摧敗。

〔校記〕大正藏經本三一七頁上ヲ以テ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニコノ第一行ヲ加フ。(一)毗字ハ比ニ作リ。(二)淳字ハ純ニ作リ。(三)煩字ノ下ニ惱ノ字アリ舊宋本宋元明刊本ハナシ。(四)毗字ハ比ニ作リ。(五)深字ハ淵ニ作リ。(六)見字ハ論ニ作リ。(七)敗字ハ伏ニ作ル。

M

次付龍樹菩薩第十四。其毗羅當滅時。便以法藏。付一大士。名曰龍樹。然後捨壽。龍樹於後。廣爲衆生。流布勝眼。以妙功德。用自莊嚴。天聰明悟。事不再問。建立法幢。降伏異學。如是功德。不可稱說。初南天竺。出梵志種。大豪貴家。如始生之時。在於樹下。由龍成道。因号龍樹。少小聰哲。才學超世。本童子時。處在緹緜。聞諸梵志。誦四韋陀。其典深博。有四萬偈。各滿足卅二字。皆卽照了。遂向雪山。見一比丘。以摩訶演而授與之。讀誦愛樂。恭敬供養。雖達實義。未獲道證。辯才無盡。善能言論。外道異學。沙門義士。咸皆摧伏。請爲師範。即便自謂。一切智人。心生憍慢。甚大貢高。便欲往從。瞿曇門入。爾時門神。告龍樹曰。今汝智慧。猶如蚊虻。比於如來。非言能辯。無異螢火。齊暉日月。以須彌山等。葶藶子。我觀人者。非一切智。云何欲從此門而入。聞此語已。赧然有愧。時有弟子。向龍樹言。師恒自謂。一切智人。今來屈辱。爲佛弟子。弟子之法。諾承於師。以諸方等。深奧經義。無量妙典。授與龍樹。

九十日中。通解甚多。

〔校記〕大正藏經本三一七頁中ヲ以ッテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ノ標題ト其毗羅ノ三字ヲ加フ。(一)壽字ハ命ニ作リ。(二)明字ハ奇ニ作リ。(三)學字ハ道ニ作リ。(四)說ノ下ニハ今當隨順顯其因緣託生ノ十字アリ。(五)如字ハナシ。(六)緜字ハ抱ニ作リ。(七)卅字ハ三十二作リ。(八)了字ノ下ハ達其句味以下都無得處ニ至ル凡ソ三十八行ニ亘ル長文アリ。(九)演字ハ衍ニ作リ。(一〇)暉字ハ輝ニ作リ。(一一)人字ハ仁ニ作リ。(一二)向字ハ白ニ作リ。(一三)誥字ハ詔ニ作リ。(一四)師字ノ下ハ諸承不足以下開七寶函ニ至ル凡ソ八行ニ亘ル長文アリ。(一五)義字ハ典ニ作リ。(一六)典字ハ法ニ作ル。

N

次付迦那提婆菩薩第十五。龍樹菩薩臨去此世。告大弟子迦那提婆。善男子。聽佛以大悲。感傷衆生。演甘露味。利益來世。次第相付。乃至於我。以欲去世。屬累於汝。當流布。至心受持。提婆敬諾。當承尊教。於宣說眞法寶藏。以智慧力。摧伏異學。博覽淵覽。才辯超絕。擅名天下。獨步諸國。

〔校記〕大正藏經本三一八頁下ヲ以ッテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)以字ハ我ニ作リ。(二)屬字ハ囑ニ作ル。

O

次付羅候羅、迦那提婆。未捨身時。告於尊者羅候。羅曰。婆伽婆。爲度衆生。演暢妙法。利益來世。次第委囑。乃至於我。若滅後。當付於汝。汝宜護持深經寶藏。令諸衆生。普皆蒙益。羅候羅言。善哉。尊者。彼羅候羅。聰慧如是。有善方便。教化衆生。

〔校記〕大正藏經本三一九頁下ヲ以ッテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略

シ、別ニ第一行ヲ加フ候ハ喉ニ作ルル。(一)々字ハ我ニ作り(二)尊者ノ
二字ナク、別ニ受教、改其邪心ニ至ル凡ソ十一行ノ文アリ

P

次付僧伽難提比丘、…、^(二)羅候羅滅度之時、以法付屬尊、
者僧伽難提、令其流、饒益衆、生僧伽難提、有大功德、智慧深
遠、…、修菩薩行、以堅誓願、而自莊嚴、…、超過聲聞緣覺境界。

〔校記〕 大正藏經本(三二〇頁上)ヲ以テ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、
別ニ第一行ヲ加フ。(一)婆ノ上ニ佛ヲ加ヘ。(二)羅候羅滅度之時ノ七
字ハナシ。(三)屬字ハ囑ニ作ル

Q

次付僧迦耶舍比丘第十八、…、僧伽難提捨身已後、有羅漢、名僧
伽耶舍、次受付屬、流布法眼、廣化衆生、…、拯諸苦惱、有大智慧、言
翻清辯、昔雖山家、未證道跡、遊大海邊、見一宮、殿七寶莊嚴、光
明殊勝、僧伽耶舍見食已到、即往彼宮、說偈乞食、飢爲、…、第一病

行爲第一苦、如是知法食、可得涅槃、道是時舍主、即出奉迎、敷置
茵、…、蓐、請入就坐、僧伽耶舍見其家、內有餓鬼、露形黑瘦、飢虛
羸乏、鑱其身手、各着一床、復有一鉢、滿中香飯、以瓶盛水、安置
其側、爾時舍主、即取此食、奉施比丘、語、…、言、大德、慎勿以食與此
餓鬼、爾時比丘、見其餓困、即以少飯、而施與之、鬼得食已、即吐
膿血、遍流在地、汚其宮殿、爾時比丘、恠而問之、此鬼何緣、受斯罪
報、舍主答曰、…、斯鬼前世、一是吾息、一是兒婦、我昔布施、作諸功
德、而彼夫妻、恒懷恚惜、我數教誨、都不納受、因立誓曰、如此罪
業、必獲惡報、若受罪時、我當看汝、由是因緣、得斯苦惱、僧伽耶

舍、周遊大海、遍行觀察、見手地獄、凡有五百、即生厭惡、深患三有、
呵責、…、五欲、甚生怖畏、便作是念、世間造業、終不敗、如影隨形、
誰能捨離、我今、…、應當方便求免、觀察情至、得羅漢道。

〔校記〕 大正藏經本(三二〇頁上)ヲ以ッテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略
シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)屬字ハ囑ニ作り(二)食字ハ時ニ作り(三)
食字ハ者ニ作り、舊宋本、宋元明刊本ハ實ニ作り(四)鑱字ハ鎖ニ作り
(五)着字ハ著ニ作り(六)餓字ハ飢ニ作り(七)恠字ハ怪ニ作り(八)惱
ノ下ニハ小復前行、…、如是尊者ニ至ル凡ソ九行ニ亘ル文アリ

R

次付鳩摩羅駄比丘第十九、…、僧伽耶舍未滅度時、已往付屬、鳩
摩羅駄、而告之曰、佛以正法、付大迦葉、如是展轉、乃至於我、我
欲涅槃、持用相付、汝宜至心、勤加守護、鳩摩羅駄答言、受教、於
是次、宣深法寶藏、彼之功德、甚深淵遠、發大弘誓、行菩薩道、
智慧辯才、猶如大海。

〔校記〕 大正藏經本(三二〇頁下)ヲ以ッテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略
シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)已往ノ二字ハ以法ニ作り(二)屬字ハ囑ニ
作り(三)宜字ハ宜ニ作ル舊宋本ハ宜ニ作ル

S

次付闍夜多比丘第二十、…、鳩摩羅駄臨捨壽時、告一比丘、名闍夜
多、長老當知、如是度海、必由船楫、衆生如是、…、欲離三界、脩行善
法、然後得出、故我今者、欲付汝法、宜好習學、利益人天、闍夜多言、
善哉、受教、遂演深法、化度世間、彼闍夜多有、大功德、精進勇猛、勤
…、修苦行、善持禁戒、無有漏失、世尊所記、最後律師、至一住處、堂
閣嚴飾、種種、…、奇妙、滿中衆僧、經行禪思、日時已到、鳴槌集食、食

將欲訖爾時餽饈變成膿血。便以鉢器共相打擲。頭首破壞。血流汗地。而作是言。何謂惜食。今受此苦。時闍夜多前問其意。答言。長老我等先世迦葉佛時。因止一處。客比丘來。咸共嘖。嗔。悲。藏。惜飲食。而不共分。以是緣故。今受斯苦。

〔校記〕 大正藏經本(三二〇頁中)ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)壽字ハ命ニ作リ。(二)是字ハ人ニ作リ。(三)度字ハ渡ニ作ル。舊宋本及ビ宋元明刊本ハ度ナリ。(四)以下ノ五行ハ大正藏經本三二〇頁中段第十四行以下七行ニアタリ。僧伽耶舍傳中ノ文ナリ。(五)植字ハ椎ニ作リ。(六)汗字ハ汚ニ作リ。(七)地字ハ身ニ作リ。(八)謂字ハ爲ニ作リ。(九)時闍耶多ノ四字ハ僧伽耶舍ニ作リ。(一〇)因字ハ同ニ作リ。(一一)嘖字ハ嘖ニ作ル。

T

次付婆修槃陀第廿一。時闍夜多。臨當滅度。告一比丘。名婆修槃陀。汝今善聽。天人師。於無量劫。勤脩苦行。爲上妙法。今已滿足。利安衆生。我受屬累。至心護持。今欲委汝。當深憶念。婆修槃陀白言。受教。從是已後。宣通經藏。以多聞力。智慧辯才。如是功德。而自莊嚴。善解一切修多羅義。分別宣說。廣化衆生。

〔校記〕 大正藏經本(三二二頁中)ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)時字ハナシ。(二)聽字ノ下ハ昔ノ字アリ。(三)屬字ハ囑ニ作リ。(四)巳字ハ以ニ作ル。

U

次付摩奴羅比丘第廿二。時婆修槃陀。所應作已。便捨其命。次付比丘摩奴羅。令其流布無上勝法。彼摩奴羅。智慧超勝。少欲知足。勤修苦行。言辭要妙。悅可衆心。善能通達。三藏之義。

於南天竺。興大饒益。

〔校記〕 大正藏經本(三二二頁下)ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)時婆修槃陀ノ五字ナシ。(二)其命ノ二字命行ニ作リ。(三)比ノ下ニハ曰ノ字アリ。

V

次付夜奢比丘第廿三。時摩奴羅滅度之後。告尊者。號曰夜奢。辯慧聰敏。甚深淵博。與摩奴羅功德同等。亦能解了三藏之義。流布名聞。咸爲宗仰。曾作一時。彼摩奴羅至北天竺。尊者夜奢。而語之言。恒河已南。二天竺。因人多。耶見聰辯利智。長老若解音聲之論。可於彼生。遊行教化。我當於此。利安衆生。時摩奴羅。卽如其語。至二天竺。廣宣毗羅無我之論。摧伏一切異道邪魔。

〔校記〕 大正藏經本(三二二頁下)ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ヲ加フ。(一)時摩奴羅滅度之後告ノ九字ハ大正藏經本ノ時有ノ二字ニアタル。(二)作字ハ於ニ作リ。(三)巳字ハ以ニ作リ。(四)耶字ハ邪ニ作リ。(五)若ハ善ニ作リ。(六)生字ハ土ニ作リ。(七)魔字ハ見ニ作ル。

W

次付鶴勒那夜奢比丘第廿四。時夜奢所爲既辦。捨身命終。於是已後。次有尊者。名鶴勒那。夜奢出興於世。受付屬法。廣宣流布。福德深遠。才明闊博。化世迷惑。令就正路。

〔校記〕 大正藏經本(三二二頁下)ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ノ標題ト第二行時夜奢ノ三字ヲ加フ。(一)屬字ハ囑ニ作リ。(二)闊字ハ淵ニ作ル。

X

次付師子比丘第廿五。時鶴勒那夜奢所作已訖。然後捨身。後有比丘名曰師子。於闍賓園大作佛事。時彼園王名彌羅掘邪。見熾盛。心無敬信。於闍賓園毀塔壞寺。殺害衆僧。即以利劍斫師子頭中流血。唯乳流出。相付法人。於是便絕。如此之法。爲天明燈。能照世間愚癡黑闇。是故如上諸賢聖人。皆共頂戴。受持守護。更相付屬。常轉法輪。爲諸衆生。起大饒益。斷塞惡道。開入天路。逮至最後。斯法衰殄。賢聖隱沒。無能建立。世間闇冥。永失大明。造作惡業。行十不善。命終當墮三惡八難。是故智者。宜當觀察。無上勝法。有天功德。微妙深遠。不可思議。譬如買人。欲過大海。必乘船。然後得度。一切衆生。亦復如是。欲出三界。生死大海。必假法船。方得度脫。法爲清涼。除煩惱熱。法是妙藥。能愈結病。卽是衆生眞善知識。爲大利益。

〔校記〕大正藏經本(三二一頁下)ヲ以ツテ校スルニ、コノ拓ハ前後ノ文ヲ省略シ、別ニ第一行ヲ加フ、標題ト時鶴勒那夜奢ノ六字ヲ加フ、(一)利、口、劍三字ハ利劍ノ二字ニ作リ、(二)斫師子ノ上ニ用ノ字アリ、(三)頭字ハ頂ニ作リ、(四)流字ハ無ニ作リ、(五)當字ハ多ニ作ル

一一、待訪錄 關百益伊闕石刻圖表所錄

六三〇、隋梁佩仁造釋迦像記 大業十二年七月十五日 西曆六一六
 大業十二年七月十五日。河。南郡興泰縣人梁佩仁。爲亡。男。世記大壽二男。敬造釋迦。像二龕。并四菩薩。香爐師子。并。上爲皇帝陛下。又爲一切倉生。同登正覺。

六三一、唐豫章公主造像記 貞觀十五年三月十日 西曆六四一

大。唐。貞。觀。十。五。年。三。月。十。日。豫。章。公。主。敬。造。像。一。塔。願。己。身。平。安。并。爲。一。切。倉。識。公。主。妳。薩。爲。己。身。并。兒。子。等。五。人。亦。同。造。像。一。塔。及。一。切。含。識。共。登。正。覺。

六三二、唐清信女石姐妃造救苦觀世音記 貞觀十六年三月十五日 西曆六四二

大。唐。貞。觀。十。六。年。三。月。十。五。日。清。信。女。石。姐。妃。敬。造。救。苦。觀。世。音。一。軀。

六三三、唐丁孝範造阿彌陀像記 萬年縣尉王元觀造阿彌陀像記 乾封元年七月十五日 西曆六六六

乾。封。元。年。七。月。十。五。日。丁。孝。範。爲。亡。考。及。妻。王。氏。敬。造。阿。彌。陀。像。兩。鋪。願。法。界。蒼。生。咸。同。斯。福。萬。年。縣。尉。王。元。觀。爲。亡。女。敬。造。阿。彌。陀。像。一。鋪。願。法。界。蒼。生。臨。終。之。時。無。苦。痛。亡。者。託。生。西。方。

六三四、唐王大遠造像記 總章元年五月一日 西曆六六八

總。章。元。年。五。月。一。日。弟。子。王。大。遠。願。離。苦。厄。所。欲。如。心。敬。造。觀。音。像。一。區。

六三五、唐前洛州司戶高崇業等造像記 總章二年四月廿三日 西曆六六九

大。唐。前。洛。州。司。戶。高。崇。業。等。奉。爲。亡。妣。隴。西。郡。君。李。氏。於。龍。門。山。鑄。石。壁。造。像。一。龕。總。章。二。年。四。月。廿。三。日。了。

六三六、唐陳外生造阿彌陀像記 儀鳳二年十月二日 西曆六七七

弟。子。陳。外。生。造。阿。彌。陀。一。龕。儀。鳳。二。年。十。月。二。日。

六三七、周許乾夫人徐氏造石龕記 許乾撰 萬歲通天元年□月十一日 西曆六九六

25 范天明。… 26 范。… 27 輔小。… 28 張文景。… 29 潁州人陳良明。… 30 高楚。… 31 高
 靈壽。… 32 比丘僧護。… 33 陳曇榮。… 34 董都。… 35 陳文達。… 36 箕。… 37 馬法
 來。… 38 比丘僧叡。… 39 王女兒。… 40 丁黑。… 41 張景興。… 42 張榮華。… 43 公
 孫伏保。… 44 公孫藥。… 45 宮曇金。… 46 公孫思懸。… 47 續祖溫。… 48 父仇樂
 祖。… 49 母楊女賜。… 50 仇文慶。… 51 仇僧慶。… 52 仇僧剏。… 53 仇僧茂。… 54 父
 仇敬。… 55 王洗奴。… 56 程香雷。… 57 李天生。… 58 皇甫所俱。… 59 張蘭棧。…
 60 樊靈海。… 61 王金安。… 62 仇雙保。… 63 騫天明。… 64 楊天超。… 65 晁僧智一
 心。… 66 父晁文頃一心。… 67 張養息。… 68 楊光仁。… 69 陽文遠。… 70 宋伯勝
 仁。… 71 任谷任文虎。… 72 張龍保。… 73 尼道僧。… 74 女金剛。… 75 僧宛。… 76 僧
 糧。… 77 靈靈像。… 78 劉伯周。… 79 宋建興。… 80 土天垞。… 81 程訛。廉神龍。…
 82 尙標袂。壬承周。

六三、趙思祖等題榜六十五條

1 父趙思祖。… 2 趙龍廣。… 3 宋光明。… 4 宋雙明。… 5 比丘智藏。… 6 李金
 成。… 7 張龍高。… 8 陳隆興。… 9 路定興。… 10 路叔定。… 11 邵惠安。… 12 霍次
 象。… 13 韓良柱。… 14 劉願得。… 15 張陽勝。… 16 父傅蟄。… 17 母張環女。… 18 傅
 靈瑜。… 19 侯德標。… 20 吳安仁。… 21 阿旃馬昫。… 22 高法先。… 23 父劉洪暢。
 … 24 母孫惟姜。… 25 劉定卿。… 26 佛弟子張始興。… 27 荒安世。… 28 尼道力。
 … 29 宋榮茂。… 30 肇雙洛。… 31 王方始。… 32 王法明。… 33 劉苟生。… 34 法演。…
 35 法演。… 36 劉雙仁。… 37 陋文情。… 38 尼道慧智。… 39 楊肅通。… 40 向方遷。…
 41 夏侯雙恠。… 42 夏侯雙訛。… 43 賈靈虎。… 44 劉洪朗。… 45 杜子。… 46 杜萇敬。
 … 47 社英。… 48 張及相。… 49 母王嬰。… 50 父張共。… 51 尼道高值。… 52 張万猥。
 … 53 籍始伯。… 54 景雙光。… 55 弟件留生。… 56 苗文度。… 57 齊阿安。… 58 虎伏

歡。… 59 佛弟子王。… 60 佛弟子尔奴。… 61 自先舉仁。… 62 自先小南。… 63 郝
 社生一心。… 64 郝隋鳳一心。… 65 程天養。

六三、司徒珍等題榜百二十二條

1 司徒琠。… 2 劉紆百。… 3 劉法容。… 4 祝阿敬。… 5 張洛洛。… 6 賈伯夫。…
 7 賈伏連。… 8 宋愛姬。… 9 陳文稔。… 10 李犢妻。張合資。… 11 佛弟子吳壽
 祖斗造像一區。… 12 藥騏驎。發願。造像一區。… 13 築彥真。造像一區。…
 14 比丘慧桑。供養佛時。… 15 比丘曇義。爲忘母。造像。… 16 緱珍保。… 17 朱龍
 興。爲父。造像一區。… 18 甘廣興。爲父母。造像。… 19 張神虎。爲父母。造像。
 … 20 王龍勝。… 21 劉醜。 父母。造像一區。… 22 比丘慧。造觀世音一區。供
 養。… 23 妙素。爲身己。觀世音佛。… 24 僧妙。願一切衆生。同見弥勒。
 … 25 比丘僧。師。… 26 來賓像。… 27 華陽郡。… 28 陽郡。李。… 29 相。… 30 張
 仲和。… 31 張顯。… 32 像女狡。… 33 雅叔華。… 34 朱伏生造。… 35 比丘僧怎。
 … 36 比丘僧詢。… 37 比丘僧。… 38 比丘僧憶。… 39 陽成叔兒。… 40 陽成莧。…
 … 41 陽成倡容。… 42 陽成別洛。… 43 佛弟子羅。… 44 清信士佛弟子王陽。
 … 45 比丘法智。爲李徠助。造。… 46 比丘智和。爲皇帝。… 47 公孫天興儼。…
 48 孫子支法生。… 49 尉遲弘可忠頹。… 50 河北郡吏殷高。… 51 張豐生。爲亡
 母。… 52 父張悞悞。… 53 劉。… 54 張。… 55 王。… 56 張石子。… 57 張延捏。… 58 張延
 生像。… 59 侯鸞。… 60 侯法伴像。… 61 閻桃捧像。… 62 尼道如。供。… 63 虎本
 郎。虎弟。… 64 佛弟子匡旃。… 65 法真像一區。… 66 何僧安。造像一區。…
 67 佛弟子王雙恩。一區。… 68 爲亡父母。像一區。… 69 弟子袁直力處。… 70 趙
 阿四。造像一區。… 71 胡荊龍。造像一區。… 72 范。造。… 73 比丘法玩。… 74 清
 何絲。… 75 劉曇像。… 76 嚴固龍像。… 77 仁。供養像。… 78 清信女元

星...⁷⁹清信仰山...⁸⁰願万病除愈...⁸¹願万病除愈...⁸²大難之處。永
離衆苦。所願從心...⁸³父張銷宗。息張豐正...⁸⁴邵思祖。造一區...⁸⁵爲
忘子。造像...⁸⁶比丘曇安...⁸⁷比丘僧朗...⁸⁸爲導士十九人...⁸⁹比丘
僧隆...⁹⁰隆爲亡父母...⁹¹爲兄弟姊妹...⁹²爲七世所生父母...⁹³妹
女二。上生天上。下生...⁹⁴爲外舅眷屬...⁹⁵伯叔眷屬...⁹⁶爲諸同學等
...⁹⁷爲一切苦惱衆生...⁹⁸一切設者...⁹⁹春德。爲仲英...¹⁰⁰春德。爲父
母...¹⁰¹爲師父。盡一心。造...¹⁰²爲一切衆生...¹⁰³爲父母...¹⁰⁴爲亡
母...¹⁰⁵爲阿魔仁...¹⁰⁶爲來叔...¹⁰⁷爲叔母皇甫...¹⁰⁸爲母仲
英...¹⁰⁹爲弟沃世...¹¹⁰爲小叔季伯...¹¹¹爲諸舅母...¹¹²爲諸舅...¹¹³爲外
祖母...¹¹⁴爲英。爲外祖...¹¹⁵爲諸伯...¹¹⁶爲諸姑...¹¹⁷爲三犧...¹¹⁸爲
...¹¹⁹爲金勝...¹²⁰爲諸全姊妹...¹²¹爲身...¹²²爲金姿。

〔校記〕 (一)補正ハ黄 (二)第八十第八十一行ハ石刻七五一トシテ已出

八四 邑子宗續祖等題榜十四條

1 邑子宗續祖...²邑子劉景琰...³邑子馮道智...⁴邑子周桃拔...⁵邑
子董天順...⁶邑子韓龍周...⁷邑子虎全保...⁸邑子良惠達...⁹唯
那邪禮壽...¹⁰邑子侯文影輝...¹¹邑子吳興樹...¹²邑子王昔洛...¹³子
邑馬保興...¹⁴邑子徐光周。

八五 弟子元洪略等題榜三十一條

1 弟子元洪略...²弟子審支...³弟子解光與...⁴弟劉金龍...⁵弟
子陸元慶...⁶弟子劉顯暢...⁷弟子宗仁...⁸弟子呂仲慶...
...⁹弟子劉買仁...¹⁰弟子惠景...¹¹弟子羅天守...¹²弟子...
...¹³弟子劉買德...¹⁴弟子...¹⁵佛弟子仇阿平...¹⁶弟子楊保願...¹⁷弟

子未愁...¹⁸楊万歲...¹⁹定...²⁰洛...²¹弟子竅
隆...²²弟子辛孤...²³弟子呂神保...²⁴弟子曹天保...²⁵弟子曇智
...²⁶弟子...²⁷子元永安...²⁸邑子張惠言...²⁹邑子致尙
...³⁰邑子范惠...³¹邑子元惠。

一一、待訪錄 八瓊室金石補正所錄

八六 北魏高慧造弥勒像記 太和廿二年二月十日

西曆四九八

1 太和廿二年二月十日...²清信士佛弟子...³高慧。爲七世父母...
4 生死眷屬。造弥勒佛一區。願現在...者安隱。亡者諸...佛濟...
常在...處。一切衆生...同斯願...高造...
〔校記〕 (一)大村ハ躬ニ作ル (二)大村ハ安 (三)ノ二字大村ハ洛之ニ作ル

〔西〕高字ノ下。大村ハ寧將軍ニ作ル (五)コノ下ニ大村ハナホ...雙

壽...ノ一行アリ

八七 北魏邑師惠等題名 景明元年

西曆五〇〇

1 景明元...²邑師惠...³壽盧...⁴成殿方...⁵白。

八八 北魏馬慶安造像記 景明二年八月二日

西曆五〇一

1 清信士佛...²弟子馬...³慶安。爲...⁴身造像一...⁵區。恒、...
明二年八月二日。

八九 北魏比丘法轉造弥勒像記 正始四年六月一日

西曆五〇七

1 弥勒像一區。比丘法轉。仰爲亡...²父母。因緣眷屬。及一切衆生。敬
造...³大魏正始四年歲次丁亥六月一日。

八四、唐韓文雅及妻唐氏造一龕二菩薩像記 貞觀廿年五月四日 西曆六四六

1 大唐貞觀廿年歲次景午五月壬辰朔四日。佛弟子韓文雅及妻唐。誓首和南十方一切賢聖。夫運有緣。輪迴万品。鈴鑄無。逢遇人身。仰憑三寶。夫妻二人。抽捨淨財。於伊闕寺。敬造石一龕。并二菩薩。裝嚴全飭。成就如然。上為皇永隆。下為去先亡。七世父母。并見存親眷。及一切衆。俱沾淨土。永作勝目。圖寫刊共。供養。

〔校記〕 (一)大村沙碗ハ五ニ作ル (二)沙碗ハ稚 (三)大村ナシ沙碗ハ運 (四)大

村沙碗ハ逢 (五)沙碗ハ憑 (六)沙碗ハ缺 (七)大村沙碗ハ缺 (八)沙碗

ハ缺 (九)沙碗ハ飾 (一〇)沙碗ハ生 (一一)沙碗ハ訖

八五、唐洛州嵩陽縣令慕容氏敬造阿彌陀像記

貞觀廿一年三月六日 西曆六四七

1 大唐貞觀廿一年三月六日。洛州嵩陽縣令慕容。敬造阿彌陀像一軀。為父母及一切含識。共正覺。

〔校記〕 (一)容ノ字沙碗ハ客ニ作ル

八六、唐崔貴本造一龕二菩薩記 貞觀廿三年十一月八日 西曆六四九

1 弟子崔貴本。敬造像一龕。并二菩薩。裝嚴成就。願合家。又願已身。及阿婆等。並為法界衆生。並願去離三塗。受苦願。悉令解脫。復願貴本。當來往生。願見佛聞法。貞觀廿三年十一月八日。弟子崔貴本造。養。

〔校記〕 (一)沙碗ハ莊 (二)沙碗ナシ

八七、唐崔貴本造觀世音菩薩記

1 弟子崔貴本。敬造觀世音菩薩二軀。上為國王。及七世父母。見存眷。及法界衆生。俱登正覺。願弟子當來值佛。

八八、唐崔貴本敬造觀世音菩薩記

1 弟子崔貴本。敬造觀世音菩薩二軀。上為國王。及七世父母。見存父母。并眷屬。俱登正覺。願弟子當來值佛。

八九、唐朱胤造像記 永徽元年七月十日 西曆六五〇

1 永徽元年七月十日。朱胤及姊。磨利。為亡父母造。

〔校記〕 (一)大村ハ六ニ作ル

九〇、唐王師德等造像記 永徽元年 淳于敬一撰 西曆六五〇

1 淳于敬一制文。大像主王師德。成伏德。夏侯雅。沈端。沈士公。賈達。張則。劉客僧。許士政。封遐。張荀子。徐甌。朱懷。成難。隋。劉倫。劉君。賈奴。奴。程徹。張徹。張桂。張表。毛天生。張端。王愛。竊聞。無上慈尊。隨緣演教。廣開方便。汲引群迷。故知拯彼浮泡。救斯沈溺。若不示跡現容。凡生何以歸仰。爰暨夢靈。西照象法。東流。或斲玉摸形。或刻檀為質。今有洛陽鄉望。父老等卅人。並修因往劫。生在太平。思念大聖。無猶得觀。遂謹於此。堪敬造尊儀。因山之固。鑿瑩真容。藉此莊嚴。同希淨境。庶使城空芥盡。福智常流。劫石衣銷。法輪恒轉。不因刊勒。何以紀功。冀盛德長存。芳徽永著。其上資皇家。下沾靈識。詞曰。至理幽玄。真趣無形。相有分別。事化城。鄉中高士。邑里達人。心樂三寶。情捐六塵。優遊智岸。蕤荈法律。愛流斯澗。方新。大唐永徽元年建造。

〔校記〕 (一)淨ノ字幸編大村ハ浮ニ誤ル

八五、唐孟惠母造阿弥陀像并二菩薩記 永徽二年四月廿六日 西曆六五一

永徽二年四月廿六日。弟子孟惠母。…侯客兒。敬造阿…弥陀

像一龕并…二菩薩。爲過去…父母。見存眷屬。…法界衆生。共登

…正□□。

〔校記〕 (一)侯ノ上大村ハ□沙晚ハ俛ノ字アリ、(二)□大村沙晚ハ覺

八六、唐陳通妻張氏造阿弥陀像記

永徽三年二月一日 西曆六五二

陳通妻張。敬造阿弥…陀像一區。爲七世父…母。及法界衆生。永

徽…三年二月一日造。

〔校記〕 (一)三ノ字沙晚ハ二ニ作ル

八七、唐三洞弟子敬造弥陀像記 永徽四年正月十七日

西曆六五三

永徽四年正月十七日。…三洞弟子。爲亡…妻賈夫人。敬造…弥

陀像一□□…靈□淨境。…現存獲福。

〔校記〕 (一)沙晚ハ龕願ノ二字ニ作ル (二)□□ノ二字大村ハ願□沙晚ハ亡者

(三)沙晚ハ往 (四)大村ハ見

八八、唐趙寧造觀世音菩薩記 永徽四年九月三日

西曆六五三

永徽四年九月三日。…趙寧願身平安。又…爲法界。敬造觀世…

菩薩一軀。

八九、唐李處岳造釋加像記

永徽六年三月廿四日

西曆六五五

永徽六年歲次乙卯三月辛未。…朔廿四日甲午日戌。佛弟子李

…處岳。爲法界衆生。造釋加像…一軀。普□法□含靈。□□作佛。

九〇、唐比邱□□爲父母造像記 永徽六年十月十五日 西曆六五五

比邱□□。爲亡父…母。敬造□□王像…一軀。法界共同福…德。

永徽六…年十月…十五日。

〔校記〕 (一)□□王ノ三字大村ハ優填王トシ沙晚ハ阿弥陀ニ作ル (二)同ノ字

沙晚ハ懷

九一、唐王政則及妻支氏造像記 顯慶元年九月廿日 西曆六五六

顯慶元年九月廿日。王政則及妻支。…爲亡父母敬造。

九二、唐內府局令王文詮造像記 顯慶三年 西曆六五八

顯慶三年□月□□日。朝散郎行內府局令上騎都尉王文詮造。

九三、唐內府局令王文詮造像記

內侍省行內府局令王文詮造。

九四、唐王儁王文詮王嚮題記

佛弟子…王儁。供養時。…佛弟子王文詮。…供養時。…佛弟子…

王嚮。供養…時。

九五、唐清信女王嚮妻趙儉等供養記

清信女…王嚮妻…趙儉。供養。…清信女…陳小胡。…供養時。…

清信女…王文詮妹…阿補。供養時。

九六、唐顯慶四年造像記 顯慶四年七月十五日 西曆六五九

大唐顯慶四年七月十五日造。

九七、唐比邱尼石靜業吳□藏造像記 顯慶四年十月廿三日 西曆六五九

顯慶四年十月廿三日。比邱尼石靜業。吳…藏。共造像一鋪。

爲…母。及法界衆生。…同昇彼岸。

〔校記〕(一)三ノ下ニ大村ハ日□ノ二字アリ (二)吳ノ下大村ナホ一字アリ

(三)爲ノ下大村ナホ一字アリ (四)大村沙碗ハ父

八六、唐梁王府諮議參軍事但惟端息仁楷造觀音菩薩記

顯慶四年十二月一日

西曆六五九

1 洛州河南縣人。朝散大夫。…²守梁王府諮議參軍事。兼…³虔州司馬柱國但惟端。息…⁴仁楷臨終之時。發意造觀…⁵音菩薩一區。今依楷願造。…⁶及一切含識。俱□正覺。…⁷大唐顯慶四年十二月一…⁸日。功訖。

八六、唐王仁基造像記 顯慶五年正月廿三日

西曆六六〇

1 顯慶五年正月廿三日。弟…²子王仁基。敬造像一堵。上…³資皇帝。下及含識。…⁴末爲亡女。眷屬已身等。…⁵因茲功德。俱登正覺。

八七、唐張□嚴題記 顯慶五年三月廿三日

西曆六六〇

1 顯慶五年三月廿三日。…²張□嚴。

〔校記〕(一)□嚴ノ二字大村ハ公敢

八七、唐昭覺寺僧善德造弥勒像記 顯慶五年四月八日

西曆六六〇

1 顯慶五年四月八日。昭覺…²寺僧善德。造弥勒像一鋪。

八七、唐清信女徐大造像記 顯慶五年十一月廿四日

西曆六六〇

1 顯慶五年十一月廿四日。…²清信女徐大。爲娘身造。

八七、唐內給事馮士良造像記 麟德二年四月八日

西曆六六五

1 麟德二年四月八日。內給事…²馮士良敬造。

八七、唐陳貞豫造像記 麟德二年七月七日

西曆六六五

龍門石刻錄錄文

麟德二季七月七日。弟子陳貞豫。普爲父母兄弟敬造。

〔校記〕(一)沙碗ハ修 (二)大村ハ並□ノ二字

八七、唐雍州櫟陽縣東面副監孟軋緒造弥勒像記 乾封三年二月 西曆六六八

1 乾封三年二月。…²雍州櫟陽縣東…³面副監孟軋緒。…⁴敬造弥勒像一…⁵鋪。上爲 皇帝…⁶陛下。及法界衆…⁷生。共同斯善。…⁸此已西東面副監孟…⁹軋緒敬造。

〔校記〕(一)沙碗ハ福 (二)此ノ字ノ下大村沙碗ハ缺

八七、唐周思九造阿弥陀菩薩聲聞金剛等像記 咸亨三年正月十五日 西曆六七二

1 大唐咸亨三年正月十五日。黃州…²麻城縣人周思九。□□□亡考。造阿弥…³陀像一軀。并菩薩聲聞金剛等。普願一切…⁴衆生。共同斯□。信□□□□□

八七、唐薛仁貴敬造阿弥陀二菩薩像記 咸亨四年五月 西曆六七三

1 薛仁貴。奉爲 皇帝…²皇姪。敬造阿弥陀像一軀。…³并二菩薩。普共法界倉生。…⁴同得此福。咸亨四年五月造。

八七、唐清信女侯氏造觀音菩薩記 上元二年正月二日 西曆六七五

1 清信女侯。爲亡…²男李胡子。敬造觀…³音菩薩一區。…⁴上元二年正月二日。

〔校記〕(一)大村ハ三

八七、唐上元三年比邱題記 上元三年九月八日 西曆六七六

上元三年。歲次景子。九月丙寅朔八日癸酉。比邱。

八七、唐劉寶叡妻范氏造藥師像記 儀鳳三年五月廿七日 西曆六七八

1 齊州山莊縣劉寶叡妻…²范。爲姪身。敬造藥師像…³一軀。爲師僧

三四九

父母敬造…⁴免離苦難。儀鳳三年…⁵五月廿七日乞。

六七、唐萬年縣張元福造像記 垂拱四年

西曆六八八

六二、唐闡法寺僧大滿造觀世音像記 永隆元年十二月十五日

西曆六八〇

一 萬年縣張元福爲患得□…²願敬造像一龕。垂拱四年造。

大唐永隆元季。歲次庚辰。十二月壬□朔十五日景辰。闡法寺僧

六八、唐比丘惠□造釋迦像記 永昌元年□月十五日

西曆六八九

大滿。季五十二。上爲 天皇天后。敬造觀世音像一區。普爲法

一 永昌□□□…²十五日。比丘惠□□…³寂。敬造釋迦像…⁴一鋪。普

界衆生。見存眷屬。七代先亡。有識含靈。俱出蓋纏。咸登正覺。

爲法界衆…⁵生。師僧父母。末及…⁶自身。并門人等。常…⁷願童子出

六三、唐比丘尼觀法造彌陀像記 永隆二年三月廿四日

西曆六八一

家。不…⁸捨離。伏願 …⁹□基永祚。佛…¹⁰□長流

一 大唐永…²隆二年…³三月廿…⁴四日。比…⁵邱尼觀…⁶法。敬造…⁷彌

六九、唐比丘元杲造業道像記 天授二年二月廿日

西曆六九一

陀像一鋪。…⁸供養。

一 天授二年二月…²廿日。比丘僧元…³杲。爲兄元操…⁴敬業道像。

六四、唐比丘尼眞晤造像記 永隆二年三月廿四日

西曆六八一

七〇、唐姜演達右大娘造千佛并菩薩造像記 天授二年五月廿八日

西曆六九一

一 大唐…²永隆…³二年…⁴三月…⁵廿四…⁶日。比…⁷邱尼…⁸眞晤…⁹。敬

一 佛弟子姜演達。敬造千佛…²并菩薩一軀。佛弟石大娘。敬…³造千

造…⁹供養。

佛菩薩一軀…⁴天授二年五月廿八日功訖。

六四、唐公孫神欽等造觀世音菩薩記 開耀二年二月八日

西曆六八二

七一、唐陝州考功主事成仁感造觀音像記 天授二年□月十五日

西曆六九一

大唐開耀二年二月八日。公孫神欽。石知古。敬造觀世音菩薩一

一 陝州陝縣…²直郎行文昌…³考功主事。成…⁴仁感。爲亡考…⁵妣。

區。上爲天皇天后。下爲師僧。神欽。爲亡父。見存母。知古。爲見存父

敬造觀音…⁶像。天授二年…⁷□月十五日。

母。家門眷屬。七世先亡。法界蒼生。共履法門。咸登正覺。

(校記) (一)大村ハ陝城縣

六五、唐王寶明造弥勒尊佛記 永淳二年二月廿六日

西曆六八三

七二、唐達奚靜造像記 延載元年五月十五日

西曆六九四

大唐永淳二年。歲次□□。二月乙卯朔廿六日庚辰。僧王寶明。敬

一 佛弟子達奚…²靜。造像一鋪…³上爲越古…⁴金輪聖神皇帝…⁵下

造當來弥勒尊佛一鋪。上爲天皇天后。師僧父母。內外眷屬。大地

爲法界衆生。內外…⁶六親。共同斯福…⁷延載元年五…⁸月十五日。

法界。一切衆生。並得度灾離難。共發菩提。俱登佛道。

七三、唐王知南王思嶷等題記 聖曆二年

西曆六九九

六六、唐張行忠造救苦觀音像記 垂拱二年十月十六日

西曆六八六

一 佛弟子王知南、…²佛弟子王思嶷、…³弟□孫愛

一 弟子張行…²忠。今爲病…³得離身。發…⁴願敬造救…⁵苦觀音一…

亡祖□殷、並、…⁶佛弟子王楚珪 佛□子、…⁷佛弟

六。垂拱二…⁷年十月十六日。

佛弟

九六、宋王曙詩 天聖五年三月二十日

西曆一〇二一

光祿卿清源王曙…¹鑿龍蒼翠照□川。白鳥平蕪暮雨間。一夕…²
塵襟清似水。潺湲聲裏□□□□³。偶□□□⁴。倚蒼崖次弟開。暫停
征傳一徘徊。人間…⁵萬事皆如是。偶爾□勝特地來。…⁶甲子夏五
月四日。留題…⁷天聖五年丁卯三月貳十日。侍禁□余琴書石。
…⁸賈宣鐫。

九七、宋河中常景造阿彌陀佛石像記 元豐二年七月十二日

西曆一〇七九

阿彌陀佛石像者。哀男清孫之所刻也。…¹清孫始二歲。予游窟巴
蜀。於馬上抱持…²之。凡過神宮佛廟。必叩其首。以禮焉。知…³其夙
習宗尙神理佛事遠矣。六歲見官…⁴寺壁有書大字者。則以申畫
地而摹焉。…⁵因授以短卷。使習之。常至子夜寐。熟筆…⁶落廼肯就
寢。十餘歲已學綴文。通誦書…⁷易。而尤喜浮屠說。一旦書門扉曰。
花外…⁸月常滿。林間葉自彫。予讀之以爲不祥。…⁹其明年改元元
豐。七月補廣文生。將就…¹⁰試開寶佛寺。九月七日。以疾歿於東都。
…¹¹年二十二。哀哉。吾兒孝於父母。友 于叔…¹²仲。屢里之 游。未
嘗與貨貨之利。未嘗顧。…¹³心不違道。手不釋卷。予之知子。爲不誣
…¹⁴矣。又其見當世賢人君子。決欲慕而爲…¹⁵之。有志不就長號何
已實。予不天鍾釁…¹⁶斯子。昔嘗贊予休官。結廬闕塞。終 吾老…
以奉養。今舍我□去乎。以其 平日所游最樂…¹⁷香山之勝。故磨
□于佛室之前。鏤其容…¹⁸於旁。以追薦之。異其□生。復尋茲境。汝
之神…¹⁹識。其知之乎。汝之神識。其知之乎。清孫字能世。…²⁰河中人。
後徙家河南。曾王父畫 贈屯田員外郎。…²¹王父吉贈光祿少卿。

祖母 陳氏。母田氏。妻…²²王氏。二年七月石像成。以其月十二

日。摹其…²³題壁二。并書茲文于石。河中常景記。…²⁴石匠閻永真。并
男忠美刊。

九八、宋元豐題記 元豐七年八月

西曆一〇八四

甲子…¹元豐…²七年…³八月。

九九、宋程公孫趙志國何子正等遊名 元符三年

西曆一一〇〇

程公孫。辛未至。丙子遊香山。…¹程公孫如祖。趙士懂志國。陳崇智
夫。弟中禮夫。元符庚辰屢至。…²趙志國。盧必強。辛巳正月二十四
日。同遊。…³何子正。趙志國。同來。程公孫題。

一〇〇、宋張彥題記 政和七年三月卅日

西曆一一一七

張彥。政和七年三月卅

一〇一、國學官令平乾虎造釋迦牟尼像記

國學官令。…¹臣平乾虎。…²爲 太妃…³廣川王。敬…⁴造釋迦…⁵牟
尼像一區。

一〇二、國常侍王神秀造釋迦牟尼佛記

國常侍。臣王…¹神秀。爲…²太妃廣川…³王。敬造…⁴釋迦牟…⁵尼佛
九三、那龍姬造像記

清信女佛…¹弟子那龍…²姬。爲亡父…³母。造像…⁴一區。

一〇四、唐太州王思業造藥師并觀音像記

大唐太州鄭…¹縣王思業。爲…²太后皇帝。一…³切衆生。及七…⁴世
父母。今爲…⁵亡女妙法。造…⁶藥師像一區。…⁷并觀音像一…⁸區。以
思業患…⁹得可故造。…¹⁰今並成就。願…¹¹亡□者託生…¹²西方。

見存者…¹⁴無諸哉郭。

〔校記〕(一)大村ハ缺

九五、姚夫人造像記

¹□能仁拯授運慈舟於苦海…²都督長沙□公姚意之妻也…³南之別業也。夫人時入洛□…⁴男女長大。□預班秩。即於□…⁵二尙書。同□臺鳳閣三品□…⁶幸早亡女八娘吳興縣君□…⁷縣令□十娘□泉郡君夫□

九六、密縣姜万慈造像記

洛□密縣姜万慈。今造功德。爲一切法界衆生。益願平安。無諸哉郭。

九七、雍州司士男小嚮造像記

¹雍州司…²士男小…³嚮。敬造。

九八、侯□造二菩薩記

¹□侯□…²爲□□…³蒼生。造二…⁴菩薩。妻□…⁵及男閣□…⁶道隣□…⁷客子。供…⁸養。

九九、騫思歸造像記 左行

¹騫思歸…²□亡女。造一區。

一〇〇、造大勢至菩薩像記

¹義。爲持道處…²乃至師僧父母。功…³匠及路上行者。或有…⁴□□…⁵怨墮…⁶恐畏結…⁷怨惡願斷…⁸怨惡歡喜相者。□□□□□□□…⁹大勢至菩薩。願一時作仏。

一〇一、兵曹李德信造像記

¹號王…²府兵曹…³李德信…⁴造□

一〇三、騰王和造像記

¹騰王和…²監造。

一〇四、魏二造石像記。郭娘造觀世音記。□娘造觀世音記

¹魏二。爲亡男。造石像一…²軀。願承此福因。咸登正…³覺…⁴郭娘。造觀世音一軀…⁵爲過往師僧父母…⁶□娘。造觀世音一…⁷軀。爲過往師僧…⁸父母。

一〇五、高義基慶造救苦觀世音菩薩像記

¹弟子…²高義基。□…³慶。造…⁴救苦…⁵觀世…⁶音菩薩…⁷像一區…⁸供養。

一〇六、程□藏造像記

¹□□□…²年。程□…³藏。爲七…⁴世父母…⁵及法界…⁶并兄。敬…⁷造。

一〇七、河南府兵曹參軍王良輔造釋迦牟尼像記

¹河南府兵曹參軍王良…²輔。敬造釋迦牟尼像一□。

一〇八、河南府兵曹參軍王良輔妻韋氏造藥師像記

¹河南府兵曹參軍王良輔妻…²韋。敬造藥師像一軀。

一〇九、造觀音像記

¹爲法界衆生…²造觀音一軀。

一一〇、任定方造救苦觀音像記

¹弟子任定方。爲法界蒼生。父母…²□□。敬造救苦觀音一區。

一一一、王德仁女小娘造觀音菩薩像并法華經記

¹王德仁女小…²娘。爲亡父。敬…³造觀音菩薩…⁴并造法華經…⁵一

部。又捨衣…作石橋南…因果資益存…亡。成□□□

九三、宋九娘造觀世音菩薩記

1 弟子…2 宋九娘…3 爲身造…4 觀世…5 音菩…6 薩一□。

九三、清信女李氏造救苦觀世音菩薩記

1、、、…2 清信女李。爲身…3 遇時患。遂發大…4 願 救苦觀…

5 世薩一軀。…6 功、、、

九三、比丘尼穴隆造像記 □□三年□月□日

1、、、三年□□…2 日。比丘尼穴…3 隆。□爲皇□…4 陛下。所
生□…5 母。七世父□。□…6 界法衆、、、□…7 道象□□…8 願合
□□緣典佛□…9 三會成□□…10 薩□…11 比丘尼僧□…12 造□
□…13 下及一切…14 □□□□□…15 □□□□□

九四、朱義造觀世音像記

1 觀世音像。弟子朱義造。

九五、鄭州司功任道造像記

1 鄭州司…2 功任道…3 敬造

九六、太子典設郎袁仲蔣造阿彌陀像記

1、、、母及妹。敬□阿…2 彌陀像一龕。…3 太子典設郎袁仲蔣
造。

九七、推官董才等題記

1 推官董才。錄事李□…2 □三娘。張寶儀。胡智…3 □有相。張靜滿。齊
□…4 □智音。辛客子。王三…5 □張玉耶。楊穀降。馬元…6 □師竭。石
寵。司馬榮…7 □石生。甄兒□安王□…8 □生□馬洽度。張□…安

寵老妻張…10、、、

九六、佛弟子相里婆造阿彌陀仏記

1 仏弟子相里…2 婆。願平安。及…3 爲法界衆生…4 敬造阿彌陀…5 仏

一軀。

九六、徐大娘造像記

1 清信女徐…2 大娘。願往…3 生淨度。敬…4 造佛一龕。

九六、□惠造彌陀像記 □□年七月六日

1、、、七月六日…2、、、□惠。爲亡父…3、、、彌陀像一龕。
…4、、、□方離苦解…5、、、界倉生。共超…6、、、昇彼岸。
九六、王樹興妻□造彌陀像記
1 弟子王樹興妻□。並己身故。有餘□…2 □敬造彌陀像□身供養。

九六、比丘尼法明造彌陀像并二菩薩記

1 比丘尼法明。造彌陀像…2 并二菩薩。福利群生。同…3 昇彼岸。

〔校記〕(一)昇ノ字沙腕ハ攀

九六、□惣持造像記

1 □□□□…2 □惣持。爲…3 亡父□合家…4 大小一切法…5 界倉生。
怖…6 同□善。

九六、程大娘造像記

1 程大…2 娘。爲…3 孀子…4 造佛…5 一軀。

九六、丁瞿曇妻王氏造像記

1 丁瞿曇妻王…2 普。爲□界衆生…3 造像一軀

九六、王宜利造像記

1 弟子王…²宜利。爲…³妻患得…⁴□。敬□
九五、清信弟子王□造像記

1 清信弟子王、…²存母。敬造彌、…

九六、□二娘造藥師佛記

1 □二娘。爲…²弟正行。…³造藥師…⁴佛。供養。

九六、車万全造像記

1 車万全。爲…²父母。造佛…³一區。

九六、田三娘造像記

1 田三娘。爲…²母。造…³一軀。爲身…⁴造。

九六、金文軌妻甌氏造像記

1 金文 軌…²妻甌。爲婆。…³敬 造。

九六、上官英俊·史元景造像記

1 上官英…²俊。爲父…³母。造…⁴弟子…⁵史元…⁶景。爲父…⁷母。造。

九六、高思歸造像記

1 高思歸。爲…²身。敬造。

九六、比丘尼惠紆造像記

1 比丘尼惠紆。爲□…²靜約。敬造像□□

九六、清信女趙氏造七佛記

1 清信女趙。爲亡夫□…²□長。造七□。并、…³兄元□

九六、弟子母所乙等造像記

1 弟子母所乙。女出…²于。李阿福弟…³荆頌牟等。敬造。

九六、□如海造像記

1 □如海。令…²奴衆…³生。普及合家。…⁴亡者齊□…⁵□
九六、段六娘造彌陀佛記

1 弟子段六娘。願…²身平安。敬造彌…³陀佛一龕。供養。

九六、清信女徐氏造像記

1 清信徐。…²爲息扈…³從還京。…⁴願平安。…⁵敬造。

九六、王威造像記

1 王威。爲亡妻泉造。

九六、閻處沖造彌陀像記

1 閻處沖。造彌…²陀像一軀。

九六、□興書造像記

1 佛弟子□…²興書。敬造…³像一鋪。供養。

九六、荆小改造像記

1 弟子荆小…²改。造一區。

九六、胡僧雜樹造像記

1、…、胡僧雜樹…²、…、□一心供養。

九六、蔡宏節造菩薩像記

1 蔡宏節。造菩薩…²一軀。

九六、王大娘造像記

1 王大娘。造…²像一軀。

九六、比丘尼政勲等造像記

1 供養。…²比丘尼…³政勲。…⁴造。比丘…⁵尼□…⁶願。造。…

九六、趙懷信。敬造。…⁸阿馮。敬造。由□

九六、孟二娘等題記

一 孟二娘。薩唐□。申爽造。任永□。

九六、魚洋等七人題記

一 魚洋。…₂李趙庭。…₃李賓庭。…₄趙令則。…₅□□李趙庭。…₆賓

庭。趙令則。

九六、淨土寺上座法惠造像記

一 淨土寺上座法惠造。

九六、王智泰造像記

一 弟子王…₂智泰。一…₃心敬造。

九六、比丘道遠造像記

一 比丘道遠。…₂一心供養。

九六、趙菩提及妻王婆造像記

一 趙菩提。及妻…₂王婆。敬造。

九六、盧承母崔氏造像記

一 盧承母…₂崔。敬造。

九六、阿姜婆造像記

一 弟…₂子阿…₃姜…₄婆…₅造。

九六、李文德妻張氏造像記

一 李文德…₂妻張造。

九六、嚴景明等造像記

一 嚴景明…₂敬造。…₃□亭主…₄□母造佛。

〔校記〕最初ノ二行ハ左行

龍門石刻錄錄文

九六、歌扇造像記

一 歌扇敬造。

九六、郢公女姝造像記

一 郢公女姝。造。

九六、房寶子妻張氏題記

房寶子妻張。

九六、金剛經殘刻三段

一、、蜜。湏菩提。忍辱波羅蜜。至□□平等无有、、、

二、、湏菩提。是樂阿蘭那行者。至當知。是人甚為希有。何以故。

、、、

三、、法斷至一切世間。天人阿脩羅。聞佛所、、、

一三、待訪錄 沙畹北支那考古圖譜所錄

九六、北魏關口關曹吏張英周妻蘇文好造石像記

正始五年四月廿日 西曆五〇七

一 正始五年四月廿日。關口…₂關曹吏張英周。妻…₃蘇文好。造石像

一區。為…₄所生父母。合門大小。常…₅與善居。所願從心。

〔校記〕(一)關下大村ハ士ノ字アリ (二)大村ハ史

九六、北魏關口關功□□造像記

正始五年四月廿日

西曆五〇七

一 正始五年四月廿日。關口關功…₂□□□□□□□□□□像一…

四區。上為七世…₅父母。所生父…₆母。因緣眷屬。…₇常與善居。所…₈願

從心。

次四、北魏關口關吏史市榮造釋迦文佛石像記

正始五年四月廿日

西曆五〇七

1 正始五年四月廿日。關口關…²吏史市榮。造釋迦文…³佛石像一區。上爲七世父…⁴母。所生父母。因緣眷屬…⁵常與善居。

次五、北魏惠仰造釋迦像并七佛記

熙平二年五月廿四日

西曆五一七

1 熙平二年五月…²廿四日。比丘惠…³仰。爲父母眷屬…⁴及以己身。敬造…⁵釋迦像一區。并七佛…⁶願所願隨心。

次六、東魏幽州北干人揚弋具造觀音一區二菩薩記

天平三年三月三日

西曆五三六

1 天平三年歲在丙辰。三…²月壬寅朔。三日甲辰。幽…³州北干人揚弋具…⁴爲□□造觀世音…⁵一區。二菩薩。□□爲…⁶一切邊地。終生无□。上…⁷爲忘父母。弟妹。妻子。眷…⁸屬。并身。願忘者託生西…⁹。方妙洛國土。現在得富…¹⁰。灾永消除。業鄩永盡。值…¹¹善知識。終緣□□與□□…¹²□□□□同慶。

〔校記〕(一)大村ハ平

次七、唐魏□王監陸身造像記

貞觀十五年五月一日

西曆六四一

1 大唐貞觀十…²五年五月一…³日。魏□王…⁴監陸。身故爲…⁵造像一堪。

次八、唐豫章公主等六人造像記

貞觀十五年六月二日

西曆六四一

1 大唐貞觀十…²五年六月二…³日。豫章公主…⁴并□^(一)普頭六…⁵人。敬造像一…⁶塔。

〔校記〕(一)并□ノ二字、大村ハ□嬾ニヨム

次九、唐朱文本岑嗣宗造像記

貞觀十五年六月五日

西曆六四一

1 大唐貞觀十五年…²六月五日。朱文本…³敬造西塔一佛二…⁴菩薩。岑嗣宗。敬造…⁵東塔一佛二菩薩…⁶仰願一切含識。同…⁷登正覺。

〔校記〕(一)大村ハ岑ニ作ル

次十、唐清信女妙光造像記

貞觀十五年七月六日

西曆六四一

1 大唐貞觀十…²五年七月六…³日。清信女□…⁴妙光。身得惡…⁵夢。願造像五…⁶軀。今敬造成。

〔校記〕大村ハ貞觀廿三年七月一日、王妙光造像トス

次十一、唐□大并妻郁久閑造像記

貞觀十五年十一月廿五日

西曆六四一

1 大唐貞觀十…²五年十一月…³廿五日。□大…⁴并妻郁久閑…⁵敬造像一鋪。

〔校記〕(一)大村ハ步、(二)大村ハ閣

次十二、唐清信女張寂妃造彌陀觀音記

貞觀十八年三月十六日

西曆六四四

1 清信女張寂…²妃。敬造彌陀…³一軀。并造觀…⁴世音二軀。爲…⁵亡父楊僧威…⁶及己身并法…⁷界衆生。俱成…⁸正覺。大唐貞…⁹觀十八年…¹⁰三月十六日。

〔校記〕(一)大村ハ妃、(二)大村ハ人、(三)及下大村ハ一字アリト見ル、(四)以下大村ニヨル

大村ニヨル

次十三、唐前河南縣丞張君堯造像記

貞觀十八年五月十五日

西曆六四四

1 貞觀十八年五月十五日。前河南縣…丞張君堯。敬造像一龕。願法界衆生…俱登正覺。并爲法界衆生。敬造像一龕。

九四、唐楊僧威造像記 貞觀十八年八月廿四日

西曆六四四

1 大唐貞觀十…八年八月廿…四日。楊僧…威。爲師僧父…母。一切衆生…敬造像三軀…願合家大小…離障解脫。

九五、唐石靜章造像記 貞觀廿年

西曆六四六

1 貞觀廿年。石靜…章。爲七世父母…法界。敬造。

〔校記〕（一）大村八業

九六、唐梁國公府長史揚宣政造阿弥陀像記

貞觀廿一年十一月十五日

西曆六四七

1 大唐貞觀廿一年…十一月十五日。登…仕郎梁國公府長…史揚宣政。□□…爲比丘僧道□。敬…造阿弥陀像一軀…供養。

〔校記〕（一）以下大村八並妻二作ル

九七、唐賈君才造像記 貞觀廿二年五月八日

西曆六四八

1 貞觀廿二年五月八…日。賈君才。造像一龕…爲男小奴。家口平安。…法界衆生。共登正覺。

九八、唐清信女蕭氏造阿弥陀二菩薩記 貞觀廿二年八月廿五日

西曆六四八

1 清信女蕭。爲亡□孝子。敬造…阿弥陀佛一區。并二菩薩。願…當來往生無量壽國。從今身…見佛身。已業永斷。生□業不…復爲□□眷屬。然□兒未…捨壽以前。願亡後。卽於龍…門山石龕內。母子精深…本志。卽以貞觀廿二…年八月廿五日。從京□…就此寺。東山石龕內。安…□□。

龍門石刻錄錄文

九九、唐比丘尼□□造像記 貞觀廿二年十月一日

西曆六四八

1 比丘尼□□。爲師僧…父母。一切舍…議。敬造像…一坵。願超出…八難。同至菩…提。貞觀廿…二年十月…一。日記。

一〇〇、唐清信女張氏造阿弥陀像記 貞觀二十三年四月八日

西曆六四九

1 貞觀廿三年四月八日。…清信女張。爲母。見存眷…屬。己身平安。造阿弥像…一坵。法界舍生。共登正…覺。

一〇一、佛弟子趙才造像記 貞觀二十三年

西曆六四九

1 佛弟子趙才敬造像一坵。爲七…世父母。及己身。并舍識之類。願…永離三惡道。同志菩提。共登正…覺。貞觀廿三年造訖。

一〇二、唐范清才夫妻男女造阿弥陀像記 永徽三年三月廿三日

西曆六五二

1 永徽三年三月…廿三日。佛弟子…范清才夫妻男…女。敬造阿弥陀…像一龕。願七世…父母。法界舍生。

〔校記〕（一）大村八滿

一〇三、李力人摩訶并比丘尼貞智造像記 永徽三年

1 李力人摩訶。造浮圖…并作七佛。供養…永徽三□…比丘尼貞智造。

一〇四、唐魯寶師造阿弥陀像記 永徽四年六月廿一日

西曆六五三

1 佛弟子魯寶師。合家一…心發弘誓。願敬造阿弥…陀像一龕。上爲 皇帝…下及七世父母。法界舍…生。咸同斯福。永徽四…年六月廿一日。功訖。

一〇五、唐清信女陳氏造阿弥陀像記 永徽四年八月六日

西曆六五三

1 永徽四年八月六日。清…信女陳。爲亡女。敬造阿…弥陀像一龕。

三五九

願亡者神…生淨土。早離苦難。

1006、唐□世進造阿弥陀像記 永徽五年

西曆六五四

1 大唐永徽五年。□世進…爲亡妻。敬造弥陀像一…□□妻□生淨土。

〔校記〕(一)妻ノ字大村ハ大叔ニ作ル

1007、唐張君道造阿弥陀像記 顯慶元年六月

西曆六五六

1 弟子張君道。□□□敬造阿弥陀像一…軀願合家大小平安。□□□顯慶元年六月。

1008、唐封曾客造釋迦二菩薩二聖僧記 顯慶二年九月廿五日

西曆六五七

1 顯慶二年九月廿五日。孝…子封曾客。稽首和南。十方…三世。一切諸佛。但弟子罪…逆深重。早喪所天。攀慕無及。不…能□。今於此龕一所。爲亡…父。及七世父母。敬造釋迦…像一軀。并二菩薩二聖僧。…伏願過往先靈。身生淨土。…法相圓滿。早見如來。越彼…苦海。同勝彼岸。

〔校記〕大村ハ(一)劉魯(二)業(三)ナシ(四)樊□及(五)員(六)河ニ作ル

1009、唐雍州涇陽縣翊衛慕容文懿造阿弥陀像記

顯慶四年十一月十七日

西曆六五九

1 顯慶四年十一月十七日。雅州涇陽縣翊衛慕容…容文懿。爲亡父。造弥陀…像一龕。願託生西方。

1010、唐清信女盧氏造阿弥陀像記 顯慶四年十一月

西曆六五九

1 清信女盧□阿弥…陀像一龕。供養…顯慶四年十一月功得□。

〔校記〕(一)大村、繆目ニヨル

1011、唐王伴仁妻郭安造救苦觀音像記 顯慶四年十月

西曆六五九

1 弟子王伴…仁。妻郭安。…敬造救苦…觀世音菩…薩一龕。及□…界衆生等。願□…顯慶四年十月…□□□。

1012、唐王伴仁造阿弥陀像記

1 弟子王伴…仁。爲亡父…母。造阿弥…陀像一區。…供養佛時。

1013、唐周王府戶曹劉元禮等造阿弥陀像記 龍朔二年正月廿五日

西曆六六二

1 龍朔二年正月廿日。周王…府戶曹劉元禮。功曹王及…福。兵曹鄭行儼等。敬造阿…弥陀像一龕。願爲…皇帝陛下。一切含生。俱登…斯福。

〔校記〕(一)大村ハ四

1014、唐龍朔二年造阿弥陀像記 龍朔二年三月二日

西曆六六二

1 造阿弥陀像…一垠。龍朔二…年三月二日。

1015、唐東臺主書牛懿德造阿弥陀像記 乾封元年四月八日

西曆六六六

1 乾封元年四月八日。…東臺主書牛懿德。敬…造阿弥陀像一鋪。上…爲 皇帝陛下。及東…宮諸王。遍及法界衆…生。并見存男女。供養。

1016、唐□德子造地藏菩薩記 乾封二年四月八日

西曆六六七

乾封二年四月八日。弟子□德子。敬造地藏□□。

〔校記〕(一)大村ハ藏

1017、周襄州□城縣□造觀音像記 天授二年十月

西曆六九一

1 天授二年…十月。襄州…城縣。…一切苦厄。…敬造觀…音像一…軀。

一〇六 周比丘僧德造阿彌陀像記 天授□年二月八日 西曆六九〇—六九二

比丘僧…²德爲亡…³父母敬…⁴造阿彌…⁵陀像一…⁶鋪…⁷天授□
…⁸年二月…⁹八日。

一〇九 河南府洛陽縣東侯三里衆社人等題記 萬曆三十一年 西曆一六〇三

河南府洛陽縣東侯三…²里衆社人等子後…³明存。吳氏。劉
氏。李氏…⁴朱氏。王氏。方氏。曹氏…⁵馬氏。米氏。刑氏。
馬氏…⁶董氏。李氏。以上共施錢…⁷六千百七十文。姚自
強…⁸李孫。王思平。李之見…

洛陽縣彭淒三里…⁹十甲。陳美。施錢五百…¹⁰信士王

仲才。施錢三百…¹¹彭淒二里二甲。郭守祿…¹²施錢二百…

彭淒一里十甲。李景新…¹³山西陽城縣^{馬國庫}共施錢一百。

洛陽縣水南一里五甲。鄭世壯…¹⁴施銀一兩…¹⁵碑樓六

里五甲。楊仲良。施錢五百…¹⁶在城杜營。施錢一千…¹⁷彭淒二

里^{郭太乾}共施一千…¹⁸信士張治□施錢一百…¹⁹東侯一里

七甲。王應春。施錢三百…²⁰萬曆三十一年□□月吉日立。

一〇〇 清燕山德林等題記 同治九年二月 西曆一八七〇

大清同治九…¹年二月。燕…²山德林。祭告…³山川洞佛。立大…⁴木。
起雲架。拓…⁵老君洞。巍造…⁶像。選最上乘…⁷者。標名曰龍…⁸門十
品。同事…⁹人釋了亮…¹⁰拓手釋海南…¹¹布衣俞鳳鳴…¹²孫保。
侯大妃…¹³賀蘭汗。慈香…¹⁴元燮。大覺…¹⁵牛概。

高樹…¹⁶元詳。雲陽伯。

一〇二 清光緒庚寅春題記 光緒十六年 西曆一八九〇

光緒庚寅…¹春。長白豐…²文十三…³住潛溪寺…⁴拓龍門造…
像銘。共得…⁵千五百品。

一〇三 弟子□□□造觀音菩薩記

弟子□□□。敬造觀世音…¹菩薩一軀。上爲國王。及七世…²父母。
見存眷。及法界衆生。俱…³登正覺。願弟子當來值佛。

一〇四 王願造像記

王願。爲亡父。敬…¹造。

一〇五 清信女崔文君造像記

清信女…¹崔文君…²爲一切衆…³生。造。

一〇六 王婆造地藏菩薩記

王婆。爲亡妹戒靜…¹造地藏菩薩一軀。

一〇七 陳白隴母張氏造像記

陳白隴…¹母張。爲…²父母。造。

一〇八 僧待貢造觀音菩薩記

僧待貢。爲亡世父…¹母。見存父母。及善…²知識。□□□□…³

觀音菩薩□□法…⁴界衆生。共成佛果。

一〇九 楊七娘造觀音記

楊七娘。爲亡夫…¹陳崇。造觀世音一區。

一〇一〇 都督祁迴□供養

都督祁迴□。供養。

一〇一一 劉二娘田大娘等救苦觀世音菩薩記

劉二娘。田大娘…¹周大娘。張…²大娘。洪三娘…³共造救苦觀…

5 世音菩薩。

1011、前侍中宇文郎大人鄭造觀音菩薩記

1 前侍中宇文²郎大人鄭敬³造觀音菩⁴一軀供養。

1012、清信女孫華□造像記

1 佛弟子清信女孫華□²奉爲七世父母及法界³敬造供養。

1013、相州內黃縣陳思□造像記

1 相州內黃縣陳思□爲父母造。

1014、清信女□造釋迦像記

1 清信²女佛弟³子□□⁴爲身造⁵世加文尼⁶佛一區願⁷弟子見⁸安。

一四、待訪錄

大村支那美術史彫塑篇所錄

1015、北魏□□養造觀世音菩薩記 正光六年四月廿日

西曆五二五

1 正光六年四月廿日清□□²□□養爲息男³、⁴願百⁵、⁶像□地⁶、⁷□□佛道⁷、⁸願、⁹觀世

1016、北魏孝昌二年造像記 孝昌二年

西曆五二六

1 大魏孝昌二年²太歲、³

1017、北魏尼法光造觀世音釋迦像記 普泰二年四月八日

西曆五三二

1 比丘尼法光爲²弟劉桃扶北征³願平安還造⁴□世音像一⁵區及爲忘父⁶母造釋迦像⁷一區願現在眷⁸屬一切衆生⁹共¹⁰同斯福¹¹普泰二年四月¹¹八日造記。

1016、唐京兆公閻武蓋造阿彌陀二菩薩像記

貞觀十年十月廿五日

西曆六三七—四五

1 大唐貞觀十年十月廿²五日洛陽宮使守□領□³將軍柱國京兆公閻武蓋⁴爲亡□□□□□□郎⁵將妣□□敬造阿彌陀像⁶一區并二菩薩。

1017、唐永徽□年十月造阿彌陀像記

永徽□年十月

西曆六五〇—六五五

1 永徽□年十月²月□□□□□□³爲亡妻□⁴敬造阿彌陀⁵像一龕。

1018、唐永徽□年造阿彌陀像記

永徽□年□月

西曆六五〇—六五五

1 大唐永徽□年□月²□□□□□□³今造阿彌陀像⁴一龕敬慈澤斯乃上□⁵下拯郡生同出□□⁶登彼岸。

1019、唐永徽□年造阿彌陀像記

永徽□年正月

西曆六五〇—六五五

1 大唐永□年正月□□□□□□²今造阿彌陀像³一龕□慈澤斯乃□□□□⁴下拯群生同出□□□□⁵登彼岸

1020、唐華師祖妻孫氏造優填王像記 顯慶元年四月廿五日

西曆六五六

1 華師祖妻孫知身無常夫²王先亡以顯慶元年四月³廿五日發心敬造優填王⁴像一龕未及成就聞孫婆⁵其年五月四日身故續□⁶有眷屬□協華信孫信等⁷檢校今得成就願亡者靈⁸化淨境斷除三鄣又願及⁹一切含識俱登覺覺鑊記。

1021、唐司農寺鉤盾□造彌陀像記 龍朔元年□□一日

西曆六六一

龍朔元年□□一日。司農…²寺鈎盾□□墓主□…³□染□□金
得除損…⁴敬造□彌陀像一龕…⁵、、父母。內外眷…⁶、、
咸同…⁷、、、

一〇四、唐高昌張安題記 總章二年□月十日

西曆六六九

一〇四、唐弟子□懺造像記 總章二年十月

西曆六六九

一五、待訪錄

據岩田龍門寫真

¹總章二年十月…²弟子□懺。妻魏…³早亡。身復失明…⁴歎辭。蓋
聞。湘水…⁵文竹。由淚□以成斑。五…⁶曜神珠。感哀聲□…⁷男□。出
□山之鳥□…⁸怨分離。况吾之情□…⁹不歎恨者也。但政春…¹⁰秋
冊。遇患。痲痲。誰□…¹¹茶□由如閨室。上無…¹²元季之兄。下無伏床
…¹³之子。苟存朝夕。養…¹⁴其蜉蝣之命。知遺…¹⁵光□不久。曉零之難
…¹⁶停。加以減割朝飧。…¹⁷剝其寒暑之服。…¹⁸敬造尊像一龕。…¹⁹□
龍門。以記。…²⁰金山盈而存朽…²¹□、、、

一〇五、爲亡母造釋迦牟尼像 永平二年四月廿三日

西曆五〇九

¹永平二年四月廿三日。造釋迦…²牟尼像一區。上爲…³亡…⁴母…
集…⁵書…⁶舍…⁷、…⁸、…⁹、…¹⁰標…¹¹、、敬造。

一〇六、清信女宋溫鶯造觀音像記 永平二年四月廿三日

西曆五〇九

¹永平二年四月廿三日。造觀世像一區。上爲七世父母所…²生父
母、、願、、愆所、、…³清…⁴信…⁵女…⁶宋…⁷溫…⁸、

目録凡例

- 一、目録の配列はまづ第一部造像記題記類、第二部經典及び藥方類とし、第一部は年代順にしたがつた。
- 二、各項末尾の番號は録文番號である。
- 一、引用著書の下にある數字は卷數、もしくは頁數であるが、沙畹のみはその録文の番號であり、括弧中に入れたものはその言及した拓影番號であつて、これはその文が載録されてゐない。
- 一、各項末尾の洞名はその所在をあらはしたが確實なるもの、および諸家一致するものは括弧を附せず、諸説あつて決しがたいものは括弧を附し列記した。

龍門石刻錄目錄

第一部 造像記題記類

北魏

- 一 長樂王丘穆陵亮夫人造彌勒像記 太和十九年十一月 西曆四九五
補正三 關表上二 佛蹟〇八 沙晚二五七 趙錄二 楊錄二 汪錄五 楊圖三
王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 常錄 調表 石言……古陽洞五七
- 二 步舉郎張元祖妻一弗造像記 太和二十年 西曆四九六
補正三 關表上二 大村二〇 沙晚二〇〇 趙錄二 楊錄二 汪錄五 王目
繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言……古陽洞五八
- 三 高慧造彌勒像記 太和二十二年二月十日 西曆四九八
補正三 關表上二 大村二〇 王目 調表 石言 劉錄一……古陽洞六六
- 四 比丘慧成造石窟石像記 太和二十二年九月十四日 西曆四九八
萃編三 補正三 關表上二 大村二〇 佛蹟二二 沙晚二〇二 錢目一 姚目三
縣志五 一跋三 趙錄一 楊錄二 楊圖三 王目 繆目二 吳錄六
吳目九 調表 石言 羅錄……古陽洞五九
- 五 北海王元詳造像記 太和二十二年九月二十三日 西曆四九八
補正三 關表上二 大村二〇 沙晚二五八 汪錄五 楊圖三 王目 繆目二
吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言……古陽洞五〇
- 六 遊激校尉司馬解伯達造彌勒像記 太和年 西曆四九五—四九九
補正三 關表上二 大村二〇 沙晚二〇三 錢目一 孫錄二 姚目三 縣志五
- 續跋一 楊錄二 楊圖三 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 方筆
調表 石言……古陽洞五八
- 七 邑師惠□等題名 景明元年 西曆五〇〇
補正三 關表上二 大村二〇 趙錄 王目 吳目九……古陽洞八三
- 八 鄭胤興等造像記 景明元年 西曆五〇〇
關表上二……古陽洞
- 九 馬慶安造像記 景明二年八月二日 西曆五〇一
補正三 關表上二 大村二〇 趙錄 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六
吳目九 劉錄三……古陽洞八八
- 一〇 護軍長史雲陽伯鄭長猷等造彌勒像四軀記 景明二年九月三日 西曆五〇一
補正三 關表上二 大村二〇 沙晚二〇三 孫錄二 趙錄二 楊錄二 楊圖三
王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言……古陽洞六二
- 二 呂懷妻造像記 景明二年十月十五日 西曆五〇一
吳目九
- 三 孫秋生等二百人造像記 景明三年五月二十七日 西曆五〇二
萃編三 補正三 大村二〇 沙晚二〇五 畢記一 錢目一 洪記二 王目
趙目一 吳目九 方筆 調表 石言 羅錄 劉錄三……古陽洞五九
- 三 比丘惠感造彌勒像記并比丘法寧造石像記 景明三年五月三十日 西曆五〇二
補正三 關表上二 大村二〇 沙晚二〇四 孫錄二 朱記二 楊圖三

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言 劉錄三……古陽洞五五

二四 高樹解佰都等卅二人造像記 景明三年五月三十日 西曆五〇二

補正三 關表上二 大村一五 沙晚二〇六 孫錄二 汪錄 王目 繆目二

趙目一 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言……古陽洞五五

二五 趙雙哲造像記 景明三年五月三十日 西曆五〇二

補正三 關圖六 關表上二 大村一五 楊錄二 王目 繆目二 趙目 吳錄六

吳目九 劉錄三……古陽洞五五

二六 尹愛姜等廿一人造彌勒像記 景明三年六月二十三日 西曆五〇二

關圖七 關表上二 大村一五 趙錄 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 調表

石言 劉錄三……古陽洞五五

二七 廣川王祖母太妃侯造彌勒像記

景明三年八月十八日 西曆五〇二

補正三 大村一五 沙晚二〇七 汪錄五 王目 繆目二 吳錄六 吳目九

方筆 調表……古陽洞五五

二八 邑主馬振拜等卅四人造像記 景明四年八月五日 西曆五〇三

補正三 關表上二 趙錄二 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆

調表 石言……古陽洞五五

二九 廣川王祖母太妃侯造彌勒像記 景明四年十月七日 西曆五〇三

補正三 關表上二 大村一五 沙晚二〇八 汪錄五 王目 繆目二 吳錄六

方筆 調表 石言 劉錄三……古陽洞五五

三〇 賈元嬰造像記 景明四年十一月一日 西曆五〇三

關表上二 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞

三一 比丘法生造像記 景明四年十二月一日 西曆五〇三

萃編三 補正三 關表上二 大村一五 沙晚二〇九 孫錄二 姚目三 縣志五

洪記二 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 方筆 常錄

調表 石言……古陽洞五五

三二 比丘慧樂造像記 景明四年十二月一日 西曆五〇三

關表上二……古陽洞

三三 比丘道仙造像記 正始元年十一月三日 西曆五〇四

關表上二 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞

三四 高思鄉造釋迦文像記 正始元年十一月四日 西曆五〇四

補正三 關圖九 關表上二 大村一五 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 調表

石言 劉錄三……古陽洞五五

三五 僧惠澄造像記 正始元年 西曆五〇四

關表下三 王目 繆目三 調表 劉錄六……(唐字洞)(王祥洞)

三六 清信佛弟子敦煌爲皇帝七世父母造像記

正始二年正月十二日 西曆五〇五

關表上二 繆目二 劉錄三……古陽洞

三七 楊安族造釋迦像記 正始二年正月三十日 西曆五〇五

補正三 關表上三 大村一五 沙晚二〇九 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞五五

三八 鈎楯令王史平等造彌勒像記 正始二年四月十五日 西曆五〇五

補正三 關表上三 大村一五 沙晚二〇〇 孫錄二 姚目二 縣志五 楊錄

王目 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……古陽洞五五

三九 冗從僕射長秋承祀允造釋迦二菩薩像記

正始三年三月十九日 西曆五〇六

補正三 關圖一〇 關表上三 大村一五 趙錄二 楊錄二 汪錄五 楊圖三

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言……古陽洞五五

四〇 比丘如光造像記 正始三年四月十日 西曆五〇六

補正三 關表上二 大村一五 沙晚二一〇 王目 繆目二 吳錄六 吳目九

常錄 劉錄三……古陽洞五五

四一 孫大光造釋迦像記 正始三年六月三十日 西曆五〇六

補正三 關表上二 大村一五 沙晚二一一 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

汪錄 繆目二 趙目一 吳錄六 常錄 調表……古陽洞五七

三 楊小妃造釋迦像記 正始三年十二月二十二日 西曆五〇六

補正三 關表上三 大村三三 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九……古陽洞五六

三 太中大夫安定王元燮造釋迦像記 正始四年二月 西曆五〇七

補正三 關表上三 大村三三 沙晚二六七 洪記二 汪錄五 王目 繆目二
吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言……古陽洞五六

三 護軍府吏魯衆敬造像記 正始四年四月 西曆五〇七

補正三 關表上三 大村三三 沙晚二七八 孫錄二 姚目三 縣志五 續跋一
楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞五〇

三 比丘法轉造彌勒像記 正始四年六月一日 西曆五〇七

補正三 關表上三 大村三三 王目 繆目二 趙目二 吳錄六 吳目九
……古陽洞五九

三 佛弟子李慶興造像記 正始四年十一月十一日 西曆五〇七

關表上三……古陽洞
三 佛弟子□□造像記 正始四年十一月十一日 西曆五〇七

三 佛弟子丁坦之造像記 正始四年十一月十一日 西曆五〇七

關表上三……古陽洞
三 比丘尼僧恩造像記 正始五年三月十二日 西曆五〇八

三 敦光造像記 正始五年四月二日 西曆五〇八

關表上三……古陽洞
四 關口關曹吏張英周妻蘇文好造像記 正始五年四月二十日 西曆五〇八

關表上三 大村三三 沙晚二六三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二
吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞九〇

龍門石刻錄目錄

四 關口關功□□造像記 正始五年四月二十日 西曆五〇八

沙晚二六三 吳錄六 吳目九 劉錄五……古陽洞六三

四 關口關吏史市榮造釋迦文佛記 正始五年四月二十日 西曆五〇八

關表上三 大村三三 沙晚二六〇 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二
吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……古陽洞六四

四 比丘惠合造釋迦佛并菩薩記 正始五年八月十五日 西曆五〇八

補正三 關表上三 大村三三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目
繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六二

四 比丘惠合造釋迦像記 正始五年八月十五日 西曆五〇八

補正三 關表上三 大村三三 縣志五 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九
……古陽洞六二

四 馬生妻造釋迦像記 永平元年九月十六日 西曆五〇八

關表上三 關表上三……古陽洞六五

四 桃泉寺道宋造彌勒像記 永平元年 西曆五〇八

補正三 關表上三 大村三三 沙晚四二 趙錄二 王目 繆目二 吳錄六
吳目九 常錄……古陽洞六四

四 □府人等造彌勒像記 永平元年 西曆五〇八

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

四 比丘尼造像記 永平二年二月 西曆五〇九

關表上四 吳錄六 吳目九……古陽洞

五 清信女宋溫鴛造觀音像記 永平二年四月二十三日 西曆五〇九

關表上三……古陽洞〇四

五 爲亡母造釋迦牟尼像記 永平二年四月二十三日 西曆五〇九

關表上三……古陽洞〇五

五 比丘尼法文法隆等造彌勒像記

永平二年四月二十五日 西曆五〇九

補正三 關圖四 關表上三 大村三〇四 沙晚二六三 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄……古陽洞六六

五 爲七世父母眷屬造像記 永平二年六月二十四日 西曆五〇九

關表上三 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞

五 比丘惠合造迦葉像記 永平二年八月十五日 西曆五〇九

王目 繆目二

五 邑師道暈等造彌勒像記 永平二年十一月十六日 西曆五〇九

關圖六 關表上三 大村三〇四 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞六七

五 賈元英造釋迦像記 永平二年十一月十六日 西曆五〇九

關圖五 關表上三 大村三〇四 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞六八

五 比丘尼法行造定光佛像記 永平三年四月四日 西曆五一〇

萃編三 補正三 關表上四 大村三〇四 沙晚二六四 孫錄二 姚目三 縣志五

一跋四 趙錄二 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表

……古陽洞六九

五 邑子張元雙等廿三人造像記 永平三年四月四日 西曆五一〇

關表上四……古陽洞

五 道人惠感造釋迦像記 永平三年五月十日 西曆五一〇

補正三 關表上四 大村三〇四 沙晚二六五 王目 繆目二 吳錄六 吳目九

劉錄三……古陽洞六〇

六 比丘尼法慶造彌勒像記 永平三年九月四日 西曆五一〇

補正三 關表上四 大村三〇四 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 趙錄二

楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六一

六 比丘尼惠智造釋迦像記 永平三年十一月二十九日 西曆五一〇

補正三 關表上四 大村三〇四 沙晚二六七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……古陽洞六二

三 黃元德等造彌勒像記 永平四年二月十日 西曆五一一

關表上四 大村三〇五 沙晚二六八 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三

……古陽洞六三

三 比丘尼惠□造像記 永平四年六月四日 西曆五一一

關表上四……古陽洞

六 領太官令曹連造釋迦像記 永平四年八月二十六日 西曆五一一

補正三 關表上四 大村三〇五 沙晚二六九 孫錄二 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄……古陽洞六五

六 比丘□法興造彌勒像記 永平四年九月一日 西曆五一一

補正三 關表上四 大村三〇五 沙晚二七〇 孫錄二 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六六

六 比丘法僧造釋迦像記 永平四年十月三日 西曆五一一

關圖七 關表上四 大村三〇五 王目 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞六七

六 比丘法僧造釋迦像記 永平四年十月三日 西曆五一一

關圖六 關表上四 大村三〇五 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞六八

六 仙和寺尼道僧略造彌勒像記 永平四年十月七日 西曆五一一

萃編三 補正三 關圖九 關表上四 大村三〇五 沙晚二七一 錢目一 孫錄二

縣志五 洪記二 一跋 續跋一 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 常錄

石言……古陽洞六九

六 清信女李□妃造像記 永平四年十月十四日 西曆五一一

關表上四 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄……古陽洞

七 華州刺史安定王變造石窟石像記

萃編三 補正三 關圖一〇 關表上五 大村三〇五 沙晚二七二 錢目一

一跋三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六

吳目九 常錄 調表 石言……古陽洞七〇

七 安定王造觀音像二軀記

補正三 關表上五 沙晚二七三 畢記二 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞七〇

三 尹伯成妻姜氏造觀音像記 永平四年十二月十二日 西曆五一

補正三 關表上四 大村三〇六 沙晚二六四 孫錄二 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六〇

三 釋法陵造像記 永平五年正月 西曆五一二

大村三〇六 關表上四 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二

吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……古陽洞三三

三 比丘尼僧造像記 永平〇年 西曆五〇八一五一

吳錄六 吳目九

三 劉洛真兄弟造彌勒像二軀記

延昌元年十一月四日 西曆五一二

補正三 關圖三 關表上四 大村三〇六 沙晚二六六 孫錄二 縣志五 一跋四

楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

三 劉洛真造釋迦像記 延昌元年十一月 西曆五一二

補正三 關圖三 關表上四 大村三〇六 沙晚二六六 孫錄二 姚目二 縣志五

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

三 奉朝請造觀世音像記 延昌二年二月一日 西曆五一三

補正三 關表上五 王目 常錄……古陽洞八四

三 比丘尼法興造釋迦像記 延昌二年八月二日 西曆五一三

補正三 關表上四 大村三〇六 沙晚二六七 趙錄二 楊錄二 王目 繆目二

趙目一 吳錄六 吳目九……古陽洞六四

三 張道伯等十四人造彌勒像記 延昌三年八月二日 西曆五一四

補正三 大村三〇六 沙晚四七 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄

劉錄三……古陽洞六六

三 劉□兒造定光佛像記 延昌三年〇月二十二日 西曆五一四

補正三 關表上五 大村三〇七 沙晚二六八 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

龍門石刻錄目錄

二 白洛生姊樂普念造釋迦像記 延昌四年二月二日 西曆五一五

補正三 關圖三 關表上五 大村三〇七 沙晚二六八 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六六

三 比丘尼法貴等造彌勒像記 延昌四年五月十日 西曆五一五

補正三 關表上五 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 吳錄六 吳目九 常錄

調表 劉錄三……古陽洞七七

三 尹顯房多寶像記 延昌四年八月二十九日 西曆五一五

補正三 大村三〇七 沙晚二六九 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄……古陽洞三九

三 尹靜妙造像記 延昌四年八月二十九日 西曆五一五

補正三 關圖三 關表上五 大村三〇七 沙晚二六九 一跋四 趙錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

三 延昌四年造像記 延昌四年 西曆五一五

關表上五 劉錄三……古陽洞

三 妙姬題記 延昌年間 西曆五一二—五一五

補正三 關表上五 吳錄六 吳目九……古陽洞八四

三 比丘尼□造像記 延昌〇年五月五日 西曆五一二—五一五

關表上五 王目……古陽洞

三 比丘惠榮造彌勒像記 熙平二年四月十五日 西曆五一七

補正三 關圖三 關表上五 大村三〇五 沙晚二六四 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

三 比丘惠珍造釋迦并七佛像記

熙平二年五月二十四日 西曆五一七

補正三 關表上五 大村三〇五 沙晚二六四 孫錄二 姚目二 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 常錄 調表……古陽洞三三

三 涇州刺史齊郡王祐造像記 熙平二年七月二十日 西曆五一七

萃編六 補正三 關圖三 關表上五 大村三〇五 沙晚二六四 錢目一 姚目三

三六九

縣志五 洪記二 一跋四 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九
方筆 常錄 調表 石言 劉錄三……古陽洞三三

二 熙平二年造像記 熙平二年 西曆五一七

孫錄二 縣志五 趙錄二 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表
……古陽洞

三 惠仰造釋迦并七佛像記 熙平三年五月二十四日 西曆五一八

大村三五 沙晚二四三 縣志五 繆目三……古陽洞九五

三 四娘造像記 神龜元年四月八日 西曆五一八

關表上五 大村三六 王目 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞三五

四 慧暢杜遷等廿三人造釋迦像記 神龜元年六月十五日 西曆五一八

補正三 關圖三 關表上五 大村三六 沙晚二四四 孫錄二 楊圖三 王目

趙目一 繆目二 吳錄六 吳目九 調表……古陽洞四四

五 清信女造無量壽像記 神龜元年 西曆五一八

關表上五 沙晚二四五 孫錄二 姚目三 縣志五 趙錄一 楊錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……老龍洞附近三

六 邑師惠感造像記 神龜二年三月十五日 西曆五一九

補正三 關表上五 大村三六 沙晚二四五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……古陽洞三五

七 杜永安造無量壽佛記 神龜二年四月二十五日 西曆五一九

補正三 關表上六 大村三六 錢目一 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三六

八 羅輝造彌勒像記 神龜二年四月□日 西曆五一九

補正三 關表上六下八 大村三六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞三七

九 汾州刺史赫連儒造彌勒像記 神龜二年六月三日 西曆五一九

關圖六 關表上六 王目 劉錄三……古陽洞三六

一〇 楊善常李伏及造像記 神龜二年七月三日 西曆五一九

補正三 關圖元 關表上六 大村三七 沙晚二四四 孫錄二 姚目三 縣志五
楊錄二 王目 繆目二 趙目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

一〇 寶明妻造像記 神龜二年 西曆五一九

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

一一 比丘知因造彌勒像記 神龜三年三月二十五日 西曆五二〇

補正三 關表上六 大村三七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目

吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

一二 比丘尼慈香慧政造窟記 神龜三年三月二十□日 西曆五二〇

補正三 關圖三 關表上六、六 大村三七 沙晚二四七 趙錄二 楊錄二

汪錄六 楊圖三 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 常錄 調表

石言……古陽洞三〇

一三 邑師惠感邑主趙阿歡等廿三人造彌勒像記 神龜三年六月九日 西曆五二〇

萃編元 補正三 關表上六 大村三七 沙晚二四六 錢目一 孫錄二 姚目三

縣志五 洪記二 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 常錄

調表 石言 劉錄五……古陽洞三三

一四 神龜年造像記 神龜□年 西曆五一八—五二〇

關表上六……古陽洞

一五 比丘尼惠復造像記 正光元年二月十二日 西曆五二〇

繆目二

一六 樊鳳龍造像記 正光元年九月十九日 西曆五二〇

關表上六……藥方洞

一七 蔡陽郡從事劉顯明造釋迦像記 正光元年九月二十日 西曆五二〇

補正三 關表上六 大村三七 沙晚二四六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

一八 比丘尼道□造釋迦像記 正光二年三月二十六日 西曆五二一

關圖六 關表上六 王目 劉錄三……古陽洞三六

一九 比丘尼道□造釋迦像記 正光二年三月二十六日 西曆五二一

關表七 繆目二 常錄 劉錄三……火燒洞七五

二〇 僧始造像記 正光二年六月

西曆五二一

關表六……古陽洞

二一 田黑女造像記 正光二年七月十日

西曆五二一

補正三 關表六 大村三六 沙晚二五三 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 劉錄六……石牛溪四四

二二 田黑女造像記 正光二年七月十五日

西曆五二一

關表六 沙晚六九 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄六……石牛溪四四

二三 王永安造像記 正光二年八月二十日

西曆五二一

補正三 大村三六 沙晚二五三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……古陽洞室

二四 王永安造觀世音記

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 常錄 調表……火燒洞七五

二五 比丘慧榮造釋迦像記 正光二年八月二十日

西曆五二一

補正三 關圖三 關表六 大村三七 沙晚二六〇 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 劉錄三……古陽洞室

二六 王仲和造觀音像記 正光二年九月四日

西曆五二一

補正三 關圖三 關表六 大村三六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞室

二七 徐□和造像記 正光二年十月二十二日

西曆五二一

補正三 關圖三 關表六 大村三六 沙晚二五三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 常錄 調表 劉錄三……古陽洞室

二八 比丘尼清信士清信女等合造釋迦像十六區記

正光二年十一月二十九日 西曆五二一

關表六 大村三六 沙晚二四四 繆目二 吳錄六 吳目九……蓮華洞左壁

二九 比丘慧榮造像記 正光二年十二月七日

西曆五二一

補正三 關表七 大村三六 沙晚四四 王目 繆目二 吳錄六 調表

龍門石刻錄目錄

劉錄三……古陽洞室

三〇 李要□造像記 正光三年六月

西曆五二二

關表七 大村三六 繆目二 劉錄三……火燒洞七五

三一 大統寺比丘慧榮造像記 正光三年七月十七日

西曆五二二

補正三 關圖三 關表六 大村三三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……火燒洞七五

三二 比丘慧暢造彌勒像記 正光三年九月九日

西曆五二二

萃編元 補正三 關圖三 關表七 大村三六 沙晚二五三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……古陽洞室

三三 □相合妻公孫興姬造無量壽佛記

正光三年九月二十日 西曆五二二

關表七 大村三六 趙錄二 楊錄二 繆目二 吳錄六 常錄……火燒洞七五

三四 比丘尼法陀造釋迦像記 正光四年正月二十六日

西曆五二三

補正三 關圖三 關表七 大村三六 佛蹟二〇 沙晚二六〇 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞室

三五 王伯集供養記 正光四年三月二十三日

西曆五二三

補正三 大村三六 繆目二 劉錄三……火燒洞七五

三六 比丘惠榮造釋迦像記 正光四年三月二十三日

西曆五二三

補正三 關表七 大村三三 繆目二 常錄 劉錄三……火燒洞七五

三七 陽景元供養觀世音佛記 正光四年三月二十三日

西曆五二三

補正三 大村三四 繆目二 常錄 劉錄六……火燒洞七五

三八 比丘僧安造像記 正光四年四月八日

西曆五二三

關表七……火燒洞

三九 比丘尼法照造彌勒像記 正光四年九月九日

西曆五二三

補正三 關表七 大村三三 沙晚二五二 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞左壁四八

二三 清信優婆夷李氏造無量壽像記

正光四年九月十五日 西曆五二三

補正三 關圖七 關表七 大村三三、三九 沙晚二五三 孫錄二 姚目三
縣志五 楊錄二 王目 繆目三 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表
……魏字洞右壁五七

二三 校尉王□妻田氏造觀世音像記

正光四年□月十六日 西曆五二三

補正三 關表七 大村三三 沙晚(三三) 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……魏字洞左壁四九

二三 尼法暈曇熾二人造像記

正光五年四月八日 西曆五二四

二三 清信女任陵妻陳氏造觀世音像記

正光五年七月二十三日 西曆五二四

關表七 大村三三 沙晚二五二 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二
吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞右壁四〇

二四 道俗廿七人造像記

正光五年十一月二十五日 西曆五二四

補正三 關表七 沙晚二四六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目
繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……老龍洞附近四

二五 佛弟子駱慈眺爲□恭妃造釋迦文像記

正光六年二月八日 西曆五二五

關表六 劉錄三……(藥方洞)(火燒洞)
二六 比丘尼惠澄造像記 正光六年三月十日 西曆五二五

關表七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄
劉錄三……石牛溪四六

二七 □□養造觀世音菩薩記 正光六年四月二十日 西曆五二五

關表七 大村三三 沙晚二五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目
繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄五……老龍洞附近一〇五

二六 像主蘇胡仁合邑十九人等造釋迦像記

正光六年八月二十五日 西曆五二五

補正三 關表六 大村三三 佛蹟七 沙晚二四六 孫錄二 姚目三 縣志五
楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言
……蓮華洞右壁五〇

二六 使持節平西將軍姚□造石窟記

正光□年 西曆五二〇—五二五

二六 比丘尼僧□造彌勒觀音藥師像記

孝昌元年七月十七日 西曆五二五

補正三 關表六 大村三三 沙晚二五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞五二

二六 比丘尼僧達造釋迦像記

孝昌元年八月八日 西曆五二五

補正三 關表六 大村三三 沙晚二五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三
……(石牛溪)(老龍洞附近)五

二六 比丘尼道暢造賢劫千佛像記

孝昌元年八月十二日 西曆五二五

關表六 大村三三 繆目二 劉錄三
二七 比丘尼善法造像記 孝昌元年 西曆五二五

關表下六 大村三三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九
常錄 調表……萬佛洞

二八 □三餘造彌勒像記 孝昌元年 西曆五二五
大村三三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 常錄 調表

二九 鹿登等卅三人造像記 孝昌二年三月二十七日 西曆五二六
大村三三 吳錄六

一四 孝昌二年造像記 孝昌二年四月二日 西曆五二六

大村三六 繆目二 常錄

一四 周天蓋造無量壽像記 孝昌二年四月八日 西曆五二六

補正三 關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞右壁四

一四 紫內比丘尼造彌勒像記 孝昌二年四月二十三日 西曆五二六

關表六六 大村三六 沙晚二五五 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三

……魏字洞前壁四

一四 比丘尼法起造觀世音像記 孝昌二年四月二十三日 西曆五二六

關表六六 大村三六 沙晚二五五 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄三

……魏字洞前壁四

一五 清信女王氏造彌勒像記 孝昌二年四月二十八日 西曆五二六

關表六六 大村三六 沙晚二五五 王目 繆目二 吳錄六 吳目九

……魏字洞前壁四

一五 左藏令榮九州造像記 孝昌二年五月八日 西曆五二六

關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞右壁四

一五 清信□會造觀世音像記 孝昌二年五月十五日 西曆五二六

補正三 關圖五 關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三

……魏字洞右壁四

一五 比丘尼法璨造釋迦像記 孝昌二年五月二十三日 西曆五二六

補正三 關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三

……魏字洞左壁四

一五 丁辟耶造無量壽像記 孝昌二年五月二十三日 西曆五二六

補正三 關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

龍門石刻錄目錄

王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞右壁四

一五 乾靈寺比丘尼智空造像記 孝昌二年五月二十三日 西曆五二六

補正三 關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞右壁四

一五 孫妙憇息造無量壽佛像記 孝昌二年五月二十三日 西曆五二六

關表六六 繆目二……魏字洞

一五 李袁王僧秀張安花等造像記

關表六六 大村三六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 孝昌二年六月二十日 西曆五二六

吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞空

一五 孝昌二年造像記 孝昌二年七月

關表六六 大村三六……魏字洞前壁四

一五 傅□□造觀世音像記 孝昌二年八月二十九日 西曆五二六

關表六六 大村三六 沙晚二五五 趙錄二 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九

劉錄三……魏字洞右壁四

一六 比丘尼僧超造像記 孝昌二年十月七日 西曆五二六

關表六六……魏字洞

一六 孝昌二年造彌勒像記 孝昌二年□月八日 西曆五二六

關表下三 吳錄九 吳目三……魏字洞前壁四

一六 孝昌二年造像記 孝昌二年 西曆五二六

關表六六 大村三六……蓮華洞一〇

一六 清信女黃法僧造無量壽像記 孝昌三年正月十五日 西曆五二七

補正三 關表六六 沙晚二五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……蓮華洞左壁五

一六 清信女宋景妃造釋迦像記 孝昌三年四月八日 西曆五二七

補正三 關圖六 關表六六 大村三六 沙晚二五五 孫錄二 王目 繆目二

趙目一 吳錄六 吳目九 調表 石言……蓮華洞左壁五

一五 比丘尼明勝造釋迦像記 孝昌三年五月二十四日 西曆五二七

關表上九三三 大村三三 沙晚一五二 趙錄二 王目 繆目二 吳錄六

吳目九……蓮華洞三五

一六 太尉公皇甫公造石窟碑 袁翻撰 王實書

孝昌三年九月十九日 西曆五二七

關表上九 沙晚(圖三) 吳錄六 吳目九……石窟洞

一七 孝昌年造像記 孝昌□年五月二十日 西曆五二五—五二七

關表上九……魏字洞

一八 景隆寺沙門曇念造彌勒像記 武泰元年四月六日 西曆五二八

關圖四 關表上九 大村三三 沙晚一五三 繆目二 吳錄六 吳目九 調表

石言 劉錄三……蓮華洞右壁三五

一九 高瓮等造像記 武泰元年 西曆五二八

關表上九 大村三三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六

吳目九 常錄

二〇 沙門惠詮弟李興造彌勒像記 建義元年七月十五日 西曆五二八

補正三 關表上九 大村三三 沙晚一五三 孫錄二 姚目三 縣志五 趙錄二

楊錄二 王目 繆目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……蓮華洞左壁三五

二一 比丘尼道慧造石浮圖記 建義元年十一月二十三日 西曆五二八

關圖四 關表上九 大村三三 沙晚一五四 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……蓮華洞左壁三五

二二 張歡□造觀音像記 永安二年三月十一日 西曆五二九

關圖四 關表上九 大村三三 沙晚一五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……蓮華洞三五

二三 清水縣開國公李長壽妻陳暈造釋迦像記

永安三年六月十二日 西曆五三〇

關表上九 沙晚一五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六

吳目九 常錄 調表……藥方洞右壁三五

二四 比丘尼道慧法盛造觀世音像記 普泰元年八月十五日 西曆五三一

關圖四 關表上〇 大村三三 沙晚一四三 孫錄二 姚目三 楊錄二 繆目二

吳錄六 吳目九 常錄 調表……第十四洞五三

二五 比丘尼道慧法盛等造多寶像記 普泰元年八月十五日 西曆五三一

關表上〇 大村三三 佛蹟六 沙晚一四五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……第十四洞左壁三五

二六 比丘尼□安造像記 普泰二年二月十八日 西曆五三二

關表上〇……火燒洞

二七 比丘尼□達造釋迦像記 普泰二年三月十六日 西曆五三二

關表上〇 大村三三 繆目二 劉錄三……火燒洞三五

二八 比丘靜度造釋迦兩觀音別造小觀音記 普泰二年閏三月二十日 西曆五三二

關圖四 關表上〇 大村三三 沙晚一五六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄……蓮華洞左壁三五

二九 尼法光造觀世音釋迦像記 普泰二年四月八日 西曆五三二

關表上〇 大村三三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二

趙目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……賓陽洞一〇七

三〇 清信士路僧妙造釋迦像記 普泰二年四月二十四日 西曆五三二

萃編元 補正三 關圖四 關表上〇 大村三三 佛蹟六 沙晚一五六

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九

常錄 調表……藥方洞三五

三一 石窟寺比丘法雲佛弟子趙文歡造像記 普泰二年 西曆五三二

趙錄二 吳錄六 吳目九

三二 楊元凱造多寶佛記 太昌元年十二月十二日 西曆五三二

關圖四 關表上〇 劉錄三……蓮華洞左壁三五

關表上〇 劉錄三……蓮華洞左壁三五

關表上〇 劉錄三……蓮華洞左壁三五

關表上〇 劉錄三……蓮華洞左壁三五

一八三 楊元胤造像記

關表下下三……石牛溪

一八四 劉景和造釋迦像記

永熙二年三月一日

一八五 陽烈將軍樊道德造釋迦像記

永熙二年七月十日 西曆五三三

補正三 關表上〇 大村三三 佛蹟八 沙晚一四〇 孫錄二 姚目三 縣志五

一八六 元□等法儀廿余人造石像記

永熙二年八月二十日 西曆五三三

補正三 關表上〇 大村三三 沙晚一五七 王目 繆目二 吳錄六 吳目九

一八七 陵江將軍政桃樹造無量壽佛記

永熙二年九月十日 西曆五三三

補正三 關表上〇 大村三九 沙晚一五七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……古陽洞六

一八八 清信士侯德□上爲七世父母造像記

永熙二年十二月 西曆五三三

一八九 比丘道仙造彌勒像記

永熙三年四月十三日 西曆五三四

關圖五 關表上〇 沙晚一五八 繆目二 劉錄三……蓮華洞右壁三

一九〇 清信女孫姬造釋迦像記

永熙三年五月七日 西曆五三四

補正三 關表上〇 大村三三 佛蹟八 沙晚一五九 錢目一 孫錄二 姚目三

一九一 比丘尼德相造觀世音記

永熙□□年 西曆五三二—五三四

補正三 關表下下三 大村三三 沙晚一五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

王目 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄六……藥方洞五〇

西 魏

龍門石刻錄目錄

一九二 黨屈蜀造像記

大統四年六月六日 西曆五三八

補正六 關表上三 大村三四 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……王祥洞八

一九三 平東將軍蘇萬成妻造像記

大統六年四月二十八日 西曆五四〇

補正六 關表上三 大村三四 沙晚一六二 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

一九四 平東將軍蘇萬成造像記

大統六年七月十五日 西曆五四〇

補正六 關表上三 大村三四 沙晚一六三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

一九五 始平縣男韓道入造像記

大統七年正月十五日 西曆五四一

補正六 關表上三 大村三四 沙晚一六三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……魏字洞八

一九六 洛州靈巖寺沙門璨造石像記

大統七年四月二十六日 西曆五四一

補正六 關表上三 大村三四 佛蹟八 沙晚一六六 孫錄二 姚目三 縣志五

一九七 嚴屯興爲洛妹造像記

大統七年 西曆五四一

關表上三 繆目二……魏字洞

補正六 關表上三 大村三四 楊錄二 王目 吳錄六 吳目九 常錄 調表

東 魏

一九八 長孫僧濟等造彌勒像記

天平二年四月八日 西曆五三五

補正七 關表上三 大村三四 沙晚一六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄五……古陽洞六

一九九 比丘僧□造像記

天平二年五月十四日 西曆五三五

關表上三

二〇二 高陽郡張伯奴造彌勒像記 天平二年十月二十六日 西曆五三五

天平〇年四月十〇日 西曆五三四—五三七

王目 繆目二

繆目二 吳錄六 吳目九

二〇三 給事中曹榮宇造像記 天平三年二月 西曆五三六

二二 法明造像記 天平〇年八月 西曆五三四—五三七

關表上壹 吳錄六 吳目九 常錄

關表上壹 王目 吳錄六 吳目九……古陽洞

二〇四 幽州北干人楊弋具造觀音一軀二菩薩記

二三 劉大安造像記 元象二年四月〇日 西曆五三九

天平三年三月三日 西曆五三六

關表上壹 繆目二……路洞

大村壹 沙晚二六六……六六

二〇五 比丘尼曇會阿容造觀音像記 天平三年五月十五日 西曆五三六

二四 比丘曇靜造釋迦像記 武定三年十一月十日 西曆五四五

萃編言 補正七 關圖壹 關表上壹 大村壹 沙晚二六六 孫錄二 姚目三

補正七 關表上壹 大村壹 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄三

縣志五 楊錄二 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表

二五 比丘曇靜造釋迦像記 武定三年十一月十日 西曆五四五

……古陽洞壹

補正七 關表上壹 大村壹 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄三

二〇六 惠明造像記 天平三年 西曆五三六

二六 報德寺比丘法造像記 武定七年二月十五日 西曆五四九

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳目九 常錄 調表

補正七 關圖壹 關表上壹 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九……路洞七三

二〇七 孫思香造觀音像記 天平四年正月二十一日 西曆五三七

北 齊

補正七 關表上壹 大村壹 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

北 齊

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞壹

二七 龍花寺□□造像記 天保四年七月 西曆五五三

二〇八 曹敬容造像記 天平四年七月二十五日 西曆五三七

關表上壹 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 常錄

補正七 關表上壹 大村壹 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

調表……藥方洞五四

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞壹

二八 都官鄒成□邑子造像記 天保四年 西曆五五三

二〇九 比丘惠相等造像記 天平四年八月十九日 西曆五三七

二九 王恩和等造像記 天保四年 西曆五五三

關表上壹 大村壹 佛蹟六 沙晚二六六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

關表上壹 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……(魏字洞)(唐字洞)四

三〇 比丘法暈造像記 天保四年 西曆五五三

二一〇 邑師僧歡道俗卅八人等造像記 天平四年 西曆五三七

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄

繆目二 吳目九 * 吳目二ハ歡ヲ巖ニ作り、天平ヲ天保トスル

三一 造釋迦像記 天保八年十一月十〇日 西曆五五七

二一一 比丘尼道□爲亡父母造像記

補正言 關表上壹 佛蹟六 沙晚二六六 繆目二 劉錄七……蓮華洞右壁三四

繆目二 吳目九 * 吳目二ハ歡ヲ巖ニ作り、天平ヲ天保トスル

補正言 關表上壹 佛蹟六 沙晚二六六 繆目二 劉錄七……蓮華洞右壁三四

三三 比丘寶演造無量壽佛記

關表上三 沙晚一五六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六
吳目九 常錄 調表 劉錄五……蓮華洞三

三三 洛州鄉城老人造像記 天保十一年正月二十一日 西曆五六〇

萃編三 補正三 關表上三 大村四〇 沙晚(一) 黃攷 畢記一 錢目一
孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 洪記二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄
調表……賓陽洞八

三四 朱高陵造像記 天統元年 西曆五六五

關表上三 繆目二 劉錄七……路洞去

三五 騫悅造釋迦像記 天統二年十二月二十三日 西曆五六六

繆目二 吳錄六

三六 造觀音像記 天統三年二月 西曆五六七

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

三七 合邑造釋迦石像記 天統四年九月十五日 西曆五六八

關表上三 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九……魏字洞外壁三

三六 邑子造釋迦像記 天統四年十月一日 西曆五六八

關圖蓋 關表上三、孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 常錄
……雙洞一

三九 趙口造彌勒像記 天統四年 西曆五六八

吳目九 調表

三〇 駙馬都尉共連義造像記 武平二年四月十九日 西曆五七一

繆目二 吳錄六 吳目三 *繆目二ニハ天平ニ作ル

三三 邑義僧道三百餘人造神碑尊像記 武平二年五月 西曆五七一

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

三三 武平三年造像記 武平三年七月二十日 西曆五七二

關表上三……路洞

三三 義州皂服從事張子紹造石像記 武平三年八月二十日 西曆五七二

龍門石刻錄目錄

關表上三 劉錄七……路洞去

三四 比丘曇山合邑造石像記 武平三年九月十二日 西曆五七二

補正三 關表上三 繆目二 吳目九 劉錄七……路洞去

三五 戎昭將軍趙桃科妻劉氏造像記 武平三年十二月十八日 西曆五七二

萃編三 補正三 關圖蓋 關表上三 大村三六 沙晚一六五 孫錄二
縣志五 一跋四 楊錄二 洪記三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞去

三六 高留侯銘記 武平六年三月十九日 西曆五七五

……古陽洞去

三七 邑師僧寶鞏舍合邑廿二人等造石像記 武平六年三月□日 西曆五七五

補正三 關圖蓋 關表上三 大村三六 沙晚一五九 孫錄二 姚目三 趙錄二
楊錄二 繆目二 吳錄六……蓮華洞外三

三六 都邑師道興造釋迦二菩薩記 武平六年六月 西曆五七五

*常錄 繆目二ニハ別ニ延昌四年八月僧寶鞏舍造像記ヲ揭グ
萃編三 關表上三 大村三〇 佛蹟三 沙晚一五〇 顧記三 黃攷六 孫錄二
姚目三 縣志五 洪記三 一跋四 朱記二 楊錄二 繆目二 趙目二 吳錄六
吳目九 常錄 調表……藥方洞入口搭門側壁五

三九 遊達摩等造像記 武平六年十月十一日 西曆五七五

補正三 關表上三、下三 沙晚三五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄九……蓮華洞右壁三

隋 四〇 開皇九年造像記 開皇九年 西曆五八九

吳目九

四一 行參軍裴慈明邑子等造彌陀像記 開皇十五年六月四日 西曆五九五

大村三 沙晚(三) 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六

龍門石刻錄目錄

三三七

二三 蜀郡成都縣募人季子贊等造觀音像記

大業十二年四月二十五日 西曆六一六

關表下上 大村四〇 沙晚二二七 吳錄七 姚目三 縣志五

補正言 關表上上 佛蹟五 沙晚二二五 孫錄二 姚目三 縣志五

二四 梁佩仁造釋迦像記

大業十二年七月十五日 西曆六一六

關表下上 關表上上 大村四〇 佛蹟五 沙晚二二五 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞六〇

唐

二四 楊賢造像記

貞觀八年 西曆六三四

吳錄七 吳目九

二五 明相惣持造七佛二菩薩像記

貞觀十二年□月二十六日 西曆六三八

關表下上 大村四八 沙晚二四三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……第十四洞四

二六 王吉祥造像記

貞觀十三年八月二十五日 西曆六三九

補正言 關表下上 大村四八 沙晚二四三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞八

二七 洛州士曹參軍吳孝明造像記

貞觀十四年四月八日 西曆六四〇

關表下上……賓陽洞

二八 豫章公主造像記

貞觀十五年三月十日 西曆六四一

關圖五 關表下上 大村四九 沙晚二六六 吳錄七 吳目九……賓陽南洞八三

二九 魏□王監陸身造像記

貞觀十五年五月一日 西曆六四一

關表下上 大村四〇 沙晚二八八 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄八

……賓陽南洞九七

三〇 豫章公主等六人造像記

貞觀十五年六月二日 西曆六四一

關表下上 大村四〇 沙晚二二七 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽南洞六六

三一 朱文本岑嗣宗造像記

貞觀十五年六月五日 西曆六四一

關表下上 大村四〇 沙晚二二九 繆目三 吳錄七 劉錄八……賓陽南洞六九

三二 清信女妙光造像記

貞觀十五年七月六日 西曆六四一

關表下上 大村四〇 沙晚二二〇 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄八

……賓陽南洞九〇

三三 淄縣令顏千里題名

貞觀十五年十一月四日 西曆六四一

補正言 大村四八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

調表……八

三四 大并妻郁久閑造像記

貞觀十五年十一月二十五日 西曆六四一

關表下上 大村四〇 沙晚二二五 繆目三 吳錄七 吳目九……賓陽南洞九三

三五 雍州牧魏王泰造石窟記

貞觀十五年十一月 西曆六四一

萃編盟 補正言 關表下上 大村四六 佛蹟六 沙晚二四四 集古五 金石三

顧記六 黃攷六 府志二〇 畢記二 錢目二 孫錄三 姚目三 縣志五

洪記四 二跋一 葉跋五 朱記二 楊錄三 楊圖五 趙目二 吳錄七 吳目九

方筆 調表……賓陽洞八三

三六 信女郭□造像記

貞觀十五年 西曆六四一

大村四八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

三七 清信女石姐妃造救苦觀世音記

貞觀十六年三月十五日 西曆六四二

關圖六 關表下上 沙晚三三三 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽南洞八三

三八 韓方立妻李氏造像記

貞觀十六年十月六日 西曆六四二

關表下上 大村四〇 繆目四 吳錄七 吳目九……賓陽洞

三九 清信女張寂妃造彌陀觀音記

貞觀十八年三月十六日 西曆六四四

大村四三 沙晚三三三 吳錄七 吳目九……賓陽洞九三

四〇 前河南縣丞張君堯造像記

貞觀十八年五月十五日 西曆六四四

大村四三 沙晚三三三 吳錄七 吳目九……賓陽洞九三

關表下上 沙晚二五 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽南洞九

二六 楊僧威造像記 貞觀十八年八月二十四日 西曆六四四

關表下上 大村四 沙晚二五 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目四

吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞九

二七 清信女張氏爲亡人楊僧威造像記 貞觀十九年三月十一日 西曆六四五

關表下上 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄

……賓陽洞

二八 杜□造像記 貞觀十九年八月三日 西曆六四五

關表下上 大村四 孫錄二 姚目三 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

二九 貞觀十九年造像記 貞觀十九年八月□日 西曆六四五

補正言 孫錄三 趙錄三 楊錄三 吳錄七 吳目九……

三〇 韋崇禮造像記 貞觀十九年十月一日 西曆六四五

關表下上 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

三一 洛陽宮留守閻武蓋造像記 貞觀十□年十月二十五日 西曆六三七—六四五

關表下上 大村四 沙晚(五) 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七

吳目九 常錄 調表……賓陽南洞一〇

三二 清信女趙氏造像記 貞觀二十年二月十二日 西曆六四六

關表下上……賓陽洞

三三 張世祖夫妻兒子等造像記 貞觀二十年三月二日 西曆六四六

補正言 關圖六 關表下上 大村四 沙晚(五〇) 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……蓮華洞六

三四 比丘尼洪季造像記 貞觀二十年四月九日 西曆六四六

關表下上……唐字洞

三五 韓文雅及妻唐氏造一龕二菩薩像記 貞觀二十年五月四日 西曆六四六

龍門石刻錄目錄

補正言 關表下上 大村四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七

三六 楊叔巖妻王氏造像記 貞觀二十年十月 西曆六四六

大村四 趙錄三 楊錄三 吳錄七 吳目九

三七 石靜業造像記 貞觀二十年 西曆六四六

關表下上 大村四 沙晚(五六) 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄……賓陽南洞九

三八 洛州嵩陽縣令慕容氏敬造阿彌陀像記 貞觀二十一年三月六日 西曆六四七

補正言 關表下上 大村四 沙晚(三〇) 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞九

三九 新息縣令田弘道造菩薩像記 貞觀二十一年四月七日 西曆六四七

補正言 關表下上 大村四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞三

四〇 梁國公府長吏楊宣政造阿彌陀像記 貞觀二十一年十一月十五日 西曆六四七

關表下上 大村四 沙晚(二九) 繆目四 吳錄七 吳目九 劉錄八

……賓陽南洞九

四一 楊靜安母孫氏造像記 貞觀二十一年十一月十五日 西曆六四七

吳錄七 吳目九

四二 洛州河南縣思順坊老幼等造彌勒像記 貞觀二十二年四月八日 西曆六四八

萃編四 關表下上 佛蹟七 沙晚(二六) 黃攷六 府志(一〇) 畢記二 錢目二

孫錄三 姚目三 縣志五 洪記四 楊錄三 繆目四 吳錄七 吳目九 調表

劉錄八……賓陽南洞九

四三 賈君才造像記 貞觀二十二年五月八日 西曆六四八

三九九

關表下上二 沙晚二五九 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽南洞九七

二七 趙才爲亡妻公孫氏造彌陀並二菩薩像記

劉錄八……(賓陽洞) 貞觀二十二年五月八日 西曆六四八

二八 弟子清信女□造像記 貞觀二十二年九月 西曆六四八

繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽洞

二九 清信女蕭氏造阿彌陀二菩薩記

貞觀二十二年八月二十五日 西曆六四八

關表下下二 沙晚三〇〇 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽南洞九六

三〇 清信女蕭氏造觀音菩薩記

關表下下二 沙晚二四四 繆目三 劉錄三……老龍洞九四

三一 崔貴本造像記 貞觀二十二年八月二十五日 西曆六四八

關表下上三 吳目九……賓陽南洞

三二 比丘尼□□造像記 貞觀二十二年十月一日 西曆六四八

大村賀允 沙晚四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七

吳目九 常錄 調表……老龍洞附近九六

三五 劉君解造像記 貞觀二十二年 西曆六四八

孫錄三 姚目三 調表五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

三六 清信女張氏造彌陀像記 貞觀二十三年四月八日 西曆六四九

關表下上二 沙晚三〇一 吳錄七 吳目九 劉錄八……賓陽南洞一〇〇

三七 劉法僧十人等造像記 貞觀二十三年四月 西曆六四九

吳錄七 吳目九

三八 崔貴本造一龕二菩薩記 貞觀二十三年十一月八日 西曆六四九

補正言 關表上二 沙晚三〇二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七

吳目九 常錄 調表 劉錄八……賓陽南洞八五

三九 崔貴本造觀世音菩薩記

補正言 沙晚三〇三 吳錄七 吳目九 劉錄九……賓陽南洞八五

四〇 崔貴本造觀世音菩薩記

劉錄三……賓陽南洞五三

五一 楊君雅造菩薩像記 貞觀二十三年十二月二十一日 西曆六四九

補正言 關表下上二 大村賀允 沙晚二六二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞五五

五二 楊君雅造像記

關表下下三 大村賀允 劉錄三……藥方洞五〇

五三 薛文雅造像記 貞觀二十三年十二月二十一日 西曆六四九

吳錄七 吳目九

五四 佛弟子趙才造像記 貞觀二十三年 西曆六四九

關表下上二 大村賀允 沙晚二四四 繆目四 吳錄七 吳目九 劉錄八

……賓陽南洞一〇一

五五 弟子盧□□爲亡考造像記

貞觀二十〇年十月一日 西曆六四七—六四九

劉錄八……賓陽洞

五六 張文達造像記 貞觀二十〇年 西曆六四七—六四九

繆目三

五七 吳安藏造像記 貞觀□年 西曆六二七—六四九

關表下下三 繆目四 吳錄七 吳目九 劉錄九……賓陽洞

五八 王□弘爲男仝造阿彌陀像記 永徽元年正月二十三日 西曆六五〇

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九

五九 清信女朱主年造阿彌陀像記

永徽元年三月二十三日 西曆六五〇

補正言 關表下上二 佛蹟六 沙晚(三五) 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞五六

六〇 洛州淨土寺主智傳造阿彌陀像記

永徽元年四月八日 西曆六五〇

補正言 關圖三 關表下上二 大村四九 沙晚一四四 繆目三 吳錄七 吳目九
劉錄九……老龍洞三三

三一 淨土寺主僧法師造彌勒像并二菩薩記

補正言 關表下上三 沙晚一五九 趙錄三 楊錄四 繆目三 吳錄九 吳目九
劉錄六……唐字洞四六

三二 樊慶造救苦觀世音像記 永徽元年五月五日 西曆六五〇

補正言 關圖三 關表下上二 大村四九 沙晚一四六 楊錄三 繆目三 趙目三
吳錄七 吳目九……老龍洞三五

三三 朱胤造像記 永徽元年七月十日 西曆六五〇

補正言 關表下上二 大村四九 沙晚一三五 吳錄七 吳目九 劉錄九
……賓陽南洞三三

三四 清信女劉氏造阿彌陀像記 永徽元年十月一日 西曆六五〇

補正言 關表下上二 大村四九 沙晚一四三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九
……老龍洞三六

三五 駙馬都尉劉元意造像記 永徽元年十月 西曆六五〇

吳錄七 吳目九

三六 造彌陀像記 永徽元年十二月三十日 西曆六五〇

大村五〇 繆目三 吳錄七 吳目九……萬佛洞

三七 王師德等造像記 永徽元年 西曆六五〇

萃編四 補正言 關表下上二 大村四三 錢目二 孫錄三 姚目三 縣志五
洪記四 二跋一 楊錄三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽洞六

三八 王寶英妻張氏造救苦觀音菩薩像記 永徽二年四月八日 西曆六五一

補正言 關表下上三 大村四九 沙晚一五三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三
繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞五七

三九 孟惠母造阿彌陀像并二菩薩記 永徽二年四月二十六日 西曆六五一

補正言 關表下上二 大村四四 沙晚三〇七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三
吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞八五

三〇 清信女王氏造阿彌陀像記 永徽二年六月五日 西曆六五一

吳錄七 吳目九 劉錄九……老龍洞三三

三一 王師遠造像記 永徽二年六月 西曆六五一

吳錄七 吳目九

三二 清信女韓氏造像記 永徽二年十月十三日 西曆六五一

關表下上五 吳錄七 劉錄九……藥方洞五九

三三 右衛率長史程秘修兄弟造像記 永徽二年十一月二十五日 西曆六五一

關表下上三 大村四九 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九……老龍洞三六

三四 沙門智旭造維衛佛等七佛記 永徽二年 西曆六五一

補正言 關表下上二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七
吳目九 常錄 調表……藥方洞五六

三五 王貴和題記 永徽二年 西曆六五一

補正言 關表下上三 大村四四 沙晚一三六 繆目三 吳目九 劉錄九
……賓陽南洞六

三六 陳通妻張氏造阿彌陀像記 永徽三年二月一日 西曆六五二

補正言 關表下上三 大村四九 沙晚一四七 繆目六 吳錄七 吳目九 劉錄九
……老龍洞三九

三七 張善同造阿彌陀像記 永徽三年三月一日 西曆六五二

關表下上二 大村四九 沙晚一四八 繆目三……老龍洞三〇

三八 永徽三年造像記 永徽三年三月十三日 西曆六五二

關表下上三……火燒洞

三九 范清才夫妻男女造阿彌陀像記 西曆六五二

關表下上三 大村四四 沙晚三〇八 吳錄七 吳目九 劉錄九……賓陽南洞一〇〇三

三三 劉解妻楊氏及兒造像記 永徽三年四月二十日 西曆六五二

關表下上三 吳目九 劉錄九……賓陽洞

三三 楊行□妻王氏造釋迦像記 永徽三年四月□日 西曆六五二

補正言 關表下上三 大村四〇 沙晚二五三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞五〇

三三 爲亡夫造阿彌陀像龕記 永徽三年七月三日 西曆六五二

關表下上四 沙晚(四〇) 劉錄九……賓陽南洞

三四 清信女趙善勝造救苦觀世音記

永徽三年八月二十七日 西曆六五二

補正言 關表下上三 大村四〇 沙晚二五四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞五九

三五 李君政造彌勒像記 永徽三年十二月九日 西曆六五二

補正言 關圖四 關表下上三 大村四〇 沙晚二四九 繆目三 吳錄七 吳目九

劉錄九……老龍洞二四〇

三六 李力人摩訶并比丘尼貞智造像記 永徽三年 西曆六五二

大村四〇 沙晚二〇九 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄九……賓陽洞一〇〇三

三七 左文福題記 永徽四年正月二日 西曆六五三

大村四〇 關表下上三 繆目三 吳錄七 吳目九……魏字洞五七

三六 三洞弟子敬造彌陀像記 永徽四年正月十七日 西曆六五三

補正言 關表下上三 大村四〇 沙晚二三〇 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……賓陽南洞八卷

三九 造觀音菩薩記 永徽四年三月八日 西曆六五三

……藥方洞五七

三〇 吏部主事許思言造像記 永徽四年四月八日 西曆六五三

補正言 大村四〇 沙晚一四〇 繆目三 吳錄七 吳目九……老龍洞二四

三一 清信女朱氏造觀音菩薩記 永徽四年五月五日 西曆六五三

補正言 關表下上三 大村四〇 沙晚一四一 繆目三 吳錄七 吳目九

……老龍洞二四

三三 魯寶師造阿彌陀像記 永徽四年六月二十一日 西曆六五三

關表下上三 沙晚三三一 吳錄七 吳目九 劉錄九……賓陽南洞一〇〇四

三三 □合家造阿彌陀像記 永徽四年七月五日 西曆六五三

大村四〇 沙晚二五五 劉錄九……藥方洞五三

三四 清信女陳氏造阿彌陀像記 永徽四年八月六日 西曆六五三

關表下上三 沙晚二五一 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九……蓮華洞一〇〇五

三五 王師亮造彌陀像記 永徽四年八月十日 西曆六五三

補正言 關表下上三 大村四〇 沙晚二五六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞五二

三六 趙甯造觀世音菩薩記 永徽四年九月三日 西曆六五三

補正言 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄

調表……八卷

三七 涪州司馬□息郭愛同造觀音菩薩記

永徽四年十月八日 西曆六五三

補正言 關表下上三 大村四〇 沙晚一四二 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……老龍洞二四

三六 郭愛同造像記

補正言 關表下上三 沙晚一四四 繆目三 劉錄二……老龍洞三九

三九 周智沖造阿彌陀像記 永徽四年十月八日 西曆六五三

關圖四 關表下上四 大村四〇 沙晚二五二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……蓮華洞左壁三九

四〇 孫和生造像記 永徽四年十一月一日 西曆六五三

關表下上四 吳錄 吳目九……賓陽洞

四二 洛州伊闕縣清信□造阿彌陀像記

永徽四年□月二十□日 西曆六五三

關表下上四 繆目三 吳錄七……藥方洞三

三三 李□□妻造像記 永徽四年

關表下上四下四 吳錄七 吳目九……賓陽洞

三三 齊器妻柳氏造像記 永徽四年

大村四四……賓陽洞

三四 清信士□照造像記 永徽四年

沙晚(三五) 吳錄七 吳目九……藥方洞

三五 李方仙母孫氏造像記 永徽五年正月十五日

大村四九 繆目三 吳錄九

三六 清信女樂婆造阿彌陀像記 永徽五年二月三日

關表下上四 劉錄九……賓陽洞

三六 母造龕記 永徽五年二月二十九日

補正言 關表下上四 大村四九 沙晚五九 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……古陽洞

三六 清信女張婆樂婆造像記 永徽五年二月二十九日

關表下上四 吳錄九 吳目九 劉錄三……古陽洞

三六 清信女韓氏造阿彌陀像記 永徽五年三月十九日

補正言 關表下上四 沙晚四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄……老龍洞

三五 竹奴子及妻宋氏造像記 永徽五年三月二十日

補正言 關表下上四 大村四九 沙晚四四 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……老龍洞

三五 洛陽縣登思孝等造釋迦石像記 永徽五年五月五日

關表下上四 大村四九 沙晚二四 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄二

……破洞

三五 造彌陀二菩薩像記 永徽五年五月五日

關表下上四 大村四九 沙晚(三五) 繆目三 吳錄七 吳目九……唐字洞

龍門石刻錄目錄

三五 雍州司倉參軍辛崇敏造像記 永徽五年五月二十日

關表下上四 大村四九 沙晚一四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞

三五 造阿彌陀佛菩薩記 永徽五年五月

關表下上四 大村四九 沙晚(三五)……藥方洞

三五 崔元榮造像記 永徽五年六月

吳錄七 吳目九

三五 世進造阿彌陀像記 永徽五年

關表下上四 大村四九 沙晚一四 繆目三 劉錄九……老龍洞

三七 邢阮造像記 永徽五年

大村四九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

三五 楊愛造像記 永徽五年

大村四九 孫錄三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

三五 佛弟子李□□造彌勒像記 永徽五年

關表下上四……賓陽洞

三六 韓敬賓造像記 永徽五年

關表下上三 調表……敬善寺洞

三六 李處岳造釋迦像記 永徽六年三月二十四日

補正言 關表下上四 大村四九 繆目三 吳錄七 吳目九……賓陽洞

三五 比丘□□為父母造像記 永徽六年十月十五日

補正言 關表下上四 大村四九 沙晚三三 繆目三 趙錄三 吳錄七 吳目九

楊錄三 劉錄……敬善寺洞

三五 田陳造觀世音像記 永徽六年□月六日

關表下上四 大村四九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 劉錄九……藥方洞

三六 田仁基母李氏造像記 永徽六年

關表下上四……賓陽洞

三五 僧□□造像記 永徽六年 西曆六五五

孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

三六 張玄德及妻宋氏造阿彌陀像記 永徽□年 西曆六五〇—六五五

補正三 關表下上四 大村四〇 沙晚一四五 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞二〇

三七 田□□造像記 永徽□年□月六日 西曆六五〇—六五五

關表下上四 大村四〇 沙晚一四五 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 繆目三

趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞二〇

三八 永徽□年造阿彌陀像記 永徽□年□月 西曆六五〇—六五五

大村四〇 吳錄七 吳目九……一〇六

三九 永徽□年造阿彌陀像記 永徽□年□月 西曆六五〇—六五五

大村四〇……一〇六

四〇 永徽□年造阿彌陀像記 永徽□年正月 西曆六五〇—六五五

大村四〇 吳錄七……一〇四

四一 李智海造阿彌陀像記 顯慶元年二月二十三日 西曆六五六

補正三 關表下上五 大村四〇 沙晚一四五 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三

繆目三 吳錄七 常錄 調表……老龍洞二〇

四二 莘師祖妻孫氏造優填王像記

顯慶元年四月二十五日 西曆六五六

大村四〇 楊錄三 吳錄七 吳目九……一〇四

四三 清信女趙善勝造救苦觀世音菩薩記

顯慶元年六月三十日 西曆六五六

補正三 關表下上五 大村四〇 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞二〇

四四 張君道造阿彌陀像記 顯慶元年六月 西曆六五六

關表下上五 沙晚一三二 劉錄九……賓陽南洞一〇〇

四五 陳僧受造阿彌陀像記 顯慶元年八月 西曆六五六

關表下上五 大村四〇 沙晚一四五 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……老龍洞二〇

四六 王政則及妻支氏造像記 顯慶元年九月二十日 西曆六五六

補正三 關表下上五 大村四〇 沙晚一三五 吳錄七 吳目九 劉錄九

……賓陽洞二〇

四七 造優填王像並五十三佛等記 顯慶元年□月十五日 西曆六五六

關表下上五 方筆……敬善寺洞八

四八 宋海寶妻緒氏造阿彌陀像記 顯慶元年□月十一日 西曆六五六

關表下上五 大村四〇 沙晚一四五 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞二〇

四九 王貴和造彌陀像記 顯慶元年 西曆六五六

關表下上五 大村四〇 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 調表……藥方洞二〇

五〇 遊奕造像記 顯慶元年 西曆六五六

大村四〇 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

五一 清信女馮□造優填王像記 顯慶元年 西曆六五六

大村四〇 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

劉錄九……賓陽洞

五二 清信女薛明照造像記 顯慶二年八月九日 西曆六五七

關表下上五……藥方洞

五三 封曾客造釋迦二菩薩二聖像記

顯慶二年九月二十五日 西曆六五七

關表下上五 大村四〇 沙晚一四五 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……破洞一〇〇

五四 相原府校尉柱□宮士安造救苦觀音菩薩記

顯慶二年十月二十六日 西曆六五七

補正三 關表下上五 大村四〇 沙晚一五六 繆目三 吳錄七 劉錄九

……藥方洞蓋

三五 賈世□爲老母造觀世音菩薩像記

顯慶三年二月二十日 西曆六五八

關表下上五……破洞

三六 權被養造像記 顯慶三年二月

西曆六五八

關表下上五 吳錄七 吳目九

三七 清信女普泰造阿彌陀像記 顯慶三年四月三日

西曆六五八

補正三 關表下上五 大村四三 沙晚一四一 縣志无 繆目三 吳錄七 吳目九

劉錄九……老龍洞蓋

三八 薛□藏造觀音像記 顯慶三年七月二十二日

西曆六五八

關表下上五 大村四三 繆目三 吳錄七 吳目九……敬善寺洞

三九 雷懷呂世舉等造像記 顯慶三年八月

西曆六五八

吳目九

四〇 顯慶三年造像記 顯慶三年

西曆六五八

大村四三 孫錄三 姚目三 縣志无 楊錄三 吳錄七 常錄 調表

四一 楊真藏造阿彌陀并二菩薩像記 顯慶三年

西曆六五八

補正三 關表下上五 佛蹟六 沙晚一四〇 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……老龍洞蓋

四二 內府局令王文詮造像記 顯慶三年

西曆六五八

補正三 繆目三 吳目九 劉錄九……八三

四三 內府局令王文詮造像記

補正三……八三

四四 王儋王文詮王嚮題記

補正三……八四

四五 洛陽縣武騎尉曩君協造優填王像記

顯慶四年二月八日 西曆六五九

補正三 關圖空 關表下上六 大村四三 趙錄三 楊錄三 繆目三 吳錄七

龍門石刻錄目錄

吳目九……敬善寺洞九

三六 清信女孟氏爲亡夫劉仁方造像記

顯慶四年二月十二日 西曆六五九

關表下上六 吳錄七 吳目九……賓陽洞

三七 比丘僧義造釋迦觀音勢至像記

顯慶四年四月七日 西曆六五九

關表下上六 大村四三 沙晚一四八 繆目三 吳錄七 劉錄九……藥方洞蓋七

三八 唐德成造彌勒像記 顯慶四年四月十五日

西曆六五九

補正三 關表下上六 大村四三 沙晚一三六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……敬善寺洞二

三九 汝州郟城縣武上希造像記 顯慶四年四月十五日 西曆六五九

補正三 關表下上六 大村四三 沙晚一三五 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……敬善寺洞二

四〇 馬伏陀及妻劉婆造阿彌陀像記

顯慶四年五月二十一日 西曆六五九

關表下上六 大村四三 佛蹟六 沙晚一五〇 吳錄七 吳目九 劉錄九

……藥方洞蓋六

四一 前豫州司功參軍事王有□造像記

顯慶四年六月十四日 西曆六五九

補正三 關表下上六 大村四三 趙錄三 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九

……敬善寺洞三

四二 李大娘造優填王像記 顯慶四年七月四日 西曆六五九

補正三 關圖空 關表下上六 大村四三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……敬善寺洞三

四三 顯慶四年造像記 顯慶四年七月十五日 西曆六五九

補正三 吳錄七 吳目九……八六

四四 雍州鄂縣劉弘義造像記 顯慶四年八月一日 西曆六五九

三八五

補正三 關表下上六 大村四四 佛蹟六 沙晚二五四 繆目三 吳錄七 吳目九
劉錄九……破洞四九

四〇五 顯慶四年造觀世音像記 顯慶四年十月四日 西曆六五九

關表下上六 大村四四 吳錄七 吳目九 劉錄九……破洞

四〇六 比丘尼石靜業吳□藏造像記

顯慶四年十月二十三日 西曆六五九

補正三 關表下上六 大村四四 沙晚三七 孫錄三 趙錄三 楊錄三 吳錄七

吳目九……賓陽洞八七

四〇七 清信女尼仙行造阿彌陀像記 顯慶四年十一月六日 西曆六五九

大村四四 繆目三

四〇八 雍州涇陽縣翊衛慕容文懿造阿彌陀像記

顯慶四年十一月十七日 西曆六五九

關表下上六 沙晚一四三 劉錄九……老龍洞一〇九

四〇九 清信女盧氏造阿彌陀像記 顯慶四年十一月 西曆六五九

關表下上六 大村四四 沙晚一五七 繆目三 調表……破洞一〇〇

四一〇 梁王府諮議參軍事但惟端息仁楷造觀音菩薩記

顯慶四年十二月一日 西曆六五九

補正三 吳錄七 吳目九……六六

四一一 王伴仁妻郭安造救苦觀音像記 顯慶四年十月 西曆六五九

沙晚一五五……破洞一〇一

四一二 王伴仁造阿彌陀像記

沙晚一五八……破洞一〇二

四一三 趙玄慶造像記 顯慶五年正月四日 西曆六六〇

補正三 關表下上六 大村四四 沙晚一四三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……破洞四三

四一四 清女李氏造像記 顯慶五年正月十五日 西曆六六〇

關表下上六……敬善寺洞

四一五 王仁基造像記 顯慶五年正月二十三日 西曆六六〇

補正三 關表下上六 大村四四 趙錄三 楊錄三 吳錄七 吳目九

……敬善寺洞六六

四一六 劉□造阿彌陀佛像記 顯慶五年二月十日 西曆六六〇

補正三 關表下上六 大村四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……趙客師洞四三

四一七 張□嚴題記 顯慶五年三月二十三日 西曆六六〇

補正三 大村四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七

吳目九 常錄 調表……八七〇

四一八 昭覺寺僧善德造彌勒像記 顯慶五年四月八日 西曆六六〇

補正三 關表下上六 大村四四 沙晚三三 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞八七

四一九 何王□女五造阿彌陀像記 顯慶五年四月八日 西曆六六〇

關表下上六 吳錄七 吳目九 劉錄九……老龍洞

四二〇 紀王典衛王行寶造觀音像記 顯慶五年四月二十日 西曆六六〇

補正三 關表下上六 大村四四 沙晚一四三 孫錄三 姚目三 縣志五 續跋三

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……(破洞)(老龍洞四二)

四二一 偃師縣楊君植造阿彌陀救苦觀音像記

顯慶五年七月二十日 西曆六六〇

補正三 關圖六 關表下上六 大村四二 沙晚一四七 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……破洞四〇

四二二 清信女徐大造像記 顯慶五年十一月二十四日 西曆六六〇

補正三 大村四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七

吳目九 常錄 調表……八七三

四二三 徐大娘造像記

補正三 關表下上六 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄九……古陽洞五九

四二四 顯慶五年造像記 顯慶五年 西曆六六〇

大村器 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄

四三 造像刻經記 顯慶五年 西曆六六〇

關表下上六 吳錄七 吳目九……老龍洞

四六 內侍省事王令辭等造像記 顯慶五年 西曆六六〇

大村器 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

劉錄九……破洞 *劉錄八顯慶四年十一月七日二作九

四七 副造彌陀佛記 顯慶□年二月四日 西曆六五六—六六〇

關表下上五 大村器 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七

吳目九 常錄 調表 劉錄九……藥方洞五

四六 劉典豐造阿彌陀像記 顯慶□年七月三十日 西曆六五六—六六〇

補正三 關表下上七 大村器 沙晚二四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……破洞四

四九 清信女爲亡父母造像記 顯慶□年 西曆六五六—六六〇

吳錄七 吳目九

四〇 孫冬扇祝婆大娘姊妹等造觀音像記

顯慶□年 西曆六五六—六六〇

補正三 關表下上六 大村器 沙晚二五二 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

……藥方洞四

四二 惠雲造阿彌陀像記 顯慶八年十月十五日 西曆六六三

劉錄九……老龍洞

四三 行皇太子侍醫吳吉甫造像記 龍朔元年四月二十日 西曆六六一

關表下上七 大村器 沙晚二四三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇二

……老龍洞五

四三 李玄弈兄弟造阿彌陀像記 龍朔元年三月八日 西曆六六一

補正三 關圖充 關表下上七 大村器 沙晚二四八 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……破洞四

四四 楊文軌造像記 龍朔元年四月八日 西曆六六一

龍門石刻錄目錄

吳錄七 吳目九

四三 張□造像記 龍朔元年四月 西曆六六一

縣志五 吳錄七 吳目九

四六 崔玄□造像記 龍朔元年五月一日 西曆六六一

關表下上七 吳錄七 吳目九……老龍洞

四七 清信女造像記 龍朔元年五月 西曆六六一

關表下上七 吳錄七 吳目九……唐字洞

四六 張婆供養記 龍朔元年九月二十三日 西曆六六一

補正三 關表下上七 大村器 佛蹟六 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……唐字洞五

四九 清信女裴守心造像記 龍朔元年十月 西曆六六一

關表下上七 吳錄七 吳目九……敬善寺洞

四〇 洛陽縣文林□光襄造優填王像記 龍朔元年十一月二十三日 西曆六六一

補正三 關表下上七 大村器 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……敬善寺洞四

四二 司農寺鈎盾□造阿彌陀像記 龍朔元年□□一日 西曆六六一

大村器 繆目三 劉錄一〇……老龍洞一〇

四三 洛州人楊妻韓氏造阿彌陀像記并千佛像記 龍朔元年 西曆六六一

補正三 關表下上七 大村器 沙晚二三七 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……敬善寺洞五

四三 懷阿稜造像記 龍朔元年 西曆六六一

關表下上七 大村器 佛蹟六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄六……破洞四

四四 師多寶造像記 龍朔元年 西曆六六一

關表下上七……敬善寺洞

四五 造阿彌陀像一龕記 龍朔元年 西曆六六一

關表下上七……老龍洞

……老龍洞

……老龍洞

……老龍洞

四四六 龍朔元年造像記 龍朔元年 西曆六六一

關表下七七 吳錄七……賓陽洞

四四七 造阿彌陀像一坵記 龍朔二年正月二十日 西曆六六二

關表下七七 常錄……賓陽洞

四四八 周王府戶曹劉元禮等造阿彌陀像記

龍朔二年正月二十五日 西曆六六二

關表下七七 大村四四 沙晚三三四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目

吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞一〇三

四四九 龍朔二年造阿彌陀像記 龍朔二年三月二日 西曆六六二

大村四四 沙晚三三五 劉錄二……賓陽南洞一〇四

四五〇 靜□藏□尙二人造阿彌陀像記 龍朔二年四月十日 西曆六六二

關表下上七 大村四四 繆目三……藥方洞

四五二 潞州寶貝寺□□造像記 龍朔二年四月 西曆六六二

吳錄七 吳目九 劉錄二……藥方洞

四五三 奚□造像記 龍朔二年十一月十五日 西曆六六二

關表下上七……敬善寺洞

四五五 金孝田婆等造像記 龍朔二年十一月 西曆六六二

關表下上七 吳錄七 吳目九……唐字洞

四五四 李君懷妻造阿彌陀像記 龍朔二年□月十五日 西曆六六二

補正三 關表下上七 大村四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞三五

四五五 偃師縣□□郎楊□□造盧舍那像記

龍朔二年□月□日 西曆六六二

補正三 關表下上七 大村四四 沙晚三三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……蓮華洞三七

四五六 淨□造像記 龍朔二年 西曆六六二

補正三 關表下上七 大村四六 繆目三 吳錄七 劉錄九……魏字洞四九

四五七 主薄王元祚造像記 龍朔二年 西曆六六二

關表下上七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

……敬善寺洞

四五八 程氏塔記 龍朔二年 西曆六六二

孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

四五九 清信女段□造像記 龍朔二年 西曆六六二

孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

四六〇 周王府錄事王思亮妻劉氏造像記 龍朔二年 西曆六六二

繆目三 吳錄七 吳目九

四六一 鳩摩羅什譯金剛般若波羅密經并龍朔三年四月

八日佛弟子常才合家造優填王像金剛經記 西曆六六三

補正六 關表下上八 大村四六 佛蹟二四 沙晚(六九) 繆目三 吳目九

劉錄二……敬善寺洞九

四六二 清信女司馬氏等造像記 龍朔三年四月八日 西曆六六三

補正三 關表下上七 大村四六 沙晚一四四 吳錄七 吳目九 劉錄二

……老龍洞三五

四六三 □神遠造像記 龍朔三年四月□□ 西曆六六三

補正三 關表下上八 大村四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七

吳目九 常錄 調表 劉錄二……蓮華洞三七

四六四 杜遷□造像記 龍朔三年四月 西曆六六三

大村四六 繆目三

四五五 王□等十二人造像記 龍朔三年五月 西曆六六三

吳錄七 吳目九

四五六 信女常住造像記 龍朔三年五月 西曆六六三

關表下上八 吳目九 劉錄二……唐字洞

四六七 柳母造阿彌陀像記、柳妻任氏造觀音像記 龍朔三年西曆六六三

關表下上八 大村四六……唐字洞四六

四六 李三娘爲夫造像記 龍朔三年

西曆六六三

吳錄七 吳目九

四九 議 梵信息造像記 龍朔 年八月十日

西曆六六一—六六三

關表下上八 吳錄七 吳目九……石牛溪

四七 弟子常住造像記 麟德元年正月

西曆六六四

關表下上八 劉錄一〇……唐字洞

四二 定州安喜縣 丞張君實造地藏菩薩記

麟德元年五月六日 西曆六六四

補正三 大村四六 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄

調表……藥方洞雲

四三 內給事馮士良造像記 麟德二年四月八日

西曆六六五

補正三 關表下上八 大村四六 沙晚三三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞八三

四三 袁弘勣造像記 麟德二年四月二十四日

西曆六六五

……敬善寺洞

四四 惠徵造像記 麟德二年四月

西曆六六五

吳錄七 吳目九

四五 楊懷德楊安德等造像記 麟德二年五月五日

西曆六六五

關表下上八……賓陽洞

四六 陳貞豫造像記 麟德二年七月七日

西曆六六五

補正三 關表下上八 大村四六 沙晚三三 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞八七

四七 清信女朱氏造阿彌陀像記 麟德二年八月二十三日 西曆六六五

補正三 關表下上八 沙晚三三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……敬善寺洞六

四八 東臺主書牛懿德造像記 麟德二年九月

西曆六六五

關表下上八 孫錄三 姚目三 楊錄七 吳錄七 吳目九 常錄……賓陽洞

龍門石刻錄目錄

四九 造像記 麟德 年

西曆六六四—六六五

……敬善寺洞七

四〇 東臺主書牛懿德造阿彌陀像記 乾封元年四月八日 西曆六六六

關表下上八 大村四六 沙晚三三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目

吳錄七 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞一〇五

四一 司州主事許大德并妻楊氏造阿彌陀像記

乾封元年七月十五日 西曆六六六

關圖七 關表下上八 大村四六 沙晚三三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……蓮華洞三

四二 丁孝範王元觀造阿彌陀像記 乾封元年七月十五日 西曆六六六

補正三 關圖七 關表下上八 大村四六 繆目三 吳錄七 吳目九

……老龍洞附近八三

四三 魏通造像記 乾封元年八月十四日 西曆六六六

關表下上八 劉錄一〇……賓陽洞

四四 阿盧婆造像記 乾封元年 西曆六六六

吳錄七 吳目九

四五 孟善應妻趙氏造阿彌陀像記 乾封二年四月六日 西曆六六七

補正三 關表下上八 大村四六 沙晚四五 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞三五

四六 德子造地藏菩薩記 乾封二年四月八日 西曆六六七

關表下上八 大村四六 沙晚三三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七

吳目九 常錄 調表……賓陽南洞一〇六

四七 孟大娘造阿彌陀像記 乾封二年四月八日 西曆六六七

補正三 關表下上八 大村四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄三……老龍洞三五

四八 法藏造阿彌陀像記 乾封二年四月十五日 西曆六六七

關表下上八 大村四六 沙晚三五 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

三八九

…(魏字洞)(唐字洞)四七〇

四九八 清信女齊氏造像記 乾封二年四月十五日 西曆六六七

繆目三 吳錄七 吳目九

四九〇 雍州萬年縣人公孫宜并妻路氏造像記

吳目九 乾封二年五月十日 西曆六六七

四九二 □□閣保住鄴州江忠造觀世音像記

繆目三 乾封二年八月 西曆六六七

四九三 □勝造像記 乾封二年 西曆六六七

孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

四九三 王伽頭造像記 乾封□年 西曆六六六—六六七

繆目三

四九四 寶刹寺尼□□造彌勒像記 乾封□年 西曆六六六—六六七

…(萬佛洞)三

四九五 雍州櫟陽縣東面副監孟乾緒造彌陀像記

乾封三年二月 西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四七 沙晚二三〇 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄一〇…賓陽南洞八五

四九六 陳咸造像記 乾封三年 西曆六六八

吳錄七 吳目九

四九七 張□造阿彌陀像記 乾封三年 西曆六六八

吳錄七 吳目九

四九八 杜柳己造像記 總章元年三月 西曆六六八

繆目三

四九九 王尹農造阿彌陀像記 總章元年四月八日 西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四七 沙晚二五四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊目三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表…蓮華洞三三

五〇〇 李鉢頭母王氏造觀音像記 總章元年五月一日 西曆六六八

關圖三 關表下上九 大村四七 沙晚一四六 繆目三 吳錄七 吳目九

…老龍洞三五

五〇一 王大遠造像記 總章元年五月一日 西曆六六八

關圖三 關表下上九 大村四七 沙晚一四七 繆目三 吳錄七…老龍洞附近三四

五〇二 張神熾姚武達等造千佛七軀記

總章元年六月二十四日 西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四七 沙晚一四五 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

…老龍洞三五

五〇三 清信女王玄藏造阿彌陀像記 總章元年六月 西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四七 沙晚一五五 孫錄三 縣志五 繆目三 趙目二

吳錄七 吳目九 調表…蓮華洞三四

五〇四 爲父母己身造像記 總章元年九月八日 西曆六六八

關表下上九 大村四七 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇…蓮華洞三五

五〇五 王合造阿彌陀像記 總章元年九月八日 西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四七 沙晚二五六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表…蓮華洞三五

五〇六 清信女王三娘造像記 總章元年十一月一日 西曆六六八

關表下上九…老龍洞

五〇七 柳常柱造像記 總章元年 西曆六六八

補正三 關表下上九 吳錄七 吳目九 劉錄一〇…蓮華洞三七

五〇八 柳常住造像記 關表下下四 沙晚一五〇 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄九 常錄 調表…蓮華洞四二

五〇九 王无导造阿彌陀像記 總章元年 西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表…蓮華洞三八

五一〇 王无导造觀音像記 總章元年 西曆六六八

吳目九

五二 清信女陰氏造阿彌陀像記 總章元年

西曆六六八

補正三 關表下上九 大村四六

沙晚一四六

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞云〇

五三 前洛州司戶高崇業等造像記

總章二年四月二十三日

西曆六六九

關圖壹 關表下上九……奉先寺洞八四

五三 孔士登造像記 總章二年七月六日

西曆六六九

關表下上九 沙晚(三〇七)

繆目三 劉錄一〇……破洞

五四 姜義琮造阿彌陀像記 總章二年七月十五日

西曆六六九

補正三 關表下上九 大村四六

沙晚一四六

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞云〇

五五 騫公夫人造阿彌陀佛觀音大至二菩薩像記

總章二年七月二十九日

西曆六六九

……敬善寺洞二

五六 孤獨歎辭造像記 總章二年十月

西曆六六九

補正三 關表下上九 大村四六

沙晚一四六

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三

吳錄七 常錄 調表……古陽洞云〇

五七 弟子□懌造像記 總章二年十月

西曆六六九

大村四六……一〇四

五八 □業法藏尙等造地藏菩薩記 總章二年□月八日

西曆六六九

補正三 大村四六

沙晚一四六

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三 繆目三

趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……老龍洞附近云〇

五九 高昌張安題記 總章二年□月十日

西曆六六九

關表下上九 大村四六

繆目三 吳錄七

吳目九 劉錄一〇……敬善寺洞一〇四

五〇 張知□造像記 咸亨二年二月

西曆六七一

補正三 關表下上九 吳錄七……火燒洞云〇

龍門石刻錄目錄

五二 咸亨二年造像記 咸亨二年十月

西曆六七一

吳錄七 吳目九

五三 上桂國爾朱□德造阿彌陀像記 咸亨二年

西曆六七一

劉錄一〇……藥方洞

五三 周思九造阿彌陀菩薩聲聞金剛等像記

咸亨三年正月十五日

西曆六七二

補正三 吳錄七 吳目九……八七

五四 王二娘造菩薩像記 咸亨三年九月

西曆六七二

補正三 關表下上九 大村四六

沙晚一四六

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……古陽洞云〇

五五 薛仁貴敬造阿彌陀二菩薩像記 咸亨四年五月

西曆六七三

補正三 大村四六

孫錄三 姚目三

楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄

調表……八七

五六 西京法海寺僧惠簡造彌勒像記

咸亨四年十一月七日

西曆六七三

補正三 關圖壹 關表下上九

大村四六

佛蹟全 沙晚一四一

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 調表……惠簡洞云〇

五七 弟子惠暉造像記

吳錄七 吳目九

五八 雍縣人□行儼造阿彌陀像記 咸亨四年十二月

西曆六七三

關表下上九 大村四六

沙晚三五六

繆目三 吳錄七

吳目九 劉錄一〇

……雙洞一五

五九 清信女侯氏造觀音菩薩記 上元二年正月二日

西曆六七五

補正三 孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七

吳目九 常錄

調表……八六

五〇 王仁恪造阿彌陀像記 上元二年三月十五日

西曆六七五

補正三 關表下上九 大村四六

沙晚三五六

孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三

三九一

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞六〇

五三 吳進造像記 上元二年四月十日 西曆六七五

大村四六 繆目三 劉錄三

五三 尼法貴等造像記 上元二年五月十日 西曆六七五

大村四六 繆目三

五三 宣義郎周遠志等造阿彌陀像記

上元二年十二月八日 西曆六七五

萃編五 補正三 關表下上〇下下六 孫錄三 姚目三 縣志五 一跋四

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……敬善寺洞八三

五三 趙客師造像記 上元二年 西曆六七五

關表下上〇 大村四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 調表……雙洞

五三 不可思宜清信女王婆造觀音記 上元三年二月 西曆六七六

補正三 關表下上〇 大村四六 沙晚二三四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞一六

五三 爲法界衆生造像記 上元三年四月一日 西曆六七六

關表下上〇……破洞

五三 上元三年比丘題記 上元三年九月八日 西曆六七六

補正三 關表下上〇 孫錄三 吳錄七 吳目九……破洞八六

五三 趙婆造觀音菩薩記 上元三年十月二十日 西曆六七六

補正三 關表下上〇 大村四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞一五

五三 龍大造像記 上元三年 西曆六七六

吳目九 調表

五〇 二娘爲亡母造像記 上元〇年九月十四日 西曆六七四—六七六

關表下上〇 劉錄三……雙洞

五二 蘇州長史崔元久妻盧氏題記 儀鳳二年五月十五日 西曆六七七

補正三 關表下上〇 大村四六 沙晚二五〇 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

五三 程大剛造觀音像記 儀鳳二年九月二十九日 西曆六七七

繆目三 吳錄七 常錄 調表……獅子洞附近一六

五三 陳外生造阿彌陀像記 儀鳳二年十月二日 西曆六七七

關表下上〇 大村四六 繆目三 吳錄七 吳目九……雙洞

補正三 關圖七 關表下上〇 大村四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……王祥洞八六

五三 齊州山莊縣劉寶叡造阿那含像記 儀鳳二年十月〇日 西曆六七七

關表下上〇 大村四六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……王祥洞

五三 清信女吳阿六造阿彌陀像記 儀鳳二年 西曆六七七

關表下上〇 大村四六 繆目三 劉錄一〇……賓陽洞

五三 清明寺比丘尼八正造像記 儀鳳三年三月九日 西曆六七八

補正三 關圖六 關表下上〇 佛蹟四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞一三

五三 劉寶叡妻范氏造藥師像記 儀鳳三年五月二十七日 西曆六七八

補正三 關表下上〇 大村四六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……王祥洞八〇

五三 太常主簿高光復等造阿彌陀像記 儀鳳四年六月八日 西曆六七九

補正三 關圖六 關表下上〇 大村四六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……火燒洞五九

五三 弟子趙造彌陀像記 儀鳳〇年〇月十五日 西曆六七六—六七九

萃編三 關表下上〇 大村四六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……敬善寺洞三

五〇 奉爲眞瑩師造像記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

補正三 關圖六 關表下上〇 大村四六 佛蹟四 繆目三 吳錄七 吳目九

……敬善寺洞三

……萬佛洞一五

五二 玄照造觀世音菩薩記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

關圖六 關表下上二 大村五〇 沙晚二三六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……萬佛洞一〇三

五三 胡處貞造像記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

補正三 關圖六 關表下上二 大村五〇 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 常錄 調表……萬佛洞一〇四

五三 胡貞造像記 調露二年七月十五日 西曆六八〇

補正三 關圖六 關表下上二 沙晚二三五 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目二 吳錄七 常錄 調表 劉錄一〇……萬佛洞一〇三

五五 洛州陳泰初等造像記

關表下上二 趙錄二 楊錄二 吳目九……萬佛洞

五五 李君瓚造像記 調露二年 西曆六八〇

關表下上三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄

調表……藥方洞

五五 陳七娘造菩薩記 調露二年 西曆六八〇

補正三 關表下上二 大村五〇 沙晚二三六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……萬佛洞一〇六

五七 比丘尼智境造像記 調露二年 西曆六八〇

關表下上二 大村五〇 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……萬佛洞一〇七

五六 張感仁等造像記 調露二年 西曆六八〇

孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

五五 處貞造彌勒像五百區記 永隆元年九月三十日 西曆六八〇

補正三 關圖六 關表下上二 大村四七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……萬佛洞一〇九

五〇 比丘尼光相造彌陀像記 永隆元年十一月八日 西曆六八〇

補正三 關表下上二 大村五〇 沙晚二三三 孫錄三 繆目三 吳錄七

龍門石刻錄目錄

吳目九 劉錄一〇……萬佛洞二五

五二 永隆元年供養記 永隆元年十一月八日 西曆六八〇

吳目九……萬佛洞二〇

五三 胡普桓造像記 永隆元年十一月十四日 西曆六八〇

關表下上二 劉錄一〇……萬佛洞

五三 范初造像記 永隆元年十一月十九日 西曆六八〇

補正三 關表下上二 大村五〇 沙晚二三六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……萬佛洞二一

五四 杜因果造彌勒像記 永隆元年十一月二十日 西曆六八〇

補正三 關表下上二 大村五〇 沙晚二三七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……萬佛洞(獅子洞)二三

五五 韓文則造像記 永隆元年十一月二十日 西曆六八〇

補正三 關圖六 關表下上二 大村五〇 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……萬佛洞二二

五六 胡弘實造菩薩記 永隆元年十一月二十九日 西曆六八〇

關表下上二 沙晚二三二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄三

吳目七 常錄 調表……萬佛洞(獅子洞)二四

五七 大監姚神爽造一萬五千尊像記 永隆元年十一月三十日 西曆六八〇

大村四七 佛蹟四 繆目四……萬佛洞一〇〇

……萬佛洞一〇〇

五六 妻嚴氏并出女性如等造像記 永隆元年十二月八日 西曆六八〇

關表下上二 劉錄一〇……萬佛洞

五九 闡法寺僧大滿造觀世音像記

補正三 吳錄七 吳目九……八八 永隆元年十二月十五日 西曆六八〇

……八八

五〇 施主造地藏記 永隆元年十二月三十日 西曆六八〇

補正三 關表下上二 大村五〇 孫錄三 趙錄三 楊錄三 吳錄七 吳目九

三九三

……萬佛洞二六

五二 侯神照并妻張氏造像記 永隆二年正月十三日 西曆六八一

關表下上二 大村五〇 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……萬佛洞二七

五三 永隆二年造像記 永隆二年正月十五日 西曆六八一

關表下上二……萬佛洞

五三 房山縣人崔懷儉造觀世音佛記

永隆二年正月二十日 西曆六八一

補正三 關圖全 關表下上二 大村五二 沙畹三七五 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……(萬佛洞)(獅子洞)二六

五四 清信女□□二娘造像記 永隆二年正月二十日 西曆六八一

關表下上 楊錄三 繆目三四 吳目七……萬佛洞

五五 侯二娘造□□觀世音菩薩記 永隆二年正月 西曆六八一

*繆目ハ朱ニツクリ、吳目ハ張ニツクル

關表下上四 大村五三 縣志五 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……萬佛洞二九

五六 胡處貞造地藏菩薩記 永隆二年二月□日 西曆六八一

關表下上三 大村五二 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……萬佛洞二〇

五七 比丘尼觀法造彌陀像記 永隆二年三月二十四日 西曆六八一

補正三 關表下上三 吳錄七 吳目九……萬佛洞八三

五八 比丘尼眞悟造像記 永隆二年三月二十四日 西曆六八一

補正三 關表下上三……萬佛洞八三

五九 比丘尼智隱造釋迦像記 永隆二年四月八日 西曆六八一

補正三 關表下上三 大村五二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 常錄 調表……萬佛洞二三

五〇 侯玄熾造彌陀像記 永隆二年四月八日 西曆六八一

補正三 關表下上三 大村五二 沙畹二三四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 目吳九 常錄 調表……(萬佛洞)(獅子洞)三

五一 許州比丘尼妙義造阿彌陀像記 永隆二年四月九日 西曆六八一

關表下上三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……萬佛洞二三

五二 究竟莊嚴安樂淨土成佛記 永隆二年四月二十三日 西曆六八一

關表下上三 劉錄一〇……藥方洞

五三 李德貞造像記 永隆二年四月 西曆六八一

關表下上三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九一〇……萬佛洞

五四 尼惠境造像記 永隆二年四月 西曆六八一

關表下上三 繆目三 吳錄七 吳目九……萬佛洞

五五 許州儀鳳寺比丘尼眞智造觀音記 永隆二年五月八日 西曆六八一

補正三 關表下上三 大村五二 沙畹三七五 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄九

……(萬佛洞)(獅子洞)(賓陽洞)二四

五六 永隆二年經幢 永隆二年六月 西曆六八一

吳錄七 吳目九

五七 張惠哲造像記 永隆二年 西曆六八一

關表下上三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……萬佛洞三五

五八 公孫神欽等造觀世音菩薩記 開耀二年二月八日 西曆六八一

補正三……八四

五九 王寶明造彌勒尊佛記 永淳二年二月二十六日 西曆六八三

補正三 關表下上三 繆目三……敬善寺洞八五

五〇 唐州覺意寺尼好因造像記 永淳二年九月八日 西曆六八三

補正三 關表下上三 大村五二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……萬佛洞二六

五一 蘇銷造像記 永淳二年九月八日 西曆六八三

關表下上三 大村五二 繆目三……萬佛洞二六

五二 蘇銷造像記 永淳二年九月八日 西曆六八三

繆目三 吳錄七 目吳九 常錄 調表……(萬佛洞)(獅子洞)三

補正三 關表下上三 大村五〇 趙錄三 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九
……萬佛洞二三

五三 雍州明唐縣人趙奴子造像記 文明元年四月八日 西曆六八四

補正三 關表下上三 大村五〇 沙晚二四三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞三

五四 陳阿積造像記 文明元年 西曆六八四

大村五二 繆目三

五五 承議郎騎都尉莫古引造阿彌陀等像頌

光宅元年九月三日 西曆六八四

關表下上三 劉錄一〇……(藥方洞)(古陽洞)

五六 光宅年造像記 光宅□年 西曆六八四

關表下上三……雙洞

五七 尼法淨造像記 垂拱元年十二月 西曆六八五

關表下上三 大村五二 繆目三 吳目九 劉錄一〇……萬佛洞一元

五八 張師滿造阿彌陀像記 垂拱二年二月八日 西曆六八六

補正三 關表下上三 大村五二 佛蹟三 沙晚二三六 孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……(萬佛洞)(獅子洞)三〇

五九 張師滿造救苦觀音菩薩記

補正三 關表下下四 吳錄七……萬佛洞二三

六〇 前右威衛弘濟府長蘇文達造像記

垂拱二年四月十五日 西曆六八六

關表下上三 大村四六 繆目四 吳錄七 吳目九……賓陽洞

六一 洛州崇陽縣尉李守德造像記 垂拱二年四月二十一日 西曆六八六

關表下上三 大村四六 繆目四 劉錄一〇……賓陽洞

六二 龍豐倫造像記 垂拱二年五月八日 西曆六八六

補正三 關表下上三 大村五三 沙晚二五七 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

……蓮華洞五九

龍門石刻錄目錄

六三 夏侯造業道像記 垂拱二年五月十五日 西曆六八六

萃編〇 補正三 關表下上三下下六 大村五三 沙晚三三九 繆目三 吳錄七

吳目九 劉錄一〇……敬善寺洞三

六四 魏莊等造阿彌陀像記 垂拱二年七月十五日 西曆六八六

補正三 關表下上三 大村五三 沙晚三三五 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……雙洞一充

六五 張行忠造救苦觀音像記 垂拱二年十月十六日 西曆六八六

補正三 大村五三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 調表……八六

六六 左玉鈐衛將軍薛國公史□□夫人李氏造像記

垂拱二年十二月八日 西曆六八六

關圖六 關表下上三 大村四七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……火燒洞七〇

六七 洛州河南□□弟子造像記 垂拱二年 西曆六八六

大村五三 繆目三 劉錄一〇……老龍洞

六八 薛國公阿史那忠造像記

關表下上五……敬善寺洞

六九 比丘僧思亮等造像記 垂拱三年正月十五日 西曆六八七

補正三 關圖七 關表下上三 大村四八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……火燒洞七一

七〇 雍州三原縣古鼎鄉薛□福等造佛菩薩記

垂拱三年二月十六日 西曆六八七

補正三 關表下上三 大村五三 沙晚二九九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞二四

七一 雍州三原縣古鼎鄉戴婆等造佛菩薩記

補正三 關表下上三 大村五三 沙晚二三八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

垂拱三年二月十六日 西曆六八七

三九五

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞一七

六二 雍州逕陽縣蘇伏寶造佛菩薩記

垂拱三年二月十六日 西曆六八七

補正三 關表下上三 大村五三 沙畹一六七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……雙洞一六

六三 路敬潛妻盧氏造地藏菩薩記

垂拱三年三月五日 西曆六八七

關表下上三 大村五三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七

六四 金莫神造阿彌陀像記

垂拱三年四月八日 西曆六八七

大村五三 繆目三 吳錄七 吳目九……雙洞一五

六五 孝郎造阿彌陀救苦觀音像等記

垂拱三年四月八日 西曆六八七

補正三 關表下上三 大村五三 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

六六 徐節造阿彌陀救苦觀音像記

垂拱三年六月二十五日 西曆六八七

補正三 關表下上三 大村五三 沙畹一五七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表……雙洞一四

六七 王元軌爲亡妻造像記

垂拱三年六月 西曆六八七

吳錄七 吳目九

六八 王元軌妻劉氏造像記

垂拱三年七月十三日 西曆六八七

補正三 關表下上三 大村四〇 沙畹一四二 趙錄三 楊錄三 繆目三 吳錄七

六九 雍州醴泉縣王君意造阿彌陀像記

垂拱三年七月十三日 西曆六八七

吳目九 調表……老龍洞二六

七〇 雍州禮泉王君意造阿彌陀記

補正三 關表下下二 大村五八 沙畹一四四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

七一 朝請大夫劉志榮造像龕記

垂拱三年九月二十三日 西曆六八七

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞一五

七二 劉孝光造阿彌陀像記

垂拱三年四月八日 西曆六八七

補正三 關表下上三 大村五三 沙畹一五二 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……藥方洞一〇

七三 秦弘敬等造像記

垂拱四年二月二十一日 西曆六八八

補正三 關表下上三 大村五三 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇

七四 秦弘敬等造像記

唐字洞

七五 萬年縣張元福像記

垂拱四年 西曆六八八

補正三 繆目三 吳錄七 吳目九……八七

七六 洛州河南題記

垂拱四年三月 西曆六八五—六八八

關表下上三……老龍洞附近五

七七 安多富造像記

永昌元年三月七日 西曆六八九

補正三 關表下上三 大村五三 沙畹一四六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九

七八 市香行社官安僧道題名

永昌元年三月八日 西曆六八九

關表下上四 大村五三 繆目三 吳錄七 吳目九

七九 永昌元年造像記

永昌元年四月 西曆六八九

吳錄三 吳目九

八〇 皇甫仁造阿彌陀像記

永昌元年五月七日 西曆六八九

關圖六 關表下上四 劉錄一〇……火燒洞七三

八一 比丘惠造釋迦像記

永昌元年四月十五日 西曆六八九

補正三 關表下上四 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……王祥洞六八

六三 永昌二年造像記 永昌二年十月二十日 西曆六九〇

關表下上四……石牛溪

六三 右玉鈐衛大將軍渾元慶造像記 載初元年二月十日 西曆六九〇

關表下上四 吳錄七 吳目九……路洞

六三 張元福造阿彌陀像二菩薩記 載初元年五月二日 西曆六九〇

補正三 關圖六 關表下上四 大村五三 沙晚二三〇 繆目三 吳錄七

吳目九 劉錄一〇……獅子洞七〇

六三 絳州曲沃縣胡元慶造佛記 載初元年五月十五日 西曆六九〇

補正三 關表下上四 沙晚二四三 繆目三 吳錄七 吳目九……老龍洞三六

六三 劉大孳妻姚氏造阿彌陀像記 載初元年六月三日 西曆六九〇

補正三 關圖六 關表下上四 大村五三 沙晚二三九 趙錄三 繆目三 吳錄七

吳目九……獅子洞一七

六三 李□□造像記 載初元年七月 西曆六九〇

關表下上四……敬善寺洞

六三 載初元年造像記 載初元年 西曆六九〇

關表下上四 吳錄七 吳目九……王祥洞

六三 佛弟子□□思造像記 載初二年五月十五日 西曆六九一

吳目九

六四 崔□啓造像記 天授元年 西曆六九〇

繆目三 吳目九 劉錄一〇……石牛溪四三

六四 □□羅造像記 天授二年一月一日 西曆六九一

關表下上五 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

……雙洞一七

六四 弟子蘇暉造像記 天授二年二月一日 西曆六九一

繆目三

六四 松義縣尉楊行崩并妻王氏造盧舍那像記

龍門石刻錄目錄

天授二年二月五日 西曆六九一

補正三 關表下上四 大村五四 沙晚二四三 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄一〇……老龍洞三六

六四 比丘元杲造業道像記 天授二年二月二十日 西曆六九一

補正三 關表下上四 沙晚二三六 吳錄七 吳目九……雙洞八九

六五 雍州萬年縣張元福造像記 天授二年二月三十日 西曆六九一

補正三 關表下上四 大村五四 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三 吳錄七

吳目九 常錄 調表……(萬佛洞)(四小洞)六

六六 張乾最妻王氏造阿彌陀像記 天授二年三月十二日 西曆六九一

補正三 關表下上四 大村五四 沙晚二四三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄

劉錄一〇……老龍洞三六

六七 李大娘二娘造像記 天授二年四月八日 西曆六九一

關表下上四 大村五四 繆目三 吳錄七 吳目九……雙洞一七

六八 蔡大娘造像記 天授二年四月十四日 西曆六九一

補正三 關圖六 關表下上四 大村五四 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三

趙目二 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄一〇……萬佛洞附近一七

六九 蔡大娘造藥師像記 天授二年四月十四日 西曆六九一

補正三 關圖六 關表下上四 大村五四 繆目三 趙目二 吳錄七 吳目九

……萬佛洞附近一七

七〇 李居士造像記 天授二年四月 西曆六九一

關表下上五 劉錄一〇……雙洞一七

七一 姜須達石大娘造千佛并菩薩像記 天授二年五月二十八日 西曆六九一

補正三 關表下上四 大村五四 繆目三 吳錄七 吳目九……敬善寺洞八〇

七二 襄州□城縣□□造觀音像記 天授二年十月 西曆六九一

關表下上五 沙晚二四六 劉錄一〇……老龍洞一七

三九七

六五 陝州考功主事成仁感造觀音像記

天授二年□月十五日 西曆六九一

補正三 大村五五 孫錄三 姚目三 楊錄三 繆目三 吳錄七
吳目九 常錄 調表……八九

六六 周行有造觀音像記 天授二年

西曆六九一

補正三 關表下上五 大村五五 繆目三 吳錄七 吳目九……王祥洞七四

六七 襄州□城縣李仁方造像記 天授二年

西曆六九一

繆目三

六八 葛正信爲父母造阿彌陀像記 天授三年二月

西曆六九二

劉錄〇……雙洞

六九 天授三年造像記 天授三年三月八日

西曆六九二

關表下上五 吳目九……播鼓臺

七〇 行文昌□主事王氏造阿彌陀像記

天授□年 西曆六九〇—六九二

關表下上五 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……王祥洞七五

七一 比丘僧德造阿彌陀像記 天授□年二月八日 西曆六九〇—六九二

關表下上四 沙晚二三九 吳錄七 吳目九……雙洞一〇八

七二 史延福造尊勝陀羅尼經并記 如意元年四月八日 西曆六九二

關表下上五 吳錄七 趙錄三 楊錄三……蓮華洞

七三 丁君義造阿彌陀像記 如意元年五月五日 西曆六九二

補正三 關圖六 關表下上五 大村五五 沙晚三三三 孫錄三 姚目三 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……獅子洞一七

七四 任智滿造阿彌陀地藏觀音像記

長壽二年四月二十三日 西曆六九三

關表下上五 沙晚二五六 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……蓮華洞一〇

七五 □利寺□□造像記 長壽三年 西曆六九四

關表下上五 吳錄七 吳目九……萬佛洞

六四 韋瓊造像記 長壽□年

西曆六九三—西曆六九四

關表下上五 吳錄七 吳目九 劉錄一〇……破洞四一

六五 達奚靜造像記 延載元年五月十五日

西曆六九四

補正三 關表下上五 大村五五 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表……雙洞南崖壁上八三

六六 王寶泰趙玄勣等造西方淨土佛龕記

延載元年八月三十日 西曆六九四

關表下上五 沙晚(四六) 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 調表……淨土洞八一

六七 雍州藍田縣馬□造像記 延載元年

西曆六九四

吳錄七 吳目九

六八 佛弟子□□造像記 延載□年

西曆六九四

吳錄七 吳目九 調表

六九 比丘神泰造廿五佛記 證聖元年正月十四日

西曆六九五

關表下上五 大村五五 沙晚三三〇 繆目三 劉錄一〇……雙洞一〇

七〇 夫容敏爲亡母造像記 證聖元年二月五日 西曆六九五

繆目三 吳錄七 吳目九

七一 造阿彌陀佛記 萬歲登封元年 西曆六九六

補正三 關圖六 關表下上五 劉錄一〇……萬佛洞三三

七二 萬歲通天元年造龕像頌文 萬歲通天元年四月 西曆六九六

關表下上五 金石二 孫錄三 姚目三 縣志 跋二 楊錄三 吳錄七

吳目九 常錄……火燒洞

七三 孔思義造彌勒像記 萬歲通天元年五月二十三日 西曆六九六

補正三 關表下上五 大村五五 沙晚三三九 孫錄三 趙目三 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九……蓮華洞六一

七四 前滑州參軍鄭令周璞造像記 萬歲通天元年五月 西曆六九六

吳錄七 吳目九 劉錄一〇

六七五 李客師造阿彌陀像二菩薩記 萬歲通天元年六月 西曆六九六

關表下上二五 大村五五 繆目三 劉錄二……老龍洞附近五

六七六 許乾夫人徐氏造石龕記 萬歲通天元年□月十一日 西曆六九六

關圖二〇 關表下上二六 吳錄七 吳目九 調表……老龍洞附近八七

六七七 盧公石像讚并序 萬歲通天二年六月二十三日 西曆六九七

關表下上二六

六七八 母爲亡女八娘造像記 萬歲通天二年十二月二十日 西曆六九七

關圖四 關表下上二六……老龍洞八六

六七九 馬神貴造阿彌陀佛記 聖曆二年四月二十三日 西曆六九九

補正三 關圖五 關表下上二六 大村五五 沙晚二三五 繆目三 吳錄七

吳目九 劉錄二……雙洞二八

六八〇 王知南王思嶷等題記 聖曆二年 西曆六九九

補正三 關表下上二五 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄九……播鼓臺八三

六八一 聖曆三年造佛龕記 聖曆三年五月二日 西曆七〇〇

關表下上二六 繆目三 吳錄七……敬善寺云

六八二 澶州刺史上柱國張維造像記

久視元年閏七月十五日、西曆七〇〇

關表下上二六……路洞

六八三 閻門冬造像記 大足元年三月八日 西曆七〇一

補正三 關表下上二六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 調表……播鼓臺八四

六八四 □州都□兵曹田□忠造彌陀像記 大足元年 西曆七〇一

補正三 關表下上二六 吳錄七 吳目九 劉錄二……播鼓臺八五

六八五 大足元年造像記 大足元年 西曆七〇一

關表下上二六 繆目三 吳錄七 吳目九……老龍洞

六八六 長安二年造像記 長安二年二月 西曆七〇二

大村五八 繆目三……四小洞二二

六八七 昉思忠造像記 長安二年七月十五日 西曆七〇二

補正三 關表下上二六 大村五八 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄二……老龍洞云九

六八八 馬文妻董氏造彌陀像記 長安二年九月□日 西曆七〇二

關表下上二六 沙晚二五〇 劉錄二……蓮華洞左壁三三

六八九 水衡監都尉宋越客妻鹿三娘造像記

長安三年十二月五日 西曆七〇三

六九〇 □州□陽縣□□造像記 長安三年三月十七日 西曆七〇三

補正三 關表下上二六 大村五八 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄二……老龍洞二〇

六九一 長安三年造像記 長安三年十二月十二日 西曆七〇三

補正三 關表下上二六 大村五八 繆目三 吳錄七 劉錄二……(路洞)(老龍洞三七)

六九二 尉遲弘楷造阿彌陀像記 長安四年二月十日 西曆七〇四

關表下上二六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄七 常錄 調表 劉錄二……(路洞)(老龍洞三七)

六九三 宋婆造佛菩薩記 長安四年二月二十四日 西曆七〇四

補正三 關表下上二六 大村五八 沙晚二三四 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

六九四 高建昌造釋迦像記 長安四年二月二十四日 西曆七〇四

補正三 關表下上二六 大村五八 沙晚二六六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄二……古陽洞三二

六九五 陳暉造像記 長安四年二月二十四日 西曆七〇四

補正三 關表下上二六 大村五八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

六九六 魏懷滿造千佛像記 長安四年二月二十四日 西曆七〇四

吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

補正三 關表下上六 大村四〇 沙畹四〇 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三
吳錄七 吳目九 常錄 調表……古陽洞三三

六九七 惠雙造像記 長安四年二月二十四日 西曆七〇四

大村四〇 繆目四……古陽洞

六九六 惠景寺尼智明等造石像記 長安四年二月十五日 西曆七〇四

劉錄二

六九五 比丘尼□勤智明造像記

關表下元……老龍洞附近三六

七〇〇 韓寄生造像記 長安四年二月二十七日 西曆七〇四

補正三 關表下上六 大村五〇 沙畹二六六 孫錄三 姚錄三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……古陽洞三〇

七〇一 清信弟子□□造像記 長安四年二月 西曆七〇四

吳目九

七〇三 張端爲子造像記 長安四年二月 西曆七〇四

吳目九

七〇三 韓思福造像記 長安四年三月十九日 西曆七〇四

關表下上六……古陽洞

七〇四 中山郡王隆業觀世音石像銘

長安四年三月二十七日 西曆七〇四

補正三 關圖六 關表下上七 大村五〇 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……(路洞)(老龍洞)三三

七〇五 薛季昶造觀世音菩薩記 長安四年四月八日 西曆七〇四

關圖六 關表下上七……奉先寺洞八元

七〇六 前始州梓潼縣丞梁的之造石龕記

長安四年七月二十九日 西曆七〇四

關表下上七 繆目三 劉錄二……路邊

七〇七 長安四年造像記 長安四年十月 西曆七〇四

吳錄七 吳目九

七〇八 長安四年造像記 長安四年十一月 西曆七〇四

吳目九

七〇九 長安四年造像記 長安四年十二月二十二日 西曆七〇四

關表下上七 吳錄七 吳目九 劉錄二……(路洞)(老龍洞)三四

七一〇 王弘楷造像記 長安四年十二月 西曆七〇四

吳目九

七一一 滎陽縣鄭氏造像記 長安四年 西曆七〇四

吳錄七 吳目九

七一二 陝州芮城縣陳昌宗造阿彌陀像記

長安□年□月二十三日 西曆七〇一—七〇五

補正三 關表下上六 大村五〇 佛蹟六 沙畹二五三 孫錄三 姚目三

七一三 楊三娘造像記 神龍元年二月 西曆七〇五

關表下上七 繆目三 吳錄七 吳目九……路洞

七一四 神龍元年造像記 神龍元年二月 西曆七〇五

關表下上七……擂鼓臺

七一五 脩行寺尼真空造石浮圖記并陀羅尼咒

神龍元年三月三日 西曆七〇五

關表下上七 吳目九……萬佛洞

七一六 □國造觀音像記 神龍元年四月 西曆七〇五

吳錄七 吳目九

七一七 行文昌臺主事孫元胄造像記 神龍元年 西曆七〇五

吳錄七 吳目九

七一八 辛六娘造菩薩兩區記 神龍二年三月八日 西曆七〇六

補正三 關表下上八 大村五〇 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄二……火燒洞七六

七九 王才賓造浮圖頌并心經記 神龍二年 西曆七〇六

補正三 大村五七 繆目三 吳錄七 吳目九……八六

七〇 高思曾造彌陀像記 神龍三年二月二十二日 西曆七〇七

關表上下六 劉錄二……石牛溪

七二 比丘尼恩造地藏業道像記 神龍三年七月十四日 西曆七〇七

補正三 關表上下六 大村五七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

吳錄七 吳目九 常錄七 調表 劉錄二……(路邊)(路洞三七)

七三 比丘尼恩恩爲亡考忌日造地藏菩薩像記

關表上下六 劉錄二……月七日 西曆七〇五—七〇七

劉錄二……路邊

七三 尼恩恩造地藏菩薩像記 關表上下六 劉錄二……月二十日 西曆七〇五—七〇七

劉錄二……路邊

七四 魏奴子造像記 神龍三年 西曆七〇七

關表上下六 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

七五 覺造像記 神龍三年□月十九日 西曆七〇五—七〇七

關表上下六 劉錄二……老龍洞

七六 道買造像記 景龍元年四月八日 西曆七〇七

吳目九

七七 前右臺御史李若□妻造像記 景龍元年 西曆七〇七

關表上下六……蓮華洞

七六 佛弟子王廷喜造石功德像記

景龍二年正月二十九日 西曆七〇八

劉錄二……路邊

七九 清信造像記 景龍二年二月十四日 西曆七〇八

關表上下六……石牛溪

七〇 王建造像記 景龍二年八月二十九日 西曆七〇八

龍門石刻錄目錄

關表上下六 吳目九……路洞

七二 王非賤造像記 景龍三年七月八日 西曆七〇九

大村四〇 沙晚四三 孫錄三 吳錄七 吳目九……古陽洞六九

七三 李遠至造像記 景龍三年九月二十八日 西曆七〇九

關表上下六 繆目四……路洞

七三 景龍三年造像記 景龍三年九月三十日 西曆七〇九

補正三 繆目三 劉錄二……(路洞)(老龍洞三七)

七四 啓吉造像記 景龍三年 西曆七〇九

關表上下六 大村五七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 常錄

調表……古陽洞

七五 清信女六娘造救苦觀世音菩薩記 景龍四年三月 西曆七一〇

關表上下六 大村五七 吳錄七 吳目九 劉錄二……石牛溪五九

七六 王雅藏造像記 景龍四年三月 西曆七一〇

補正三 吳錄七 吳目九 劉錄二……藥方洞八六

七七 造阿彌佛像記 景龍四年六月十五日 西曆七一〇

關表上下六……敬善寺洞

七六 吐火羅僧實隆造釋迦牟尼佛記 景雲元年九月一日 西曆七一〇

補正三……八九

七五 路州銅鞮令任延造像記 景雲元年 西曆七一〇

大村五七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

七〇 朱元□妻裴氏造像記 景雲二年 西曆七一〇

吳錄七 吳目九

七二 天竺寺碑 景雲二年 西曆七一〇

文苑英華八六 吳目九

七三 僧法寂造像記 延和元年 西曆七一一

大村五七 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九 常錄 調表

四〇一

七三 杜曙同妻裴氏造像記 先天元年 西曆七一二

大村五八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九 常錄

調表

七四 張□□妻裴氏造像記 先天二年五月□日 西曆七一三

關表下上八 大村五八 佛蹟五 繆目三 吳錄八 吳目九 劉錄二……蓮華洞三

七五 張庭之造像記 先天二年七月十五日 西曆七一三

補正三 關表下上六……播鼓臺六

七六 王熊妻盧氏造像記 開元二年正月十八日 西曆七一四

關表下上六……播鼓臺

七七 母高造像記 開元二年二月八日 西曆七一四

關表下上八三……破洞

七八 杜潛輝造像記 開元二年二月九日 西曆七一四

補正三 關表下上八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄六

吳目九 常錄 調表……獅子洞一

七九 佛弟子任令壞造像記 開元二年四月八日 西曆七一四

關表下上八 大村五八 繆目三……老龍洞

八〇 造地藏菩薩記 開元二年四月十五日 西曆七一四

補正三 關表下上九 吳錄八 吳目九 劉錄二……播鼓臺九

八一 崔平心造像記 開元二年九月八日 西曆七一四

大村五八 繆目四

八二 開元三年造像記 開元三年三月三日 西曆七一五

關表下上八 調表……老龍洞

八三 費二娘造像記 開元三年三月十六日 西曆七一五

關表下上九 劉錄一〇……(老龍洞)(雙洞)

八四 前秘書少監韋利器等造阿彌陀像記 開元三年八月十日 西曆七一五

補正三 關圖九 關表下上九 大村四八 孫錄三 姚目三 縣志五 趙錄三

楊錄三 吳錄八 吳目九 常錄……老龍洞上小窟八五

八五 比丘僧眞性造阿彌陀像記 開元三年九月 西曆七一五

補正三 關表下上九 大村五八 沙晚一四七〇 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三

繆目三 吳錄八 吳目九 常錄 調表 劉錄二……老龍洞六〇

八六 杜十四孃造像記 開元三年 西曆七一五

大村五八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九 常錄 調表

劉錄二

八七 □大名爲母造像記 開元四年 西曆七一六

吳錄八 吳目九

八八 張敬琮母王婆造天尊像記 開元五年三月 西曆七一七

關表下上九 沙晚一三六一 吳錄八 吳目九……雙洞一四

八九 張客造像記 開元五年 西曆七一七

關表下上九 吳錄八 吳目九……路洞

九〇 楊婆願身平安造像記 開元六年六月二日 西曆七一八

關表下上九 吳錄八 吳目九……老龍洞

九一 造觀世音菩薩像記 開元六年十月十五日 西曆七一八

關表下上九……播鼓臺

九二 吳藏師造觀世音像記 開元七年正月五日 西曆七一九

補正三 關表下上九 大村五八 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

九三 裴惟諝供養記 開元七年三月 西曆七一九

補正三 關表下上九 大村五八 沙晚一四七二 繆目三 吳錄八 吳目九

……老龍洞六〇

九四 陀羅尼呪 開元八年三月二十三日 西曆七二〇

吳錄八 吳目九

九五 程奉一造像記 開元九年 西曆七二一

補正三 關圖一〇〇 關表上下九 大村五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三
繆目三 吳錄八 吳目九 常錄 調表……老龍洞附近八〇

七六 前任蘭州司戶裴具德造像記

大村五九 繆目三 開元十年二月二十二日 西曆七二二

七五 開元十一年造像記 開元十一年

……魏字洞五〇 西曆七二三

七六 高宗造奉先寺大盧舍那像龕記并開元牒

開元十二年 西曆七二四
萃編三 補正三 札記一 關圖一〇一 關表上下九 佛蹟三 沙晚一五六 黃攷六
府志一〇 畢記二 錢跋三 錢目二 孫錄三 姚目三 縣志五 洪記五 葉補三
楊錄三 繆目三 吳錄八 吳目九 常錄 調表 劉錄一〇……奉先寺洞八六

七九 文矩造像記 開元十四年

西曆七二六
關表上下九 大村五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九
常錄 調表

七〇 東山寺碑記 開元二十年五月

西曆七三二
吳錄八 吳目九……東山看經寺側

七一 崔瑤及妻武氏造像記 開元二十三年正月十一日

西曆七三五
吳錄八 吳目九

七二 西巖內道場供奉尼惠燈和和石龕銘

劉錄二 開元二十三年正月十一日 西曆七三五

七三 并州人裴□受造像記 開元二十三年十二月

西曆七三五
吳錄八 吳目九

七四 都景福寺靈覺和上造像龕銘 開元二十六年

西曆七三八
補正三 大村五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九
常錄 調表……六三

七五 僧空寂造像記 開元二十八年七月

西曆七四〇
龍門石刻錄目錄

吳錄八 吳目九

七六 魏國公楊思勗造像記 開元□□年四月二十三日 西曆七一三—七二二

萃編七 補正三 關表上下九 沙晚(三四) 黃攷六 府志二〇 畢記二 孫錄三
姚目三 縣志五 洪記六 二跋二 朱記四 楊錄三 吳錄八 吳目九 調表
……奉先寺洞八〇

七七 內供奉高力士等一百六人造無量壽像記

開元□年 西曆七一三—七二二
萃編六 補正三 關表上下九 沙晚(三四) 錢目二 孫錄三 姚目三 縣志五
二跋二 楊錄三 繆目三 吳錄八 吳目九 常錄 調表……奉先寺洞八六

七八 牛氏造像龕碑記

西曆七一三—七四一
萃編六 關表上下九 沙晚(三四) 金石七 黃攷六 畢記二 錢目三 孫錄三
姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄八 吳目九 調表……奉先寺洞八六

七九 楊安造像記 開元□□年

西曆七二三—七四一
大村五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九 常錄 調表

八〇 開元造像記 開元□年

西曆七一三—七二二
關表上下九……播鼓臺

八一 尚識造像記 天寶三年

西曆七四四
關表上下九 大村五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九
常錄 調表

八二 香山寺陀羅尼幢 天寶八年

西曆七四九
姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九 調表

八三 馬隨等題記 天寶九年二月二日

西曆七五〇
補正三……六三

八四 比丘尼淨元造彌勒觀音記

天寶十三年四月二十□日 西曆七五四
關表上下九 大村五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三 吳錄八
吳目九 常錄 調表 劉錄三……王祥洞七七

七五 張曙造像記 天寶十三年 西曆七五四

大村吾兎 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄八 吳目九 常錄 調表

七六 清樂□珪造像記 顯聖元年五月十五日 西曆七六一

關表下上三 劉錄三……(王祥洞)(奉先寺洞)

七七 香山黨煜等題記 大曆七年 西曆七七二

關表下上三 趙錄三 楊錄三 劉錄三……香山寺

七八 戶部侍郎盧徵造救苦觀世音菩薩石像記 盧徵撰

補正三 關表下上三 孫錄四 姚目三 縣志五 續跋五 吳錄八 吳目九 貞元七年二月八日 西曆七九一

常錄……九〇四

七九 韓□□造像記 貞元十年三月十二日 西曆七九四

關表下上三……古陽洞

七〇 劉士元題記 貞元十四年三月 西曆七九八

關表下上三 吳錄八 吳目九

七一 隴西李公瓊溫題記 貞元十九年五月□日 西曆八〇三

關表下上三 大村吾兎 繆目六 吳錄八 吳目九 劉錄三……老龍洞附近

七二 大悲陀羅尼呪幢 元和四年三月 西曆八〇九

吳目九

七三 河南尹辛秘題記 元和十二年閏五月十三日 西曆八一七

關表下上三 繆目六 劉錄三……播鼓臺

七四 修香山寺記 太和六年 西曆八三二

白氏長慶集五 楊錄四 吳目九……香山寺

七五 奉先寺上座懷豐等題記 開成三年三月 西曆八三八

吳錄九 吳目九

七六 香山寺經藏記 開成五年 西曆八四〇

白氏長慶集七 黃攷六 楊錄四 吳目九……香山寺

七七 僧靈辨陀羅尼經幢 大中十一年四月二十八日 西曆八五七

吳錄九 吳目九……香山寺

七九 大中題記

關表下上四……路洞

七九 雍州長安縣造阿彌陀像記 乾符元年正月二十五日 西曆八七四

補正三 關表下上八 大村吾兎 沙晚二三四 繆目三 劉錄四……敬善寺洞

八〇 朱全忠造像記 光化元年八月三日 西曆八九八

大村吾兎 繆目三

五代

八一 開平二年陀羅尼幢 開平二年六月 西曆九〇八

吳錄九

八二 李琮造觀世音菩薩記 乾化五年六月三日 西曆九一五

補正五 關圖一〇 關表下下四 沙晚二五三 趙錄 楊錄四 繆目三 吳錄二〇

吳目九……蓮華洞三五

八三 郭張題記 乾祐三年三月二十一日 西曆九五〇

補正六 關圖一三 關表下下四 佛蹟八三 沙晚二六三 繆目六 吳錄二〇

吳目九 劉錄二六……(萬佛洞)(獅子洞)三四

八四 重修白樂天影堂記 廣順三年 西曆九五三

吳目九……香山寺

宋

八五 伊闕銘 大中祥符四年 西曆一〇一一

黃攷六 府志一〇 畢記四 姚目三 縣志五 楊錄五 吳錄二 吳目九

調表……蓮華洞

八六 彭城仲渥樂安秀表遊記 天禧元年三月二日 西曆一〇一七

補正六 關表下下四 繆目九 吳錄二 吳目九……九〇五

八〇七 三班借職監丁裕題記 天聖四年三月二日 西曆一〇二六

關表下下四 沙晚一五五 繆目三 吳錄九 吳目九 調表……藥方洞西

八〇八 監修路員寮高福題記 天聖四年三月三日 西曆一〇二六

關表下下四……萬佛洞三

八〇九 監修石道公事丁裕題記 天聖四年三月三日 西曆一〇二六

補正六 關表下下四 畢記二 孫錄六 姚目二 縣志五 楊錄五 繆目九

吳錄二 吳目九 常錄……萬佛洞三

八二〇 三班借職監伊河竹木務丁裕等題記

天聖四年三月二十六日 西曆一〇二六

補正六 關圖一四 關表下下四 沙晚一五七 孫錄六 姚目三 縣志五

楊錄五 繆目九 吳錄二 吳目九 常錄 調表……奉先寺洞六

八二一 王曙詩 天聖五年三月二十日 西曆一〇二七

補正六 吳錄二 吳目九……六六

八二二 至和二年題記 至和二年八月二十八日 西曆一〇五五

關表下下四……萬佛洞

八二三 河中常景造阿彌陀佛石像記

元豐二年七月十二日 西曆一〇七九

補正六 關表下下四 孫錄七 姚目三 縣志五 三跋三 楊錄五 吳錄九

吳目九 常錄……播鼓臺九七

八二四 元豐六年留守府牒 元豐六年 西曆一〇八三

孫錄七 姚目三 楊錄五 吳錄三 吳目九 常錄

八二五 造人黨修石道記 元豐七年七月三十日 西曆一〇八四

補正六 關表下下四 佛蹟五 沙晚一四七 繆目九 吳錄二 吳目九

……老龍洞附近三

八二六 元豐題記 元豐七年八月 西曆一〇八四

關表下下四 繆目九 吳目九……雙洞六八

八二七 張璪等題記 元祐二年三月二十日 西曆一〇八七

龍門石刻錄目錄

繆目九

八二八 元符二年造像記 元符二年二月二日 西曆一〇九九

……火燒洞七四

八二九 程公孫趙志國何子正等遊名 元符三年 西曆一一〇〇

補正六……六九

八三〇 雒陽張輔等造像記 大觀四年二月 西曆一一一〇

姚目三 繆目二 吳錄九

*繆目紀年ナシ

八三一 龍門鎮□安國等題記 政和元年 西曆一一一一

姚目三 縣志五 楊錄六 吳錄三 吳目九 常錄

八三二 □和同游題記 政和三年四月七日 西曆一一一三

關表下下四 沙晚二八三 孫錄八 姚目三 縣志五 吳目九 常錄

……賓陽洞三〇

八三三 趙士部等題記 政和三年 西曆一一一三

姚目三 縣志五 楊錄五 繆目九 吳錄三 吳目九 常錄

八三四 張徵□等題記 政和五年 西曆一一一五

孫錄八 姚目三 縣志五 楊錄五 繆目九 吳錄三 吳目九 常錄

八三五 吳京司題記 政和五年三月 西曆一一一五

繆目九

八三六 沈隱道題記 政和六年四月 西曆一一一六

關表下下四 吳錄九……奉先寺

八三七 張彥題記 政和七年三月三十日 西曆一一一七

補正六 關表下下四 繆目九 吳錄三 吳目九……雙洞六〇

金

八三八 楊言造像記 明昌三年七月 西曆一一九二

補正三

四〇五

八三〇 張敦等題記 貞祐四年

西曆一二一三

孫錄二 姚目三 繆目九 吳目九

八三一 昌二年造像記 □昌二年十月二十日

吳錄六 吳目九

元

八三二 至元五年題記

西曆一三三九

關表下下盟……播鼓臺

八三三 □威等造像記 貞□□□年

孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九 常錄 調表

明

八三四 □城人秦民悅題記 天順六年十一月二十二日

西曆一四六二

沙畹(卷)……賓陽洞

八三五 丁亥初造像記 關表下上三……老龍洞

八三六 比丘僧仁□等造優填王像記 庚辰年

劉錄六

八三七 河南府洛陽縣東侯三里衆社人等題記

萬曆三十一年

西曆一六〇三

沙畹(卷)……雙河1012

八三八 爲身造阿彌陀佛記 正月十五日

關表下上三……王祥洞

清

八三九 燕山德林等題記 同治九年二月

西曆一八七〇

沙畹(卷)……古陽洞1010

八四〇 爲皇帝陛下造像記 十二年二月

關表下下三……賓陽洞

八四一 光緒庚寅春題記 光緒十六年

西曆一八九〇

沙畹(卷)……古陽洞1011

八四二 造一佛二菩薩像記 二年三月四日

關表下上三……雙河

年代不詳

八四三 常須達造像記 正□□年

吳錄六 吳目九

八四七 石法顯等造像記 三月八日

關表下上三……唐字洞

八四四 比丘造像記 □平二年

關表上三……古陽洞

八四八 比丘尼妙暈造像記 三月十三日

補正三 關表上三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六

八四五 比丘尼造像殘字 □平四年

關表上三……古陽洞

八四九 張師政兄弟造賢劫千石像記 □□元年三月三十日

補正三 關表下上三 繆目三 吳目九 劉錄九……藥方洞五七

八五 僧儁造像記 □□□年四月九日

關表七 劉錄六……火燒洞六

八五 閻玄□造彌陀像記 □□二年四月十日

補正三 關表下上三 劉錄六……火燒洞六

八五 □尙二人造阿彌陀像記 □年四月十日

關表下上三……藥方洞

八五 比丘尼道貞造釋迦像記 □□四年四月十二日

沙畹一四九……第十四洞窟

八五 月日題記 四月八日 五月十三日

關表下上三……古陽洞

八五 造觀世音菩薩記 六年四月二十日

關表上三……(石牛溪)(敬善寺洞窟)

八五 南中府主簿造彌勒像記 四月二十三日

沙畹一五七 繆目二 吳錄六 劉錄六……魏字洞前壁四六

八五 三年四□造像記 關表下上三……蓮華洞

八五 大唐四月造像記 關表下上三……唐字洞

八五 爲見存家□造像記 二年五月

關表下上三……雙洞

八六 □清孫再遊題記 六月十三日

關表下下三……播鼓臺

八六 辛酉六月十四日□等題記 劉錄二……蓮華洞

八六 六月造像記 關表下上三……藥方洞

八六 □惠造阿彌陀像記 □年七月六日

補正三 關表下上三 沙畹一五五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三

吳錄九 吳目九 常錄 調表 劉錄九……藥方洞右壁四四

龍門石刻錄目錄

八六 清信女□王妃胡智造像記 □年七月十日

補正三 關表下上三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二

吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄六……火燒洞六

八五 周霍三娘造業道像記 七月十五日

補正三 關表下上三 大村五〇七 沙畹一四六 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 劉錄二……老龍洞三五

八六 月日題記 八月十五日 九月十五日

關表下上三……破洞

八六 八月十日□日等記 ……魏字洞四四

八六 後餘八月造像記 關表下上三……播鼓臺

八六 造像了題記 八月

關表下上三……蓮華洞

八七 陳二娘爲亡母等造釋迦无尼佛等像記 □□□九月十二日

劉錄六……雙洞

八七 爲皇帝太子諸王等造像記 八年九月十五日

關表下上三……路洞

八七 王雪牛及弟等造像記 □□一年九月□□日

劉錄五……賓陽洞

八七 七年九月造像記 關表下上三……破洞

八七 王倫妻陳女婆母子等造觀音像并波□經記 十月一日

補正三 關表下上三 沙畹一五九 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 繆目三

趙目一 吳錄九 吳目九 常錄 劉錄九……藥方洞四七

八七 王倫妻陳氏觀世音菩薩記

關表下下三 調表……藥方洞五六

八七 姊妹二人造像記 二年十月五日

關表下上三……藥方洞

四〇七

八七 洛州河南縣人造像記 □□元年十月六日

關表下上三……路洞

八七 王元慶造像記 丁酉十月十日

關表下上三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄九 常錄 調表……破洞

八七 强弩將軍王歡欣兄弟等造釋迦像記 □年十月十八日

補正七 繆目二 吳目九 劉錄六……石牛溪三六

八八 王歡欣造釋迦像記

關表上三 沙晚一四〇 王目 繆目三 吳目九……石牛溪三六

八八 王歡欣造像記

關表下九上三 沙晚一五九 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 劉錄六

……石牛溪四〇八

八八 伯壽王歡等造像記 繆目二

八八 内侍李德造像記 □年十一月十日

關表下上四……破洞五三

八八 十二月題記 關表下上三……老龍洞

八八 佛弟子□□造像記 □□□年十二月

繆目三

八八 信士佛□□造像記 □□□年十二月

繆目三

八七 爲亡父造像記 四日

關表下上三……敬善寺洞

八八 十五□造像記 十五□□四日

關表下上三……賓陽洞

八八 造像記二 □□月六日

關表下上三……播鼓臺

八八 月六□造像記 關表下上三……賓陽洞

八八 月六□造像記 關表下上三……賓陽洞

八九 段八娘造像記 八日

關表下上三……老龍洞

八九 右□并妻馬氏造像記 □□□年□月二十二日

補正三 關表下上三……(敬善寺洞)(賓陽洞)元

八九 年□月二十三日照像記 □月二十三日

關表下上三……破洞

八九 二十三日題記 關表上五……古陽洞

八九 三年季春題記 關表下下三……播鼓臺

八九 比丘尼穴隆造像記 □□三年□月□日

補正三……壹五

八九 □□五年造像記……古陽洞三

八九 造觀世音菩薩像記 二十二年

關表下上三……藥方洞

無紀年

八九 阿維師等造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六

吳目九 常錄 調表

九〇 弟阿歡善欣等題記 繆目二

九〇 阿姜婆造像記 補正三 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄九……老龍洞附近六〇

九〇 清信女阿陳造像記 關表上五 王目 繆目四 吳錄六

吳目九 劉錄五……古陽洞

九〇 阿馬造像記 劉錄五……老龍洞

九〇 阿誅僧□羅造像記 關表上六……古陽洞

九〇 幹禪師題記 關表下下三……賓陽洞

九〇 安碎菜造像記 關表下下三……石牛溪

九〇七 安禪師造優填王像記 ……敬善寺洞五

九〇八 紀國太妃韋氏造敬善寺石像記 李孝倫撰 萃編美

關表下下五 大村四二 佛蹟〇 沙晚二三三 畢記三 錢目三 孫錄四 姚目三 縣志五 洪記四 朱記六 楊錄四 楊圖三 繆目四 吳錄三 吳目九 常錄 調表 ……敬善寺洞一

九〇九 交州郡督府戶曹韋尅諧及妻皇甫氏造像記 補正三

關表下下八 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四 ……敬善寺洞六

九一〇 隴州長史韋尅區及妻楊氏造像記 關表下下二 沙晚二八〇

劉錄五 ……賓陽洞七

九一一 韋六〇造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

目九 常錄 調表

九一二 伊大道造像記 關表下下五 ……蓮華洞四六

九一三 邑子尹達題記 ……老龍洞四一

九一四 尹別揭造像記 關表下下元 劉錄四 ……古陽洞

九一五 尹〇〇造像記 關表下下元 劉錄四 ……(石牛溪)(古陽洞)

九一六 河北郡吏殷高造像記 繆目三

九一七 雍州殷法智造菩薩神王記 補正三 關表下上二 大村五八

孫錄二 姚目三 縣志五 趙錄三 楊錄二四 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄

調表 劉錄六 ……雙洞二〇九

九一八 殷朋先造像記 關表下下三 繆目三 吳錄六 劉錄六 ……破洞

咒七

九一九 于阿寶造像記 關表下下三〇 繆目三 劉錄五 ……老龍洞附近

九二〇 于懿造像記 繆目四

九二一 城門郎于尙範及妻韋氏造阿彌陀像記 關表下下二 沙

晚三七六 劉錄九 ……賓陽洞三

九二二 孟祈願西方〇佛造像記 繆目三

龍門石刻錄目錄

九二三 宇文婆造像記 關表下下〇 吳錄九 吳目九 劉錄五 ……老龍洞附近

九二四 佛弟子雲造像記 關表下下九 ……敬善寺洞

九二五 亡人雲香題記 關表下下二 劉錄五 ……賓陽洞

九二六 惠安造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

九二七 惠遠造像記 關表下下三 ……敬善寺洞

九二八 比丘慧敢等造像記 關表上二 王目 ……古陽洞

九二九 比丘惠鑒造無量壽佛記 關表上三 沙晚二五四 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄三 王目 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄五 ……蓮華洞右壁元一

九三〇 比丘惠鑒造觀音像記 補正三 關表上三 孫錄二 王目二 吳目九 調表 ……古陽洞七〇一

九三一 沙門惠苑造像記 關表下下七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表 ……(萬佛洞)(四小洞)三七

九三二 僧惠暉造像記 補正七 關表上三三 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄五 ……古陽洞七四

九三三 惠暈父母造像記 王目 繆目二

九三四 惠景題記 關表下下五 繆目三 ……藥方洞

九三五 沙彌慧廣侍佛造像記 關表上四 吳錄六 吳目九 ……古陽洞

九三六 惠信造像記 關表下下七 ……敬善寺洞

九三七 比丘惠紆造像記 補正三 ……九美

九三八 沙門惠崇造像記 繆目三

九三九 比丘惠遷造像記 關表上三 劉錄四 ……古陽洞

九四〇 惠徹造觀音記 關表下下五 沙晚二五五 繆目三 劉錄五

四〇九

……蓮華洞四〇

九四二 惠德造像記 關表下下四 洞目三……賓陽洞

九四三 比丘惠敦造像記 方筆 調表 石言

九四三 比丘惠密造像記 關表上三 繆目二 劉錄三……古陽洞

九四四 惠妙憶題記 繆目三

九四五 比丘惠賦造石像記 繆目三

九四六 比丘惠造觀音像記 補正三 沙晚天八 王目……古陽洞七〇

九四七 比丘尼惠□造像記 關表下下三 王目……賓陽洞

九四八 衛迥造觀世音菩薩記 補正三 關表下下二 沙晚三三 繆目三

吳錄 吳目九 劉錄九……敬善寺洞四〇

九四九 衛才仁造像記 關表下下三 繆目三 劉錄九……敬善寺洞附近

九五〇 子衛操造像記 關表下下三 吳錄九 吳目九 劉錄六……石牛

溪四九

九五二 上洛郎垣妻拔餘氏造像記 繆目三

九五三 袁慶造像記 關表下下六……石牛溪

九五三 袁克己造像記 關表下下三 劉錄九……賓陽洞

九五四 太子典設郎袁仲蔣造阿彌陀像記 補正三 關表下下二

繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽洞九六

九五五 閻暕任造像記 關表下下三 吳錄六 吳目九……敬善寺洞

九五六 閻師贊造像記 關表下下三 吳錄九 吳目九……唐字洞

九五七 閻處沖造彌陀像記 補正三……六一

九五八 王家阿孀造觀音像記 關表下下六三 繆目三 吳錄九 劉錄六

……石牛溪

九五九 王阿六·朱山玉·王大娘·殷九娘等題名 關表下下六元 孫

錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目四 吳錄六 吳目九 常錄 調表

……古陽洞五

九六〇 王威造像記 補正三 關表下下九 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄九……敬善寺洞六〇

九六一 王威福造像記 關表下下八 繆目三 劉錄四……敬善寺洞

九六二 王惠忿妻蔡氏造像記 關表上四 趙錄二 楊錄二 王目 繆目二

九六三 王惠達造像記 關表下下六 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四

……敬善寺洞六四

九六四 王益題記 繆目九

九六五 王化題記 關表下下四……路洞

九六六 王會恩造像記 關表下下六 劉錄三……石牛溪

九六七 王懷忠·趙大娘等侍佛記 補正三 關表下下三 孫錄二 姚

目三 縣志五 楊錄二 繆目二 趙目一 吳錄九 吳目九 常錄 調表……古陽

洞七四

九六八 王懷友造像記 關表下下二 劉錄五……老龍洞附近

九六九 清信女王麗裕等題記 關表上三 繆目三 吳錄六 吳目九

……老龍洞三三

九七〇 王漢奴造像記 關表下下六 吳錄九 劉錄六……石牛溪

九七一 王韓題記 關表下下七……敬善寺洞

九七二 王奇奴造觀音菩薩記 補正三 關表下下三 沙晚四八〇 孫

錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……老龍

洞六六

九七三 王綺白德等造像記 繆目四

九七四 王宜利造像記 補正三 關表下下四 劉錄六……擂鼓臺九六

九七五 王義基造像記 關表下下五……石牛溪

九七六 王休母董氏造像記 關表下下九 繆目三 吳錄九 吳目九

……敬善寺洞六

九七 清信女王嚮妻趙儉等供養記 補正三……八齒

九六 王銀安造像記 關表上二六……古陽洞

九五 內常侍王敬文并妻造像記 關表下下六……敬善寺洞

九四 王乾福妻母張婆婆題記 補正三 關表下下八 吳錄九 吳目九

劉錄九……敬善寺洞

九二 王元賢造像記 關表下下七……敬善寺洞

九一 王元禮造阿彌陀像記 補正三 關表下下三 繆目三 吳目

劉錄三……老龍洞三六

九三 王玄基造像記 關表下下二 繆目三 吳錄九……敬善寺洞

九四 王願造像記 關表下下二 沙晚三三五 吳錄四九 吳目九

劉錄五……賓陽南洞一〇三

九五 王伴仁造像記 關表下下三……石牛溪

九六 王伴仁妻郭婆婆造像記 關表下下三 繆目四 劉錄六……石牛溪

九七 王五娘造像記 關表下下二 吳錄九……賓陽洞

九八 王江奴造釋迦像記 補正三 關表上二六 大村三六 沙晚二六六

孫錄二 姚目三 縣志堯 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古

陽洞六五

九九 雍州豐潤府校尉王弘口造像記 關表下下四三……賓陽洞

一〇〇 王好勝造像記 關表下下元……古陽洞

一〇一 王行忠造像記 關表下下元……石牛溪

一〇二 王拘中題記 關表下下元……石牛溪

一〇三 清信女王光造像記 關表上二一……古陽洞

一〇四 王山兒造像記 關表下下〇……敬善寺洞

一〇五 王山口造像記 關表下下元……古陽洞

一〇六 王四娘造口口像記 劉錄六……藥方洞

龍門石刻錄目錄

九七 鄭縣王思業造藥師觀音像記 關表下下〇 沙晚三五六 楊

錄 繆目三 趙目 吳錄七 吳目九……獅子洞一六

九八 太州王思業造藥師并觀音像記 補正三 關表下下〇 趙

錄三 楊錄四 劉錄二……敬善寺洞九四

九九 王思貞題名 關表下下元……古陽洞

一〇〇 邑子王思和等題記 關表下下元……藥方洞五〇

一〇一 雍州長安縣王仕明造像記 關表下下〇 大村五八 繆目三

一〇二 王七娘造像記 關表下下〇 劉錄五……老龍洞附近

一〇三 王守福造像記 關表下下六 繆目三……敬善寺洞

一〇四 王樹興妻口口造彌陀像記 補正三……四

一〇五 佛弟子王十欣為亡阿兒云米造世加像記 劉錄六……

石牛溪

一〇六 前相州安陽縣尉王承頌造觀世音記 補正三 關表下下

四 大村五〇 沙晚三三五 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄九……萬佛洞一四〇

一〇七 王少白王小白題名 關表下下元 吳錄九 吳目九……古陽洞

一〇八 弟子王尙智為亡父母造彌陀佛像記 關表下下三 劉錄

五……老龍洞附近

一〇九 國常侍王神秀造釋迦牟尼佛記 補正三 關表上二

王目 繆目二 劉錄三……古陽洞九二

一〇〇 王真阿造像記 關表上二三……古陽洞

一〇一 王仁楷造像記王貴留造像記仁知造像記 關表下下云

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……石牛溪四六

一〇二 王仁娘為口子造像記 關表下下元……石牛溪

一〇三 王仁則造業道像記 關表下下元 沙晚一四五 吳錄六 吳目九

常錄 劉錄八三……老龍洞三九

四一一

一〇四 王宋有爲己身造菩薩像記 關表下下元 劉錄五……老龍洞附近

洞附近

一〇五 文林郎王忿造像記 補正三 關表下下八 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄九……敬善寺洞

一〇六 王崇造像記 關表下下六 繆目三 劉錄五……老龍洞附近

一〇七 王仙壽曹大娘造像記 關表下下六……敬善寺洞

一〇八 王楚造像記 關表下下六……敬善寺洞

一〇九 佛弟子王宗欣造世迦像記 繆目二

一〇〇 王大娘造像記 補正三 關表下下元 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞九六

一〇一 王大娘并亡女喜娘造像記 關表下下四……路洞

一〇二 王智泰造像記 補正三 關表下下九 吳錄九 吳目九 劉錄五

……老龍洞附近九七

一〇三 王智立造像記 關表下下六 劉錄五……老龍洞附近

一〇四 王忠助造像記 繆目四

一〇五 王仲容造像記 關表下下三……敬善寺洞

一〇六 王超□造像記 關表下下七 繆目二 劉錄四……古陽洞三三

一〇七 王朝福母張婆造像記 繆目三

一〇八 汪貞造像記 關表下下三 繆目三 劉錄九……老龍洞

一〇九 王德仁女小娘造觀音菩薩像并法華經記 補正三

關表下下三 沙畹一三三 吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽洞九〇

一〇〇 王二娘爲己身造像記 關表下下六 繆目三……石牛溪

一〇一 王二娘願母子早相見造像記 關表下下二 孫錄二 姚目三 楊

錄二 繆目三 吳錄九 常錄 調表……敬善寺洞

一〇二 王婆造地藏菩薩記 關表下下二 沙畹一三九 繆目四 吳錄九

吳目九 劉錄九……賓陽南洞一〇五

一〇三 王婆造像記 關表下下三 吳錄九 劉錄二……老龍洞三七

一〇四 □明利妻王婆造像記 關表下下三……石牛溪

一〇五 王婆羅門造像記 補正七 關表三三 沙畹一六六 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞七〇

一〇六 王福妻郭氏造像記 關表下下八 繆目三……敬善寺洞

一〇七 王福昌造阿彌陀像記 補正三 關表下下八 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 吳錄九 吳目九 常錄 調表 劉錄四……老龍洞附近三三

一〇八 王佛奴爲記身造像記 關表下下二……敬善寺洞

一〇九 王文綽題記 關表下下四 劉錄五……賓陽洞

一〇〇 內謁者王文度造像記 關表下下六……敬善寺洞

一〇一 王文禮造像記 關表下下五 劉錄六……萬佛洞一五

一〇二 王文□忠造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六

吳目九 常錄 調表

一〇三 王保貴造像記 關表下下三……石牛溪

一〇四 王方題記 關表下下元 劉錄三……石牛溪

一〇五 王方選造像記 關表下下四……老龍洞

一〇六 清信女王法□爲禾造像記 關表下下二 大村四〇 繆目三 劉

錄九……賓陽洞

一〇七 王明月造像記 關表上三 王目 繆目二 吳錄六 吳目九

……古陽洞

一〇八 王毛妻劉氏造像記 關表下下元……石牛溪

一〇九 清信士佛弟子王陽造像記 劉錄四……古陽洞

一〇〇 王洛林等造像記 關表上三 繆目二……火燒洞

一〇一 弟子王利貞造像記 關表下下六 吳錄九……古陽洞

一〇五 河南府兵曹參軍王良輔造釋迦牟尼像記

補正三……九六

一〇五 河南府兵曹參軍王良輔妻韋氏造藥師像記

補正三……九七

一〇五 王鹿琬造像記

關表下下六 繆目三……敬善寺洞

一〇五 王祿苑題名

關表下下七……敬善寺洞

一〇五 王慶造菩薩記

關表下下五 繆目三 劉錄五……蓮華洞四七

一〇五 清信弟子王□造像記

補正三……九七

一〇五 王清信造像記

關表下下四 趙錄二 楊錄二……(敬善寺洞)(火燒洞)空

一〇五 王石二人造像記

關表上六……古陽洞

一〇六 弟子王□見陶永興造像記

繆目三

一〇六 王□壽造像記

關表下下八……敬善寺洞

一〇六 比丘尼王□造像記

劉錄五……賓陽洞

一〇六 伊闕縣河晏鄉清信女王氏造阿彌陀像并二菩薩記

補正三 關表上三 劉錄九……蓮華洞五三

一〇六 清信女王氏造像記

關表下下三 沙晚三〇 劉錄六……破洞四

一〇六 清信女王氏爲亡父造像記

關表下下九……敬善寺洞

一〇六 何早妻王氏造藥王阿彌陀像記

……魏字洞四二

一〇七 安石妻王氏造像記

關表下下七……敬善寺洞

一〇六 雍州登□府校尉汪識爲七代父母造像記

……劉錄二

……賓陽洞

一〇六 恩惠妙懺題名

關表下下七……敬善寺洞

一〇七 溫靈慈造像記

補正七 關表上四 王目 繆目二 吳錄六

吳目九 劉錄五……古陽洞空

龍門石刻錄目錄

一〇七 清信女可敦造阿彌陀像記

補正三 關表下下三 孫錄二

一〇七 何万安造像記

姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……老龍洞五三

一〇七 弟子迦卜仁登爲父母造像記

補正三 關表下下四 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞

一〇七 歌扇造像記

補正三 關表下下二 劉錄六……雙洞九八

一〇七 夏義思造彌陀像記

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六

一〇七 夏侯迺洛等題記

吳目九 常錄 調表

一〇七 夏侯叔造像記

補正三 關表下下七 沙晚一六五 繆目四 吳錄九

一〇七 賈市題名

吳目九 劉錄四……古陽洞七〇

一〇七 賈仁智造像記

關表下下三……老龍洞

一〇八 賈先舉貝元小南造像記

繆目二

一〇八 汴州賈本造像記

關表下下四 吳錄九 劉錄九……(萬佛洞)(老龍洞附近)三七

一〇八 賈明元邑師惠壽靈成造像記

關表上二 繆目二 劉錄四

一〇八 賈命天造像記

……古陽洞

一〇八 清信女賈氏造七佛地藏菩薩記

關表上三……魏字洞

一〇八 賀族祀造像記

目三 吳錄七 吳目九 劉錄二……(獅子洞)(老龍洞附近)五A

一〇八 佛弟子果洛本造像記

關表下下三 繆目三……敬善寺洞

一〇八 解端造像記

關表下下二 繆目四……賓陽洞

一〇八 海蕙題記

繆目二

一〇九 絳州人懷智造像記

補正三 繆目三 劉錄九……老龍

洞附近B類

一〇九 艾祚爲亡弟阿貴造七尊像記

繆目二

一一〇 太子通事舍人郝□造阿彌陀像記

關表下下三 沙晚

一一一 劉錄九……老龍洞附近

一一二 赫連義造像記

關表上三……魏字洞

一一三 郭阿九男醜漢造像記

關表下下六 劉錄五……老龍洞附近

一一四 郭安清等造像記

關表上二……古陽洞

一一五 郭起造像記

繆目三

一一六 郭九娘造佛記

補正三 關表下下七 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄六……石牛溪

一一七 郭宏富造像記

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳

目九 常錄 調表

一一八 郭少成造像記

關表下下七……敬善寺洞

一一九 郭紹仙造像記

關表上二 繆目二 劉錄五……古陽洞

一二〇 石作郭令起張珂造菩薩記

左行 關表下下六 繆目三

劉錄六……萬佛洞

一二一 郭娘造觀世音像記

吳目九

一二二 郭文雅題記

關表下下三 繆目三 吳錄九 吳目三 劉

錄六二五……破洞

一二三 郭阿□等造像記

繆目三 劉錄六……雙洞

一二四 郭□□爲父母合家造像記

關表下下二 劉錄六……雙洞附近

一二五 郢州司□郭造像記

關表下下五……藥方洞

一二六 清信郭氏造像記

關表下下四……古陽洞

一二七 晉州襄陵縣靈元裕造佛菩薩記

關表下下三 沙晚

劉錄三……老龍洞

一二八 岳一吾加刻題名

劉錄六……老龍洞

一二九 弟子岳□元爲父母造像記

劉錄五……老龍洞

一三〇 前定胡縣□葛善達造像記

繆目三

一三一 韓曳雲司徒端等造優填王像記

補正三 關表下下二 大

村吳〇 沙晚一三 汪錄六 楊圖三 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄三七……老龍

洞前崖高處三六

一三二 韓孝中造像記

關表下下五……藥方洞

一三三 韓思遠造像記

關表下下七……古陽洞

一三四 韓照孫子法相造像記

關表下下五……藥方洞

一三五 韓婆奴造佛記

補正三 關表下下六 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……老龍洞附近

一三六 韓良宰造像記

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳

目九 常錄 調表

一三七 弟子韓□□造阿彌陀像記

劉錄五……老龍洞

一三八 清信女韓氏造像記

關表下下二 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 吳錄九 常錄 調表……賓陽洞

一三九 甘大娘造觀世音地藏菩薩記

補正三 關表上二七 沙晚

三九 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 劉錄

二……獅子洞一六

一四〇 甘達造像記

劉錄五……老龍洞

一四一 甘佛仁造像記

關表下下〇 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄五……老龍洞附近

一四二 比丘尼鑑思造像記

繆目三

一四三 管□□造觀音像記

繆目三

一四四 岸法師造像記

關表下下七……敬善寺洞

一四五 弟子岩靜爲母造像記

劉錄五……老龍洞

一四六 巖大娘造像記

關表下下六 繆目三 吳錄九……敬善寺洞

二三七 都督祁廻□供養記 關表上三 沙晚一四二 繆目二 吳錄六

吳目九 劉錄五……老龍洞附近一〇三

二三六 鄰五娘造像記 補正三 關表下下五 吳錄九 吳目九 劉錄六

……萬佛洞一五

二三五 鄰五娘造像記 關表下下五……萬佛洞

二三〇 義味造菩薩記 關表下下四 繆目三 劉錄六……奉先寺洞附近

吳八

二三三 魏懷靜己心造像記 劉錄五……古陽洞

二三三 河南令魏雙市造像記 關表上二 繆目二 吳錄六 吳目九

調表……古陽洞

二三三 魏大娘造佛記 關表下下九 沙晚一四〇 吳錄九 吳目九 劉錄五

……老龍洞附近三

二三四 邑主魏桃樹等造像記 關表上二 繆目二 吳錄六 吳目九

調表……古陽洞

二三五 魏二造石像記郭娘造觀世音記□娘造觀世音記

補正三 吳目九 劉錄九……九三

二三六 魏靈藏薛法紹等造釋迦像記 萃編六 補正三

關表上二 大村一五四 佛蹟三〇七 沙晚一六五 畢記一 錢目一 孫錄二 姚目二

縣志五 洪記二 一跋三 楊錄二 楊圖三 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳

目九 方筆 調表 石言三 羅錄……古陽洞六八

二三七 魏□仙造像記 補正七 關表上五 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞七八

二三六 魏□□造觀音像記 關表上六 繆目二 吳錄六 吳目九

……古陽洞七四

二三九 魏三娘造像記 繆目四 吳錄九 吳目九

二四〇 吉婆造像記 關表下下三 繆目三 劉錄六……第十四洞吳

龍門石刻錄目錄

二四二 九九思造像記 關表下下四 劉錄五……蓮華洞

二四三 □九師造像記 關表下下五……敬善寺洞

二四三 景福寺比丘尼九娘造阿彌陀觀音地藏記 補正三

繆目三 吳目九 劉錄六……雙洞一六

二四四 仇懷造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六

吳目九 常錄 調表

二四五 仇保錦等造像記 關表上三……古陽洞

二四六 清信女休造像記 王目 劉錄四……古陽洞五

二四七 清信女宮氏造阿彌陀像記 補正三 關表下上〇 沙晚

一四九 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目三 吳錄九 吳目九 常

錄 調表 劉錄一〇……老龍洞元一

二四八 牛仁簡造像記 關表下下六 劉錄五……老龍洞附近

二四九 許阿難造像記 關表下下五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目三 吳錄六九 吳目九 常錄 調表 劉錄六……藥方洞五二

二五〇 許慶三造像記 劉錄六……石牛溪

二五一 許三娘造像記 繆目三

二五二 佛弟子許埴之爲師僧父母等造像記 劉錄三……古陽

洞

二五三 許仁信造佛記 關表下下七 吳錄六 吳目九……石牛溪四〇

二五四 魚洋等七人題記 補正三……六九

二五五 路州佛弟子京定番造像記 吳錄六 吳目九

二五六 姜智度及女造像記 關表下下二……賓陽洞

二五七 密縣姜萬慈造像記 補正三 繆目四 劉錄六……擂鼓臺九六

二五八 曲大隱造像記 關表下下五 劉錄六……雙洞

二五九 金品見大娘等造業道像記 關表下下五……藥方洞五

四一五

二六〇 金文軌妻甄氏造像記

補正三 關表下下三 繆目四 吳錄九

吳目九 劉錄五……賓陽洞壑

二六一 金□造像記

關表下下四……描鼓臺

二六二 僧華會造像記

關表下下四〇

二六三 邢自省造佛記

關表下下三 劉錄六……石牛溪四三

二六四 荊州師造像記

關表下下九 繆目三 劉錄四……敬善寺洞

二六五 荊小攸造像記

補正三 關表下下元 吳錄六 吳目九……古陽

洞六三

二六六 奚四娘爲兒造像記

吳錄九 劉錄六……藥方洞

二六七 奚道奴爲亡妹造像記

繆目二 關表上二五下元……(古陽洞)

(石牛溪)

二六八 清信士爰莫苟仁造像記

關表上四 孫錄二 姚目三 縣志

禿

二六九 景智造像記

楊錄二 繆目四 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞七九

二七〇 繆阿題記

劉錄二……古陽洞

二七一 騫思歸造像記

補正三 劉錄九……古陽洞九

二七二 邑子元惠肥造像記

劉錄四……古陽洞

二七三 元遜造像記

關表下下八 吳錄九……敬善寺洞

二七四 弟子元洪略等題榜三十一條

關表上……古陽洞八五

二七五 清信女元黑造像記

王目 繆目二

二七六 元趙題記

關表下下三 吳目九 劉錄六……破洞五九

二七七 清信女元八星等造像記

劉錄五……古陽洞

二七八 元法護等題記

繆目二

二七九 陽信令元□造釋迦像記

補正三 關表下下四 沙晚二四九

趙錄二 繆目三 吳錄九 吳目九……破洞四四

二八〇 玄隱造像記

關表下下七……敬善寺洞

二八一 福先寺僧玄政造像記

關表下下四……火燒洞

二八二 嚴景明等造像記

補正三 關表下下六 吳錄六 吳目九

劉錄四……古陽洞九七

二八三 清信女嚴三娘造像記

補正三 關表下下四 吳錄九 吳目九

劉錄五……路洞七〇

二八四 嚴雙珍尹文和造像記

關表上二 趙錄二 王目 吳錄六

吳目九……古陽洞

二八五 嚴大娘報佛慈恩造佛像記

劉錄五……老龍洞

二八六 嚴大娘爲報公婆恩造像記

劉錄七

二八七 比丘去心造觀世音像記

劉錄五……古陽洞

二八八 顧賢造彌陀像記

繆目三

二八九 顧忠□造觀音菩薩像記

劉錄九……石牛溪

二九〇 胡機造像記

關表下下〇 劉錄九……敬善寺洞附近

二九一 胡小計題記

關表下下三……敬善寺洞

二九二 胡信造像記

關表下下五……敬善寺洞

二九三 胡僧雜樹造像記

補正三 劉錄九……描鼓臺六四

二九四 弟子胡德靜安世藏等造像記

繆目三

二九五 枯胡音造觀音菩薩記

劉錄四……敬善寺洞五

二九六 作六娘造像記

關表下下七 吳錄六 劉錄六……石牛溪四三

二九七 橫野將軍吳安造像記

補正三 沙晚二六一 孫錄二 姚目三

縣志禿 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六二

二九八 弟子吳嘉祖造像記

劉錄五……古陽洞

二九九 吳行軌造像記

關表下下三 沙晚二四七 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄三……龍老洞二九

- 一三〇 吳行淳造像記 關表下下六 吳錄九 吳目九……敬善寺洞
- 一三一 吳光庭造像記 關表下下六 吳錄六 吳目九 劉錄五……老龍洞附近
- 一三二 佛弟子吳善胤造阿彌陀像記 補正三 關表下下三 沙晚
一三五 繆目三 吳錄六 吳目九 劉錄六……唐字洞四二
- 一三三 清信女吳文妃造釋迦像記 王目 劉錄五……古陽洞
- 一三四 吳洛□造釋迦像記 補正七 關表上三 沙晚二七九 孫錄二
姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六四
- 一三五 清信女吳氏造像記 吳錄六 吳目九
- 一三六 □□江德奴等三十餘人造像記 劉錄七
- 一三七 公孫意造像記 關表下下元……古陽洞
- 一三八 孔文昌造像記 補正三 關表下下三 孫錄二 姚目三 縣志五
楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……(古陽洞)(老龍洞三四)
- 一三九 庚四娘造像記 劉錄五……老龍洞
- 一四〇 □□人康□□造觀音勢至菩薩記 關表下下四 劉錄九
……路洞六〇
- 一三一 侯景暉造像記 繆目二
- 一三二 侯元貞造像記 關表下下五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
繆目三 吳錄九 常錄 調表……石牛溪
- 一三三 侯大明造像記 關表下下六 吳錄九 劉錄六……(敬善寺洞)(萬佛洞)
- 一三四 侯李五造觀音像記 補正三 關表下下七 沙晚二八〇 孫錄三
姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……(萬佛洞)
- (獅子洞)一四五
- 一三五 侯□造二菩薩記 補正三……九八
- 一三六 比丘洪通造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六
吳目九 常錄 劉錄五……古陽洞
- 一三七 洪□陰爲宋尼師等造像記 劉錄八……賓陽洞
- 一三八 黃□□造佛記 關表下下三……敬善寺洞
- 一三九 高監造像記 關表下下二 劉錄五……賓陽洞
- 一四〇 高義基□慶造救苦觀世音菩薩像記 補正三……九四
- 一三一 佛弟子高最忠造像記 關表下下〇……老龍洞附近九
- 一三三 佛弟子高士茂造像記 劉錄五……老龍洞
- 一三三 高思歸造像記 補正三 關表下下三 吳錄九 吳目九……老
龍洞五
- 一三四 千牛高思儉造救苦觀音像記 補正三 關表下下三四 沙
晚一四六 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄二……老龍洞三三
- 一三五 高守貞造像記 關表下下元 繆目三……石牛溪
- 一三六 高仁德造像記 關表下下六 繆目三 劉錄六……石牛溪
- 一三七 高善達造阿彌陀佛記 補正三 關表下下四 吳錄九 吳目九
劉錄六……萬佛洞一元
- 一三八 石州定胡縣高善達爲父母造佛像記 劉錄五……老龍洞
- 一三九 高大娘造像記 關表下下七 繆目三 劉錄六……石牛溪四〇
- 一四〇 高大娘爲姪子造像記 關表下下六……敬善寺洞
- 一三一 前御史高智及妻男等造像記 關表下下五……敬善寺洞
- 一三三 監高智惠等造像記 關表下下一 劉錄九……賓陽洞
- 一三三 高二娘爲合家造像記 關表下下五……敬善寺洞
- 一三四 高二娘爲亡弟造像記 關表下下五……敬善寺洞
- 一三五 高二娘造像記 關表下下七 吳錄九……敬善寺洞
- 一三六 高婆造像記 關表下下三……唐字洞
- 一三七 阿□馬郎高法珍造像記 繆目二
- 一三八 高法曜造像記 關表下下七……古陽洞
- 一三九 高名立造像記 關表下下四……古陽洞

- 一三四〇 高唯念造像記 關表下下三 吳錄三九 劉錄五……賓陽洞
- 一三四一 高□山造像記 關表下下完……古陽洞
- 一三四二 御史高氏等題記 ……敬善寺洞六
- 一三四三 魏北海王太妃高氏造像記 補正三 關表上二〇 沙畹一五九
- 汪錄六 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言 劉錄三七……古陽洞六〇
- 一三四四 清信女高氏造阿彌陀像記 補正三 關表下下三 沙畹一四
- 杏 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞三〇
- 一三四五 清信女高氏造像記 關表下下三……唐字洞
- 一三四六 右□□成并妻高氏造像記 繆目四
- 一三四七 弟子黃□造像記 繆目三
- 一三四八 皇甫三娘造像記 關表下下二 大村七二 繆目四 劉錄六……雙洞
- 一三四九 皇甫文剛并妻造優填王像記 補正三 關表下下五 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞天
- 一三五〇 營繕□□丞冠造像記 關表下下十……敬善寺洞
- 一三五二 □彥才爲亡妻耿氏造像記 關表下下四……路洞
- 一三五三 黑瓮生兄弟造像記 補正七 關表上一 王目 繆目二 吳目九 調表 劉錄四……古陽洞七六
- 一三五三 黑瓮生造像記 補正七 關表上一 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目九 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄……古陽洞七〇七
- 一三五四 今遊祖造像二種 關表上一四下下三 趙錄二 王目 繆目二 吳錄九 常錄……古陽洞
- 一三五五 左采爲亡人金尙公造像記 關表下下五……唐字洞
- 一三五六 左神基造像記 關表下下三……老龍洞
- 一三五七 左中孚造龍門阿彌陀像龕記 補正三 關表下下六 沙畹一四四 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄九……老龍洞附近三
- 一三五八 朝議大夫守潁州刺史采宣明題記 關表下下七 沙畹三〇 繆目三 劉錄九……敬善寺洞六
- 一三五九 佛弟子崔圓造像記 繆目四
- 一三六〇 崔久約爲父母造像記 繆目三
- 一三六一 崔久□造觀音像記 繆目三
- 一三六二 崔顯造像記 關表上一 王目 吳錄六 吳目九 劉錄四……古陽洞七六
- 一三六三 崔元忘造像記 關表下下六 吳錄七 吳目九……石牛溪四七
- 一三六四 崔玄表妻郭氏造觀音菩薩記 關表下下二 沙畹一四一 吳目九 劉錄六……獅子洞二〇
- 一三五五 晉州襄陵縣崔之裕爲父母造像記 繆目三
- 一三六六 崔正泰造像記 繆目三
- 一三六七 崔貞造像記 關表下下三 繆目三……老龍洞
- 一三六八 許州□□縣崔武□造像記 吳錄九
- 一三六九 清信女崔文君造像記 關表下下二 沙畹一三七 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽南洞一〇四
- 一三七〇 崔□泌造像記 關表下下二 繆目三 吳錄九……敬善寺洞
- 一三七二 崔□造像記 關表下下四……老龍洞
- 一三七三 清信女蔡意娘造觀音菩薩記 補正三 關表下下六 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄九……敬善寺洞五
- 一三七三 前河南尹蔡居厚題名 孫錄八 姚目三 縣志五 楊錄五 吳錄三 吳目九 常錄
- 一三七四 祭慶及妻劉氏造像記 關表下下二……賓陽洞
- 一三七五 蔡宏節造菩薩像記 補正三 關表下下完 吳錄六 吳目九

……古陽洞六五

二三六 □將軍蔡□恩男光熒造像記

繆目二

二三七 索惠命造菩薩記

關表下下三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

吳錄充 吳目九 常錄 調表……老龍洞七

二三八 索靜妻造像記

關表下下七……敬善寺洞

二三九 薩孤弘檀造像記

關表下下九 沙晚三四 繆目三 吳錄九 吳

目九 劉錄四……敬善寺洞六

二四〇 史雲□等造像記

關表上三……古陽洞

二四一 史敬博妻張氏造像記

關表下下四 繆目二 吳錄九……敬

善寺洞

二四二 史玄景造像記

關表下下九 繆目三 劉錄五……(敬善寺洞)

(老龍洞)

二四三 史三娘造像記

關表下下三 吳錄九……老龍洞

二四四 三原縣史毛等劉婆等造像記

補正三 關表下下二 沙晚

二四〇 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……獅子洞三

二四五 清信士佛弟子史□□造觀音菩薩像記

劉錄六……破

洞

二四六 □州□丘縣令史造像記

關表下下九 吳錄九……敬善寺洞

二四七 清信女史氏爲見存夫造像記

關表下下二……老龍洞

二四八 司徒珍等題榜百二十二條

補正三 關表上六 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 王目 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四

……古陽洞三

二四九 司馬旦等題名

關表下下四 沙晚二七 孫錄二 姚目三 縣志

五 楊錄二 繆目九 吳錄九 吳目九 常錄 調表……古陽洞七

二五〇 支祚造像記

關表上三 劉錄三……古陽洞

二五一 使胡子造觀音菩薩像記

關表下下六 吳錄九……敬善寺洞

龍門石刻錄目錄

二五三 使婆羅造像記

關表下下三 沙晚二四 孫錄二 姚目三 縣志

五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……老龍洞三

二五三 邑主朱安成造像記

關表上二五 劉錄四……古陽洞

二五四 朱係像題記

關表上三……石牛溪

二五五 朱義造觀世音像記

補正三 關表下下七 孫錄三 姚目三

縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄九 吳目九 常錄 調表……古陽洞六

二五六 弟子朱九娘爲身亡造觀世音菩薩像記

劉錄六……石

牛溪

二五七 朱顯愚造石窟彌勒像記

關表上三 趙錄二 楊錄二 王目

繆目三 吳目九 劉錄六……石牛溪三

二五八 朱信儉造像記

劉錄六……石牛溪

二五九 朱大娘爲平安造安還道像記

劉錄一……老龍洞

二六〇 朱武政劉要娘採蓮馮玄訓造像記

補正三 關表下下八

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞七

二六一 朱武政妻郝氏造像記

關表下下八……敬善寺洞

二六二 朱伏生造像記

關表上四 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞七

二六三 朱忘愁造像記

關表上二〇 繆目四 吳錄六 吳目九 劉錄五

……古陽洞

二六四 朱名造業師像記

關表下下三……敬善寺洞

二六五 母朱氏造像記

關表下下四……賓陽洞

二六六 時頡造佛記

關表下下九 吳錄六 吳目九 劉錄五……老龍洞

附近裔

二六七 比丘時聰造像記

……藥方洞五B

二六八 僧慈藏造觀世音釋迦像記

關表下下二……敬善寺洞

二六九 司平少官息爾朱昌造像記

補正三 關表下下九 繆目三 吳

錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞六

四一九

- 一三〇 竺榮□造像記 關表上三……古陽洞
- 一三一 比丘尼七誓造地藏菩薩像記 關表下下六……敬善寺洞
- 一三二 比丘尼七誓造觀音藥師像記 關表下下六……敬善寺洞
- 一三三 車万全造像記 補正三 關表下下七……古陽洞九
- 一三四 謝貴造像記 關表下下〇……敬善寺洞
- 一三五 岐山縣武都鄉寂仁師造佛菩薩像記 補正三 吳錄九 吳目九……敬善寺洞
- 一三六 清信女寂造觀音記 ……敬善寺洞
- 一三七 尼脩行等造像記 關表下下三 劉錄六……唐字洞五〇
- 一三八 佛弟子壽□造釋迦像記 補正七 沙晚一六九……古陽洞六八
- 一三九 大梁、壽張孫造救苦觀音記 ……敬善寺洞
- 一四〇 清信女周阿兄造像記 繆目二 吳錄六 吳目九
- 一四一 下方騎官周惠壽造像記 繆目四
- 一四二 周行立妻聶氏男思恭造阿彌陀像記 補正三 關表下下六 沙晚三六 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……石牛溪三九
- 一四三 周之吳造像記 關表上三……老龍洞
- 一四四 周子龍造像記 關表上三 王目 繆目二 吳錄六 吳目九
- 一四五 周智果造像記 關表下下二 劉錄五……賓陽洞
- 一四六 清信女周婆造像記 關表下下三 吳錄九……石牛溪
- 一四七 周有意造救苦觀音菩薩記 關表下下三 沙晚一四七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……老龍洞三五
- 一四八 周力遂造像記 關表上〇……敬善寺洞
- 一四九 清信女周□智造像記 關表上五 吳錄九……古陽洞
- 一五〇 清信女周氏爲亡父母造像記 趙錄二 繆目四
- 一五一 清信子祝嬰造像記 關表上三……古陽洞
- 一五二 祝懷題名 劉錄三……古陽洞
- 一五三 祝三兒造業道佛記 補正三 關表下下三 吳錄九……老龍洞三八
- 一五四 清信女僕造像記 繆目三
- 一五五 河南縣淳于知道造阿彌陀佛記 補正三 關表下下六 沙晚三五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄三……(四小洞)(萬佛洞)一五
- 一五六 徐乞德供養記 補正三 關表下下五 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞
- 一五七 徐師杜造像記 關表下下四 繆目三 吳錄九 劉錄六……(古陽洞)(藥方洞)
- 一五八 清信女徐氏造像記 補正三 吳目九……五九
- 一五九 清信士紆濟海爲失脚造釋迦像記 劉錄四……古陽洞
- 一六〇 蔣妃造像記 繆目二
- 一六一 小光淨如造觀音記 關表下下四 楊錄四 趙目四 劉錄九……(萬佛洞)(獅子洞)一六
- 一六二 雍州司士男小嚮造像記 補正三……九七
- 一六三 小李題名 關表下下四……古陽洞
- 一六四 □□監丞尙□閻造像記 關表下下四 繆目三 劉錄六……唐子洞五〇
- 一六五 尙少供養佛記 ……古陽洞六一
- 一六六 尙女造像記 關表下下四 吳錄六 吳目九……古陽洞
- 一六七 比丘尼政勲等造像記 補正三 劉錄五……老龍洞附近六
- 一六八 上官英俊史元景造像記 補正三 關表下下元 繆目三……敬善寺洞五三
- 一六九 清信女常三娘爲媚媚醜醜造像記 繆目三

- 一三五〇 常紫敬造像記 關表上二二六……古陽洞
- 一三五二 常大娘造像記 關表下下五 劉錄二〇……蓮華洞
- 一三五三 常文才女舍利造阿彌陀像記 補正三 關表下下五 繆目三
吳錄九 吳目九 劉錄四六……敬善寺洞矣
- 一三五三 清信女常氏爲亡母造像記 繆目三
- 一三五四 景福寺尼淨命造優填王像記 關表下下三 繆目三 吳錄九
吳目九 劉錄六……唐字洞四〇
- 一三五五 比丘尼淨命等造像記 關表下下三 繆目三 劉錄六……唐字洞五九
- 一三五五 比丘尼靜山造像記 劉錄五……賓陽洞
- 一三五七 北魏比丘靜度造釋迦觀音像記 關圖四 關表上二〇 大村三〇
沙晚二五〇六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄
調表 石言……蓮華洞三五
- 一三五八 比丘靜□造像記 ……藥方洞右壁五〇〇
- 一三五九 尼貞容造觀世音像記 劉錄六……萬佛洞
- 一三六〇 郇王阿嬭造像記 關表下下二 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄五
……賓陽洞三
- 一三六一 岐州扶風縣辛氏造像記 關表下下六……藥方洞
- 一三六二 秦三娘造像記 補正三 關表下下五 劉錄四……古陽洞七九
- 一三六三 神禎造像記 關表下下五……敬善寺洞
- 一三六四 眞感造像記 關表下下三……敬善寺洞
- 一三六五 清信女眞行衆勝姊妹造像記 關表下下三 趙錄四 楊錄四
……老龍洞
- 一三六六 眞如藏造像記 關表下下六……石牛溪
- 一三七七 慎名造像記 關表下下七……敬善寺洞
- 一三六八 深解造地藏菩薩記 補正三 關表下下四 沙晚二七七 劉錄六
……(萬佛洞)(獅子洞)(兜)
- 龍門石刻錄目錄
- 一三六九 仁爽惠覽造像記 關表下下五 繆目三……敬善寺洞
- 一三七〇 世善造像記 關表上九 吳目九……魏字洞前壁五七
- 一三七二 成師□造像記 關表下下四 劉錄三……老龍洞
- 一三七三 成大娘造救苦菩薩業道像記 關表下下三 吳錄九 繆目三
劉錄三……老龍洞三〇
- 一三七三 夫制益妻文素題記 關表下下三 劉錄三……魏字洞五七
- 一三七四 靖空眞晤供養記 關表下下五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二
繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……萬佛洞二五
- 一三七五 整法師龍門石龕像記 波崙撰 袁元拆書 金石六
- 一三七六 石行果妻王氏造救苦觀音記 補正三 關表上二七下下三
沙晚二五〇四 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六二〇……唐字洞四八五
- 一三七七 石士則造像記 關表下下四……蓮華洞
- 一三七八 石四娘造像記 關表下下四 劉錄六……擂鼓臺
- 一三七九 石紹雅爲亡兄士則造像記 劉錄五……蓮華洞
- 一三八〇 席景暢造像記 關表上二四……古陽洞
- 一三八一 席婆造像記 關表下下四 繆目三 劉錄五……路洞
- 一三八二 赤虎奴造像記 關表上三 劉錄五……古陽洞
- 一三八三 薛高二人造像記 關表下下三 劉錄五……賓陽洞
- 一三八四 薛妙德題記 關表下下七……敬善寺洞
- 一三八五 薛□造像記 關表下下三 繆目三……老龍洞
- 一三八六 泉常安造像記 劉錄五……古陽洞
- 一三八七 宣德造像記 關表下下八……敬善寺洞
- 一三八八 佛弟子□□軍保陽右□督陝璫□爲父母造像記
劉錄六……石牛溪
- 一三八九 善虎威造像記 關表上三……古陽洞

一三九〇 永耀寺主善相供養記 補正三 沙畹一七 劉錄九……獅子

洞冥

一三九一 僧善寂造像記 關表下下四 王目 繆目三 劉錄六……奉先寺

附近

一三九二 蘇光□造像記 關表下下三……敬善寺洞

一三九三 蘇孃□造像記 關表上三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞

一三九四 弟子蘇仁造像記 關表下下五……敬善寺洞

一三九五 弟子蘇世延爲亡父現存母造像記 繆目三

一三九六 蘇大娘造像記 關表下下六……敬善寺洞

一三九七 蘇中遷造釋迦像記 補正七 關表上三 劉錄五……蓮華洞左

壁六

一三九八 素盧造像記 關表下下元……敬善寺洞

一三九九 宋九娘造觀世音菩薩記 補正三 關表下上六 繆目三

吳錄九……石牛溪空

一四〇〇 宋玄楚爲合家造救苦觀世音菩薩像記 繆目三

一四〇一 雍州乾封縣宋行端造像記 關表下下五……敬善寺洞

一四〇二 雍州□陽縣宋思惠造佛記 關表下上〇 大村五八 繆目三

……雙洞三六

一四〇三 鄒家宋嬾造像記 繆目四

一四〇四 宋壽□造藥師像記 繆目三

一四〇五 宋藥□姊妹二人造像記 ……藥方洞五

一四〇六 清信女宋氏造阿彌陀像記 關表下下二 沙畹一九一 劉錄

三……老龍洞二五

一四〇七 清信女宋氏造像記 關表下下九 劉錄四……敬善寺洞

一四〇八 宋榮茂鞏□洛造像記 繆目二

一四〇九 邑子宗續祖等題榜十四條 沙畹一九三 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 王目 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞八

一四一〇 洛陽丞宗造像記 關表下下四……唐字洞

一四一一 曹玄藏造釋迦像記 繆目三

一四一二 曹德造像記 關表下下三……唐字洞

一四一三 右驍衛郡曹□敏並妻造救苦觀音像記 劉錄四……敬

善寺洞

一四一四 清信女曹氏造像記 吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽洞

一四一五 佛弟子相里婆造阿彌陀佛記 補正三……六

一四一六 皂天妻造佛記 關表下下二……雙洞三〇

一四一七 比丘僧癸田道義妻田元顯造像記 關表上三 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……蓮華洞四

元

一四一八 清信士郎僧喜造像記 劉錄六……破洞

一四一九 比丘尼僧暉造釋迦多寶像記 補正三 關圖三 關表上六

大村頁 沙畹二六九 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六

吳目九 常錄 調表……古陽洞六一

一四二〇 僧敬造像記 補正三……老龍洞三一

一四二一 僧祐造二千佛像記 繆目三

一四二二 比丘僧紹合邑造釋迦像記 關表上三 劉錄六……火燒洞七九

一四二三 比丘僧曠造彌勒像記 關表上二 王目 繆目二 吳錄六

吳目九……古陽洞

一四二四 比丘僧仁等造優填王像記 補正三 大村五〇 孫錄三 王目

繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄〇……萬佛洞一八

一四二五 尼僧道道安法等造像記 補正七 關表上五 沙晚(望五)

趙錄二 楊錄 楊圖三 王目 繆目二 方筆 調表 石言……古陽洞六九

一四二六 比丘僧念造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳目九 常錄 調表 劉錄五……蓮華洞

一四二七 僧祀造像記 關表下下四……路洞

一四二八 比丘尼僧彌爲師俗造像記 繆目二 補正七 關表上四 大村二六

一四二九 僧力僧恭造無量壽像記 沙晚二七 孫錄二 姚目三 縣志五 趙錄二 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六

吳目九 常錄 調表……古陽洞六五

一四三〇 比丘尼僧容造像記 關表上三……火燒洞

一四三一 比丘僧隆隆爲亡父母兄弟姊妹造像記 繆目三

一四三二 孫阿達題記 關表下下元……石牛溪

一四三三 清信女孫英仁造像記 補正三 關表下下二 沙晚二四五 繆目三

吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞三二

一四三四 □主孫映族等題名 關表上六 王目 劉錄九……路邊

一四三五 孫何義二人造像記 關表下下八 吳錄九 劉錄五……老龍洞

附近

一四三六 清信女孫華□造像記 沙晚二四五……老龍洞一〇三

一四三七 南王孫客生等題榜八十二條 關表上七 繆目二 王目

……古陽洞三三

一四三八 鞏縣孫元嗣造像記 關表下下六 吳錄九 吳目九……石牛

溪

一四三九 孫師滿造像記 關表下下四……敬善寺洞

一四四〇 孫處德造像記 補正三 關表下下六 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄四……敬善寺洞去

一四四一 孫大娘爲亡夫張造像記 關表下下元……古陽洞

龍門石刻錄目錄

一四四二 邑子孫長山造像記 關表上四 吳錄六 吳目九 劉錄八……

路洞

一四四三 清信孫法力造像記 關表上二 王目 繆目四 吳錄六 吳目九

一四四四 趙州元氏縣孫□貞造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊

錄二 常錄

一四四五 清信女孫氏造像記 關表下下三 劉錄三……老龍洞三三

一四四六 爲男大亮入遼造像記 關表下下四……唐字洞

一四四七 僧待貢造觀音菩薩記 關表下下〇 沙晚三三三 繆目三 劉錄

六……雙洞一〇七

一四四八 佛弟子魁□造像記 劉錄五……老龍洞

一四四九 澤大娘造佛供養記 補正三 關表下下二 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄六……雙洞三二

一四五〇 潼川譚行義題記 沙晚二六一 劉錄五九……賓陽洞六

一四五二 譚二娘爲父造像記 關表下下六……敬善寺洞

一四五三 邑主段惠達造像記 繆目二 劉錄四……古陽洞

一四五三 段貞等造像記 關表下下五 劉錄五……老龍洞附近

一四五四 段扶考造石像記 關表下上〇 繆目三 吳錄九 吳目九 劉

錄五……老龍洞附近矣

一四五五 段六娘造彌陀佛記 補正三 關表下下九 吳錄九 吳目九

劉錄五……老龍洞附近矣

一四五六 像主尼檀波羅房九娘造像記 吳錄六 吳目九

一四五七 沙門知道造像記 補正三 關表下下六 沙晚三四五 繆目三

吳錄九 吳目九 劉錄九……敬善寺洞四A

一四五八 僧知道造地藏菩薩記 補正三 關表下下四 沙晚三四四 吳錄

九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞去

一四六九 智威尼造像記 關表下三三……賓陽洞

一四七〇 沙門智運造一萬五千尊像記 補正三 關表下上七 佛蹟

一四七一 孫錄三 楊錄四 繆目三 吳錄六七 吳目九……萬佛洞(二)

一四七二 比丘僧知運造像記 關表下下六 吳錄七 吳目九……敬善寺洞

一四七三 尼智榮造像記 關表下下三……唐字洞

一四七四 尼智榮修行等造像記 關表下下三 繆目三……唐字洞

一四七五 智度造像記 關表下下七……敬善寺洞

一四七六 比丘尼智道造像記 關表下下二 沙晚(六) 孫錄二 姚目三

一四七七 縣志禿 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……賓陽南洞

一四七八 比丘尼智媚爲亡父母造像記 關表上六 繆目二 吳錄六

吳目九……古陽洞

一四七九 比丘智寶造像記 關表上三……古陽洞

一四八〇 弟子智祐造像記 繆目二

一四八一 竺榮實爲父母造像記 繆目二

一四八二 弟子仲大道爲父母造像記 劉錄五……蓮華洞

一四八三 鈕□軌造像記 關表下下九……敬善寺洞

一四八四 鈕子造像記 關表下下四……古陽洞

一四八五 長孫臍兒題記 關表下下七……敬善寺洞

一四八六 太子文學妻長孫氏造像記 關表下下九 吳目九……敬善寺洞

洞

一四八七 張阿四造像記 關表下下二 孫錄二 姚目三 縣志禿 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……敬善寺洞

一四八八 雍州鄂縣張阿僧妻呂氏造佛記 關表下下六 繆目三 吳

錄九 劉錄六……石牛溪(七)

一四七七 佛弟子張阿奴造像記 關表上六……古陽洞

一四七八 清信弟子張阿難造像記 關表下下四 繆目三 吳錄九 劉

錄四……古陽洞

一四七九 弟子張阿□造像記 關表下下三……石牛溪

一四八〇 雍州萬年張一淨造像記 大村(五) 繆目三

一四八一 佛弟子張允□爲父母等造像記 劉錄五……老龍洞

一四八二 維那伏虎都督張永貴造像記 繆目二

一四八三 蒲州人張延暉造觀世音菩薩記 關圖六 關表下上六

沙晚(四七) 吳錄九 吳目九 劉錄二……老龍洞附近(五)

一四八四 張延暉造觀世音菩薩記 劉錄五……老龍洞附近(五)

一四八五 張延芝等造像記 關表上三……路洞

一四八六 張懷意造像記 關表下下五……石牛溪

一四八七 張客生造像記 關表下下六 吳錄九 劉錄五……老龍洞附近

一四八八 張漢造像記 關表下下九 吳錄九 劉錄五……老龍洞附近

一四八九 張雁造彌陀記 ……魏字洞(五)

一四九〇 張丘造藥師像記 關表下下四 沙晚(四八) 吳錄九 吳目九

劉錄九……老龍洞附近(五)

一四九一 汴州張丘造像記 關表下下四 沙晚(四七) 吳錄九 吳目九

劉錄九……老龍洞附近(五)

一四九二 張丘造像記 關表下下四 吳錄九……萬佛洞

一四九三 張休慶題記 關表下下五 劉錄四……古陽洞

一四九四 佛弟子張卿□造阿彌陀像記 吳錄六 吳目九

一四九五 張敬造像記 關表下下三 劉錄六……雙洞

一四九六 弟子張敬惠造像記 關表下下五……蓮華洞

一四九七 張景齊造佛記 關表下下六 劉錄六……雙洞(三)

一四九 張慶惠造像記 關表上五 繆目四……古陽洞

一四九 張慶法等造像記 關表下下〇……敬善寺洞

一五〇 張慶宗造地藏菩薩記 補正三 關表下下三 沙晚二五二 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……唐字洞四六

一五〇 張元珪題記 關表下下四 調表 劉錄六……火燒洞七九

一五〇 張元聞造像記 關表下下二八 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 劉錄九……敬善寺洞

一五〇 張元禮題記 關表下下〇 繆目三 吳錄九 吳目九……敬善寺洞

一五〇 張玄節妻造像記 關表下下八 繆目三 吳錄九 劉錄四……敬善寺洞

一五〇 雍州乾封縣張胡師造像記 關表下下〇 大村五八 繆目三……敬善寺洞

一五〇 張什郎造像記 關表下下六 劉錄六……石牛溪四五

一五〇 張五口造像記 關表下下三……賓陽洞

一五〇 張特造像記 關表下下六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞七六

一五〇 張口蕃造像記 關表下下六 吳錄九……石牛溪

一五〇 張行軌造像記 關表下下三 吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞三〇

一五〇 張恒清造像記 關表下下六 劉錄六……石牛溪

一五〇 張恒和造像記 關表下下三……藥方洞

一五〇 張光胤題記 關表下下四……古陽洞

一五〇 張三娘造阿彌陀佛記 關表下下三 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……雙洞一〇

一五五 張三娘造像記 關表下下〇 劉錄五……老龍洞附近

一五五 清信女張四娘造像記 關表下下四 繆目四……賓陽洞

一五五 弟子張思景等十七人供養題名……古陽洞七六

一五五 張思哲造阿彌陀像記 關表下下七 劉錄五……古陽洞

一五五 張思口造像記 關表下下六……石牛溪

一五五 張刺史造像記 關表下下二 繆目四 吳錄九 劉錄五……賓陽洞

一五五 張師爲兄楚師造救苦觀音菩薩像記 繆目三 劉錄九……萬佛洞

一五五 張珍造像記 關表下下七……石牛溪

一五五 張七娘造釋迦牟尼佛記 太原王訓造觀世音記 補正三 關表下下四 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……(奉先寺洞)(王祥洞) 四三

一五四 清信女張女娘造阿彌陀像記 劉錄五……賓陽洞

一五四 弟子張尙斌造像記 關表下下〇……敬善寺洞

一五四 張承口造像記 補正三 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄四……古陽洞七五

一五七 張眞法李少保題名 劉錄六……(敬善寺洞)(雙洞三三)

一五七 前下邳尉張薦權爲父母造阿彌陀像記 繆目三

一五七 張迂擇造像記 關表下下九……敬善寺洞

一五七 張善惠造佛記 關表下下九 吳錄九 吳目九 劉錄五……老龍洞附近三三

一五七 張口造像記……古陽洞七五

一五七 邑主張僧口等題記……古陽洞七五

一五七 張息貞造像記 關表下下三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……藥方洞

龍門石刻錄目錄

四二五

一五四 張大溫造像記 補正三 關表下下七 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄四……敬善寺洞志

一五五 張託等造像記 關表下下三……賓陽洞

一五六 張達申造像記 劉錄五……老龍洞

一五七 張知因造像記 關表下下二……敬善寺洞

一五八 張定國造像記 關表上二五……古陽洞

一五九 張獨爲母造像記 劉錄五……古陽洞

一六〇 張乃造像記 關表上二五……古陽洞

一六一 清信張婆造像記 關表下下三 劉錄七……老龍洞

一六二 張婆造像記 關表下下七 繆目三 吳錄九 劉錄四……敬善寺洞

一六三 張婆女造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳

目九 常錄 調表……敬善寺洞

一六四 張萬壽造像記 關表下下七……敬善寺洞

一六五 張万春造像記 關表下下七……敬善寺洞

一六六 雍州萬年縣人張賓題記 補正三 關表下下七 孫錄二 姚

目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄六……萬佛洞附近

三三

一六七 張賓造像記 關表下下元……古陽洞

一六八 張普宜造像記 關表下下七……敬善寺洞

一六九 張普造像記 關表下下八 繆目三 吳錄九 劉錄四……敬善寺洞

一七〇 張封兒姚三娘高守貞唐難專造像記 繆目三

一七一 張副祖爲七世父母造像記 關表上二 繆目二……古陽洞

一七二 張文歡造像記 關表上五……古陽洞

一七三 張丙造彌勒像記 劉錄九……賓陽洞

一七四 雍州云陽縣張法海造阿彌陀像記 關表下下〇 大村五八

繆目三 劉錄六……雙洞一五

一七五 張法香造釋迦像記 補正七 關表上四 大村二四 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……

古陽洞六六

一七六 張法智造像記 劉錄五……老龍洞

一七七 張保德造釋迦像記 關表上二六……古陽洞七五

一七八 張寶子妻趙氏造像記 關表下下六……石牛溪

一七九 張妙來造像記 繆目二 劉錄三……古陽洞

一八〇 張立造像記 劉錄六……雙洞

一八一 張老造像記 關表下下三 繆目四 劉錄五……賓陽洞

一八二 趙州元氏縣張□貞造菩薩像記 關表下下〇 繆目三 吳錄九

吳目九 調表 劉錄五……老龍洞附近八

一八三 張□和造像記 關表下下〇 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……敬善寺洞

一八四 陝州□□縣張□禮造像記 關表上三……老龍洞

一八五 清信佛弟子張□□造像記 吳錄六 吳目九

一八六 張□□造觀世音菩薩像記 關表下下四……路洞

一八七 佛弟子張□造像記 關表下下四……古陽洞

一八八 洛□伊川府隊副張氏造像記 吳錄六 吳目九

一八九 佛弟子張造阿彌陀像記 補正三 關表下下九三 吳錄六

吳目九 劉錄四……敬善寺洞五

一七〇 清信張造像記 關表上二五……古陽洞

一七一 張氏造像記 關表上三……古陽洞

一七二 妻張氏造觀世音菩薩記 關表下下四 吳目九 劉錄九

……萬佛洞四

一五三 妻張氏爲亡夫鄭造像記 關表下下六 劉錄六……萬佛

洞附近

一五四 清信女張氏造阿彌陀像記 補正三 沙晚三四 關表下下五

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞元

一五五 清信女張氏造像記 關表上六……古陽洞

一五六 清信女張氏爲亡妣薛造像記 關表下下二……賓陽洞

一五七 □信女張氏造觀音像記 關表下下九……敬善寺洞

一五八 □元禮妻張氏造像記 關表下下四……路洞

一五九 □張女□造菩薩記 ……四小洞八五

一六〇 趙瓮生妾曹阿容爲養蠶造釋迦聞佛像記 關表上二

王目 繆目二

一六一 趙化爲亡父母造像記 關表上三 劉錄四……古陽洞

一六二 趙化造像記 關表上三 劉錄四……古陽洞

一六三 寧遠將軍趙果造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

吳錄六 吳目九 常錄 調表

一六四 趙懷義造像記 關表下下四 繆目三 劉錄五……路洞七六

一六五 趙懷信等造像記 關表下下九 繆目三 劉錄五……老龍洞附近

三九

一六六 趙義成造像記 關表下下六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……石牛溪

一六七 趙玉琳造像記 關表上三 繆目四 劉錄五……古陽洞

一六八 趙慶造像記 ……蓮華洞四四

一六九 趙敬福弟敬本造像記 補正三 關表下下三 沙晚四四 繆

目三 吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞三五

一七〇 趙月題記 關表下下七……石牛溪

龍門石刻錄目錄

一六一 趙元瓌造像記 關表下下三 調表……老龍洞

一六二 趙伍兒造像記 補正三 關表下下二 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄六……雙洞三四

一六三 趙行整造救苦觀世音地藏菩薩記 關表下下三 沙晚四

三 繆目三 劉錄三……老龍洞三一

一六四 趙三娘爲兒造像記 吳錄六 吳目九

一六五 趙思祖等題榜六十五條 繆目二 劉錄四……古陽洞八三

一六六 掖庭令趙振造彌勒像記 萃編三 補正七 關表上二五 大

村電 沙晚二六四 孫錄二 姚目三 縣志五 洪記二 一跋四 續跋一 楊錄二

一六七 趙善明造像記 關表下下七……敬善寺洞

一六八 趙琮造像記 繆目三

一六九 趙大娘等造像記 補正三 關表下下六 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞七五

一七〇 趙德靜造像記 關表下下八 繆目四……敬善寺洞

一七一 趙二娘造菩薩記 關表下下六三〇 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表 劉錄六……石牛溪四三

一七二 清信女趙二娘造像記 關表下下四 繆目三 吳錄九……

古陽洞

一七三 趙婆造優填王像記 關表下下三 沙晚四三 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄六……(破洞)(老龍洞)四九

一七四 趙婆造觀音記 關表下下三 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

吳錄六 常錄 劉錄六……雙洞二三

一七五 趙婆造像記 關表下下三……唐字洞

一七六 清信趙婆造像記 關表下下三……老龍洞

一七七 趙婆造像記 關表下下三……賓陽洞

四二七

一六〇八 趙菩提及妻王婆造像記 補正三 關表下下三……老龍洞三

一六〇九 趙令則等造像記 …… 四小洞三

一六一〇 趙□琛造像記 關表下下三 吳錄六 吳目九……敬善寺洞

一六一一 趙□造像記 關表下下元……石牛溪

一六一二 趙□造像記 補正三 關表下下元 孫錄二 姚目三 楊錄二

吳錄九 吳目九 常錄 劉錄四……古陽洞七三

一六三 趙氏爲娘造像記 關表下下四……賓陽洞

一六四 清信女趙氏造七佛記 補正三 關表下下二 沙晚(四) 繆目四

調表……賓陽洞五五

一六五 晁虎皮造像記 關表上三……古陽洞

一六六 沈舍裕造像記 補正三 關表下下三 沙晚(五) 吳錄九 吳

目九 劉錄六……唐字洞九

一六七 陳叡造像記 關表下下五……敬善寺洞

一六八 陳景□等造像記 關表下下元 吳錄六 吳目九……古陽洞六五

一六九 陳敬如造像記 關表下下元……石牛溪

一七〇 陳荆解造彌勒像記 補正三 關表下下四 繆目二 吳錄九

吳目九 劉錄六……(奉先寺洞)(王祥洞四九)

一七二 陳恒山造像記 補正三 關表下下六 繆目三 吳錄九 吳目九

劉錄四……敬善寺洞六

一七三 盪寇將軍陳璚造像記 關表上三 吳錄三 吳目九……石牛

溪 關表下下三……敬善寺洞

一七四 相州內黃縣陳思□造像記 關表下下五 沙晚(二) 劉錄五

……蓮華洞一〇三

一七五 陳珙造像記 …… 蓮華洞四五

一六三六 陳孺造像記 補正三 關表下下八 繆目三 吳錄九 吳目九 劉

錄四……敬善寺洞五

一六七 陳智積造琉璃光像記 關表下下六 吳錄九 劉錄九……萬佛

洞三

一六八 陳智積造藥師像記 關表下下六……萬佛洞

一六九 陳婆造像記 關表下下三 吳錄九 劉錄六……唐字洞

一七〇 陳婆孺造彌陀像記 補正三 關表下下六 吳目 吳錄九

吳目九 劉錄六……石牛溪五五

一七一 陳白隴母張氏造像記 關表下下二 沙晚(三) 吳錄九 吳目

九 劉錄九……賓陽南洞一〇六

一七二 陳八娘造像記 關表下下元……古陽洞

一七三 前陳司戶參軍造像記 繆目三

一七四 爲妻陳母□息□造像記 ……藥方洞五六

一七五 丁義造勢至菩薩記 補正三 關表下下〇 吳錄六 吳目九

劉錄六……雙洞二〇六

一七六 丁瞿曇妻王氏造像記 補正三 關表下下三 吳錄九 吳目九

劉錄三……老龍洞五

一七七 丁士貴爲過去見存等造阿彌陀像記 劉錄六……破洞

一七八 弟子丁當來爲國王及七世父母等造觀世音像記

劉錄五……賓陽洞 關表下下三……敬善寺洞

一七九 呈六娘造像記 關表下下元 劉錄五……老龍洞附近

一八〇 程爲子造像記 關表下下六 劉錄五……老龍洞

一八一 比丘尼程期造像記 劉錄五……老龍洞

一八二 佛弟子程黑退妻甘元暉脩破像記 關表上三 吳錄六

吳目九 劉錄八……路洞七

一六三 程大娘造像記 補正三……古

一六四 程无名及妻造像記 關表下下三……老龍洞

一六五 蒲州程禮造藥師佛記 左行 補正三 關表上三 沙晚二四六

吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞二四

一六六 程口藏造像記 補正三 沙晚二五六……賓陽南洞五五

一六七 郢家宋姊造像記 關表下下二 劉錄五……賓陽洞

一六八 郢公女姊造像記 補正三 關表下下二 沙晚二二二 繆目四

吳錄九 劉錄五……賓陽南洞六四

一六九 鄭英川造釋迦像記 關表上二 繆目二 吳錄六 吳目九 劉

錄五……古陽洞

一七〇 清信女鄭行衆勝姊妹造像記 補正三 繆目三 吳錄七

吳目九……老龍洞三一

一七一 鄭天意造像記 關表上二 繆目二 調表 石言 劉錄五……古

陽洞

一七二 鄭德意造像記 關表下下四 劉錄九……賓陽洞

一七三 鄭夫造像記 關表下下三 劉錄五……賓陽洞

一七四 新口鄭氏造像記 關表下下元……石牛溪

一七五 前侍中宇文郎大人鄭造觀音菩薩記 關表下下三 沙晚

一四九 繆目三 吳錄九 吳目九……老龍洞一〇三一

一七六 翟阿堆造像記 關表上三……古陽洞

一七七 翟弟子造像記 關表下下三……老龍洞

一七八 佛弟子狄仁則爲妻程氏造像記 繆目三

一七九 迪國王母口口口造彌勒像記 沙晚二五〇 劉錄六……破洞

四七

一八〇 田阿四造像記 關表下下元……石牛溪

龍門石刻錄目錄

一八一 田顯孫爲亡母亡姊造像記 關表上三 繆目二……古陽洞

一八二 清信士田元顯爲一切同造像記 劉錄五……蓮華洞

一八三 方立田弘慶造像記 關表下下三 繆目三 吳錄九……敬善

寺洞

一八四 田三娘造像記 補正三 吳錄九 吳目九……五〇

一八五 田思貞造像記 劉錄四……古陽洞

一八六 田七大妻爲自身造像記 劉錄六……雙洞

一八七 田小二造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳

目九 常錄 調表

一八八 像主田他兒妻劉氏造像記 繆目四 吳錄九

一八九 清信田婆等造業道像記 補正三 關表下下九 吳錄九 吳

目九 劉錄四……敬善寺洞

一九〇 田婆造救苦觀世音記 關表下下四……老龍洞三〇四

一九一 田普口造像記 關表下下九……敬善寺洞

一九二 田文基母李氏造阿彌陀并二菩薩記 補正三 關表下下

二 沙晚二二三 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽洞三三

一九三 清信女田男志新婦造業道像記 繆目三

一九四 雍州口口縣口田爲七代父母等造阿彌陀等像記

劉錄二……老龍洞

一九五 內謁者杜悅造像記 關表下下六……敬善寺洞

一九六 杜遠志夫妻男等造像記 劉錄六……萬佛洞

一九七 杜穩定供養記 補正三 關表下下七 繆目四 吳錄九 吳目九

劉錄三……古陽洞三二

一九八 杜元興造像記 關表下下九 吳錄九……敬善寺洞

一九九 杜十二娘爲法界衆生造像記 關表下下六 吳錄九 劉錄五

四二九

……老龍洞附近

一六〇 杜仁妻韓氏造像記

繆目三

一六一 杜靜本題記

關表下下三 繆目三 劉錄三……老龍洞三七

一六二 杜善寶妻張氏造像記

關表下下三 繆目三……唐字洞

一六三 杜大娘造觀音菩薩記

關表下下六 沙晚四九 吳錄九 劉錄六

……老龍洞附近三〇

一六四 杜直幹造像記

關表下下七……敬善寺洞

一六五 杜婆造像記

關表下下三……敬善寺洞

一六六 杜法力爲太山府君造像記

補正三 關表下下六 沙晚三五〇

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞六A

一六七 杜法力爲閻羅大王造像記

補正三 關表下下六 沙晚三五三

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞六B

一六八 杜法力爲五道將軍等造像記

補正三 關表下下六 沙晚三五二

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞六C

一六九 杜法力爲天曹地府造像記

補正三 關表下下六 沙晚三五三

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞六D

一七〇 杜法力爲阿修羅王等造南斗北辰像記

關表下下六九

沙晚三五三 繆目三……敬善寺洞六E

一七一 杜明□造像記

繆目三

一七二 清信女杜張惠志等造像記

關表下下四……賓陽洞

一七三 唐思順造像記

關表下下六……石牛溪

一七四 唐難廸題名

關表下下七……石牛溪

一七五 永昌縣人唐□興造像記

關表下下七……石牛溪

一七六 董景超題名

關表下下四〇 吳錄九……古陽洞

一七七 太常主董光復等阿彌陀像記

劉錄三

一六八 推官董才等題記

補正三……七

一六九 董僧智造彌勒像記

補正七 關表上五 大村三 沙晚二六三

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄

調表……古陽洞六

一七〇 董大醜等造像記

吳錄六 吳目九

一七一 邑子董天順造像記

劉錄五……古陽洞

一七二 董唐造像記

劉錄四……古陽洞

一七三 董壁造像記

關表下八……敬善寺洞

一七四 □州河東縣董法素造彌陀像記

關表下三 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄六……破洞四〇

一七五 河內郡野王縣董方祖造像記

關表上三 王目 繆目二

吳錄六 吳目九 劉錄七三……古陽洞

一七六 佛弟子董□志爲世界造像記

繆目三

一七七 董清信爲父母造像記

關表下下三 劉錄五……賓陽洞

一七八 董清信爲亡夫造像記

關表下下三 繆目四 吳錄九 劉錄五

……賓陽洞

一七九 湯義恩造阿彌陀像記

沙晚二四八……老龍洞附近四

一八〇 騰王和造像記

補正三 關表下下七 繆目三 吳錄九 劉錄四

……敬善寺洞三

一八一 大統寺比丘道緣造无量壽像記

關表上三 沙晚二五三

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

……蓮華洞左壁三

一八二 比丘道遠造像記

補正三 王目 繆目四……九二

一八三 道欽本造像記

關表上三 王目……古陽洞

一八四 比丘尼道顯造像記

關表上三……破洞

一八五 敬愛寺僧道護造像記

關表下下四……路洞

一七六 比丘尼道濟造像記

關表上三 沙晚二五七 孫錄二 姚

目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……蓮華洞四

一七七 比丘道匠造像六區記

補正七 關表上二 大村一五 沙晚

一七〇 趙錄二 汪錄六 王目 繆目二 方筆 調表 石言……古陽洞六一

一七八 比丘尼道成造像記

關表上三……古陽洞

一七九 比丘尼道進法明造像記

補正三 關表上三 繆目三 劉

錄六……火燒洞七九

一七〇 比丘道速造像記

關表下下四 劉錄六……播鼓臺

一七二 比丘尼道曇造像記

繆目二

一七三 尼道法宋造像記

關表上六……古陽洞

一七三 尼道要造像記

王目 劉錄四……古陽洞七四

一七四 比丘僧德藏造像記

關表下下三……敬善寺洞

一七五 父德奴母□保等造像記

王目

一七六 獨孤鳳節造像記

關表下下六……石牛溪

一七七 比丘僧曇仰等題記

關表上三 繆目三 吳錄六 吳目九……

老龍洞三五

一七六 比丘曇宗□洪智等造阿□□二菩薩記

關表上三

沙晚二五二 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 常錄

調表……蓮華洞左壁四四

一七九 曇貞爲身造像記

劉錄四

一七〇 弟子曇如題記

關表上三……古陽洞

一七二 弟子曇妙造像記

繆目二

一七三 那龍姬造像記

補正三 關表上二 趙錄二 楊錄二 繆

目二 吳錄六 吳目九 劉錄七……古陽洞九三

一七三 □如海題記

補正三……九卷

龍門石刻錄目錄

龍門石刻錄目錄

一七四 如禪師造像記

關表下下九 王目……敬善寺洞

一七五 如義造像記

關表下下四 劉錄六……敬善寺洞

一七六 任永造像記

關表下下元 劉錄四……古陽洞

一七七 梁縣人任懷□造像記

關表下下三……石牛溪

一七八 任寄生造像記

關表上二 趙目二 調表

一七九 任三娘造像記

調表下下四……古陽洞

一八〇 任尙生合大小造像記

繆目二

一八一 任成造菩薩記

關表下下三 繆目三 劉錄七……老龍洞三六

一八二 汝州梁縣任大娘造阿彌陀像記

補正三 關表下下六

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉

錄六……石牛溪三五

一八三 鄭州司功任道造像記

補正三 關表下下七 繆目三……敬

善寺洞三五

一八四 任定方造救苦觀音像記

補正三……九卷

一八五 弟子任南成爲□母□安造像記

劉錄五……老龍洞

一八六 任藥尙造像記

關表下下三 繆目三 劉錄六……藥方洞三五

一八七 莘縣人任右藏丞造觀音記

補正三 關表下下四 趙錄二

劉錄六……萬佛洞一五

一八八 清信女任王二人造像記

關表下下二 繆目三 劉錄三……老

龍洞三六

一八九 弟子任□爲身造像記

關表下下三……石牛溪

一九〇 清信女任氏造像記

關表下下九……敬善寺洞

一九一 虔州刺史長史息任造像記

關表下下五……敬善寺洞

一九二 清信女寧氏爲亡夫劉仁万等造阿彌陀像記

劉錄五……

賓陽洞

一七五三 馬永昌妻造像記

關表下下三 繆目三……唐字洞

一七五四 馬思賢造佛記

劉錄六……石牛溪四〇

一七五五 馬璣造像記

關表下下七……敬善寺洞

一七五六 清信女馬大娘造觀音菩薩記

……魏字洞四四

一七五七 前衛州司功參軍事裴沿造阿彌陀像記

補正三 關表

下下三 沙晚一五六 繆目三 劉錄九……石牛溪三九

一七五八 裴敬同造像記

關表下上〇 繆目四 劉錄三……賓陽洞

一七五九 裴素月造像記佛弟子吳冲兒題記

關表下上七 繆目三

劉錄二二三……老龍洞二七

一七六〇 裴羅漢造地藏觀音十一面菩薩記

補正三 關表下下二

沙晚一五七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄

一七六一 裴□造佛記

關表下下二……蓮華洞四五

一七六二 白思恭造像記

關表下下六……石牛溪

一七六三 伯仁造像記

關表上二六……古陽洞

一七六四 佛弟子薄緣造世加文尼像記

繆目二

一七六五 莫四娘造像記

關表下下六 吳錄九……石牛溪

一七六六 石匠范一題記

關表下下三 劉錄六……雙洞三三

一七六七 邑子范惠苛造像記

劉錄四……古陽洞

一七六八 范難題記

關表下下元……石牛溪

一七六九 范福智造像記

吳錄九

一七七〇 范氏張氏題名

關表下下元 吳錄九 劉錄六……古陽洞

一七七一 樊山隱造像記

關表下下云 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目三 吳錄九 常錄 調表……石牛溪

一七七二 樊二娘造像記

關表下下元……古陽洞

一七七三 潘大娘造像記

關表下下五 劉錄五……蓮華洞

一七七四 費貞造像記

關表下下元……石牛溪

一七七五 弟子眇朝妣妻造像記

劉錄五……老龍洞

一七七六 畢玄韶造像記

關表下下五 劉錄五……蓮華洞

一七七七 馮元風造像記

關表下下五……蓮華洞

一七七八 馮蒙題名

劉錄三……古陽洞

一七七九 傅參軍母造像記

關表下下一……賓陽洞

一七八〇 扶餘氏造像記

關表下下七 劉錄六……石牛溪

一七八一 普光造地藏菩薩記

關表下上七 楊錄二 繆目三 吳錄七 吳目九

劉錄二……雙洞二〇

一七八二 普光師造地藏菩薩記

關表下上七 沙晚一四〇 孫錄二 姚

目三 縣志五 趙錄二 楊錄二 吳錄七 吳目九 常錄 調表 劉錄二……獅

子洞二七

一七八三 普光爲父母造阿彌陀像記

關表下下二……敬善寺洞

一七八四 武義基夫妻造像記

關表下下五 吳錄九……敬善寺洞

一七八五 弟子武元□造像記

關表下下三……石牛溪

一七八六 文水武玄題記

關表下下四 劉錄九……王祥洞〇三

一七八七 清信女福花造像記

補正三 關表上四 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 繆目四 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞

七六

一七八八 福造阿彌陀像記

……蓮華洞五六

一七八九 文雅造無量壽像記

補正七……古陽洞六六

一八九〇 文景綱造像記

劉錄四……古陽洞

一八九一 國學官令平乾虎造釋迦牟尼像記

補正三 關表上二

趙錄二 王目 繆目二 調表 石言 劉錄三……古陽洞九二

一七五二 邊義忠造像記 關表下下六 繆目三 劉錄五……老龍洞附近

一七五三 弟子卞道泰造觀世音像記 繆目四

一七五四 弁空造地藏記 補正三 關表下下四 沙晚二三七 繆目三 劉錄六……獅子洞一聖

一七五五 弟子母所乙等造像記 補正三 關表下下九 繆目三 劉錄五……(敬善寺洞)(老龍洞附近)龕

一七五六 方九娘爲亡女造像記 繆目三

一七五七 比丘尼包氏爲父母造像記 劉錄五……古陽洞

一七五八 妙音寺尼法安造像記 關表上三……古陽洞

一七五九 淨土寺上座法惠造像記 補正三 關表下下七 繆目三 吳錄九 吳目九……敬善寺洞九〇

一八〇〇 比丘尼法惠爲亡祖父母造像記 關表上三 繆目二 劉錄三……古陽洞

一八〇一 僧法空等題記 繆目二

一八〇二 法護等題名 劉錄三……古陽洞

一八〇三 妙音寺比丘尼法竦造像記 關表上三……古陽洞

一八〇四 法勝造像記 關表上三……古陽洞 趙錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 方筆 調表 石言 劉錄七……敬善寺洞

一八〇五 尼法進造像記 繆目二

一八〇六 法貞造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

一八〇七 沙彌法寧造釋迦像記 補正七 關表上四 沙晚二六三 縣志五 楊錄二 王目 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞

一八〇八 比丘尼法明造彌陀像并二菩薩記 補正三 關表下下三 六三

沙晚二三三 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽南洞四二

一八〇九 太平寺僧法力造像記 關表下下五……古陽洞

一八一〇 比丘尼法朗造像記 吳錄六 吳目九……古陽洞七六

一八一二 彭三娘造像記 關表下下四 繆目三……路洞

一八一三 龐守一造觀世音菩薩像記 補正三 關表下下四 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……(奉先寺)(魏字洞)四三

一八二三 龐□毛爲父母造像記 關表下下三……石牛溪

一八二四 房進機造像記 補正三 關表上三〇 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 劉錄五……古陽洞七二

一八二五 房寶子妻張子題記 補正三 繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄九……賓陽洞九〇

一八二六 麻定香造像記 關表下下六……石牛溪

一八二七 磨疾羅造像記 關表上三……古陽洞

一八二八 比丘尼明鹿爲姊張阿□造像記 繆目三

一八二九 比丘□□造釋迦像記比丘尼明□造佛像記比丘尼法恩造佛像記 關表上三 繆目二 吳錄六 調表 石言 劉錄七……蓮華洞九九

一八三〇 妙義供養題記 劉錄六……萬佛洞

一八三一 孟懷□造像記 關表下下三……老龍洞

一八三二 孟二娘等題記 補正三 關表下下五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古陽洞六六

一八三三 孟利貞造像記 吳錄七 吳目九

一八三四 □州萬年縣孟□素及郭大娘造像記 關表下下七 大村五九 繆目三 吳錄七 吳目九 劉錄六……石牛溪四三

一八三五 弟子藐遺爲亡父見存母造像記 吳錄六 吳目九

一八三六 目得恩造像記

……藥方洞三三

一八三七 藥慶眞造像記

繆目二

一八三八 介休縣功曹軍主尤道榮等題記

補正七 關表上三五 吳錄六

吳目九……路洞七九

一八三九 內侍供奉官余祺造觀音像記

補正八 關表下下三 沙晚

二六七 趙錄三 楊錄四 繆目四 吳目九 劉錄九……古陽洞七五

一八四〇 許昌令容胡造寶勝如來像記

補正三 關表下二〇 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……雙洞一九七

一八四一 楊安老造像記

大村四〇 繆目四

一八四二 楊優婆夷題記

關表下下四 吳錄九 吳目九 劉錄九……王祥

洞七三

一八四三 楊隱妻造觀音記

補正三 關表下下六 孫錄二 姚目三 縣志

五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……(萬佛洞)(四小洞)

二〇一

一八四四 佛弟子楊海男造像記

繆目四

一八四五 楊嶽造像記

繆目三

一八四六 楊義忠造像記

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六

吳目九 常錄 調表

一八四七 楊寶勝造彌勒像記

補正七 關表上二四 大村二四 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古

陽洞六四

一八四八 楊公主造像記

關表下下三 沙晚二四三 劉錄五……老龍洞三四

一八四九 楊芍女造像記

關表下下四……老龍洞

一八五〇 楊山則造像記

關表下下七 繆目三 劉錄六……石牛溪三一

一八五一 楊思敏造像記

關表下下九 繆目三 吳錄九……敬善寺洞

一八四二 楊思禮造像記

關表下下七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目四 吳錄九 吳目九 常錄……古陽洞

一八四三 楊侍郎造像記

關表下下三 劉錄三……老龍洞三三

一八四四 楊七娘造觀音記

關表下下六九 沙晚二四一 吳錄九 吳目九……

萬佛洞附近一

一八四五 佛弟子楊勝口祖婆造像記

關表下下四……指鼓臺

一八四六 楊崇福造像記

關表下下〇 繆目三 劉錄五……老龍洞附近

一八四七 楊大眼爲孝文帝造石像記

萃編元 補正三 關表上二〇 大

村五一 佛蹟三、六 沙晚二四 畢記一 錢跋二 錢目一 孫錄二 姚目二 縣

志五 洪記二 一跋三 楊錄二 楊圖三 王目 繆目二 趙目一 吳錄六 吳目

九 方筆 調表 石言 羅錄……古陽洞六七

一八四八 楊大娘造像記

補正三 關表下下五 沙晚二五八 繆目三 吳錄

九 劉錄六……石牛溪四六

一八四九 楊大娘造像記

關表下下四三 吳錄九……賓陽洞

一八五〇 楊大福造觀世音佛記

補正三 關表下下六 沙晚二四七 繆

目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞

一八五一 楊智擘等造像記

關表下下元……石牛溪

一八五二 雍州楊長安及孫婆像記

關表下下五……敬善寺洞

一八五三 楊貞造彌勒像記

繆目三

一八五四 楊庭正造像記

關表下下元……石牛溪

一八五五 楊道萇造像記

補正三 大村二八 沙晚二七六 孫錄二 姚目

縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄四……古

陽洞七九

一八五六 楊道萇供養記

……火燒洞七六

一八五七 楊德興省女鄭氏造像記

……四小洞三七

一八五八 楊二娘張二娘張大娘造阿彌陀像記

補正三 沙晚四

夫 劉錄二……老龍洞二六

一八五 張大娘造像記 補正三 關表下下元 孫錄二 姚目三 縣志五

楊錄二 繆目四 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞七七

一八六 張大娘造像記 關表下下元 吳錄九 劉錄五……老龍洞附近

一八六 張大娘造像記 關表下下元……敬善寺洞

一八六 張大娘造像記 關表下下元……石牛溪

一八六 楊婆爲身造像記 關表下上三 繆目三 吳錄九 吳目九 調表

……王祥洞

一八六 楊婆造地藏菩薩記 關表下上七 沙晚一四八 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄……老龍洞二六

一八五 楊婆爲女造像記 關表下下七 孫錄二 吳錄九 調表……古

陽洞

一八六 蒲州安邑縣楊普會造阿彌陀像記 關表下下三 沙晚一四七

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄九 吳目九 常錄 調表……老龍洞二七

一八七 楊福陰爲宋□師造像記 繆目四

一八六 前攝汝州長使楊文遇題記 關表下下五 沙晚三六 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄九 吳目九 常錄 調表……獅子洞一五

一八六 楊保勝爲亡者造釋迦文佛記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊

錄二 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

一八七 楊法恭造像記 關表下下元……石牛溪

一八七 楊寶勝造彌勒像記 補正七 關表上二四 大村一七 沙晚一七三

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表

……古陽洞六三 古陽洞六四

一八七 楊無己女造像記 劉錄五……古陽洞

一八七 楊洛造像記 關表下下三……老龍洞

一八七 楊□□爲父母造像記 關表下下四……賓陽洞

龍門石刻錄目錄

一八五 楊□造像記 關表下下元……石牛溪

一八六 楊□造觀世音菩薩記 關表下下六……藥方洞五

一八七 楊婆施女造像記 大村一〇 繆目四……古陽洞六四

一八六 楊女造像記 關表下下三……石牛溪

一八七 姚意妻造像記 關表下下二 吳目九……路洞

一八八 姚弘姚敬等造像記 關表下下四……路洞

一八一 姚三娘造像記 關表下下七……石牛溪

一八三 雍州慶山縣姚思敬造阿彌陀佛等記 補正三 關表下上

一四三 大村五八 沙晚一四九 繆目三 吳錄九 吳目九……老龍洞二六

一八三 姚仁惠及妻王氏造官音像記 大村五三 繆目三 劉錄一〇

一八四 姚祚造觀世音菩薩記 關表下下四 大村一八 沙晚一五九 孫

錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……蓮華

洞四一

一八五 姚智楷造像記 關表下下七……敬善寺洞

一八六 姚婆造像記 關表下下五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

吳錄六 吳目九 常錄 調表……藥方洞

一八七 姚夫人造像記 補正三……九五

一八八 祖母姚文姜造像記 關表上三 王目……古陽洞

一八九 姚養造像記 關表下下二 吳目九 劉錄六……雙洞三五

一八九 姚□爲亡男造像記 關表下下三……石牛溪

一八九 永□縣姚□客造像記 關表下下四……火燒洞

一八九 清信女姚□□兒思等造觀音記 關表下下五……藥方

洞五

一八九 云子矩題記 關表下下元……古陽洞

一八九 祺知集造像記 劉錄六……石牛溪

四三五

- 一八五 在弘德造像記 關表下二〇……敬善寺洞
- 一八六 逗士奮題名 關表下二七……敬善寺洞
- 一八七 祖士□□爲亡□造像記 繆目三
- 一八九 入子十八人題記 關表下四四……火燒洞
- 一八九 羅藤月等十人造彌勒像記 補正七 關表上四 大村五七
沙晚一六五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九
常錄 調表……古陽洞六五
- 一九〇 來思九造像記 關表下四四……古陽洞
- 一九一 來嗣公造像記 關表下三三 劉錄五……蓮華洞
- 一九二 來日新造佛記 關表下二七 繆目三 劉錄六……石牛溪四二
- 一九三 佛弟子雷造像記 繆目三
- 一九四 比丘尼禮造像記 關表上五……古陽洞
- 一九五 伏虎都督樂元榮等造像記 劉錄五……路洞
- 一九六 南陽樂賓造像記 關表上四……(路洞)(老龍洞)三五
- 一九七 樂法壽造像記 關表上三……古陽洞
- 一九八 清信女樂氏造像記 關表下二二 繆目三 劉錄三……老龍洞三三
- 一九九 清信女樂氏造觀音菩薩記 關表下二二 沙晚一四四 繆目三
劉錄三……老龍洞三五
- 二〇〇 同州下桂縣賂思忠造像記 補正三 關表下四四 孫錄二
姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表……四小洞三四
- 二〇一 洛□杖母陳法姬造像記 左行 關表上三 劉錄四……古陽洞
- 二〇二 李阿保造像記 關表下二六 吳錄九……藥方洞
- 二〇三 李永□造像記 關表下二五 劉錄六……雙洞
- 一九四 李易造像記 繆目二 劉錄五……古陽洞
- 一九五 都主李溫香造像記 繆目二
- 一九六 社老李懷璧等題名 補正三 關表下四四 繆目三 劉錄九一〇
……王祥洞五九
- 一九七 李恭命及妻造像記 關表下二五 吳錄九……敬善寺洞
- 一九八 李岷僧夫妻造像記 關表下四四 劉錄九……播鼓臺
- 一九九 李勛等題記 于志 黃攷六 楊錄四……香山寺
- 二〇〇 李敬任伯恭等造像記 調表 石言……古陽洞
- 二〇一 李景侯造像記 繆目四 吳錄七 吳目九 劉錄四……古陽洞七三
- 二〇二 李慶造地藏菩薩記 補正三 關表下二二 沙晚一四四 繆目三
吳錄 吳目九 劉錄九……敬善寺洞四B
- 二〇三 李元哲造阿彌陀像記 左行 補正三 關表下二六 沙晚一三四 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞三五
- 二〇四 李五德造七佛記 補正三 關表下二七 沙晚一六九 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目二 吳錄九 吳目九 常錄 調表……古陽洞三五
- 二〇五 李材宇造像記 繆目四
- 二〇六 李三娘造像記 補正三 關表下四四 劉錄六……火燒洞六七
- 二〇七 李三娘男思言等造像記 關表下二〇 劉錄五……敬善寺洞
- 二〇八 李山等造像記 關表下三〇……石牛溪
- 二〇九 李之永爲亡息造像記 劉錄五……賓陽洞
- 二一〇 弟子李思□造像記 關表下二六 繆目二……藥方洞
- 二一一 李四娘造阿彌陀像記 補正三 關表下二二 沙晚三 繆目二 吳錄九 吳目九 劉錄三九……賓陽洞三
- 二一二 李人信造像記 關表下二七……敬善寺洞
- 二一三 李仁哲造像記 關表下二九 吳錄九 吳目九……石牛溪

一九四 李小何造像記

關表下下元……古陽洞

一九五 李將軍造像記

關表下下二……敬善寺洞

一九六 李娘造像記

……四小洞三五

一九七 李全題記

劉錄九……破洞

一九八 李前貴造釋迦像記

補正七 關表上四 沙晚一六三 孫錄二

姚目三 縣志五 楊錄二 王目 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古

陽洞六九

一九九 忠州刺史李素儂妻曹氏造像記及常選人造像記

補正三 關表上六 繆目四 吳錄九 劉錄四……古陽洞七三

一九〇 李大安造像記

吳錄九

一九一 李大娘造像記

關表下下二 吳錄九……四小洞一七五

一九二 李大娘造彌勒像記

關表下下三 繆目三 吳目九……雙洞一八六

一九三 李大娘等造像記

關表下下三……唐字洞

一九四 李大娘造業道像記

關表下下二 沙晚一四三 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 常錄……老龍洞三〇

一九五 弟子李男等造像記

關表下下六 吳錄 吳目九 劉錄四……

敬善寺洞空

一九六 李忠造像記

關表下下元 王目 劉錄四……古陽洞

一九七 李趙庭造像記

關表下下二 繆目三 劉錄六……雙洞

一九八 李趙庭等造像記

關表下下二 吳錄九 劉錄六……(敬善寺洞)

(雙洞)

一九九 李哲造像記

補正三 關表下下三 趙錄三 楊錄四 繆目三

劉錄三……老龍洞三四

二〇〇 李桃樹母造業道像記

補正三 關表下下三 沙晚一六三 繆

目三 劉錄六……雙洞三一

龍門石刻錄目錄

一九五一 李道子造像記

關表下下三……石牛溪

一九五二 號王府兵曹李德信造像記

補正三 關表下下二 沙晚一三四

繆目四 吳錄九 吳目九 劉錄九……賓陽洞九二

一九五三 李德深甥甥女造像記

關表下下六 繆目三 劉錄九……萬

佛洞附近

一九五四 李豚造像記

關表上三……古陽洞

一九五五 李配樓造像記

關表下下元 劉錄四……古陽洞

一九五六 李二娘造像記

關表下下六 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目三 常錄 調表……藥方洞五五

一九五七 李二娘造觀音菩薩記

關表下下七三 姚目三 吳錄六 常錄

……石牛溪五二

一九五八 李二娘造像記

關表下下五 劉錄六……敬善寺洞

一九五九 陪婆李二娘造像記

關表下下五 劉錄六……老龍洞三九

一九六〇 李禪續夫妻造像記

關表下下三……石牛溪

一九六一 李人夫爲父母造像記

關表下下四 吳錄九……唐字洞

一九六二 李文德妻張氏造像記

補正三 關表下下八 繆目三 吳錄九

吳目九……敬善寺洞空

一九六三 弟子李文表造像記

繆目三

一九六四 李保妻造阿彌陀像記

補正三 關表下下二 佛蹟金 沙晚

三六 趙錄三 楊錄四 繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄六……獅子洞一八九

一九六五 □□錄事李伏□等題名

補正三 關表下下三 趙錄二 楊錄二

劉錄三……破洞四四

一九六六 李奉造像記

關表下下四……賓陽洞

一九六七 弟子李勇等合家造像記

吳錄九

一九六八 李邑才造像記

關表下下元……古陽洞

四三七

- 一九六九 李用村題記 劉錄六……火燒洞八一
- 一九七〇 李陽□造像記 關表上三 繆目二……古陽洞
- 一九七一 弟子李龍西縣造像記 關表下下元……古陽洞
- 一九七二 李郎李安李樹提伽大娘造像記 關表下下三 吳錄六 吳目九……(雙洞)(敬善寺洞)三八
- 一九七三 李六娘願平安造像記 關表下下四……路洞
- 一九七四 李陸造像記 關表下下二……賓陽洞
- 一九七五 李□古仁造像記 關表上下六……古陽洞
- 一九七六 李□□妻造像記 關表下下三……石牛溪
- 一九七七 李造阿彌陀像記 關表下下九……敬善寺洞四
- 一九七八 李□□造觀世音菩薩記 ……藥方洞五五
- 一九七九 李□□造阿彌陀像記 關表下下三 吳錄九……敬善寺洞
- 一九八〇 李□□爲合家造像記 關表下下元……石牛溪
- 一九八一 李□□爲亡息造像記 關表下下四……賓陽洞
- 一九八二 □州李□□造像記 關表下下八 繆目三 劉錄九……敬善寺洞
- 一九八三 清信女李氏造阿彌陀像二鋪記 關表下下四 繆目三 吳錄九 劉錄五……路洞七九
- 一九八四 清信女李氏造救苦觀世音菩薩記 補正三 關表下下三 孫錄二 姚目三 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……九三
- 一九八五 李□娘造像記 關表下下四……播鼓臺
- 一九八六 里可承妻王氏造像記 關表下下四 吳錄七九 劉錄二……萬佛洞附近三五
- 一九八七 陸舍人爲父母造像記 繆目三
- 一九八八 陸渾盧讚府造像記 關表下下五……敬善寺洞
- 一九八九 弟子陸元慶廿六人造像記 王目 吳錄六 吳目九
- 一九九〇 新婦陸氏造像記 關表下下元……石牛溪
- 一九九一 劉維□造像記 關表上五 繆目二……古陽洞
- 一九九二 劉王鳳母姬氏造像記 關表下下九 繆目三 吳錄九……敬善寺洞
- 一九九三 劉義弘妻李氏造像記 關表下下三……唐字洞
- 一九九四 劉金仁造觀音記 補正三 關表下下二〇 沙晚(一四) 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 吳目九 常錄 調表……(獅子洞)(雙洞)二〇
- 一九九五 清信士劉血爲忘父造釋迦像記 劉錄五……古陽洞
- 一九九六 劉胡造像記 關表下下二 劉錄五……賓陽洞
- 一九九七 劉胡仁造像記 關表下下五 劉錄五……(賓陽洞)(蓮華洞)
- 一九九八 劉護法等造像記 關表下下三〇 劉錄五……老龍洞附近
- 一九九九 劉宏義張仵郎造像記 繆目三 吳錄九 劉錄六……石牛溪
- 二〇〇〇 劉行者造像記 關表下下六……敬善寺洞
- 二〇〇一 劉塙造像記 沙晚(九〇) 王目 劉錄五……古陽洞七五
- 二〇〇二 劉采祖造像記 關表上二五……古陽洞
- 二〇〇三 劉三娘等造像記 補正三 關表下下元 劉錄四……古陽洞七五〇
- 二〇〇四 謁者劉子道造像記 補正三 吳錄九 吳目九……敬善寺洞七
- 二〇〇五 劉子道母造像記 關表下下五 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 劉錄四……賓陽洞四
- 二〇〇六 劉思順造像記 關表下下元 劉錄六……石牛溪
- 二〇〇七 劉二娘田大娘等造救苦觀世音菩薩記 沙晚(四五)……老龍洞一〇〇
- 二〇〇八 劉醜爲父母造像記 調表 石言 劉錄五……古陽洞

二〇九 劉俊造救苦菩薩記 關表下下二 繆目三 劉錄六……雙洞二五

二一〇 劉仁阿造像記 關表下下七 繆目二 劉錄六……(古陽洞)(藥方洞)

方洞)

二一一 佛弟子劉仁貞爲妻杜氏造像七區記 繆目三

二一二 信女劉世海等造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目二 吳錄六 吳目九 常錄

二一三 劉僧濟造釋迦像記 關表上四 趙錄二 楊錄二 繆目三……古陽洞

二一四 劉大庶造像記 關表下下二 吳錄九……敬善寺洞

二一五 劉大娘造觀音菩薩記 補正三 關表下下六 沙晚三七八 繆目三

目三 吳目九 劉錄九……獅子洞二四

二一六 劉大娘造像記 關表下下四……播鼓臺

二一七 劉大名造像記 關表下下元……古陽洞

二一八 吏部令史劉智明造像記 關表下下七……古陽洞六九

二一九 劉冲子造像記 關表下下元……石牛溪

二二〇 劉貞造像記 關表下下元……石牛溪

二二二 劉天鹿造觀音菩薩記 沙晚三九九 趙錄三 楊錄四 繆目三

吳錄九 劉錄六……獅子洞二四

二二三 清信女劉董君定造像記 關表下下二……賓陽洞

二二三 劉德仁女小娘爲亡父造觀音像法華經記 繆目四

二二四 劉郝龙造像記 吳錄九

二二五 劉婆造像記 關表下下四……唐字洞

二二六 監劉符造像記 繆目四

二二七 劉方敵造像記 關表下下七 吳錄九 劉錄四……敬善寺洞

二二八 劉法海造釋迦像記 補正三 大村三頁 孫錄二 繆目二

調表……古陽洞六五

龍門石刻錄目錄

二一九 清信女劉法姿造像記 關表上三……古陽洞

二二〇 劉法力造像記一 關表下下二……賓陽洞

二二二 劉法力造像記二 關表下下二……賓陽洞

二二三 劉鳳黃造像記 關表上三……古陽洞

二二三 劉妙善造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳目九 常錄 調表

二二四 劉離造佛一區記 關表上三 吳錄六 吳目九……古陽洞

二二五 劉良宰造像記 關表下下七 劉錄四……古陽洞

二二六 雍州劉歷造觀音菩薩記 吳目九……敬善寺洞五

二二七 弟子劉□軌造像記 ……敬善寺洞六九

二二八 原州頓邱縣令史劉□全妻曾氏造像記 繆目三

二二九 劉□賢造彌陀像記 關表下下三……老龍洞

二三〇 監劉造像記 關表下下四……賓陽洞

二四一 弟子劉□造像記 關表下下三……石牛溪

二四二 劉□造彌陀像記 關表下下三……敬善寺洞

二四三 劉□造觀世音菩薩像記 關表下下三……藥方洞

二四四 劉□造觀世音菩薩像記 關表下下四……路洞

二四五 劉□爲忘父母造像記 關表上二五……古陽洞

二四六 社老劉□□等題名 關表下下四 劉錄六七……王祥洞七九

二四七 □國要劉爲興願記 關表上三……魏字洞四五

二四八 清信女劉氏造阿彌陀像記 補正三 關表下下二〇 沙晚二四〇

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 常錄 調表 劉錄六……

獅子洞二四

二四九 □□府錄事主□紀妻劉氏造像記 關表下上三 劉錄九

四三九

……藥方洞龕

二〇五 柳是造像記

關表上下二〇……敬善寺洞

二〇五 柳平等造像記

關表下下七……敬善寺洞

二〇五 弟子柳餘□造像記

劉錄五……老龍洞

二〇五 清信女柳氏造觀音像記

關表下下二 沙晚二七九 繆目四 吳錄九

吳目九 劉錄七九……賓陽洞五

二〇四 偏將軍左部南部尉龍寧造像記

關表上三 繆目二……老龍洞

二〇五 呂貴資造像記

關表上二五……古陽洞

二〇五 呂行敏造像記

關表下下三 吳錄九……敬善寺洞

二〇五 呂思敬造像記

補正三 關表下下八 沙晚二四九 吳錄九 吳

目九 劉錄五……老龍洞附近龕

二〇五 雍州人呂□□造像記

關表下下九……敬善寺洞

二〇五 盧永吉造阿彌陀像記

補正三 關表下下六 沙晚三三六 繆

目三 吳錄九 吳目九 劉錄四……敬善寺洞四

二〇六 慮玄哲母劉氏等造像記

關表下下五 劉錄六……藥方洞龕

二〇六 慮贊府及妻李氏造像記

關表下下六……敬善寺洞

二〇六 慮承母崔氏造像記

補正三 關表下下二 沙晚三三六 繆目四

吳錄九 吳目九 劉錄五……賓陽南洞九四

二〇六 慮伴題記

關表下三……石牛溪

二〇六 慮履仁造像記

繆目三

二〇五 慮□劉崇春造像記

關表下下六 繆目三 劉錄六……石牛溪

四八

二〇六 慮□娘等造像記

關表下下五……藥方洞

二〇七 國男慮雙題記

關表上三……蓮華洞四四

二〇六 梁喜王造觀世音記

補正三 關表下下三 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄二……老龍洞二九

二〇九 梁思運造像記

關表下下五……蓮華洞

二〇七 梁持戒造佛記

補正三 關表下下二 吳錄九 吳目九 劉錄六

……雙洞三九

二〇七 梁端暉爲七代亡□父母造阿彌陀像記

劉錄五……蓮

華洞

二〇七 梁柱等廿五人造像記

關表下下三 吳錄七 吳目九……賓陽洞

二〇七 梁張九造像記

關表下下元……石牛溪

二〇四 梁文雄母韋氏供養記

補正三 關表下下五 繆目三 吳錄九

吳目九 劉錄四……敬善寺洞三

二〇五 梁文雄父供養記

補正三 關表下下五 繆目三 吳錄九 吳

目九 劉錄四……敬善寺洞四

二〇六 梁洛本造像記

關表上三……古陽洞

二〇七 殿中將軍梁□□等題記

關表上四……路洞

二〇六 林翹造像記

繆目三

二〇七 林石興造像記

繆目三 劉錄五……老龍洞

二〇八 佛弟子令狐善意造像記

關表下下五……蓮華洞

二〇八 路仁哲造像記

關表下下二 繆目四……賓陽洞

二〇八 魯博陵造像記

關表上二 繆目四 吳錄六 吳目九 劉錄五……古陽洞

二〇三 郎僧壽造像記

關表下下三……石牛溪

二〇四 瀛州佛弟子鹿定遼爲身造像記

繆目三 劉錄六……石牛溪

二〇五 關口邏隊主和道造像記

關表上二 王目 繆目二 吳錄六

吳目九 劉錄七……古陽洞

三〇六 淮南公主造像記

關表下二 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

繆目四 吳錄六 吳目九 常錄 調表……賓陽洞

三〇七 比丘尼□意造像記

關表上三……火燒洞

三〇八 弟子□永貞造□□菩薩像記

劉錄九……石牛溪

三〇九 師□為弟□惠造像記

吳錄六 吳目九

三〇〇 □王生題記

關表下三 繆目三 劉錄六……魏字洞五八

三〇一 溫玉造地藏菩薩記

……敬善寺洞五

三〇二 □迦葉造觀世音菩薩記

……敬善寺洞四

三〇三 比丘尼□化造釋迦像記

補正三 沙晚一五五 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 吳錄六 吳目九 常錄 調表……古陽洞六七

三〇四 □州錄事□懷題記

關表下三 吳錄九 劉錄六……(破洞)

(石牛溪)五五

三〇五 佛弟子□懷義造像記

關表下四……賓陽洞

三〇六 學造一區題記

劉錄九……古陽洞

三〇七 麟趾寺尼□觀造像記

關表下三……唐字洞

三〇八 □貴洛造像記

繆目二

三〇九 佛弟子□貴和造像記

關表上三 繆目三……魏字洞

三〇〇 清信女佛弟子□□為禾造世加文佛像記

劉錄五……古陽洞

三〇一 □憲題名

劉錄四……古陽洞

三〇二 □九良題記

關表下二六……古陽洞

三〇三 □金山造像記

關表下四……描鼓臺

三〇四 □鄉造像記

繆目二

三〇五 □景等造像記

……藥方洞五四A

龍門石刻錄目錄

三〇六 □敬造像記

關表下二……敬善寺洞

三〇七 □顯為忘父造像記

劉錄五……古陽洞

三〇八 □功賓造像記

關表上三 吳錄六 吳目九 劉錄四……古陽洞

洞三

三〇九 汾州介休縣□弘福妻造地藏菩薩記

補正三 劉錄九

……火燒洞六三

三〇〇 洛州文□縣弟子□弘□為身患瘡造菩薩像記

繆目三

三〇一 □興書造供養像記

補正三 關表下八四 孫錄二 姚目三

縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表 劉錄四……敬善寺洞

充

三〇二 興書造像記

關表下八 繆目三 吳錄九 吳目九……敬善寺洞七

三〇三 洛州永昌縣□興造像記

……蓮華洞四三

三〇四 □孝德男母女等造像記

關表下五……敬善寺洞

三〇五 □三娘為己身造像記

關表下三 劉錄二……老龍洞

三〇六 蒲州安邑縣□四海造阿彌陀像記

關表下三 沙晚一四九

繆目三 吳錄九 吳目九 劉錄三……老龍洞六

三〇七 □四娘造像記

關表下四……唐字洞

三〇八 比丘尼□思造觀音記

……萬佛洞一四

三〇九 □思恭妻楊氏造像記

關表下二〇 劉錄六……雙洞

三〇〇 雍州人□思敬造像記

關表下九五……敬善寺洞

三〇一 思儉題記

關表下二……敬善寺洞

三〇二 □二娘造彌勒像記

關表下四……賓陽洞

三〇三 □二娘造藥師佛記

補正三 關表下六 沙晚一五五 吳

錄九 吳目九……唐字洞四

四四一

二二四 □ 二娘造像記 劉錄二……古陽洞

二二五 比丘尼 □ 兒造像記 關表下下四……敬善寺洞

二二六 □ 樹智爲見存母造像記 關表下下四……老龍洞

二二七 □ 宗信亡弟近行造藥師佛像記 繆目三

二二八 十娘爲亡母造像記 關表下下二 繆目四 吳錄九 劉錄五……

賓陽洞

二二九 娘敬造像記 關表下下二〇……敬善寺洞

二三〇 娘爲男造像記 關表下下元……石牛溪

二三一 □ 娘三娘四娘造像記 關表下下四……唐字洞

二三二 □ 孃妃爲忘 □ 等造像記 劉錄五……古陽洞

二三三 佛弟子 □ 世正造觀音菩薩像記 劉錄九……賓陽洞

二三四 □ 生造像記 關表下下二……敬善寺洞

二三五 比丘尼 □ 婁造像記 補正七 關表上三 孫錄二 姚目三 縣

志堯 楊錄二 王目 繆目二 吳錄六 吳目九 常錄 調表 劉錄七……古陽

洞七三

二三六 □ 惣持造像記 補正三 關表下下三 繆目三 吳錄九 吳目九

……唐字洞壺

二三七 惣造題記 關表下下三……石牛溪

二三八 □ 大娘造像記 關表下下四……路洞

二三九 大 □ 僧 □ 造像記 補正三……古陽洞

二四〇 □ 知造像記 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 吳錄六 吳

目九 常錄 調表

二四一 □ 智賀造觀音像記 ……古陽洞七〇

二四二 □ 張任二 □ 造像記 關表下下二 劉錄三……老龍洞三六

二四三 弟子 □ □ 貞造像記 關表下下三……石牛溪

二四四 □ □ 鈿爲亡夫顧氏造像記 繆目三

二四五 佛弟子 □ 都子造像記 吳錄九

二四六 清信士 □ 道香造像記 補正三 吳錄六……古陽洞七六

二四七 □ 道妻 □ 造像記 繆目三

二四八 □ □ 德造像記 ……魏字洞五六

二四九 雍州岐山縣 □ 得師造像記 大村五八 繆目三

二五〇 弟子 □ 南賓造像記 關表下下八……敬善寺洞

二五一 焦難陀造像記 關表下下〇……敬善寺洞

二五二 □ 仁師造像記 關表下下五……敬善寺洞

二五三 □ 買德爲亡息造像記 關表上六……古陽洞

二五四 清信士 □ 備男造像記 補正三 吳錄六 吳目九 劉錄四……

古陽洞七七

二五五 □ 文鄉仁妻 □ 餘歡造像記 ……蓮華洞三三

二五六 □ 文智造像記 關表下下六……敬善寺洞

二五七 □ □ 保造觀世音菩薩記 關表下下五 沙畹(三六九) 劉錄六……

藥方洞五三

二五八 □ 保定爲亡父母造觀世音像記 繆目三

二五九 □ □ 髣造觀世音像記 補正三 大村三四 繆目二……古陽

洞六三

二六〇 □ 由貴造阿彌陀像記 ……魏字洞五四

二六一 □ 六娘造像記 關表下下七……敬善寺洞

二六二 雍州人 □ 思造觀音菩薩像記 劉錄四……敬善寺洞

二六三 □ 知造像記 劉錄六……石牛溪

二六四 □ 本郎造像記 劉錄四……古陽洞

二六五 □ 捕參軍邊伯榮題名 關表上二 王目……古陽洞

二六六 比丘尼清信士清信女等合造釋迦像十六軀記

正光二年十一月廿九日 西曆五二一

關表六 大村三云 沙晚(四) 繆目二 吳錄六 吳目九 調表 石言 劉錄三

……蓮華洞云

二六七 邑師等造像記

關表上三……古陽洞

二六八 比丘尼僧造佛一區記

左行……古陽洞

二六九 比丘僧造像記

關表下下六 吳錄六 吳目九……石牛溪

二七〇 比丘僧同心造像記

劉錄四……古陽洞

二七一 二比丘尼造像記

關表下九……賓陽洞

二七二 比丘尼爲十二娘造像記

關表上下九 劉錄九……王祥洞

二七三 比丘尼□□造像記

關表上六……古陽洞

二七四 比丘尼造像記

關表下下四……賓陽洞

二七五 維那等題記

繆目二

二七六 同合門大小造像記

關表上六……古陽洞

二七七 清信士女造像記

關表上六……古陽洞

二七八 佛弟子清信女造像記

關表下下四……古陽洞

二七九 男女等造阿彌陀佛及六菩薩像記

關表下下二……賓陽洞

二八〇 清信士三門佛弟子造像記

關表上四……古陽洞

二八一 佛弟子一人□□殘造像記

劉錄八

二八二 佛弟子患風及身爲父母造像記

關表下下四 劉錄三……

老龍洞三

二八三 佛弟子清信□□□造像記

劉錄五……古陽洞

二八四 佛弟子造像記

關表下下三……敬善寺洞

二八五 佛弟子造像記

關表上六……古陽洞

二八六 佛弟子造像記

關表下下八……敬善寺洞

二八七 佛弟子造像記

關表上五……古陽洞

二八八 佛弟子造像記

關表下下三……石牛溪

二八九 佛弟子造像記

關表下下四……擂鼓臺

二九〇 弟子造像記

關表下下五……石牛溪

二九一 弟子造像記

關表下下三……石牛溪

二九二 弟子造像記

關表下下三……敬善寺洞

二九三 弟子□□造觀音菩薩記

沙晚二三三……賓陽南洞二三

二九四 弟子□□造像記

……魏字洞三五

二九五 清信造像記

關表上三……唐字洞

二九六 清信造像記

關表下下三……石牛溪

二九七 清信弟子造像記

關表下下九……敬善寺洞

二九八 清信士造像記

關表下下九 吳錄六 吳目九 劉錄四……古陽洞

洞

二九九 優婆夷□造像記

關表下下四……老龍洞

三〇〇 清信女□□造釋迦像記

沙晚二七九……古陽洞二〇四

三〇一 清信女爲亡父母造觀音菩薩像記

劉錄九……藥方洞

三〇二 清信女爲父母造像記

關表下下四……賓陽洞

三〇三 清信女□爲亡□父母造像記

關表下下二……賓陽洞

三〇四 清信女□□爲己身造像記

劉錄九……賓陽洞

三〇五 清信女造像記

關表上二五……古陽洞

三〇六 清信女造像記

關表下下四……路洞

三〇七 □□母造地藏菩薩像記

劉錄二……雙洞

三〇八 □夫人爲父母造阿彌陀像記

劉錄九……王祥洞

三〇九 校書郎□□造像記

昌二年□月十五日……古陽洞三〇

三三〇 □縣開國公造像記 關表下下六 繆目三……藥方洞五

三三一 張□□開□公造像記 關表下下四……路洞

三三二 市令□□題記 繆目二

三三三 太子文學母□爲亡男造像記 關表下下九……敬善寺洞

三三四 太妃造像記 關表上二……古陽洞

三三五 雍州司士造像記 關表下下四 王目 劉錄二……播鼓臺

三三六 雍州東行造像記 關表下下五……敬善寺洞

三三七 洛州濟源縣造像記 關表下下四……路洞

三三六 洛州密縣造像記 關表下下四……播鼓臺

三三九 □□爲父任州北陽令造像記 孫錄三 姚目三 縣志五

楊錄三 繆目三 吳錄九 吳目九 常錄 調表

三三〇 同州合陽縣造像記 關表下下六……石牛溪

三三一 許州襄城父題記 關表上四……路洞

三三三 兗州金□縣令爲平安早歸還造像記 劉錄六……雙洞

三三三 營州□□造阿彌陀像記 關表下下五 劉錄五……蓮華洞

三三四 柳州造像記 關表下下四……敬善寺洞

三三五 □闕縣、造像記 關表下下二 繆目三 吳錄六 吳目九……老龍洞

洞元

三三六 伊闕縣□□爲亡□等造像記 劉錄五……老龍洞

三三七 信大弟子□成縣□武□□□爲父母造像記

劉錄一……王祥洞

三三六 大州造像記 關表下下四……石牛溪

三三九 石窟寺造釋迦像記 關表上三……藥方洞

三三〇 西京路品法寺□□僧造像記 劉錄九……藥方洞

三三一 西京隆□寺上座僧造像記 關表下下七……古陽洞

三三三 □敬寺造像記 關表下下四……播鼓臺

三三三 邑師僧敬道俗卅八人等造龕記 關表上六 吳錄六……藥方洞五

* * *

三三四 爲皇帝造佛記 ……古陽洞七九

三三五 爲皇帝陛下造像記 劉錄六……火燒洞五四

三三六 師僧法界造像記 關表下下二……敬善寺洞

三三七 □□爲一切行者並得平安造像記 劉錄六……播鼓臺

三三六 爲一切衆生造阿彌陀像記 關表下下元 王目 劉錄六……

石牛溪

三三九 爲法界衆生造觀音像記 永徽□年 西曆六五〇—六五五

關表下下五 繆目三 劉錄六……藥方洞五九

三三〇 爲法界造像記 關表下下二……敬善寺洞

三三一 爲合家平安造像記 關表下下七……敬善寺洞

三三二 家平安造像記 關表下下二……敬善寺洞

三三三 爲己亡家口平安造像記 關表下下三……石牛溪

三三四 眷屬造像記 關表上三……唐字洞

三三五 爲七世父母造像記 關表下上三 劉錄五……路洞七五

三三六 爲七代父母造像記 關表下上三 劉錄三……老龍洞

三三七 七□存題記 關表下下四……敬善寺洞

三三六 爲所生父母造像記 ……古陽洞七四

三三九 爲父母造像記 關表下下元……(石牛溪)(四小洞)三六

三三〇 爲父母造像記 關表上二 繆目二……古陽洞

三三一 爲父母造像記 關表下下元……石牛溪

三三二 爲父母造像記 關表下下三……敬善寺洞

三三五 爲父母爲師父爲叔父造像記

繆目二

三三六 爲亡過去父老亡兄等造菩薩記

關表下下四 繆目三……

萬佛洞附近三

三三五 爲父母亡弟造觀世像記

關表上六 王目 吳錄六 吳目九

劉錄五……古陽洞

三三五 爲父造像記

關表下下六……古陽洞

三三七 爲母造像記

關表下下三……賓陽洞

三三五 爲己身平安造像記

劉錄六……石牛溪

三三五 爲身造像記

關表下下〇……敬善寺洞

三三六 爲患目造像記

關表下下三……唐字洞

三三一 爲亡妻造像記

關表下下四……老龍洞

三三三 爲犢子造像記一

關表下下四……擂鼓臺

三三三 爲犢子造像記二

關表上下四……擂鼓臺

三三六 爲亡女造像記

關表上二五……古陽洞

三三五 爲亡妹爲亡女造像記

繆目二

三三六 伽陀忘日記

關表下下三 繆目三 劉錄六……唐字洞五三

三三七 願一切行者並得平安造像記

關表下下四……擂鼓臺

三三六 願、從心造像記

關表上三……魏字洞

三三九 願己身□寧造像記

關表上三……唐字洞

三三〇 願造石像一堪記

關表上三……魏字洞

三三七 願得往生造像記

關表下下〇……敬善寺洞

三三七 願平安造像記

關表下下四……擂鼓臺

三三七 願平安造菩薩像記

關表下下六……敬善寺洞

三三七 願平安造像記

關表下下三……石牛溪

三三五 万病除愈榜記

補正三 沙晚四〇 劉錄四……古陽洞五三

三三七 咸同斯福等造像記

劉錄三……奉先寺

三三七 兄弟安長題記

關表下下三……四小洞三元

三三七 生西方妙樂國造像記

……蓮華洞四〇

三三七 上品往生造像記

……藥方洞五五

三三〇 下品上生造像記

關表下下四……路洞

三六一 下品中生造像記

關表下下四……路洞

三六二 下品下生造像記

關表下下四……路洞

三六三 普會衆生未來造像記

孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二

王目 繆目二 吳錄六 常錄 調表

三六四 一心供養記

關表下下六……敬善寺洞

三六五 一心供養記

關表下下四……唐字洞

三六六 一心等記

關表下下四……唐字洞

三六七 心供養題記

關表下下四……擂鼓臺

三六八 清供養時題記

關表下上三 劉錄三……古陽洞

三六九 供養題記

關表下下三……石牛溪

三九〇 供養等造像記

關表下下四……擂鼓臺

三九一 倉生歸心造像記

補正三 關表下上〇 繆目三……萬佛洞二五

三九二 并造像記

關表下下六……藥方洞

三九三 敬造像記

關表下下四……老龍洞

三九四 太昌造像記

關表上〇……古陽洞

三九五 大安造像記

關表下下四……老龍洞

三九六 因果造像記

關表下下六 趙錄二 楊錄二……敬善寺洞

三九七 春德造像記

關表上二……古陽洞

三六	處月造像記	關表下下三	劉錄六……唐字洞	三三一	造阿彌陀像記三	關表下下〇……敬善寺洞
三九	省大造像記	關表下下六……石牛溪		三三三	造阿彌陀像記	關表下上七……賓陽洞
三〇〇	大唐造像記	關表下下四……老龍洞		三三三	造阿彌陀佛記	關表下下四……賓陽洞
三〇一	司禮造像記	關表下下元……石牛溪		三三四	造阿彌陀佛記	關表下下四……賓陽洞
三〇二	□人造像記	繆目三		三三五	造阿彌陀像記	關表下下元……古陽洞
三〇三	習□□監造像記	關表下下一	劉錄五……賓陽洞	三三六	□□造阿彌陀像記	關表下下四……路洞七九
三〇四	見无造像記	關表下下四……路洞		三三七	造彌陀像記	關表下下三……敬善寺洞
三〇五	國典衛造像記	關表上二	王目……古陽洞	三三八	造彌陀地藏像記	關表下上七……播鼓臺
三〇六	紫綾袍造像記	關表下下七……敬善寺洞		三三九	造彌陀像記	關表下下四……老龍洞
三〇七	汐居□造像記	關表上六……古陽洞		三三〇	造彌陀像記	關表下下三……石牛溪
三〇八	人間王造像記	關表上三……古陽洞		三三一	造彌陀像記	關表下下四……播鼓臺
三〇九	和真好造像記	關表下下三……石牛溪		三三三	造藥師像記一	關表下下三
三一〇	號王月上造像記	關表下下八……敬善寺洞		三三三	造藥師像記二	劉錄九……敬善寺洞
三一一	於龍門山造像記	關表下下三……敬善寺洞		三三四	造佛一區記	關表下下三……敬善寺洞
三一二	恒值三寶造像記	補正三……古陽洞		三三五	造佛一區記	關表下下三……石牛溪
三二三	恒與善居造像記	關表上六……魏字洞		三三六	佛名題記五則	關表上三……蓮華洞
三二四	唯□三寶造像記	……古陽洞		三三七	造救苦菩薩記	關表下下三……石牛溪
三二五	困日意時題字	關表下下四……火燒洞		三三八	造救苦觀音像記	關表下下九……敬善寺洞
				三三九	造觀世音菩薩像記	關表下下九……敬善寺洞
				三四〇	造觀世音像記	關表上七……蓮華洞
三三六	造釋迦壹尊記	關表下下七……敬善寺洞		三四一	造觀音像記	劉錄三……老龍洞九八
三三七	大唐造阿彌陀二菩薩記	五月廿日……魏字洞		三四二	造觀音菩薩記	關表下下六……藥方洞
三三八	造西方阿彌陀像龕記	關表下下四……播鼓臺		三四三	造觀音像記	補正三
三三九	造阿彌陀像記一	關表下下〇……敬善寺洞		三四四	爲亡父母造觀世音像記	楊錄三……九八
三三〇	造阿彌陀像記二	關表下下〇……敬善寺洞				補正七
						關表下下四
						繆目三……古陽洞

三三四	造觀音像記	關表下下七 繆目三……敬善寺洞
三三四	造觀音菩薩像記	關表下下元……石牛溪
三三七	造觀音菩薩記	關表下下三……石牛溪
三三八	造大勢至菩薩像記	補正三 關表下下〇……敬善寺洞六〇
三三九	造地藏菩薩像記	關表下下三……敬善寺洞
三三〇	造地藏菩薩記	關表下上七……雙洞
三三一	造地藏菩薩像記	關表下下〇……石牛溪
三三三	造地藏菩薩像記	關表下下四……火燒洞
三三五	造春花黃落菩薩記	關表下下二……(敬善寺洞)(四小洞)三〇
三三四	造菩薩像記	關表下下三……敬善寺洞
三三五	造菩薩像記	關表下下〇……敬善寺洞
三三五	菩薩造像記	關表下下四……擂鼓臺
三三七	造菩薩二軀記	關表下下四……賓陽洞
三三五	造菩薩廿軀記	……魏字洞四七
三三〇	尊像一龕記	關表下下四……賓陽洞
三三一	造尊像一堪像記	關表上上……魏字洞
三三二	造尊像碑	孫錄二 姚目三 縣志五 楊孫二 吳錄六 吳目九
三三三	像一龕造像記	關表下下五……賓陽洞
三三四	造龕記	關表下下六 繆目三……藥方洞
三三五	造像二區記	關表下下三……敬善寺洞
三三六	造像碑頌	吳錄七 吳目九
三三七	造像頌	吳錄六 吳目九
三三八	造像記四種	……魏字洞五〇—五三

龍門石刻錄目錄

三三九	殘字二則	關表下下五……賓陽洞
三三〇	王字造像記	關表下下四……古陽洞
三三七	王字題記	關表下下三……石牛溪
三三七	佐字題記	關表下下五……賓陽洞
三三七	張字造像記	關表下下六……石牛溪
三三四	張字題記	關表下下三……敬善寺洞
三三五	陳字題記	關表下下四……路洞
三三六	田字題記	關表下下三……石牛溪
三三七	宋字題記	關表下下三……敬善寺洞
三三八	孫字題記	關表下下三……石牛溪
三三九	花字題記	關表下下四 劉錄五……老龍洞
三三〇	諳字題記	關表上上……老龍洞
三三一	靈字	關表上三……火燒洞
三三二	典藥二字	關表下下三……唐字洞
三三三	孟孟二字	關表下下三 吳錄六 吳目九……石牛溪
三三四	以物題記	關表下下三……石牛溪
三三五	果首題記	關表下下六……藥方洞

* 劉錄ニハ古陽洞ニ一種(卷五)アリ、吳錄(卷六)吳目(卷九)ニハ四種アリ、繆目卷二(四)ニハ四種アリ、趙錄(卷二)一種、楊錄(卷二)一種アリ。關表ニハナホ敬善寺洞二種(下下一八)、老龍洞二種(下二四)、蓮華洞一種(下二五)、石牛溪十三種(下三〇—三二)、唐字洞八種(下三二、三三、三四、三五)、藥方洞十種(下三六、三七)、古陽洞十種(下七一、七九、四〇)、路洞四種(下三七、四三)、擂鼓臺一種(下七一)ノ不詳造像記アリ。

- 二二六 開齋題記 關表下下五……蓮華洞
 - 二二七 咸弔題記 關表下下四……老龍洞
 - 二二八 天王題記 關表下下四……擂鼓臺
 - 二二九 東□題記 關表下下四……路洞
 - 二三〇 非潛題記 關表上三……唐字洞
 - 二三一 夫等題記 劉錄……老龍洞
 - 二三二 夫福題記 關表下下四……古陽洞
 - 二三三 福錄題記 關表下下四……火燒洞
 - 二三四 在田題記 關表下下四……火燒洞
 - 二三五 此智題記 關表上三……唐字洞
 - 二三六 波思題記 關表下下四……賓陽洞
 - 二三七 大日造像記 關表下下二……敬善寺洞
 - 二三八 □□磨題記 關表下下元……石牛溪
 - 二三九 往來等題記 關表下下四……火燒洞
 - 二四〇 藥方洞題名 關表上三……藥方洞
 - 二四一 坐化僧題記 關表下下四……古陽洞
 - 二四二 行香上座題記 關表下下五 繆目三……萬佛洞一七
 - 二四三 供佛彼光題記 關表下下三……(石牛溪)(魏字洞)五八
 - 二四四 常樂我淨題記 吳錄九 劉錄六……藥方洞
 - 二四五 福德長壽題記 關表下下四 孫錄三 姚目二 縣志五 楊錄二
 - 繆目三 吳錄九 常錄 調表 劉錄三……老龍洞三〇
 - 二四六 終南散漢題記 關表下下四……賓陽洞
 - 二四七 天地一尊題記 關表下下五……藥方洞
 - 二四八 天大也好題記 關表下下三 劉錄五……路洞
 - 二四九 天地三神十方題記 關表下下四……古陽洞
 - 二二〇 篆文題記 關表下下五……藥方洞
 - 二二一 修香山寺詩三十韻 于志 黃攷六 楊錄四 吳目九……香山寺
 - 二二二 香山寺八節灘詩 于志 黃攷六 楊錄四 吳目九……香山寺
- * * *
- ### 第二部 經典及藥方類
- (四一) 金剛般若波羅密經 姚秦鳩摩羅什譯(龍朔三年四月八日)
 - 佛弟子常才合家造優填王像金剛經記
 - 龍朔三年四月八日 西曆六六三
 - ……敬善寺洞九
 - 二二三 金剛般若波羅密經 北魏菩提流支譯
 - 補正 關表上下七 黃攷六 府志〇八 錢目一 孫錄三 姚目三 縣志五
 - 楊錄三 繆目三 吳錄七 吳目九 常錄 調表……八六
 - 二二四 般若波羅密多心經 唐玄奘譯
 - 補正 關表上三 沙晚二七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 王目
 - 繆目 吳錄六 吳目九 常錄 調表 石言……蓮華洞三五
 - 二二五 般若波羅密多心經 唐玄奘譯
 - 關表上下六 沙晚二六 王目 繆目三 吳錄七 吳目九 調表 劉錄二
 - ……蓮華洞三五
 - 二二六 般若波羅密多心經 唐玄奘譯
 - 關表上下七 孫錄二 姚目三 縣志五 楊錄二 繆目三 吳錄六 常錄 調表
 - ……擂鼓臺中洞八八

(七一) 心經銘(唐王才賓造浮圖頌) 神龍二年 西曆七〇二

二四七 金字波羅碑 于志 黃攷 楊錄四 吳目九……香山寺

二四八 觀世音經 關表下四……路洞

二四九 佛說阿彌陀經 姚秦鳩摩羅什譯 ……路洞八五

二五〇 佛說阿彌陀經 姚秦鳩摩羅什譯 補正支……八四

二五一 涅槃經

關表下上七 黃攷六 府志〇八 孫錄三 姚目三 縣志五 趙錄二 楊錄三

王目 吳錄七 吳目九 常錄 調表……香山寺石洞

二五三 佛說菩薩呵色欲經 姚秦鳩摩羅什譯

關表下上五 沙畹(四七) 孫錄三 姚目三 縣志五 楊錄三 吳錄七 吳目九

常錄 調表……淨土洞八三

(六六〇) 尊勝陀羅尼史延福造經記 如意元年四月八日 西曆六九二

……蓮華洞

二五三 尊勝陀羅尼經幢 吳目九

(七九) 大悲陀羅尼呪幢 元和四年三月 西曆八〇九

二五四 六門陀羅尼經 唐玄奘譯 ……八七

(七六四) 陀羅尼呪 開元八年三月廿三日 西曆七二〇

(七六二) 陀羅尼幢 天寶八年 西曆七四九

……香山寺

(七九) 陀羅尼經幢(僧雲辨造經記)

大中十一年四月廿八日 西曆八五七

(八〇) 陀羅尼幢 開平二年六月 西曆九〇八

(五六) 經幢 永隆二年六月 西曆六八一

二五五 陀羅尼經幢 畢記三 吳錄八 吳目九

(四三五) 經句(造像刻經記) 顯慶五年 西曆六六〇

……老龍洞

二五六 經句 吳錄七 吳目九 繆目三

二五七 迦葉經 常錄……擂鼓臺

二五八 付法藏因緣傳 北魏曇曜譯

佛蹟二四 沙畹(五七-五三) 劉錄二……擂鼓臺八九

二五九 藥方 佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六〇 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六一 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六二 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六三 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六四 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六五 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

二六六 藥方

佛蹟三 沙畹(四七) 一跋四 繆目二 劉錄九……藥方洞入口拱門側壁五五

造像編年(一)

王 朝	年 號	尊 名	釋迦像											計			
			無量壽像	藥師像	多寶像	定光像	彌勒像	七佛	五佛	千佛	二菩薩像	觀音像	像龕窟				
		計	50	9	1	3	2	36	3	1	1	6	23	116	251		
北	太和十九年	495						1							1		
		496						.							.		
		497							.						.		
		498						1						2	3		
		499						1						.	1		
	景明元年	500							.					2	2		
		501							1					2	3		
		502							1					7	8		
		503							1					4	5		
		504						1						2	3		
	正始元年	505						1						1	3		
		506						3					1	1	5		
		507						1						4	6		
		508						4			2	1		2	4		
		509						2			2	.		1	2		
		510						2			1	1	.	1	6		
		延昌元年	511						3			.	3	.	1	2	12
			512						1			.	1	.	.	2	4
			513						1			.	.	.	1	2	
			514						.			1	1	.	.	2	
515							1		1	1	.		1	4	8		
熙平元年	516								
	517						1			.	1	1	.	4			
神龜元年	518						2			.	.	.	1	5			
	519						.	1		.	2	.	.	6			
正光元年	520						2			.	2	.	.	8			
	521						2	1	7			
	522						.	1	.	.	1	.	.	2			
	523						2	1	.	.	1	.	2	8			
	524						1	3			
	孝昌元年	525						3	.	1	.	1	.	1	11		
		526						1	3	.	.	3	.	3	18		
		527						2	1	2	5		
		528						2	.	.	4		
		529						1	1		
永安元年	530						1	1			
	531						.	.	1	.	.	.	1	2			
	532						4	.	1	.	.	3	3	11			
	533						3	1	.	1	.	1	2	8			
	534								
東	西	535					.	.			2	.	.	1	3		
		536					1	1		
		537						
		538					2	2	4		
		539					1	7	8		
	魏	540						3	3		
		541						3	3		
		542							
		543							
		544							
武定元年	545						2	2			
	546								
	547								
	548								
	549						1	1			
北	齊	550						
		551						
		552						
		553					1	1	3	5		
		554						
	天保元年	555							
		556							
		557							
		558							
		559							
	天統元年	560						1	1		
		561							
		562							
		563							
		564							
武平元年	565						1	1			
	566						1	1			
	567						.	.	1	1			
	568						2	1	.	3			
	569								
周	570								
	571						2	2			
	572						4	4			
	573								
	574								
575						1	1	3	5				

異
字
表

異字凡例

- 一、本表は龍門石刻録使用の活字を基本とし、それに相違する異體の文字を収録した。
- 一、異字の配列は本字の部首、畫數によつた。
- 一、則天文字は、その本字の末尾に収録した。
- 一、異字相互の配列は、その文字の性質、形態等を考慮して、複雑なるものから單純なものへ、畫數の多いものから少いものへと配列し、以て書法の理解に便ならしめんことを期した。
- 一、總じて草體にわたるもの、また楷書と活字體との相異はとりあげなかつた。
- 一、また煩雜を避けるため、左の如き例をもうけて省略にしたがつた。

増畫

土杜社在陞墜塗塵堪垣	魄塊魄魔魏巍	俾碑鞞	轅悅脫說略	直直值真填噴噴鎮真直
境填填壯任生往	一具俱	堯堯遠翹眺	燒繞繞遠	值植植真寔填慎噴顛
休氓氓友波笑	其他	壯壯莊狀將鏘醬藏	稜稜陵	
託卯氏昏底	高 高臺亭迴迴	學 學覺攪	穩 穩隱	
祇紙	偈 偈揭渴竭竭	於 於族遊游	經 經徑輕	
劫契潔	來 來未 菜	尊 尊猷	萊 萊祿綠錄	
ノ 凡凡汎 虫 虵蛇蚊蛤蚰	共 共供拱	旨 旨指詣詣	縣 縣縣懸	
紺紺緇緇	切 切	服 服報聚輒	義 義儀議	
一 范 京景諒涼就影鷲	辰 辰宸振娠辱辱震震禱	歲 歲歲噦	虛 虛慮瀘盧瀘瀘爐爐驢虧	
減 畫	歷 歷瀝	受 受暖	骨 骨體禍過	
、 戰 馱 器 凡 初	召 召照紹髻	爲 爲為為媯	麥 麥赴赴麴麴	
ノ 呂呂宮閭夏追槌師歸	因 因因茵恩烟	爾 爾尔迹	魚 魚魚鱗鱗籜	

龍門石刻錄異字

一部

不 八〇九五 八〇九六 八〇九七 八〇九九

采 三五八三

世 八〇四一五

世 二七三二 五五〇三 五五〇五 八〇四二六

丘 三五三三

丘 七三三二

丘 六五二五

丘 五九三四

ノ部

乖 五八二〇

乖 六三三七 八〇三八 八二三九

乖 九三三〇 六七八六 八〇三五 八〇四一四

乖 八二七二七

乖 六四四五

乞 九二二

丿部

事 四三三五 六三六八

支 二二三

乙部

乾 六七八九

乾 二五八二 二六八二 八〇八二三 八三三二

乾 二三四二 三三三二 四七〇四 七九八八

龍門石刻錄異字

亂 八六三〇

亂 九三三七 五七六一七

匕部

亡 五九九四 五九九九 六九六四 七六三四

上 八二〇二

上 三五三三 三五五三 四三三二 三五三二

上 三五五二

上 三六八三 四〇八三 五九二二 五八二五 五九二六 五九二七

上 五九二八 五九六一 五九八三 五九八四

上 六三三三 六二九二 六三三五 六三三五

上 六七四四 六四四二 六四八三 六九三三

上 七〇六四 七〇三二 七五五七 七五八三

上 五三三四 五三二六

上 三五三六 六九三三

上 三〇六二 三六八五 三九七一 四八〇四

上 五三二三 五五五三 五五七三 六六七三

上 六〇三一 六五一三

上 六三三三

上 六三三三

上 六三三三

上 八一九三

上 九三二九 九四四六 八四四〇 八二七四

上 三六三七 六六四四

人部

今 五〇二

仙 五九八 六八一

代 一八七 三五五六 五三七 七四九三

伐 七六〇三 一九三四

代 一七七三

以 五七〇三 一九九二

以 一九九二

仰 六四〇五 六三三八

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

仰 六三三八 七三八五

侯 二九二 一三二 三六六九 五八五五

侯 五九〇三 六六四三 七九三一 七九八九

侯 八〇四三四 八〇四四〇 八〇四五六 八二二二九

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

侯 八一三〇 八一四〇〇 八一三二八 八二二三二

龍門石刻錄異字

合 一四 二三五 二四七 二六三

二八五 九三三 一五九五 二四四

二四八六 二五四 三二四 四六三九

四七七四 五三四五 五七五〇 五七六〇三

五七六〇六 五七六〇九 五七六二三 六二四三

六四〇八 七〇四 七四三六 七五七八

七六〇七 七六三八 八〇四 八二二二

三九三四 五九六三 六三一九 六三六九

三六三六 二五五八 二七七五 二八二二

二九九二 四八一 五七〇一〇 五七六〇三

五七六〇四 五八三二一 五八三二五 五八九六

五九四一 六三三三 六八二一 六八四一

八〇四五三 八〇八一三 八二二六 八二三五

三九四一五 四三六二 四三五七 四三五〇

四三六一 四三六二 四三六三 四三六四

六四三〇 六四三二 六四三三 六四三四

六四三六 六四三七 六四三八 六四三九

六四四一 六四四二 六四四三 六四四四

六四四六 六四四七 六四四八 六四四九

六四五一 六四五二 六四五三 六四五四

六四五六 六四五七 六四五八 六四五九

六四六一 六四六二 六四六三 六四六四

六四六六 六四六七 六四六八 六四六九

六四七一 六四七二 六四七三 六四七四

六四七六 六四七七 六四七八 六四七九

六四八一 六四八二 六四八三 六四八四

六四八六 六四八七 六四八八 六四八九

六四九一 六四九二 六四九三 六四九四

六四九六 六四九七 六四九八 六四九九

六五〇一 六五〇二 六五〇三 六五〇四

六五〇六 六五〇七 六五〇八 六五〇九

六五一一 六五一二 六五一三 六五一四

六五一六 六五一七 六五一八 六五一九

六五二一 六五二二 六五二三 六五二四

六五二六 六五二七 六五二八 六五二九

六五三一 六五三二 六五三三 六五三四

六五三六 六五三七 六五三八 六五三九

六五四一 六五四二 六五四三 六五四四

六五四六 六五四七 六五四八 六五四九

六五六一 六五六二 六五六三 六五六四

六五六六 六五六七 六五六八 六五六九

六五七一 六五七二 六五七三 六五七四

六五七六 六五七七 六五七八 六五七九

唐 唐 二二六 二二七 二二八

二二九 二三〇 二三一 二三二

二三三 二三四 二三五 二三六

二三七 二三八 二三九 三四〇

三四一 三四二 三四三 三四四

三四五 三四六 三四七 三四八

三四九 三五〇 三五二 三五三

三五四 三五五 三五六 三五七

三五八 三五九 三六〇 三六一

三六二 三六三 三六四 三六五

三六六 三六七 三六八 三六九

三七〇 三七二 三七三 三七四

三七五 三七六 三七七 三七八

三七九 三八〇 三八二 三八三

三八四 三八五 三八六 三八七

三八八 三八九 三九〇 三九一

三九二 三九三 三九五 三九六

三九七 三九八 三九九 四〇〇

四〇一 四〇二 四〇三 四〇四

四〇五 四〇六 四〇七 四〇八

四〇九 四一〇 四一一 四一二

四一三 四一四 四一五 四一六

四一七 四一八 四一九 四二〇

四二二 四二三 四二四 四二五

四二六 四二七 四二八 四二九

四三〇 四三一 四三二 四三三

四三四 四三五 四三六 四三七

四三八 四三九 四四〇 四四一

四四二 四四三 四四四 四四五

四四六 四四七 四四八 四四九

四五〇 四五二 四五三 四五四

四五五 四五六 四五七 四五八

四六〇 四六一 四六二 四六三

四六四 四六五 四六六 四六七

四六八 四六九 四七〇 四七一

四七二 四七三 四七四 四七五

四七六 四七七 四七八 四七九

四八〇 四八二 四八三 四八四

四八五 四八六 四八七 四八八

四八九 四九〇 四九二 四九三

四九四 四九五 四九六 四九七

四九九 五〇〇 五〇二 五〇三

五〇四 五〇五 五〇六 五〇七

喜 喜 二〇六 二〇七 二〇八

二〇九 二一〇 二一一 二一二

二一三 二一四 二一五 二一六

二一七 二一八 二一九 二二〇

二二二 二二三 二二四 二二五

二二六 二二七 二二八 二二九

二三〇 二三二 二三三 二三四

二三五 二三六 二三七 二三八

二三九 二四〇 二四二 二四三

二四四 二四五 二四六 二四七

二四八 二四九 二五〇 二五一

二五二 二五三 二五四 二五五

二五六 二五七 二五八 二五九

二六〇 二六二 二六三 二六四

二六五 二六六 二六七 二六八

二六九 二七〇 二七二 二七三

二七四 二七五 二七六 二七七

二七八 二七九 二八〇 二八一

二八二 二八三 二八四 二八五

二八六 二八七 二八八 二八九

二九〇 二九二 二九三 二九四

二九五 二九六 二九七 二九八

二九九 三〇〇 三〇二 三〇三

三〇四 三〇五 三〇六 三〇七

三〇八 三〇九 三一〇 三一

三一三 三一四 三一五 三一六

三一七 三一八 三一九 三二〇

三二二 三二三 三二四 三二五

三二六 三二七 三二八 三二九

三三〇 三三二 三三三 三三四

三三五 三三六 三三七 三三八

三三九 三四〇 三四二 三四三

三四四 三四五 三四六 三四七

三四八 三四九 三五〇 三五

三五三 三五四 三五五 三五六

三五七 三五八 三五九 三六〇

三六一 三六二 三六三 三六四

三六五 三六七 三六八 三六九

三七〇 三七二 三七三 三七四

三七五 三七六 三七七 三七八

三七九 三八〇 三八二 三八三

三八四 三八五 三八六 三八七

三八八 三八九 三九〇 三九

圖 圖 四七二 四七三 四七四

四七五 四七六 四七七 四七八

四七九 四八〇 四八二 四八三

四八四 四八五 四八六 四八七

四八八 四八九 四九〇 四九

四九二 四九三 四九五 四九六

四九七 四九九 五〇〇 五〇

五〇二 五〇三 五〇五 五〇六

五〇七 五〇八 五〇九 五一〇

五一二 五一三 五一四 五一五

五一六 五一七 五一八 五一九

五二〇 五二二 五二三 五二四

五二五 五二六 五二七 五二八

五二九 五三〇 五三二 五三三

五三四 五三五 五三六 五三七

五三八 五三九 五四〇 五四

五四二 五四三 五四四 五四五

五四六 五四七 五四八 五四九

五五〇 五五二 五五三 五五

五五五 五五六 五五七 五五八

五五九 五六〇 五六二 五六三

五六四 五六五 五六六 五六七

五六八 五六九 五七〇 五七一

五七二 五七三 五七四 五七五

五七六 五七七 五七八 五七九

五八〇 五八二 五八三 五八

五八五 五八六 五八七 五八八

五八九 五九〇 五九二 五九

五九四 五九五 五九六 五九

五九八 五九九 六〇〇 六〇

六〇二 六〇三 六〇五 六〇六

六〇七 六〇八 六〇九 六一〇

六一二 六一三 六一四 六一五

六一六 六一七 六一八 六一九

六二〇 六二二 六二三 六二

六二五 六二六 六二七 六二八

六二九 六三〇 六三二 六三

六三五 六三六 六三七 六三八

六三九 六四〇 六四二 六四

六四五 六四六 六四七 六四

六四九 六五〇 六五二 六五

六五五 六五六 六五七 六五

六五九 六六〇 六六二 六六

磨 八〇三・三 五九五・一
磨 八〇九・四 六七九

歸 七〇九
歸 四六一・三

歸 一四八 一〇八・七 八〇四・五
歸 一五二・一 四七二・三 四七四五 四七六・五

歸 四七六・三 八〇四・五 八〇四・九
歸 五九〇・〇 六三三・七 六七九・〇 八〇三・五

歸 八二二・二
歸 二五 二二二 五七五・八 五七五・〇

歸 五七六・四
歸 五九八 五九一・九 六三四・六 七四三・七

殖 殖 一四四
殖 八〇三・六

段 段 八〇四・五 八〇四・七 八〇四・九 八〇四・五
段 三六八
段 五七三

段 八二二・〇
段 七五二・七

殺 殺 八一九・四
殺 五七六・三

殿 殿 七九一・〇
殿 一一二・一

殿 五九四・一
殿 一八六

毀 毀 八一九・四

母部

母 六〇三・一 七三三 七四〇・一 七五五・七

毛部

毳 毳 五七六・四

水部

永 永 七五五・五
永 六三三・三 六二五・一

永 六四四 六二五・一

永 六七一
永 三五七・一

永 五八三・二 五八四・〇 五八五・五 五九〇・三
永 六〇四・一 六〇五・七 六〇六・一 六九四・四

永 四〇・一 一一二・五 一二五・二 二三五・六
永 三三六・一 二四八・三 四三三・一 四四六・九 八〇五・六

永 五三三・二 五三三・一 七九九・二 八〇五・六

永 六六一
永 三五七・七 三六三・九

永 六五四・一
永 六七八

永 六八七
永 八一九・七 八一九・八

永 八〇九・七 八一九・七 八一九・八

永 三九三・五 六六七・八

永 三六二・四 六六七・八

永 三六二・一〇 九九五・七 九九五・九 九九六・八

泰部

泰 三五四・一
泰 四三三・一

流 流 二〇四・一 五七五・一 五九〇・四 六〇六・〇
流 六四三・四 六七八・〇 六七九・三 八〇四・三

流 八一七・七 八三三・〇 八四二・二 八七三・三
流 八一九・六 八一九・七 八一九・四 八一九・四

流 八一九・三 八一九・三 八一九・九 八一九・七
流 八一九・三 八一九・四 八一九・四 八一九・四

流 八一九・五
流 五七六・八

流 八二六・三 八二九・四 八二九・一 八二九・二
流 八一九・八 八一九・六 八一九・五 八一九・七

流 八一九・〇 八一九・五 八一九・七 八一九・一
流 八一九・四 八一九・二 八一九・五 八一九・三

流 四三六・九
流 四三六・九

流 三九八・四
流 六三三・四

流 五八〇・四
流 六六七・五

流 一八 二二三 一三九 五三三
流 九三九 二九一 一四八・六 一五九・七

流 二三四・二 二三五・五 二三七・三 二五二・五
流 二七七・七 三〇三・三 三五五・四 三六二・三

流 三七〇・七 三八一・二 三八五・五 四六〇・七
流 四六九・二 四七二・二 四七四・〇 四七六・五

流 四七六・三 四九〇・二 五〇九・一 五〇九・三
流 五〇九五 五五三・五 五七六・〇 五七六・二

流 五九一・五 六三三・三 六三八・六 七七七・四
流 八〇四・三〇 八〇八・二 八〇八・三 八〇八・三

流 八一七・一 八一七・九 八一三・七 八一三・三
流 八二一・二 八二二・九 八二二・七 八二二・三
流 八一九・一 八一九・五 八一九・三 八一九・三

深部

深 一四九・一
深 二五三・六

淵 淵 五三三・四
淵 八二二・一

淵 七九九・四 七九九・七

淵 五七一・三
淵 五八三・三

淵 六七七・六
淵 六三六・五

淵 三三三・五
淵 三二一・一

淵 三二一・一
淵 三五五・一

淵 八〇九・九
淵 五七六・六 五七六・九 五七六・八 五七六・一

淵 五七六・二〇 八二二・六

淵 八〇八・一
淵 四四四・五

淵 六四〇・六
淵 二一七

淵 四七四・六 八二二 八二二 八二二
淵 八一九・四 八一九・一 八一九・二 八一九・二

淵 五七六・七 五七六・八 五七六・九 五七六・一
淵 五七六・三 九九七

淵 九九五・三 九九七
淵 一一四 二七三・八 八二五・五 八二六・一

淵 三三八・六 八一九・三 八一九・九 八一九・五
淵 八一九・七 八一九・六 八一九・三

淵 九九八
淵 五七六・四 五七六・三

淵 三五三・五
淵 八二二・八
淵 四〇三・三
淵 一八
淵 六四三・三

雅 八〇四四九 八〇四三六

雅 六九八一

集 五九五五

雍 一六八一

雍 一九三一

雙 八〇七二二

雙 四四三三

雙 八〇四二〇

雙 五三三二七

雙 五八三二八

雙 五八三二八

雙 四一〇

雙 三三二一

雙 三三二一

雙 三六七五

離 一三

離 九九三四

離 五九九九

離 六九二二

離 六五四七

離 六〇九四

離 六一九

離 二九三六

離 六六七一五

離 八〇四二七

離 六三二

離 三九八四

離 三三〇三

離 四六一三

離 四七六五

離 七九九七

離 九九二八

離 八〇四二五

離 八〇六三

離 六三二

離 三九八四

離 四五四一

離 四五四六

離 五七二一

靈 五九五二

靈 三四七

靈 四七六七

靈 六九二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

靈 六四二二

韓 六三一

韓 三四七

韓 四七六七

韓 六九二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韓 六四二二

韻 三四七

韻 三四七

韻 四七六七

韻 六九二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 三四七

韻 三四七

韻 四七六七

韻 六九二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

韻 六四二二

鵬 六八・三
鶴 八一九・一 八一九・三 八一九・三
鸛 八二七・〇
鸛 四四四

鹵部

鹽 八〇三・四
鹽 五七六・一五 五七六・一七

鹿部

鹿 五七六・五
鹿 八〇四・六
鹿 二七〇・二
鹿 二〇四・一 四七四・一〇
鹿 六六・七
鹿 八〇三・三
鹿 四七四・五
鹿 六七・一〇
鹿 八〇六・二
鹿 八〇三・六 八二七・五
鹿 八二・五

黃部

黃 六三・一

黍部

黍 五六〇・〇

黑部

黑 七〇七・一
黑 七〇六・一
點 六八・八

黨 二八・五

鼎部

鼎 一六四・三 一六七・三

鼠部

鼠 八二七・八
鼠 四七四・七
鼠 五七六・二

鼻部

鼻 五七六・三 五七六・八

齋部

齋 三五五・六
齋 六〇七・七 六二四・三 六六四・一
齋 一五八・一
齋 五九四・一

齒部

齡 五七九・三

龍部

龍 八〇九・八 八二〇・一
龍 五二五・五
龍 一四二・一 二五六・四 四六〇・三 四七四・〇
龍 九三・二 五四三・二 五五七・二 六六七・九
龍 八〇八・四
龍 六六九・八 三六三・五
龍 一五二・一
龍 三九九・五

龍

龍 一三六 九八二 一三三七 二五三四
龍 三三八 三五五四 三七九二 四六五二
龍 四六七・一 五七六・二 五八三七・八 五八三八・八
龍 五八三・九 五八三・四 五八三・五 五八三・六
龍 五八三・八 五八三・三 五八三・八 五八三・九
龍 六〇六・〇 六四三・〇 六四三・八 六四三・八
龍 六四三・一 六七八・二 七〇〇・八 七三六・四
龍 七七六・一 八〇三・二 八〇四・五 八〇六・一
龍 八〇六・五 八二二・一 八一九・一 八一九・四
龍 八一九・七 八一九・九 八一九・〇 八一九・二
龍 八二五・四 八二七・一 八二七・二 八二七・三
龍 八二七・六

龜部

龜 六四〇・一
龜 六四〇・二
龜 六四三・〇
龜 八二七・三
龜 八〇三・四
龜 一七
龜 三一
龜 六三七・一

龍 六二四・三 二七八・〇 三七〇・一
龍 二一 二三四 一三二 一八四
龍 二二 二三四 一三二 一八四
龍 三三 三三一 三四二 三五三
龍 四四 四三三 四四四 四五五
龍 五五 五四四 五五五 五六六
龍 六六 六五五 六六六 六七七
龍 七七 七六六 七七七 七八八
龍 八八 八七七 八八八 八九九
龍 九九 九八八 九九九 一〇〇〇

龍 一三六 九八二 一三三七 二五三四
龍 三三八 三五五四 三七九二 四六五二
龍 四六七・一 五七六・二 五八三七・八 五八三八・八
龍 五八三・九 五八三・四 五八三・五 五八三・六
龍 五八三・八 五八三・三 五八三・八 五八三・九
龍 六〇六・〇 六四三・〇 六四三・八 六四三・八
龍 六四三・一 六七八・二 七〇〇・八 七三六・四
龍 七七六・一 八〇三・二 八〇四・五 八〇六・一
龍 八〇六・五 八二二・一 八一九・一 八一九・四
龍 八一九・七 八一九・九 八一九・〇 八一九・二
龍 八二五・四 八二七・一 八二七・二 八二七・三
龍 八二七・六